

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

# 実践倫理講話筆記

明治四十五年及び大正元年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

# 実践倫理講話筆記

明治四十五年及び大正元年度ノ部

日本女子大学成瀬記念館

## 「実践倫理講話筆記」の発行について

1. 表題は「実践倫理講話筆記」であるが、内容は本学創立者成瀬仁蔵が全学生あるいは卒業生に向けておこなった講話を収載したものである。当館所蔵のこの筆記録は、概ね年度ごとにまとめて綴じられている。

### 所蔵年度

明治 38 年度から大正 6 年度までのものがある。但し、明治 38 年度の綴りの初めには、明治 37 年度 3 月の三講話と一緒に綴じられている。

### 原稿

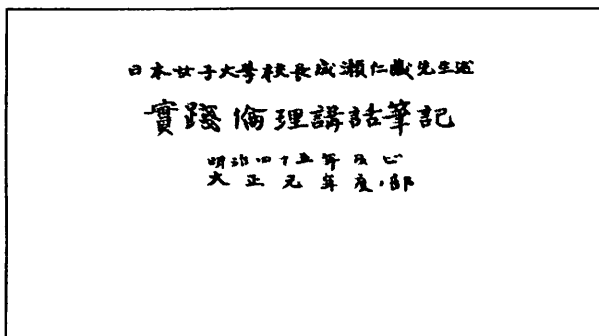
筆記録は横書きで、特定の和紙にカーボン紙を使用して複写されている。

年度によっては複数部残されているが、それらを照合すると一部分欠けて綴じられているものも見られる。

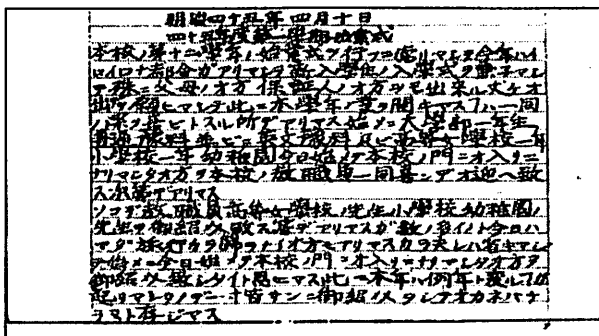
### 筆記状態

片仮名書き(一部平仮名書き)、句読点がない。

2. 今回の印刷は明治 45 年度および大正元年度のものであるが、明治 45 年 8 月 4 日から大正元年 3 月 3 日まで成瀬仁蔵は女子高等教育視察のため欧米旅行をしているので、その間の講話者には不明のものがある。
3. 初期のものはすでに「成瀬記念館」に発表してきているが、それらを含めて今回と同様の体裁で順次発行する予定である。



中表紙



本文

## 目次

明治四十五年四月十日 四十五年度 第一学期始業式……………5	大正元年十月二十三日 大学部二、三年に於て (講話者不明) …… 87
明治四十五年四月十五日 第一学年の為に……………7	大正元年十月二十六日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) …… 88
明治四十五年四月十七日 大学部二、三年に於て ……10	大正元年十月三十日 大学部二、三年に於て (松浦教授)…91
明治四十五年四月二十日 創立記念式……………12	大正元年十一月二日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) …… 93
明治四十五年四月二十二日 一年の為に……………14	大正元年十一月六日 大学部二、三年のために (講話者不明) …… 96
明治四十五年四月二十九日 大学部一年及び予科の為に…………16	大正元年十一月九日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) …… 97
明治四十五年五月一日 二、三年の為に ……18	大正元年十一月十三日 大学部二、三年生のために (講話者不明)…100
明治四十五年五月八日 大学部全体の為に……………20	大正元年十一月十六日 大学部一年及び予科に於て (松浦先生) ……102
明治四十五年五月九日 高等女学校修身講話会……………23	大正元年十一月二十日 大学部二、三年のために (講話者不明)…103
明治四十五年五月十三日 大学部一年及び予科生の為に…24	大正元年十一月二十七日 大学部二、三年のために (講話者不明)…105
明治四十五年五月十五日 大学部二、三年の為に ……26	大正元年十一月三十日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) ……106
明治四十五年五月二十日 大学部一年及び予科のために ……29	大正元年十二月四日 大学部二、三年のために (講話者不明) ……108
明治四十五年五月二十二日 大学部全体の為に……………31	大正元年十二月十一日 大学部二、三年のために (講話者不明)…109
明治四十五年五月二十八日 地久節の御話……………33	大正元年十二月十四日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) ……110
明治四十五年六月十一日 皇太子妃殿下行啓に関する諸般の報告 ……35	大正元年十二月十五日 豊明寮記念会に於て (講話者不明)…112
明治四十五年六月十七日 第一学年にて……………36	大正元年十二月十八日 大学部二、三年に於て (講話者不明) ……112
明治四十五年六月十九日 大学部二、三年に於て……………39	大正元年十二月二十一日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) ……114
明治四十五年六月二十三日 正准委員会に於て……………41	大正元年十二月二十四日 第二学期終業式 (講話者不明) 116
明治四十五年六月二十四日 大学部一年のために ……44	大正二年一月八日 第三学期始業式 (講話者不明)…118
明治四十五年六月二十六日 大学部二、三年のために…………46	大正二年一月十一日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) ……119
明治四十五年七月七日 正会員修養会席上にて……………49	大正二年一月十五日 第二、三学年にて (講話者不明)…121
明治四十五年七月八日 送別会席上に於て……………51	大正二年一月十八日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) ……124
明治四十五年七月九日 成瀬校長送別会にて……………52	大正二年一月二十二日 第二、三学年にて (講話者不明)…126
明治四十五年七月十日 送別会席上にて……………54	
明治四十五年七月十日 第一学期終業式……………55	
大正元年八月一日 奉悼式……………56	
大正元年九月十一日 始業式に於て (麻生先生)…57	
大正元年九月十八日 第二期 初回実践倫理 (講話者不明) 60	
大正元年九月二十一日 一年及び予科に於て (麻生学監)…61	
大正元年九月二十五日 大学部二、三年に於て (講話者不明) …… 65	
大正元年九月二十八日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監)…67	
大正元年十月二日 大学部二、三年の実践倫理 (松浦教授) 73	
大正元年十月五日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) 75	
大正元年十月十二日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) ……79	
大正元年十月十六日 大学部二、三年に於て (講話者不明) 83	
大正元年十月十九日 大学部一年及び予科に於て (麻生学監) …… 84	

大正二年一月二十五日 大学部第一学年及び予科に於て (麻生学監) ……………	128	大正二年三月八日 第一学年及び予科にて ……………	148
大正二年一月二十九日 第二、三学年にて (講話者不明) ……	130	大正二年三月九日 成瀬校長歓迎会席上にて ……………	150
大正二年二月一日 第一学年及び予科に於て (麻生学監) ……	132	大正二年三月十二日 大学部第二、三年にて ……………	153
大正二年二月五日 第二、三学年にて (講話者不明) ……	134	大正二年三月十五日 歓迎会席上にて ……………	155
大正二年二月八日 第一学年及び予科に於て (麻生学監) ……	136	大正二年三月十七日 第一学年及び予科に於て ……………	158
大正二年二月十二日 第二、三学年にて (講話者不明) ……	139	大正二年三月二十日 高等女学校修身講話会にて ……	159
大正二年二月十五日 一年及び予科にて (講話者不明) ……	141	大正二年三月二十五日 修業証書授与式 ……………	161
大正二年二月二十二日 第一学年及び予科にて (麻生学監) ……	143	大正二年三月二十六日 若葉会にて ……………	163
大正二年二月二十六日 第二、三学年に於て (麻生学監) ……	145	大正二年三月二十七日 第二、三学年にて ……………	166
大正二年三月五日 成瀬校長歓迎会席上の御話 ……………	147	大正二年四月六日 成瀬校長漫遊談 ……………	169
		大正二年四月六日 桜楓会大会席上にて ……………	171

## 凡 例

1. 印刷に際し、筆記原稿の体裁を保持しつつ、以下の点に留意して一部手を加え統一を図った。
2. 表記に関しては、片仮名書きの原文筆記を平仮名表記とし、明らかな誤字・脱字を改めると共に、文字を統一した。
3. 漢字は原則として常用漢字を用いた。
4. あて字については原文通りとした。
5. 文意を明確にするため、句読点を付した。
6. 欄外に書かれた註を一部見出しとした。
7. 筆記原稿の不明確な部分は原稿通りとした。  
但し英文については、前後の文脈に基づき加筆訂正した箇所がある。

[中表紙]  
始業式の御話  
明治四十五年四月十日

明治四十五年四月十日  
四十五年度 第一学期始業式

本校の第十二学年の始業式を行ふに当りまして、今年はいろいろな都合がありまして新入学生の入学式を兼ねまして、殊に父母のお方、保証人のお方をも出来る丈けお出でを願ひまして、此に本学年の業を開きますことは一同の深く喜びとする所であります。始めに大学部一年生、普通予科並びに英文予科、及び高等女学校一年、小学校一年、幼稚園、今日始めて本校の門にお入りになりましたお方を、本校の教職員一同喜んでお迎へ致す次第であります。

そこで、教職員、高等女学校の先生、小学校、幼稚園の先生を御紹介致す筈であります。数の多いのと今日はまだ旅行から帰らないお方もありますから夫れは省きまして、始めに今日始めて本校の門にお入りになりましたお方を御紹介致したいと思ひます。此に本年は例年と変ることが起りましたので、一寸皆さんに御紹介をしておかねばならぬと存じます。  
[新入学生総数四百二十九名]

今日新にお入りになった数は大学部(予科も入る)は235名、高等女学校一年120名、同補欠33名、総数153名、小学校、幼稚園は41名、大学から幼稚園まで新に入つた方は429名であります。

高等女学校は五十名をこすことが出来ません。夫れで今日まで、地方からおいでになつたお方も出来るだけお断りを致して居りましたけれども、遥々九州や北海道あたりから入学が出来ると思つてお出でになつた方もある。調べて見ると、こゝの卒業生の関係者であつた。この様な人をお断りするのはお気の毒であり、他校に入るにも六ヶ敷い事情もあり、いろいろの方法を講じて、定員は500名をこすことは出来ぬが、四年、五年となるとあき出来るから初級に数を増すことが出来る。それで断りにくい方だけを選び120人を入れ、三組に分けました。毎年の例によりますと、いろいろおうちの御都合や御父さんの御転勤などによつて五十名から十名の欠員が出来ます。それで補欠を致しますが、本年は之れを止めて四十名を三組に編成することに致しました。

さきに幼稚園、小学校を出します前に、明日、明後日、十三日及び二十日の式等につきまして一寸御報告を致しておきまして、今度新にお入りになりました皆さんに対して、本校の主義、方針等をお話致します。

[評議員三井氏の逝去につき弔意を表す]

明日は此の女子大学の評議員の一人、三井三郎助と云ふお方が去る六日の午後五時に逝去せられて、明日午前八時半から葬式を営まれますので、本校土台の一人、評議員の一人、又、只今まで評議員中の監事と云ふ役をつとめられましたお方であるによつて、是れ迄の例によりまして、明日一日は業を休んで弔意を表することに評議員会、教員会で決めました。

明日一日は其の心を持つて静粛に過される様に致し度い。

[当大学の土台たる敷地を寄贈せらる]

始め我が国に女子高等教育を起すと云ふ問題が起りまして、地をトして女子の大学を設けると云ふ時に、第一に起りました問題は地の利を得ることであります。其の時に於て、大阪に東京に適當の場所を探して居るとき、此の三井三郎助君所有の土地がありました。氏は喜んでこの地を寄贈せられました。このよい土地を得ましたことが、この大学の位置が定まりました所以である。其の後、桜楓館、輕井澤の三泉寮、其の他未だ公になつて居りません家政学部の標本室、桜楓会の支部館、そ一云ふ必要なるものを段々、君はこの学校のために尽さうと云ふ深い考へを持ち、非常なる熱誠を払はれて居つたのであります。そ一云ふ関係の深いお方に対し、母校は斯う云ふ際に誠意を払ふことは当然のことであらうと思ひます。

その前に発起人たりし近衛公が薨去の時も、其の御葬儀の時は全校は校前に迎へ、代表者は葬列に従ひました。この例にならひまして、200名許り御会葬致すことに決しました。

明後日は、即ち十三日卒業式の前日でありますから、其の準備、又は新にお入りになつた方は此の学校の主義、精神につきよくお考へになり、寮舎等につき業を始める為の準備があるから、其の為に休みと致します。

[二十日の紀念式及三井氏の追悼會]

二十日は母校の第十二回目の紀念日に當るを以て、丁度三井氏が逝去せられたのでありますから、本校の評議員、其の他全校打よつて弔意を表し木植式を挙げたいと思ふ。其の時母校の主義、精神をわかる様に致したい。大切な時であるから、銘々其の用意をし出来る丈け完全にする様に致したいと思ひます。

[本校の教育の目的及び主義、方針]

初めに、新入学のお方に本校の教育の目的、其の目的を達する主義、方針等を一言申すことが必要でありませよ一。此の新入学のお方は半ば高等女学校に属するお方ですが、其の大多数は猶進んで本校の大学の教育をうけよ一とする志のある方であらう一。そ一でない方もこの校の附属高等女学校を望まれたことは、此の大学の空気を吸うて居ります其の主義、精神の世界に入つて感化をうけよ一と云ふことは主なる目的でありませよ一。故に大学の方のことを申せば、従つて高等女学校の方はおわかりになる訳でありますから、大学の方針をあらまし申して高等女学校のこともつけ加へてお話致したい。

[高等教育の目的は如何]

初めに、高等教育即ち大学程度の教育の目的は那邊にあるかと云ふことを、誰れも考へずには居られないと思ふ。夫れで最も広い意味で考へておいて、其の中でこの女子大学の目的はど一云ふ点にあるかと云ふことを考へることが必要であらう一と思ひます。

先づ今日、世界を支配しております所の、國民の教育を目的として居る所の大学教育の目的は如何なるものであらうか。之れについて様々の考へを持つて居る者がありますけれども、

先づ其の情況、文明の発達の程度等によりまして各々異なる所がある。又、其の大学、大学によって幾分趣を異にする所がある一し、又あるべき筈であると思ふ。

[大学は其の目的により四大別となる]

大学の種類は大凡そ、四つ程に大別することが出来ると思ふ。

第一、大学の目的は真理の発見にある。学理の蘊奥を究める、即ち研究を目的とするものである。

第二のものは真理を研究すると云ふこと。即ち思想力をねりまして人間の深さ、広さ、高さ、即ち人間のほんとの一の価値を増進すると云ふ、之れを他の言を以てすれば、人となり又は人格を深くする、高くする。即ち、其の人の価値を増進すると云ふこと。其の目的を達するに、最も其の品性修養に尽す。夫れを此の学校では精神修養などと申しております。即ち、最も人生を養ふ、品性を高尚にすると云ふことである。即ち、学問の目的は天より賦与せられて居る所の銘々の個性を発揮せしむるのである。

第三は英国の大学などで最も行はれて居る所の紳士、淑女を作る。最も円満に、完全に調うた所の尊い人物を作るのである。

第四には専門の知識、専門の芸能、即ち何かの専門の知識を得て、生活に欠くべからざる所の学業を授けることを以て目的とするのである。

[我が国の教育は職業教育也]

大学教育には此の四つの傾向がある様であります。我が日本の東京、及び京都の大学、其の他の私立大学は何れに属するかと云ふと、第四の職業教育に傾いて、品性修養と云ふ様なことは少しも顧みない。又、其の価値が学生の価値の中には少しも加はらないのである。

[我が女子教育の大勢]

大学教育が其の通りでありますから、其の流れを汲む凡ての教育が同じ様になつて、女子教育と云ふものも衣服を整へ、食物を調理し、其の他に必要な芸を授けることが女子教育とせられて居る。これ、我が女子教育の大勢である。

勿論、国民が何かの職業専門の技に長じて居る、家政をなすに長じて居る、女子が其の職業を完うするに必要な知識、芸能をたくはへることは必要だが、この学校もそ一云ふことを軽んずるのではない。併し枝をさかんにし、花を咲かし、実を結ばせるには、其の根を健全にするでなければだめでありませぬ。

我が国の教育は根を忘れ、末に走るの事実が多いのである。折角立派な人間を作るの教育が、却つて其の試験の為に大事な命を犠牲にする、其の本を枯らしてしまうと云ふ如きは、我が教育の為に悲しむべきことと思ふ。

[我が女子大学の目的]

それで先づ我々は此の日本の女子高等教育、ことに日本女子大学の目的は、人として其の本となる品性陶冶を本とする。第二に国民として、第三に婦人として教育すると云ふことである。之れを又詞をかへて言ふならば、人類共通に人と云ふことがある。又、男とか女とか云ふ性がある。其の性に依

て完全なる人を養ふ、完全なる婦人、充分発現致しました所の個性を教育すると云ふこと。始めに申しました第二、第三の目的に含んで居ることを土台として教育するのである。

[根本を養ふの教育]

併し、其の本と雖も日常生活をはなれて出来るものではありません。故に最も日常生活に重きをおき、境遇改善に力を尽すことを重んじて居る。其の教育の土台はどこにあるか、その主義、方針がどこにあるかを御存じのことが最も必要と思ふ。其の様なことにつき、桜楓会の出版物、その他により充分注意をして調べられ、今日迄の本校の境遇、働き等により観察せられますことを願ひます。

其の本をほんとの一に養うて居れば、枝葉は自ら出来る。二者共に並行して進まなければならぬ故に、極端にとつては間違ふのである。

[本校教育の方針]

そこで其の教育の目的を達するには、この学校はど一云ふ方法をとつておるか問題である。

これ迄、高等女学校の教育に於て一番重んぜられたのは教授法で、教科用の本を読むとか、先生の方でも夫れを教へると云ふのが最も大切なこととなつて居りました。

大学にお入りになりまして、人格の高尚なる教授の講義をきくとか、又専門に必要な書物を見る為に図書館を利用するとか、種々の機械を用ふるとか、いろいろのことを完うする為には非常に費用がかかるのである。

此の頃、世界の大学のことを調べて見ると、大学生一人の一年の費用が六百弗と云へば千二百円。其中どれだけ月謝をとるか云ふと、百五十弗で三百円である。英国のオックスフォードなどでは百五十人の生徒の頭に一人の校長が居ると云ふ比例で、其の又校長に准じた立派な教授が居ると云ふ訳であります。

そこでこの学校などでは、やはり基金を備へて最も高尚なる先生を段々ふやして行くこと、又夫れに応じて立派なる設備をすると云ふことが必要である。夫れで昨年末、澁澤さん、森村さんなどが随分其の為に尽して下さいましたが、なかなか思ふ様に参りませぬ。それで止むを得ざる所は縮小し、品質を高めて行かねばならぬと云ふ必要も起りました。夫れで分量のことも、此の学校では構はんと云ふ訳ではない。

目に見えぬ所の精神である、生命である。之れが大学であります。併し之れの見えぬお方が世間には随分ある。故に、いろいろ説をなしまして、其の為にあなた方が此においてになる迄にいろいろ疑問が起つたことでありませぬ。

[人と人との関係を学ぶ]

桜楓館、商業部、園芸部、購買組合、其の他いろいろ此の境内の天然の景色等いろいろあるけれども、人を作ると云ふ手段の要素は何であるか。人である。先生の人格である。寮監の氣風である。学生諸君の行為である。其の間の関係から出来て居る所の校風である。寮風である。人は人によつてしか出来ぬ。精神は精神によつてしか作られぬ。此の学校へお入りになつてお学びになることは、人と人との関係である。併し、あなたを作るものはあなたである。あなたの中には大

[中表紙]  
第一学年、予科の御話  
明治四十五年四月十五日

に発達すべき尊いものがある。夫れを見出だして、益々完全にお磨きなさらねばならぬ。夫れを発達せしむる為に、いろいろの係、組等を作つて共同一致の精神を作るよ一に組織せられて居ります。夫れで、只人から貰ふばかりでなく、人の為にも尽さねばならぬ。

[寮舎教育に重きをおく]

そこで一番重きをおいて居るのは寮舎教育であり、一番選定に重きをおいて居るのは寮監である。其の外、卒業生から出来て居る所の、最もよくあなた方の相談相手になる所の指導者と云ふものもあります。

そこで地方からお出でになつたお方にお勧めすることは、出来るだけ寮舎へお入りになるが宜しい。校規によりましても両親の所から通ふの外、親類でも極たしかな所ではなくては許さぬことになつて居ります。あなた方の安全である。又、あなた方の名誉の為にも、此の中に入つて生活をなさるのが一番宜しいのであります。夫れから序に申しておきますが、此の学校でも、寮舎のことについては余り評判は悪くあるまいと思ふけれども、世間の人は兎角人のよいことは喜ばないもので、いろいろ尾に鰭をつけて批難することが多い。けれども識者は此の寮舎制度をよしとせられ、文部省でも此の学校の寮舎制度をとられたことが多い。又、寮舎へ入ると大変費用がかかる。一人前一ヶ月五十円もいと云ふ噂を立てるものもあるけれども、入つて見れば直ぐわかるのである。

この学校の主義は木綿を着、筒袖を着よと言はぬ。これは弊となるからである。婦人は着物の品柄を選ぶこと、其の審美の教育もしたい。もし束縛があるならば、この様なことは出来ぬ。其の判断力、趣味を作ることは教育に必要である。併し質素に、儉約にしなければならぬ。

あなた方の飾りは外ではなくして、心の内の飾りにしなければならぬと云ふ訳にしてあります。そこで成るべく飾りは質素にする、身分相当にしなければなりません。夫れからあなた方、寮舎へ入ると自分で献立を作り、自ら料理をなさつて人の為にも進め、自分の為にも用いなければならぬ。そこで経済も上手にしなければならぬ。夫れは一厘から儉約をしなければならぬ。

此の辛い世の中に毎月十数円と云ふ学費を親から送られるあなた方は、最も幸福な者であります。故に、其の上に花見遊山に行かうと云ふよ一な考へはおこらないであろ一けれども、よきが上にもよきを望むは人情である。けれども学費は決して定額より越えてはなりません。夫れは一厘と云ふことから注意をなさることが必要であります。

夫れからあなた方が不思議に思ふ事は会のあることで、之れは自治機関となつて居ることであるから大切なことであつて、夫れも過ぎるのは宜しくないが、今の教育の方針を全うする為に設けてあることであるが、ど一云ふ訳であるかと云ふことをよく考へて観察せられる様に願ひます。

なほ申したいことはありますが、時が有りませんから後に追々申すことに致しましよ一。

明治四十五年四月十五日  
第一学年の為に

[自分がわからなければならぬ]

今日から第十二学年の業を始めます。一年生は丁度、第十二回生、予科の方が第十三回生になります。何から業始めて参りますかと云ふと、第一わからなければならぬことは、自分と云ふものがわからねばならぬ。自分は自分が一番よく知つて居る。生れてから、又は生れない前から自分と云ふものがありまして、夫れを物覚えが出来ましてから毎日、自分と云ふものを考へなかつたことは實際に於てないのである。又、自分と云ふものから離れたこともないのである。夫れで今、高等教育に入つて業をお受けになるの一番大切なことは先づ自分を知ること、之れを力とも言ひますが、之れがわかることから始めねばならぬ。

其の次に大切なことは自分と友達、或は学友、或は先生、即ち自分と他の人との関係を知ることで、お互にわかりあふと云ふことが一番大切なことである。之れからの学問も、新なる尊い経験も、あなた方が要求なさる処のほんとの力も、銘々天から与へられて居る才能も特色も、お互がわかりあひ、働きあひ、助けあひ、思ひあふと云ふことから育つてくるのであります。故に、お互にわかりあふと云ふことの本は、前に言つた自分がわかつてからである。自分がわかるとは、人との関係がわかつてから出来ることであるから、自分を知ると人を知るとは同じことである。

[互にわかりあふことが最も大切である]

第三に、もう少し大きい入り組んだ関係で、夫れは組の関係であり、寮舎の関係であり、学校全体の関係であります。之れを空気とも言ひ、或は感化とも申します。先づ此の自分を知ると云ふこと、即ちお互にわかりあふと云ふこと、物の真相がわかると云ふことが、あなた方にとって最も大切な知識であります。夫れで今日は、自分を知ると云ふことは自分で考へると云ふことになり、互に知ると云ふことは考へあふ、感じあふと云ふことにもなる。即ち互に考へを交換すると云ふことが大切であります。考へあふと云ふことは互に考へを詞で言ひ現すか、又は筆で書き現すと云ふ媒介によるの外はありません。故に今日は、成る可く皆さんと是れ迄の経験、今日の感じと云ふ様なものを話しあふと云ふことが誠に大切であります。時間がありませんから夫れも出来ません。故に筆によつて書き現すならば、先づ私があなた方を知ることが出来るのみならず、あなた方の進歩を導く人々にもよくわかるのでありますから、先づ初めにあなた方のお考へを書き現して貰ひたいと思ひます。

夫れで今、私が最初にあなた方はど一云ふ生活をなさつておいでになるかと云ふことを聞きました。日常の生活をなさる処の寮舎、家庭、親類、よその家庭と云ふことが最も大切な



ものとなります。

故に一番初めに自身のお名前と住所とを記して貰ひたいのである。其の次に只今のあなたの生活が丁度あなた方に適当して居るであろうか、ど一でしよ一。即ち満足が出来るであろうかど一か。寮舎ならば斯う云ふ風に改めたらど一かと思ふこと。又、境遇がわるいではないか、自分がなれない為に困るとか、又、其の寮風、校風のうちに改めんければならぬもの、又、自分のこれ迄の習慣のうちに克たんければならぬことがあると云ふよ一なこと。又、夫れに反して之れ迄にない満足をし、是れ迄にない経験が出来て、夫れが為に既に幾分の得る処があつたと云ふ様なこと、つまり今の境遇を書くのである。

[自分を知ると宇宙を知るとは同じである]

次には、皆さんが自分に対する処の考へを聞きたいのである。自分で自分を見る処の、即ち自分で自分を知つた処の考へを聞きたいのであります。併し自分を知ると云ふことは、一見すると人を知るよりも、社会を知るよりも、宇宙を知るよりもわかり易いよ一であるけれども、実際はそ一でないのです。自分を知ると云ふことと宇宙を知ると云ふことは、一つである。昔からどんな偉い学者でも宗教家でも、わかつた部分とわからない部分とあるのです。自分を知つて居るよ一であるが、只一部分を知るのである。又、修養の経験のないお方、又若いお方にはわかりにくいのであるけれども、之れは非常に大切なことであります。之れに就いてお尋ねをすることは、範囲が非常に広いのである。故に、只漠然と自分についてお考へになることをお書きなさいと申しても六かしいのであります。夫れで、そ一沢山に今日は聞くことが出来ませんから、今日は業を始めるに大切なことをお尋ねするのであるから、夫れについてお答へになる様にして貰ひたい。

夫れは今日、業を始めるに當つて、皆さんはど一云ふ志を持っておいでになるか。詞を換へて言へば、皆さんは志を立て、高等教育を受ける様にお入りになつたのであるが、其の目的はど一云ふ処にあるか。又、之れを動機の方から言ふと、欲望と言つてもよい。自分の欲しいもの、欲する処のもの、又詞をかへて言へば、皆さんの趣味とか興味のある所、そ一云ふことを知りたいのである。此の前、たつた一言で申しましたね。

[高等教育の目的を大別すると物質界、精神界の二つとなる]

今日、高等教育の目的を分けると四つになると申しましたが、之れを大きく分けると二つとなります。一つは物質界の目的で、一つは精神界の目的である。

[物質界の目的]

物質界の目的はパンを得る為に身体の要求をする。即ち腹を飽かし、身を飾り、立派なる住居に生活し、世の安楽を欲すると云ふことになる。即ち之れは、物質に対する欲望を追求する処から起る。学問をするのも芸を身につけるとか、男子で言へば立派な位地を得たい、高い位に進みたいと云ふことが望みである。女子で言へば立派なる家庭を営みたい、食べるに困らない様な家を持ちたいと云ふこと。之れを物質界に於ける欲望、物質に対する欲望と云ふので、之れが教育

を受ける処の一種の目的である。

[精神界の目的]

第二のものは、精神上の目的である。立派なる人格、高尚なる品性を養ひたい。夫れに必要な処の知力、即ち思考力を養ひ、趣味を養ひ、良心を明確に進めたいと云ふ処の要求である。即ち感情、意志、理想と云ふよ一な無形なる処の、且つ永久な目的を追求して行く処のものを言ふのであります。之れは此の間から折にふれて、いろいろお聞きになつたであろう。又、高等女学校で幾らもお聞きになり、又、あなた方が銘々に経験なさつたことであると思ふ。

夫れで私が今、あなた方の志を聞くのに大別すると、先づ二つに帰するのである。此の二つのことがあなた方に區別が出来ますでしよ一か。今の帝国大学あたりで立派なる卒業をするには、先づ試験を受けねばならぬ。其の試験に應ずるだけの力を要するのである。そ一云ふことを物質的と言ふのであります。

男で言へば、職業教育、専門教育を目的とする。役人になるか、職人になるか、又は芸人になるかの為に教育をする。女で言へば、教職について月給をとる為に、又家事の知識を得て家を治め、子供を育て、経済にして行く為に。所謂賢母良妻となるか、又は先生になつて幾らかの月給をとつて親を助けて行くか、又、自分の生計を立て、行く。そ一云ふ事のためにお入りになつた方は手を挙げて御覧……なし

そ一すると、今の物質的要求の為においでになつた方はないと言ふことになる。

夫れでは、立派なる人格を養ふ為に、精神の欲望の為においでになつたと云ふ事になりますが、其の為に志を立て、来たと言はるゝお方は……殆んど全体

そ一すると、第一の方を軽んずる様に聞えるけれども、そ一ではない。立派なる精神を養ふには、身体を構はないと云ふ訳ではない。そ一云ふ風にとると極端になるから、あなた方の意味もそ一ではありませんまい。物質と云ふ方面は構はない、其の方の知識は構はないと云ふことではありません。之れは極大体の考へであります、其の外皆さんが銘々に進む処の考へがあるわけである。

故に、第一、境遇。第二、志望。

昨年予科にお入りになつた方は、高等教育を受けるについての決心と云ふよ一なことでもよい。そ一云ふことを聞きたいのである。

夫れから次に起る問題は、人との関係であり、此の大学全体の関係である。夫れからもつと大きくなつて、世界との関係、宇宙との関係と云ふことになるのである。

[自動]

此の間うち、いろいろな式があつたり、寮舎にお入りになつたり、之れから愈々大学にお入りになつて業を始めるについては、いろいろ変つたことがある。之れを自動と云ふ。今迄は何でも先生の仰しやる様について行けばよかつたが、之れからは自分で考へ、自分で判断をすると云ふこととなります。其の中にはいろいろ困難なことがあり、問題が起るのである。其の問題の起ることが大切であります。故に第三の処

には、其の問題について聞きたいと思ふ処を記すのであります。夫れから其の問題は、先生なり先輩なり友人なりに説を聞く、指導を受けると云ふことも有益であります。けれども夫れよりも猶大切なことは、其の問題を自分で考へると云ふことであります。其の考へを熟させて行くには、夫れに必要な参考書を読むことで、夫れよりも猶必要なことは實際を観察すると云ふことです。之れを考へると言ひます。故に、之れから学問を学んでおいでになるのに一番大切なことは、自分で考へると云ふことが出来ねばなりません。

#### 【思考力の必要】

考へることを巧みに取り扱ふ、其の考へが最も深く完全に纏まるよーに思想をよく整頓すると云ふこと、即ち思考力を最もよく経済的に使うて行くことで、今日富みの力は発明に由つて出来て行くのである。健康の力も亦、発明の力に由るのである。斯くの如く我々の思考力を増進し、最も有効に働くことの出来る様にする。文学も美術も、之れ亦悉く人間の思考力である。故に、此の思考力を養ひおくことが最も大切である。

そこで此の思考力を最もよく働かせた人、最もよく発明した人が最も大きな人格となるので、昔から偉人とか智者とか言はるゝ人は此の思考力を最もよく働かせた人で、此の力によつて人格は大小がわかれて来るのであります。故に、精神的の力と云ふものは皆、思考力であります。

宇宙を知ると云ふこと、又未来、現在と云ふこと、先見の明と云ふのも、即ち人間の思考力である。故に、此の思考力を養ふことが教育の最も大切なことであります。

此の思考力の学問がある。之れを認識学と言ひ、論理学と言ひ、範疇学と云ふ様な名がついて居ります。故に昔から非常なる哲学を考へ、大きな問題を解決した様な人は皆、其の道がわかつて居つたのである。

然るに今日は此の思考力の学問が非常に進んで参りました。故に、大きな人物となろーとするには、先づ今日の認識学、今日の論理学と云ふものがわかることが必要であります。之れは非常に大きな問題で、とても今日申すことは出来ないけれども、此の学校では成る可く今日の思考に触れるよーに勉めて居ります。夫れは直接には申さないけれども、不知不識の間に皆さんが触れて居らるゝのであります。

#### 【発表の必要】

そこで、思考の機械である処の文字を作ると云ふこと、夫れを発明することの出来た処の国民が、最も敏捷に其の事を考へることが出来るのであります。夫れで皆さんが互に意見を發表することに由つて、互に意志を疎通し経済を交換すると云ふことが出来ると云ふことは、誰れも首肯することが出来るでありましょー。

夫れについて今日の教育にも一つ大切なことは、其の考へを書くことと云ふことを教育に加へなかつたことである。夫れは此の書くことと云ふことを Card system にすることで、此の Card system と云ふことが、そー云ふ無形なる事実を取り扱ふ上に非常なる便利なものであります。故に、今後あなた方が思考を練つて行く上に、書くことと云ふことが誠に大切であり

ます。夫れから、何時でも本を読む時に、物を観察する時に、思考を練る時に、何時でも筆を持つて居るエヂソンが非常なる発明をする様に、あゝ云ふ非常なる進歩的生活をするには、夜も昼も筆と Notebook と云ふものは手から離してはならぬ。夫れに如何なることを書くかと云ふ事が又大切であります。私は、此の十二回生は土台から行つていらつしやることを希望致します。其の書くことと云ふことは如何にするか、又どー云ふことを書くかと云ふことは問題であります。修養の為に私は少し工夫した処の Note を上げました。是れは追々とおわかりでありましょー。その他、研究の為に、思考の為に、書くことと云ふことが誠に大切である。此の書くことを重んずるのは思考を練る、観察をする、又本を読んでも要点をつかまへると云ふことが必要であります。故に私は初めに於て、あなたがたに書いてお答へなさる様に申す訳であります。其の書き方については、又指導者なり先輩なりの経験をお聞きになることが大切であります。次に大切なことは、自分の生活と其の生活の境遇とを常に改善すること、其の改善の為に必要な研究をすることで、そーするとあなたの研究が直接に於て来るのであります。故に私が先づあなた方に聞きたいことは、寮舎にお入りになつて寮風なり寮規なり又規約なりについて改めたいと思ふことがあるならば、夫れを書いて貰ひたいと思ひます。

此の間卒業式に来られた処の保証人から私に手紙を送られて、自分は此の卒業式に来て非常なる感化を受けたと言つてよこされました。夫れであるから、あなた方も新しくお入りになつて、此の寮舎なり組なりの関係について、之れは善いことであると思ふこともありましょーが、又、之れは此の学校の欠点である、是非之れを改めねばならぬと気づく処もありましょー。夫れを聞きたいのであります。

夫れからも一つ、初めて親の側を離れておいでになつた方に聞きますが、何やら淋しいよーな頼りない様な心持ち、夫れを Homesick と言ひますが、其の Homesick を癒やす一番の良剤ともなるべきものは何でありましょーか。

- ・ 国からの手紙
- ・ 友達の親切
- ・ 楽器
- ・ 自分の目的を考へること

そー、目的を考へ、仕事に忠であるとか、総て自分を忘れると云ふことが大切である。昨日も毛利元就の子孫で吉川と云ふ子爵、私共の国の人で、よばれて参りました。其の時に、巖島の合戦と云ふ話がありました。元就公が子供を集めて小さい矢を一本折らせて後に束ね、矢を持たせて兄弟一致して共同しなければならぬと云ふことから起して巖島の合戦になりましたが、巖島の戦ひの前にどーであつたかと云ふ話がありました。毛利の兵は僅かに三、四千で、敵の兵は四万と云ふ大勢、到底衆寡不敵と云ふ有様であるが、元就は少しも動じない。巖島に城を築くと云ふ時に一人の琵琶法師が入り込んで来て、夫れが問者であると云ふことは元就直ちに看破したのである。そーして琵琶法師は早速免れ出て敵の大將に注進をしたと云ふことから、いろいろの話があります。そー云ふ話の時に、毛利家の子孫が並み居て感涙を催される。私も国の者で非常に感を深く致しました。

毛利家では巖島へは五百の決死隊を送った。敵は四万の大勢を以て攻めたけれども、十日間攻めても少しも弱むることが出来ない。十日目に非常な大嵐があつたけれども、其の暴風雨をおかして行つて、一方は敵の前を攻め、一方は後をついて、と一と一大軍を全滅したと云ふことである。

毛利元就が何故そ一云ふ力があつたかと云ふと、ちゃんと本がある。其の大勢を看破して糧はも一日分しかない。船は皆ときはなす。四千人の兵は悉く死を決して戦ふ。此の背水の陣を張ると云ふことが大切である。是れなくしては、も一運命を開く時はないのである。

[婦人にも背水の陣を張る決心が必要である]

私は之れを聞いて居つて、すぐあなたの方のことを考へました。我が国の御婦人にも此の背水の陣を張るだけの決心がなければなりません。此の東洋の小さい嶋が此の烈しい波風に戦つて運命を開くと云ふことは、此の決心一つにある。

一旦志を決した以上はあとを振り向かない、斃れて後止むと云ふ覚悟であります。婦人もそ一でなければならぬ。私共小さい時には婦人をど一教育したか。暖い御飯は食べさせない、おかずも男子よりは粗末なものを食べねばならぬ。併し男子は夫れよりもつと恐ろしい、六かしいことに勝たねばならぬ。娘を他家に嫁入らせる時には懐剣を渡す。是れは、生きて再び此の家に帰らないと云ふ決心をさせんが為であります。

スパルタの婦人は如何に其の子を教育しましたか。之れは皆さんが歴史で御承知の通りであります。子供の出陣の時に楯を授けて、此の楯を持って帰れ。然らずば此の楯に乗りて帰れと申しました。是れだけの母がありましたから、スパルタは世界無比の強國となつたのである。少し六かしいことにあへば直にあとを振り向いたり、志を変じたりするものは空気を汚すものである。士気を阻喪せしむるものである。そ一云ふことでは立派な国民とはなれないのであります。今、Homesick の話が出たから、私は巖島の話を書いて感じて居つたことを一寸申したのであります。

夫れで書いてお出しになることを、も一度繰り返しますならば、

(1) 境遇 (2) 目的 (3) 問題 (4) 境遇を改善したいと思ふ事項。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
明治四十五年四月十七日

明治四十五年四月十七日  
大学部二、三年に於て

[学年の始めに注意すべし]

之れ迄は、卒業の間際、学年の終る頃になりまして漸く其の学年になすべき責任を深く感じ、修むべき修養の必要を感じ

じますけれども、本当のことを始めると、時既に遅く、十分のことをなすことが六ヶ敷い。殊に去る学年末に於て、此の感を深くしました。夫れは色々ありますが、揃うて卒業が来ると組の人も教職員も思うて居りましたが、学年末になつて所々に人格に欠陥があると云ふこと、学力の方も思うたより足りないこと云ふことがわかつて、皆で色々心配致しました。当人も勿論、従来もあつたことでありますが、惜むべきことであります。自分にも色々事情があつて油断があつたと思ふ。

故に、何事でも最初が大切である。卒業の間際にこんなことをしたくないとは誰れも思うが、仕方がありません。如何にかなるだろ一など思うてはならぬ。教授会に卒業させると言ひましても、実際に於ていけなければだめである。

故に、最初に注意してもらひたい。単に三年、二年のみならず一年、高等女学校の方も注意してもらひたい。あなた方が先きになつて注意してもらひたい。高等女学校にも五人位、大学三年にもあり、大に苦しみ問題となつたのです。常にかくれて居たので油断が斯様にさせたのだと思ふ。それで最初の心持が大事である。只今の発表の中にも其の意味があつたかと思ふ。

[計画は全体の関係上宜しきを得べし]

計画を立てるに漠然としない様にとのことは、誠に言はるゝ通り大切と思ふ。徒費がなく目的が着々進み、亦目的実行に於ても次第に発達して行く様にする、即ち計画を組織的に具体的に立てることは結構であるが、先づ各方面を十分に調査研究して、其の間の関係、連絡を明かにしておくことが大切であります。計画とは全体の関係宜しきを得ることです。

[計画には先見の明を要す]

第二に必要なことは、計画を立てるにつき先見の明がなくてはならぬ。将来のことが今日、見えなければならぬ。之れを欠いてるものは誠に不完全で、あなた方の望む結果は得られません。あなた方の今年一年の計画をお立てになることは、其の本となるものは無形のものである。精神的の方面である。同時に有形なる組織、事業の方もともなうのである。又、如何に概念的の計画でも先見の明がなかつたならば、適切な、即ち之れから必ず成就して行く所の計画を立てることは出来ぬ。

例を挙げて説明するならば、昨日大井村においてになる伊藤公が見え、この村につき話を居られた。始めに恩賜館があるから公の家を其所に建てられ、数町離れて公の墓地があり、殆ど田舎であつたが、今日は町と言はれる小都會が出来ましたが、其の道路の不便なる、工場の煙の有害なること、下水の不都合なること、学校の不都合なること、誠に不快極まると云ふ話である。この文明な世に大井町を造る仕方としてまづいことである。これ、先見の明を欠いた野蛮時代の仕方である。即ち先を考へず、どの様に開けるかと云ふことにつき考へずにしたものである。目前の便利に従つて家を建てたから、実に不便な土地になつてしまつたのである。これは先年、私が故里に帰つても同じく感じたことである。私が曾て米國に行き感じましたが、ボストンは彼國の最古の都市で

あるが、誠に不規則なもので、始めていったものは道を迷ふ位。併しニウヨークに行くとか全く違ふ。これは百年間後のことを考へ、其の計画を立てゝかなふ様にこしらへる。其の都市の中心はどこ、停車場はどこちゃんときめておいて、其の通りに出来るのである。都市を設計するにも五十年、百年の後を考へて作る。教育、風儀、衛生、交通の便利からしても、凡て理想の如く出来ることは疑ひない。之れは小さなことだが、この大学でも、始め不便な所と言はれたが、今は便利の地となりました。始め五千坪しかなくかつたが、漸次広げられる望みがあつた。この土地をど一つかうかと云ふことをちゃんと絵図を書いて致したのである。内寮の土地は最も不便な所である。然るに此所に最もさきに建てたから、今日はよかつたのである。

今日は目前のことを考へて、計画を建てゝはいかぬ。少くも五十年、百年の計画をたてなければいかぬ。我が日本の女子教育でも、あなた方がどんな学問修養をするか、之れには如何なる方法を用いるかを考へなければならぬ。我が国の将来がど一なるか、世界の關係がど一なるか、これに依り變つて来るから、先見の明がなくてはほんとの計画を立てることは出来ぬ。あなた方は今計画を立てるには少くも明年はど一なるか、来学年はど一なるか、只今の現状はど一か、四、五年後は如何に変わるものであるかと考へなければ、間違つて来ると思ふ。

[明年来学年の計画に最も力を致さんとす]

夫れで、来学年にはど一云ふ計画を立てなければならぬか、夫れの為に今年の計画を立てねばならぬ。それが皆におわかりになるかど一か。私は今日あなた方に、今学年の始めに於て私の今想像に描いて居る計画をお話しておかなければならぬ。即ち、皆さんの参考の為に、又これが非常に皆さんに關係のあることであるから、始めに申しておくのである。

夫れは明年、来学年の計画を立てる用意に最も力を注いで致さうと思ふ。それはど一云ふことか。之れは先年から始まつて居ることである。即ち其の計画は我が国女子教育、近く言へば我が学校の第二期発展の計画である。これは拡大すると云ふ意あり、深く根を下すと云ふ意味、又品質を改良すると云ふ意味、大学の価値を増進すると云ふ意味がある。併し、兎に角其の第二期発展を計画すると云ふことになる。この内容につき勿論考へなければならぬが、非常に複雑である。

[今後如何に計画し、如何に進むべきか]

先づ第一、私共は過去十年の経過、世界の趨勢、我が国将来の運命を察知致しまして、こゝに我が国の教育をも一一層高めなければならぬ、改善せんければならぬ。其の準備とし又動機として、ど一か今年に於て一步、我が国女子の階段を高め、一層実質を高めると云ふことがど一しても必要と思ふ。

[第二発展の計画]

其の目的を達するに、其の教育を改善して行くと云ふことが必要である。之れを為すにつきまして、内外の關係を考へて致さんければならぬ。内外に同時に手をつけなければならぬ。この様な必要を多く考へて居る。それにつき、多くの問題を考へて居る。これを研究するには、目前の事情のみを考

へては出来ぬ。こゝに広く海外の教育を調べ、其の事情を調査する必要がある。この忙しい時に私が渡航するのは、この第二発展の計画である。

[第二女子大学設立の計画]

も一一つ忘れてはならぬのは、関西の第二の女子大学である。之れも手をつける決心である。これをするには十年、二十年、五十年の将来を充分に考へて致さんければならぬ。そ一云ふことの為に、も一一つ広く調査、研究をして其の準備にかゝろ一とするのである。

[遠大なる計画を具体的に立つべし]

夫れで我が国女子教育、並に日本女子大学の発展を計るにつきて、も一一層広い關係、遠い大勢を察知して、こゝに確實なる計画を立てなければならぬ。之れをなすに、今年はその準備ともなる学年である。即ち、第一期から第二期に移る過渡期の働きを今年成就なさらんければならぬのですから、今年の計画は、大に将来を考へてお立てになることが必要と思ふ。勿論大体の必要はわかかつて居りましょ一けれども、具体的計画にならぬと充分なる効果を期することは出来ぬと思ふ。

故に、最初に充分之れを考へ、充分なる決心を定めて今年のを始めるよ一に。始めの期に於て充分養ふと云ふ様な態度のあらはれたことは、誠に大切なことと思ふ。

[調和の空気を作れ]

第二に、二年の方からこの計画を成就して、之れ迄の様に終りにもたらぬと云ふ経験をさけるには、共同一致、相助け、相同情し、寛容なる態度を養ふ、互に人を容るる広い心を以て、先づ互の間に一致共同の出来る様に感情を融和し、意志を疎通する様にせんければならぬと云ふことも大切である。即ち、そこに命を発生することの出来る空気をこしらへることが大切である。互に衝突し気分を悪くし、互に人の進歩を喜ばない空気が出来ると、非常に力を消費すると云ふことになつて来るのである。互に容れる、尊敬する、人の善いことを喜ぶ処の空気が出来なければ、如何に計画がよく立つても成達は出来ぬのである。

[弱きを助け、勝れたるを喜び、互に助け合ふべし]

故に、先づ互に助け合ふことが必要で、若し級の中に一人の品性に欠陥あり、学力に弱い所が出来れば、其の人のみならず其の学部、広く言へば女子教育の欠点である。自分のことを思ふと同時に人のことを思ひ、出来るだけ助けを与へ、級全体が完全になるよ一に、互に助け合ふ様にならねばならぬ。

教育部は無試験検定の特権をもらう様になつた優等生が一、二人出ると云ふことは、其の動機は余りよくないと思ふ。勿論自身の力をのばすことはよいが、組に出来るだけ負傷者が出来ぬ様に、揃つて力を進め度いと云ふ空気を作る様に。そ一すれば弱い人もなかなか熱心になれるのである。自分が上に出るとねたまれると云ふ様な空気が出来ると、なかなか発達を害する。それでど一か、互に助ける、人の弱い所を助ける、人の失敗を救ふと云ふ態度が出来ねばならぬ。尚ほ自分より勝れて居る人を尊敬する、即ち人の善を満足する、人の

価値を嘆賞する、之れが余程六ヶ敷い。同輩の間には、殊に友の善を喜ぶの徳が欠け易い。こ一云ふ風になると空気が悪くなり、志気がなくなるのである。

今年、事を始めるに当り、互に一致共同して任を全うすることが大切である。これなくては、如何に計画が立つても歩むことが出来ないのである。故に、空気を養ふことが最も大切な点と思ふ。

私は、この学年の講義は成るべくあなた方の要求に応ずる様にしたいと思ふ。今日は今年の傾向、計画につき、わかり度いと思うたのである。皆さんの希望を聞き、至極然るべきことと思ふ。私からも要求することが沢山あるが、時が有りませんから、成るべく始めの計画を立てることに集注し、態度を揃へることに注意せんければならぬのです。故に残つた時に於て、そ一云ふ準備の為、必要な考へをお集めになる、銘々も一つ深く考へることが大切と思ふ。

計画につき今学年は昨年から引き続いて居り、来学年、母校に関し、女子教育に対し、将来大計画を立てなければならぬ時に狭まれて居る。其の時に於て研究的に進む、自発的に創始的に修養を進めることを始め、第九回生は最後に決心し永久に持続する其の方法としては、修養の Note を用いて月に一度宛、其の一枚を私の方へ送ると云ふことを約束して出られた。

[自動的に其の価値をあらはす様につとめられたし]

第十回生はそ一云ふ後をついで居られるから、も一つ研究的に、自発的に学問をすと云ふことに対して、ど一云ふ様な進歩を促すつもりであるか。之れについていくらか態度を改める点がある。其の方法につき自分から要求することがあるが、あなた方も実践倫理につき要求することがあるか。之れ迄はあなた方が主になつて私は之れに応ずる様に致したが、なかなか行き悪いのですから私が始終あなた方の先きを考へ、目的を立てる様に催促し、暗示を与へるよ一にして来ました。今年からそれが反対になつて、あなた方からど一向けたい、どの点につき聞き度い。海外に出る迄に二ヶ月しかない。私は一月に決心をし、六ヶ月あると思つたが、今出て行つてもよい為九回生の終りをよくしたい。外の関係もよくしたい、内もしたいと思つて居る間に時を費した。この様な事情もあるが、この始めに皆さんに言うた様になられることを希望する。講義もあなた方の方から動く様になることを好むのである。願はくは、私が居らないと思ふ程に考へて自分ですと云ふ様に、我が国女子教育は此所迄いつた、十回はこ一云ふものであると云ふよ一に、出来るだけあなた方から充分其の価値をあらはす様になると、私の力を非常にはぶくことが出来るから、そ一云ふ態度で始められることが双方の幸と思ふ。

この様に自らお働きになれば、真に力も出ることと思ふ。今年ほどの様な方法をとつてなされるか疑問のある所も、あなた方から述べられる様に致したい。今年殊に希望するのは、あなた方に適切な疑問が起る様にしたい。時を設けて Discussion が出来る様に致したい。之れをすれば、思想を高め、共同が出来、経験を積むことが出来る。今年互にこの

意見を交換すると云ふことを望むのである。従来は行はなかつたが、今年は之れが開け、留守中にもせられる様に。又自ら創始するに Note を書くことも、も一つ歩を進めることも希望する。どんな書物から刺激を受けたかと云ふことも知らして戴き度い。この様なことが充分出来ます様に希望致します。

[中表紙]  
記念式の御話  
明治四十五年四月二十日

明治四十五年四月二十日  
創立記念式

今日は教務委員 大隈伯爵、久保田男爵両閣下、評議員の廣岡さん、三井男爵の代理 成瀬隆藏君御出席の栄を得まして、是れから本校の第十一次記念式、並びに創業の始めより母校に深い同情を表されました評議員 三井三郎助氏の追悼の意を表する会を致すことと致しました。

此の日本女子大学校が愈々此の地に生れましてからは満十一年になります。併し、其の種が我が國に生へましたのは、猶其の以前の事でありませぬ。極始めに溯りますと、凡そ三十年にもなりますけれども、愈々其の計画が具体的に現れましてからも、既に十七年と云ふ随分長い月日を重ねて、是れ迄に成長致したのである。又、其の身体である処の外部の事業、並びに其の精神である処の校風が如何にして成り立つたものであるかと申すならば、非常に複雑なる種々の原因があつて今日の生命が生れたのであります。斯う云ふ記念日に於て其の歴史を考へますことは、此の生命を養うて行く上に少なからぬ処の利益のあることと信じて居ります。丁度我々個人の品性に意識の上に明らかなる部分と、又、意識以下に隠れて居ります長い歴史から育て居ります意識。人格の上に表面に現れて居ります身体と、又、誰れも知識を以て磨くことの出来る働き、深い原因をなして居る処の校風と云ふものがあります。其の校風が実に学校の品性であり人格であります。此の校風の感化によつて、此の学校のほんとの人格が出来るのであります。其の校風の隠れたる人格と云ふものは到底詞で言ひ現すことは出来ぬ。

いろいろ織りなされた要素と云ふものは、到底我々が口で宣明することは出来ないであります。只今日は、其の校風はど一云ふ原因から来て居るか云ふこと、いろいろの歴史の記憶を喚び起して、お話し致したいと考へます。

此の校風が評議員、教職員、あなた方の自奮、自修によつて出来たものであると云ふことは明らかでありますけれども、此の学校は夫れだけではない。も一つ深い要素があるのである。夫れを今日は、殊に深く覚えたのであります。

夫れは此の学校の出来た十一年前に溯つて、如何なる種が蒔かれたのであるか、其の種を育てるのにど一云ふ力があつたかと云ふことである。夫れをわけると、大体を申せば発起

人と云ふことになる。其の中に最初の発起人と次に出来た発起人とがあり、其の次に進んだ名前が創立員であり、其の後かはったのが評議員であります。

其の評議員であり、最初から力を尽して下さった三井三郎助君とは誠に密接な関係がありますから、此の記念日に此の方の追悼会を催すことは最も適当なることであると云ふことを、評議員の方々と御相談致したのであります。

三井三郎助と云ふ名前に因んで、輕井澤の寮舎を三泉寮と云ふ名をつけたのであります。此の名前にはいろいろの意味が含まれて居りますが、猶其他にも、此の三と云ふ数にはいろいろの意味がありまして、三つの数から成り立つたものが多いのであります。夫れから三つと云ふ数に叶うて居る様なことが、此の大学の歴史に沢山含まれて居るのであります。故に、夫れを事実と結びつけておくに何時迄も記念するによいと思ひますから、私は此の学校の歴史を大体三と云ふ字に結びつけて申すと、覚えよいと思ひます。

先づ此の大学の起りに最初に出来た発起人、第二に出来た発起人とありますが、先づ直接教職に従事するものを省きまして、最初の発起人は三人である。是れは、今おいでになつて居らるゝ廣岡さんと、大和の土倉庄三郎君と、時の大坂府知事、後の内務大臣 内海男爵である。其の三人と内々相談をして、愈々形を持って天下に公にすると云ふ計画を立て、最後の決心を致しまして東京に上りまして、我が国で最も有力であり識見を持って居らるゝ処のお方に計りました。そ一云ふお方で斯う云ふことに力を尽すのは、多くの冒険を意味する事業であるに拘らず、即座に決心せられたお方、即ち此の大学が生れる為に最初の応援を与へられたお方が、やはり三人であります。其のお一人が今おいでになる大隈伯爵閣下、其の時の総理大臣 伊藤公爵、文部大臣でおいでになつた西園寺侯爵でいらつしやいます。

夫れから此の大学が立つについて是非必要なるものは経済であります。此の経済の道を立てられたお方が、やはり三組ほどあります。最も財界に於て有力なる三井家と岩崎家であります。次に此の財政を司るに最も必要なる募金のことに力をつくされた森村翁と渋澤男。夫れから創業の困難なる場合に其の必要なる財政を荷うて下さつたのが、土倉庄三郎君と廣岡夫人であります。此の三つの違ふ処の三組によつて此の学校が成り立つたのであります。

夫れから教育上につき又組織上について、細かい処に注意を払うて腹藏なく我々に注意を払ふたり、後見役になつて小言を仰しやつて下さつたのが、今おいでになる久保田男爵と死なれた内海男爵と児島惟謙君。此の三人の性情によく似た処もある。最も細かい処までよく気がついて、我々をよく導く為に小言を言つて、後見役となつて始終此の学校の生命を作る処の原素となられたお方は沢山にあります。

そ一云ふ風に三人組を作ると、近衛公爵、岩倉公爵、伊藤公爵。又、総理大臣で云ふと山縣公爵等は、殆んど発起人とも言はれるのであります。此の学校の発起人、評議員と云ふものを挙げても、夫れ程沢山あるのである。此の学校は決して小数の人によつて出来たものではない。そ一云ふ多くのお

方の力によつて、此の学校の校風が出来て居るのであります。其の委しいことは昨年出しました報告書によつて、新しい方もおわかりになることが出来ると思ひますから、今日は申しません。

之れは表面に現れたことでありますが、猶表面に現れない隠れた処の原因があります。即ち、個人で言へば潜在意識とも言へる隠れた処の力が、此の大学の根を組織して居るのであります。夫れは此の大学を組織せられた処の多くのお方の人格、徳であります。そ一云ふお方が決して少数ではないのであります。我々が日頃尊敬して居る処の有力なるお方が、真に私利虚名をさげ、私と云ふものを去つて尽された処の感化であります。

其の一人として私は三井三郎助君を数へんければならぬ。三井さんは自分の徳を表明することは余り好まれません、併し私共は表面上、肉体上の三井氏と永別するについて、目に見えし処の精神的遺風をとり、其の人の残された処の意志をつぎ徳を学ぶことは、是非我々が取らんければならぬことでありますから、三井氏の隠れたる徳、又ど一云ふ所に力を注がれたかと云ふことについて申しましょ。

#### [三井氏の三徳]

私は之れを、三井氏の三つの徳と申したい。夫れは一つであるが、分けて申すならば、三井氏は誠を愛する人であり、善を急ぐ人であり、虚名を好まない人である。私は、三井氏が善を急ぐ人である、虚名を好まない、自分の事業が現れると云ふ様なことを好まない人であつたと云ふことは、始終見る処であります。其の一例は輕井澤の寮舎の如きも、一と頃私は非常に神経を痛めました時、三井氏の輕井澤の別荘に泊りまして、誠に爽快を覚えましたから、或る時三井氏と話の序に、ゆくゆくは斯う云ふ処に寄宿舎を建てたならば、嘸よいことであらうと云ふことを申しました。三井氏は其の時は其の考へに賛成の意を表して居られた様でありましたが、翌年になつて、丁度其の考への通りの寮舎を拵へられたとのことでありまして、私は殆んど困つた位で、未だ学生を送らうかど一しよ一かと云ふことだけでも考へがきまつて居ないうちに境遇は早、出来たと云ふ三井氏のやり方は、始終そ一云ふやり方であります。之れは評議員のお方も未だ多分御承知のないことと存じますが、三井さんは京都のお方ですから、若しも京都に桜楓館支部館の如きものが出来て、其の中に図書館やいろいろ家事に関する標品などを集めて、時々会員がよらるゝ様になつたらば、嘸有益なことであらう。又、三井さんが京都の為にそ一云ふことをせられたならば、誠に美事であらうと云ふ考へを申しましたれば、早速夫れはしよ一と云ふお考へをきめられました。又、之れは御家族の方ともお話しにならない位であつたかも知れませんが、家政学教室をたてること、又、桜楓会の事業として貧児の為に養成所を立てられると云ふよ一な事。猶、数万円を投じて公共の為にしよ一と云ふことをも決心せられたのであります。之れ等は御病氣が重くなられなかつたならば、も一此の頃は着手して居られたかも知れません。又、斯う云ふ風に三井氏は善と思へば急ぐお方である。輕井澤の寮の如き、私が十年も先き

の計画として考へて居たことも翌年になされたのである。今から思ふと、三井氏の善を急がれたのである。

今から思ふと、三井氏の善を急がれたのは誠によかつたのである。若し三井氏が其の事を今日迄ものばして居られたならば、生前にあれだけの事は出来なかつたかも知れません。又、三井氏は人に対し、友に対して誠に親切なお方である。私は三井さんと数十年交際したのであるが、一度として人の悪口を言ふ、批評すると云ふ様なことは聞いたことがない。又、人の感情を害するよなことをなさらぬ。私は何時でも京都へ行くと三井氏の別荘に泊りますが、彼処に八十程の老人がある。今はも一年よつて、三井家の為には何もして居ない人であるけれども、ちゃんと人をつけて大事に養生させてあります。三井氏は実に人を捨てないお方である。鎌倉の別荘にも年よりが長く居りましたが、之れは此の間なくなつたのである。三井さんは口数を言はないお方であるけれども、始終人の事を考へられ、此の学校の盛衰に心を注いで居られました。三井氏の年は六十三で、子供は皆大きくなつて、生涯の事業も成就せられ、何にも不足はないのであるが、一方には青年のよな処があります。子供の為に一週一度づつ、子供達の為に道德、宗教と云ふやうな修身に関する話を話してくれる様にと頼まれて、御自分にも病床につかるゝ迄喜んで聞いて居られたのであります。即ち、終る迄修養に勉めて、年と共に老いず、終りまで青年の元氣を続けられたお方であります。

一言で言へば、三井さんは物を建設せらるゝことがお好きであつて、第一、建築で桜楓館も三井さんがお建てになりました。此の学校の建築委員と云ふものが岩崎さんやら其の他にもありましたが、實際、建築の実をあげられたのは三井氏である。寮舎のひきだしから割烹室の瓦斯や水はけの具合に至る迄、一々自分で考へては指図をして下さつたのである。

その他、三井氏は人の徳を立つことに非常なる興味を持つて居られたのであります。二人の子息、二人令嬢、其の他三井氏が三井家一族に対せらるゝ態度と云ふものは、実に美しいものであります。併し、人前に名を出す、知られると云ふよな事柄は出来るだけ避けられたお方である。即ち、左の手ですることも右の手にも知らさないと云ふ、実に心から謙遜なお方であつて、人を捨てず人の徳をたてるお方で、人の感情を害すると云ふよなことは決してなさらぬお方である。故に私は、恐らく三井氏を憎む人はあるまいと信じます。

徳を立てること、寡言、誠実、善は急げと云ふ良心の機敏なる判断力に富みて居られました。私共は此の三井氏の人格、又、三井氏が此の学校に尽された厚意を記念致して、ど一か私共は功を誇らず虚名を食らず、毀誉褒貶を意としない、只本務に忠実であると云ふ徳を学びたいと考へます。

〔中表紙〕  
第一学年、予科の御話  
明治四十五年四月二十二日

明治四十五年四月二十二日  
一年の為に

今年は大分あなた方の用意が周到に出来て居る様に思ひますから、成る可く自然にわかることは省いて行きたいと思ひます。あなた方のお書きになつたものがよく秩序が立つて、其の考へが明らかにわかる様であります。つまりこれによつて、今年の一年生並に普通予科、英文予科の其の考へをあらはす力が従前より進んだことを見出だして、満足に思ふのであります。

先づ、あなたの境遇を聞きましたが、平年に比べると順境が多い。自分の境遇について、又大学に入つたことについて感謝の意を表して居る。これは筆でなく皆さんの経験であり、又、今日社会の空氣が平穩になりかけたのにもよるのである。

是れ迄は大多数、此の学校に入ることがむづかしかつた。親類、先生が反対せられたのが、今年は殆んどない。之れは今年の特色である。

次に喜ぶのは、今年の新入学生の方は目的が明かな様である。それについて、も一つ正しておかねばならぬ、又心配になると云ふ様な間違ひなどが殆んどないよ一である。そして、従来よりも高尚に進んで来た様に思はれる。此の目的を明かにして置き、これに対する意志を堅固に持つことは最も大切なことである。其の目的と云ふことも大分意味のわかる人が多くなつた様である。之れは極くわかり易い様だが、深く考へると六かしく大切なことである。之れにつき割合にわかつて居る様である。

次に、問題の所で多く疑問の意味の様におとりになつた様である。入学前までは疑ひを持つて居たことをかいてありましたが、之れは寮監、指導者からおきゝになれば直ぐわかる様なことであるから、そ一せられたらばよろしい。

兎に角これ等のあらはれは、余程進んで来たものに思はれる。それから、何か改善したい所を聞きましたが、之れについては一向気がつかない。むしろ総てのことにつき満足して居ると云ふのが多い。其の中には設備も思ふより整頓して居るが、掃除などは行き届かないと云ふことがあつた。之れは皆さんと改めて行かねばならぬ。之れは矢張り学生自身が責任をもつ主義であります。併し、自身でする所と小使のする所とあるが、自分のなすべき所については互に直す必要がある。公共物の場合には、見過しにする例が多い。これはいけないことである。整理係があるが、皆が整理係である。この建物は皆共同のものである。之れは、自分のものよりも大切なものであると云ふ氣にならなければならぬ。皆が此の心掛けで居れば、不整頓にならぬのである。清潔にすることは銘々の習慣にしなければならぬ。これが校風になる様にせんければならぬ。序に申しますが、火の用心をすることでありませんが、マッチの擦りからの仕末の様なことよくしなけ

れば、此の頃学校火事が多いから、よく注意をせねばならぬ。又、火事の時の心得も之れから練習することであるが、平常から其の心得が必要である。又、伝染病の予防も大切である。之れ等は皆、習慣になつて居らなければならぬ。

其の他は、一々こゝに言ふ可き程のことはありません。

夫れで、此の間私は自分の考へを書くことの大事なことを言ひました。夫れを極皆さんが真面目に取つて、あなたの力を尽して答案をお書きになつたこと、これは私の満足する所であります。

次に始めて行きたいと思ふことは修養と学問、自動的に始めて行くと云ふこと。之れはど一したならばよいか。先づ、今日は之れから第一期に学ばなければならぬ。行つて、自分の品性を作らねばならぬ。自分の人格としなければならぬ。其の要点をきめておきたい。及び、其の順序を定めておきたいと思ふ。又、それに従つて自動的に学び、自奮力を修める方法につき、大体示しておきたいと思ふ。

先づ最初の期に於て入るべき修養の門は、自己修養と云ふことである。自己とは自分のことで、自分の中にはどんな力があり、ど一云ふ天職が与へられて居るものかが、先づわからなければならぬ。其の自分は毎日變つて居るものである。だんだんに成長するものである。其の成長は自然に出来ると云ふこともあります。真に銘々の希望にかなふ様な、即ち人間が満足のできる様な成長、進歩は修養に依らなければ出来ぬ。之れはど一云ふことか、又如何なる順序に従つてなすべきかがわからなければならぬ。

先づ私は、自動的に進めねばならぬから、其の順序を人間の経験から見出された法則、秩序がある。それを大凡知りまして、それに依つて歩を進めるならば、有効に進めることが出来る。

[至誠の力]

自己修養を凡そ三種に分けます。

第一を至誠の力と言ふ。真如、真理と言ひ、日本の言葉では誠と言ふ。我が国の道徳、修養の根本は之れである。団体の真髄は此の誠である。併し、之れは日本の専有して居るものではない。Zoroasterの真髄も之れであり、仏教に於ても真如と言つて居る。道は、即ち真理である。之れは命とも、愛とも、美とも、理想とも言はれる。即ち之れは、人間の真髄、宇宙の實在の全体を言ふ。深い意味で申せば、非常に深く言へるのである。或は至誠、神の如しと言ふ。之れは、ほんとのことである。實であり、真であることを言ふ。其の真と云ふことはど一云ふことであるかと云ふと、合ふことである。これは何か二つのものがあつて、齟齬、矛盾しないことである。融合、調和することである。自分を修養するに最も大切なことは、意を誠にする。これ即ち、心を合せると云ふことである。先づ誠は偽の反対である。偽は心と言葉とが反対することで、誠は言葉と心が合ふことである。又、我心と行ひが一致することである。心ない行ひをする。これは偽り、矛盾である。煩悶、罪、これは心と行ひとの齟齬することである。我が心のよいとすることを行ふ、之れ至誠なり。又、我心と人の心とが合ふことが至誠である。即ち、之れを愛と

言ふ。人の意志と我が意志と合ふことを誠と言ふ。大きく言へば、我が心と天の心と一緒になるのを至誠と言ふ。又、我が理想と我が人格が合ふ、即ち、我々が根本要求があると言つて居る、全力を注いで日夜努力奮闘して居るは、これ、理想に合はんとするが為である。

[修養の根本は至誠である]

理想とは神である。最もすぐれたる考へと自分の人格が一致する様にしたいとつとめるのである。これをなすに、自分の意志と天地の美とが融合しなければならぬ。なほ自分より不完全なる自分と、高い自分とを一つに合せる。即ち、低い我れを高き我れに化する。こゝに至誠がある。そこで先づ、自分を修養して発達するには、根本を養ふことが必要である。根本とは至誠である。之れはど一したら出来るかと云ふに、考へる力が大切である。正当に考へること、この目的は自分の意志を誠にすると言ふことである。自分と宇宙、人と全体とが和合するのが、考へることの目的である。先づ我々が正しい行ひをしよ一とするならば、正しい考へ、正しい意志が先づ出来なければならぬ。これ即ち、人間の行ひの本である。此の本を養はずして、枝葉をおさむることはよろしくない。故に、考へを正しくする、意を誠にすることが大切である。

[思考力の内容]

然らば、其の思考力を養ふ内容は、第一 精力集注である。第二は自制力である。第三は自治力、第四 順応力、第五 自覚及び自重。

[靈感の淵源]

第二、靈感の淵源。私共が外界のものを知るには眼で見、耳で聞き、鼻で嗅ぎ、五官によつて感知する。其の以外に、宇宙の本当の実体は此の靈感に依らなければならぬ。此の教育が今日迄怠られて居た。これは六かしいから、項目だけあげて置きます。

[意識に就て]

自己と云ふことを今日識者の間に通用されて居ることは、意識と云ふことである。之れは第一に五官で物を知ること、透覚すること、皆意識である。心理学で知、情、意と分けて、知とはわかることである。意識である。意識は宇宙の実体である。今日は此の意識は宇宙の万物にある。併しこれも程度がある。

神は石に眠り、動物に夢見、人間に眼さめて居ると云ふのである。人間に於て始めて意識がさめて居るのである。意識は之れ迄言つたものとは違ふのである。天地は限りない。人間には限りがあると云ふが、これは人間の意識に限りがあると云ふことである。天地に無限の意識が本となつて、我々が心理学の知、情、意があらはれて来る。我々の知、情、意は斯様な所から生れて居る。

第三に話すものは限りなき深い海である。此処に、人間のほんといに人間たる尊い永久的な、ほんといに人間が教育を受けて大きくなれる土台があるのである。こゝに開く眼を靈感と言ふのである。今日迄の教育は意識の外にあらはれて居る知、情、意に止まつて居つた。

併し今日は、この深い処の意識に於て、も一つ力を発揮



し、蓄積することが大切である。其の窓を開ける教育が欠けて居たのである。

其の内容を分けると、直覚、本能、想像、感情、情操、崇拜、調和、敬愛、靈妙、高調である。

これはもはや自分と云ふことが Spinoza の言つたよーに、神に酔ふと云ふ状態である。これは言葉には言はれない処である。詩なり歌なりは、幾分を言ふのである。これは、言ふことの出来ない非常に高調に達した程度である。

[Note のつけ方]

Note の始めに於て、考へ瞑想し、決心する所のもの。第二に靈感。これは自分より先覚である理想に接して、自分の靈覺を覺醒するのである。

第三の処がもはや詩である。歌であり、感謝である。

大きく言へば、此のよーな順序であるが、一日の間に漸次あらはれるので、私の言ふのは毎日かく進む順序をあらはし、又この一年に於てどんなに進むか、又、研究の項目を示したのである。此の週間にすることは、精力集注と云ふことである。此の問題をきめて置いて、之れにつき先づ其の意味がわかるか、其の習慣があるか、之れをなすには如何にするかを書物によつて調べるのである。これは私の講義を書物にしたのがあるから、それでお調べになるよーに。考へるにつき、矢張本を読むことが大切である。靈感の所は經典からおとりになる様に、之れ等を自ら自分に適するものを取り、Note に書き、これを本として講義を致すつもりである。

一時間は私の講義をし、一時間は自分の講義とする様に、皆の考へを統一する様につとめて見たい。こーすれば、も一つ自動的に研究が進むことと思ふ。併し、あなた方の要求を入れたいと思ひますから、皆さんに相談をするのである。

[中表紙]

大学部一年及予科の御話  
明治四十五年四月二十九日

明治四十五年四月二十九日  
大学部一年及予科の為に

此の前に研究の方法につきお考へになり、今日、順におまとめになる様に相談致したのですが、指導者の話によると、組々で凡そ考へをまとめられたそーであります。それは二つになります。即ち、最初から銘々で其の門につき書物などによつて調べると云ひ、も一つは、夫れが必要であるが、経験も少なく主義がよくわからないから、も一つ導いてもらつて後と云ふのであります。私は、其の中間をとつた方がよいと思ふ。夫れは、多分自ら調べられると思ふものは銘々で調べ、六ヶ敷いものは直ぐ講義をして進む様に致したい。

今日は、研究と云ふことがどんな意味か、どーしたらよく出来るかにつき、今少し私の方から話して、次の問題を出す

様にするつもりであります。

[自己修養]

先づ大きい問題。この間三年生が計画発表会に、社会的人格の養成及び研究法、これが大学の今年の計画、目的であるとせられた。あなたの方では、この本になる、始めになる所の自己修養と云ふこと。多分これは、一年程かゝるでしよー。

[人格と自己]

少くもこの第一学期の問題になる人格と自己、少しく言葉がちがうが實質は同じい。これは社会的人格に対し、個人的人格と言ふことが出来る。その人格と自己と云ふ意味に、どんな関係があるか。社会的人格は個人的人格とどこに関係があり、差があるか。之れが始めにわかることが必要である。

これはどちらから言つても、この両方面を見なければわからぬ。其の関係と、も一一層深い意味について、この水曜に二、三年に問題を出して、どれだけ調べて居るかをきゝ、も一つ意味を明かにするつもりです。計画につき大学全体の目的につき、予科、一年も知る必要がありますから、都合をつけてお出になる様に致したい。

[三つの目的]

今日は、第二の個人修養と云ふことを明かにしておきたいと思ふ。この前に、目的と云ふことを説きました。それは研究が適切になり、又、修養の原動力を養ひ、行ひの精神を養ふにつき必要な目的を説きました。之れにつきおわかりにならぬ方もありましたでしよー。目的には大凡三つあります。

[究極目的、小目的]

第一、究極目的、或は大目的。或は全体の目的と言ふ。

第二、小目的。之れを日常生活の目的と言ふ。又は最近の目的と言ふ。

[以上二目的の中間の目的]

第三は、この二目的の中間の目的なり。これは其の目的に至るべき手段、方法である。同じものであるけれども、斯くの如く分れる。

小目的は無数ある。これが一つになり融合して一目的、即ち究極目的となる。これを人生の目的とも言ふ。社会的人格とは中間目的で、これに対するに日常生活の目的が必要となる。これを立て、明かにするに最も適當なる方法を計画することが必要である。之れが出来ぬと究極目的に達せられぬのである。

[人生の三要素（目的、方法、力）]

其の目的と、これに達する方法と、夫れをなし遂げる働き、力、この三つのものが人生欠くべからざる要素をなす。これが最も調和して働く、これが集注である。

目的には二つの意味があります。人間の目的と自然の目的と二つである。自然の目的とは草木がのびる如き、血液が循環する如き、皆そーである。あなた方が目的を立て大学にお入りになつたのは、人間の目的である。

併し、目的は何の為に必要なものであろーか。又、目的はどこから出るのであろーか。自然の目的は何から出たのであるか。

先づ、目的の出所から始めましょー。自己修養の目的を果して行くに一番大切なものは実行である。実行とは働き、或は運動。とにかく働くことである。それで、この世界にあなた方が始めて生れ、成長して今日の人となった。之れは何によって出来たか。之れからなほ立派な人格に育てて行く、又ものわかる賢い頭をこしらへることは何によって出来るか。つまり、我々の生は何によって出来るかと云ふと、活動と云ふことから始まるのである。人間は動によって生き、成長し、変化するものであります。

【人生は活動なり】

先づ、人が生れて最初に致すことは動くことである。先づ生れて呱呱の声をあげる。泣くことから、いろいろの所が動く。次に乳を吸ふ。これには、もはや目的々活動がある。それを即ち動と言ふ。之れが成長して人間の行為、実行、品性になり、人格になり、理想を生み出す行為になつて来る。

【活動の二要素】

その活動、行為の要素は何であるか。二要素がある。

第一は活動の根になるもの、即ち自己の中に潜んで居る力である。

第二は外にある。即ち刺激と云ふ、この先づ行為のうちの要素を養ふ所の外の要素。その二つの間に行はれる所の関係がよくわかりませんと、三要素の関係がわからぬ。修養の方法が明瞭にならぬのである。

【人間は作るにあらざり生れたるもの也】

そこで教育学に、人間は作るものにあらざり生れたるものであると云ふのは、つまり生れた時、既に内にたくはへられたる活動の本が出来て居る。それを遺伝と言ふ。

【遺伝】

先づ、人間の力は遺伝から由来して居る。併し、これら重く見過ぎるのは弊がある。吾人のうちに貯へられたものの中、遺伝でないものが沢山ある。必らずしも立派な人に立派な子どもは生れぬ。

【意志】

之れは教育に対する大問題で有る。その力を意志と言ふ。これは神の力のよーなものである。つまり、ものを作る力がある。自然力、四囲の境遇を支配する力を持つて居る。之れは無限に発達して行く自由の力を持つて居る。この様な働きを意志と言ふ。

【自発力】

この意志と遺伝の力が、生れた時から既に有る。その中の力が働いて来る。これを自発力と言ふ。教育で自動的が必要と云ふのは、之れである。それで我々の活動のものは、根にある。又、この根は外の刺激によって変化する。これを四囲の境遇と言ふ。偉人も罪人も低能児も、社会が作る。これは刺激を重く見た方である。若し内だけならば、永久に活動を続けることは出来ぬ。子供が生れて呱呱の声をあげるならば、食物を要求し泣く許りでなく、動き度いのである。之れは内の衝動から来るので、全くの自動である。子供許りでなく、蓄へられた力がそこに現はれければ、満足しない。人間は決して活動を止めることは出来ぬ。

【自他反応して人格は作らるるなり】

併し此の活動は刺激に應ずるよーになつて居る。若しこの様でなかつたならば、如何に刺激を与へても反応はしません。植物、動物、人間によつて反動のしかたがちがう。之れは活動の蓄積力の多少によるのです。故に互に反応し関係宜しきを得なかつたならば、決して人格發揮は出来ない。又、価値があらはれることがない。そこで人間の教育に大事なこと、自己修養につき先づ知るべき、自覚すべきことは何か。之れは本体がわからんければならぬ。そこが始めてさめて人間が自動的自発的に動くことが出来るよーになる。之の力、又は刺激からうける所の反動力、内から動く自動力、其の力が内外合して人間の行為となる。之れが吾人の習慣となる。これが品性となり、人格となる。之れが益々高尚なる人間の力となるのである。この自発力はどー云ふ訳で動くか。之れ偶然的に又、無意味に活動するにあらず。確かにその活動にも興味あり目的があるから、これを目的々活動と言ふ。

【意識的目的 無意識的目的】

この目的には意識的と無意識的とあります。併し、どちらも目的を持つて居る活動である。それで十九世紀の科学は、宇宙は機械的のものと思つて居つた。然るに二十世紀になつて、其の活動は機械的ではない、意識的のものであるとするよーになつた。目的を追求する活動と云ふことになつた。夫れで、人間が生れて活動するのは本能的である。本能とは遺伝から来て居る。本能と云へば習慣的であるが、意識的のいくらかある。即ち、知識要素がある。例へば人間以下の動物は、大部分は本能に生きて居る。高等の動物、ことに人間は本能も半ば以上あるが、併し文明に至るに従つて意識的の目的々活動がふえて来るのである。あなた方は今日起きて来てから、この教室に来られる迄には小目的を沢山せられた。それはどー云ふことであるか……

【高等に進むに従つて意識的となる】

私共の生活の上に、本能的にやつて居ることが沢山ある。之れは機械的の活動と言ふ。即、極低い生物にもある。一番人間が高等に進んだとは、意識行動、合理的行為が多くなる。之れは思考力が発達したによる。こゝに研究が必要となる。今日の自己修養には意識的の活動、即ち自覚的の活動がふえて来んければならぬ。其の必要が起つて来て居る。畢竟、研究と考へる。即ち知の必要は何によつて起るか。本能的ではいなくなつた。

【四囲に適合すべし】

今日境遇が変化したならば、之れに適合して自分の要求を満足させ、力を発生し、価値を増進することは、人格を高めるには従来の本能的ではいなくなつた。総て経済、戦争、學術、政治、宗教と云つても、同じ行為ではいけなくなつた。四囲に適合することが出来なければ自滅する。故に、本能の傾きをますます改善して、新しいものを生ぜしめなければならぬ。

【時代の変化に適應すべし】

昔は弓矢でよかつたが、今日は大砲、軍艦、飛行機でなければいけなくなつて居る。即ち、今日に應ずる新方法がなくて

はならぬ。商業でも、昔は小売、卸商であつたが、今日は世界と關係して取引をするよ一になつた。家庭の事情も同様に、變つて来た。昔の通りの妻であり母では、不適當になつた。その様に変つたならば、従来の習慣的、本能的の婦人ではいけない。此に於て、本当の意識的活動が入るよ一になつた。目的も只本能的ではいけない。研究し、考へて見出した目的が立たなければ、行為を本当に適切に成就することが出来ない。宗教も昔の様では、今日の理想を維持することは出来ない。こゝに於て學問が必要になつた。こゝに研究を要するに至る。之れには、意識範圍が広がるが必要となつた。之れをなすに當り、何故に皆が非常に困難を感じるか。之れ、非常に變化が早いからである。併し、變化に恐れては滅亡である。支那、朝鮮、印度は何故に滅亡したか。急激の變化に應ずることが出来なかつたからである。日本も變化の時代に於て困苦を感じるのである。併し、之れに勝たなければ滅びるのである。

獨逸の如き保守國も、今日は大學を開放しました。露西亜の如きも女子大學を建てる様になつたのです。

[女子の教育も研究的、創始的となるべし]

今まで日本の女子の教育が女大學主義で、三從の教へを守つて居ればよかつた。本能的行為で満足して居りましたが、今日は思慮ある、物のわかつた所の過去、現在、將來を考へ、自他の關係がわかり、目的が明かになり、始めてよい行為が出来るのである。之れには研究創始がなければならぬ。そこが先づわからなければならぬ。

今度あなた方が入学せらるゝにつき、意識的目的があつた。こゝに其の目的を確立して、あなたのうちから動いて居る。活氣がある。あなた方に元氣がある。之れ、目的が明かであり、日常生活に於て之れに近づかんとして、意識的生活をせらるゝからでありませよ。

[結論]

自己修養とは自分の力を充分展ばし、四圍の境遇に反応し變化に応じて行く。これには方法がある。即ち、研究しなければならぬ。こゝに學問の必要がある。意識的の範圍がふえて来なくてはならぬ。これには自動的に進まんければならぬ。日常生活が目的にかなふ様でなくてはならぬ。其の方法を見出すにつき、研究的生活が出来なくてはならぬ。始めからこの習慣をつける様に致したいのであります。

[中表紙]

大學部二、三年の御書  
明治四十五年五月一日

明治四十五年五月一日  
二、三学年の爲に

此のNoteを遅くお出しになつた方もありますので、未だ委しく調べる暇がありませんけれども、大体から申せば、あな

た方の計画としてお立てなされた社会的人格と云ふことに、初めから二つの意味がありました。夫れは個人的人格と云ふことと社会的人格と云ふことである。故に先づ初めに、人格と云ふことからよくわかつておいて考へた方がよいと思ふ。併し、只詞をいろいろ並べるだけではつまらない。

[凡て詞の意味を解することが大切である]

詞は只記号に過ぎないので、記号によつて記号を解釈しても何の役にも立たないので、其の詞の意味がよくあなたに解せられねばならぬ。そ一なつて初めて、意味が徹底したと言はれるのであります。

も一一つあなた方の注意せねばならぬことは、此の頃世界が急激に變化しつゝあるので、唯論理のみならず、詞の内容までも變つて行くのである。故に一つの詞にしても、今はど一云ふ意味を持つよ一になつたかと云ふことを考へねばならぬ。

[人格と云ふ詞の内容について]

そこで今日は、人格と云ふ詞、此の内容を明らかにしておくことが必要であります。十九世紀に入つてRealismと云ふ此の實理主義が重んぜらるる様になりました。詞をかへて言へば、科學が重んぜらるゝ様になつて、事實を本としなければ空論となる。故に、知識も實証と云ふことがなかつたならば、確なる知識とは言はれなくなつたのです。そこで科學の進むにつれて、益宇宙の實質、所謂實體を究めよ一としたのであります。所が、科學の証明したのは何であるか。Matter物、又はForce力で、つまり物と力と云ふことになる。そこで我れも宇宙も、やはり器械的關係で出来て居ると云ふことになつたのであります。そこで、段々研究を経て力と云ふことに重きをおき、力と云ふもの實質を究めて参りました。そ一すると其の宇宙の實體は現象、即ち物にあらず、唯其の器械的動力に非ずと云ふことを人間が弁へる様になりました。

[實質は器械的關係ばかりでない]

夫れで今日では、實質は物にあらず、又唯、器械的の關係にあらずと云ふことがわかつて参りました。

[實質の何たるかについての諸説]

然らば、何であるかと云ふと、今度は之れは意識Consciousnessであると申しました。又、或る人は、之れは人格Personalityであると言ひ、例へば實體的實質は何であるかと云ふと人格であると云ふ考へから、神格など云ふ詞をも用ひます。又、或る人はWill意志であると言ふ。意志と云へば目的を持つて居る所の力である。之れを意志と言ひ、又、個性Individualityと言ふ。又、或る人は之れを経験Experienceと言ひ、又、或る人はValue価値と言ふ。斯う云ふ風に、學者によつて違ふ詞を使うて居るのであります。

併し之れ等を御読みになると、之れ等の詞の意味を考へて見ると、前の、物と云ひ力と云うのと確に其の關係が違ふと云ふことがおわかりでありませよ。又、之れを他の詞で言へば、内と外と申します。

此の中で今日、先づ世界で一番広く用ひられて、今日人類が見出した其の其の意味を一番適切に言ひ表はした詞は何でありませよ一か。わかつて判断のつくお方は……

又、此の中に生命 life と云ふ詞も使うのであります。いろいろ学者によって丁度適当と思ふ詞を使つて、未だ一致して居ないのである。併し、今日我々の生命と申すもの、又価値と云ふものは物質的のものではない。又、文明と云ふものは唯、物質的のものではないと云ふことが、確かに皆さんに感ぜらるゝであらうと思ひます。故に、先づ今日は詞だけ挙げておきまして、其の間には疑問が現れるであらう故に、先づ其の疑問を起しておいて、段々に其の内容を申すことに致しましよ。

#### [社会的個人主義]

併し、此にある個性と云ふことに社会的と云ふことをつけて社会的個人主義と云ふと、何やら矛盾する様である。個人と云へば一部、社会と云へば総体である。其の総体と一部とを一緒にすれば何やら妙に感じられるけれども、今日はそ一云ふことも言はるるのであります。

夫れで今、申す居る処の総体と云ふもの、又自分と云ふものを深く考へて、ちゃんと見当をつけておかねばなりません。故に、今申した様な詞の意味についても、よく研究なさることを希望致します。

#### [社会的人格の養成について]

次には社会と云ふこと、社会的人格養成と云ふことは、ど一云ふことであるか。此の社会的と云ふ冠詞が、十九世紀に於て極端に用ひらるゝ様になりました。之れは此に其の種類をあげると数限りありませんけれども、社会的人格の養成と云ふ時にはど一すればよいかと云ふと、社会的行為と云ふことが必要になる。

#### [社会の目的]

社会的行為とは、社会の目的を自分の行為の目的とすると云ふことで、社会の目的とは是れ迄は Common good と云ふことであります。Common good と云ふものが我々の行為の標準となつたのである。

Common good とは何であるかと云へば、ミルの詞がわかり易い。即ち最大多数の最大幸福、之れが標準になる。斯う云ふ様で、十九世紀に使はれて居た詞が沢山あります。故に、あなた方の答への中にも、そ一云ふ様な詞が沢山あります。

けれども今日では斯う云ふ詞を使ふと間違ひ易くなりました。又、宗教上でもよく言ふことですが、犠牲と云ふよ一な詞も、前とは余程意味が變つて参りました。之れは前に申しました器械的關係を説明する為に起つた詞で、夫れを言ひ現すには斯う云ふ詞が適當である。精神的経験を物質的に説明しよ一とした。そ一云ふ混雜が度々個人主義と社会主義との衝突となつたり、修養と勉強とが一致しなかつたり、自分の利益と公共の利益とが一致しなくなつたりして参りました。故に、社会的人格の養成と云ふことを愈々実行しよ一、又、其の理想を実現しよ一と云ふ時に、予め其の關係を心得ておきませんと徒勞に属するよ一なことがあると思ふ。故に、初めに於てよく明らかにしておかねばなりません。

そこで、之れを明らかにするに先づ心得ておかねばならぬことは社会と云ふことで、之れは社会学と云ふものが始まつて未だ日が浅く、幼稚なる学問である為に、社会と云ふもの

は、ど一云ふものであるか。スペンサーの如きは、生物学上より有機体の如く説き明かし、又、社会を物質關係に説き明かし、又、社会と云ふものは只詞の上に存するもので、抽象的のもので、ほんとはそ一云ふものはない。社会と申す居るけれども、ほんとは個人で、社会と云ふものはないと考へ、又、社会に重きをおくと、個人は社会の産物である、Individuality is a social product. と云ふ様にも考へらるゝのである。

[社会を見るに物質的關係と精神的關係との二方面がある]

之れを説明致しますには、先づ、我々個人の両方面、宇宙の両方面を研究して行きまして、其の一部である処の我々の生活して居る社会を研究して行かねばなりません。けれどもそ一云ふことを説きますと非常に広くなりまして、逆も今日僅かの時間で申すことは出来ませんが、我々は社会と云ふものをど一云ふ風に見なければならぬかと云ふことを申しておけば、凡そわかると思ひます。之れには二つの方面がありまして、第一は Mechanical social order 器械的關係、第二は Ideal social order 精神的社會關係と致します。

夫れで、器械的と云ふのは即ち物質的、器械的、自然力の制裁を受ける処の關係組織である。丁度、我々の身体が夫れに当るのである。夫れで此の關係がど一云ふ訳で出来るかと云ふと、我々の身体は一方に於ては器械的のものである。自然力に従つて動いて居るものである。夫れが社会に現れたので、社會關係と我々の身体とは離る可からざる關係のあるものである。

又一方には、精神生活をして居るもので、其の精神的社會關係と我々の精神とも離る可からざる關係のあるもので、其の精神的社會と器械的社會とも、亦離る可からざる關係のあるものであります。故に先づ初めに、器械的社會關係と云ふものを明らかにしておく必要があります。

器械的關係とは物質的關係で、之れを人間で言へば、健康上必要な一切の物質の關係であるから、之れは空間の關係であり、拡がりの關係である。故に、二つの物質が同時に同所を占領することの出来ないものである故に、此の物質關係では、我れと人とが一つに合うて了うことが出来ぬ。其の反対に、互に排斥しなければならぬ。其の個体の利益の為に、他の侵入を防がねばならぬこととなる。我々の精神は身体と云ふ物質の中に入つて居る。其の利害は他と一致しない。我れが夫れを用ふれば、他の人の使用を減じなければならぬと云ふ様なことになるのであります。そ一云ふ例は沢山あります。例へば、此の間大西洋で沈没致しましたタイタニック、あの船が沈没する時に辛うじて乗組員を救ふべき船は、僅かに七、八百人しか乗られない船である。そこでど一したかと云ふと、先づ婦人と子供、即ち弱い者を乗せることに致しました。此のタイタニックには有名なる学者、政治家、軍人なども居りましたけれども、最も弱いものを救うと云ふならば、其の他を顧みる暇はない。そ一云ふ時に犠牲と云ふ。之れは物質的關係から来た詞である。故に、物質的關係、商売關係になりますと、競争と云ふことが起つて来る。成る可く自分の領分を広くして、人の領分を狭くする。地図を開いても、そ

一である。英国の領土には日の暮れる所がない。アメリカはあれだけ大きな国である。日本は六千万の人口を有して、是れから段々繁殖しよとして居るが、何処に行つて暮すのか、何を食べるのであるか、斯う云ふ物質的關係になると衝突が起つて来る。干戈戦争に訴へねばならぬ。そこでスペンサーは適者生存と云ふことを申しました。そ—して自由競争と云ふこともある。之れが即ち物質界の社会關係であります。

併しながら、唯競争と言ひ、適者生存の法則を以て人間社会を律してばかり行かれるかと云ふと、人間が精神界を見出だすと同時に物質關係ばかりではいけない。やはり、精神的關係を以て一般の利益が結ばれると云ふことに心づきました。之れが、今日の社会政策、いろいろの結社と云ふよ—なものも出来、そこで科学と云ふものも非常に必要になりました。けれども幾ら社会的關係を改善しても、物質的關係が全く遺憾なく行はるゝかと云ふと、そ—はいかぬ。如何となれば、物質的關係は無限に働き得るが、夫れに供給する処の物質には制限がある。そこでいろいろやつて見たが、個人主義をやつて見ると社会主義が起り、帝国主義が起り、何れの主義でも到底此の人間社会の衝突、矛盾が起らないと云ふことは六かしい。

#### [譲り合つて平均することの必要]

そこで、器械的關係は力の平均と云ふことによつて幸福を保つ外はない。其の力を平均するには、英国で言ふ処の Compromise 譲り合ふと云ふことをしなければ、即ち犠牲の精神を以て、自分の為には幾らか損となつても人の為に譲ると云ふことをして、物質の過不及のない様になければならぬ。故に、過不及を生ずるならば、出来るだけ平均を得るよ—に組み立てると云ふことが必要である。

此の器械的關係をすぐさま精神界に適用しよ—としたから、間違ひを生じたのであります。私共の物質的關係と精神的關係とは大に趣きを異にして居りますから、一言で言へば、人間は物質的關係に於て全く調和、統一すると云ふことは誠に六かしいものであるが、精神的關係に於ては、決して利害の衝突しないのであります。

#### [社会的人格の養成]

今、物質的關係と云ふことを説きまして、之れから精神的關係を述べ、其の二つを結びつけて如何にすべきものであるかと云ふことを申したいけれども、も—あと二十分しかありませんから、今日之れを申す暇がない。そこで、社会的人格養成と云ふこと、即ち社会的行為を致しまするに参考とも成る可き種類を三つに分けますと、

第一は、他より受くる感化によつて養成するもの。

第二は、内から起る自発力によつて養はるゝもの。

第三は、意識的、即ち研究的に之れを増進して行くもの。

#### [他人と共棲すること]

其の第一の第一節は、他人と共棲することに由つて起る処の意識。其の感化は何を刺激するものであるかと云ふと、社会的本能 Social instinct である。之れは、今始めの学期におきまして、あなた方が社会的人格を養ふに最も適した時機と言はねばならぬ。夫れは、あなた方が他の人と一緒に居

ると云ふことを意識する時であります。即ち、普通予科、一年の人達が沢山入つて参りました。之れ返は、四、五年間なれた人、同郷の人、又、先輩達とばかり住んで居りましたが、始めて故郷を離れて入学式の時に此の校に入りますと、一種の刺激を受けるのであります。又、夫れを迎へる処のあなた方、寮舎の人達には、又新しい一つの刺激が起つて、同時に或る感化を受けるのであります。

#### [社会的制裁]

第二は、他人の現出より受くる感化。其の感化からは社会的制限、或は社会的制裁を受ける。平たく言へば、之れによつて我が儘を直すのである。我が儘と云ふのは自分の利益、自分の好き嫌い、自分の傾きより外に顧みない、全体の關係を構はないけれども、他の者が其処に現れると始めて社會關係を感じまして、相互の間に調和しなければならぬ、共同しなければならぬと云ふことを悟るのである。我が儘程あなた方を不幸にするものはない。其の不幸はあなた方のみならず子孫にまで及ぼさるゝのである。此の我が儘を取つて始めて人と共に生活することが出来、広い興味を持つことが出来、大なる道義を養ふことが出来るのであります。

#### [他人の注目]

第三は、他人の注目より受くる關係。其処に於て自我意識と云ふものが起つて来るのである。之れは只、無意識的に人と共棲し、又は人の仲間に入り、新なる人が加はつたと云ふばかりではない。其の多くの人が我れの人格、我れの思想に他の人が注意を払うて居ると云ふ時に自我意識が出来る。此の時に悪くすると何やら度をすごすことになります。夫れで此の間も申した様に、斯う云ふ時には、第一 忍耐、第二 寛容 第三 融合 と云ふことが大切で、之れが皆出来て、始めて人心が一つになることが出来ます。

#### [中表紙]

大学部全体の御話  
明治四十五年五月八日

明治四十五年五月八日  
大学部全体の為に

此の前に、社会的人格は如何に養成すべきかと云ふこと、それをしまひまして、精神的社會關係と云ふことに移る筈で御座りましたが、之れを途中でよしますと時を損する訳でありますから、順序をかへて、社会的人格の養成について第三まで申しましたから、今日は第四であります。

#### [社会の是認]

他人、或は社会、団体の是認すること、其の反対の不賛成、不承知と云ふことが、如何に吾人に影響するものであるか。社会が善いと認める行ひ、多数が賛成する処の行為又は其の行ひの動機、思想と云ふものを通常、善と言ひ、或は正と言ふ。夫れと反対で、多数が不正とし是認しない行為又は考へ

は、之れを悪とし不正とするのであります。そ一して我れ等の社会性は、我れ等の行為と思ふ所、即ち社会が是認する処の行為や企ては広く表現せんことを望み、己れの悪と感ずる所、即ち社会が承認しない、是認しない、多数が反対し否認する行為は、成るべく之れを包まんとし、蔽はんとし、秘密に葬らんとするものである。故に、道徳行為又は徳行とは、自他の為に善い事を行ふことを云ふのである。

[社会の是認は自他の為に最大の利なり]

如何となれば社会が是認する行為とは、社会の為、又は人の為、己の為に、利益となり価値となる行為であります。社会が是認しない処の、多数の人の反対する所の考へ又は行為は、人に害あり、社会の秩序を攪乱するもので、其の一人の為にも不利益であり、不正であり、不善であると云ふよ一なことが、即ち悪と云ふことになつて居るのであります。

例へば、賊を働くとか、放火するとか、偽りを言ふとか、そ一云ふ行ひは社会一般の為に害をなすのである。之れに反して、孝行と云ふよ一なことは一家の為によいことであり、忠と云ふことは一国の為に欠く可からざる精神である。故に、忠孝と云ふことは社会が必ず正とし、是認する処の行ひであります。

そこで我々の社会性は、常に人の是認、或は賛同を求め、成る可く不承知、反対を避けんとする処の傾きを持つて居るのである。此の傾向を養ふことは、社会的人格、即ち銘々の内に深く根ざす処の性格、及び個人と個人との間に精神的關係から結ばれて居る処の其の団体の生命を養ふ為に、其の性格を育てる為に、之れは必要なことであります。夫れで此の性格をお互が銘々の内に養ひ、又、其の關係から出来る処の斯くの如き校風を養はうと思ふならば、成るべく我々は人の承認しない、人の反対を受ける如き行為や態度を謹んで、成るべく斯くの如き行ひを謹まねばならぬ。仮りに憂ひを帯びた顔色をし、意地悪い態度を以て人中に出るならば、ど一であるか。多くの人には必ず不愉快を感ずるのである。故に、そ一云ふことは避けなければならぬ。又は遅刻すること、無作法な動作、野卑なる言語と云ふことを謹まなければならぬ。如何とならば、そ一云ふ行為や態度を致しますならば、仲間は必ず不愉快に思ふ。そ一云ふ態度や挙動を必ず是認して居ないのである。善いとは思つて居ないのである。此の人の不愉快な感じを避ける、人の反対を謹むと云ふことは、社会關係、即ち個人と個人と結合する上に妨げとなり、其の結合をこはす処の欠点を療治すると云ふことになるのであるが、是れを構はぬ人は人の仇を作り、仇になり、或は人の尊敬を失ふと云ふことになるのであります。

[多くの是認を避くるものは社会の難物である]

併し此の感化力、即ち人の是認、賛成と云ふ感化力も、其の人の社会性を養ふに足らず、其の人の感情を害すること、人に心配をかけること、人の反対を買ふことを平氣になつて了つて、何とも考へなくなる。自ら之れに氣づいて、斯くの如き行為を敢てするものを、頑迷、強情、或は我が儘と言ふ。此の強情、我が儘、頑迷と云ふことは、一般人の好まないことである。自ら夫れに氣づかずして、斯くの如き行為を敢てす

る者を無常識な人であり、低能児であると言ふのである。どちらにしても社会の難物であり、其の人の不幸の種であります。

併しながら、斯くの如き仲間はづれの人にも非社会的の人にも、極狭い少数なる仲間を持つて居る。其の仲間の同情によつて自ら慰し、其の仲間の賛成、賞賛によつて変則なる社会性を持つて居ります。即ちどろぼうする人は親類からも友達からも嫌はれて居るけれども、少数なるどろぼう仲間からは賞賛を受けて居るのである。其の他ばくちうちの仲間にも、すりの仲間にも、国賊の仲間にも少数の同情者があるのである。

そこで高尚なる社会人格を養ふには、其の友を選ぶ、仲間を選ぶ、同情者を選ぶと云ふことは誠に大切なことであります。

[他人の愛を受くることから及ぼす感化]

第五は、他人或は仲間より好まれやうとする、即ちすかれたいと云ふ人格は、如何に此の社会人格を養成するに力あるものかと云ふことである。我々は余人に嫌はれたり、敬して遠ざけられたりすることを好まないのである。ど一か他の人からすかれ、喜ばれ、可愛がられる人になりたいと云ふ人情があるのである。之れは、そ一説き明かさなくても皆さんにわかるかと思ふけれども、稀に人から嫌はれ憎まれることを構はない人がある。例へば此頃、大坂に鬼權と云ふ人があります。斯う云ふ人は親でも、そ一云ふ息子を好まない。此の鬼權が余り憎まれて居た結果、或る時人に殺されよ一として、人に嫌はれるのはよくないものであると始めて氣がついて、悔い改めたと云ふことがある。

又、時々は大変人に可愛がられ、世の寵児と言はるゝ人もあります。

此の嫌はれることを避け、好まれんことを求むる性は、やはり社会的人格を養成する一種の感化力である。ど一云ふことを一般はすくかと申しますと、いろいろ御座りますけれども、先づ誰れでもがすくのは勇氣と云ふことで、日本では花は桜木、人は武士と言つて、武士と云ふものは義の為には決して命を惜まない、敵に後は見せないものである。欧羅巴では、紳士と云ふものは何から起つたかと云ふと、英国の Knight から起つたのである。あなた方が男を見ても、あんまり意氣地のないものは好まないであらう。夫れと同じ様に、女でも心の弱い人、迫害に逢うて直ぐ挫折する人は好まないのである。そこで此の中でも勇氣のある人、決断のある人が起つて物を言ふと、何やら氣もちがよくなつて、せいせいとして来るのである。故に、一人でも勇氣のある人があると全体がそ一云ふ校風になるのであります。

[人の好くのは幸福である]

其の次に、人のすくことは愉快なこと、英語で言ふと Cheerful で、其の反対は Gloomy である。此の愉快なと云ふことは、皆が好む処である。其の次に人の好くのは幸福である。幸福と云ふことにもいろいろありますが、ほんとの幸福と云ふことは、人との和によつて出来る。愉快は気分であるが、幸福はも一つ深い処の情緒であつて、幸福は誰れもが好

む処であります。幸福は一つの Mental mood で、夫れが身体に表はるゝ処の顔色、風采、礼儀、言語等に注意すると云ふことは、人に好まれる様に、嫌はれることを避けると云ふ性質があるからであります。夫れから、我々が人と交はるに最も注意しなければならぬことは、皮肉を言ふこと、又は諷刺することで、斯う云ふ人は余人にすかれぬのである。此の情を最もよく養うた人を熟練の人、英語で言へば Tact のある人、又は常識のある人と申します。世間で今日の学生には常識がないとか、又はうちの小供は常識がなく困るとか、親達の言はるゝのは、之れが出来て居ないからであります。斯う云ふ細かいことにも注意をすると云ふことが、やはり社会人格を養ふに必要なことでもあります。

[他人の意志の我が意志に及ぼす感化]

第六、他人或は団体の意志が、如何に我々の人格を感化するものであるか。此の人の意志が我が意志に感化を及ぼすと云ふことは、我が意が人の人格の指導を受け、団体意志、或は全体意志と云ふものに、我が意志が柔順であることを申すのである。詞をかへて言へば、良心の働きである。

私共は品性を養ふには日常行為に注意をせんければなりません。殊に、銘々の内に良品性と並び存して居る処の悪癖、即ち我々に何か欠点か弱点がある。此の弱点が、如何に我が良習慣を損うて居るかわかりません。之れは今頃から頻りにそこらの園芸部に生へる処の雑草の如きものであります。皆さんが少しく怠りますと、其の雑草がはびこつて、折角蒔いた豆やら草花などは其の雑草の為に虐げられて、夏休みなどに帰つて見るならば草だらけである。

此の前に申しました Point Loma と云ふ処には沢山の花園があつて、花が咲き、小鳥が歌うて、誠にきれいな所である。夫れは数百人の学生が毎日、先生と一緒に散歩に出かけて、其の中に一本でも雑草があつたならば、誰れ言ふともなく抜いてうと云ふことである。故に、毎日数百人の草取りがついて居ると同じことである。又、此処では善いものは損はないと云ふ主義であるから、いろいろな鳥が来て巣をかけても誰れ一人害するものがない。故に、毎日沢山の卵をかへすと云ふことです。夫れで四季折々の花が咲き、鳥が集まつて、実に立派な楽園を作つて居ると申します。

我々の学園も、ど一かそ一云ふ風にありたいものです。若しも我々の仲間にして心の中に雑念を生ずるならば、心づいた人が夫れを引き抜いて上げることが必要である。そこで、此の学校には指導者と云ふものがおいてある。夫れのみならず、三年は二年の指導者であり、二年は一年に、一年は予科に、予科は又女学校生徒の為に指導者であります。

夫れは我が意志と人格とを以て、人の意志に働き及ぼすのである。故に社会関係とは、自分の意志を以て働きもするが又、人からの働きもある。神の如き意志もあるが、先輩の正しき意志に結合する様に調和して行くと云ふことも亦、此の社会人格を作るに大切なことでもあります。

[他人の模範]

其の次に、他人の模範、即ち人の善行為が我が行為に及ぶ処の感化に由つて、此の社会的な人格が成長するのである。其

の結果から出来たのを英語で申しますと、Custom 風俗と申します。夫れから、其の風俗の変ることを流行、即ち Fashion と言ふ。之れを自分の内から言ふと社会的本能と言ひ、之れを客観的に申しますと風俗と申します。其の相互の働きを名称して共同と言ふ。そこで社会の安寧、秩序を保ち、個人の幸福を増進するには、此の共同と云ふものが最も大切である。此の共同を完全にして、全体の適合をはかりますには、相互の行為の反省から起りまする処の風俗、こゝで言へば校風を充実すると云ふことが大切であります。之れは、一人の行ひを其の他の総てが模倣する、或は其の行ひに従はせることである。併し此の他人の行ひに、又其の模範に従ふと云ふことは、決して此の自動的の行為を破り、意志の自由を妨げるものではない。若しもそ一と思ふならば、間違ひであります。

之れは余り道理を説明しないでも、よく其の道筋はわかると思ひます。故に、之れが實際、我々の日常生活に現れて居ることを申すならば、皆さんによくおわかりになると思ふ。

[校風を高調する二つの道]

今年の校風をど一したら高調することが出来るか。又頻りに研究を進めよと云ふ計画がありますが、英文科の人は今年は英文の力が著しく進んだ、又、文科の人は読書力や思考力が非常に満足する程に出来たと云ふことが欲しいと云ふ考へがありましょ。之れは、ど一したら出来るか。夫れは、何で出来るか。いろいろありましょ一けれども、私が思ふに、直ぐ様きめのある様にするには、二つの道があります。夫れは何であるか。此の中に、あなた方が感服するよ一な行為を投ずることである。私は、之れは種であると思ふ。之れは皆さんにもよく御承知でありましょ一が、例へばカナリヤを飼うて居る鳥屋が、此のカナリヤの声をよくするには、非常に高い金をかけて立派なるカナリヤを買うて来て、一緒にしておく。そ一すると其のよい声を聞いて、他のカナリヤがまねをして、皆よい声になるのであります。故に夫れと同じよ一に、例へばこゝに一人傑出した人があるとする。傑出と云ふことは、只器械的、物質的ばかりでは出来ない。社会的な人格で非常なる精神力を持つてすると、驚くべき力が発揮するのであります。之れは多くの偉人の経験した処で、英文科に只一人の傑出した人が出たならば、必ず他の人を動かすのである。其の一人の手本は、必ず他の人を動かすのである。是れより外に教育は出来ないのであります。生きた手本が出来なければ、只文字を並べて居る様なことでは、生きた学問は出来ないのである。此の生きた手本が出来て始めて校風を進めることが出来るのであります。

[精力集注]

一年の方は、この間から精力集注と云ふことを研究して居りますが、此の中に一人でも、ほんとに精力集注をして立派な人が出来たならば、全体を引き上げることが出来るのである。斯くの如き人格は如何にして発生するかと云へば、一つは精力集注で、之れは誰れにも出来る処の境遇を与へられてあるのである。も一一つは、其の個人の内なる力を醒すのである。即ち、斯くの如き空気のある処、斯くの如き校風の中に入れるのであります。斯う云ふ感化力のある学校が地球上

そ一沢山はないけれども、私は少し目がけて居る処がある。故に、皆無とは言はれない。此の学校でも、あなた方がそ一云ふ校風を作つたならば必ず出来る。一人でも宜しい。そ一云ふ人が出来たならば、必ず此の校風に活を入れることが出来る。生命を生ずることが出来るのであります。

そこで、私が今年望む処は此の二つのことで、之れは二にして一である。内と外から働きあうて行かねばならぬ。風俗は長い間かゝつて出来たものでありますが、流行とは其の時、其の時に発生する処のものを申します。そ一云ふ区別はあるけれども、二つは互に関係して居るものである。

そこで一方には、ど一しても校風を作らんければならぬと云ふこととなりますが、此の校風には進化もあれば退化もある。そこで此の校風を導くことは誠に恐るべきこと、謹むべきことである。若しも一歩を誤るならば、折角はれ迄築き上げた処の校風を退歩せしむるならば、実に此の学校の発達を阻害すること甚だしきものである。故に、此の校風を発達せしむると共に、充分深き注意をして内外相俟つて、我々が望む処の尊い経験を味はひたいと思ふのであります。

今迄申しましたのが、外部の刺激、即ち他の感化から受ける処のものである。第二には内から起る処の力、即ち自発的行為によつて社会的人格を養成するのであります。

第三が研究的、即ち意識的の社会人格養成で、之れを余り長く申しますと、此の間申しました半面に入ることが出来ません。第二と第三とはよく似て居りますが、少し違ひます。故に此には項目だけ申しておきましょ。

#### [自発的社会行為の三分類]

此の自発的社会行為を凡そ三つに分類致します。

##### [1、愛国心]

第一は、全社会に対する態度及び行為。其の行為の自発の力、自発の動機は何かと云ふと、之れを愛国心と言ひ、其の反対の方は叛逆心、破壊心、又は此の頃言ふ危険思想である。危険思想にはいろいろありますが、此の為に今日の青年にして生涯を誤る者なきにしもあらずである。故に、政府に於ても教育界に於ても、其の防御の為に識者が甚だ苦心して居るのである。つまり、今日の急激なる思想の動揺に対して調和が出来ないから起ることで、如何にすれば之れを救ふことが出来るかと云ふことは大問題であります。

##### [2、博愛心]

第二には、一社会、一階級、又は一団体に對する処の行為。其の自発心を博愛と言ひ、其の反対のことを厭世心と言ふ。

##### [3、慈悲心]

第三は、個人が個人に對する行為であります。之れを例へば慈悲と言ひ、夫れに反対なる情を殺害と言つてもよからうと思ふ。之れは皆我々の社会的本能、即ち人間の本性となつて現れるものであります。夫れが適当に働くか、病的に働くかの違ひはあるけれども、ど一しても人間の自発的動力であります。

第四が即ち、意識的、或は研究的、社会的行為であります。之れから少し精神的社會人格と云ふことを申したいと考へますが、今、時計を見るとあと十分しかありませんから、之れ

は皆さんが余程真面目にお聞きなさんければならぬ、ど一しても根本から申しておかねばならぬから、何時でも其処まで説きますが、時間が参りましたから今日は之れだけに致します。一年及び予科は来週から月曜日だけにする筈でありますけれども、都合の出来る方は此の次においてなさることを希望致します。

[中表紙]

高女修身講話会の御話  
明治四十五年五月九日

#### 明治四十五年五月九日 高等女学校修身講話会

今から三十三年程前、高等女学校の方は一人も生れて居ない頃には、今こゝに立つて居ります私は五年生と同じ年で、満十七才でありました。其の頃には、我が国には高等女学校は一つもなかつた。女子教育の一般の程度は小学校で、其の小学校へ行く人も誠に少なかつたので、女子教育の大切なと云ふことを考へる人も稀であつたのです。

其の時に十七と云ふ男子の青年が、我が国の女子教育の為に生涯を捧げると云ふことを決心したのである。斯くの如き青年が女子の教育をすと云ふことは誠に不思議なことである。夫れは今日から夢の様に覚えて居りますが、そ一云ふ心になつた訳が二つあります。

其の頃は今日よりも猶進まない、我が国の婦人は誠に可哀想な有様である。ど一も感心が出来なかつたのである。私共が子供の時に最も慕はしく思ひましたのは、自分のお祖母さん、お母さん、姉さん、夫れからよそのおばさんにしても、ど一も感心が出来ない。お父さんは恐いけれども、えらいと思つた。お祖母さん、お母さんは可愛がつて下さるけれども、遊ぶには工合がよいけれども、ど一も感心が出来ない。

夫れと同時に私の最も敬服する婦人に遭つたことがある。其の婦人は、其の時に、も一此の世に居られなかつたのであるけれども、其の立派な御婦人が育てました立派なお弟子達があつたことで、私が女子教育に身を委ねよと決心致したのは、ど一も我が国の婦人に感心が出来ない、可愛そ一なものであると思つたことと、立派な婦人に逢つたこととの二つからである。何時も申す様に、誰れか賢婦に逢ひしやと云ふ訳で、其の時から愈々心をかためたのです。

#### [メレーライオンと女子教育]

其の立派な婦人とは、メレー・ライオンである。この人は、アメリカ合衆国の女子の教育を斯くの如く起して来るに、最も力あるものであつた。其の人のこしらへた学校は、今日はマウントホーリヨーク大学と申します。

此の学校は今から十五年前に出来ました。此の大学は昨年満七十年を迎へまして、今年は満七十一年であるから、マウントホーリヨークは我が大学よりも六十三年と六ヶ月の年上



であります。其の学校の七十五年の記念式を今年の十月の八日、九日に開くについて、此の大学からど一か校長の来られる様に。兎も角も六月の始めまでに、来らるゝか否やの返事をよこして貰ひたいと云ふ手紙が参りました。私は三十三年前に其の学校のことを思ひ、其の学校の卒業生のことを思ひ起して、今昔の感に堪へません。又、アメリカのアンドーヴァ二と云ふ神学校からは、同志社を立てられた新島先生も其所に居つて、帰られたのである。其のアンドーヴァの毎年なくなつた人との比較があります。其の卒業生の中に、九十五と云ふ様な人が沢山あります。それで、そ一云ふ人達にも逢はれるのである。夫れで私は昨夜、此の七十五年の記念式をするマサチューセツツのマウントホーリヨーク大学に出席すると云ふ返事を書きました。

#### [漫遊旅程]

実は七月の末に横濱をたつて、一週間布哇に居りまして、八月の十九日にはサンフランシスコへ参りまして、夫れからシカゴ、紐育、ボストン、フィラデルフィヤ、ワシントンを経て、再び紐育に帰り、十二月には倫敦に行き、凡そ英国に一ヶ月程居りまして、スコツトランド、ウエールスを回り、来年一月には獨逸、佛蘭西を経て、伊太利から奥地利を回つて露西亜に出で、モスコを出発して西伯利亜鉄道に由つて、来年の二月の末か三月の始めに此校へ又帰ると云ふことに致したのであります。夫れで、このことをあなた方に申したのは、少しあなた方に仕度をして貰ひたい。そ一して、お留守番をよくして戴きたいのであります。

#### [留守中のこと 校長代理高等女学校主事]

私の留守中、内から外へかけて総てのことを引き受けて下さるのは無論学監であります。今日から此の一学年高等女学校の主事として、特にあなた方の相談をよく聞いて皆の爲を考へて戴くよ一に、松浦教授をお頼みすることに致しました。松浦教授は本校の創立以来、主に大学部の教授としてお願い申して居りました。其の前は、京都の同志社女学校の学監、教頭として十幾年かの間女学校程度のことを司つておいでなりました。故に適任であるので、今日、此の事をあなた方にお知らせしておきたいと思つて、此の間から主事として尽して戴くことをお願い致しました。私も今から二ヶ月間、海外へ行くに就いては、いろいろ仕度がある。支度と云つても着物や鞆の事ではない。此の学校の十年の結果として、あなた方はどれだけお進みになつたか、そ一云ふことを調べたいと思ふのであります。

今度アメリカから英吉利、獨逸、佛蘭西、伊太利、露西亜等を回つて来るについては、大学の事も調べて参りますが、あなた方と同程度のことも調べて参ります。夫れは、日本の娘と外国の娘と、品性、知識、能力、芸術等について比較研究をして見たいのである。今から二十年前頃には、私は高等女学校程度の教育は自分でして居りました。其の時は修身も数学も物理も化学も、殆んど凡ての科目を受け持つて、自身が直接教へて居りました。そ一して、この前外国へ立つ前には、我が国の他の学校をも見て参りましたので、欧米の娘と我が国の娘とを比較することが出来ました。

[諸子の学力、品性、修養の仕方を知り度し]

けれども今度は、私は直接に教へては居らない。故に私は行く返に、ど一かあなた方の学力や品性や修養の仕方を出来るだけよく調べて行きたいと思ひます。夫れで松浦先生を主事として、担任の先生も一緒に働いて貰ひまして、先生を通してあなた方今日の有様を充分調べて参りたいと思ひます。[残る二ヶ月間に出来るだけ調べて参りたいと思ひます。]

夫れで松浦先生にはうちの女学校なり、又、東京府下の女学校の有様を調べて戴いて、出来るだけ先生も注意して戴いて、あなた方も本気に勉強して、今年お立てになつた方針を此の二ヶ月の間に出来るだけして戴かなければ、僅かの間に仕遂げることは六ヶ敷いのであります。

夫れで、皆さんが銘々の価値を充分發揮なさるのは、必要に応ずると云ふことも其の一つであります。故に、充分用意をなさることを希望致します。

も一一つは足りない所を改めること。どれだけ今、欠点を持つて居るかと云ふことである。我々は長所もあるけれども、決して完全なものではない。故に、其の上にも一一つ来学期から進んで戴き度いのであります。

今年マウントホーリヨークの七十五年祭を迎ふるに当りまして、此の学校の七十五年祭には、あなた方一年生は七十二になるのでせう。七十と云へば洗澤男爵位。五年生は七十七、之れは杉田のおばあさん位になるのです。マウントホーリヨークには、七十五年前の卒業生が二十人程生きて居ると云ふことである。ど一か、あなた方は沢山生きておいでになつて、其の七十五年後の女子教育の有様と、今日のことを比べて戴きたい。私は三十三年前、女子教育と云ふことに身を捧げよ一と決心してから、今日になつて実に、今昔の感に堪へないのであります。

[我が国婦人は欧米婦人に及び得るか否]

我が国の婦人はアメリカや獨逸、佛蘭西あたりの婦人に追つて居ることが出来るでしょ一か。やはり今日の様に後れて居なければならぬでしょ一か。ど一か私の立つ前に、あなた方の程度を知らせて頂きたい。私はお別れする前によくあなた方の程度を調べて、そ一して西洋のことを見て、其の上で方法を立てゝ、かへりましたら皆さんと御相談をして、あなた方の一層よくお進みになる様に致しましよ一。

[中表紙]

大学部一年及予科の御話  
明治四十五年五月十三日

明治四十五年五月十三日  
大学部一年及び予科生の為に

今、皆さんが自ら考へ、又いろいろ書物でお調べになつたことを纏めて、七人のお方から、自製並びに精力集注と云ふことについての考へ、又は説をお述べになつたことが多い。

其の中に少し自分の経験もあつたよ一であるが、自分で斯う云ふ経験を致しましたと云ふ部分が少ない様である。故に私は、皆さんが銘々で日常、之れを行つて、斯う云ふ利益を獲得したと云ふ様な経験が出て来ると、誠に有益なことであると思ひます。

そ一云ふ経験のある人は……なし

夫れでは、言ふことは出来なくても、研究に由つて斯う云ふことは出来たと云ふ方……

まあ初めて試みて、之れだけ考へを纏めて報告なさつたのは、満足しなければならぬ。未だ夫れが応用せらるる迄、銘々の実行になつたと云ふことが出来ないのも、初めからそ一何出来るものではないから、まあよいとしなければならぬ。

兎も角も、此処で報告なさつただけのことは、おわかりになつた方……

之れは易い様な、又誠に六かしい問題であつて、到底、今報告なさつただけで充分研究が出来たとは言はれない。生涯かゝつて研究しなければならぬ所の非常に深い問題であり、又、わかつたと云ふのがほんとにわかつて了うたのでもない。つまり、銘々の経験であります。集注して出来た所のものが人格でありますから、其の人格の程度にしかわかるものではない。そこで、此の精力集注と云ふことは生涯かゝつて出来ることで、之れが出来ねば、皆さんの学問でも何でも徒勞に属するのである。

[精力集中にも大小がある]

今日は何が出来たかと云ふならば、精力集中が出来たのであります。今、大目的と小目的と云ふことが出ましたが、夫れと同じ様に集中にも、大集中と小集中とあります。大集中が出来たならば非常なもので、若し之れが出来たならば世界を動かすことも出来るのである。又、小集中と云ふのは、毎日誰れもの身に度々起ることであります。夫れで、あなた方が之れをお考へなさるにしても、追々と進んでおいでにならねばならぬ。又、之れを説くにしても、委しく説き明しを致さなければなりません。夫れで今日は、あなた方がお調べになつたことについて、私が批評を加へると云ふ時間がなくなりましたから、皆さんがど一か之れを実行して、銘々経験なさることを希望致します。夫れで、小集中にもいろいろありますが、其の時々、其の事々について集中が出来ねばならぬ。例へば此の会をするにしても、やはり集中が出来ねばならぬ。若しも夫れが出来なかつたならば、此の時間と云ふものが、も一だめになるのであります。

皆さんの仰つたことは、私が一々此に書きとめてあります。夫れで、よくお調べになりました。又、発表もよく出来ました。けれども、猶之れをよくするにはど一したらよいか。お話しになるお方は、よく考へて発表なさつて、熱心も其処に現れました。けれども、半分位の人にしか聞えなかつた。そ一すると、我々は此の時間の半分を損した訳であります。故にお話なさる方も聞く人も、も一層集中をすると、残らずはつきりとわかる様になるのであります。

そこで、先づ話をするときまるならば、批評をしはすまいか。批評をするならば、どの点であらうか。自分の欠点は此

にある。宜しい、夫れは直す。も一何も怖くはないと腹をきめねばならぬ。即ち、心の態度と身体の有様と総てのものが一致して協同しなければ、出来ないのであります。

[声の Rhythm はやはり集中である]

夫れで、声を出すと云ふことは、筋肉の力、感情の力、精神の力、及び声の力と云ふものが合同して始めて出来るので、其の話には音調がある。Rhythm が大切である。我々の生活には総て此の Rhythm があるのであります。声でも高低がある、Rhythm があると云ふのは、やはり集中であります。若し斯くの如くなさつて、満堂の人に悉くよく聞える様に、初めのお方がお話しになる。そ一して皆は集中して聞いて居る。次のお方は、自分の之れから言はねばならぬ事が心配になつて居てはいけない。前の方が何と仰しやるか、夫れを聞く為に全く自分を忘れて、只其の語に熱中しなければならぬ。

夫れから私があとで話しをする時には、皆自分を忘れて集中しなければならぬ。銘々別の事を言へばきざれになつて一向纏まりがつかないのである。夫れで、人のお話しなさつたことについて反対があるならば、此の点については私は反対であると云ふことを述べるがよい。反対の中にも連絡があるのであります。そ一して賛成の点は、自分の考へと一つにするがよい。そ一すると一つの潮流が出来て、段々其考へが深くなるのであります。故に会をするにも、やはり集中が必要である。之れが出来れば、人と交際することも出来ない。夫れは何についても興味が無いからであります。故に会をするにも何事をするにも、其の時其の時に集中をしなければなりません。

今も段々仰しやつた様であります。充分な研究をすることが出来なかつた。本を沢山読むことが出来なかつと云ふお話ですが、本も読まねばならぬ、深く考へもしなければならぬ。皆さん、時間が充分あると思つて暮して居る人は……なし

皆、時間が足りないと思つて生活して居るのである。夫れでは、ど一したら時間が足るかと云ふと、精力集中である。又、何処か身体が弱いと、充分なことが出来ぬ。身体さへ強ければ、之れ以上の事をするけれどもと云ふことがある。之れもやはり集中と云ふことによらねば教はれないのである。あなた方、今は宜しいけれども、家を持つといろいろ心配もあるのである。そ一して子供を持つと云ふ様になると、身体が弱くなつたりして、中々思ふ様に集中が出来なくなる。其の心配や身体の弱いことに克つて、ど一して自制することが出来るかと云ふと、精力集中の外はない。先づ、あなた方の仰しやることは、第一に時間が足らぬ。第二、健康が足らぬ。第三、能力が足らぬ。此三つの資本が足らなければ、決して価値ある生涯を送ることは出来ぬ。然らば、ど一すれば宜しいか。方法はあるのである。之れが即ち精力集中であります。夫れで私は、先づあなた方、必要について研究して行くがよい。其の為には、考へて見るもよい。書物を読むもよい。夫れでわからなければ、いろいろ先輩にも聞くが宜しい。

私が先づ必要と思ふことは皆さんの健康である。自制力にもいろいろあるが、先づあなたの身体を支配することを覚

えねばならぬ。之れが出来ぬと何か身体に小言がある、そ—して身体に障りがあると、忽ち精神力を妨げられて、心の自由と云ふことがなくなつて来る。故に、先づ皆さんが身体を支配することが出来ねばなりません。之れの出る人は何か経験のある筈であります。一つ聞いて見ましょ—。

身体を意志で統御することの出来る人は 少数  
健康な人……………少数

身体に弱点のある人は……………少数

苦がなく身体を統御することの出来る人……………二人  
努力して出来る人……………大多数

ど—したら出来るのですか。

・意志の力であります。

夜更しはよろしくない。故に、十時になつたら必ず寝る。そ—して朝は五時にきちんと起きる。之れはど—してもすると、斯う云ふことを実行するならば、之れは私の意志の力があります。又、ど—も身体がだるい。お医者さんに診察して貰ふと、あなたはど—も心臓が弱い、そ—して神経衰弱であると言はるゝと、夜も気にかゝつて眠られない。ひどくなると、其の為に斃れる人もあるのです。夫れを支配するにはど—すればよいか。只意志で治すと云つても、出来ないことがある。意志になる根と云ふものがある。英語で言へば Background と言ふ、其の意志の根はど—して養はるゝかと云ふこと、斯う云ふ点も考へておかねばならぬ。

私の考へでは、此の意志で自分の身体を統御すると云ふことは、考へる力、決断した時の状態、即ち精神一到と云ふことがある。又、高調に達したと云ふことがある。其の高調に達することの出来るのは神経系統、殊に其の神経の中樞と云ふものが集中点である。脳中樞と脊髄中樞とに氣をつけて、之れをよく養はふと云ふことに注意しなければならぬ。然るに、此の中樞と云ふものは非常に新陳代謝して、時々刻々に變つて居る。其の變ることに影響するものは、第一に血液である、食物の消化である。そ—云ふことがいろいろ集まつて中樞に影響を与へるのであるが、此の變化は直ちに我々の心に變化を与へるのである。

[人は我が心を支配することが出来なければならぬ]

故に我々の血液の循環も、我々の呼吸も、我々の消化も、総てのものを支配するものは、我々の心である。故に、心を支配しなければ、身体を支配することも出来ないのである。今、Subconsciousness と云ふことをお話しになりましたが、我々の意識の下の顕れない如に潜在意識と名づくる様々の深い力があります。故に非常なる精力集中、又は驚くべき天才の發揮と云ふことは、其の深い力の根の処から起つて来るのであります。

故に、今も七人のお方が一時間余りお話しになりました。私は夫れを一々書きましたから、之れを見れば直ぐわかるのです。夫れで、記しておいた人は再び陳述することが出来るけれども、書きませぬ人は再び夫れを話すことが出来ないのであらう。けれども、夫れでは書かなかつたならば、之れを聞いた時に起つた感じは跡なく消えて了うかと云ふと、そ—ではない。夫れがいろいろに結びつく時には、ぼつと思ひ出

すこともあつて、不思議な力を現すのであります。

故に、私共は先づ神経系統に氣をつけて、よく心臓が働き、呼吸がよく出来、消化がよく出来、血液の循環がよくなる様にすることが大切である。夫れは、寝て居る間にも出来る。つまり、我々は意識以下の所に命令を下さねばならぬ。此処まで行かねば精力集中は出来ないであります。そこで察會で会をする時にも、始終始終、如何に心が保たれて居るかと思ふことに由つて出来るので、つまり私共の人生の深い根本に集中をしなければならぬ。夫れだけ申しては、おわかりにならないでしよ—けれども、実は、夫れが人生に於ける大集中点であります。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
明治四十五年五月十五日

明治四十五年五月十五日  
大学部二、三年の爲めに

[社会的人格の根本問題]

今日は精神的社會關係、即ち社会的人格の根本問題についてお話し致します。それは、常識では大体ど—云ふ意味か御存じと思ふ。併し、過去三年許り同じことを言ふた様であるから、今年は一層根本に入りたい希望である。更に一つは、近代思想を解釈なさることにつき必要だから、少しく委しく申して、其の真意が成る可く皆さんにわかる様にする必要があらうと思ふ。今日は之れを機械的でなく、精神的に説きたいと思ふ。

[時間、空間の問題より始むべし]

先づ、其の問題が明らかになりますには、時間と空間と云ふ問題がわからねばならませぬ。この頃の思想の變遷がよく解せらるゝ様にするには、時と空間の近代の思想をおとりになることが必要と思ひ、昨年も少し自動的に研究なされる様に申しました。今年のあなた方も多少お調べになつたと思ひますが、人格問題をとるについて、之れが必要となつた。この問題は常識ではわかりにくい。科学的に、哲学的に研究して行かねば、到底其の真意はわかりません。

今日は始めに、哲学的の問題に一寸入らんければならぬ。哲学と云ふと、其の言葉も耳さはりとなり、誤解を招く種になるよ—な所も未だ有る様に思はれる。又、哲学と云へば、未熟なる頭にはこなれ悪い、六ヶ敷いと云ふ偏見がある様に思ふ。それから哲学と云へば、空想に馳せ易い。従つて、実践躬行には縁が遠い嫌ひがあるとするものがある。然し、あなたの要求して居る信仰を満足せしめる、即ち精神生活の経験を充實すると云ふことの爲に、哲学が大切である。必要である。何故に、そ—であるかを一言申しませう。

[知識の二種]

私共の知識を二分致しまして、常識的、科学的知識、及び

哲学的、形而上学的の知識と分つことが出来ます。第一に属するものは形而下のもの、事実的のものであるが、第二に属するものは本件的、即ち事実の意義、事実の価値、或は目的の知識、事実の真髓の知識である。

夫れはど一云ふ関係になるかと申しますと、第一に属するものは観察、実験。即ち事実の分類、事業の証明。それから之れを研究するに、組織的に、正確に、全体に互つて統一する方法を科学と言ふのである。委しく言へば、時間空間的に排列した処の順序、規律等を鮮明し、之れを記述する学問であります。其の方法が組織的となり、部分的であり、自然的であり、習慣的であるものを常識と言ふのである。

然るに哲学は、其の科学常識が確定した所の其の事実の説明、即ち其の事実の関係、意義、目的、価値等を研究する学問である。

#### [オイケンの哲学観]

近代哲学の泰斗である獨逸のオイケンは、斯う言つて居ります。(オイケンの哲学は主に人生哲学である)「哲学は経験の根本的整列の改善である。」此の考へによると、経験の総合的知識であると。併し、動的の哲学である。

#### [哲学の二方面]

哲学には二方面あり、分析的及び批判的と、総合的及び積極的の二方面とする。即ち、内面的本性に土台をおき、経験全体を取り扱ふ学問、即ち実体の学問であり、宇宙の命、即ち全意識の学問である。或は、全価値の学問である。

#### [知識の二方面]

なほ、其の知識を客観的と卓見的の知識とする。なほ、之れ(Insight)に三要素があります。

第一は事実、或は出来事、或は経験の一定の幅を持つて居るもの。

第二は必ず Unity がある。連絡、調和して居る。統一がある。

第三には個人直接の経験である。今、直接に我が目に見、心に感じ、経験にあらはれて居る、直接動いて居るものである。

#### [哲学は如何にして Insight ありや]

然るに哲学になれば、我々が直接に見ることが出来ぬ。数千年、数万年前の出来事、又、我が国をはなれたアメリカ、英国、獨逸と云ふ様な所のものも皆、考への中に組み立てゝ来るのである。なほ将来幾十万年後のことまでも、想像するのである。哲学には Insight がないかと云ふと、ある。これなくば死んだ知識である。然るに、如何にして数千万年の昔のことや知らぬ国のこと、未来のことを直接に経験することの出来る Insight を以て見ることは、是れはど一して出来るかと云ふ問題がおこる。之れは六ヶ敷いことではない。之れも次に進むに従つて、わかるでしよ。

次に起る問題がある。哲学は学者、大人、老人には必要であり興味あるが、野蛮人、子供、婦人と云ふ如き感情的なものには、かゝる問題は興味なくわかりかねることであるから、哲学のことを年若き女子の教育に試みることは常識なきことにあらずや、と言ふ人が有るかも知れぬ。併し私は、そ一思

はぬ。それを答へるに、私は自身の経験を言ふことが最も適切であると思ふ。

#### [哲学に対する我が経験]

これは、私は之れ迄も皆さんに時々話したことでありますが、私が幼少の時、母に先だたれたとき、母は未だ居るのではないか、又、自分は何の爲に生れて来たものかしら、次に人間はどこに行くのであろうか、と云ふ問題が起りました。幼少の時、かゝる運命につき考へる疑ひが起つたのである。併し、矢張り信念を絵がくのである。此の考へが哲学の問題である。其の時、人格として孔子をおがんだ。日本ではよくお天神さんをおがんだものである。又子供心に、うそを言ふと地獄へ行くものであると云ふこともわかつた。

次に私の心を印象したものは何か。天知る、地知る、我れ知る。故に、わるいことをしてはいかぬと思つておりました。そして極楽へ行かうと考へた。之れは運命を信じて居るからである。これが哲学の問題で、年をとるに従つてこの心が往來して止まない。之れは即ち子供の哲学であり、野蛮人の哲学は神話である。故に、子供も野蛮人も哲学を感じて居るのである。それで私は、そ一云ふ様な哲学の問題が我々にはわかりにくい、興味が起らぬとは、実はうそであります。哲学はたゞ学者のするものであると思ふ人があるかもしれぬが、誰れでも何かの宗教を以て居るように、哲学ももつて居る。この哲学をもたねば満足がない。之れは六ヶ敷くないことはない。科学のよ一に明瞭に知ることは出来ぬ。総合の哲学とも名づくべき複雑な哲学は、半ば直感であり想像であるから考へるに苦しいが、併し人生に欠くべからざるものである。

#### [ベルグソン、オイケン、カント]

哲学を学ぶには先づ時間、空間の問題から始むべきであります。近世、この問題につきての泰斗はベルグソン、オイケンであります。

哲学は凡ての学問、文学、宗教の根底になつて居りますから、これをつかまへておくことは必要であります。ベルグソン、オイケンの時間、空間の問題がわかれば、カントの二律背反のことも調和が出来る。之れは近代哲学に始めてあらはれたものかと云ふに、然りとも言へる。併し之れは、希臘時代から起つて居る。

#### [プラト一、アリストテール]

先づ始めに、プラト一、アリストテールの説は如何と云ふに、一つは時間、空間は真の實在にはあらず、現象、又は現象から起る形式であると。一つは實在であると云ふ二つの思想に分れて來て居る。

#### [デカルト、スピノザ、ヒウム]

近代哲学は之れにつき如何に考へたかと云ふに、デカルトは時間、空間を實在とし、スピノザは同じく真空なる實在なることを認むる。ヒウムは真空なる空間の實在を認めず、カントは空間は直感、経験の形式であると。而して之れは真實在にあらずと。ハートマン、フントはこの空間の客観性を認めて居るのである。大抵、空間實在問題に連帯して、時間の問題がおこるのである。この時間と空間の問題がわからぬ爲に、二律背反、即ち世界は始めあり、限りあるものと云ふ考へが

必要におこる。又、宇宙には始め、終りが無いものであると。又、この世界は有限であり、又無限の如く考へらると。これ等は宇宙の解釈が出来ず、人の苦しむ所であります。又、一方では人間の意志は自由であると。併し一方には、宿命論がある。かゝる二律背反の問題が沢山あつて、人間を苦しめました。これがため信仰を失ひ、自由を束縛された。これが解釈がつくと、我々がこの苦しみから救はれることが出来るのである。個人主義と社会主義の衝突から免れられるのである。

先づ、ベルグソンの時間、空間の問題を申し、次にオイケンの説を言ひましょー。

#### [ベルグソン参考書]

ベルグソンの方の参考書では、Time and free will、Matter and memory、Creative evolution。哲学雑誌をお調べになれば無益ではありません。

従来は永久的と云ふことは拡がりで、前者は意識的生活を云ひ、拡がりは物質的生活を云ひました。この二者を同じもの様に考へたから間違つたのであります。Quantity と Quality と同じ様に考へた。かゝる旧来の思想の習慣が迷ひの本になつて居る。目的、意志と云ふ心状態を空間的に物質的に説明しようとしたから、多くの二律背反が出来ました。人生の意義を空間的に考へたのが、多くの誤謬となり、複雑なる煩悶に陥つたのである。

#### [ベルグソンの時間、空間につきての哲学観]

ベルグソンの言葉を引きますと、「内なる自我、内面的自我に於ては相互の延長なき持続と云ふものがあり、外部的自我、即ち純粹の空間に於ては、ほんとの持続のない相互的外部関係がある。」これによつて内部的と外部的の関係をはつきり區別することが出来た。之れは彼れの発見である。又、彼れは「實在は決して分量、或は同時に起つた事柄の総和にはあらず。」社会は只人間をよせて来た所の総和ではないと云ふことのために、時間、空間の関係を斯く言ふたのであります。一言で言へば、時間、空間は実体ではない。常識では実体であるとし、直接に経験するけれども、之れは現象であると云ふのである。又、「空間の概念はど一して出来るか。之れは心の統一的、総合的作用より出来るのである。即ち時間は外界、内界を経験する所の形式に他ならず、即ち経験の対象なる事物相互の関係から起る主観的産物である」と。これにより世界、宇宙の多くの二律背反が解釈されるのであります。

#### [オイケンの説]

次に、オイケンの時間、空間の考へを申します。オイケンの説によれば「Consciousness は時間、空間を超越したものである。併し、この経験を超越するにあらず、我々が自由である、自動であると云ふことと同時に、今の束縛を感じ制限を覚ゆるのは何であるかと云ふと、之れは時間、空間である。此の制限を離れて始めて人間は自由である」と。斯くの如き学説を解くことは止めて、此所では其の根本思想を我々の精神生活に応用した方面を申しましょー。(オイケンの書物は皆獨逸語であります、今日は悉く英訳されて居ります。)

第一にオイケンは、精神生活に成功しよー、我々の根本生活に満足しよーと思ふならば、つまり我々が眞の自由を得よ

一と思ふならば、機械的束縛に勝たんければならぬ。其の機械的束縛とは何かと云ふと、事実の時間的關係の一方を云ふのである。其の只の時間的關係に勝つにはど一したらよいかと云ふと、時間の制限のない現在の中に刻々逃げて了う所のものを精神的につかまへて逃がさぬことである。」

之れを考へて御覧なされると、誠に意味深長であります。詞をかへて言へば、時間、空間を超越して精神生活を満足するものは、時間、空間を超越して、其の時に飛び去つて了うものを精神的につかまへることである。

第二は、過ぎ去つた経験、過ぎ去つた事実の只の連続を、只今の現在の直接の経験の如く、再び之れに価値をつける。其の価値を、只今の生きた経験に復活させる。其の今の経験とは何であるか。常住の人生の価値である所の、永久不滅な人生価値である所の、現在直観して居る所の価値とするのである。

夫れで、過去が我々の現在にならんければならぬ。過去が我々の現在の事実、現在の経験とならんければならぬ。即ち時空を超越した所の精神的生命とならんければならぬ。そこで我々が人類全体の、即ち歴史的の価値を復活させて、人類全体の経験を銘々の所有とすることが出来る。こゝが物質的のものどちがつて居る。そこで歴史の価値が非常に變つて参ります。歴史が我々の内部的の所有物となるのであります。広大なる、そ一して生きて居る所の豊富な我々の現在の経験となる。今迄、放任して只歴史的事實となつて居つたものを、今日只今、我が経験とすることが出来る。之れは今日、我々の精神的生命とすることが出来ます。そこで歴史は永久的、精神的現在となる。其の経験の中に、過去が新しい精神的意義を以て再び蘇る。其の概念の中に、過去を我が物にしてう。そ一して、自由なる適用的活動をするを云ふ概念、其の概念とは過去を永存した所の事で、即ち我々の自動的活動であります。

#### [社会的人格の光明]

故に我々は古来、人類の経験、及び過去の偉人人格を、今日吾人の所有となすことが出来る。其の人格をオイケンは、内面的完全、或は内面的統一と言つて居ります。此の豊富な複雑の中にある統一と云ふものが、即ち我々の尊い人格である。人格とは何ぞやと云へば、無数の統一である。所謂時間、空間を超越した所に無数の Unite がある。夫れを統一したものである。故に我々は過去の経験、将来の希望等の総てを統一した所、此に人格があり、人生があり、永久不滅の価値があるのである。これ迄矛盾、衝突、束縛があつたが、オイケンのこの精神的生命の発見、ベルグソンの哲学上の発見と云ふものが、今日の思想界に大影響を及ぼして、此に社会的人格観にも一大光明を与へたのであります。

[中表紙]

大学部一年及予科の御話  
明治四十五年五月二十日

明治四十五年五月二十日  
大学部一年及び予科のために

この前に各級から研究なされた結果を報告せられました、最近に尚適切な経験がありましたら、伺ひたいと思ひます……

それでは、私はこの間各級から来ました意見をつづめて、私の方から問題を出しましよー。

[集注と云ふ問題につき各組の研究発表 家政一年]

始め家政学部 第一年は、力を集注すると云ふ、其の力の出る源をお挙げになりました。其の第一が意識、次に潜在意識と云ふことを仰つた。それから集注に必要な要件をお挙げになりました。其の要素を分類すると三つになります。

第一、目的的生活。先づ人間の力が出るには目的、理想があり、志が立つと云ふことがなければならぬ。集注とは其の目的にかなふ様に、凡ての中から起る力を支配しなければならぬと云ふ意であります。

第二には、其の目的、理想があり、要求があるけれども、自分を省みれば、其の目的、理想にかなはないものである。一言で言へば、其の目的を達するには自分の力が足りないのである。之れを如何にすべきであるかと云ふことが、非常に自分の中に不安に感ぜられると云ふ経験をお述べになつたよーである。

第三に於ては、之れをど一して救ふか。この必要を如何にして満たすことが出来るか。こゝに於て意志、決心、勇気の力、熱心、即ち精力集注と云ふ根本要求を満たすに足る力を養ひ、又、これを養ふ力がどこ迄も準備されたと。之れはそ一云ふ様に段を設けてお述べになつたのではないが、要点をつかまへると、こ一なつたのである。之れは、一年生が始めて奮物を使つておしらべになつた結果としては満足が出来ます。

[普通予科]

次に、普通予科から報告なされたのは、其の集注について必要な要件なる自制力、又は克己と云ふこと。即ち、集注と自制の関係をお述べになつた。之れは今、も一層委しく述べる必要はないと思ひます。

[教育部一年]

次に教育部一年からは、集注の方法をお述べになりました。

[英予、教育部二部]

次に英文予科、教育部二部からは、其の実例をおあげになりました。

[英文一年]

次に英文一年からは、要求のある所に実在があると云つて、銘々個人の中に其の能力を備へて居ると、結論に適當なことをお述べになりました。

以上、相談せられた訳ではありますまいが、ちゃんと全体

の統一が出来て居る。

[目的の根本要求]

先づこの問題を説くに、丁度、家政一年がお述べになつたことから始めるとよいのであります。即ち、集中に大切なることは、目的、理想、根本要求について述べます。精力を集中すると云ふこと、目的的生活を営むと云ふことが大事な要件である。集注とは何か。之れは力の要求である。これは自由の要求である。束縛から逃れ、苦しみから救はれたい。自分の望みを達したい。即ち、銘々の中に要求する自由を得るには、力がなくてはならぬ。其の苦しみを救ふ力、又、自分の要求を満足せしむる所の力が必要になつて来る。其の力を得て、真の自由を得ると云ふことは如何なることか。即ち、目的を遂げ、理想を実現する、要求を満足したいと云ふことになる。故に、若し明なくば高尚なる理想は内に燃えず、力の集注の必要おこらず、之れなくば勿論、力は発生せず。故に家政学部からお出しになつた、目的を立て理想を慕ふと云ふことが第一に大切なことで、之れは道理ある考へである。

先づ吾人が実力が欲しいと云ふ前に、必らず自分の達したいと思ふ目的が立たなければならぬ。それで我々にはど一云ふ目的が立つたか。其の目的に相応する力が必要であるが、我々の生活に於て如何なる集注が出来るかは、我々に如何なる目的が立つて居るか、ど一云ふ理想をいだいて居るかを現はすのである。其の目的には、種々程度がある。究極目的あり、之れに達する方法なる目的あり、この方法なる目的の小目的もある。之れを大目的と小目的と云ふ様に分け、又永久的と最近の目的とも分けることが出来る。之れを大別すると、個人の目的と宇宙の目的とします。その自己の目的を遂げんとする力、願望を個人の意志と言ひ、全体の目的を遂げる傾きを神の意志、或は神聖原理と言ふ。

然るに吾人は個人意志あり、其の目的あり。我々の個性、我々の人格は、欲望、動機、或は衝突の統一したる意志である。個人は目的的活動をなす。故に、集注は個人の目的を達するに必要な力を實現することである。そこで合理的生活が必要となる。先づ、吾人の身体と精神との間の真の調和、統一が出来ると云ふことは、個人的目的を達するに必要な精神集中である。これ、皆経験する所である。

[自己は自己以外の目的をも達すべきもの也]

然し人は、個人と云ふ自分と云ふこと、即ち自分の完成をのみ望むと云ふことで、自分のほんとの目的は達せられるかと云ふに、之れでは満足は出来ません。諸子がこの大学に来られましたのも、単に學術、技能を修める許りでなく、自分以上に目的を有して居るのである。身体が弱いとならば、これを強めんければならぬ。自分の品性に悪い癖があるならば、これを救はんければならぬ。

かく自分のことをなほす許りでなく、今本校に入つて一年と云ふ組を組織して居るならば、この大学の第十一回生と云ふ団体を組織して居るのである。この以上は必らずや第十一回生個人個人としても、団体としても、校風としても、充分に發展させたいのみならず、この大学に出来てない所を、其の責任として改善したいと云ふことが銘々の心にありましよー。

この中にある欠点を救ふと云ふ、自分以外の自分の希望、理想がある。これを達することのためには、大なる力が入る。これを大にすれば、社会改善の目的である。

今日は国際上に於ても世界の危機がある。かゝる時に於て自分だけ満足であればよいと思ふわけにはゆかぬ。我が国、世界の危機を救はねばならぬ。如何にしたらば、これを救ふことが出来るか。これも我々の目的である。従来人類社会学を研究しても、自分の中のみならず人類の為に目的、理想をいだいて居る。これをなすには、非常な力を要する。これを要求するのである。

[吾人の意志と宇宙の意志が一致して始めて満足あり]

然らば、これのみで満足が出来るか。否らず。宇宙の目的、我々銘々の意志と宇宙の意志とが一つにならんければならぬ。これを得て始めて力が出る。これ、宇宙の目的、理想を実現しなければ止まぬ所以である。これを得て真の満足がある。

併し、これは十九世紀以来、世界の問題であつた。即ち、宇宙には目的はない。ダーウインの進化論も、たゞ機械的勢力が法則に従つて起る結果であつた。宇宙の目的は見出すことが出来ぬと云ふ勢力が逞しかつた。又、古い思想であつた、神が造物主であると云ふ考へは、科学に依つて破壊された今日、唯物論は宇宙の目的を信ずるあたはずと。

[集中をなすに宇宙の目的を先づ知るべし]

併し、この宇宙の目的を知つて追求せぬものは亡びるのである。これがわからねば、之れに相当する無限の力を発現することは出来ぬ。そこで精力集中には、進んで宇宙の目的を説明することが大切である。之れが出来なければ、我々の望む大集中、大調和は出来ぬのである。

[宇宙の目的の三種]

それで大体の疑問がとける丈けに、又この問題を研究するに必要な仮説を立てなければならぬ。宇宙の目的を三分す。

第一は、19世紀前、中世以前に世界の信仰を維持して居つたものは、神は世界を創造したと云ふ考へである。併し、この神は人格的の神であつて、我々の外にあるものと考へられて居つた。

第二は、近世科学の生んだ考へで、殊にダーウインの進化説から来て居るもので、第一の説明を破り、進化の法則によつて出来たものであると。併し、之れも物質的説明に陥つた。

第三には、最近の思想界を維持せる説で、オイケンなどの曰く、内在的の神、目的的活動によつて宇宙は出来て居る。これ、宇宙の中に人間、その他、万有の中にあつて、働きを遂げつゝあるのであると。之れを説明するには科学、哲学、宗教の三方面から考へると、充分これを説明し、確信することが出来る。つまり、宇宙は目的的活動である。宇宙は、Consciousnessである。意義ある、価値ある、目的ある、意識あるものである。故に宇宙は生命であり、意識である。この意識は万有に対し、石にむむり、草木に夢見、人間に醒めて居る。つまり、種類の差ではなくして、程度、即ち其の意識の強度の差也。

[吾人は宇宙の内在的の神を信ず]

吾人はこの第三の、宇宙は内在的の神である、意識である、

生命であると云ふ説を信じます。それで我々は個人の目的、社会的目的のために目的、理想をいだいて居る。併しなほ、宇宙の目的に至つて満足がある、この宇宙の目的を適切に自分の目的にすることは、一朝に出来ぬが、我々はこれに達するの理想を持つて居る。究極の理想を持つて居る。之れを実現せんければ、根本要求が満足しないのである。之れを以て見れば、我々の目的は無限永久的のものである。その要求は限りなきなり。之れ即ち我々人間の目的であり、理想であり、要求である。この理想、目的が実現せんければ、其の自分の意志が天地の意志と一つにならねば、満足が出来ぬのである。然るに、その目的、理想を実現するに頗る力が不充分なり。これをなすに、自分の内はまだまだ意志がよわい。こゝに於て人間は其の力の要求を感ず。自分の実力、知識足らず、意識弱く、人格確立せずと。これ、我々の嘆きである。

[精力集中]

これを救ふものは誰れか。しやかは妻子を捨て、宇宙の目的を追求せり。これ、集中である。故に我々が仏教を修めると、其の必要なる無限の力があらはれる。其の目的に相当する力があらはれる。これ、精力集中也。

精神集中に妨げとなるものに勝つにあらざれば、理想実現は出来ぬ。生れ変るとはこのことなり。今より以上の意識にのぼることである。こゝに於て人間が、精神集中は只身体力、物質力、個人力だけでは不充分である。即ち総ての究極の目的、理想を達するには、これでは足らぬ。

[宗教の他力、自力、これ実は一つ也]

こゝに、人間に宗教、信仰がある。其の根本要求が宗教なり。これには他力、自力の二つあり。他力は自分以外に大なる力があると、自力は内在の神の力である。

併し、この自力、他力は違ふ様であるが、実は一つの無限の力也。唯方面が有る丈けのことなり。自己に客観的と主観的とあるが、実は一つのもので、只、其の見る方面によつてちがふのである。

[人間は無限の理想を有す]

兎に角、我々が無限の力に達するには、今迄のものでは足らぬ。これを満たすものは、も一つ個人と云ふ物に、今迄意識に現れた以上のものが出る様にする。これ、集中の結果によるべきである。これ、一方には潜在意識もあり、これ、宇宙の意識に続いて居るのである。これは内在的の神と言ふことも出来る。又は我々の可能性、或は遺伝とも言ふことが出来る。併し、人間には無限の理想、希望を以て居る。これを發揮することが出来るものである。我々を困難から救ふ救主があるのである。之れ、精力集中は機械的説明ではわからぬと云ふ所以である。即ち、精神的、社会的關係を味ははんければ出来ないのである。委しく深いことにつきては、三年の方にも話すから、お聞きになる様に致したい。

次の問題は「至誠」とします。これは日本従来精神であるから、これにつきお調べになりますよ一にせられたい。

[中表紙]  
大学部全体の御話  
明治四十五年五月二十二日

明治四十五年五月二十二日  
大学部全体の為に

此の前にも一寸だけ序論として、今日の思想界の傾向の大体を述べましたが、私共は書を読むにも研究をするにも、必ず集中点を見つけなければならぬ。又、其の要点を捉まへることが出来なければ、総ての知識が断片的で所謂暗記学問となり、一つの書を幾遍繰り返すも其の意味はわからずに終る。只、頭を徒勞したことになる。殊に哲学、宗教のよーな深い問題を考へるには、其の深い集中点をとらへなければ空漠となつて、真意をとることが出来ず、夫れで私は、文学をする人、科学をする人、修養につとむる人の為にも、今日ど一云ふ所に目的があるか、其の思想の根本はどこから発して居るか云ふことをお考へになることが必要であると申しました。  
[今日の学問の集中点は何なりや]

夫れで、今日の学問の集中点は何れにありや。即ち科学、宗教、歴史、社会学等、すべての集中点は何れにありやと云ふことにつき、一寸申したいと思ふのである。

先づ、今日の哲学問題は何が最も勢力を占めて居るか考へて見ますならば、先づ哲学と云へば、Ontology 本体。科学は現象の学で、哲学、形而上学は本体学である。次にはCosmology 宇宙学、認識学 Acknowlogy、又は目的学 Teleology と、いろいろに部門を分ける。

今日の哲学の最も集注して居るのは、認識学と目的学である。ゼームスの Pragmatism、オイケン的人生、哲学等の問題を論ずるにも、緒論として此の認識学、即ち其の研究法を必ず論じてあるのである。哲学はTeleology 目的学で、此の宇宙に果して目的があるか、器械的關係で動いて居るかど一かをたしかむる為に研究する所に集中して居る。

[Consciousness の研究]

科学、生物学、社会学及び宗教学、審美学、文学、あらゆる学の字をもつ研究は、どこに最も力をこめて居るか云ふに、Consciousness の研究である。今日の学問の集中点は、Consciousness を研究することにある。人格、個性、精神、生命、いろいろの詞になるが、畢竟するに Consciousness の問題である。そこで我々が今日、社会学を研究し、其の要素の社会的人格の研究をなすに、意識と云ふことがよくわからなければ解せられないのである。社会意識の研究から始めて行かなければならないのである。

[精神的社會關係]

そこで、之れから精神的、社會關係の問題に入ります。此の問題では、我々がど一云ふことを研究すべきかと云ふ大体を申して、其の關係は意識の研究を深くし、其の知識を獲得するよーに進めたいと思ふ。

[社會は集合にあらず]

前に申したよーに、社會の器械的關係はあまり社會を集合

的關係にする傾きがある。即ち、社會は個人の總和、多數の人格の集合であると云ふよーな考へを起さしむるのである。之れは皮相の觀察であつて、其の真相をうがつたものではない。社會は集合ではない。又、只人民の總和ではないのである。も一層深い複雑なる關係をもつものであります。

今一つの違ひは、器械的關係のよーに個人の利害が相衝突するものでなく、目的、価値、幸福、利害が調和し、相一致するものである。器械的个人は同じ場所を相互が占領し、同じ品物をお互が同じく所持し消費することを許さぬ。故に、個人の利害の衝突するは免れぬ次第である。精神的社會關係は個人的要求、利害、幸福が相反せぬばかりでなく、相容れ相足して進めると云ふよーな働きをすることが出来るのである。即ち、精神的社會人格、即ち個人は互に孤立することを許さないのである。又、共同が相互の損耗を生ずることがないのみならず、相融合し相結ぶことが、お互の經驗を豊富にし、向上、完全に深厚にするものである。

器械的關係は銘々の要求を充す為に其の利害が矛盾し、自我保存の為に妨害、圧迫があるが、精神的社會關係にては、かくの如きことは根本的にないのである。即ち器械的个人は、人と共棲すれば其の世界は己れの好機會を限らるゝものである。併し、精神的個人は人と共棲することに依つて、或は共同することに依つて、益々其の個人の世界は拡大され、個人の人格は強大となり、其の經驗は益々目的を充實することになるものである。

之れが、器械的社會關係と精神的社會關係との異なる所以である。それは如何なるわけによるか、其の内容はど一云ふことかは、次に大切である。

夫れには先づ Consciousness の説明をしなければならぬ。Consciousness の定義を下すことが必要である。之れは語は短い、意味は深長である。Consciousness is unity and diversity. 意識は多種類の統一である。多くの要素が統一して居ることである。

[意識は多數の統一である]

哲学にては、One and many と云ふことがある。意識的と無意識的との差、即ち、精神的と器械的との差は何れにあるかと云ふと、意識、或は精神は絶対的に統一である。Consciousness is both one and many, mechanical of being never both one and many.

意識は絶対的に多數の統一である。物質は孤立するが、精神は多くの統一である。

之れが、長い間の問題であつた。一元論、二元論、多元論で、一つにならず衝突して居たが、今日、Consciousness の研究より、始めて其の間の調和を見出すことが出来、此のConsciousness と Matter とが社會的關係を悟る上に最も大切なる旨趣である。

茲に於て、物質上の關係は決して二つのものが一つになることが出来ませぬが、過去、現在、未來を一致する、即ち、時間と空間との制限をたつことは出来ないのである。

Consciousness は多くのものが一つになることが出来る。又、其の活動は常に過去、現在、未來をのがれた処の根本原



理に依つて定めらるゝものである。

そこで、之れまでの心理学、殊に実験心理学の考へが、仮説が理屈にあはないよ一になつて来た。之れは科学を尊ぶ人が特に考へておかなければ無益である。之れまでの心理学は Consciousness を器械的に説明したのである。之れは、脳細胞、即ち脳中枢、感覚中枢、知覚中枢の分離によりて Consciousness が出来ると、精神の働きを器械的に説明しよ一としたのである。夫れが反面の真理で、反面の間違ひである。

Ideal は Unit ではない。Unit と Unit とが合して、分子、原子を想像せしむるのであると考へたが、Consciousness はかゝる Unit ではない。Consciousness の観念はかゝるものではない。若し Unit で相よつて意識が出来るものならば、無数の Ideals は経験の写しの無数の像が組み合せて観念をつくとすれば、我々のあたりに同時に共存するのである。此の共存と云ふ念が間違つて居る。Consciousness は決して共存のあるものではない。Ideal は時の継続と云ふことになる。時に制限さるゝ継続と共存とがあると云ふよ一に、実験心理学は Consciousness をかく説明しよ一として居るが、之れが社会的関係を困難に陥れるのである。

そこで此の説明によると、我々の思ひは我々の観念の Group と云ふことになる。我々の意志は我々の本能の束ねたものである。衝動や動機束ねたものが意志と云ふよ一になるのである。所が意識の研究が進むにしたがひ、我々が益々深い経験を反省して参りますと、我々の意志はかく別々に Ideals が束ね得らるゝものでないと云ふことがわかつたのである。

Perception 記憶は単純のよ一であるが、そ一ではない。花を見ると一つの Prosecution がある。夫れは、花が私を刺激して花を知覚すると思ふが、花を Prosecution することは、花及び他の経験が一つになつて、自分が花を Perceive するので、只 Ideal が対象物の再現ではない。他の経験とはなされないものとなつて居るのである。併し、ど一云ふ所から、かゝる間違ひが我々に起つて来るかと云ふに、我々は身体と精神とがあるからで、身体を持つ我々は時間と空間の制限を脱することが出来ず、今日の我れ、明日の我れ、講堂の我れ、外国の我れと云ふものが、別にはなして考へ得るのである。即ち、物質として考へ得る我れがある。之れによつて間違ひを起すのであるが、真の我れは昨日、今日、故郷、学校と云ふ區別は少しもないのである。過去、現在、未来、総ての空間を一つにする、一つに融合した Unity の感が Consciousness である。

[宇宙の本体は意識である]

そこで、今日の進んだ研究によると、Consciousness の研究により人類が自覚したる所は、宇宙を知つたと云ふことと、我が意識が出来たとは同じである。其の意識の研究により見出した処の我れ本体は意識であると云ふことで、凡て意識と云ふことになり、我れも、人も、神も、猫も、草も、石も、意識と云ふことになる。そ一すると又わかりにくゝなる。こゝに於て近來の意識の研究を纏めて申すならば、程度の差

である。Kind の差でない、Degree の差である。

昔の定義、昔の哲学、神学、倫理、本体学によれば、Degree の差にあらずして、Kind の差である。そこで、其の二つの間には必ず二種類ある。例へば、Ideal に善悪、神にも善悪あり、意識にも Unconsciousness と Consciousness とあるよ一に、二種類あつて、其の中間を許さなかつた。又、決して相対的でなく絶対的であつて、決して Degree の差にあらずして Kind の差であつた。故に、我れは善人か悪人か何れかで、善でも悪でもないと云ふ中間のものはないのである。処が今日は進化論が見出だされて、宇宙の創造は、其の進化は創始的進化である。神の目的は内在的である。我々は、一晩の間に家をつくるよ一に出来たものでなく、宇宙の中に内在的神が働き、進化によりて創造されつゝあるのである。此の進化論、意識学は宇宙は進化して止まない、低い階段より高きに毎日夜進化するものである。

意識の差は Unconsciousness と Consciousness のみでなく、只其の間に多くの中間がある。其の差は相対的で、絶対的ではない。

Self-consciousness

Consciousness

Subconsciousness

と云ふよ一に、わけることが出来る。Subconsciousness は眠れる時代、次は意識時代、次は自覚の出来た時代である。即ち、意識の程度が高いのである。我々人間と云ふ意識は、其の Degree が高いのである。其の Degree にも、いろいろある。

神格

社会格、或は社会覚

自格、或は自覚

我々はいくらも高く Degree を進めることが出来るのであるけれど、又、其の人独特の性がある。従来、物質的解釈をしたから、今日迄わからなかつたのであるが、之れからわかるよ一になる。

Self-consciousness あつて初めて人間と云ふ自覚ある人と言ふことが出来る。Consciousness、Subconsciousness のものには Self-consciousness がないかと云ふ問題になる。Self-consciousness は程度であつて、Consciousness のある所には程度に相応した Self-consciousness がある。之れを説き明すに、例へば、ど一して私共は意識の程度が高まるか。之れは Explains による。我々が大きな人となるには、実行も努力も大悟徹底もし、深い情緒、情操が起らねばならぬ。此の意識の Degree の上ることが経験を豊富にすること、意識を増し、統一の度合を高めると云ふことである。故に、我々が花を見てきれいなと感ずる、之れは即ち一つの意識である。一つの経験である。

パーバックスは世界の花を合せて立派な花実を作るのである。それを味はふことは、普通人よりも程度が高い。パーバックスは小供の時に花が好きであつた。之れがパーバックスの発見をなさしめたので、彼の経験が深く意識の度が高まつたのである。花を見、天地の理を解するとき、ある物を対象物を意識するのである。

[意識の度を高めるのは内容を豊富にすることである]

A consciousness of the more 今迄よりももつと見開き、味はひ、知るのである。意識の Degree を増すことは経験、観察、実験を増し、精神界を豊富にすることと違はないのである。そこで、我々の意識の Degree をふやすことは、我々の意識の内容を豊富にし、経験を積むことになるのである。之れは悉く内在意識の中に埋って居るものである。意識の Degree を進めることは、意識の明瞭と云ふことである。

科学と常識は、正確と明瞭とが特色である。常識は Ideals の意識の明瞭なことである。観念の明瞭を常識と言ふ。常識ある人、科学の能力ある人を意識の程度の高い人と言ふのであるが、半面の理である。之れのみでは一部分である。所謂常識、科学は浅薄で表面的意識である。其の内容は貧弱である。只科学と云ふ器械的の考へから常識的、部分的の思想は、決してほんとの意識の Degree の高いものと言ふことは出来ぬ。Kant 曰く

We live at each moment upon a small island of passable clearness surrounded by is ocean of vagueness.

Consciousness is uniformity of feeling of belying of valuation.

彼れは意識の深さを大洋にたとへた。

漠然たる大洋、広大無辺、無限は実に絶対である。此の漠然たる大洋が我々の意識界である。常識は小さなあらはれた島である。我々は瞬間瞬間に於て、我々の漠然たる大洋の小孤島の上に住んで居る。我々のほんとの個人の意識の Degree は常識ばかりで出来ない、部分的のものでなく広大無辺なる Unity 全体である。

Self-consciousness の近来の研究を申したので、なほ其の上の社会格について一言しましよー。

社会意識、或は心理はど一云ふものを言ふか。之れは実験心理学が誤つたよ一に、社会学者の誤つた所がある。社会学者として名高いのは米国の社会心理学者 Rais 氏である。

社会意識とは感情、或は信仰、意志の Uniform である。意志の一致なることである。

社会の要素は個人である。我れと云ふ意志である。此の個人のよつたものが社会である。

社会的人格を養ひ、理想的団体が生れることの為に非常に大切な問題になつて居るが、時がないから之れを次に致します。

[中表紙]

地久節の御話

明治四十五年五月二十八日

明治四十五年五月二十八日

地久節の御話

国母陛下第六十三回の御誕辰を謹んで御祝ひ申し上げますことは、我々の最もよろこぶ所であります。

[十年前の地久節]

第五十三回の地久節、即ち今日より十年前、明治三十五年におきまして、即ち此の女子大学の生れました翌年に於て、未だ世間に女子高等教育問題は有力家、識者間にも反対の説が多かつた時代にも 陛下には此の学校の設立、其後の経過につき、くはしく時の侍従職幹事、後の宮内大臣 岩倉公爵より開召され 陛下の厚き御思召により此の学校に御下賜金の御恩命が下りましたので御座います。

陛下より私立の学校にかくの如き御下賜金のあつたのは、我国に於ては未曾有の事でありませう。其後、内親王殿下、皇族方も此の学校にお遣はしになりまして、其都度、此の学校の発達については深い同情をいだかれて、有難い思召のあつたことは岩倉公爵より洩れ何つたこともあります。

これは公然の秘密であるが、先年、我国にては非常に行ひ難い事でありましたけれども、我国の女子教育、殊に高等教育御奨励の為に、此の学校に行啓あると云ふ御内命を漏れ承り、学校でも其の用意を致し、宮中にては其の係をお遣はしになつて御準備もありましたが、他の事情のため御中止になりました。

併し今日、私立の学校にも官立と同様に御真影を賜はると云ふ其の今日、私共は過去十年の歴史を顧みて感慨に堪へぬものが多いのである。殊に、前宮内大臣 岩倉公爵と丁度御病氣の前にお目にかかつたことがあります。其頃ほひにも、此の学校の当時の模様、将来の希望など、くはしくお尋ねになつて、公爵は自分の在職中、是非其の御内定の御実行を願ひたいと切に望まれましたが、不幸にして公爵は既に居られぬ。未だ今年入学されたお方は、そ一云ふことは誠に不思議に感ずる方もあろ一と思ふ。我国では維新前迄、我国の教育は宗教、武士の司つたもので、寺子屋、其の他の私立の学校で我国の教育は行はれたのであるが、維新後、官制が布かれて、国民教育は官公立の学校のみによつて出来ると云ふ感があつたのであるが、實際は只国庫の力だけでは到底及ばないのである。又、其の弊を矯めることも困難であることを感ずる者が、政治家、学者の間に多数あるよ一になり、今日、殊に女子の教育、婦人の大学などは、最も教育の進んだ米、英国、又は他の列国にても私立である。

此の日本女子大学の出来た翌年、露国に官立の女子大学が出来た。其の外は大抵男女混合教育で、其の他は何れも民間の手によつて經營されて居るのである。此の日本にても、其の民間の力によることの大切なことを、岩倉公、伊藤公は早くから感ぜられて、此の学校も私立ではあるが、すべて官立と同様に保護したいと云ふ考へから、此の学校は起つたのである。今日は官民協同して国の教育に尽すことが出来るよ一に進んで来たことは、誠に喜ぶ可きことである一と思ひます。

之れは、此の悦ばしき国母陛下の御誕辰を祝ひ奉るに当りまして、此の女子大が世間で少し不思議に思はれる程、帝室との関係のあることについて、此の機会に一言、過去十年間のあつたことを申したのであります。

[陛下の御徳]

次に、私共が口には申しませんが心に深く感じますのは、

国母陛下の御徳であります。

勅語にも御座いましたよ一に、我が皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ、と。我が国民が帝室に対して衷心尊敬を表し、敬慕の念を禁ずること能はざるは、二千数百年の間養はれ来た深い御徳である。其の御子孫なる両陛下の今日の深き御恵みであります。其御徳については、いろいろ私共の感ずべき点が多いのであります。併し今日は、其の多くの御徳の中、殊に陛下には、十二徳と云ふことについて御歌もあります。其の中にも第二にお詠みになりましたのは、清潔であります。

これは我国の根本になつて居る所の帝室と共に、国民の心に深く樹えられた根本の徳とも申してよかると思ふのであります。そ一して今日は、其の清潔の教へについて考へたいと思ふのであります。

#### [至誠と清潔]

此の前一年生に道德の基、宗教の淵源である至誠を考へるよ一に申しましたが、此の至誠と清潔とは同じであります。至誠の根は清潔であると思ひます。Noteにも清潔と云ふことをかき、次に陛下の御歌をおしるしになつて其の深い意味について考へたならば、銘々に得る所があると思ふのであります。其の御歌は、

白妙の衣の塵は 是らへども  
憂きは心の くもりなりけり

此の、白妙の衣の塵は掃へども、のはらふと云ふ字に、我国古来の道德の深い意味がこもつて居るのである。此の前に送別会の時、芳賀博士がはると云ふ語源について話されたが、此のはとら又ははると云ふ詞の音に、既に深い意味がある。これは此の頃、言語学から見出されたのである。何れの詞にも自然の意味がある。

例へば、私共が深く感じて力を入れたり、或はうれしい事、うまい事を自然にあらはすには、先づ詞や声にあらはれて、どこかの筋肉に働きが起る。例へばむうである。甘い時にはうまいと言ふ。子供はうまい、うまいと言ふ。西洋では母の事をむま、むまと言つて居る。

又、英語の Right, Rage 等 R の音の時には大に力がある。これは英語と日本語のみでない。世界の語は皆そ一である。はらと云ふ響く音を表すには、強く力ある意味が入つて居るのである。先づ、我国の一番古い道德を表す詞に、まこと、まごころと云ふのがある。なほそれより古いのは、はらふであるらしい。西洋の宗教は、神の心が此の世界にもなるよ一にと云ふのが祈りであるが、我国の祈りははらひ給へ、きよめ給へと云ふ。即ち、はらふと云ふことで、第一に御歌のよ一に塵を掃ふのである。我国にては、大海日にすゝ掃ひと云ふことがある。

此の掃ふは清潔の徳を養ふと云ふことになるのである。掃ふの次は洗ふである。我国にはきよめの儀式がある。神様の前に出でて浄めのしるしに、はらひあらふのが第二である。

第三の清潔は火で焼くのである。それで昔から我国では、光りと云ふことは明と云つて、神明とか太陽、又は火は、きよめの意に用ひられて居るのである。なほ我国には、打ち払ふ

と云ふこともある。

神を祭るに灯火をあげるの、我が国の宗教だけでなく、古い埃及、ユダヤ、羅馬でも、灯火をあげることが宗教の儀式になつて居る。

それで今日は此の清める、即ちはらひあらふことはど一云ふことかと云ふと、うきは心のくもりなりけりで、心の汚れを洗ひ塵を払ふ、又は焼くと云ふので、つまり我々が心を鏡に照らしてうつし見ることで、神明に対することは、心が神の心に合致することである。

光りを神に捧げたり、又は暗夜に光りをとむすことは、人間の昔から最も大切なる風俗とし、又、其の光りをとむす工夫は人間の最も文明の程度を示して居るものである。其の文明と云ふものは、暗い夜が昼となり、小さい灯火が電気、瓦斯となつたよ一な意味になる。此の光りの照らし方、夜の灯火の光りが人間の智力の進歩のあとであることは、残つて居る古い物についてもわかることである。今日は丁度よい機会であるから、灯火の変化を実物で示したならば、教訓にもなり学術研究の光りとなるでありましょ一。

#### [古代の灯火について]

今から二千二百年前、即ち神武天皇の御即位後三百年、耶蘇の生るゝ三百年前、亜米利加のある地が地中に埋没して、其の上に樹木が繁茂して、殆んど誰れも其の地下に古い町が埋つて居るとは知らなかつたが、近年それを発見して、いろいろ見出だされたものが少くはない。其古い世界に、どんな光りをうひたかと云ふに、夫れはこゝに持つて来たものである。

これは私の獨乙語の教師のヒリッグ先生から貰つたのである。先生はよく九ヶ國語を知り、物理の研究をもして居るゝ方であります。これは今から二千二百年前、埃及の盛んであつた時代のもので、グリーキ、ローマに於ても用いたのである。Demosthenes が書物を著し演説の原稿を書くにも、こ一云ふものを用いたのである。私は子供の時にも之れを用ひました。

昔、支那では学問することを螢雪の功を積むと云ふて、螢を集め雪の光りで読書をし、或は月の光りで書物を読んで勉強したものである。之れを見て、我国の子供にどれだけ模倣の力があるかとためして見ました。小学生徒の作品は之れである。

次のは、水戸の烈公が食事時にいつも前におかれたものである。すべて政治の目的は仁政をしくと云ふことにあるので、君たるもの人間たるものは食事する毎に、百姓がどれだけの労苦をしたかを忘れてはならぬと云ふことから、常に持つて居られた土人形である。烈公の歌に、

朝な夕な いひくふ毎に 忘れじな  
めぐまぬ民に めぐまるゝ身は

と云ふ、誠に謙遜に民を恵まるゝ心のあらはれたのがある。質素儉約の風を鼓舞する為に、自ら食膳において、忘れぬ為の表彰を作らせられたのであります。

時が御座いませぬから、只一言。至誠、清潔のことについて話しかけましたが、皆もも一いつ、そ一云ふことに就いて考へておいて貰ひたい。高等女学校の小さい人の為に申しま

すが、至誠ははらふで、真心は怒気や邪気を払ひ、低い感情を払ふことである。まごころは神の誠と我が心が同じになり、神の道と我が心が一致することである。鏡と云ふことは日本の女子に取つて大切である。神社の御神体も鏡である。只、大和の三輪だけはこれがないのである。鏡は宇宙の本体で、宮は礼拝堂である。神に向ふは、鏡に向ふ如く我醜を鏡にうつして払ふよ一に、宇宙の靈に対して我心を神の道に照らして其の道に適ふや否や、其の心が奇麗か否かを見るのが、神前に出るのである。我が心が神に反対して真の光りを失ふことのないよ一に、常に心の曇りを払ふならば、神の姿は鏡にうつるのである。

#### [心の清濁]

大悟徹底をするには、我心の曇りを去り、清き我心、我姿をうつすのが即ち誠である。

心だに 誠の道に かなひなば 折らずとも 神や守らむと云ふ歌のよ一に、形式でなく、神の心と我が心が一致するならば、もはや神の力が我々の内に宿つて居るのである。我国の宗教、誠と云ふのはそこにあるので、其の誠にゆくには、はらひ清めると云ふことが誠に大切であります。

私共は今日、此の悦ばしい祝賀式に列するに、襟を正して静粛に参堂なさることは、最も喜ぶ所である。之れは儀式であるが、も一つ大切なことは銘銘を願ひて、内を清くし、心にやましいことのないよ一に、常に反省することが大切であります。

そ一致しますと、烈公のよ一に恵む心が常に内に充ち、君主でも決して無理や我儘をしないと云ふ徳が養はれてくるのであります。

すべて白いものは汚れがすぐわかるよ一に、心が清くなる程、我が心の塵がわかつてくるのである。私は烈公の如く、ヒリッグ先生の如く、岩倉公の如く、心から邪気を払ひ、謙遜、親切、忍耐の心を持つよ一にありたいと思ふのであります。

あなた方は御承知ないことであるが、此の豊明館が出来る時、台石を据えるとき、此の校の歴史を掘り込んだのである。其の時、多くの関係者を呼んだ。岩倉公爵もお出でになつた。公は大臣であり評議員であるのに、案内者が気づかずして隅の方に案内したのである。私はあとで其の事を知り、甚だ恐れ入つて挨拶に出ました所が、お目にかかつてみると、温顔で前日の失礼は少しも意とせられないのである。実に心に邪気のない御方でありました。

ヒリッグ先生も博士であり哲学者で、高位の人であるが、私の為に先生自ら歩を運んで教へて下さるのである。突然、留守にしたことが三度あり、勉強が出来なかつたことがあつても、先生少しも怒る色なく、愉快に教へて下さるのである。誠に広い心である。此の徳は、実に私共の学ばなければならぬことである。

外国の方は利害と権力を重んずるが、ヒリッグ先生には決してそ一云ふことはない。熱心に教へらるゝばかりで、報酬と云ふ念は更にないのである。それから私は此の先生によつて、天主教も決して頑迷なものでないことを知りました。すべて、よく人は腹を立てるが、よく考へると、それは少しの

思ひ違ひである。寛大なる態度を持つことが大切である。そ一すれば、自分も友も子供も、よい感化を受けるのである。心に心がうつるのであるから、内に徳を養ひ、心の邪気を払ひ、真心を以て神と一致すると云ふ修養が、我々にとつて誠に大切であります。

#### [中表紙]

皇太子妃殿下行啓の報告  
明治四十五年六月十一日

明治四十五年六月十一日

#### 皇太子妃殿下行啓に関する諸般の報告

千有余名のあなた方の熱誠は天に達したと見えて、降りかゝつた雨はやんだのみならず、誠に当日にはお詔への天気と変り、又そ一云ふことに不馴れなる我々の幾らかの手違ひの為に、折角喜びに満ちて奉迎致しました人心も曇りかゝらんとした気分を全く払ひまして、終日講堂内、其の他校舎のみならず全境内は、実に一種言ふべからざる精神に満ち、殿下におかせられても誠に玉顔麗しく、御熱心に総てのことに御注意を払はせられ、終りに、誠に満足であると云ふ有難いお言葉を残して還御になりましたのは、一同の誠に感泣に堪へない所であります。これは全く教職員始め桜楓会員、生徒一同が自分を忘れて、熱心にお働きになつた結果であります。

今度の 皇太子妃殿下の斯う云ふ私立の学校、言うて見れば人民の学校、之れを個人のことにあてゝ言へば、人民の家に行啓給はつたことは、是れ迄にないことである。之れは実に 帝室の御威光を銘々に感ずるのみでなく、今度のことには誠に深い意味があると思ふ。此の学校の歴史については特筆大書すべきことであるのみならず、我が国の最高等学府に最大の感化力を有し給ふ所の 帝室に於て深く御奨励遊ばさるる訳であつて、私共は深く其の意味の本を考へねばならぬ。[行啓の深き意味を考へよ]

今度の行啓について、此の学校に対し、教職員に対してなされたことは非常なる光榮であつて、是れ迄にない破格の御思召であります。夫れは 天皇皇后両陛下、皇太子 同妃両殿下に拝謁を給はると云ふことは、是れ迄、官にあつて位を持つて居るものの外、民間の者には例のないことである。然るに今度は、此の女子大学に行啓を蒙り、此の学校で教育に従事して居るものに拝謁を給ふと云ふことは、実に今迄の例を破つて遊ばしたことである。

此の間、総理大臣とか文部大臣とか云ふ方がおいでになりました。斯う云ふお方を親任官と申します。此の親任官と申します此の親任官は、何所へ行啓のあらせられた時でも一番先きに拝謁を賜はることにきまつて居るそ一です。それから段々と官位によつて順序があるのである。

#### [御例外の拝謁]

然るに、今度は私立の学校へ行啓になるから、校長とか其

の他、直接功勞のある所の教職員の代表者を始めとして、一同に拝謁を給はつたのである。即ち、官にあるものも人民も等しく 陛下の赤子である。教育は官立ばかりでないと云ふことであります。之れによって将来、如何に発展して行くべきものであるかと云ふこと、其の深遠なる意味を感じざるを得ないのである。数人に謁を給はつたのは代表した訳であるから、一同がこの恩寵を荷うたわけであります。

夫れから 皇太子殿下、妃殿下の行啓と云ふ時に御先導を申すと云ふことも、之れ迄は位あるものでなければ出来なかつたのである。然るに今度は、此の学校の総ての責任を持つて居る所の校長が御先導を申し上げる様にとのことを、之れも今迄例にないことであります。

此の拝謁と云ふことについても、教職員及び当日参列の者の名を書いて出す様にとのことで御座いましたから、前以て差出しておきましたが、八日の夕方、総理大臣から電話が御座いまして、いろいろ其の式を研究したり、又、謁を給はる方に通知を致した位で御座います。

私共が斯う云ふ行啓をおうけすると云ふことは始めてでありますから、準備が出来なかつたと云ふこともあります。併し夫れは、了ひには皆よくなつたのであります。

(御巡覧の御次第を省く)

[殿下の御聡明と御仁心]

私は始めてお近く拝謁を得、又いろいろな御尋ねを蒙り、誠に感激に堪へませんことは、始終そ一云ふ感が御座いましたが、実に国民教育の模範に立たせらるる 殿下が誠に御親切で御丁寧にあらせらるゝこと、御聡明であらせらるゝこと。そ一して、今後必要なる研究心に富んでおいでになる。そ一して、この校において遊ばさるゝにも、誠に御同情をお持ち遊ばさるゝことであります。例を申せば、時間の如きは予定よりも変つてもよいと仰せらるゝのであります。翌日私がありました時、主事の御話に、私が余り念を入れて見た為に時間が遅くなつて迷惑をしなかつたかとの仰せであります。いろいろ御尋ね遊ばすことも、誠に適所に當て居ることであります。お声なども小さいが、誠に清い御聡明なことがあらはれて居ります。

殿下は御幼少の頃、華族女学校に御在学遊ばされました。御ゆかりを以て学習院女学部には行啓あらせらるゝ外、其の他の学校へは、一寸も行啓遊ばされなかつたそ一であります。然るに今日始めて、この校へ行啓遊ばさるゝにつきまして、あなた方が何から何迄お目にかけよ一と思つて苦心をなすつた、其の誠心は天にまで達したのであります。

又、此の度は宮中におきまりがあつて、ど一しても動かされぬことは致し方がありませんが、其の他の事は何でもお聞き届け下さつたのであります。お手植の松の如きも、此の学校では園芸と云ふことも重んじて居りますから、そ一云ふ御奨励にもなる様にお願ひ申し上げたう御座いますと申しあげましたら、喜んでお手植え遊ばして下されたのであります。殊に私の喜ばしく思はれましたのは、七十以上の大隈伯、森村さん、渋沢さん、土倉さんのよ一な方、今朝も土倉さんと

昔話が出ましたが、此の学校が斯う云ふ光榮を荷負うことを非常に喜ばれて、いろいろの話がありました。森村さんの如きは、此の学校に 東宮妃殿下の御出で給はる様になつたのは何とも言はれぬ嬉しさに、只涙がこぼれて仕方がなかつたと言つて居られます。そこで誰れも彼れも、衷心有難い、喜ばしいと云ふ感動をしたことと思ひます。

[奉公の実を挙げべし]

之れは生涯忘るべからざることで、我々は一層國家に対し、帝國に対し、殿下に対し奉つて、益々奉公の実を挙げねばなりません。又、これが一時の感に止まらず、益々一致協同して皇國の為に尽さんければなりません。其の精神を以て、曾て是れ迄我が國にない所の御同情に対し奉つて、奮励しなければならぬと考へます。之れは皆さん同じことであると思ひますが、今日は此の堂に会しまして、私は大体だけ申しましたが、尚洩れた所は御列席の諸先生からお話し下さることを希望致します。

[中表紙]

第一学年にて

明治四十五年六月十七日

明治四十五年六月十七日

第一学年にて

第一年並びに予科に、私が此の講堂で実践倫理の講義を致しますのは、今日と此の次の月曜日とをこめて、あと二回よりないことになりました。そこで今日は、私が留守の間、即ち来年の二月の二十八日迄の皆さんの集中点、ど一云ふことを其間に仕遂げて貰ひたいか、又、是非あなた方がど一云ふことをお勉めにならねばならぬかと云ふことを示し、其方法をも合せて申しておきたいと思ひます。前に申しておきました様に、此の六月の下旬か七月の月上旬に此の國を立つつもりでありましたが、いろいろ事が起りまして、うちの準備も、又出かけて行く準備も出来ませんので、仕方なく七月の二十八日のマンチュリヤで立つことに致しました。夫れだけ延ばしましても、いろいろの事に時を使ひますとやはり時間が足りませんから、私が此の学校のことを致すのは此の六月一ぱいときめまして、来月はも一旅行に出かけた心持で用意をしなければなりません。夫れであなた方に此の講堂で講義を致すのは、も一二回よりないことになりました。夫れでど一か、今日皆さんに申す事は真意をおとりなさつて、わからぬことがあるならば、よう質して戴きたいと思ひます。

夫れで初めに、此の期の終り迄にあなた方のなさる仕事を、今日大体つもりをきめてお置きになることが必要である。今日は其の為に時を使ひまして、次ぎには、あなた方が書いてお出しになるものがある。之れは前から研究しておいでになる問題の結論とも言ふべきもので、詞は平易であるが、其の意味は深長なる、又複雑なるものであります。故に次には、

あなた方のお調べになったものを纏めて結論をつける様に致したいと思ひます。そ—して二十六日には、私が皆さんとお別れをする最後の詞を申さうと思ひますから、全体お揃ひになる様に。次ぎの水曜日にも之れは三年を主として申しますが、やはり前からの続きもありますから、成るべく都合をつけてお出でになる様に致したい。来月に入ってから二度ばかりありますが、之れは皆さんの自由にお使ひになつても宜しいが、修養日誌をも一—二回ばかりお出しになる様に。其の中に外国までも持つて行かるとあるならば、重疊であると思ひます。此の学期にお調べになる書物を三部ばかり申しておきましたが、漸う一部ばかり出来て、二部は残つて居りますから、次ぎの第二学期に指導者のお導きによつて、あなた方で出来たなら結構であると思ひます。夫れで今日は、あなた方の留守中に実行をして貰ひたい、又、実行なさらなければならんと考へる要点を申すつもりであります。其要点は是れ迄申した事と違はないのであります。又、其のはつきりと定めた所の計画を実行する、銘々の経験にかへると云ふことになるのであります。つまり、私が先づあなた方に望む所の勢力集中 Concentration で、其勢力集中に積極の方面と消極の方面とあるのである。今、至誠と云ふことを調べて居りますが、此の至誠と云ふのは、集中に至る積極の方面を申すのであります。今日は無論、両方面がありますけれども、消極の方面から、ど—すべきかと云ふことを主に申したいと思ひます。

近來はやる詞で言へばイマンシベーション 解放、或は積極の方面から言へば自覚と言ふのである。此の解放と云ふ詞にはいろいろあるけれども、近來は主に婦人に関して言ふのである。此の頃やかましくなつて居るイブセンの書きましたノラ、其の後演劇などになつて禁止されたりして居るマグダ、斯う云ふ小説に勢力を占めて居る考へが、青年男女の上に少なからぬ感化を及ぼして居る様である。之れを心配して、警戒を加へて居る学者、当局者も少なくはないのであります。そ—云ふことから、一方には根本要求を追求して、伝説や宗教の権威から解放せられたいと云ふ考へが働いて居る。そ—云ふ思想が若い人を動かして居るのは事実であると思ふ。

此の小説の中に、又理想の中に、確に一つの真理、時代の精神が籠つて居ると云ふことも誠であります。併しながら、其の著者の真意をとらずして、其の時代のほんとの傾向を察知すること能はずして、軽薄なる浅薄なる危険思想に捕はれて、又は誘はれて煩悶をして居る、苦しんで居ると云ふことも、事実であらうと思ふ。夫れで此の勢力を集中する、ほんとの自由を得る、束縛から免れると云ふことは、斯くの如き新旧思想の衝突より、斯くの如きパラドックスの矛盾から救はれ、其の他の要求を妨げる処の束縛から解放せられると云ふことは、集中に欠く可からざるもの、自由の活動には是非なくてはならぬ条件である。夫れで先づ初めに、此の解放、婦人の解放と云ふことの真意を解して、先づ自ら其の自由を得ると云ふ事が出来る様にならねば、到底あなた方の目的を達することは出来ないであります。夫れで先づ消極の解放と云ふ方面に入る前に、積極的態度、近來使はれて居る自覚と云ふこ

と、今日の婦人が先づ自ら覚醒すると云ふことが必要である。此の覚醒と云ふことは、ど—云ふ意味であるか。覚醒をした、所謂自覚を得たと云ふ経験は、どんなものであ—るか。又、修養に由つて今日まで銘々に幾分か、そ—云ふ経験をしたかど—かと云ふことを考へねばなりません。此の自覚を得ると云ふことが、今日の我々の修養の目的である。其自覚を得た人はど—言うて居るか。例へば我々の先輩で福澤先生の如きは、独立自尊と云ふことを言つて居らるゝ。此の独立自尊と云ふことは福澤先生の自覚で、其経験である。

お釋迦さんは、唯我独尊と云ふことがある。丁度そ—云ふ詞を以て表されたかど—かわからないけれども、之れも自覚の声であります。

クリストは、我れを見しものは神を見しものなり。或は我れは神の子なりと言はれた。つまりクリストの自覚は、自分は神である。自分には神性がある。自分と神とが一つになつたものである。即ち、自分の中には神と同じものがあると云ふことを発見したのが、唯我独尊である。之れは一見甚だ不遜な様である。

一方にはクリストは、何故に善と言ふか。善なるものは只神のみであると言はれた。クリストも自分の罪あることを自覚せられたこともある。お釋迦さんも、自分はつまらぬものである。誠に頼むに足らぬものであると云ふことを発見せられたことがある。けれども一方には、止むを得ざる必要に応じて社会の救済を求められたのである。

大悟徹底とは何であるか。自分の中には絶対無限の力がある。永久滅ぼす可からざる尊いものがある。是れ迄は自分はなやめる者である、誠にはかない者であると嘆いて居つたけれども、之れは仮相であつて、ほん—to一に目がさめて見れば誠に尊いものである。永久無限なものである。之れが即ち、自覚であります。我々はクリストやソクラテスと同じものである。永久の価値ある尊いものである。教育を受けることの出来る、発達することの出来る、創始することの出来る処の力がある。其の力が発生し、其の力が我々の満足に至りまして始めて、我々は自覚することが出来るのである。クリストの如く、我れ世に勝つて、真に満足することが出来る。我々の理想は実現することが出来るとわかつて始めて、私共は自覚することが出来たと言はるゝのであります。此の力が発生致しまして始めて、如何なる敵にも打ち勝つことが出来る。之れを勢力集中と申すのである。夫れをいろいろ解剖、総合して始めて真意がわかるのである。自覚と云ふこと、不羈独立と云ふことは、決して我が儘をすることではありません。夫れで第一学期に皆さんがなさるべきことは、此の自覚を得ると云ふことである。けれども近來、此の詞は濫用せられて居るから、一言之れを申しておかねばならぬ。

第二には解放。昔の詞で言へばすくひである。お釋迦さんは之れを解放と言ひ、クリストは罪惡より救はるゝと言ふ。之れは同じことであるが、今日では之れを解放と言つて居ります。此の解放と云ふことは経済的と精神的とに用ひられて居ります。奴隸の解放、労働者の解放、子供の解放と云ふことは皆、経済的に用ひた詞であります。

我々の言ふ処は精神的の解放である。身体の欲、病氣、或は境遇等の外部の圧迫から、精神の自由を妨げるものから解放せらるゝと云ふことで、之れは若い人のよく考へておかねばならぬことである。此の学校の如く精神修養を目的とし、校風の培養を目的とし、校風の培養に骨を折つて居る間からでも間違ひやすいことでもありますから、よく注意しなければなりません。今日英國などで婦人運動などの起つて居るのも、其の本は斯う云ふ所にあるのである。

次には Traditional 伝説的。口碑的に婦人が社会から蒙つて居る伝説的圧迫と云ふものも甚だしいのである。其の束縛から解放せられんが爲に Women's suffrage movement の如きものがおこり、又、自然主義の如き快樂主義もある。男は勝手なことをする。男が気に入らない妻を去ると云ふことは何時でも出来る。法律はあるけれども、殆んど力がなくなつて居て勝手に出来る。けれども妻が夫を去る、又は養子を去ると云ふことは出来ぬ。あなた方はそ一云ふ経験はしないからわからぬであらうけれども、社会には悲痛慘憺たることが幾らも行はれて居るのであります。私は其実例を今こゝで申すことは出来ぬけれども、そ一云ふ経験をした人は、ど一か斯う云ふこともあるから、今日の教育に注意をして貰ひたいと言つて居ります。

夫に苦めらるゝものもあるけれども、姑の機嫌がわるくなつた爲めに下女下男迄も同盟して、も一其の家を出なければならぬ様にするのである。そ一云ふ時に男は自殺する者もあるけれども、さすがに此校の卒業生は自殺などはしないのであります。そ一云ふ時に、英語は役に立たんのです。国文も役には立たぬ。料理も役に立たぬのである。けれども、いつも感謝して居ることは今日の教育であります。修養、修養と言はれたけれども社会に出て見ると、やはり此の教育でなくてはならなかつたと云ふことがわかるのであります。

然るに、此の解放と云ふことを濫用して、夫が演劇を見に行くならば自分も行くと言ふ風で、正月にはビールを煽つて居る様なものがあるけれども、心の内には始終苦しみにみたされて、少しも解放せられては居ないのである。彼の牢屋に繋がれたり、梅毒にかゝつたりして居る様なもの。本は皆、我が儘から身を毒して、禍を子孫迄及ぼす者である。故に、私共は先づ此の自然の欲望から解放せられねばならぬ。平たく言へば、我が儘を去らねばならぬ。あなた方の心の中には我儘がある。装うて居るけれども、わかるのである。お書きなされたもの、なさることに由つて、ちよつと、ちよつとわかるのであります。

あなた方の心に、私の目に、あゝ我が儘であると見える様では、到底世の中に通用しないのである。其の我が儘を通すことが解放であるかの様に思ふ人がある。夫れは大いなる間違ひである。私は皆さんに、お頼みをするのである。留守中に斯くの如き間違つた空気を発生してはならぬ。解放と云ふ詞に迷はされて、墮落する様な傾向を作つてはなりません。

第三に、解放と云ふことは自由を得ると云ふこと、創始すること、改善すること、新らしき産物を生ずると云ふことである。皆さんが進歩が出来ず、新らしき産物が出来ず、人格

が改善せられぬならば、理想が実現せられない。満足が得られないならば、是れ程の苦痛はないのである。此の爲に教育が必要である。然るに今日、教育は間違つて居ります。只、物を覚えさせて、此の自発力、創造力を抑圧する。之れは、今日の注的教育的の弊である。我々は之れを絶叫して居るのであります。然るに猶、之れを疑ふ者がある。只、物を覚えて居ればよい。文法を覚えて居ればよい。夫れで学問が出来たと思つて居る。所感をお書きなさいと云ふ所感は、自分の Production であるけれども、其の尊い産物を拵へさせる様なことは一向注意を払つて居ないのです。けれども大学総長であり文部大臣にもなられた菊地総長の如きは、教育家の集まりの一席で、試験全廃論をさへ稱へて居らるゝのであります。

あなた方は此の間 殿下の行啓の時に深い印象を受けた、勢力集中の経験をしたと言ふ。夫れはよいことであるけれども、私の見出だしたことは Production のないことである。創始力のないことである。之れがなければ、なんぼ一解放を口に稱へても、婦人が自分に必要な産物を生み出す力がなければだめである。ほんとの婦人の価値を発揮することは出来ません。私は毎日、あなたの頭の中から何かを見出だす様に望んで居るけれども、之れを大切なこととも思はない人があるそ一である。

四、五日前に英國の Bishop セシルと云ふ人が、Philipps さんの紹介で、是非私にあひたいと云ふことで、時を拵へてお目にかゝりました。英國の Bishop と云へば、学問も人格も財産も地位も揃はなければ出来ぬことである。此の人は初めてあひましたが、中々卓見家である。先年出しました Life の中の英学の研究法や、生活の高調や、其の他いろいろの改善について論じたことを見て、大層賛成して居られます。

私は今度、欧米の大家について確めたいと思ひますが、我々の考へて居ることは間違つて居ないと思ふ。今度発表する処の研究修養会によつて愈明らかになるであらうと思ひます。本氣にならぬ人には六かしいであらうけれども、之れは間違つて居らぬと思ふ。夫れであなた方の便利のために訳して、世界思潮として出しましたが、斯う云ふことは、私が居りませんでも留守の中に研究して、自分の実行として経験して貰ひたいと思ひます。あなた方の大切なと思ふことと、私の大切なと思ふことと大分違ふと思ひます。我々の学ぶべきことは沢山ある。夫れを学ぶ爲に、日も惟れ足らずである。故に、ほんとに取るべきものを取らねばなりません。

今日は、只物を知つて居る人を学者と考へて居るけれども、そ一ではない。一昨日、博文館の二十五年祭がありまして参りましたが、博文館では毎月七、八百の本を拵へて、雑誌には太陽と云ふものがあり、人文に貢献することは夥しいものと言はねばならぬ。けれども博文館の創立者 大橋佐平君は無学の人である。大橋佐平君は、アメリカのステッドが出て居る Review of Reviews を見て、太陽を出したのである。今、博文館で執筆して居る人々には早稲田出身者十七人、其の他大学出身者で学士と云はるゝ人が沢山使はれて居るのではないか。そ一すると、どつちがえらいか。只末に走つて物を覚えて居ることを学問と思ひ、人を使ひ、物を拵へて行く力の

大切なことを忘れて居るのである。英語は役に立たん、国文も何にもならぬ。未だ一年生位はよいけれども、卒業すると段々頭が働かなくなつて、家を持つと皆忘れて了うのである。我が国婦人の早く年とつて、発達のとまるのはそこに原因があるのであります。夫れで、今日申した事を一言で言ひますと、是れ迄私が説きましたこと、此の学校で十年以上主張して来ましたことは間違つて居ないと思ふ。故に先づ、

第一に、之れを信じておいでなさい。

第二に、之れを実行し、経験して下さい。

夫れは如何にすべきであるか。先づ第一を自覚せねばならぬ。ほんと一に力が出る様にせねばならぬ。

其の次には、ほんと一の解放の意味を解して、我が儘、情欲、境遇から解放せられて、ほんとのことに働くことの出来る処の人格を発揮して貰ひたい。そ一して、あなたの集中心は、創始と云ふことで、暗記するのではない。只覚えておくのではない。物を作り出すのである。

夫れらの経験を十分お積みになつて、其の結果を表して戴きたいと云ふことを私は切望するのであります。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
明治四十五年六月十九日

明治四十五年六月十九日  
大学部二、三年に於て

今日は、前の社会的人格、精神的社會關係が未だ結了しませんから夫れをすまして、此の次の時に、暫らく皆さんと御別れするについて其の留守のことを申しておきたいと思ひましたが、併し、そ一云ふ詞を一番遅くなつて申ししましても、夫れをお互に研究し、又其の仕事を開始しておくこと云ふことが出来なくなります。故に、その順序をかへまして、今日は此の学期の終りの詞を告げまして、若し時間があつたなら、此の前の続きに入りたいと思ひます。そして、この次の水曜日には、大学部全体に申すべきことを申さねばなりませんから、一年、予科も全体そろつて出られる様に致したい。

此の前に一寸凡その予定を申しました様に、此の六月の末か遅くとも七月上旬に此の国を出立する計画でありましたが、到底今日迄に其の外に出ます用意が半ばも出来ないであります。止むを得ず七月二十八日に立つと云ふことに延ばしました。併し夫れだけ延ばしましても、私の用事は少しも減らないのであります。是れ迄通りに時を使うて居りましたなら、間に合はないと云ふことになりまますから、どんなことがありましても、この月一杯に私の実践倫理、其の他の校務をきり上げなければなりません。夫れで今日と次の二十六日より、も一此の堂で講話をすることが出来ませぬ。けれどもいろいろのことがありまして集中も出来まましたから、夫れが為に遅れたと云ふことはあるまいと思ひます。

[出発前に準備すべきこと]

今日は、私が立つ迄にあなた方と共同して準備を致さなければならぬことが残つて居ります。其の準備は如何にすべきであるか。又、あなた方が此の学年になさねばならぬことがあります。そして明年の二月に私が歸つて参りますが、夫れ迄にあなた方はど一なさるべきであるか。そ一云ふことを申しておくことが必要であると思ひます。

其の私が留守の間に是非あなた方に力を尽して貰ひたいと思ふことは、大体この前、一年及び予科に凡そ五ヶ条ばかりにわけて要点を申しておきました。此の五ヶ条の希望は二年にも三年にも同じく希望する所でありますけれども、一年に申したことは、今日は重ねて申さないのであります。ど一かその点について皆さんが充分力をお入れになることを希望致します。

今日は、其の以上に私が全体に望むこと、及び皆さんがお尽しにならんければならぬと思ふこと、今年、只今全校が熱誠を以て尽さねばならぬ責任と思ふこと、夫れは私は間違つて居るまいと思ひます。夫れが、私の今日あなた方に衷心から訴へたいことであります。

此の前の水曜日に至誠と云ふ問題についてお調べになつて、二十二日迄に纏めてお出しにならねばならぬことになつて居ります。其の問題の結論は来る月曜日に、一年の時に申す事に致しますから、其の時に出来るだけ都合をつけておいでになる様に希望致します。

今日は、今の社会的人格について精神的社會關係と云ふ理論を述べることは致しませんが、此の間皆さんに訴へました、又、之れから説かんとする主義を応用する方面であります。

此の前に、精神的關係を論ずるに當つて、先づ社会意識 Social consciousness、又 Social society 意識的社會と云ふことがわかつて居ないと真髓がとれないと云ふことを申しました。之れ迄の社会心理学の説明が余り機械的になつて、其の真理が漠然として来たこと云ふことを申した。

[ロスの社会意識論]

夫れについて、心理学の泰斗である所のウイスコンシン大学のロス<sup>1)</sup>は、社会意識とは感情、信仰、意志の一樣なることである、或は普遍なることであると云ふ所の定義が、ほんとの社会的人格を解する妨げになると云ふことを説きました。此の解釈によると、個人の人格は社会をなす本位と云ふ様になるけれども、此の Unit 本位と云ふことは物質的の意味を以て居るのであります。其の Unit が集合して出来たものが社会であると云ふ様に考へ易い。其の感情、信仰、意志のよ一な精神の要素が一般的に相一致して、即ち Uniform になつて、同じ集合したものの間に同じ感情、同じ意志が通じて居る。即ち Common になつて居る。一樣になり、一般になつて居る。之れが社会的感情、社会的信仰、社会的意志と云ふものになる。夫れで、個人の頭の中にある觀念の集合したものが社会的關係になると云ふ風に考へ易い。そ一すると、社会的關係と云ふものが朦朧として、浅薄なる不確実となり易いのであるが、實際、社会的精神關係と云ふものは一層深く、一層高尚なるものである。故に、夫れを悟ると云ふことが社会的人格の一



要素であります。故に今、其の根本義を説かうとして居りますが、其の理論を説かうと云ふ時に當つて、我々は實際の生活に応用して生きた経験を味はう、又、其の社会的人格の活動を見ると云ふことが目下の急務であります。

#### [社会的人格の實際的方面]

此の社会的人格、又は精神的社會、之れは理屈ではない。只、頭で脳髓で解釈の出来るものではない。又、我々が人工的に付与することの出来るものではない。直観すべき実体である。其の人格を生じ、其の人格を實現し、其の生活を成し遂げる所の使命を、我々は直接に帯びて居るものである。

#### [根底の覚醒を切望す]

今將に、我々銘々の内に潜んで居る、此の間から説きました所の、太洋の如き深い、即ち Subconsciousness にある所の根底を覚醒せんとして居るのである。其の覚醒を促し、只今我々が日本に生れた所の使命を尽せと云ふ所の声が響いて居るのである。私が訴へんとするのは、其の良心に其の声の聞えることです。今日、我々の赴かんければならぬ所の其の使命を自覚すると云ふことが急務である。其の急務は果して何であるか。今、我々の内に動いて居る所の其の活動と云ふは、果して如何なるものであろうか。其の根本義が、真に皆さんの人格に徹底すると云ふことを切望するのである。

#### [エリオット博士]

私は、Harvard 大学の総長を四十年間して居る所のエリオット、Harvard 大学はアメリカの一番古い、又一番大きな大学で、今日生存して居る人々の中でルーズベルト、タフトの如き大統領よりも以上の勢力を持つて居る所のエリオット博士に先年、私は此の女子大学を興すことについて相談をしたことがある。其のエリオットの Program に、六日に立つと云ふことになつて居るが、我が国の女学校は数ある中で此の女子大学と云ふものが一つだけ入つて居るのです。そこで、あなた方は此の女子大学を世界に紹介する所の榮譽と責任とを荷うて居ると云ふことをお考へなさねばなりません。

#### [二十年の今昔]

私はエリオットに手紙を書かうと思つて以前の事を考へて見ると、何やら私の手帳に書いてもらったことを思ひ出しまして、夫れは 1892 年、丁度今から二十年前の十月でしたか、エリオットに逢うたのです。其の二十年前、私が Cambridge に居りました時は、Harvard に於ても未だ女子は入れない。其の後に於て Annex と云ふものになり、女子をハーバードに付属して入れることになりました。私も随分、我慢強い性質であります、其の時分、我が國に女子大学が出来やうとは思はなかつたのです。も一つの大きな問題が有つた。夫れは宗教問題で、自分は之れが一生を捧ぐべき使命ではないかと思ふ位でありました。そして女子教育は此の Foundation の上におくと云ふ決心を致しました。到底、此の考へが實現せられよ一とは思はなかつたです。然るにエリオットを迎へるに當つて、ど一やら國家も此の女子教育を認める様になつたと思ふ。此の時のしるしを見る人は幾人あるか。実に暗夜の星の如きものであると思ふ。然るに、実に驚くべきことがある。夫れは、この東洋には曾て出来なかつた所の生命が、今將

に展びやうとして、芽生へを出しかけたことあります。

#### [エリオットに報告すべき二つの喜ぶべきこと]

私がエリオット先生に喜んで報告したいことは女子教育のことであるが、夫れ以上に、意外なる東洋の出来ごとであることを話さうと思ふ 喜びを持つて居るのであります。其の東洋の文明の土台となるべき第二維新の淵原であり、根本義となるべきものである。精神的社會關係とも言ふべきものが、此の土地から發生せんとして居るのであります。

私はハーバードに行つた時から十七年と思つて居つたが、昨日帳面を見ると二十年になる。其の根本義については人に語ることなく、この講堂の中で Struggle したのである。其の生命を生み出さうとして、この講堂で苦戦をしたのであります。

#### [東洋の危機は如何にして教はるべきか]

其の結果、東洋ではど一しても今迄見ることの出来なかつた社会的人格が實現しよ一として居るのである。其の生みの苦勞をして居ると云ふことである。其の子供を生み出す為にも一一つ、我々は集中をしなければならぬ。人格を発揮しなければならぬ。其の使命を、あなた方は感ずることが出来たであらうか。夫れを感得する為に、も一一つ集中をして貰ひたい。瞑想をして貰ひたいと云ふことである。其の徴候は何処に現はれて居るであらうか。其の聲は何所に響いて居るであらうか。私は、あなた方が少し反省なさつたならば、夫れを感ずることは敢て難いことではない。

我が國は今、危機に居る。東洋は今、亡びんとして居る。私は、あなた方が夫れ丈けの感覚がなかつたなら東洋はど一なるであらうか。唯支那人の様に、只私の名譽、利益と云ふことになつて了つては何の役に立たぬ。昨日も支那から歸つた人の話に、彼れ等は國が亡びても自分の生命、財産と云ふものばかりを思つて、國と云ふ觀念はないと言つて居る。東洋は將に死なんとして居るではないか。漸くにこの日本が七千万の人間が、たつた六千人が血が通うて居る様である。朝鮮はど一であるか。印度はど一であるか。今日は既に命脈を失つて居るではないか。國家として僅かに息の通うて居るのは日本だけではないか。滔々として物質界に陥つて居るではないか。此に少しく恵みがあつて、生命が發生しよ一として居る。夫れにも拘らず猶、うかとして眠つて居られるであらうか。

私は、此の Inspiration があなた方には少しく感ぜらるゝかと思ふから、之れを訴へるのである。我々は其の時、其の時に反省しなければ、機會は去つて了うのである。日露戦争の時に山縣大將は我が國民として決心をしたのである。國を賭しても戦ふと云ふことをきめたのである。

#### [諸子は特に選ばれて我國婦人の使命を有す]

併し、今日の危機は夫れ以上である。最も其の使命を帯びて居るものは、今日の我が國婦人中のあなた方である。婦人中のあなた方が、ど一云ふものか特に選ばれたものとなつた。覚醒と云ふのは、ほんといに斯う云ふ時にあるのではないか。誰れか其のしるしを見たものがあるか。誰れか其の響きを聞きつけたものがあるか。も一つ此所に共同の力を發揮したいものである。あなた方は、この千載一遇の時をうかとしてよ

いものであるか。も一つ深く反省をして貰ひたいのである。

此の間 東宮妃殿下の行啓がありました。之れは私立学校として未曾有のことであります。あなた方は其の時の空気を想ひ起すことが出来るでありますよ。其の時に動いた空気、私は之れは一種の宗教であると思ひます。妃殿下も 皇太子妃殿下の御位につかせられて、一種の使命を御感じになつていらつしやる。之れは御一人ではない、一つの靈的の振動である。それをお迎へ申しあげた全校には、一種の精神が動いて居るのである。

夫れから間もなく、世界の代表者としてエリオット博士を迎へると云ふことは、深い意味のあること。Mutual understanding 国と国との了解、人と人との了解の為に斯う云ふ人が来られるのである。

未だあなた方は知らないけれども、私はほんとに一に天の使命である。私は自分の徳の卑いこと、力の足りないことは、実に憫れるしもべと申うて居るけれども、斯くの如き弱い者にも天の使命はあるのである。私は二十年、Struggleして居つた。其の道が開けよとして、私は明日、愈々其の会に臨む所の心の用意をして居るのであります。

私は、東西思想の衝突から東洋の破壊と云ふ時に、將に自ら破壊せんとする時に、其の危機を救ふものは誰れであるか。此の縁の下の力持ち、現れぬ所で力を尽して居る者、ほんとに此の使命を果さんとするものは何所にあるでしょか。どしたら、之れが出来るであらうか。

あなた方が続かなかつたけれども、屢々人々を動かしたのである。あなた方一人ではありません。弱いもの、卑い器が選ばれたのであります。我々が力を合せて当るならば、必ず之れが出来ると思ふ。我々は此の使命を受けて居るものである。私は真に、此の中に其のしるしを見、其のInspirationを感じるものは、ほんとに一に我々が生まんとする所の尊い人格を蔑視せんことを以て任ぜずしてはならぬと思ふ。

[私の洋行は諸子協同の背景にまつものなり]

私の洋行はあなた方の背景、あなた方の一致協同なくしては成り立たないのである。妃殿下の行啓のあつたのは、夫れで終つたのではない。之れは一序幕である。一面であります。あなた方が実に先日の行啓にあつて、お表しになつた至誠、共同一致は実に感ずべきものであるけれども、私共は自ら願ひて謙遜にならざるを得ない。我々の研究力、我々の産物を出す所の力、我々の発表力と云ふものは如何でありますよか。一番青くなつたものは何でありますよか。誰れが御前に出るとか、誰れが講義をするとか、其の人を選ぶと云ふことは、さ程六かしい問題ではない。成る程、光栄にはちがひないけれども、皆でするのであります。併し、此の恥かしいことは何でありますよか。

[謙遜なる所に至誠あり]

あなた方は我が国の最高高等教育を受けた代表者であります。其の代表者の頭から如何なるものが発表せられましたか。我々は未だ、力の足りないことを思はねばならぬ。あなたのなさつたものが発表せられましたが、我々は未だ力の足らな

いことを思はねばならぬ。あなたのなさつた講演、あなたの書いた其の文章、何所に生み出だしたのがありますか。我々は之れを申うて、ど一しても謙遜にならねばならぬ。併し、その謙遜な所に天の恵みはあるのであります。其の謙遜な所に、我々の至誠は湧き出るのであります。

次に、我々は社会から言ひましても、生れつきから申しましても婦人であります。能力から言ひましても、身体から言ひましても、甚だ薄弱なるものであります。其の弱い者に、東洋を救ふ任務があると云ふ様なことは、わからぬ人に言ふならば、甚だ無常識に聞えるであらう。弱くても非常に高い徳があるならばよいけれども、其の徳も亦甚だ微弱なもので、少しく困難に出逢ふならば直ちに挫折する位のものである。

けれども昔から、誠に弱者である、あれどもなきが如きもの、謙遜なるものに、天の使命があるのである。斯くの如き謙遜なるものに覚醒の気は発生するのである。其の時節は、も一到来して居るのである。其の時機を逸してはならぬと云ふことがわかるで有りませう。私は、ど一かも一つ瞑想して天の意志と一つになり、只今の時代の精神と融合して、時の必要に応ずるために、も一つ一致協力して実を挙げられることのために祈り、其の任務を完うしななければなりません。之れは只我が国家の為ばかりでなく、無限より有限に互る所の宇宙の精神に於て、神に於て、そ一云ふ傾きがあり、其の振動が我々微弱の者にまで及んで居ると云ふことを悟つたならば、私共は此に今迄の弱い自分を忘れて、ど一しても其の理想に向はねばならぬ。其の目的を達しなければならぬ。

[理想、目的の高調に達すべし]

此の学期の高調は、ど一しても其所に達せんければならぬと云ふことを私は深く感じて居ります。之れは只私一人の感じではなく、皆さんが夫れを感じて、も一層深く集中して共同したいと思ふ。明日は我が国にとつて誠に大切な時と思ひます。又、来る五日も誠に大切な時であります。故に、全体が一致して其の時を最もよく使ひ、七月の十日迄、又、明年の三月迄、世界的の活動を始むるに當つて、充分其の覚悟をなさる様に。之れが今日、私の皆さんに訴へることあります。

[中表紙]

正准会員の御話  
明治四十五年六月二十三日

明治四十五年六月二十三日  
正准会員に於て

今日は、珍らしく多くの卒業生にお目にかゝりまして深く喜ばしく思ひます。暫く御目にかゝらぬから、ゆつくり御話したいと思ひますが、多数のお方であるから心に任せませぬ。又、今日はいろいろ約束がありますから、お先きに失礼して又出掛けねばならぬと云ふ訳で、御話を致すよ一に考へを纏

める暇もありませんでしたが、斯うお目にかゝただけでも、皆さん御健康であり、相変らず熱誠を以て母校にお集まりになつたのは、私の非常に喜ぶ所であります。

今度、来月の二十八日に立ちまして、来年の二月末迄の間に、布哇を始めとしてアメリカから欧羅巴を回りますについて、あなた方からいろいろ友人達にお話なさりたい事もあります。個人個人にお話しを致す間がありませんが、あとから手紙でなりとお申しこし下さつても、亦、私の宅へお尋ね下さつても宜しい御座ります。尤も此の頃は大層多忙で、外出勝ちでありますけれども、今年の例会に於て皆さんに、此の会で私が感じを述べます最後の機会に於て、最も深い今日の思想界の有様をお話することは、私の最も喜ぶ所でもあります。

三年生には此の前の水曜日に、今日は我が国の著しき発展について大切な時である。願はくは今後我々が益々一致共同して進まねばならぬと云ふことを申しました時に、此の月二十日は我が国にとって重大なる事の起らんとする萌しの日である。故に、も一一層あなた方が目をさまして、事をしなければならぬと申しましたが、其の内容を申さなかつた為は何の事やおわかりにならなかつたかも知れぬ。けれども、之れは只私の感じを申したばかりではない。

[我国精神界の統一(婦一協会)]

桜楓会の幹事からの御要求もありましたから、御存じのない方もありましょーが、六月の二十日は、予て私共の切望して居りました所の精神界の統一が出来て来た。今後社会を導く所の社会的人格が出来て来た。その名前は婦一協会と名づけられました。我が国の社会に婦一協会と云ふものが生れたと云ふことにつきまして、其の大体をお話することは、皆さんの利益になることが多いだろーと思ひまして、又、夫れから今日の大勢をお感じになることが出来るであらーと思ふ。

[渡航の目的]

又、今度私が洋行することは夫れが主なる目的ではないけれども、大層深い関係のあることであるから、皆さんは夫れを考へておいて貰ひたいのです。其の関係が大層広く又複雑である上に、此の頃はは大層忙しいのであるから、そー云ふことを申す為に充分用意をして順序を立てゝ申す暇はありませんけれども、私がそんなに申さなくとも、あなた方は同じ感情を心に抱いて居らるゝと思ふ。

[感謝と希望に満つ]

私の感情を言ひますと、私の子供のときから奮闘して来た、命をかけて望んで来た其の望みが出来得るものであろー、夫れが事実であらーと云ふ光明が認めらるゝ様になつたであらーと思ふ。私の心は過日来、誠に深い感謝に満ちて居る。言ふ可からざる深い望みと感謝とを以て満たされて居ると言はるゝであらー。併しそ一言ひますと、今日の女子教育も、精神界の運動も、世の文明も誠に順調であつて、満足せらるゝ時代であると云ふ様に解せらるゝかも知れぬ。けれども一方には、誠に我々の力の足らぬこと、徳の不充分なることによつて、誠に深い心配を持って居る。此の憂ひと希望とが、私の此の生涯一日も忘れられない問題になつて居るが、これに

ついては時々お話をしてあるから、お察しがつくと思ふけれども、夫れがどー云ふ風に発展しつゝあるかと云ふことについてはおわかりにならぬ方が多いと思ふ。故に、其の内容について一通りお話しすることが必要であると思ひます。

[諸子は熱心なる愛校者である]

私が今此所へはいつて参りまして、実は今朝は早くから約束してありまして、既に其所へ行つて参りました。此の会で何を言つてくれよと云ふことはわかつておつたけれども、どー云ふ順序でお話しすべきか少しも考へる暇がありませんでした。けれども此の堂に入つてあなた方の顔を見ると、此の間卒業式で申しましたよーに、あなた方は永久、母校の娘である。熱心なる愛校者であると云ふことを感ぜずには居られません。

又、三年生は此の忙しい時機に於て、不意なる出来事が続々起つて来るにも拘らず、誠に愛すべき態度を以て着々事をしておいでになることは直ぐわかる。故に私は、大学生が重大なる使命を悟つて、新しい命に生きて活動して居らるゝと云ふことがわかるのであります。

[幼少より逆境に逢ひ、又宗教上の問題に苦めり]

私は子供の時から殆んど逆境ばかりに戦つて参りました。殆んど小さい時から親もなく友もなく、自分一人では信じて来ましたが、ほんといと同じ信仰を以て話しあひ、夫れを助くる所の親も友もない。一時は帝国大学も文部省も自分の事業を妨げる所の敵であつたこともある。又、私の故里は長州であります。其の長州の先輩達も中々私共の事業には妨げになつたこともあります。

も一一つ私の根本問題は宗教問題であります。之れは女子教育、信仰問題の根本となるものである。これも今から二十年前、アンドーバーで一年余り苦しんで漸う見出だす所があつて、是れがどーなるものか、我が国でどーなるであらーかと殆んど見込みは立たなかつたのである。丁度聖書にもある様に、籬をよせよとするとわけられる。少しく育てよとすると Check せられるのである。あなた方が年々卒業しておいでになるけれども、社会へ出ると世の荒波には堪へ得ないのである。併し私は、どーしても私はこれより他に道はないと決心したのであります。

[四十五年に於ける我が大なる Inspiration]

私は十三の時に志を立てましたが、国の先輩は大抵政治家になつたのである。私はどーしても世界と云ふことが思はれる故に、自分は若し政治家になるならば世界的政治家になりたいと思ひました。

夫れから宗教にも入り、教育もする。従つて、どーしても世界の勇者となるには世界的にならねばならぬと、昨年迄考へて居りました。

そーして明治四十四年を送つて四十五年となる間に、一つの大きな Inspiration を受けました。夫れは、自分が今度世界を漫遊するのは、只世界の女子教育を視察するのみならず、他に大きな使命があるかと考へました。

[信仰告白の時機来れるを思ふ]

夫れは、私はある方に申しました様に、日夜私が集注する

のは宗教問題である。之れは私の道徳、私の研究問題と少しも離れぬものであるから、校風の上にも其の命は加はつて居ると思ふ。けれども真にこの信仰の立場を世に明らかにし、自分の信ずることを告白すると云ふことは、私の友人にも話すことなく二十年を過ぎて参りましたけれども、ど一も其の時が来たのではないかと云ふことを考へましたので、私の信ずる所の態度を友人にも明らかにし、猶或る程度に於て、世にも公にすべき時かと思ふ。

そこで私の告白は、先づ自分が其の信仰に入る。又、洋行するに就いても、真に夫れが私の Calling であるならばお受けをすると云ふ決心をしなければならぬ。又、桜楓会員の皆さんと二、三年御一緒に研究、修養して参りましたから、一段落をつける必要があると考へました。

そこで、帰一協会と名づけて私も其の中に入つて、二十人の発起人が主となつて、三十人ばかりの人に手紙を出して、此の二十日に集まりました。其の他、外国に行つて居る人が四、五人あります。そ一して、会には出られないが入会したいと云ふ人も続々現はれて参りました。

其の時に私は申した。我々が発起人と云ふ名を以て案内を出して、皆さんにおよりを願つた。そ一すると我々が何やら拵へる様な、名前から帰一と言ふから、キリスト教も仏教も神道も総てのものをよせるよ一に聞えるである。けれども我々が拵へるのではなく、入るのである。

#### [宗教、信仰の真髄]

Logos と云へば西洋の名で、Yoga と云へば仏教の方である。帰一と云へば実は支那の語であるが、そ一云ふことは申さない。そ一云ふ精神界の帰一点とか宇宙の Reality と云ふよ一なものは、我々が拵へることの出来るものではない。私共は夫れに導かれて居る。我々が拵へたのではない。自分は夫れに入つたのである。Devote したのである。之れはあなた方にも申した様に、之れが我々の道徳であり、宗教である。夫れが我々の生命であり、神である。夫れと私共が一つになつたのである。私は之れ迄、キリスト教に入つたことがある。仏教にも私の家の籍があります。神道も信じたことがあります。儒教も私の家にありますけれども、今度のもは今迄のものよりも一層広いものであると信じたから、之れに入つたのである。其所に兄弟もあるから、其の兄弟と共に事をして行くと思つて寝につきましたところが、夢を見ました。

其の夢に、私のなくなった父と其の二十日前になくなりました弟と二人が出て来て、其の間に川がある。弟は始終、私の仕事を助けて居る。私は足の指に棒をはさんで輪をかいて居つた。ところが親は、そんなことをしたつてかけるものかと云ふ顔色をして居る。私の父親は何も言はないけれども、わかるのである。親の心はよめるのである。所が親は何を思つたか、私をどんと打つた。けれども私は其の為に自分の持つて居る所のものを失はなかつた。其の時父は、夫れ程の決心ならまあよいわと云ふ顔色を表しました。弟も喜んでくれました。

そこで私は、自分の親と弟とが現れて来たから、之れを Symbol として帰一協会に入りました。そ一して、私が一番長く共に事業をして居る所の学監にも言はない先きに、桜楓会例会で話し、其の次に麻生学監に話し、次に森村さんに話さうと思つたが、之れは病氣であるから渋沢さんに話しました。然るに男爵も、実業と云つても只金を儲けるばかりではない。ど一しても精神修養の根本から始めて行かねばならぬと云ふお考へから、賛成の意を表せられた。

#### [万国精神的平和の宣伝]

そこで私の外国へ行くは、International movement を起すと云ふことである。今ある所の万国平和は Balance of power で、勢力平均である。けれども、ど一しても精神的平和を開かねばならぬと考へました。夫れで Life を書いたのも、其の他いろいろのことは、皆万国的の立場を明かにして、今、世界の精神界がど一なつて居るか、幾らか瀬踏みをして見よ一と思ひました。

#### [入会者は悉く国家の中堅なり]

そこで先づ、東京の帝国大学で姉崎博士、実業家では渋沢男爵、森村翁も Staff に入ると云ふ。其の次に浮田和民君、之れは早稲田大学。夫れから帝大で井上哲次郎君、中島力造君、京都大学の松本亦太郎、桑木嚴毅、上田敏、之れは文学の方からである。夫れから宗教家の方では同志社の原田君、ギユリキ君と云ふ様な顔触れである。私は実に、期せずして兄弟が出来たと思つて実に嬉しかつたけれども、私は黙して語らなかつた。そ一して綱島梁川君、海老名弾正君に話しました。も一つ驚いたのは宣教師のグリーンさん。外国人に一人、キリスト教に一人、坊さんに一人、レビーには江原素六、夫れに対しては村上専精さん。夫れから寺を持つて居る人では釋宗演。神道もあれば儒教もあると云ふ風で、皆、代表的の人々であります。

又、私も賛成であると云ふ人々には徳富猪一郎、金子堅太郎、大隈伯、西園寺侯と云ふ様な方もある。けれども、未だ入れないのである。

そ一云ふ訳で兄弟が沢山出来たのであるけれども、私は人が多くよつたからすると云ふ訳ではない。一人でも入るのである。皆が反対しても信じたらするのである。

夫れで夢に見たよ一な突き飛ばしや、反対やいろんなものが来るけれども、夫れは構はない。自分に信ずる所さへあれば、どんなことがあつても厭はないのである。女子大学を興す時に六十万の金があると云ふ。夫れは、ど一して出来るか。私にあるものは借金ばかりである。ど一して出来るかと云ふことが真先きに起る問題であるけれども、案外なものである。[今日の宗教は地方的にあらず、社会的人格の生るべきものたるべし]

又、昨日も或る学校の校長が来て、私に忠告をしてくれました。あなたは余り考へを發表し過ぎるから、世間の反対を買つて同情がよらないと云ふ話。又、或る人は、成瀬宗を立てるのである一などと云ふよ一な誤解を持つて居るゝ方もある。けれども或る人は言はれたよ一に、昔は仏教、キリスト教、儒教などとわかれて居つたけれども、今日は斯くの如

き地方宗を立つる時ではない。今日は、どーしても社会的人格の生るべき時である。其の時代時代にあ一云ふ偉人が生れ、宗教が生れたのである。今日は総てのものが囀一する所のものが生るべき時で、木に竹をついだよ一なものを拵へるのではない。或る人の如きも、今日は只物質的に傾いて居つて仕方がない。どーしても精神的生命をもり返さなければならぬと言つて居られます。此の一大危機に於て、どーしても精神的に蘇らせなければならぬ。

故に人は何と言はうとも、そ一云ふ中傷離間の説に惑はされぬ様に、お互は注意しなければならぬ。

教育制度の弊を矯正せんが為に此に中堅をおいて、尽さんとするものが此に出来よ一として居る。精神界に於ても、何時迫害が来るかも知れぬ。けれども我々は、天下の公道として尽さんとする多くの友を得たのは、誠に愉快であります。[諸子は大に修養、研究を勉むべきなり]

夫れで先づ、この会でも研究の問題を定めて、第一、哲学並びに宗教。第二、道徳、教育、文芸、それから経済、政治、国際問題。研究、修養、も一一つは教育の事、社会の事を根本的にして行かうと云ふ。斯う云ふことは案外の事で、実に感謝に堪へぬのである。夫れで、あなた方も益々研究、修養をお勉めになる様に。天の祝福は、既にあなた方の上に加はりつゝある。今度私は海外へ出るについて、ど一か此の生命の芽生への展びる様に。きずのつかぬよ一に。ど一か会員並びに学生諸君の共同によつて、其の實のあがるよ一におつとめなさるよ一に希望致します。

[中表紙]

大学部一年の御話  
明治四十五年六月二十四日

明治四十五年六月二十四日  
大学部一年のために

過日発表せられたものは、成績がよかつたのであります。之れに依り益々良い方に発展する様に思はれ、希望を属せられる。先づ、あなた方の力に相当して又は以上に、調べる力、其の考へを発表する力が充分とはならぬ迄も、先づ満足である。それならば欠点はないかと云ふに、未だなほすべき所、足りない所も沢山あるのです。この問題を完成したものとするならば、之れは完成する所の要素の一部が出来たのである。之れにつき満足が出来る。併し更らに、も一要素が必要である。至誠と云ふ問題の真髓となるものに未だ達して居らぬ。故に、完成したのものとして安心をせぬ方がよい。つまり、材料を充分調べたと云ふに過ぎぬ。なほ、この材料を用ひて、も一つ是非研究して、ど一してもあらはすべきものがある。

今日は至誠の問題につき、結論をつける考へでしたが、今こゝに之れを述べる時は早いと思ふ。このお書きになつたものは、この頃の論文である。此の頃行はれる著述的のもので

ある。私はこれにより、日本固有の道徳、仏教、儒教と云ふ経験にある至誠の材料は、大分集まつた様に思ふ。其の本を調べ、總めて一つの文章に組み立てられたこと、之れは書物を暗記し筆記するよりも有益である。併しも一つ、研究と云ふよ一なこと、殊に修養のために研究する論文としては、大事な要素が欠けて居る。即ち、他に二要素が充実しないと云ふことである。

[至誠は我が宗教、道徳の淵源なり]

至誠とは我が国宗教、道徳の淵源と言ふべきもので、勅語の真髓もこれであります。姉崎博士の如き、之れを勅教と言つて居る。之れは誰れも口にとなへ、道徳の標準に定めて居る。併し其の弊は、形式に流れて生命を失うて居ると云ふことである。

今日の道徳が、も少し活動があつて欲しい。之れ、今の道徳、宗教界の通弊とする所である。即ち空想に陥り、其の真の命を失うて居ると云ふことになる。この問題をとつたのは、日本の宗教、道徳の本源に遡り、其の真髓をつかまへることである。も一つ、之れはわかりきつたことであるが、言葉に流れ生命を失つて来たことを見出ださせよ一と云ふ一目的であつたのです。

あなた方の論文は形体は出来たが、も一つ生命が満ちて居らない。興味、熱心がたりない。感情がともなつて居ない。意志となり、活動となつてあらはれる力が乏しいと云ふことになる。一言で言へば、生命がも一つあらはれて居ないと云ふことになる。

[至誠は生命実体、樂觀的なり]

然るに至誠の真髓、即ち我が道徳、我が宗教の真髓、国民性の根本は矢張り、この言葉の真髓である。死の形体にあらずして、生の生命である。空想にあらずして、実体である。悲観にあらずして、樂觀なり。故に、日本の神は日本固有の神で、死や悪魔をけがれとして、これ等の汚れは、はらふのである。故に、若し神の宮に死の何物かがあらはれた時は、土を他に移し、或は拝殿を毀ち、或は他に移すのである。若し家の内に死人あらば、神に近づかぬと云ふことがあつた。これは、死は汚れを Symbol とするが故である。故に、我が国の神は生きて居る。死ではない。然るに仏教は欠点を捕うた点もあるが、道徳を傷つけた点もある。儒教が入つて、多くの形式道徳を入れた。これ等は、我が国古来の宗教、道徳をして形式にとらはれ、本当の生命真髓を失ふに至らしめた原因をなして居るものが多い。

故に、至誠は生を先づ見出だすべきである。至誠は生きて活動して居る。然るに、今度あなた方の論文は Form である。故に生命を發揮して居らぬ。先づ研究することが至誠であるべきである。生きて居り、適実有効でなければならぬ。機械的ではいかぬ。

[今日の教育の通弊]

然るに今日の教育は如何と云ふに、至誠なく機械的、受動的、形式的である。これが、私が至誠が欠けて居ると言ふ所以である。この原動力が欠けて居ては、いくら骨を折つても、勉強してもだめである。

そこで皆さんは、この問題が出たら義務として研究しなくてはならぬ。又、これを調べるにどんな書物がよいかと考へて、其の調べた結果をおまとめになつたのでせうが、書を読む前に、また読んだ後に、考へねばならぬことが欠けて居る。又、各自の特色があらはれてなければならぬ筈なのに、それがちつともなく、皆同じ様である。其の人、其の人に Uniqueness と云ふものがある筈である。それが少しも見えないのであります。知識も生きて居らねばならぬ。即ち Insight となくてはならぬ。この最も大切な要素は何か。

[問題を研究するに必要な三要素]

こんな問題をとるには、三つの要素が入るのである。

第一、Fact 即ち材料は広く精選され、整頓されたもので、知識は正当であるべきものである。

第二、其の Truth の統一、帰一点が大切である。其の事実の深い意味、統一された Point がなくてはならぬ。

第三には、其の Reality、其の生命、其の全体を自分と一致せしめることである。

この三要素が備はつて、知識が生きて来るのである。故に私は、こんな問題をとるには先づ生命から始めなくてはならぬと云ふ所以であります。即ち自分の中から湧き出る興味が動いて来なければならぬ。何か自分の仮説を見出ださんければならぬ。興味の起る要点がなくてはならぬ。

[先づ Inspiration に動かされなければならぬ]

預言者、宗教家、芸術家は、先づこの人の未だ見ないまぼろしを見、それに興奮して集中し、成功するのである。マホメツトが其の宗教の開祖となるに至つたのは、穴に蟄居して居るとき夢を見、其の Inspiration にふれて志を立て、凡ての危険を冒し、自分の使命を遂げたのである。

釋尊に於ても、クリストに於ても然りである。又、ニュートンの如きも同じである。これは生きた知識をあらはすからであります。先づ、この Insight が動いて来なくてはならぬ。先づ事をなすには、生命から、其の種から始まらなければならぬ。自動の興味がもとになり、それが内からあふれて来なければならぬ。これ、人間を生かす秘訣である。あなた方は、そ一云ふ経験を自分のものにしなければならぬ。

ソクラテスの如き、一度 Inspiration に触れるや二十四時間寝食を断つて、深く考へたのである。これが、あなた方の研究にも、修養にも、文学にも動かねばならぬ。至誠の生活にはこ一云ふ要素がなくてはならぬ。これがあつて、ほんとの教育が出来るのである。私は、ほんとの力を養ひたいと思ふから、この問題をとつたのである。然るに、あなた方には未だ仮説なく興味なし故に、感情の点が欠けて居る。

[思考すること]

これは研究の始めであつて、次に大切なことは、思考することである。これは此の前に話したことであれば委しくは言はぬが、之れを銘々が深くなして、其の根本を見出ださねば、今日の習慣が教はれないのであります。

[活動あること]

次に大切なことは活動であるが、論文に力のないのは活動が足らぬからである。即ち意志力が無いからである。決断、

果敢、勇敢と云ふ様なことが足らぬ。これが今日の教育の弊である。今日は知ることの許り急で、行ふ方面が欠けて居る様である。これはいけないのである。至誠と云ふ問題の如き、特に之れが大切である。

故に、先づ仮説が立ち、第二 思考、第三 意志力が働かんければ、本当の論文にならぬ。其の辺の所を今日から考へて、従来の旧弊を改めることが諸子のために大切と思ふ。

至誠につき其の結論は言ひませぬが、今後の諸子の精力集中のため、修養に是非おつとめにならねばならぬ。今日は非感じんければならぬ点と思ふ。即ち、行品性にならんければならぬ。之れを、も一つはつきりしておく必要があると思ふ。

[至誠とは帰一、調和なり]

第一、至誠とは帰一する、調和すると云ふことである。故に精神的の言葉で言へば、一致の精神、まことの精神である。まこととは健全なる精神状態を言ふ。これは凡ての力が一致協同して居る状態、即ち Light living である。これ、我が心と神の心、全体と我が理想と我が行と人格が一致する。即ち靈界に於て矛盾、衝突が消滅して、総ての力が調和、統一した状態を言ふのである。

[至誠に反するもの (1) 自己を欺くこと]

之れに反する所の精神、之れを自らを欺くこと、自家撞着、或は理想に反する状態と言ふのである。此れ、至誠に反する状態である。私共人間は、昔からこの至誠と非至誠が衝突して苦しんだものである。

私共はど一しても誤り、矛盾、或は不正、欺きから離れなければならぬ。心の奥底からはらひ去らねばならぬ。これ、我が国に於て昔から、悪魔を払ふと云ふ意味である。この心理状態が間違ふならば、理想、目的を達することは出来ない。

〔2〕我儘

第二に至誠を破ることは我儘である。即ち利己心である。これ、実は我れを殺すものである。これに勝たんければ、本当の実力を養ふことが出来ない。

〔3〕傲慢

第三は傲慢である。之れ、自らのやみ傷つくものである。至誠たらんものは、先づ謙遜であるべきである。

〔4〕忿怒

第四に忿怒である。之れ、我儘、傲慢から来て居る。勢ある如く見えるがうそである。忍耐、謹しみは、我々の精力を集中するものである。

[至誠は勇氣あり精力集中の状態、これ我が武士道]

それから、精力集中に必要なものは勇氣である。我々が使命のために危険を恐れず、反対に恐れず、我がなすものの為奉仕する、これが至誠には必要である。我が国武士道は之れである。この勇氣があらはれた意志が、集中に欠くべからざるものである。

[至誠は活動なり]

終りに、至誠は生命である。活動である。永久的なる活動なり。積極的なる内容である。只集中は、一時に現はれて消ゆるものではない。永久、不消不止の発展活動である。即ち、ロイスの曰く、目的に忠と云ふ。即ち目的を追求する、目的

のためには生涯如何なることがあつても誘はれず、生涯追求して止まぬ、奮闘して屈しないことである。至誠なる人は、パンのために生きない。その使命のため生涯止まぬ目的をいただき、是のため昼夜、全心全力を尽す。これが至誠である。この力の連続、完全が教育の目的でなくてはならぬ。これを傷つけ、一時の圧迫に誘はれてはならぬ。今日の教育は、こゝに苦しんで居る。あなた方は之れをぎりぬけ、永久に発展する様にせられたい。これが、至誠の問題をとつた所以であります。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
明治四十五年六月二十六日

明治四十五年六月二十六日  
大学部二、三年のために

此の前の月曜日に、大学部全体がお調べになつた至誠と云ふ問題の結論をつけると云ふ考へでありました。二年は大分出て居りましたが、三年は差し支へが多かつたよ一である。

今日は、三年及び二年に対して、お調べになつた研究、あなた方の自動的になつた研究の批評を一言して、尚夫れについて私が満足に思ふ所、又、もう少し皆さんに考へて貰ひたいことを申して、大体の結論をつけるつもりであります。

夫れが了ひましたならば、社会的人格と云ふことについて、私のこの間から致して居ります所の講義の了ひをつけて、其の後で至誠と云ふことと社会的人格と云ふことを一つに纏めて、今後あなた方が実行に応用なさるよ一な方面を申し度いと思ひまして、今日成るべく全体を一緒にして御話致すのであります。然るに、之れが皆さんに此の堂でお目にかゝる最終の日となりましたから、今日、余り理論を申すと、実行の方を申す暇がなくなります。そこで、も一日、時を設けよ一かとも考へましたが、ど一しても私の時間が足りなくなりましたから、止むを得ず理論の方は是れから将来、皆さんが銘々でお調べになることにして、実行の方面を主に申し度いと思ひます。

[至誠と社会的人格の発現]

私共は此の学年の第一期におきまして、至誠と云ふ問題と社会的人格と云ふ問題とを研究致しました。是れには、夫れ夫れに一つの特珠の集中点があります。けれども、相別れて居る独立の問題ではない。つまり、ほんといに吟味して参りますと、つまりは一つに歸するのである。夫れで、至誠と云ふことも社会的人格の発現と云ふことも同一のものである様であります。又、そ一云ふ様な幾らかの差異の点が考へられますけれども、其の実は、二つのものでなく一つのものである。其の程度と強度が違ふと言ふことが出来ましょ一と思ひます。そこで、程度の違ひであつて、種類の違ひではない。其の発現の程度には違ひがありましょ一けれども、至と云ふ字

がついて居る以上は、既に社会的人格に関するものでなくてはならぬ。故に、先づこの二つの問題は一つのもので致しまして、初めに、至誠とは何ぞやと云ふ問題について、あなた方は充分に答へをなさつたのであります。併し、其の答へが詞であり形式であつて、内容が満たない様な感があるのである。あなた方は之れに答へて、否、夫れには大に内容があるのである。我が国、昔から今日に至る迄の多くの材料を収集して十分考へを練つたのであるから、沢山の内容を持つて居ると答へなさるでしよ一。併し、其の詞の内容が矢張り Form である。形式である。

[誠は靈眼にうつる Inspiration なり]

此の間一年に申しました様に、至誠と云ふ以上は誠である。誠は現実である。今、生きて働いて居るもの、今、生きて活躍して居なければ、我々の思想に、感情に、意志に、行動に、活動に生きて居なければならぬ。現在に生きて居なければ、形式である。形骸である。故に至誠と云ふものは、第一に正である。靈眼で見る所のものである。誠は Vision である。Inspiration である。

而してこの誠、今現実生きて働いて居り、生きて働いて居る所の内容は幽霊の如きものではない。渾沌たる矛盾、衝突、混雑を極めたものではない。純然とした秩序あり、意義あり、目的ある所の我々の理性で判断が出来、我々の Sense で感ずることが出来、我々の心靈によつて見る事の出来る所の具体的の生命である。其の生命の内容に生き、其の精神の高調に達した所にある。之れを精神一到とも、亦是は社会的人格とも申すのである。

[至誠は深き中心に感情の動けるものなり]

そこで、至誠と云ふことは、我々の各自の人格に現れて居る所の内容が鮮明せられねばならぬ。又、其の関係から様々に出来て居る所の社会的人格の、只今の生命がわからなければならぬ。即ち、この間申しました Insight がなくては、わからぬのである。故に第一に、至誠がわかつたとか、或は、社会的人格がわかつたとか云ふならば、其の生命を感じる所の深い情緒、情操の感情が動いて居らねばならぬ。即ち、銘々が精神一到で、其の熱が頭の中に起つて居なければならぬ。私が前に所感をかゝしたのも、そ一云ふ時に動いて居る所の感情によつてわかるのである。故に先づ、只今の思想界の潮流と云ふものが、我々の中に動いて居なければならぬ。夫れがなくては、ほんといにわかつて居るとは言へないのである。

[至誠には知識を要す]

第二には、深い知識が必要である。即ち、只今の自分なり、自分と社会なり、今日の社会万般のことがわかつて居つて、出来事の解釈がつくと云ふことが大切である。

[至誠には全心、全力を以て働くことを要す]

第三には、私共が其の時代の要求に応ずる。其の時の人類は高調を作る所の大合奏の Part を取る。即ち、我等が寝食を忘れて日夜働く。喜んで、又凡ての困難に戦つて全身全力を尽して働くとき、其所に始めて至誠が現れるのである。其所に始めて社会的人格が現れるのである。其のわざをせず、

ほんとに深い真理を理解することは六かしいのである。

そこで、ほんとに研究する場合には、我々の詞にそ一云ふ内容が現れねばならぬ。又、そ一云ふ内容を創始して行く所の労を積まずして、只昔からの人間の経験を集めて其のしるしを取り扱って、其の研究によつて真理がわかつたと云ふ様に考へたならば、大なる誤りである。そこで、あなた方の研究にそ一云ふ内容ありや、否や。又、時々刻々に進んで已まない所の経験ありや、否やと云ふことを質さねばならぬ。ど一でせう。今、私が言うた意味がわかるでしょ一か。

私は、そ一云ふ意味あることに興味が出来たと云へば、ほんとに出来るかと思ふ。私共の今年、非常に骨を折つたのは、其の点であります。夫れも、只詞であるとして聞いて居れば、何にもならないのです。私は、人は違ふけれども十二年の間、そのほんとの命にど一したら行かれるかと云ふことについて Struggle して参りました。も一目を醒ましてもよい時であると思ふ。けれども、斯んな至誠とか何とか云ふことについて、書物は読んで只詞であり、形であるならば、ほんと一につまらないのであります。あなた方がいくら口で理屈を並べたつて、役には立たぬ。

[我が国民は真面目が足らぬ]

今、我が国が何故、世界から軽蔑せらるゝか。本気にならぬからである。真面目が足りないからである。只うはべのこをして、試験などを通過しきへすればよいと思つて、ほんとのことをしない。今、我が国の婦人は困つて居ります。あなた方も出たならば、苦しむにきまつて居る。

私は、今は時なり、今は醒むべきときなりと思ふから、ど一か、ほんとに眼をあけ耳をあけて、ほんとのことを見、ほんとのことを聞いて、良心の聲に耳を傾くべき時であると思ひます。之れは詞ではない。全く、あなた方の態度一つであります。私は此の最後まで、私の力のある限り、あなた方と戦つたのです。又、私の時のあらん限り戦つたのです。ど一かして、此の精神がわかつて貰ひたいのである。

[諸子は覚むべき時にあらずや]

実は、若し私の見当が違ひますなら、あなた方は今、其の誠を汲み、其の真相を見るに用意が出来て居らん。夫れだけの要求が起らんと云ふことであるならば、仕方がない。故に私は黙するより他、仕方がない。時を待つの外はありません。あなた方はど一お考へになるか知らないが、今日は、も一其の時になつて居ります。あなた方は、も一覚醒してもよい時代になつたのではないか。我が母校も既に十二年になるから、今や其の時になる一として居る。最早、あなた方も目を醒ましてよいではないかと思ふから、今日これを話しかけたのである。

併し、只詞ではわからないのである。銘々で眼をさまさねば、即ちゼームスの言つた様に、信仰と云ふことは意志である。やはり銘々の意志の力で出来るのである。之れが即ち、此の間から言ふ Concentration で、も一つ子供の域を脱する、も一つ熱心になるならば、私は不可能のことではないと思ふ。此の中に一年生もあり、予科もおいでになるけれども、等しく其の態度になれば、私はわからぬことはないと思ふ。故に、

も少し注意を払うてお聞きになるならば、私は、わからぬことはないであろう一と思うたのであります。

私は今、此の問題を研究すると云ふことは、今、此の堂に満ちて居る空気をほんとに感ずることが出来るよ一に、今、世界がほんと一に出来つゝある大きな働きを理解することの出来るよ一に、其の働きにほんとに同盟することが出来るかど一か、其の意味を申したのであります。

併し、夫れは詞ではない。ど一かして、あなた方に Realize して貰ひたい。本気になつて考へ、決心し、実行する。全身を Devote する。永久の運命をきめる。即ち、此の我々が新しい命を生み出だす。否、我々自分が此に更に生れんければならぬ。只わかると云ふことではない。只見ると云ふことではない。自分の生命に大革新が行はるゝことである。自から新になる。生れかほる。Create する。新しき経験が出来る。深い経験が生れる。自分の人格が出来て来る。之れである。

[年来希望せし人格の実現を願ふ]

我々は長い間希望し、十数年折つて居つた。斯くの如き人格が現れて来る。我々の理想が実現せられんとする事実がある。斯う云ふ生きた経験が出来る。ほんとに生みの苦勞を共にする。ほんとに之れを生むために Struggle すると云ふことが出来なければ、社会的人格の発現と云ふことは出来ません。故に、自分からほんとに此の Struggle をして居る、命がけになつて其のことにかゝつて居ると云ふことでなければならぬ。

今、此の大学の上に、あなた方個人の上にも、そ一云ふ使命が下つて居ると、私はそ一思ふのである。私の今皆さんの人格の内に出来つゝある至誠と云ふのは詞ではない。人格である。生命である。私は今、此の生命があなた方の間に生れやうとして居る、又は既に新しく生れて居ると云ふことを信ずるのである。それを現して貰ひたかつたのであるけれども、それを現したかと云ふと、無邪氣に真面目に至誠に表すことが足りなかつたと云ふことであります。此の間うち、社会的人格と云ふことを申しましたが、語を換へて言ふならば、国家的人格が現れたかど一かと云ふことである。これが生れるには境遇がいるのであります。

[至誠 校風の上に現はる]

我が国の御国の魂となつておいでになる、其の中心点となつておいで遊ばす 妃殿下の行啓が御座りました。此の時に於て、全校の間に一つの空気が満ち渡りました。此の時に於て、ほんとに深い愛国の心に燃えて、忠と云ふ深い生命が満つることを得たのである。之れは、私は偶然なことではないと思ふ。我が国の歴史を考へ、只今の精神界を考へたならば偶然ではない。斯う云ふ時に真に深い精神を以て、忠と云ふ国家的人格が出来たであらう一。或る人は既に出来たと思ふのである。此の至誠と云ふ命が、此の校風と云ふものの上に確かに現れたのであります。それが今あらはれよ一としたときには、是れ迄の伝説、習慣と云ふものために妨げられたのではないかと心配をするのでありますけれども、種は既に植えられたのである。そ一して之れは皆、自分自分の中に植えられたもので、私共は日夜之れを培養したいと思ひます。併し、それだけではありません。



[今日は生命の高調に達すべき時にあらずや]

今は時であります。夫れは生るゝ時である。生命の高調すべき時である。生命の発生したと云ふのは、将さに高調の域に達せんとする時であります。私は、皆さんが眼を開けて真相を見ることが出来、新しい生命が我が敷島の土地に生れ出でた云ふこと、之れは未曾有の大和魂の再生である。言ひかへて見れば、之れは実に最大なる社会的人格の発現であると思ふ。之れを皆さんがお感じになることが出来るかど一かと云ふのである。之れは只詞にあらはしても、其の事実を連ねても、自分のうちに其の経験を持ち、又、そ一云ふことに日頃努力して居る人でなければわかり兼ねます。けれども、そ一云ふ生きて居る経験の内容が調べられんければ、生きて居るとは言はれない。

之れ迄は精神的生命と云ふものが物質的文明のために妨げられて居りました。私共は旧日本にも足を跨げて居りますから、其の変遷がわかります。併し、ど一しても精神的方面が発達しなければ滅亡を免れない。私は、日本は外から亡ぼされる気遣ひはないけれども、内から破滅しないとは限らぬと思ひます。故に、私共は此の女子大学を興したのも、そ一云ふ動機からであります。桜楓会の出来た時にも、亦此の学校の毎月会の出来た動機も、皆一つであります。私共が、ほんといに修養しよ一と思へば、ど一してもこの点から出発しなければなりません。

[多年熱望の宗教団体生引]

然るに其の団体、之れは宗教と言つてもよい。我々の長い間、熱望して居りました結合が生れたのであります。之れは或る意味から言へば、殆んど奇跡の如きものである。其の内容は追々とわかりましょ一。この生命が至誠の研究の中に加はりましたと云ふことで、此の精神は我が女子大学の中にもあるのである。夫れで、ど一か皆さんがそ一云ふこともわかり、又それを感じる事の出来るよ一と思ふのである。

も一つは、確に今日、生きて居る所の事実であると思ふ。併し、斯う云ふことも精神界の波動で、無線電信か何かの様に自然に動いて来ることもありますけれども、事実として続々あらはれて来るのである。

[エリオット氏]

夫れは、一昨日着京せられたエリオット博士一行のことであります。昨夜 Harvard 出身の人達の晩餐会がありまして、私も招かれて参り、いろいろの話の中に、感じたことがいろいろあります。Harvard 出身の金子子爵が、エリオットを紹介して言はるゝのに、エリオット氏の名は世界到る所、文明の光の及ぶ限り知つて居ないものはないと云ふことから説き起されました。氏は誠に謙遜な態度で答へられました。其の意味は、自分の人格と云ふものが決して個人的でない。又、Harvard の事業が個人的でない。つまり共同の結果であると云ふことになるのであります。そ一云ふ訳を、始めて日本に來られて感極まつた様に見受けられました。同校を四十年前に卒業せられた目賀田男爵や、又日本の外交の事に尽されて既に故人となられた小村侯のことなどを例に引いて居られました。

[ハーバード大学の主義は至誠]

Harvard はユニバーサルで、標語は Veritas。之れは真理と云ふことで至誠と云ふことになる。至誠は Harvard の主義を表すものである。エリオット氏が始めて入学せられた時には非常なる攻撃があつたけれども、世界は段々 Harvard の主義になりつゝある。ハーバードはユニバーサルである。故に其の例としての話に、或る教授が American Political Economy と云ふ書を現されたけれども、Economy も Universal のもので、American と言ふことはないと言ふことから説き起して、宗教にしても、道徳、科学にしても、国家的と云ふことに悖るものかの様に考へるのは誤りであると言はれました。

[婦一協会とエリオット氏]

これと同じ考へから、私共は、ほんとに我が国の識者であり中堅をなして居る人々と謀りまして、婦一協会と云ふものを作りました。そ一云ふ Movement の起つたことについても、エリオット博士は、非常に喜んで居られます。今後、東西両洋の文明が接触して、握手をしよ一と云ふ時、仲媒者として此に偉大なる人格を求めて居るときに、エリオット氏の如き人が、我が國に渡來せられた。又、そ一云ふ人と共に、この様な相談を開くと云ふことは、非常に深い意味のあることと思ふ。[最近の世界的人格は誰れぞや]

我々は近世、最近一世紀の間に於て、世界に如何なる人格が生れたかを考へて見ますと、いろいろありましょ一が、我々が真に敬意を表する所の人格はど一云ふ土地に生れたかと云ふと、革命と云ふよ一なことを惹き起したと云ふ所に多い。

[ナポレオン ワシントン ルーズベルト]

歐羅巴にナポレオン、アメリカにワシントンが生れた。併し、真に国民が父として尊敬し敬慕し、真に Universal として世界の何所にも通用する所の人はと云へば、ワシントンと云ふことについては、誰れも異存はあるまいと思ふ。

夫れから後、どんな人が出たかと云ふと、アメリカにはルーズベルト、獨逸ではカイザルと言つて居りましたけれども、今日のルーズベルトがワシントンのやり方と同じことであるかと云ふと、大分疑問になつて参りました。ワシントンが、第三期の大統領に選ばれた時、彼れは立つべき必要があつたであらう。けれども功成り名遂げて、之れを退いたのであります。之れをナポレオンに比べても雲泥の差があるのです。

[生きた世界的人格]

私は昨夜エリオット博士を迎へてから、其の立派なる人格によつてワシントンを思ひ、又、沢山の統領候補者などと比較して、自ら生きた社会的人格の内容を味うた様に思ふ。又、其の使命を感じ、活きた精神に共同して賛成の意を表するのみならず、共同しよ一と云ふ精神を見て、非常に深き感謝を以て満たされました。

[妃殿下行啓の我々に及ぼせる感化]

私共は 妃殿下行啓が我々の国家的人格の上に深き感化、並びに印象であつた様に、エリオット博士が此の學校に來遊せらるゝ時機は又、世界的人格の発現であり、其の高調に達すべき時であらうと思ひます。

夫れで私は此の以前から、至誠とか社会的人格とか云ふこ

とを申して、其の考究を進めて居りました。其の高調は新しい人格のCreationである。丁度此の時機に於て、我々が十数年、又は二、三十年の間Struggleして生れんことを望んで居った所の新しいものが、続々生れんとして居ります。此れ迄長く要求して居つて出来なかつたいろいろのことが、続々生れんとして居ります。之れ迄長い間要求して居つて出来なかつたいろいろのことが、最早や事実となつて現れんとする兆候が見える様になつて来たと思ふのであります。

[諸子のなすべき急務]

夫れで私があなた方と暫らくお別れするに當つて、私が全校に切望するのは、今迄申したよな国家的人格、又、之れ迄我が國に出来にくかつた精神的結合、又、東西の調和から起る所の世界的人格と云ふこと、之れは大層大きなことで、大きく纏まつた人格を言ふのであるが、夫れに必要な内容が之れから続々東西に現れなければならぬが、夫れを作るために我々が相助け、相荷うて夫れを全うすることが、私はあなた方今日の仕事であり、又、今日最も進んだ所の教育を受けて居る婦人の使命であると考へます。

夫れと同時に、私共は銘々に先づ其の人格にならんければ、そ一云ふことに共同することが出来ぬと思ふ。斯くの如き興味が起り、斯くの如き理解が出来、斯くの如き仕事をほんとに自分のこととして働く様になつて始めて、斯くの如き力が出るのである。故に其の事実がわかつて、其の事実を銘々で拵へて行く、お互に其の働き手となつて自分相当のことを尽すと云ふ位地にならんければ、ほんとの事は出来ぬと思ふ。  
[世界的人格の芽は子供、婦人の中にあり]

私は今から二十年前に合衆國の家庭の教育を随分注意して見ました。六つや七つの小さい子どもを教育するに、今のエリオット氏の言はるゝ様な性質を作ることに誠に骨を折るのである。目に見えない世界の事業をする為に、立派な人が、子どもと共に相談をする。まごころを以て、小さい子どもとやつて居る。私は、そ一云ふ子どもの中にでも斯う云ふ人格が出来ないと云ふことはない。子供の中にも、婦人の中にも、出来るのであると思ふ。

私は國民の母たる皆さん、又、婦人も人である所の皆さんに、斯くの如き事業、斯くの如き世界的事業をも訴へて、精神一到何事不成、其の集注力を喚び起すならば、出来ないことはないと思ふ。又、去る二十日にはあなた方に精神的共同を促した様に、其の時に於て精神的共同を見出すことが出来たのであります。エリオット氏の言はるゝ様に、私の事業は決して私一人がして居るのではない。今、世界的の境遇に立つて、皆でして居ると言はれたのです。

[実ある研究によつて其人格を發現せよ]

其の世界的偉人とも言ふべきエリオット博士が、来る五日に当校へ見えます。博士は東洋の文明、女子の高等教育の代表として当校を觀察せらるゝのである。我々は其の使命を悟つて我國を紹介し、我が婦人を醒まし、我が國個人の集中を促す為に私共が昨年以來研究致して参りました精神修養の力、其の力が凝つて新しい生命を生み出すと云ふことは、誠に尊い経験であり、又、斯くの如き精神的協同に加はることによ

つて、其の人の人格はほんとに發現せらるゝのであります。

[更に精神的人格發現につとめよ]

故に、ど一かあなた方が仕来りの勉強に束縛せらるゝことなく、眞の活きた研究をお創めになることが大切である。

[協力一致して実を挙げよ]

又、精神的人格は時間、空間を超越し、過去、現在、未来に互り、洋の東西を問はず相扶け相補うて、此に一致協同することの出来るものである。故に、我々は其の人格を養へば、時空を超越して精神的に相連り、相共同することが出来る。我れ等は誠に弱いものであるけれども、我々は尊い使命を持つて居るから、此の時機に於て、眞に為すべきことを共同して、之れから生れんとする所の新しい生命を生み出すことについて共に勞を分かちたい。力を合せたい。

之れが私の皆さんに切望する所であります。最早我々は口に言ふべき時ではない。以心伝心に着々事を行ふべき時である。之れは余り深いことでありまして、ど一かと考へましたけれども、皆さんの要求が其所にあると云ふことは事実でありますから、之れを申したのであります。

[中表紙]

正会員修養会の御話  
明治四十五年七月七日

明治四十五年七月七日  
正会員修養会席上にて

[信仰、確信の土台は運命より来る]

私共が生涯、一刻も忘れられぬことは、運命に関する問題であらうと思ふ。而して、この問題は只学説を以てきめることは出来ぬ。先づ自分の深い経験を積んで行かぬと出来ぬ。私も子供のときから、こ一云ふことを考へました。

信仰、確信の土台は運命から来て居る。其の判断が随分纏らぬことあり、纏まつても判断を誤る。即ち運命に対し真理でないことを判断する。之れは哲学の問題ともなるべきことで、其の考へると云ふことにも種々の仕方がある。始めは、論理学でも行かれる様に思ったが、かく無意味な幾何学的の解釈では非常に間違ふ。近来、余程こんな考へが開けて来たよ一である。我々も、大凡どの道をたどつてよいかわかつたよ一である。あなた方が苦しむのも、も一一つ有効の生活が出来、悪い不安に陥ると云ふことも問題の解決がつかず、或は判断が違ふことが原因だらうと思ふ。自分の経験から、そ一思ふのである。

夫れで私は先づ、この修養会に於てこ一云ふことも研究して、其の効果を納めたいと思ふ。併し、今それを言ふ時がありません。

[運命とは如何なるものか]

只、運命とは如何なるものか。昔から之れについて種々な説がありますが、大別すると二つになります。

## 〔宿命説〕

(一) 運命は現に定まって居ると(宿命説)。之れは形而上にも、形而下にも、神学、哲学の学説も、近世迄これに支配せられて居た。之れがキリスト教の信仰、宗教の基をなして居る。之れは、我々の祖先が罪を犯すことに依つて子孫の運命を定めてしまふとなし、運命は罪と云ふ束縛を逃れられぬもの、生れながらにして弱い、悪い、卑しいものであると云ふ。それで人間は運命を如何ともすることが出来ぬ。つまり、之れ以上に救はれるには、他力に救はれるより他なしと云ふ考へであった。

近世の科学も、吾人の運命は生れぬさきに定まって居つたと。即ち、吾人の弱点は遺伝から来て居る。本能は生れながらの性で、之れに支配されるのであると。吾人は生れながら動物性を持つて居つて、如何ともすることが出来ぬと。これも宿命説である。故にポーロも、あゝ我れ悩めるかな、と。この様な勇者も、言つて居る位である。

## 〔遺伝の他に境遇の束縛も受く〕

も一つは、我々は境遇、社会に支配せられる習慣や伝説にとらはれ、女はつまらぬものだと思つて、境遇から束縛を受けて居ると云ふことになつて居る。勿論、この様な宿命論は全く理由のないことはない。

而して、いくら努力しても宿命を破ることは、実に六ヶ敷いことであると思へるものが多い。

この解釈がつかぬと、吾人の信仰は動揺する。之れは昔から哲学、神学、心理学、科学、社会学の問題でありますから、深く研究、経験せねばわからぬ。併し、只我々の理性で考へて、之れを只纏めてしまうことは六ヶ敷い。私も、これについて始終苦んだ。併し、私は経験が大切だと思ふ。私はこの頃、大分解釈が出来たと思ふ。自分は其の問題を経験するに必要なことを得て来たよ一と思ふ。

この問題は、一方から言へば宿命説だが、社会及び肉体の制限も蒙つて居ることは事実で、此所に我々の六ヶ敷い所がある。何のために斯う出来て居るかの真相は、私共の経験を深くし、理想を実現する為である。我々はもともと自由の意志を持つて居る。運命を開拓することの出来るものであると思ふ。其の信仰がかたくならぬと、満足的生活が出来ぬ。人生の意義を解釈することが出来ぬと思ふ。それで、私共が肉体の束縛に逢ひ、境遇の制裁をうけ、本能があると云ふことも、実に悉く人に必要なものである。是非入るものであると云ふ事が、今日は確かになりました。之れを以て安心し、気が休まつて来たのである。過去に思ひなやんだことから逃れ得るよ一になつた。

## 〔困難を吉兆と思へ〕

今、あなた方の経験の中に自分の足らぬことを思うて心配せられたが、これは悪いことでない。吉兆と思ふ。私は近頃、困難のおこるのを吉兆と思ふ様になつた。これ、生ける訓練であるからである。いつも其の時々に起ることにつき、意義を考へ直感的に感ずることが、今日迄殆んど当らぬことはない。つまり困難が其の人を作るためには是非必要のものである。私は、あなた方が女と生れ高等教育もうけたが、未だ氣

の毒な所も沢山ある。併し之れが自分を玉にし、人格を発揮しよ一とするものである。生命を与へんとして居る吉兆であると解釈せんければならぬ。

## 〔与へられたる天職を信じて行へ〕

も一つは、私共は使命の大なることを感じ、器の小さいことを思はしめる。併し自分許りがするのではなくて、お互が共同をするのである。

も一つは世界は生きて居る。世界には大なる力がある。昔から、選ばれた人は自分は弱いものであることを感ずる。併し、自分一個がなすでなく、皆であるのであると思ふ。今、あなた方が弱い、つまらぬと思ふが、決して心配するには及ばん。銘々に与へられた天職を信じてやつて居れば、自然に出来るのである。

夫れでは境遇はかまはんでもよいかと云ふに、そ一ではない。お互は弱いが、こゝに信じてすれば、随分強い運命にとらはれて居ても成らぬことはないのである。私は桜楓会員がど一してもこゝに一致協同せんければならぬと思ふ。人格弱しと感ずることがあろ一が、今言つたことを守るならば、理想は実現すると思ふ。この修養会に於ては、先づ運命について銘々の確信を強固にせられんことを望む。

## 〔精神的連絡を計れ〕

私は今、日本を離れても、あなた方を代表して居ると思ふ。千何百の会員は諸方に散つて居るが、精神上に於て連絡することが出来ると思ふ。故に、離れて居ても其の働きが出来ると思ふ。こゝに居て充分働くならば、凡ての会員に通ずると思ふ。

も一つは、この修養会が思ふ程には発展しないけれども、生命の芽生へは出来て居る。我々が苦んで来たことは、種を生むためである。私共がそのことについて、も一つ、こゝに運動を広げて行くに、背景に桜楓会がある。故に、こゝに充分其の種を育てなければならぬ。今日、世界もそこに進みつゝある。我々も、使命をうけて居る候補者の一人であることを信じて行かねばならぬと思ふ。私は、充分あなた方がそれをお続けになることを切に希望する。

## 〔研究会を盛んにすべし〕

そして之れをなすについて如何に働いてよいか。之れは矢張り研究会が出来なければならぬ。只猛進ではだめである。先づ眼を開けて道が見える様にならぬと、進むことが出来ぬ。私共が毎月会に於て、いつもそこに進まんとして出来なかつたが、今日は、一般の人も大に注意し共同する様になつた。そこで皆さんは実行と修養と研究が一つにあるべきである。こゝ迄行かねばならぬ。今日、宗教に於ても、教育に於ても其の根本問題が解決されて来なければならぬ。私共も諸子と共に経験して来たことが土台になつて、婦一協会にもこの芽が出ました。

## 〔救済事業を起すべし〕

こゝに、桜楓会に於ても、之れが真に起るべきである。又一方、諸子に於ては働かんければならぬ。救済事業が出来なければならぬ。之れを救ふのが宗教である。之れが精神結合の力である。之れには皆が信じて働かねばならぬ。

[真の生命経験を実現すべし]

そこで桜楓会の修養会も、こゝに真に生ける経験、真理の本をこしらへなければならぬ。斯様な背景があるから、私も働けるのである。私は実に、事は思ふより早く成るものであると思つた。帰一協会も、こゝ一年が非常に大切な時期である。皆さんも、生命を捧げてするの決心でなくてはならぬ。空なものではなく、真の生命経験が実現し発展せんことを切望するのである。

[中表紙]

送別会席上の御話  
明治四十五年七月八日

明治四十五年七月八日  
送別会席上に於て

只今、誠心から出るあなたがたの深い経験を聞いたことは、私の深く喜ぶ所で、之れは年来の希望であつた。今度は、私一人が出掛けるのではなく、皆さんを代表して行くのである。こゝに何かの固まつた力となり、定まつた希望、目的を以て行くと思ふ態度を持ちましたことは、感謝する所である。独り全校の空気に云ふわけではなく、個人個人も非常に真面目に決心をお持ちになつて居ることが、衷心から出ると云ふことを感ずるのである。学校創立以来、各学部が揃うて、私が安心して立てると云ふ感じを持つことは満足に思ふ。私が行くについて、送別の辞にかへて決心を述べられたことは感謝に堪へない。

私は実は愈々行くとして船も定めたが、自分には行く様な気がしない。又、もどつて来ると云ふことも夢の様な心地がする。併し今日、あなた方の言葉によつて、行くのであることを感じた程である。行くにつぎ、昔のことが思ひ出され、過去に没遊したこと、或は過去のことが想像され、様々の感じが出たのである。何をあなた方に、終りに臨んでお答へしてよいか、夢の心地がしたのである。

[夢想も熱心に依り貫くことを得]

実は私は、時々夢を見る。さめて居る時も、夢の様なことが多い。殊に今日の如きも想像されることが多くて、夢の心地でありました。又一方に、ど一やらあなた方の話を聞き、永夢が醒めた様な気がして、其の夢の事実、實在が私の頭に了解が出来る心地がする。即ち夢を見ると、ほんと一になるものであると云ふことを大に心に感ずる様になつた。

夫れで私はお別れするに当りまして、あなた方皆さんに、私が三十五、六年の間、夢を見て居つた。其の間、熱に冒されて居つた。殆んど自分と云ふことを忘れて一つの祈り、願ひがあつた。私は、あなたの決心に対して、それを希望したい。ど一かあなた方も、私と共に夢想してもらひたい。斯く言へば、人は空想と言ふかもしれぬ。併し私は、人間の一心は貫くことの出来得るもの、其の熱望は、いくら出来ぬ様でも必

らず出来て来る様になるものであると云ふことを話したいと思ふ。

それで、之れ迄は夢と思つて居たことが少しく實際になつた様な気がする。この経験を少しく話したい。

今、あなた方は諸種の反省と後悔をせられた。かく優しく無邪氣に言はれたことは真に嬉しい。そ一お感じになることを御尤もと思ふ。

私もそれと同じく、私の足りなかつたことを許して下さいと言はねばならぬ。私も日頃から、あなた方にすまぬと思つて居ることがある。併し、どんなに心配して叱つても、悪意を持つたことは一度もない。故に、こんなことは懺悔することはないが、実に自分は足らぬと思ふ。第一に体が弱い。力が不充分である。あなた方が動かぬと云ふも、自分が足らぬからである。之れは実に、あなた方に借金をして居る様な感じがするのである。心はあせるが、実は諸子に対して、すまぬと思ふのである。

夫れから私は子供の時から大望を懐くくせがあつた。故に叔父も、お前は大鳥を討つが小鳥は討たぬから、生涯成功をせぬと言つたのである。又、私は子供の時から健康すぐれず、之れは一つは生れつき弱いと云ふ暗示を受けて居つたからであり、又、私の家は貧乏である。も一一つは、子供の時から随分いろいろのことにおさへつけられたのである。之れは生みの母がないと云ふことである。正直に言へば、実に私は、弱くてつまらぬと云ふことを考へたが、又一方には大望をいただいた。これは私の絶えず考へたことである。我が先輩が政治家になり、国家に奔走せられるを見ては、私も政治家になろ一と考へた。之れは日本の政治を運転することではない。これからは世界に立つ政治家になりたいと云ふ夢を見て居つた。革命をせんければならぬと思つた。

夫れから私は宗教にはいつた。私は牧師にもなつたことがある。併し、これには日本を宗教国にしなければならぬ。之れをするには先づ帝室が本だから、天子様を信者にしなければならぬと考へた。そして、その為祈つた。そ一云ふことは全く夢である。併し妙なもので、近く 妃殿下もおいでになるやうになり、今、いくらか帝室が日本の婦人を高めるよ一にすることをおつとめになる。このことがあつて以来、皆さんに一種何かが残つて居る。矢張り、我々が至誠を以て祈つて居れば、国の為になるよ一な影響をおこす様になる。

女子大学を立てると云つたことも皆が笑つた。併し今日は女子大学と云つても、ちつとも可笑しくなくなつた。少しも夢の様でなく、實際になつたのである。研究と云つても其の始めは、皆が嘲つたのである。併し今日は、誰れでも言ふ様になつた。

又、思想界のことにしても、百年の後でなければと思つた。真理は之れよりないと思つた。人が反対しても、ど一しても止めることは出来なかつた。今日私は、地位も勢力も体も弱い、五十年前、子供の時から至誠で、ど一しても真理を信じて、真に思ふと云ふこと、又、たとへ六ヶ敷いことによ一に思つても止むを得ぬと思ふ。そ一思うて、私共が真に自分を忘れて、結果は天にまかせて、只自分の生涯を捧げて居る。

そーして真に私共が熱心に思ひ、出来る丈け尽して私共が夢見て居るならば、いつのまにやら出来るやうになつて来る。これが事実ではないかと思ふ。

[私は婦人の美点を信ず]

夫れで実は、私はあなた方に対して、我が國婦人に対して、大に望みを以て居る、非常に想像して居ることがある。併し今日迄、自分の理想に反することばかりである。どーしても空でつかまへることは出来ない。一時、梅花女学校でも学生が高調に達して喜んだことがあつた。新潟女学校でも同じことであつた。かく一時燃えても、又消える様に意志が弱いので、如何にしたら真の女子教育が出来るか。之れは私が幾度も失望し、しかも止めることは出来ぬ点であつた。その訳は、私の心の底に婦人を信ずることがある。感化美がある。誠に尊ぶべき価値を有せることを信ずるのである。それで又一方には、どーしても御婦人に急に應ずる力、団結力、即ち一つに融合した力が必要と云ふことを切望する。これを一時的でなく、深く考へて貰ひたいのである。

[婦人に要求する三理想]

今、諸子に出来た所のものを発展させて行かねばならぬ。始終我々は變化するものであるから、時々刻々に進歩することを忘れてはならぬ。私はどーしても出来度いと願ふことが三つある。即ち、婦人に特有の尊い美德。第二に、それが融合団結する経験。第三に、停滞腐敗しなくて新らしい力が生れて行くと云ふ理想である。

過去の夢が、どーやら実になりそーである。實在であると云ふことが、私には、今日了解することが出来たと信ずる。それで今、諸子の決心を空でなかるーと思ふ。三十年来経験したものとは違つて、生命があらはれて来たよーな、新しい力が生じて来たと云ふ感じがするのである。

私共は実に、つまらぬものである。銘々が其の境遇が悪く、体弱く、知識薄きものである。併し私共が、どーしても自分のこととして立たんければならぬ必要がある。之れは國家に關した大事業、根本の問題である。併し若し、私共が自分の使命を信じ、真に私共が其の目的に自分を捧げて、精神を以てかたまることが出来たならば、決して出来ぬことではなかるーと思ふ。

[思想界統一の急に迫れり]

私共は今、我が國の思想界のことを考へて批評を致しませぬ。併し、思想界を統一する中心があるかを疑ふのである。之れが、我が國民に依つて統一が出来ぬものならば、我が國の運命はどーなるであろ一か。旧習慣、束縛がとれないで終るものならば、我が國の未来はどーなるであろ一か。

[我が日本の現状を思つて我が國女子の使命に及ぶ]

又一方、經濟のことを考へずには行かれぬのである。我が現状は如何。直接影響を受ける支那の状態は如何。内外思つて見れば、実に我が日本は危機にある。こゝに東洋を救ふの必要あり。

されど之れをどこに求めるか。これは、其の本は東洋、ことに日本に於て立派な人格に俟たなければならぬであろ一。その人を作るには、どこから出来るか。然るに、日本に於て

大學と云つても実力がともなはない弱いものである。然らばどこから本当の母となるべき、中堅となるべきものが生れて来るでしよ一か。

私はこの間から、時来れり、立たざるべからずと思つたことがあつた。私の留守中にも、いろいろのことが起るであろ一。併し、もしこの呼び声に應ずるの精神がなかつたなら、将来どーなるであろ一か。このことと銘々の運命は離れぬのである。

私は幼少より、我が國の中堅となるべきものは女子、ことに女子大學を建てよからは、あなた方に目的をおいたのである。私は、我が國東洋婦人の特色をあらはすべき女子が、あなた方の中から生れることを夢見たのである。これが、どーやら近頃、實になるよーな思ひがするのである。それ丈けの精神が発展するならば、必らず其の實があがることを深く信ずるのである。「信ずれば成る」であることに、女子教育に対する夢が認められる様になつた。

あなた方もどーしても、こ一云ふことについて一心になつて、今日の決心の如く心を一つにして行かれる様に。私は、諸子と共同の仕事を携へて出陣せんとします。諸子の今日の所感は永久のものとしてあらはれることあるを、切に望むのであります。

[中表紙]

送別会の御話

明治四十五年七月九日

明治四十五年七月九日

成瀬校長送別会にて

親密な送別会を私のためにお開き下さいました発起人諸君を始め皆さんから、私の教訓になり、同情深い御注意を、贈として賜はつたことを深く御礼を申します。今、長井先生から、今晚は大きな家族の集まりであると言はれましたが、私共、此の學校を始めます時から家族主義を以て、大きな大家族を作ることを理想として始めましたが、何時の間にか、斯くの如き大家族となり、一家団樂の和氣藹々たる大家族となり、今日の如き機会に接することの出来るよーになつたのは、誠に感謝に堪へない所であります。そーして今、皆さんからおやぢと云ふ御話がありましたが、私は一向おやぢと云ふ気分がしません。私は小さい時に父を失ひまして、今日は多くのおやぢがおいでになる。又、沢山の先輩、沢山の兄貴もあり、姉もあり、弟もあり、妹もあり、娘もあります。斯様な大家族と共に喜んで、又、協力して意志を結合して働くことが出来ると云ふことは、誠に力となることであり、深く喜ぶ事でありませぬ。之れは早くから出来て居つたことでありますけれども、今日之れを感じる事が出来たのであります。

さて、この大家族はどーして出来たかと云ふことを考へて見ますと、此の女子大學と云ふことから、皆さんと御交りを

辱うしたと云ふことである。其の前からお心安かつたのは、麻生君、松浦君、岸本君位なもので、皆、女子大学が出来てからの事であります。アメリカから帰朝致しましたとき、長井先生と云ふ方があるそなた、と云ふことを聞いて、訪問して相談をした様な訳で、五十名ばかりの教授と五百の学生とで開校致しましてから今日に至る迄、十余年と云ふ長い間、過ち多い私に対して皆さんが寛大な心を以て、又、よく忍耐して此の事業を共にして下さったことは、誠に感謝致すのであります。

#### [本校の成立と社会の同情]

実はこの学校を立てる前に、斯う云ふことが出来よーとは思ひませんでした。いろいろ学校も立てました。教会などもやつて見ましたが、どーしても日本では、一致協力することが六かしいのである。どーも破壊しあふ様な傾きがありました。然るに、この学校の創立については世間の中傷攻撃などは随分烈しかったにもせよ、帝国大学と女子大学とは殆んど兄と妹の様な関係になって、妹の教育も兄貴が助けると云ふ風になりました。高等師範はどちらかと言へば商売がたきであるが、篠田君の如き高潔な人格、後藤先生の如き温厚なる方、及び中川校長のお助けによって、少しも商売がたきと云ふことなく、又、同志社からも、早稲田大学からも、慶應義塾大学からも、各方面からおいで下さって、此の女子大学にお尽し下さった諸君の厚意に対し、私は畏敬すべき先輩として、友人として感謝に堪へぬ所であります。

も一つ是非申さねばならぬことは、外国人の教授方がありますが、風土、気候の違いを始めとして、いろいろの不便や困難の多い所へ遥々おいでになつて、お尽し下さったことを感謝致します。斯様にいろいろ違つた要素が協同して、此の女子大学が出来たのであります。

#### [今日は内願の憂ひなし]

今日、私が海外へ出るについて、安心して行く様にと云ふことであります。先年、新潟女学校を立てゝ居つた時にも、私が留守で知事や何かすつかり變つて、だめになりました。梅花女学校も其の通りでありましたけれども、今日は少しも内願の憂ひなくして、海外に行かると思ひます。又、留守の間に、確に発展するであらうと思ひます。今迄はいろいろ難関がありました、是れからは大に発展する時機に入ることと考へます。

夫れから、お土産と云ふことについても段々御話がありましたが、今日は家族の会であつて少しも誤解を招くと云ふこともなく、又、外へいろいろ洩れると云ふこともなく、内輪の集りであると思ひますから、私は何も包まず申すのであります。

第一に今日は、皆さんを長くお待たせして済みませんでした。自分の心は飛ぶが如くに戻つたけれども、どーも車が遅くて相すみませんでした。実は、之れにも仔細のあることで、此の間行啓のあつた時にも、やはり斯う云ふ心配を致しました。之れは私の性分で、欠点であります。そー云ふことの為に私はしつこくやつた為に、諸君の感情を害したことも十年間に沢山あつたと思ひます。けれども日本人は、どーも淡泊

でいけない。深くならねばならぬと考へます。

今日も長くなるかもしれませんが、実は今日はエリオット博士と面会をする筈でありました。其の前、少し気にかゝることがあつたので、岸本君の御注意もあり、三宅さんの御注意もあり、私は、まあ欲が深いと言はうか、何か十年間にいろいろな欠点がありましたけれども、その欠点を皆さんが補つて下さつて、互に仕へると云ふ心を以て、自分を忘れ、国家のために女子教育のために互に助けあひ、互に容れあつて一致して下さつたのである。これは気がつかんではなく、気のつくこともあります、誠に微力で心にまかせないのであります。芳賀博士からも其の他いろいろ土産を持つて帰れと云ふことでありますが、夫れも私のカバンに入るだけしか持つて帰れないのであります。故に、諸君の御希望に副ふと云ふことは六ヶ敷いと思ひます。又、三宅博士からも御注意下さつた様に、私もこれ迄は斃るゝ迄と云ふ考へてございましたが、どーしても長生きをしなければ出来ませんから、今度は実は目的があるけれども、夫れは六ヶ敷かろーと思ふ。故に、今度はま一潮踏みと云ふ訳で、今度出来なかつたら又次に行かうと云ふ考へであります。

#### [外遊の目的は諸君と共同のものなり、之れを三とす]

其の中、三つ許りのことがある。其の目的は、どーしても違しなればならぬ。夫れは私一人でなく、皆さんと協同して致さねばならぬこと。

#### [(1) 我国教育の改善]

其の一つは、私共が一致共同して十年間の経験を積みました。夫れで今後は、も一層大きな関係を以て政府も民間も協同しなければならぬ。私は子供のときから考へて居ります日本の教育をかへると云ふことも、銘々自分がしなければならぬ。故にどーか、そー云ふ点についても皆さんにお考へ頂きたいのであります。

#### [(2) 新学部の設定]

第二は、折角設けまして中止して居ります教育部、文学部。それから計画に許りあつて実行の出来ません所の医学部、農芸部。これ等も悉く東京におくかどーかは問題であるけれども、第二の発展として、どーしても早晩開設しなければなりません。

#### [(3) 精神教育の勃興 之れに伴ふ経済力の必要]

第三には、私の根本の要求は、我が國に於て最も欠けて居ることは精神教育であると思ひます。之れが、この校に於て諸君と共に最も深く集中した所であります。我が國では、精神に重きをおく余りに経済と云ふことをおろそかにした為に、精神と云ふと経済はどーでもよいと云ふよーに思ふことがある。けれども、どーしても身体も伴はねばならぬ。この経済がともなはねば、教育も国家も伴はぬと思ふ。

これはエリオット博士からも訓言をききました。この学校は精神が土台であるけれども、経済と云ふことも考へねばなりません。本校では Elective system と云ふことを言つて居り、Group education は Cheap education であると言つて居ります。折角、森村氏などによつて興した教育部、又、我が國の大学にして、なくてはならぬ文学部の如き、惜しくして仕方

がない。けれども背に腹はかへられぬのである。故に今度帰った暁には、いろいろ改善を加へる為に相談も致しませうが、夫れには金を要する。故に、ど一しても募集をしなればならぬ。官立の学校には政府の金がありますけれども、私立の学校には夫れがないのである。けれども、ど一しても必要を認めて来て天下に訴へるならば、伊藤公の言はれるよ一に、我が国民は義侠心に富んで居る。故に出来ぬことはいあるまいと信じます。故に、諸君も充分この三つの点につき御研究下さつて、来年私が帰りましたならば、いろいろ御相談を致し度いと考へます。

終りに臨みまして、皆さんど一か身体を御大切になさりまして、愈々御多幸ならんことを祈ります。

[中表紙]

送別会席上の御話  
明治四十五年七月十日

明治四十五年七月十日  
送別会席上にて

皆さん方に対して、私の感謝と喜びを言ひあらはす詞がないのであります。私は、あなた方が如何に真心をお尽くになつたかと云ふことと、夫れを私が如何にお受けて居りますかと云ふことは、此に言葉であらはず必要はないと信ずるのであります。

留守のことも、私の代りは学監が兼ねて下さいます。松浦君、塘君等が夫れを充分助けて下さいます。昨夜、教職員の送別会にて、教授方からもいろいろお話を伺ひまして、私は留守中、諸教授が校務を帯び校風を導いて下さると云ふことは、私は信じて疑はないのである。夫れに、大学部及び高等女学校から私と同じ決心を以て進んで下さると云ふことであるから、私は今回は少し心配する所はありません。あなた方は今仰つたよ一に、遠く去るものを満足させて立たせる。其の人の責任を代つて洩れないよ一にすると云ふこと。この留守をすると云ふことは今日は余りござりませんが、私共の子供の時には、士族の妻君は始終留守をしたのである。私共の親でも三年は萩の本城に詰めきりで、一寸帰ると又直ぐ留守になる。夫れで、子供の教育、一家の経済、親類との交際と云ふよ一なことは、凡て母の責任でありました。

[内願の憂ひなし]

女子にとって内願の憂ひなき様にするには、意志強く、知識ある婦人たるべきで、この様な婦人は家の宝であります。今度私が家をあけて行くにつき内願の憂ひがないと云ふことは、あなた方のためにも喜ぶべきことである。既に私は留守について、又夏休みに帰省せられることにつき、第二学期の始めに於て、卒業式の第三学期に於て、皆さんに新たに御注意する必要がないと思ふ。なほ、この学校は凡て共同でやつて居るから、私が居らないでも、そ一困ることはないと思ふ。

[同様の志を以て出陣するのである]

併し今松浦教授から、今度私が旅行するのは、一つは私の修養のため、十三の時、国を出たと同じであると言はれたが、その通りで、この修養のための旅行はあなたと同様である。同じ志を以て出陣するのである。

夫れで、お互に一言丈け、修養について覚悟を交換しておくと云ふこと。即ち、私がど一云ふ決心で行くか。この場合皆さんも、それを聞きたいと思ふでしよ一。私も、この間から皆さんに聞いたのである。今、高等女学校から、これ迄の態度が少し曖昧であつた。も一一つ充分なる決心、団結力が足りなかつたが、今度はこれが出来かけた、と発表せられた。意気に感ずるのである。高等女学校は常に動揺するのである。時に制することが困難である。これは自然であると思ふ。

[青年時代は活気最も旺盛なり]

十六、七才と云ふときは最も思想の動揺がはげしく、元氣盛んなる時代である。私も十三の時から師範に入り、其の後の十五、十六の時のことが今、再現したのである。この時ほど考への動いたときはないので。それから、この時代程、改革しよ一と云ふ考への盛んな時はなかつた。それから自分の修養に付いては、生涯の使命を感じ目的を定めることにつき、考へが非常に進んだものである。其の理想、確信の芽は十三から十六、七の頃に動いたものが、今日育つて居るのである。この意気込みが国のため、人のために働かんければならぬと考へるのは、この時代である。この時代は満足が出来ない。この時に動揺あり、又、これを支配する意志力があらはれる。然るに、あなた方は今後のことにつき、かたき決心をなさることが出来たことは、私は最も喜ぶべきことであると思ふ。ど一かその元気を大学部となつても、又、嫁となり、母となつても、お婆さんになつても、失はぬことを希望します。

[永久に修養を止めず]

修養は進歩、改善である。この目的、理想を追い、熱望を遂げるにある。私は高等女学校時代のあなたの年頃に志を立てました。其の生涯の目的の用意をする迄は五十年を要し、今日漸く仕事にかゝる様になつた。私は、修養については常に進まねばならぬと思ふ。今後は、婦人でも百姓でも商人でも、之れが必要である。修養は進歩である。私は十三の時から今まで一日と雖も離れたことはない。私の友達は学校へはいつて、どんどんやつたが、私は貧乏で出来ぬから、常に境遇に勝つて自分で進むことにつとめた。私は今度行くにつき、種々の用意があり寸暇がありません。併し、修養の本を一日でも離れたことはない。自分を進めることを怠らぬのである。永久に我々の命はある。病氣になつても生命はあるのであるから、どこ迄も修養を忘れてはならぬ。

あなた方は休みに帰り、如何なる境遇に入るとも、常に改善、進歩、何か新しいものを作つて進むことを忘れてはならぬのである。お互が旅行するにつき、修養をするつもりで居たいと思ふのである。

[宇宙の命を信ず 現在以上の力を頼む]

それから私は、も一一つ信ずることがある。此れはたゞ自分の努力、勉強と云ふ許りでなく、我々には自分以外に力があ

る。之れを自分の方から云へば、意識よりもつと深い潜在意識がある。無限の力、我々以上の力を私は信ずるものである。自分の運命を定めるは自分である。宿命ではない。私は宇宙の命、宇宙の歴史を信じて居る。私共は自分を顧みれば種々弱点があるが、その様に現在にのみ執着しない。我々は自分以上の力を信ずる。世に生れたにつき一つの使命を感じるのである。世には禍、困難に見えることがあるが、恐れるに足らぬと信ずるに至つたのである。永久の活動が空しくならぬのは、自分以上の力を信ずるからである。これが我々を謙遜にし、安心をせしむるものである。これが修養にとつて大切と思ふ。

第三に、修養は人と調和することである。人のために仕へると云ふ精神である。私は自分を忘れて、こゝに立つに当り、奉仕の精神、真心から公共のために尽さんとするのである。この十一年間は、この学校が発達し、今後も永久に発達するには何によつて出来るか。これは教職員、其他の奉仕の精神に依るのである。つまり共同の力である。皆の責任の仕事である。かゝる精神が、今日いよいよ出来かけたよ一である。

[私が十一年間最も力を入れたこと]

私の十一年間、最も力を入れたのは自分の修養であるが、この学校に尽すと云ふことは、皆さんが尽して下さるよ一にしたいと思つたことである。皆さんが真心を以ておやりになり、適材を適所に置いて団体の空気が出来るよ一に念じ、修養をつとめ、真に人のよい所を敬し、人の善を喜ぶ。悪いことがあれば、ど一かよくしたいと思ふ。これが私共の満足である。つまり愛するのである。これ程、愉快なことはない。

[愛]

互に愛する中に、大なる力がある。エリオット博士は、神は父として愛する。お互の間は兄弟姉妹として愛する。これが我々の宗教の真髄とせるものである、と言はれました。実に愛は命である。愛の満ちたる程、愉快なことはない。愛には敵はない。これが修養に最も大切なことである。

[愛は至誠たるべし]

なほ、愛は至誠であるべきである。愛が偏するならば満足はない。永久なる全き愛となるには真理を欠いてはならぬ。友でも親子でも、この真理、至誠を欠いだ友情であり、恩愛では姑息である。愛は誠にかなはねばならぬ。意志が働かずばだめである。これ即ち吾人の学問をなし、研究を始むる所以である。然るに本校では愛、調和、犠牲の精神を奨励すると共に、まぢがはぬ様に、偏頗とならぬ様に奨励するのである。

今日では漸く真にかなふ様になり、愛、調和と云ふことが出来る様になり、又、実行が経験を積んで Art にかなふ様になつて来た。婦人の一方に偏し易い、感情におぼれ易い点が漸く直りかけました。これは我々の深く喜ぶ所である。

[完全なる人格の養成 完全なる校風の育成]

以上の進んで止まぬ精神は、意志の自由なることと共に、宇宙の精神と一致して、其所に任す所ある深い修養をなし、知識に徳に愛を加へて、完全なる人格を養ひ、完全なる校風を育てると云ふに過ぎぬ。私共も只それによつて、にぶいながら歩を進めて来たのである。今後も益々つとめらるべきで

ある。

それから私は、今度 東宮妃殿下の行啓ありて深い印象をうけました。又先日、米国大使が、西洋の文物がはいつでも日本の美德を損じてはならぬ、と言はれた。これ等を思うて、矢張り日本の固有の美德がある。これを損じてはならぬ。併し、それと云つても欠点を補ふことを忘れてはならぬ。つまり、大にしては深い高い根本の精神から、末は日常動作のあらはれに至る迄、油断をせずつとめられんことを望むのである。この今日の調和の美風がいつ迄も続き、御健康であらんことを望んで止まぬ次第であります。

[中表紙]

第一学期終業式の御話

明治四十五年七月十日

明治四十五年七月十日

第一学期終業式

私があなたの方のよ一な子供の時、今の六年生位、即ち十三の時に私のお母さんはなかつたから、只私の敬ひ慕ひましたのはお父さんだけである。其のお父さんと別れて、学問修養に出ました。其のときは大変うれしかつた。お父さんにお別れするのは少しはつらかつたけれども、人となるために学問に出るのは誠に嬉しうござりました。

夫れから、この日本を離れて出かけたのは今から二十二年程前で、明治二十三年であつた。其の時は新潟で、私のうちは小さかつたけれども、新潟女学校と云ふ学校で、信濃川から船に乗つて出かけて参りました。其の時には私の家内がありまして、長岡と云ふ所で病氣になつて度々注射を致しまして、漸うとり戻しまして、其の看病をして、やつと送り歸しておいて、さて自分は東京へ出て、横濱から船に乗つて外国迄出かけました。かくて私は第三回目の Home を暫く離れまして、この度、二十八日と云ふ日にマンチュリアと云ふ大きな船に乗つて、五日許りを経て布哇に着く。夫れから一週間程たつと、サンフランシスコにつく。そして、バーバックスの畑を見まして、スタンフォード大学でジョルダン博士に逢うて、ポイントローマからボストン、フィラデルフィヤ、ワシントン、ニューヨーク、夫れから船に乗つて英国に行き、獨、仏、埃と回つて露西亜のピータスブルグ、モスコウに出で、夫れから教賀につくのが来年の二月頃。夫れで来年のお雛さんの頃には又この校で皆さんにお目にかゝることが出来るでしよ一。

私は十三頃に夏冬一番嬉しかつたことは、お父さんにお土産を上げることが楽しみである。夫れは、お父さんが少しも色には表はさぬ喜びを以て受取つて下さることである。私は時々親を喜ばせたのである。山が好き、川が好き、木のぼりが好きであつた。そ一して私は釣りが上手で、時々お父さんと一緒に行く。そ一するとお父さんは下手であつたから、お父さんの目付けた鰻を私がきつと釣るのである。秋になる



と松茸をとりに行く。そーしてお父さんにお土産にあげるの  
である。それから二年ばかりたつて、幾らか学問が進んでか  
ら帰つたとき、お父さんがだまつて居られるけれども、其の  
喜びはちゃんとわかるのである。

其の私が今度は西洋に行く。そーすると、この間のエリオツ  
トさんの様な、私のお父さんの様な人がアメリカに沢山居る  
のである。そー云ふお方にどー云ふお土産を持って行かうか  
と考へて居りましたが、此の頃に至つて、幼稚園、小学校から  
もお土産を拵へて下さつたのである。そのあなた方の拵へた  
ものをアメリカやイギリスの子供の拵へたものと比べて見た  
いと思ひます。

夫れで、あなた方はよくお留守をして下さつて、私のお土産  
を待つよりも、よく勉強して、身体も大きくなり学問もよく  
出来るよーになりましたと言ふことの出来るよーにして欲し  
いと思ひます。此の間、妃殿下の行啓があつてから、子供の  
行儀が大変よくなりました。私の留守中にお行儀ももつとよ  
くなつて、お母さんの言ふことをよく守つて、猶よい子供に  
なつて下さるであらう。私もそれが一番楽しみであります。

[中表紙]

奉悼式の御話

大正元年八月一日

大正元年八月一日

奉悼式

[天皇陛下崩御]

大正元年八月一日、新紀元大正の大きいお正月の第三日目  
におきまして、明治天皇、即ち 大行聖天子の崩御に就きま  
して、茲に六千万人の赤子と共に誠意誠心、哀悼の意を表し  
奉り、且つ明治の御代にお開きになりました御偉業と御大志  
とを継承されます。今上天皇陛下の御意志を体しまして、  
我々は其の天意に叶はせられて居ります其の御意志を相続  
致すの決心を、全校と共に分たんければならぬことと深く感  
ずるのであります。

我々は只儀式でなく、真に至誠と実行とを以て、即ち我々  
の総ての物を捧げて其の御思召に副はんければならぬことを  
思ひます。

[新紀元に於ける御方針]

私是一言、其の 勅語にあります先帝の大権を継承し、  
其のお躰めになつた所の偉業を失墜せざらんことを期すと宣  
ふ所の深い御思召、其の新紀元の御目的地、御方針の内容は  
如何なるもので御座りましょーか。不肖の恐察致しまする微  
衷を述べて、猶此の問題について深く考へ、委しく研究を積  
む様に致したいと思ふのであります。

[大正]

丁度我々が一年の年の終りに、或は年の元旦に於て、或は  
小世紀の始めにおきまして、来らんとする時の為に計画を立

て、夫れを表すに適當なる一の標語を選びます様に、明  
治の御代が終りを告げまして、茲に 現皇帝陛下の御代が開  
くるに當つて、之れを大正と御命名になりましたことは、誠  
に深い意味が其の詞の中に包含せられて居ることと思ひます。  
[明治の御偉業]

明治と云ふ詞の意味は、字の示す通りに明らかな事で、英  
語で言へば Enlightened epoch 又は period。即ち我が孤島が  
永く世界の文明から孤立致して安眠を食つて居りました際、  
今より約五十年前に、アメリカの使節 Commodore Perry が我  
が国の門戸を叩きました。先帝は其の響きに依じて、二千  
数百年間、閉ぢられた門戸をお開きになり、知識を世界に求  
むる主義、方針を御選定になりまして、始めて我が国が  
Enlighten の、始めて我が国が真理の光りに沐浴し、世界の  
大勢に則るに至つたのであります。其の光りによりまして、  
明治の御偉業は成就せられ成功致したものであると、深く信  
ずるのであります。

[大正の意味]

其の御代を承けさせられた、即ち第二の維新とも言ふべき  
新しき此の紀元を開かるゝに當りまして、之れを大正と云ふ  
年号に改められました。此の年号の深い意味は、私は未だ深く  
研究致して居りませんが、いろいろ学者の発表して居る説  
を見ますに、春秋の公羊伝に君子大居正、又、易經には大  
亨以正天之道也、又、更に易經に剛上而尚賢能止健大正也、  
又、書經には今、我れ汝を命じて大正をなす、群僕侍御の臣  
たらしめて汝の功德をつとめ、交々及ばざるを修む。こー云  
ふ故事がありまして、此の大正と云ふ文字の中に、そー云ふ  
意味が包含されて居るのであります。之れを字で申せば、大  
正の正は正月の正である。我々が三百六十五日を一年と致し  
ます様に、天皇の御一代を一年と致すならば、今は即ち正月  
である。明治四十五年七月二十九日の午後十二時は即ち旧年  
の暮、大晦日でありまして、三十日の午前 0 時、即ち此の紀  
元の 天皇陛下の御代の大きな正月元日でありまして、今日  
は其の三ヶ日目であると云ふ意味もありましょー。

又、正は正直の正で、正義、至誠とか誠とか云ふ意味もあ  
るのであります。又、韻から言へば、たいしよーと言へば大  
に勝つと云ふ意味になり、たいせいと言へば大に成すとなる。  
英語で申せば Justice で、正義を全うするには、たいせい、  
大に正して、誠たる所は大に成し、大に勝ちまして始めて、  
此の Justice と云ふ実を挙げる事が出来ます。

[我等は大正に何をなすべきか]

其の大正に至るは、Justice 正義と云ふ行為、道徳に達する  
には、先づ光りが必要である。Enlight にすることが必要で  
ある。我々は実践躬行を学び、内容ある所の生活を学ぶもの  
でござります。併し、若し我々の判断が誤り、先見の明が暗  
かつたならば、其の実践躬行は過失となり、我々の熱心は狂  
気沙汰となり、熱心は迷信に陥るのである。我々が真に大正、  
誠に叶ふ所の人格となり、誠に叶ふ業を成さんとするには、  
先づ暗きを照らさるゝことが必要である。真理を看破し、真  
理を研究することが必要である。

然るに、我が国の道徳は固定し、学問は停滞した時に、先

帝の御代となりまして、知識を世界に求め、暗きを照らされて始めて、我が国が世界的大国民の行為をなし、世界的国民の品性を養ふ所の準備をなし給うたのである。其のあとを継承せられた所の 天皇陛下は、茲に大正と云ふ標語を掲げられて国是を示し給うたのは、実に我々の感激に堪へぬところでもあります。

陛下は実に戦士と共に国家の為に、進歩の為に御一身を捧げられ、終り迄よき戦ひを続け、終り迄よき模範を示し給うたのであります。猶御重患の際にも、御躬らを忘れて国の将来を軫念し給うたと云ふことは、我々の恐察し奉ることが出来ます。

陛下は独り我が国を Enlight にし給うたのみならず、皇祖皇宗より継承せられたる万世一系の帝位の大権を御継ぎになつて、其の偉業を益々延長し給うたので、実に国力を集中し誠意を集中して、其の困難にお立ちになつて、茲に日本を世界列強の班に迄おのぼしになり、其の御遺産は台湾、朝鮮と云ふ如く広く海外に迄及ぶ所の御偉業を成就し給うたのであります。併し、此の偉業を成さるゝには非常なる国力を集中なされて、殆んど今日では余力をあまさんと云ふ如き窮境に経済界が陥つて居ると言つても宜しい。故に 陛下は之れを小さい一家に譬ふれば、小さい身代を延長して、金持ちの仲間入り出来る位に身代をお延ばしになつたと云ふことが言へるであらうと思ふ。

[先帝の御質素]

然るに 陛下は曾て質素と云ふ御習慣をお改めになることなく、国民のよい御手本になる所の御生活を御示しになつたのであります。

此の前にも一寸申した様に、先帝は 皇太子殿下を非常に御大切に遊ばしました。御居間の事から御装飾の事、光線の具合、空気の流通と云ふ様な事に至る迄、総て御健康に適する様に御心を煩はされました。然るに御自身は、多くの離宮を有し給うにも拘らず、御健康に必要な御避暑、御避寒は申すに及ばず、離宮を御覧になつたと云ふことも一度も承らぬのである。此の陛下の御実行は、私共は長く肝に銘じて、此の御美德を長く印象すべきものでありましょ。

我が国は国防上、海陸の軍備を忽せにすることは出来ません。その他、戦争の結果として重き負担があり、外交に殖産工業に、誠に国家多事であるにも拘らず是れと云ふ財源もなく、植民地もなく、夫れかと云ふて世界列強にすぐれたる知識もなく、其の上に二十四、五億と云ふ借財を荷うて居る。夫れにも拘らず国民が華美に流れ安逸を食つたならば、我が国は経済的に滅亡を免れないのである。恰も個人で言へば、健康を失うて不治の病に罹つた人間と等しく、優れた精神の活きを全うすることは出来なくなるのです。

[国民の覚悟]

我々、陛下の積極的に国をお進めになつたと云ふ御偉業を持続すると共に、又 陛下の御質素に、御謙遜に、皇祖皇宗の御徳を御継ぎになつた御美德を、深く肝銘致さねばなりません。

第二に、この大正の意味は Justice で、正す、直す、即ち弊

を改める、惰気を復活せしむると云ふこと。夫れに次いで、困難に大勝利を得ると云ふ意味がござりまして、我々は謹んで 現皇帝と共に此の御思召をつぎますのに、大に覚悟を致さねばならぬ点は此所にあると思ひます。

[我国家の現状]

今、政府は行政整理と云ふことを標榜して、此の根本的改善を企て居るのである。教育界、宗教界は四十年の間に必要なものを形づくつて居りましたが、今度、第二発展の時機に於ては、適当しない所の制度を根本的に改善しなければならぬ。西洋文明を輸入するに急にして、精神的文明を拒絶し、或は古来の美德を傷つけ、新旧の衝突を起しましたが、今日は国民の旗色を明かにしなければならぬと思ふ。その他、外交、軍備等も今度の日本に適し、今後の世界の大勢に叶ふ様な国家の機関となすには、多くの根本的革新を必要とする時代に遭遇して居るのであります。此の新紀元を迎ふるに當りまして、新皇帝陛下は大正と云ふ此の発展の時機に適する標語を国民に賜はつて、国是を示し給うたのは、実に恐悦に堪へないことであります。

[先帝の御意志を継承し新帝に忠を致すべし]

私共はこゝに 大行天皇の崩御を悲むと共に、其の御偉業を継承し給ふ所の 今上天皇陛下の御意志を拝察しまして、ど一か此の御遺志を全うするについて、銘々態度を定め決心を同じくし、其の任を分つと云ふ真心を持ちまして、我々は今日、此の式に於て深く我々の誠意を表さなければならぬと感ずるのであります。只一言、所感を述べて、奉悼の辞と致します。

[中表紙]

始業式の御話

大正元年九月十一日

大正元年九月十一日

始業式に於て

麻生先生

今日は、私共が非常な時期に際会してから、始めて一堂に集つた訳である。私共がこの一学年におきまして、殊に来年の八月末日に至る迄、どんな心持を持つべきかを深く心に刻んで、業を始めることが大切と思ひます。今日は種々のことが一集になりましたから、始業式を簡短にして其の他のことも致したい。即ち式後は、来る十三日御大葬の当日、遥拝式に歌ひます唱歌を練習し、次に御大葬参列の打合せを致す。つまり三つに区切りをするのであります。

始め、幼稚園、小学校 — 皆さんが夏の前に、此所で校長さんとお別れしましたが、校長さんは今何所にいらつしやるか。  
・アメリカ。

左様。十九日に着きましたが、三日間程、艦でゆれて勞れられましたが、其後は元気よくなりました。校長さんは、今はシカゴに大変忙しくして居られます。其の学校のお父さ

んは、此所には顔も見えず、声も聞えませんが、あなた方が一番、国のお父さんとする方はどなたでありましたか。

・天皇陛下。

左様。只今は新帝陛下がおいでになるが、もとの天皇がおいでになりました。校長は再び帰つておいでになるが、もとの天皇陛下には再びお目にかゝることは出来ません。これは今年の夏休中に出来た国家の大不幸であります。その天皇がおなくなりになりましたは、私共は、どーしたらよいのでしょー。

・謹んで居なければなりません。

まだありますか。

・今上陛下にお恩を返すために、勉強して悪い行をなほし、立派な人になるのであります。

そーですが、そればかりでなく、善い行をしなければなりません。高等女学校の生徒に、休み中何か一つでも善いことをしていらつしやいと申しましたよーに、私共は進んで善いことをする覚悟が大切であります。天皇陛下は再び宮城より行幸せられませんが、其の御精神はどこに行つても、ついて居て下さるのである。故に、私共はどこに行つても立派な心を持つて居なければなりません。身体を丈夫にして、我儘を言はず、よい子供にならねばなりません。

この夏は、病気になった人も少なかったでしょー。之れは謹んで気をつけて居るからであります。顔の色も大層よい。だんだんよくならねばならぬ。来年の二月には校長が帰へらるゝから、それ迄には、まだまだよくならねばなりません。

[朝日の様に爽かにおなりなさい]

朝の太陽は誠に元氣な顔をして居ります。天皇陛下のお歌にも、朝日のお歌が沢山あります。朝日は実に心持がよい。この様な爽かな顔をして居る人間にならんければならぬ。何も着物や化粧で奇麗になさいと言ふではありません。心に思ふことが顔色に出るのであります。故に、いつも朝日の様な爽かな心を持つて、元氣のよい人とならねばなりません。

[例年と異りたる覚悟を要す]

本学年の残り二学期は、誠に未だ私共の遭遇したことの無い時で、非常に不幸でありましたが、又、この大なる不幸の時を大に考へ、私共のために、日本国のためになるよーに送ることが、明治天皇の思召であらうと思ふ。

この学年には如何にすべきであるかを、既に皆さんは考へられたでしょーが、今学期となりましては、其の趣を異にせんければならぬことが出来ました。この学年は諒闇中の学年で、精神修養をなすに最も大切な時機であらうと思ふ。例へば毎年秋に運動会がありますが、今年諒闇中であるから御遠慮申し上げます。こー云ふことがあるに就ても、残る二学期は如何にすべきかが直ぐ念頭に浮ぶでありますよー。

[精神修養（内容の充実）]

喪中に於て、どんな生活をすべきかどーか。この学校の十年後の方針は、もちつと内容につとめたいと思つたのである。ことに今度の不幸に遭ひましては、其の方面に尽すべきを思ひます。どーか我々、平常、心掛けて居りますことの幾分を

達し、明治天皇の私共にかくあれとお望みになりましたものを得て行かねばなりません。一言で言ひますれば、例年の様な運動会、演習会などの外に向つてなす仕事は止めるのである。併し、精神上の目標、即ち国家社会、公共に対して為すことを止むるのではない。少くも第二学期に於て、大に之れを養ひ度いのである。

私の考へを申せば、明治天皇が時々御製にお洩しになつたお考へ、即ち種々の有難い思召を顧れば、社会に如何様にするべきかを見出すことが出来ませう。

[王政復古、五条の御誓文]

明治天皇は四十五年の永き年月、内容豊富なる御治世中、色々大切な事件が沢山あります。併し之れは、新聞、雑誌、歴史などで皆さんはよく知つて居らるゝであらう。中にも王政復古、五条の御誓文の如きは大切なもので、これから日本の基が生れて居ります。外交も盛んになり、内外の文明、相応じて盛んになりましたのです。

陛下の御製の中、このことを非常に御心にかけられましたのが沢山あります。陛下が御即位のとき、勅語に「朕 幼弱を以て猝に大統を紹ぎ 爾來何を以て万国に對立し列祖に事へ奉らんやと 朝夕恐懼に堪へざるなり」と、かくの如く外は列国に対して如何、内は祖宗に対して如何すべきかと云ふ二ヶ条について御心をお尽しになりました。之れに依つて見ても、陛下がどんな思召であらゆることを遊ばされたかかかわります。

[億兆のためには先んじて難に当り給ふ]

又、陛下は天下億兆のためにはどんな苦勞をも厭はぬとの思召をお持ちになりました。即、勅語に「今般 朝政一新の時に膺り 天下億兆一人も其処を得ざる時は 皆朕が罪なれば 今日のこと 朕自身骨を勞し 心志を苦め 艱難の先に立 古列祖の尽させ給ひし蹤を履み 治蹟を勤めてこそ始めて 天職を奉じて億兆の君たる所に背かざるべし」と。

[御遺志の強固]

又、先帝は御意志が強固で居らせられました。一度お決めたこととは、もーと一御破りになりませぬ。それで避替にもおいでになりませぬ。総てを質素になさいました。これ、御自分でおきめになり、ちゃんと御守り遊ばしたのであります。又、時々管絃の音の外に洩れることがあると、臣下がお諫め申し上げます。すると直ちにお止めになります。これ、つまり平常のお誓ひをお守りになるからです。

ことに世界の大勢に鑑みられました。即ち、勅語に「近來 宇内大に開け 各国四方に相雄飛るときに當り 独我國のみ 世界の形勢に疎く 旧習を固守し一新の効を計らず 朕徒らに 九重中に安居し 一日の安きを偷み 百年の憂を忘るゝときは 遂に各国の凌侮を受け 上は列聖を辱しめ奉り 下は億兆を苦しめんことを恐る。故に朕 茲に百官諸侯と広く相誓ひ 列祖の御偉業を継述し 一身の艱難辛苦を問はず 親ら四方を經營し 汝億兆を安撫し 遂には万里の波濤を開拓し 國威を四方に宣布し 天下を富岳の安きに置んことを欲す 汝 億兆 旧來の陋習に慣れ 尊重のみを朝廷のこととなし 神州の危急を知らず 朕一度足を挙げれば非常に驚き 種々の疑惑を生じ 万口紛紜と

して朕が志をなさしむるときは 是朕をして君たる道を失はしむるのみならず 従つて列祖の天下を失はしむるなり」と。かくあらゆることを見て、五条の御誓文とこの詔勅が根本となり、総てのことをなし給ふたことがわかります。かく祖先に対し、外国に対し、侮辱でないよーにお考へになつた所を我々が御察し申してさへ、如何許りであつたかが思はれます。  
[新日本生る]

かく四十五年の間、上は列宗に対し、外は外国に対して御政治をお励みになりましたによつて、この新日本が生れたのである。このよーに政治上ばかりでなく、其他に叡明の君と云ふことは、外国の新聞迄が異口同音に言つて居るのであります。

#### [陛下の御仁徳]

なほ、陛下の御徳は廣大無辺であります。即ち数へきれない程ありますが、陛下には常に御自分の過失もお改めになりますが、徳を常にお勉めになりました。若し悪いことがあつても、臣下がお諫め申せばお叱りにならず、誠に寛仁大度であらせられた。それから人に敗けることもお嫌ひでありましたが、お敗けになつたとて、おおこりにはなりません。誠に寛仁大度であらせられました。彼の山岡鐵舟の相撲の話もあるよーに、勝負は時の運なりと仰せられてお咎めなかつた。この様なときには、多くの人は自分を失ふものでありますが、陛下には色々な場合、決してそー云ふことはありません。私はこの様な御聖徳につき、数へつくすことが出来ませぬ。

今朝は私共女子教育に従事するものが、銘々徳を習ひ奉ることが必要である。陛下が色々な御徳を有せらるゝ中に、慈悲の徳を備へ給ふことが著しくありました。それで陛下は、日本の社会事業の率先者と申上げることが出来ます。これは歴代の天皇がなされたことでありまして、祖先を辱かしめぬの御心より出たことでありましょーが——陛下に侍講して居る人が、歴代の天皇中どなたを御理想とせられますかと伺ひましたときに、陛下は神武と景行かと仰せられたそーです。これを見ても、率先して下民をいたはらせ給ふことがわかります。

#### [慈善事業]

其の御仁徳のあらはれは、英昭皇太后崩御の折に三十七万いくらかの金を感化事業のために与へられました。今日、感化事業が多く行はれますが、これ、陛下の御孝行の御精神と共に、人民をおいたはりになります御心のあらはれであります。

明治二十四年の五月から明治四十五年の五月に至る迄、天変地異のあつた為に内帑六十六万円を御出しになりました。又、昨四十四年四月には百五十万円を済生会のために御出しになりました。この様な御精神は御製の中に沢山見えます。陛下は又、常に兵士や百姓、其の他の労働者のことを御同情になりました。冬の寒き日には貧民を、夏のあつき日には百姓に御同情遊ばしました。これ等の御心も御製に沢山見えて居ります。これがあらはれては慈善事業となつて居ります。

#### [客観的の御生活]

先帝は新聞をそのまゝ御覧になりましたので、下民のこと

を直接御同情なされましたのです。かく申し上げるは畏れ多い次第であります。陛下は所謂、客観的御生活をなさいました。

#### [東洋の理想の人格]

御自らを完備なさるよりも、この帝国を、この人民を如何にして立派にしよーかと云ふ思召しから出ます御修養を遊ばしました。つまり、御自分を忘れて御自分をお治めになつたのであります。これ、東洋理想の御人格であります。即ち、没我人格であります。

#### [桜楓会員の一考すべきこと]

夫れで私は、本校生徒は如何にすべきかを考へますに、これ、問題でありましょーが、先帝陛下にお習ひ申し、社会のため自分を忘れ、どーかそのために用に立つ人間になりたい。先帝の思召を実行するよーにしたい。ことに婦人は社会のため、婦人のために厚い同情をして行くべきであります。

只今、千何百の卒業生の中から貧児養育の人を半年も捜しますが、未だ其の人を得ません。勿論これをあづかるとして、其の精神、性質の適、不適と云ふことはあるが、斯く多数の中に一人位はありそーなものと思ひます。女子が参政権を有することにつきては異論があるかもしれぬが、女子が慈善事業をなすにつては、未だ一人の異論はないのであります。即ち、英米欧州の大陸に於て、大学植民（大学生貧民の中に交りこれを教育する）を盛んにして居ります。然るに、我が国にはかゝることはない。女子に至りては尚更である。この女子大学のある所以は、皆さんが自分許りがえらくなるためのものでない。

#### [先帝に報恩の所以]

陛下の思召の如く客観的人格を養ひ、貧民などのために大に尽さねばならぬのである。自己主義のために教育を受けるのではない。之れ、教育の当を得ないものである。故に、この方面の研究調査をなし、修養をせられんことを希望します。考へることも必要であるが、之れ許りでは今日に適當しない。先帝の思召ではありません。貧民救済には如何にしたらよいか。つまり客観的の目的があつて、自分を立派にしなければならぬ。この方面につき、校長の留守中、諸子と共に研究、修養したいと思ふ。これ、先帝に報恩の一つたる所以である。

学校の内容についても直接直ぐおこることは、運動会がないことであります。之れを如何にするか。幸ひ今度、米國から運動につき研究して歸られた木内氏が、本校に働かれるよーになりましたが——毎年運動会には数百円を費します。然るに今日は、体操の設備を要する折でありますから、其の金をこの方にあてるよーにしたらばよいかと思ひますが、皆さんも一所に考へて戴きたいのであります。

高女の父母招待会なども如何にするか。今回は万事、娯楽向のことは慎むべきであるから、その心得を要します。運動会もしないのでから、内部身体を強健にするよーに。又、精神の方では客観的人格を養ふ様にし、又、科外講演如きをするとか、大体そー云ふよーな考へで、謹慎の態度で学問をはげみ、出来る限り力を尽し、一致協力して皇恩の万ーに報いたいと思ひます。

大正元年九月十八日  
第二期 初回実践倫理

(講話者不明)

私は今日、出来るだけ実践倫理を説く積りでありますが、此の際の出来事を利用して、或は他に話が移るよ一になるかもしれません。私は他にも受持があるから、校長の二度の倫理の時のよ一に充分に力が及ばないと思ふが、併し、皆さんの決心も聞いて居るから、自らやつて見るのである。私も夫れで出来るだけ積りですが、皆さんも其の心でやつて貰ひたい。

〔今日之二問題 乃木大将の死〕

今日は二つのことを考へて見たいのです。之れ、一つは乃木大将の死に就てであります。私は未だ大将に就て多くを知らず、又、其の遺書の半ばも公にされませぬから、其の考ふる所も自然、不完全を免れ難いでありませぬが、及ぶだけ共に研究して見たいと思ふ。

〔私の立場〕

も一つは私が校長の尽力せられた婦一協会に何故入らなかつたかと云ふことを明かにして置きたいと思ふのです。

さて、乃木大将の死は自殺であると言ひ、殉死であると言ふが、先づ何と言ふべきであるか。多くの新聞紙上で見るに、其の自殺の行為を非とするも、その精神は諒すべしと言ふ。法科のブルデル氏の如きは大罪なりと言ひ、又、精神の錯乱なりとする人もある。

〔自殺に就ての諸説〕

昔から自殺の原因は種々あるが、社会学的研究は近代のことである。又、倫理学者も之れを論じて居る。併し、パウルゼンは一章を設けて居る他は、多く数行に過ぎぬ。

ミリヘツド、スコットランドのセツシオノロジーの言ふ所は、人には本務がある。之れを完うするには身体を要する。又、其の健康をも要する。然るに自殺は其の生命をさへとるから罪惡と言ふ。

パウルゼンは強ちに罪ではない、聖書の中には罪の價は死なりとあるから、此の意味からは必ずしも善いものではないが、悉く罪だとは言はれぬ。彼の耶蘇の弟子イエスカリオテのユダの如きは師を売つた罪に良心がせめられたので自殺したのでであると、パウルゼンの説は比較的意を得たものである。

ギリシャの昔には自殺はないが、彼のストイツクの如きは自殺を認めたものである。昔の東洋倫理学者にも、説はいろいろある。時代により、学者により、是認し否定したのである。英国のヒュームの如きは懐疑論者ではあるが、自殺を認めたのである。

自殺には種々な原因がある。伊太利のモルセーの自殺論の書には、其の原因は精神錯乱が大半。病氣、失意、自己の不徳行為の結果、家庭の困難、後悔、罪の恐れもあとと言つて居る。

ミリヘツドの如きは、人間の生命は社会の生産で所有であるから、社会の同意を得なければならず、各一個人が之を棄捨するの権利がないと言ふのである。失敗の結果自殺するなどは愚の極なりと。不徳のため困難、貧困、悔悟のための自殺等は悉く否定するのである。

乃木大将の死につき、社会学者、其の他の外人は其の意を如何に論断すべきか知らざる所である。

文明協会発行のベツキ一氏、公衆道徳論二巻の(一)は希臘、羅馬の自殺論、(二)は基督教伝播後の自殺である。この書中には、十六世紀時代の婦人の自殺等もある。セミストクレスがアデンを追はれてマケドンに逃れたが、汝の国をも亡ぼす策は何ぞと尋ねられて、自殺するに如かずと答へたばかりであると。

〔自殺は否定し得べきか〕

基教も自殺を否認したと言ふことは出来ぬ。キリストも深く考れば自殺せるよ一なものである。ソクラテスの如きもそ一である。当時、キリスト教の伝はつたローマは自殺の流行せんとするときであつたから教会が之れを止めるよ一なことにつとめたのである。

彼のタイタニックの船長が救はるべき道があつても、遂に船と共に自殺したことについては、西洋人も之れを賞讃したのである。西洋の武士道と云ふても、露人の如きおめおめ船を敵手に渡すよ一なことは難じて居る。西洋人だと云つて、自殺を否定しないのである。日本の武士道を研究したタイムズ新聞の如きは、日露戦争にあらはれた武士道を英国に紹介しました。今度の如きも、此の新聞は理解を以て書いて居る。

欧州中で自殺の多いのは獨逸である。一年、三百万位ある。之れ、よいことではない。

乃木大将の死の如きは悪意を有しない。彼の佛国の如きはラテン種族であるから、中々突飛な所がある。自殺し易いのであるが、自殺の数は多くない。併し、其の論ずる所は日本人の意を迎へて居ないかと思はるゝまでに理解し過ぎて居るかとも思はるゝ程、よく言ふて居る。性相通ずる所があるからであらう。

英国は日本に学ばんとして努めて居る。自殺にあらはるゝ精神は理解は六ヶしいのであらう。蘇国人等は多少解し得べきも、日本人にも加藤弘之博士の如きは、行は難ずべきが、精神は可とすべしと言ふて居る。

〔吾人は如何なる態度を有すべきか〕

さらば吾人は如何なる態度を持つべきか。之れ、大切なることである。古人の説は知らるゝ通り、おひばらとも言ふて居る。これは殉死とは違ふ。日本の女性史、風俗史にも見えて、殉死は昔からあるが、垂仁天皇の時、禁ぜられた。当時は生きながらに埋められた。支那では木像を用ひた。孔子は俑を作り、之れ誰ぞと言ふて止めた。法律の上には禁じたが、後も行はれた。おひばらとは武家時代に行はれ、何れも身分のよい人はしなかつたものだが、殉死は立派な人もしたのである。

〔大将の死は形式は殉死、精神は責任の感〕

大将の自殺は形式は殉死であるが、精神は責任の感である。

三十年来自己の責任に対して深く感じて居つたもので、陛下の御恩寵の優渥なるに感激した結果とのみ見ることは出来ないのである。其の血肉に対する遺書、其の他を見ても、西南役に連隊旗を失したる武士の体面上、何時でも死を覚悟して居られたが、其の機を得なかつたのである。遂に其の責任を完うして果てられたものであるが、之れ、吾人のとるべきものである。新田義貞の教訓書に大將軍は負け戦の時は腹を切ることとある。

[単に殉死にあらず]

乃木大將は単に殉死と言ふことは出来ない。十年の役のことがなかつたならば、此の度のことはなかつたのであろう。世人は武士道を發揮したと言ふて居るが、更に深く考へて見たい。即ち、責任の感であると思ふ。大將はこの度のことに満足を得てないと思ふ。即ち遺書には大罪と自ら言つて居られる。併し、三十年間、その責任を果す時がなかつたことを思ひ、今後も得がたきを思ふて遂に自殺したのである。積極的に悪を行ひたる大罪人ではないのである。

[死の評価は其の性格により断ずべし]

此の大將の精神、責任のために果てたるは、日本人と云はず西洋人と云はず皆有すべきである。其の方法は勿論とるべきことではない。責任を果すに、自殺が唯一の方法でない。其の方法は、其の人の人格と性格の如何によりて差異があると思ふ。乃木大將の性格は其の方法を選んだのである。

[吾人の大將に学ぶべき所]

彼は熱血の人である。其の人の選ぶ所を以て同情すべきである。三十年間、其の責任を重く感じた大將の精神を学びたいものである。死そのものは第二義のものである。

大將は一般社会、軍人社会の腐敗等を見て憤死したとなし、又、西洋を巡視して彼の文化の進境を思ひ、我の及ばざること、戦争も之れが勝利を期し難し、先帝も崩御せられたれば為す所もなしと悲観の極、死せりと言ふ人もあらんが、之は左程迄、日本が悲観すべきものではない。なほ多くの愚説があるが、述る迄もない。大將夫人に就ては、次に述べることにしましよ。終に、墓碑に明治十年月日とあるよ一なれば、或は五か六かの字を入れ、或は五十年を期して居られたではないかとも思はれる。之れは予が臆測である。

[予の立場]

次に、帰一協会と予との立場に就て一言しよ。彼の宣言書は二つとも姉崎博士が草したものである。校長は初め發起人たらんことを私に進められたが、初め校長の示したものは其の輪郭だけは残つて居るが、宣言書に現れたよ一に広いものと非常に違ひがある。初は、一種の宗派的であつた。一定の形式がありました。方法は違ふけれども、精神は一致して居る。此の一致点は、誤解なきよ一に望む。信仰は一致しても、之れが発表は人により異なるのである。校長は、一の新しい信仰を発見せられたのである。帰一する所は何所か。今日よりの研究問題である。

Lifeの発行のときも私は反対したが、此度も其の精神はよいが、形式をも一定するのはよくない。精神は真に自由である(校長の)が、時々校長は、其の精神はよいが一の形式に

強いなければならんやうに熱心にするのである。私は、帰一協会に名は連ねないが、何所迄も尽力する心のあるのは、この故である。

若し私が校長の意見と何事も一致するならば、人二人居る必要がないのである。何事も迎合して行くこと許りが必ずしもよいのではない。

校長は真人である。偽なき人で、心情に些の疑心がない。私は共にどこ迄も事をするつもりである。世人は校長と共にことをするを愚と言ふものあれども、校長は確かに手腕家である。併し、手腕家の有するよ一な偽を持たない。赤誠の人、真実の人で、其の心情の美はしい人である。得がたい人である。本校の感化ある点は此所である。私は校長と口論もするが、夫れが為め諸子は心配する必要はない。

乃木大將の至誠、責任の感、之れを充分に努めたいものである。又、校長がことをなす方法を学ぶのではない。其の精神を共に取りて、留守中努めたいものである。帰一協会の仕事は根本のものである。併し、皆その根本にばかりつとめることは出来ないから、吾人は女子教育のために専心一意つとめたいのである。これ、私の立場である。

[中表紙]

大学部一年及予科に於て  
大正元年九月二十一日

大正元年九月二十一日  
一年及予科に於て

麻生学監

今日は、明治時代が過ぎ去り、新しき大正時代を迎へた私共が如何に過すべきかを考へたいと思ふ。之は、よく考へれば大問題である。社会に於ける日本の立場、我等の覚悟を定める大問題である。日本人のみならず、既に西洋の新聞でも中々研究して居る。日本は、現今先帝の御大葬に引きつゞき、乃木大將の自殺にて社会は雑踏して居る。故に、今まだ静かに考へる余裕がないと云つて居る。兎に角、西洋人は新しき頭で種々考へて、意見を述べて居る。

世界第一といはれて居るロンドンタイムスは、日本の大正年間に於ける精神的問題について批判的に意見を發表して居る。これは別の話であるが、先帝の未だ御在世の時、米国のOutlook雑誌は、勢力あるジョージケナン(George Kennan)の筆により日本の状態を書かれつゝあつた。此人は曾て我國に居つて、観察したのである。沈思黙考すべき此時機に於て、意見を述べて居る。日本人と西洋人とは、互に親しみ合ふことが出来るか否か。之れについては大問題を惹起するであらう。乃木大將の自殺についても同様であらうと言つて居る。

[ロンドンタイムスの日本観]

ロンドンタイムスに所載した記事を簡単に紹介すれば次の様である。

「日本の明治時代の文明は物質的である。西洋の物質的文

明を迅速に輸入したが、日本の古来の精神を失った様である。それを維持する為には、色々と考えた結果、教育勅語を以て日本特有の精神を維持したいと力を尽したが、遂に失敗した。然して、神道、仏教、耶蘇教の三つが衝突することゝなった。今迄の道徳では人心を維持することは出来ぬ。明治時代の精神を維持するは万世稀なる所の 先帝陛下が、人心の中心であつた。今は其 明治天皇を失つた。即、日本の精神界より日本の魂を受けておいで遊ばした君主を喪つた。此時、何を以て日本の精神を維持すべきか。即、政治家も物質的方面のみならず、精神的方面をも考へねばならぬ。誰が其政治家と言えるか。如何に此後を支持すべきか。」など、将来を憂ひ過ぎたる悲観説である。

同新聞は日本ひきである。「明治の盤根錯節の時代に西洋の文明を最迅速に輸入した斯かる国で、精神的問題につき解せられぬことはない。西洋の文明を暫時に吸収して、日本文明を発揮した。日本人の手腕によりてこそ出来得たことである。日本人を誹らずに批判するは皮相の感で、誤るのである。三千年の昔より其素養を維持して居るから何等かの解釈をつけるであらう」と説いて居る。斯かる説は日本人も論じて居るが、其憂慮、心配して居る裏に参考とすべきことがある。ロンドンタイムスにも参考とすべき点がある。斯く迄に観察し同情せられることは、国際上有難いことである。東洋の融和と云ふ点から考へても感謝すべきである。

西洋諸国で日本を観察して書いたものが沢山ある。又、公平な眼をもつて書いたハリソンの著書もある。しかし多くは日本人を悪しく言ふ。日清戦争当時には同情をもつて居たが、今日では「どうせ日本人と西洋人とは相携へては行けぬものである」と輕蔑し、又、戦争の時には遲鈍である。まるで条虫の如きもので、血が出ても平気である。例へば戦場で作業して居る時などでも少しも弾丸を恐れず、死を恐れずに働いて居る。それと云ふも、死がわからぬのである。死を感じぬのである、とひどい批評をさへして居る。西洋人は死を最も恐怖するが、日本人は然らずと説いて居る。

尚、日本人につきて見誤れる点、三つを挙げて居る。其結論はつまり、日本人も人間である。風俗が違ふ故、其現はれが違ふので、その精神の根本は一致して居ると云ふのである。それにつき一つの話がある。

或西洋人が日本に居た時、其家の主人が朝掃除をして居た時に、西洋人のその人は「お早う」と挨拶したが、主人は無言である。其時、寝衣を着て居たが、何度「お早う」と言つても、遂に無言であつた。そして主人が制服をつけて出勤しやうとする折、漸く「お早う」と返辞した。此西洋人、少々立腹して後に或友に聞くと、日本で主人が掃除するのは体面よく思はぬ。妻のすべきことをして居た。そして、しかも寝衣を着て居たからであると聞いて、道理がわかつたと云ふ話がある。

此種の話は西洋にもある。西洋では客のあつた時、その客の靴を磨かせるので、下女や下男のない家や、居らぬ時には主人自ら之れを磨くのである。此場合に若し見付けたなら、見て見ぬ振りをするのが礼で、口をきくと失礼となるのであ

る。これにても表はれ方が違ふが、人情が同一であると言つてもよい。又、日本人の死を恐れぬと云ふことを論じても、精神のどん底は同一で、いくら東洋人といつても死がわからぬものでない。特に日本人の死については考へて居る。

〔自惚心を以て大正時代を迎へてはならぬ〕

ロンドンタイムスが日本人を能く解釈して居るから大丈夫であるかと云ふに、そうではない。日本人には高慢心が起つて居て、西洋人は皮一重はげば薄い皮を被つたものであるが、それについては日本人は立派なものだと威張つて居る。其他、憲法、教育の制度、陸海軍の組織など西洋諸国の到底及ばぬと高慢するものがあるが、明治の初年に於て如何なる覚悟を以て初めしか。大正の初めに於て如何にして立つべきかを深刻に考ふべきである。即、明治初年は戦々競々として居た。

先帝御踐祚の時、内は祖先に対し、外は外国に対し、朝夕恐懼に堪へぬとの詔勅があつた。日本人は当時ののぞみは、凡てこれであつた。其頃西洋人の雜居を許され、跋扈するを治外法権を以てやりこめたいと願つた。日清、日露の戦争後より、世界列国に対し如何にすべきかを考へつゝ進んだ。其間、自惚れて居た点がある。自分等は自信力でなく、自惚心を以て大正時代を迎へたのではないか。充分考へねばならぬ。即、此自惚れが保守思想を保つたのである。

其保守思想を被つたのは五箇条の御誓文である。誠に進取の氣象を以て開国した。そして、誇つて居た。誇るものは久しからずである。即、油断してはならぬ。されば、此心にて大正時代を迎へてはならぬのである。日本の國家を憂ひては、物質上の方面より如何にすべきか。即、第一、実業を盛んにすべきであると論ずるものがあるが、日本第一といつて居る東京は未だ市区改正も出来て居らぬ位で、実業も盛んとは言はれぬ。此上尚、商業を盛んにせねばならぬ。陸海軍の拡張にも従事せねばならぬ。商業の方面ではない。先づ國家が滅亡せぬやうにせねばならぬ。茲に於て西園寺總理大臣は如何に裁いて行くか。彼の運命の定まる時である。西園寺公も心配であらう。軍力を拡張せねばならぬ。実業も盛んにせねばならぬ。朝鮮の拡張も出来るであらうか。輿論が此所にある。これであるから心配も起るので、従つて、困難である何れの方面に集中してよきかに困難するのである。物質的の難問題に入り、次に精神的問題に入る。

〔社会の二大傾向〕

此に、問題にも二つある。保守的と進取的との解釈である。特に吾人は經濟的問題をも加へ精神問題を考へて、我々の日常をも考へねばならぬ。

今日の社会傾向も、即ち此二問題である。何れが善くも悪しくもない。一は古来の歴史に基礎を置き、国体、歴史に鑑みて居るのである。斯道会は日本の神道を主張し、哲学にても研究し、即、神道論を唱ふ。彼の北原氏の國民の教養と云ふは日本の国体、歴史を根本とし、あらゆる宗教思想を活かし、そして人心の帰一をはかるので、これが有力の代表で、其他種々あるが、今出来て形をなすものは松村氏の道の会である。松村氏の思想は儒教、耶蘇教、仏教、哲学を参酌して、比較研究の上、ここが宗教の根本と考へ、以上の三教、及哲学

とは異なり、それらの教理中より命のある分子をとり出し、其の各分子より比較研究をして共通の点を一致し、一つの新らしき形に表はして世に出して居るのが、即、道の会である。而して現今、頻りに学生を吸収して居る。他にも其思想はあるが、最も有力である。其の外、哲学上よりあらゆる宗教の要素をとり、哲学的な宗教を立て、居る。井上哲次郎氏などが主唱して居る。其の外、各宗派は哲学より来て居る。耶蘇教、仏教などを結合して形成したものはだめである。これは真の祈りと本当の命のある所を捕へられぬから、寄せ集めではだめである。

自然の宗派と云ふものがある。それには人格がいる。人格と宗派とは離されぬものである。即ち、耶蘇教は耶蘇それ自身の人格、自家の人格によつて人々が信仰するのである。各宗派の精を抜けば如何にもと思ふ道理は出来るかもしれぬが、人を感化する人格がないから、今までも通用せぬのであると言ふが、是は考ふべきことであると思ふ。

小人格の人で預言者があるが、私は決して輕蔑しない。誰れでも、誠心を以て説くことには尊敬する。その人が日本の宗教を保つ助けにはなる。併し、偉大なる人格が表はれねば宗教を保つことはむづかしい事である。

色々の人が既成宗教には欠点のみであるからと云つて、学者の作るのにも反対はせぬ。精神を維持するだけに出来るだけ力を尽す、企てをすると云ふのは賛成で、欠点をつけるわけではない。尊敬すべきである。耶蘇教を入れても、国体を本として入れる公平な態度をとり、他の異つた考へには尊敬を払ふ。大正には斯様なのが多くて欲しいと思ふ。

既成宗教から言ふと、これも喜んで自分の考へを出す。何か新しい宗教を作ると云ふ人が哲学より直ちに取るなどは実験宗教でない。理屈宗教である。何かの経験で、これなら人に伝へても精神、即ち真の命を得ると云ふ、その経験より得たものならよいが、或る本を見て作り出したものはだめである。それではいかぬ。自分が心に欺かず、多年経験したものでなければならぬ。これは既成宗教と同一らしいが、宗教生活をせぬ、心につとめて居るかもしれぬ。全くないとはいはれぬ。一方から推して言ふのである。

こんな勢で明治は終り、大正を迎へたのである。再び言ふ。道徳心が足らぬ。天皇を中心とし、神道を取り、其神は宇宙を創造した神で、迷信ではない。明治、大正は道徳ではいかぬ、宗教であると意見はまちまちであるが、これが現今の輿論である。如何なる形をとるかを注意すべきである。帰一協会も同一の主義であるが、帰一と云ふことはむづかしいことであらう。意見はまちまちであるし、出来るか如何か。新も古も一致してきめて出来るかと言ふに、どんぐりの丈くらべて、円満の個条は出来るであらうが、ど一しても人格がいる。

[乃木大将につきて(感化は人格である)]

乃木大将は耶蘇教を嫌つたと云ふ。わかつては居られたであらうが、しかし書生に大言は吐かぬ、無口の人である。或る時、耶蘇教信者が面会して教理を説いた。しかし大将は、一向相手にせぬので、遂にそれ以上熱心に説くこともせず、

憤つて歸つた。乃木大将は年をとつて居られる。考へもあるに違ひない。それを考へもせず、癪癪を起して歸つた者がわるい。それによつて直ちに耶蘇教が嫌ひかどうかわからぬ。然し、何等の説も立てぬ、人の前では言はぬ人である。意見は確かにもつて居られたであらう。乃木大将の人格の高いことは誰れしも言ふ。することは間違つて居ると言ふ人でも、清い立派な人格には何とも申分がないと言ふ。心から言ふ。自殺については学説も種々あるが、自殺そのものは兎に角、乃木大将は口で唱へたのではない。命がけの精神、血がはいつたのである。即ち頭で考へただけではだめである。人格から入るのである。斯かる所が必要である。人を感化するのは書でもない、口でもない、即ち人格そのものである。

[Bacon]

ベーコンは、知能はあるが性格が下劣であると聞いた時、其著書の卓見も急に力なき様に感じ、馬鹿馬鹿しい感を起す様なものである。

[Emerson]

又、エマソン集なども、著者の人格についての話を耳にした後は、再三再四繰返す様になるのも、全く人格に吸引せられるからであると思ふ。故に、ど一しても人格が大切である。感化は論説でなく、人格である。

乃木大将は種々の教訓を残されたが、今日まで口にも唱へられ、又歴史にも種々の教訓を残された人々があるけれども、人格の偉大な实例に会ひたるは、即ち乃木大将が此度の無言の裏の、教訓たる人格の表はれである処の自殺であることを記憶すべきである。

[反省すべき時である]

大正元年より立つべきよい手本である。これにて立たぬ人、此時奮はぬ人はだめである。各自、大に反省すべきである。昨日私が友と語つた時、友は、「全く乃木大将はよい影響を与へた。軍人のみならず、教育家も、商人も、何人も醒めねばならぬ。大正に覚醒せしめる一大警鐘である。自殺のものには重きを置かぬ。殉死には重きを置かぬ。乃木大将の死は、全く自分の目的を完うすると云ふ、人道の最も大なる責任を為し遂げたのである。その責任心も、三十五年ももちこたへて居たと云ふ所に貴い光りがある。我々凡人には中々困難なことである。夫れは明治十年の西南の役の時、田原坂の戦争にて連隊旗を失つたことで、大将には其時の失態を忘れることが出来ないのである。日清、日露の戦役で殊勲を立て、又、大将としても、学習院院長としても十分其職に忠実に尽した。それに一度犯した罪の責任を忘れず、普通人は小さいことと思ふ。特に殊功ある同大将に於て、人々は深くも感ぜぬに、乃木大将は人の道に大小はない。しかも連隊の將として、其大切なる連隊旗を失つたのである。武士の道でないと深く考へた処の責任心より、自殺せられたのである。夫れを殉死といへば違ふ。何となれば、殉死は天皇を慕ひ奉るの余り自刃して、御後を逐ふものである。勿論 先帝陛下の厚恩に感佩し、慕ひ奉るは何人も同様である。故に、乃木大将の至誠は先帝陛下を慕ひ奉る心を以て 新帝陛下に忠を尽さるゝは、真の道であることは十分に承知して居られたのである。それ



位のことは考へて居られたのであることは確かである。故に生くべきか死ぬべきかも、十分考へられたことであらうと思ふ。先帝陛下を慕ひ奉るのみではない。此場合、自殺することは罪である。許して下さいと遺書にも見えて居る。而して十年の役に犯した罪を告白して居られる。それで殉死とは意味が違ふ。」

友の意見も斯くの如くである。追々此説が増す様である。これを間違へてはいかぬ。乃木大将の乃木大将たる所、責任を責任として尽した、ここに立派な人格が現はれた。

[人間の道徳的といはれる所以]

人間が道徳的なものと言はれるのは、責任を負ふと云ふ所にある。わるいことをしたならば、わるかったと責任を負ふべきである。発狂者には責任がない。これは特別である。普通の人には、必ず責任がある。今日の道徳の腐敗は、責任を重んぜないと云ふことにある。乃木大将は明治末世の責任心の腐敗したのを憤慨した。自殺ではない。しかし、小さくない結果はあるであらう。前述の責任心のために、果すべき機会を考へて居られたのである。自分が血を流して自殺したが影響はある。精神は人格の偉大な所にある。学生も普通の人、大将の教へられた所について考ふべきである。軍人も、男も、女も、老若の別なく感じて反省すべきである。私も、責任にはいろいろあつて異なるが、精神に於ては責任を完うせねば良心に訴へて満足は出来ぬと云ふ考へはあつた。乃木大将を失つたことは悲しいが、大正の初めに当り、精神的問題の解決の時に無言の英雄が、此所為は千万言の説教よりも、千万巻の書籍を繙くより遙かに優る。昔からえらい人はあるが、歴史初まつて唯一人である。楠公は偉大な人である。乃木大将は又一種特別の所に、其人格が表はれて居る。

[日本人は犬死を恐れる]

日本人程、死を嫌ふものはないと云ふのは、即ち犬死を忌むのである。ジョージ ケナンなどは言ふ。日本人は無感覚ではない。戦場で石を運んで居る時など命を大切に考へ、びくびくして運んで居つて、あれでもよく戦争し能ふかと思はれる位である。然るに、其日本人が彼鉄条網を破る時などは凄まじい元気で、命を捨て、其役目を尽して居るのをみると感ぜざるを得ない。日本人は犬死を厭ふ。心から死を恐れて居るのである。乃木大将も死を恐れたのである。死の時を得るに苦しんだ。即ち犬死を恐れたのである。此自殺につき批難することはない。叱りを蒙ることは理想の死でないことも書いてある。此場合、死より外なく、此の機会より外なかつたのである。乃木大将は責任を明らかにするには同情を持つて、よき機会であつたと言ひたい。

故伊藤博文公の死は政治家としては理想の死である。如何にも羨ましい死である。乃木大将も伊藤公の死を羨ましく思つて居られたらう。然し、乃木大将は暗殺せらるゝより、自殺した方がよかつた。暗殺では精神がわからぬ。遺書して自殺したので、よくわかつた。乃木大将の死にとつては最もよい。他の人には自殺がよいとも言はれぬが、乃木大将にとつては最も死がひある死である。自分は平素、乃木大将に接したこともなく、話を聞いたこともない。此度色々な話を聞いて、

少からず尊敬の情に引きつけられたのである。欠点もあるが、誰れしも欠点のないものはないから、欠点はあつたにしてもこれだけの事をせられたのは、人間の第一の徳の責任を完うしたことにある。これにて後來、進むべき一つの道を教へられた。人格の大切なることを、しみじみ教へられた。

道徳の第一は責任を果たすことで、人格の最も大切なることは責任を完うする事である。自分にわるき事をしたなら、十分に其責めを負ふべきである。まして責任にそむくのは、以ての外のことである。学生の間責任を負うても、これをつくす事は大切とは思はれぬらしい。乃木大将について、よく考ふべきことである。乃木大将の理想として居ることに欠点はあるかもしれぬが、学ぶべき事はある。研究すべきことである。生ける人格である。大将は同情心に富んで居た。これにつきても、種々の逸話がある。自分は色々、乃木大将に学んだ。殊に明治の末には奢侈に流れ、戊申の詔書が出て居る。当時軍人は実業家となり、遂に罪人となつた人も多かつた。乃木大将は真面目に戊申詔書の御趣旨を守つた。自分によいと思つたことは、人格を通したことである。何事も頭に入り、手と足に出るので、これが普通の人々と違つた所で、我々が修養するにも、話を聞いてそれをよく話したからわかつたとは言はれぬ。実行せねばだめである。先づ第一に自分が実行せねばならぬ。衝に當つて経験してわかつたことは、一生忘れぬであらう。皆さんもあと三年あるが、精神修養は脳に入つて口に出るのでなく、脳に入れ、手と足に出して、実行して初めて了解するものである。自分は小さい人間であるが、命はそこにある。書も読み、聞いたこともあるが、反対説を信ずることは出来ぬ。経験であるから、どうしても自分の考へを破ることは出来ぬのである。道理、理屈、説明は、思ふに口の先きのことが多い。自分が経験した真理だから、どこまでも自分の考へは放さんのである。書を読んだとて、修身談を聞いたとて、立派にはなれぬ。生ける社会に於て、生ける人格に接し、之れを手と足に実行せねば、人格にはなれぬ。乃木大将が平素悪い人であつたら、あれだけのことをしたからといつて誰も信ぜぬが、平素から人の手本になる程の人格であるから、本当にやつたか、本当に立派なことをしたと言ふのである。これは、實際人格を出してきたからである。

[学校の精神をよく知れ]

大正元年には色々な問題がある。乃木大将は暗示を与へたが、その上、自ら研究すべきことは学校の精神である。それが中に通らない。お互は人の意見、先生のお話、刺激や奨励に頼る。只、依頼心ではいかぬ。是非とも、ここを潜らねばならぬ。実際にせねばならぬ。乃木大将に倣はねばならぬ。

欧米の新学説を入れたのは、イタリーの人、モンテスソリー女史である。(感覚の教授をなしつゝある挿絵につきて説明)之れは、イタリーに始めた教育法であるが、米国の方が詳細である。この教育法は自家活動である。すべて、これを根本とする。自家活動は、幼稚園の開祖フレーベル氏が遠き昔に於て既に唱へて居る。其主義を益々精神的にし、不具者の教育より帰納して組み立てた。主義は大體符合して居るが、只、

進歩して居ることに於て驚くべき程である。フレーベル氏は児童活動を主とすべしといった。団体的にすると云ふことは残つて居るが、出来るだけ個人的で児童を自由に活動せしめ、何事も自分自身に実験せしむると云ふのである。Harvard 大学の某教授は、フレーベル氏と異なつた所を箇条書にし、その一歩進んだ所を明らかにした本があるが、中々面白い。社会的の道徳は、なるだけ個人個人に接せしめるにある。茲に一人の悪い子どもがあつた。或る日、一人の女の子が自分の弁当を分けて与へた。それで悪い子どもは、今迄にない愉快を感じた。そして、共に楽しく語り合つて居た時、突然先生は叱つた後に、彼方に連れて行つた。これは全く間違つた教育法で、こんな先生では却つて生徒を悪くする様なものである。こんな時を利用して、子供の心の中に入るべきである。同情を表し合ひ、社会的人格を養ひつゝある所を叱つた故に、かゝることをしては叱られるものである、悪しきことであると感じて了う。斯う云ふことに由つて、余程悪影響を及ぼすことがあるのである。それをモンテソリー女史は嘆いたのである。

大学生活にも自家活動は大切である。殊に個人教育は必要である。現今は、此教育法は幼稚園にのみ行はれて居る。友とひそひそ話して居る時は、余程注意すべきである。察しもなく叱つて了ふと、先生は「わからぬ人だ」と思ふ様になる。悪事を撲滅すべきことは勿論であるが、自家活動にて見出だすべきである。

[先生の御感想（実行の人となれ）]

此学期は自ら考へ、着々実行すべき時である。乃木大将は決して豪傑気取りはしなかつた。宴会に招かれた時など、容貌も親しげに、只のおぢいさんの様に子供らしくして、えらいと見せる風がなかつた。然しながら、どこか厳格な所があつて、又、懐しい所があられた。私は是非、乃木大将の如く修養につとめて見たい。学校の教育法も、そ一である。どちらかといへば口不調法で、責任を尽す人がよい。学校の生徒として責任を尽くし、家庭の一人として家人によく我責任をつくして行く人であつてほしいと思ふ。話は甘いが口ばかりの人だと、いはれたくない。それを言はれるのを最も恐れる。自分から立派なことを口に出して実行に表はさぬは、本当に恥しいことである。本当につまらぬことである。口で言ふのみでは真の人になれぬ。これ迄、幾度か聞いた。当校の生徒は口ばかり達者で、実行が伴はぬと云ふことを。之れは残念でならない。つまり、教ふる処の我々自身に人格がないからである。導くことが出来ぬのである。模範となる力がないからである。併し足らぬと知つたなら、尚修養せねばならぬ。自分は乃木大将のことについて、大に感じたのである。命をかけてすべきである。自分の苦しみを思つても、今ここで失望はせぬ。斯かるものでも、奮発すると云ふことを希望して居る。進まぬが、精々進歩する様にす。乃木大将が三十余年の間少しも夫れを遺却せず辛抱して、最もよき時機に自殺せられたことを深く感動したのである。自分は弱いと感じた。しかし、乃木大将の死を無益にせぬ様にすべきであると思ふ。

自分は明治二十三年に大病で六十日間病床に臥した時、再

び生命を保ち得るとは思はなかつた。しかし幸に全快した。命のあつたは、幸に命を貰つたのである。それで、十分精神的方面につくして行きたいと決心した。其の決心も、時に鈍つたこともあつた。その時には、其決心した時のことを考へては、今日まで来た。乃木大将も時には鈍つたこともあらうと思ふが、大将はえらかつた。自分も其時に決心したことを考へると、実行すべきことを感じたのである。乃木大将のえらきことは、そこに一つある。小なる様でも深く感じて仕遂げたと云ふのは、只々道理でない。かくまで力があるのである。今日は、大正元年に於て乃木大将の精神に習ひたく、此の頃の感想を述べたのである。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
大正元年九月二十五日

大正元年九月二十五日

大学部二、三年に於て

(講話者不明)

今日、私共は学問、修養と云ふことを口にし、又、行ひつゝあるのですが、なかなか出来にくいのであります。

誠に人間の知力は恐るべき進歩を遂げ、造化の秘を奪ふ様になり、奮に物質上許りでなく、精神上に於ても、多くの研究——心理学、哲学などに於て漸次明かになつて来ました。併し精神の方はアリストテレス時代とは、どれだけ進んだか。一般から言へば進んで居るでしよ一が、其の最高点に於て比較して、果してどれだけ差があるかわからぬ位である。故に、人類としても精神発展は困難なることがわかる。一個人にとつても同様、余程苦心を要することである。

[如何にして精神修養をなすか]

然らば、ど一して其の精神の修養が出来るか——

私はそれを説く資格はないが、只之れをなし上げた人の事、教へを参考にして、共に学び度いと思ふのである。即ち古来、聖賢が沢山ある。其の経験により、精神発展をなす方法を知るを得と思ふ。其の方法は東西、其の趣はちがうが、内部に立ち入ると共通の点がある。

[精神修養法]

先づ、東洋の偉人が如何なる精神修養をせられたかを研究することが必要と思ふ。先づ、孔孟老荘など種々ありますが、この方面は余り話さないで、朱子と歐陽明\* に就て述べるつもりである。

【\* 編者注：王陽明と思われる】

これ、何れも孔子、孟子から出た学派ではありませんが……

[朱子 第一、読書]

朱子の精神修養法は第一、読書をするのである。かくして偉人に接し、精神上の知識を得、次に自分の心を静かにするのである。朱子は敢て新学派を開く態度より謙遜に偉人の思想を開いたのである。即ち、偉人の書を熟読し、次によく考へて見るのである。而して之れを活用する。斯くて書によ

り理を究むるのである。

朱子は、宇宙の本原は太極と名づけた。之れ、道理である。太極は同時に、気を備へて居る。人間の本体は太極である。即ち理である。併し人間は、宇宙が物質から成つて居る様に、身体と云ふ物質から成る。故に、人間は太極を知るべきであると教へて居る。

要するに、人間の最も大切なることは理を究めることであると。朱子は主知説であり、合理的である。

#### [第二、静座]

次に、静座することである。読書をすれば甲論乙駁ありて、何れに帰すべきかに迷ふ。故に、静座の必要がある。之れ、直ちに自分の心を知るのである。静座して究理するのである。心の乱れを正し、秩序統一をするのである。虚無寂滅となるのではない。

#### [第三、敬]

次に、敬することである。これは主一無適である。これ、自分の精神を集中して、厳肅なる心を持つ。居敬と云ふのである。これも理を究めて活用するの法である。

#### [第四、力行]

次に、力行することである。行に現さねば役には立たぬ。朱子は敬を重んじた。かくする訳は、力行にあるとしたのである。孔子の如きも、親兄弟に対して孝弟の道を尽すならば、学ばずとも之れを学んだと言はうと言はれたよーに、朱子も力行の必要を称へたのである。

#### [歐陽明\*]

朱子は、下学して上学すると云つた、一足飛びに大悟徹底するものでないと言ひました。欧陽明\* は、必ずしもそーでない。これ、彼が頗る英才で十一歳の時、既に立派な詩を作る位で、自分の経験からしても、そー考へられたでありましょー。欧陽明\* は少壮のときから困難に多く遭遇し、罪を得て龍場謫居せられたこともある。その龍場に居るときに大悟徹底した。即ち、良心を発見したのである。良心、良知、良能の説は、孟子が既に述べたのであるが、彼は五十歳のとき、真に之れを悟つたのである。

#### [良知]

心は理なり…… 之れ、朱子の説と同じ。其の理は万物に理法ある如く、心にも理法あり。心の理には悪い方も良い方もあるが、理想と云ふことを意味して、之れが良心によつて現れるとしたのである。良知は完全無欠なものであるから、発達すると云ふことはない。之れをば聖人も悪人も持つて居るが、只其の発現の程度に差があるのである。即ち悪人には、人欲が其の良知を覆ふことが深いのである。もしこれを除き得るならば、良知が現れるのである。

#### [知行合一]

吾人は之れを修養によつて、つとめるのである。之れをつとめて、良知の何たるやを知るのである。知つたらば、之れを行ふのである。之れ、知行合一である。其の知と行は如何なる関係があるべきか。

#### [第一、先知後行 第二、先行後知 第三、知行並行]

先づ、知つて行ふ …… (先知後行)

次に、行つて後知る…… (先行後知)

次に、(知行並行)すべきであるとしたのである。

欧陽明\*も二程も先知後行説であるが、欧陽明\* は、行はずんば知るあたはずと云ふことを強く言つて居る。ほんとうに知れば行ふ。行はないのは未だ充分知らないからである。即ち、行と知とは離れることの出来ぬ関係がある。即ち彼は、先知後行と先行後知の二説の間をとつて居る。

#### [吾人の修養上の欠点]

何れにしても、行と知とは関係がなければ価値はありませぬ。先づ知つて行ふと云ふことが、お互の欠点に陥る点である。知れば必ず行ふものでなくてはならぬ。何も知らねばならぬと云ふて、何も行はずに終る人が多くある。之れを、欧陽明\* が嘆じたのである。斯く朱子は先知後行につとめましたから、欧陽明\* はその弊を矯めたのである。吾人は精神修養と云つて書を読み、説を聞くが、実行をつとめぬのである。

朱子は居敬と云ふことを申しましたが、之れは大に参考となることである。

居敬 { 静的敬……反省熟慮する  
動的敬……日常事件によつて敬を養ふ

欧陽明\* は、良知を進めて行く、人欲を去つて天理に就く、これには静座浄心する。又、独りを謹み調息等のことをしたのである。之れは往々實際社会から離れ易い弊があるから、動的修養をすゝめ、事情練磨に重きを置いたのである。之れをなせば静座浄心の必要が起つて来るのであるとしたのです。

#### [ゲーテを学べ]

カーライルは「汝はパイロンを止めて、汝のゲーテを繙け」と申しました。これ、人間の最も尊ぶべきは、パイロンの詩の如き熱火燃えたる情緒ではない。行為の宗教を説いたゲーテの詩を尊いとしたのである。即ち、単に情緒に止らず、之れが行動にあらはれなければ、人間の行為も尊ぶ価値が少いのである。

欧陽明\* は政治家となり、軍人となり、種々の苦痛を受け百戦錬磨し、其の血と涙汗の中から吐出した言葉であるから、あなた方も充分学ぶ価があると思ふ。彼れ、龍場に於て良心を発見し、手の舞ひ足の踏む所を知らぬ程喜びましたが、これ一晩に浩然として悟つた様であるが、実は長い間の苦心の結果である。年来、潜在意識で考へて居たことが、其の時意識の上ののぼつたのである。

#### [要するに不断の努力が必要]

ダウインが二十五年考へた結果、種の起原を発見し、ワレスは一週間に同じことを考へ出した。之れは頭の性質の相異もありますが、併しワレスと雖も、潜在意識的に考へて居た結果でありましょー。故に、意識的に考へて結果に至ると、潜在意識的に考へて結果に至るとがあります。故に、何れも帰納的であります。故に何れにしても、努力が必要である。即ち、静座浄心、努力によつて成るものである。古來聖賢の尊ぶべきは実行である。

精神修養の全き道を得るは、この方法である。而して之れを成して、手の舞ひ、足の踏む所を知らぬ喜びの結果を来すのである。悟れば喜びの情来り、自己中心がなくなり、愉快

となる。且つて人欲に捕はれても良心が一度悟つたならば、悦楽の情を味ひ、生れ変るのである。而して、其の喜びは人に分つのである。孔子も、釋迦も、キリストも然りである。吾人、小人と雖も、この境に至り得ないのではない。この境に入つて始めて人間たるの資格を得るものである。「一朝醒れば私がなくなくなり、大なる力のあることを悟る。この力と自分との間に永遠の交情が成立し、人の為に尽すことが非常に楽しくなる」と云ふことが、ゼームスの子弟のスタバツクが論じて居る。お互は、このことが漠然と思はれるが、実行が出来ないのである。

#### [宗教家と道徳家の悟り]

宗教家は、その大なる力と自分とが共に居るの自覚を得る。道徳家はそこ迄は行かず、悦楽を分ける所迄行く。而して、大悟する迄には至らぬのである。宗教家は如何なることでも出来ると云ふ、大なる力を信ずることが出来るのである。

#### [感化と自由意志により新生す]

又、非常に深く感ずると、脳の深い潜在域に連絡する。斯くて強い連絡が出来て、一朝一夕にして大悟することがあるのである。脳は、その精神自身が外界に連絡して Create するのである。精神そのものが脳を作るのである。故に脳によい連絡をつけると、よい性格を作る。これをなすの自由を人間は持つて居るから、或る点に古い連絡があつても、新しいよい連絡が出来る。故に、良能は完全と言ひ得る。(この意味に於て)

斯くて良心の光をあらはす靈力、精神力は、決心によつて脳中に作る。これ、感化によつて、自由意志を動して行くべきである。感化があつても、行ふと云ふ精神がなくてはならぬ。この様に我々が悟つて行けば、人間が變つて行くのである。この様になるには、一方に大なる人格の感化を要するが、一方には努力、即ち実行練磨によつて進むべきである。要は、精神修養には意志の働きが大切である。古今、其のとる途は違ひ、宗教家、道徳家の悟りは違ふが、其の根底は大体に於て變りはない。即ち、宗教家は実在を信ずる。心に只描いて居るのではない。道徳家は理想を持つて居る。これが実在なるか否かを知つて居るのではない。故に、両者の悟りは其の趣きが多少違ふけれども、根底は同じ。何れにしても経験がなくてはならぬ。

#### [知行並進の修養]

事情練磨、動的敬に心を尽し、静座をつとむべきである。お互は知るだけで、行ふに疎くなる弊がある。故に、歐陽明\*の如く、知行並行に進むの修養法が大切であると思ふ。

[中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年九月二十八日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年九月二十八日

麻生学監

#### [乃木大将について]

此の前の時間には、乃木大将のことについてお話ししましたが、今日もそれについてお話しませう。乃木大将は没我的人格を発揮せられたので、即ち客観的に自己を表はしたのであると言はれる。一人人間は、最もよく客観的になつた時に自己を真に発揮したと言はれるので、又、最もよく自己を表はした時は、最もよく客観的になつた時である。自分の一番大切な深い所の部分、本当の自分たる所を表はした時は、客観的になつた時である。没我の時、最もよく自己を表はしたと云ふことはわからぬが、自己を表はした時には没我の状に入つたと言ふことは出来る。

乃木大将が自殺せられたのは、最もよく乃木大将の乃木大将たる所を表はした時である。自分のあるのを忘れて、日本人はつくす道があると考えて、遂に自殺せられたのである。

丁度我々が毎夜、此の頃月が出る。其の丸い輝く月を見て何もかも忘れて了つて、只空の高い所に美しい月のあるのを見るのみで、他には何も思はない。真に美のみを味はうのである。月を見て他に何事も考へない。誠に立派な心である。只月のあるのを知るのみで、心が既に月の中にはいり込んで居るのである。月と自分と一緒に居る。其の時に私共のあらゆる方面は表はさぬにしても、心の状態を真、善、美にわけらば、即ち美を味はつて居るのである。実に、美の要求の円満を得て居る時である。私なるものを最もよく発揮するは、自己を忘れて客観的になつた時であることは前に述べたが、此の真善美を味はふ時は我れを発揮したので、我れを発揮した時には客観的になつて居る時で、自分と云ふものを全く没却して了つた様であるが、其の實、此の時が自分の本性を表はした時である。

乃木大将の自殺は、日本の道徳が見えて自分と云ふものは考へなかつたのである。最も客観的に乃木大将の乃木大将たる所を発揮したのである。乃木大将の乃木大将たる所は、我れを忘れた其の時である。私共は彼れ此れと迷ふ故、客観的になれぬのである。客観的になつたなら、即ち自分と云ふものを発揮したので、自己を表はした時には客観的になつて居るのである。真に善を慕ふは没我の時で、即ち客観的になつて居る時である。

乃木大将のやうに三十五年間も責任をもちこたへることは、普通の人には中々出来難いことである。其の長い間、よくはわからぬが、我れを忘れて客観的に自己を表はして居られたと思はれる。普通の人には友達の病氣といつても、いつでも続いて、しかも前後を通じて客観的には中々なれぬものである。断片的の人間でも、亦、前後矛盾する人間でも、一生涯中少し位は客観的に自己を発揮することはある。

## [先生の経験談]

私が学生の時に、其の小経験をえた。私の友人に福岡からきて居た貧書生があつた。或る時、腸チブスに罹つて京都の鴨川の御手洗川の傍の荒れ果てた家を借りて、自分と他の友と二人して日夜腸チブスの友を看護して傍ら勉強をしたことがあるが、其の当時は働くことを少しも厭はなかつた。伝染病であるが、別に感染しやうかと案じもせず、恐れもせず、嫌ひもせず、親切に看病をした。氷がないので、川端なのを幸に川水を頭からかけてやつたりして、全く同情をもつて働いた。医者も、薬代もとらずに親切に見舞つて呉れた。之れを今日から考へると、客観的になつて居たのであると思はれる。友は此の時には全快したが、其後多年存命して、遂に又病氣を得て死んだが、こんな経験をえたことがある。之れは多少客観的になつた時で、人間たる道をよく尽した時であると思ふ。

私共の行くべき道徳、とるべき理想は、どちらから行つてもよいが、最もよく自己を発現したものでなければならぬ。中途半途をするからお互が迷ふので、昔の発見や発明をした人は其の事に精神を奪はれて、全く自己を発揮したものである。彼のコロンブスが地理の発見にのみ心を注いだときの如き、その為の困難などは少しも厭はずに、専心、我れを忘れて力をそこに集注したのである。そして只地球は円いものに相違ない、是非其の事を証拠立てたいと云ふ心は、丁度我々の月を見て凡べてを奪はれ、少しも他の心がないのと同様である。即ち、コロンブスは発見により自己を発揮するので、只全身全力を尽して居るので、没我の状態である。

Goethe の如きは最もよく自己を発揮して、自分を表はし、人の為になつた。即ち文学に自己を没却し、自分を道の方に注ぎ、客観的になつて自己を発揮した。詩人が景色を見て、全く自分と云ふものをその景色の中に入れて了つて見惚れて居るのは、自己を発揮したので、自己を客観化して居るのである。これでなければ、だめである。

母親が自己を発揮するのは、献身的生活をなす時に於て出来る。即ち、母親の愛は子どもの為には表はれ、子どもの為に何事をも考へ、心中只子どもの心あるのみである。即ち世に、献身的生活とはいへば、母親の生活であると言われるであらう。母親が母親たるの本領を発揮したのが最もよく自己を発揮したので、母としてこれを發揮せぬは母たるの本分を発現せぬのである。子どもの利害、幸福を考ふる時に於て、母たるの本分を発揮するものである。

乃木大将の生涯——勿論、先帝陛下の御一生は常に手本とすべき客観的御精神をよく表はしておいで遊ばしたけれども、先帝陛下の御ことは恐れ多いから此所では申さぬが——乃木大将の生涯についても、まだ話さなかつたが、全く自己を忘れた客観的生活であつたであらう。

## [乃木大将夫人について]

それから、まだ乃木大将夫人の生活は申さなかつた。乃木夫人の如きも、客観的生活であると思ふ。私は其の自殺の前について多くを知らぬが、自殺の時は客観的精神がよく表はれたと思ふ。乃木夫人は只夫に殉死したのではない。乃木大

将の心を以て、自殺したのである。しかし何等の遺書もないから勿論証拠はないが、平生より推した想像であるが、乃木大将の精神を精神として自殺せられたのである。即ちこれが夫人の平素の生活であつたと思ふ。

私は大隈伯について、乃木夫人となられし当時の話を聞いた。乃木夫人となられたについても、夫人の賢婦人であるのを見込んでの結果である。馬關は維新前後は開港場であつて、風俗がわるかつた。維新の功臣が国家に対して偉大な功勞があつたが、個人の品性が下劣で、不品行の人々が多かつた。これは多く馬關生活から出でたのである。明治十五年頃、私どもが京都に居た時も、馬關の風俗は悪るかつた。船に乗つて居ても、何所の室へも構はずどンドン悪魔が乗つて来ると云ふ有様であつた。それで当時の長州の武士は品行を破壊したものが多し。従つて婦人も其の悪影響を受けて居た。それで乃木大将は、長州の婦人は品性がいかぬから長州の婦人は娶らぬと言つて居られたが、遂に野津大将の媒酌で静子夫人を娶られたのであるとの話をきいても、如何に賢夫人であつたかがわかる。乃木大将の理想に叶つた婦人であつたことも察せられる。そして乃木大将の精神を精神として、今日までこられたのである。乃木大将にも幾らかの欠点がある如く、人間であるから夫人にも欠点はあつたに違ひないが、大体に於て真面目になつた時にどうなりたと思つたかを思はなければならぬ。夫人は、乃木大将の精神になつた事はわかる。前にも述べた様に、自殺の理由はわからぬにしても、彼の新聞の記事にありがちの自殺の顛末の如きことはない。

全く乃木大将の生活より考へると、乃木大将と一心になつて自殺したとしか思はれぬ。全く同じ道の為に殉じたのである。夫人も武士の教育を受けたのであるから、自分も道の為に死したのである。乃木大将も只死んだのではない。主義をもつて薙げられたのである。令息を二人まで、戦死せしめたことを悲観せられぬでもなかつたであらう。確かに思つては居られたであらうが、將軍はそんな悲観主義の人ではない。此度の死は、全く意味のある立派な死である。乃木大将には道あるのみである。従つて夫人も道あるのみであつた。全く客観的に死したのである。乃木大将の人格を表はし、夫人たるの人格を表はして死したのである。我れ等の言ふ、普通にある、自分に捕はれた自殺ではない。若しそうならば、夫人は自殺しなかつたであらう。しかし少し考へあるものは、夫の自殺を見て自分のみ残ることは出来ぬであらう。まして乃木夫人の如く、夫の精神を精神として居た人に於ては尚更である。自分が考へても残ることは出来ぬと思ふ。若し戦場で夫と共に戦つていた時に夫が戦死したならば、妻はおめおめ帰るかどうか。こんな時には帰ることは出来なくなるであらう。そこで自分も一生懸命戦つて戦死するであらう。先帝も「戦争に行くものも行かぬものも同体になつて働けよ」と仰せられが、全く平素も戦場も同じでなければならぬ。乃木夫人の死も大将の死と同様に客観的であつて、従容として死につかれたのである。私共が客観的になつて居る時には満足することが出来る。自分のみを眼中に置き、他人を排斥した時程、真面目の時はなく、愉快である。限りない満足に客観

化して居る。ものを見て奇麗と思ふ時は、絶対に満足して居る時である。又、善をした時も同様である。

天国と云ふのも客観化した時で、極楽と云うのも、理想界と云ふのも同様の時である。一生涯、即ち六、七十年も続いて客観的に出来ぬかもしれない。又、出来ぬものであるが、断片的生活でもよるしいから、少しでも私共の生活に客観的の生活が沢山あることを望むのである。

[慈善事業について]

昔から慈善事業に従事した人は皆、客観化したのである。真に自己を忘れて、貧民の中に、罪人の中に自己を没却して了つたのである。

英国の慈善事業が団体的になつたのは近年であつて、十九世紀頃では、個人的に慈善事業をした。十八世紀頃の慈善事業に携はつた有名な人がある。英国に於て慈善事業を開拓したのは婦人であつた。其の主なる人は、ミセス ハンナー ムーア、エルザベス クライ、メーリー パテルター、ミセス チュリンマーの如き人々である。

[エリザベス クライ女史について]

エリザベス クライ女史の罪人解放問題、監獄改良問題は皆さんも度々聞いたでせうが、其の当時、婦人がそんなことをするのはふさはしくないからするものでない。社会も友もすべて反対する人のみ多かつた。その中を断固として自己の主義を通して、遂に監獄に入つて、専ら罪人を導くことに従事した。ところが数ヶ月後には、続々参観人も増加するに至つた。この様に力を尽くした、えらい人であつた。此の人の伝記は中々面白いが、此所では簡単にして置かう。

兎に角、多くの人の反対であつたにも拘はらず、自分が主義として通して行つたのも、只心にかはらぬもの、即ち止めやうとして止められぬものがあつたので、人々の忌み嫌ふ罪人の中に一身を投じ、自分を忘れて只、此の罪人を如何にしようかと云ふ心しかなかつた。即ち、罪人以外には何物をも考へないので、自分のことを何といはれやうが、そんなことの考へもない。どうしても、此のことはしたいと思ひ込んだのである。

十八世紀の慈善事業は宗教的精神から起つた。自分は本当の道を知つて居るから、人に与へてやりたい。殊に罪人は憐れである。罪人は幸福に行くべき道を不幸にいつて居るのであるから、是非とも救ひたい。本当の道に返したいとの精神である。凡て前述の人々は宗教的の考へより起つたのである。  
[ミセス チュリンマーについて]

ミセス チュリンマーの如きは、十二人の我が子があつた。それで居て何をしたかと云ふに、自分の近い所に貧民が多かつた。その貧民を見て、どうかして助けたい、幸にしてやりたいとの一心で、遂に日曜学校を建てた。しかし学校のみでは続かぬ。どうしても職業を与へねばならぬ。初めは男子も女子も世話をして居たが、後に女を主にして、かせ糸を燃ることをなさしめ、後には裁縫を教へたりして、漸次事業が成功するに至つた。

現今の職業学校の創りも此所にあつて、有利な職業を授けるになつたのである。後、感化学校が出来た。只子ども

を集めてよい話をしたとてだめであるから、自分の力で、即ち人格で、よく人々を感化する様にしたいと云ふ精神から出たのである。之れも此の人々等の手によつたことである。

十二人も子どもがあるのに、如何にして暇を設けてこの事業に従事したかと云ふに、十二歳の時に結婚して、仕事する頃には長女が仕事をする様になつていたので、其の事業を助けたとも云ふ。又、長女に家事を手伝はせたと云ふが、兎に角、慈善事業をしたのは大いなる苦心の結果である。而して、矢張りエリザベス クライ女史と同様に、中々の反対と攻撃との中を潜つたのである。

[ハンナー ムーア女史について]

次に、ハンナー ムーア女史は文章家で中々天才がある。それに文学の方面に志さず、慈善事業に力を尽くした。而して働いた所は悪漢の多い所で、常に喧嘩、殺人、強盗など、あらゆる害毒を流していた。それを見て、どうかして之れを改めたい、よくしたいと云ふの一心から、其の方法を考へた。しかし、女の方ではだめである。如何にしたらよいかと色々思案の末、遂に彼の悪漢の子どもを世話するのが最も良策であると思ひ立ち、直ちにそれに着手して、先づ第一に学校を起した。これが感化院の基である。此の人はまた文筆をもつて事業を助けたのは、その子ども等に読ませる本、即ち少年のよむべき本を自分が書いて、印刷して読ませた。此の精神も宗教的方面より来たので、自己の幸を人に分ちたいとの念から出て居るのである。

[ブース夫人について]

ブース夫人は賢夫人である。大将の著書である所の *Darkest Part in England* は、ロンドンの貧民窟の事をかいたのである。之れは夫婦で研究せられたのである。ブース夫人の父は時々説教などをしたが、後にやめて普通の人になつた。母は耶蘇教信者で、子の為に自己を忘れた程の親である。其の感化によりブース夫人も情深くて、何にでも其の情が表はれて居る。

幼き時、大層犬を愛して居た。それで其の愛せられた犬は、ブース夫人につき回つて居た。或る時、室内に入る時、夫人がころんで傷を受けた時など、犬がそれを見て硝子窓を打ち破つて室内に入つて、夫人の傍に来た事がある。犬でも斯くまでにするやうになつた。其の時、夫人の父は犬がわるさをしたものと誤解して、遂に其の犬を殺して了つた。夫人の悲しみは非常なものであつた。まして父は説教までしたことがある人であるのにと、其の無情の行為をも長い間悲しんだ。誠に同情のあつた人である。馬に食べ物を与へてないや夜でも構はず、自分が草やその他の食べ物を与へたりした程、情の深い人であつた。それで貧民などは殊に同情を以て愛した。

夫人が未だブース夫人でなかつた時に、ブース大将が教会で説教をした事がある。其の時、夫人は大層感心して聞いた。其の後、又或る時に兩人が或る席で会したことがあつた。其の折に貧民救助問題が起つた。そして或る人は、国会の議決は何の役にも立たぬから、全く宗教の助けでなければならぬといつた。それを聞いた夫人は、国会の議決は大切であると説いた。此の時ブース大将は、中々立派なる婦人であると知つたのである。而して一年程後に、遂に夫人として迎へられ

たと云ふことである。

夫人は慈善的精神に教育せられた人である。即ち、夫人の母の一念よりの結果であると言はれる。夫人の母は夫が説教を止めたりしたので、尚更自分が一念になつたのである。こんな時には、普通の女ならば却つて共に精神を失ふものであるが、流石にブース夫人の母はえらい。尚一層精神をこめた所に其の人格が思はれる。ブース夫人は全く母親の感化と、自分の天性と相まって清い人となつたのである。例へ父は悪るいにしても母がしっかりして居たならば、子どもはよくなるものであることも言はれる。

清い人格のブース夫人は、幼き時は日曜学校でも臆病な子どもであると言はれて居た。祈禱する前には必ず五、六分は人々を待たせた程の臆病者であつた。然るに、遂に万人を感動せしむる程の偉大なる説教家となつた。此の人は十八才の時、肺病に罹つたが、熱心に養生して命をとりとめた。其の後は、全く自分を忘れて貧民の為につくした。十二才の時から慈善会の書記をして、苦勞をした。貧民を憐れみ、動物を愛し、弱きを救ふところの精神が盛んであつた。

ブース大将夫妻は今日でも世界に尊敬をうけて居るのも道理である。其の大部分の仕事は、夫人の仕事かと思はれる位である。ブース大将の仕事にも、反対者があつた。今日でも嘲笑する人があるが、自分は社会に肉と霊とを養ふものは救世軍であると思ふ。他の耶穌教は霊のみを言ふのであるが、救世軍は下層社会の困窮者を感化し、又、幸を分つのである。そして又、成功して居るのである。最も尊敬すべき客観的生活である。

ブース夫妻は、貧民、罪人を眼中に置いて生活を送つた。ブース大将の遺産は、五万円あつた。日本で五万円といへばかなりであるが、西洋では大将としては貧乏の方である。之れを見ても、全く自己を考へなかつたことがわかる。私が或る時、岡山市の旅館で色々話した末、岡山の孤児院の様子を聞いて見た。その時、主人は「中々えらいものでございます。石井院長さんは今では十万円からの金持ちです。」と言つたことがあつた。しかし其の裏、石井さんには五万円以上の借金があるとのことである。ブース大将もそんな風で誤解されたので、中々豊かであると思はれて居た。それは手元に集まる金は大したもの、その大金を我が物に取り込めば、それこそ豊かであらうが、そんなことは出来ぬ。社会はそれが出来る様に思つて居たのである。死して初めて、精神がわかつたブース大将は、自分の身を貧民等と同様に貧しく過した。

乃木大将の貧しい生活をしたのも、同じく精神的な生活であつた。故に私は、立派な人は客観に自己を没して居るものであると考へるのである。

〔婦人が慈善事業に成功する理由〕

慈善事業と云ふものには、西洋では男子よりも女子が主として働いて居る。どうして女子が主として働くのであらうか。勿論男子も携はつて居るが、女子が主である。而して女子の手により、二十世紀の慈善事業と云ふものを起したのである。何故、かくまで女子に功勞があるかと云ふに、之れは婦人の天性を発揮したもので、罪人の為、又は赤貧者の為、捧げる

ことの出来る天性があるのである。弱き者の為に生命を捧げるだけの天性があるから、一般婦人が此の道に成功するのである。それには又、理由がある。

〔第一、母たるの性を有する為〕

即ち、成功する原因の第一としては、婦人は母となるもので、又なり得るものである。此の母たるの性が、之れ等、慈善事業を成功せしめる一原因となるのである。子を持たぬ人、即ち母にならぬ人にはわからぬ。又、世間には母にならぬ人もあるが、子をもち母になれば必ず母たるの性は有して居るものであるから、發揮するものである。子どもの為に己を忘れると云ふ母親は、自分の苦勞をいつも心にかけず、己を全く忘れて子どもの為につくす性を備へて居るのである。之れは自然の約束である。即ち、女は人の為に一生を捧げると云ふ性がある。これは、婦人が子を育て一身を捧げる性があるからである。何故かと云ふに、子どもは弱いものである。それで其の弱い子を助けるものがなくてはならぬ。即ち、そこにそれを助ける為に母の愛が起つてくるのである。これが即ち、弱きに対しての情であるからである。而して大方の婦人は弱きに同情を表し、又、表し易い性があるのである。まして病人、貧民、或る事情の為に嘆いて居るものの為に同情すると云ふ、此の深い慈愛心がある為に、彼の慈善事業も出来るので、全く自然の性である。只それのみならず成功する理由には、前述のやうに慈善心に富む天性を有するのが一因をなして居るのである。

〔第二、人性を観察する性を有する為〕

第二には、母が子どもを育てる時には、先づ第一に子と云ふものを知らねばならぬ。どんなに育てるべきかを考へる様になる。これは文明が進む程、尚考へる様になる。子どもは如何なるものかを調べると云ふことが起つてくる。勿論それは児童研究家の様ではないが、兎に角それらについて考へるやうになる。婦人は人性と云ふものを研究する眼をもつて居る。子どもの性を如何にと知つて置く必要もあり、又、其の性を見つけて、教育をかへて行くと云ふ必要もあるのである。婦人は、人の性を観察する所の性を有して居る。

〔第三、子どもに感化を及ぼし得る性を有する為〕

第三には、婦人は子どもに感化を及ぼすもので、如何にせば充分なる感化を及ぼし得るかと云ふことを、学者までには行かぬが、知らず識らず人を感化する道を研究して居るのである。それで婦人が世に立つにも、貧民、罪人、病者を取扱ふには如何にせば彼等が従順になるか、命令に従ふか、又、幸を与ふることを得るかと云ふことを常に念頭において居るのであるが、現在之れ等の事業に従事して居らぬものには出来ぬ様であるが、昔から婦人は人の性を見、又は感化して居るのであるから、させれば出来るのである。数千年の習慣として遺伝した性であるから、する心さへあれば出来るのである。

〔第四、婦人は子どもの心を心とする性を有して居ること〕

第四として言ふべきことは、婦人は感化のみならず、子どもの心を心とする性がある。即ち、子どもの心に立ち入り、又、子どもの真情に母親が入らねばならぬ。貧民を支配するにも貧民の心となり、病者を扱ふならば病人の心にならねば

ならぬ。即ち、子どもになり得る母親にならねばならぬ。本  
当になることは出来ぬから、想像を以て子どもの心にならね  
ばならぬ。病者、貧民にも想像を以て、其の人々の心に入る  
様にせねばならぬ。然らざれば感化は出来ぬのである。婦人  
は丁度その性を有して居るから、慈善事業に成功するのであ  
る。

#### [第五、慈善事業と経済]

第五には、最も慈善事業に関係のあるのは経済であると云  
ふことを述べやう。道徳は経済を離しては出来ぬことである。  
殊に貧民に道徳を行はしめやうとするには、必ず此の経済を  
離してはだめである。これは、しみじみ感ぜられることであ  
る。兎に角、経済と道徳とは相提携して行くものである。道  
徳をよくするにも経済が必要であるやうに、経済界をよくす  
るにも道徳である。現今、実業界の不振も実業家が無責任で、  
不道徳であるからで、自然、経済界に信用がなくなり円満に  
ゆかぬのである。そして金融を破壊し、実業を衰退せしめる  
のである。之れも全く道徳を欠いて居るからである。経済は  
道徳を離れては発達せぬものである。昔は武士は食はねど高  
楊枝など言つたが、今日では生存競争が盛んであつて、貧民  
に天命に安んぜよといつたとて、妻子が食べるに物なき有様  
で困窮して居る様なものが、ど一して真の道が耳に入らう筈  
はない。それであるから、正直にこの仕事をすれば家族を養  
ふことも出来るから此の職業を与へてやるが、それには十分  
正直に真面目に働いて道徳を守らねばならぬと云ふ風に説き  
入つたならよからう。只、真面目に道徳を説いても効がない。  
彼れ等が食物を得、安樂を求めするには、正直に忠実に道を守  
らねばならぬものであると云ふことがわかるやうにならねば  
ならぬ。救世軍は道徳のみは言はぬ。しかし依頼心を起させ  
ぬやうにして、先づ第一に彼れ等に職業を与へるのである。

今日まで慈善事業を起した婦人は、精神の方面のみ言つて、  
経済の方面を忘れて居たかと云ふに、決してそうではない。  
これは一家をもつて居るから、経済方面は殊に感じて居た。  
若い人々は、経済とか貯金とか云ふことを遠いことの様と思  
ふが、一家をもつと直に味はふことである。非常の富でない  
限りは、この経済を誰れでも得るのである。道徳と経済と伴  
ふものであると知つたなら、慈善事業を開拓することは出来  
る。十八世紀の婦人の慈善事業の歴史には、即ち経済が立た  
ねばならぬと感じて尽力したことが表はれて居る。最も此の  
時にも感じて居たのである。今日の社会に於ても、経済と道  
徳との問題も直に解せられることと思ふ。

色々の方面から考へて見ると、婦人が慈善事業に成功する  
は疑ひのないことである。婦人が病人の母となり、貧民の母  
となり、子どもの母となり、国家の母となるのである。又、  
助けを要する人の母となり得べき性を有して居るが、成人で  
も助けを要するものがある。夫れは即ち貧民、罪人、病気に  
苦しむ人等である。子どもには尚更助けがある。それで婦人  
は、その様なものの母となるのである。又、母になるのが婦  
人の天職である。若し婦人として、哀れむべき罪人や病人を  
見て一掬の涙も出さず、罪人を罪人として見て却つてあたり  
まへと思ふやうでは、婦人の天性を完うして居るとは言はれ

ぬのである。

#### [日本婦人は主観的である]

東洋にも婦人が慈善事業に従事したことはあるが、此の頃  
はない様である。一方からいへば、宗教が衰へたからである  
かもしれぬ。これまで日本でも此の事業は宗教的信念のある  
ものから起つたのである。西洋では殆んど此の信仰からなつ  
たものであると言つてよい位である。日本の婦人は、まだそ  
れを感じない。西洋人は何の爲にして居るかを、もう少し考  
へて欲しい。男子も弱きを救ふと云ふことを思はぬことはないが、  
其の爲に身を尽くし、一生涯を捧げることは出来難い  
ことである。日本婦人は、西洋婦人にくらべて此の事業に携  
さはつて居る人が少ない。これは日本婦人にとりて恥とすべ  
きことで、国家に対する職務を怠つて居ると言つてもよい。  
今日の日本婦人は主観的で、自分の天職を完うしない。男子  
も其の風習であるが、殊に女子に於て日本的の道徳を高く清  
くしたいと思ふ、其の方法を講じない。抱負も実に微々たる  
ものである。之れは感情的のものでない。忽ち感じ、又直  
ちにさめる一時の問題ではない。勿論、冷静に考ふべきこと  
である。婦人が社会の爲に働くは、次代の国民を作る爲に必  
要である。其の子どものみならず、貧民、罪人の子どもに同  
情を表すべきである。

此の頃、西洋では婦人が子どもの爲に非常に力を注ぐと云  
ふことである。例へば運動の様なことでも、何れの都会にも  
子どもの運動場のない所はないと云ふ有様である。それに、  
日本にはどこにも子どもが愉快に遊ぶ様な公園もない。又、  
そんな所で、よい感化を与へる人もない。しかし、只一つあ  
る。ミセス大森の遊林舎である。これとても日本人ではない。  
米国の入である。そこであづかり、子を遊ばせるのであ  
る。未来の子どもを立派にするには、市街生活が最もわるい。  
外国で恐れるのは、此のわるい市街生活である。それで外国  
の子どもは、子どもの遊園場へきて体操もし、唱歌もし、教育  
もうけて、夕方には帰るのである。そ一して夜食事をすると  
直に寝所に行くのはわるいから、又此所にきて遊んで寝につ  
くのである。

この様に子どもの爲に考へられて設けられてあるのは、大  
森夫人の遊林舎のみである。英国では、市街生活でわるい子  
どもに接してわるいことがしみこむのを恐れるのである。日  
本人は未だそれを気付かぬ。しかし、幾分づつは子どもの爲  
に方法を講じて居るかもしれぬが、まだ此の種の設けを見な  
い。子どもの遊園場のないことは坂谷市長も同情をもつて居  
られるから、多少その設備は出来るかもしれぬ。大森氏の様  
なものが是非建てたいと、自分は思ふのである。しかし、  
金の問題であるから、焦眉の急でないと云つて後回しにされ  
るかも知れぬ。

兎に角、婦人は殊に此の方に力を尽すべきことで、又、最  
も適当して居ることと思ふ。次代の国民の爲になすべきこと  
が沢山あるが、笑はれるとか、恥かしいとか、色々のことを  
すると反対せられるとか思ふ人もあらうが、既に西洋ではし  
て居るのである。それに日本でも、此の事業を起してもよい  
と思つて居る時であるから、あまり反対も攻撃もないであら



う。けれども先づ、此の事に従事する以前に、弱きを助ける精神が必要であるから、やむにやまれぬ精神がなくてはならぬ。感ずる処の其の適度によって、精神に興味が出るのである。精神を養つて後、社会の為に働かねばならぬ。その社会に働らく為に、十分精神修養をせねばならぬ。一家を治むる力の余裕があるならば、此の道の為に捧げるのはよいことである。

英国は開けた国であるが、貧民中に無学のものが日本などよりひどい。例へば、生れた子どもの頭を洗ふと云ふことをせぬのである。何故かと云ふに、若し頭を洗つて湯などが眼に入り、耳に入つては大変だと案ずる余りである。斯かる無学の母親がある。しかしこれは決して多くはないが、社会にはありがちなことだと思ふ。何も知らぬ為に、却つて子どもを悪しくするものは少くない。西洋では地方視察員を教会区境の中に置いて、家庭毎をまはらせる様にしてある。そして貧者の母親のために、子どもの育て方や衛生を調べたりする。それで一ヶ月に二度とか母の会があつて、洗濯に関して、又は子供の育て方について、其の教育法について教へるのである。時には礼儀について教へてやるなど、すべて婦人の手で行うのである。

日本の貧民を調べて見ると、道も解せぬものがあるに相違ない。それを教育する様に我々が力を尽したなら、不道德な病的な人が減じて、立派な国民となるから、従来の個人個人の幸福ともなることである。即ち、個人の滋養品の不足を考へる。それを貧民の所に行つて見ると、その実際がわかるのである。例へば木にしても、日陰の木は日あたりのよい所の木とは大いなる差がある。即ち、日光と云ふ養分が多いと少いと違ふのである。人も丁度之れと同様に、養ひがなければ働けぬまでに衰弱するものである。労働者などが滋養品をとらぬ為、遂に身体が疲労して働く勇気も出なくなるので、途中で家に帰る。すると、収入が少ないから生計にも困るので、家内が面白くゆかぬ。けれども身体が弱いので、思ふ様にはならぬと云ふ悲惨な有様となるのである。疲労ほど不快なものはない。そこから不幸が起るのである。

【生ける感情教育が必要である】

苦しんで居る虫を見ても何とも感ぜぬ人は、時々貧民の様を見ると情をいかにす基となる。人と人に対し、情をもやすことが出来ねば、其の人はだめである。或る新聞記者が私に、どうしたなら人間の情を作ることが出来るであらうか、偉人の伝記や小説や劇を見せるがよいであらうかと聞いたので、私は、それもよいが生ける感情教育が必要であると答へた。即ち、下女の病気の時には薬をやる、水をやることなどから行はしめるのがよいのであると思ふ。小学校の生徒でも、貧民を見せずに只小説や説教ではわからぬ。貧民の困窮の有様を見せずに情を育てやうとするのは、むづかしいことである。病人を見せて、病氣であるから薬を与へると云ふ様にしたいと思ふ。つまり実際を見せて、生ける教育をしたいと思ふ。日本人は、まだこれがないのが欠点であると思ふ。家で一番弱いものは下女である。若し病気の時には薬を与へしめることなどは、子女を教育するのに最も有益な生ける情の教育だ

と思ふ。

多分皆さんは、病院で病人を見舞つたことは少ないであらうと思ふ。西洋の女学校などでは見舞はぬものがない位である。教会では花束を与へたり、自分の作ったもの、買ったものを与へて慰めるなど、病人の哀れなる有様を知る機会が多いのである。日本でも教会は耶蘇教信者であるから、この種の人を憐れむ折もあるから、そこに行く子ども等は知ることが出来るが、極少数である。家庭も社会も、其の方面を教育することにあまり気付かぬのである。それで皆々が冷淡であるのではないかと思はれる。

ブース夫人が町を歩いて居た時、罪人が巡査に引き立てられて行くのを見た。見ていた多くの人たちは嘲笑して居たけれども、ブース夫人は憐れに思つて、走りよつて罪人と話しながら歩いたことがあつた。これも全く母の教育である。天性もあるが、中々こんなことは誰れにでも出来ることではない。罪人を友とすると云ふは尚更のこと、一緒に住むも、食を共にすることさへいやがるのが普通であるのに、その様な人は慰めを与へ、同情すべきであると感じて、小娘が多くの人の嘲笑する中を一緒に話しながら歩くなどは、余程の決心がいる。彼の臆病の子どもと言はれて居たブース夫人も十四、五歳の時には、斯くまで大胆になつて居た。それと云ふのも、全く自分を忘れた客観的精神があつたからである。これは日本とは風俗が違ふから、直ちに真似は出来ぬかも知れぬが、精神は手本とすべきものである。之れは全く自己を客観化したのである。何人も、この様な精神をもちたいものである。

大宗教家は罪人を友としたものである。人より捨てられたもの、苦しんで居るもの、罪人、悪人を友としたのである。

弱きを助けるやさしい心を持つ時は、動物をも感化し得るものである。或る雑誌に、米国に動物を非常に愛する動物園長があつて、其の人が熊をなつけた話が出て居た。熊はひどいものであるが、全く自分が心から愛すると、仲よくなれるものである(勿論、技量もあらうが)。其の堅い信念をもつて動物に接したなら、必ずなづけられるものであると言つて居る。熊を撫でてやり、それから檻の中に入つて撫でたりして愛し、熊の何所を撫でたら喜ぶかと云ふ様なことを知り、相撲をとり、なげられたりして遊ぶ。時には苦しい程、抱きしめられたりするから、熊の笑ふ所を撫でてやつたりする。又、時には相撲で全く疲れて了つて、熊の足を枕にして眠つたりすることもあつた。其の時には、熊は自分の毛で身体を被うて暖かにして居て呉れたと云ふ様なことも記載してあつた。又、或る時には相撲に疲れて寝て居たら、熊が見振りするので背に乗ると、階段を上つて自分を二階に連れて行つたことがあつた。又、或る時、これは或る公園の狼をなつけた話があるが、其の狼は誰れにもなつかず、人を見ると飛びかゝるので、人々は恐れて居た。それに此の園長は側によつて、頭を撫でてやつた。初めの程は喰ひつきそうにしたが、愛をもつていつたから決してなつかぬことはないと思ふ。固い信念でもつて、かまはず後には檻の中に入つて、撫でたりしてやる中に遂になついたと云ふことである。そこで園長は如何なる動物でも、しつけることが出来る様になつたと言つて居る。

我々お互でも人間に対して、この人がする様にしたなら、何人をもなつけることが出来るであらう。愛の力の偉大である。此の力は婦人がもつて居る。然るに日本婦人は、社会的に此の愛をもたぬのは、よくよく考ふべきことである。直ちにそれに拘はれと云ふのではない。先づ子どもを育てる上に、此の心が欲しいと思ふのである。小供に動物を愛せしめると云ふことも、よいことである。鳥が自分の家に来たなら、それを害せない様にせしめると云ふことは、動物を愛せしむるに適當のことであらう。今でも田舎などでは、我が家に鳥類が来ぬやうになると家が衰へるのであると言つて居るが、そうかもしれぬ。夫れと同じであるが、田舎では雀が沢山来てくれるのは家人を忘れぬのであるからよいことだと云つて喜ぶが、その通りであらう。動物も愛情のあるものの所へは、矢張り集まるであらう。次代の国民を養ふ時には、こんな教育をもして行きたいと思ふ。

私の家では自分がして見たいと思つて鳥を飼つたが、家人の手がない為に、今は古い巢が一つあるばかりであるが、子どもに無益な殺生をさせぬ様に教育するには、よいことと思つて居る。

世間で業に行く人があるが、これも反対はせぬ。家に鳥がくると殺したり、又虫を見つけて殺すのを何とも思はぬと云ふことは、わるいことである。害虫との区別をして、其の外の動物を愛護すると云ふことは大切な教育である。家をも愛し、人をも愛し、又自分の思考力に適する愛を捧げ、実際の習慣を養ふことが必要である。

[精神修養をせなければならぬ]

皆さんは自分自分で考へて、自分の兄弟、又他人に対しても、没我の精神をもつて行つて欲しい。それには精神修養がある。既に今迄に習慣がないのであるから、新しく、ここに習慣をつくつて行くべきであらうと思ふ。

[中表紙]

大学部二、三年の御話

大正元年十月二日

大正元年十月二日

大学部二、三年の實踐倫理

松浦教授

[模範的人物とは如何]

今日、少しく考へて見度いことは、理想の人物——模範的人物は如何なる要素を持つて居る人であるかと云ふことである。

[頭腦明晰]

第一は、頭腦の明晰と云ふ要素がなくはならぬ。即ち Head が Clear でなくてはなりません。英文科の二、三年頃になると、外国の大家の作を読み、説を学び、日々偉人の思想に接するのであるが、ぼんやりした頭ではわかりません。哲学、心理学など云ふ高尚な学科から、料理、裁縫と云ふよ一

ものに至る迄、頭をつかはぬものはない。我々は毎日学ぶ学科により頭を磨くことを、一つの目的としなくてはならぬ。こゝに考へ度いことは、本校に於て必修科の他に専修科の設けがあるが、之れは今日の教育に於て画一主義の弊ある所より之れを矯る為、選択の自由を与へて居るのである。

[学修は狭きを要す]

学科を修めるについては、広く渡るより狭い方がよい。何となれば、広ければ浅くなる。狭ければ深くなる事が出来る。之れ、人間の脳力には限りがあるからである。

今日の中学程度に於ける学科は、余りに多く過ぎると思ふ。大学部に於てもそ一であつて、これは矢張り、狭く深くする方が利益と思ふ。

毎時間の講義を筆記すれば我が者となる様に思ふかもしれぬが、之れは大なる誤りである。Note に書くことが単に夫れのみ止るでなく、よく事実をかみくだいて、頭の底に刻み込むでなくてはならぬ。頭をかすつて行くよ一な知識にふれて居てはだめである。腹の底までよく飲み込むことが出来て始めて興味も湧いて来るのである。

之れからの世は漸々複雑となり、家庭も従つて単調ではなくなります。之れを所置するには、益々頭の明晰を要します。故に頭腦の明晰は人物の第一要素として大切なのであります。[感情の優美]

第二には、感情の優美と云ふことであるが、今日の中等教育に於て、著しく趣味教育の欠けて居ることを思ふ。絵画や習字でも只書くと云ふことに止まつて、優美の感情が伴はないのはだめである。歌をよむにも只三十一文字を並べる丈けでは、ほんとの歌は出来ない。歌は歌を詠む心になつて作らねばならぬ。ラスキンは、英国が文明、複雑になるに従つて、優美を欠いて行くのを嘆じたが、實に世が開けるに従つて殺風景となつて行く。

[美と善とは両立しない]

西洋の或る小説に、一人の旅人が静かな美しい田舎を旅して居つたときに、今一人の旅人が道を伴にしよ一と願ひました所が、其人の相が如何にも悪気があるよ一に見えたので、心の中には厭つて居りました。やがて、一層景色のよい所に参りました所が、其の悪相の人が、ま一何と云ふ奇麗な景色でしよ一と申しましたときに、さきの旅人は始めて安心をしたと云ふ意味で書いてありました。このよ一に美と善とは両立しない。極善なるものは極美であります。昔、宗盛の愛妾熊野が歌を以て其の心を動したと云ふ如き、優雅な感情によるものであります。

今日に於ては、だんだんこの情が乏しくなつて来たよ一に思はれますが、矢張りあなた方は学校に居るときから、これを養ふことに心掛けることが大切と思ひます。

[性質の堅固]

第三には、性質の堅固と云ふことでもあります。鋼鉄は幾度か火に入れて鍛へたよ一いたものであります。人間も、この鋼鉄のよ一に堅固な人になるにはど一したらよいかと云ふに、これは幾度か修養、反省するのである。自分の欠点、弱点を他と比較して知るのである。又、過去の自分と比べて見るの

である。いろいろ性質、気風の異つて居るあなた方のよ一な境遇に居ると、お互の間に、すれよ一て磨かれ、両方が延びるのである。——人には無邪氣、柔順と云ふこともよいが、之れ丈けでは弱いのであります。

境遇のよい所に居れば、しつかりした者も、しないものもそんなにわからないのであります。さて、六ヶ敷い複雑な境遇に逢つて始めて、それを確められるのであります。故に学校に居る中にも、うかうかしても過されますが、矢張り堅固なる意志を養ひ、強い人間となることが大切であります。  
[身体の強健]

第四には、身体の強健と云ふことであります。これは申す迄もないことであるが、私は病氣のために学校を休んだと云ふことは一度もありません。それで自分には自信を以つて居ります。凡そ身体の機関は一通り生理学を学べばわかるのであります。故に、どこが病氣になるかと云ふことはちゃんとわかります。それで病氣の来かゝつたときに氣をつけるのであります。即ち病氣は未発、初発に妨ぐるのであります。既発のときに医師に診てもらふのは遅いのであります。私は常に之れを実行して居りますから、大した病に冒されないのであります。

以上のことを言を換へて言へば、第一は知、第二情、第三意、第四身体を健全に保つのである。更に換言すれば、第一真、第二美、第三善、第四健であります。そこで之れ丈けは極平凡なことではあります。亦、極確実なことではあります。  
[本校の主義は何か]

さらば我が校の主義は何か。本校創立の始めから人に誤解されることがあるが、それは、本校は帝大と比肩すべき学者を作る学校だとするのである。——本校は決して、そ一ではない。人物、人格を磨いて行くのが主義である。諸子が学ぶことがもし無意味ならば、つまらぬ人物を作ると云ふことが単に実践倫理の講義丈けで出来るのではない。其他の講義を聞き、実験をするときにも必要である。うかうかと読み、聞き、書きして居ても、何もならぬ。自分の読んだ書物を焼いて後に残るものが、あなたのものである。Noteを焼かれたり盗まれたりしてなくなる様な知識ならば、だめである。大切なことは、失ふべからざるものがなくてはならぬ。女子大学三年間に何を得たか。口には言へぬが確かなものを得て居ればよいのである。それが高尚なものである。

[人物養成主義]

そこで、今日あなた方にとって日々如何にして有益に送るか。我が校は人物養成主義である。これには、先きに述べた四ヶ条を朝から晩迄で考へて実行するのである。

[静は意深し]

第二に、教場に於ける其日より、課業の前日の方が意味が深い。仏国のアミエルの曰く、静かな海は怒つて居る海よりも意味が深い、又、静かなナポレオンの像は、拳を挙げ厳しい風のハーチニスよりも意味が深い、と言つて居る。

あなた方に於ても、昼間活動して居る時よりも、夜に入つて静かになつた寮や家庭に於けるときに意味が深いのである。多くの利益を得る人は、前日をよく送つた人である。前日、勉強するときに、即ち復習と予習をするときに、今日のこと

をよく腹に入れて明日の予習をする。かくして当日は、よく頭に入るのである。

戦争も同じことで、干戈を交へるときに勝敗があるのではない。戦はぬ前に、きまつて居るのである。之れと同じく、前日の課業のときに熱心に用意があれば、よくわかりおもしろ味を感じることが出来るのである。

[自得すべし]

そこで、こゝに必要なことは、第一、知識は之れ自得すべきである。命となすべきである。

[実用すべし]

第二に、実用する。即ち、自得したことを行うのである。犠牲と云ふことが眞個と思つたら、家庭や寮舎に歸つて実際にやつて見るのである。即ち学校に於て学んだことが、血となり肉となり、生命の一部となつて頭に残ることが最も大切である。

[今日を尊べ]

進歩、向上——前に進み、上に昇る。これは大事なことではあるが、先づ足下を見ることも大切である。

明日は今日である。つまり我々は今日が大切なのである。若し過去、未来のことを考へるならば、入学前、卒業後に於て考へるがよい。即ち、決心して入学をした以上は、過去を考へる必要はない。未来を慮ることはいらぬ。今日を考へたらよいのである。今日なすことに全力、全才、全才をつくすべきである。毎晩、自分は今晚死ぬのだと云ふ覺悟を以て、送らねばならぬ。

神は過去、未来なく、只現在あるのみである。人間も過去を忘れ、未来を忘れ、現在に生きることが大切である。而して、この現在が漸次集つて生涯となるのである。かくなれば苦痛、煩悶はなくなるのである。安心立命して日々を送ることが出来る。斯くして、さきの四ヶ条に注意し、今晚死ぬとも遺憾なしと思ふて日を送る。こゝに於て諸子の顔に、一種の輝が見える様になる。其の磨き上げた人格を心の中に持つならば、黙して居ても人を感化することが出来る。其の存在が世の中に大切なこととなる。家庭は為に輝き、斯る人の学校にあることは、学校の光となるのである。

[自得実行せよ]

約言すれば、自得せよ。而して、之れを行へよ。之れが多ければ多い程、立派な性格となる。之れは自身の幸福のみならず、延いて学校、家庭、社会を益することになる。願くば、昨日より今日はどれ丈け頭を練り、美なる心を持ち、又、実行をしたか、健康になつたかを考へて進みたい。若しこの様に進むことがなかつたならば、生きる価値がないものと思へる位にして、修養をせられんことを切に望むのであります。

[中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十月五日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十月五日

麻生学監

此前は、人間は客観的性格をもたねばならぬことを話し、尚客観的生活の一部分の慈善事業について話したが、今日もそれに関係をもつて話すつもりである。

[入学した目的について反省すべきこと]

私共が学校へ入学して勉強するのは何の為であるか。之れは第一に考へねばならぬ問題である。社会に学校は多いが、普通教育程度の学校に入学する時には、さ程に考へはない。高等小学校も女学校もまだ幼少であるから、入学するのに目的はない。先づ中等教育を受ける程度までではないと言ってもよい。けれども、皆さんの様に中等教育が終り、高等教育を受けるには青年期を数年過して居るのみならず、多情多感の人生である時代に於て此の学校に入学したには、何等かの理由があるに相違ない。それを皆さんに考へてほしいと思ふ。

社会には普通教育以上の学校は数多ある。専門学校もある。それらの学校に入学する人等も必ず目的があるに違ひない。皆さんは、どんな目的をもつて入学したか。夫々目的はあるであらう。今、ここで聞いても言はれる筈であるが、人間は弱いものである。真面目に考へて居らぬかもしれぬ。ぼんやりして居る人も、あるかもしれぬ。それで、さう云ふ人等は十分真面目に考ふべきである。目的がなければ、此の学校に入学したかひがないのである。人間には模倣性があるから、人が入学するから自分も入学すると云ふ様な人がないとも言はれぬ。そして何の為に入学したのか、わからぬ人もあるかもしれぬ。只、親が入学せよと言はれたので入学した人も、自分で希望して入学した人もあらうが、其の目的が違せられつゝあるか、学校の主義、方針に一致して居るであらうか、家庭の要求に一致して居るであらうか、又、日本の社会が要求して居ることに一致して居るであらうかを考へねばならぬ。

自分の入学した目的を考ふる必要がある。ぼんやりして居る人は、学問にも修養にも得る所がない。かくては、自分の行くべき方角を知らずに旅行して居るのも同様で、得ることの少いのみならず、自ら迷つて、自分の方針をあやまるものである。如何なる目的を有するか、よく考へて、はつきりと定めて行かねばならぬ。この学校に三年間居て何をなすべきか、何を心得て帰るのであるか。果して三年間を価値多く過して帰るであらうか。はつきりした目的のある人は、心得て帰られるのである。

目的のはつきりして居る人はよいが、志の立つて居らぬ人はだめである。孔夫子は三十にして立つと言つたが、皆さんは満十七才で学校に入学が出来る。其の皆さんは果してはつきりして居るか、自問自答すべきである。学校の主義と一致して居るか、思ふことが国家の要求に適して居るか、古来の歴史が示す所に従つて居るか、聖人君子の希望に添うて居る

か、如何。自分は如何なる目的を有すべきかを考へて、きめねばならぬ。最早や目的は定まつて居る筈である。一学期に既に定まつて居るであらうが、此の際、も一つ十分反省すべきである。三年の終りに、如何に後悔してもだめである。其の時、勉むべきであつたと気がついて、も一遅いのである。目的は一学期に既にもつべきであるが、まだ定まつて居らぬものは、今日、今からでも直に反省して、確實にして置くことが大切である。其の参考に少し話したいと思ふ。

[人間はどうならねばならぬか]

先づ、人間はどうならねばならぬか。哲学、宗教、心理学、教育学の言ふ所は、個人と社会が一致せねばならぬ、調和せねばならぬと云ふのである。二十世紀の生活は、個人と社会との調和でなければならぬと云ふのである。このことは歴史について考へて見ても、人類が発見した。実験したのである。そして夫れを共同して発見したので、学者のみがしたのでない。又、東洋人のみがしたのでなければ、勿論、西洋人のみでもない。今日の世界的文明社会の人は、古来からのをうけついで居るのである。決して個人の思ひついた、一時のものでない。歴史から、ねつてねつて出来上つた理想である。人類の歴史により得た理想であるから、確かである。そ一云ふ理想の起つたことについて話して見やう。それは人文史全体をしらべねばわからぬことであるが、簡単に話して置かう。[理想の起源について]

昔の人類社会は社会あつて、個人なき時代であつた。野蛮社会は団体が喧嘩して、個人と云ふものは認められなかつた。団体の権力が強くて、個人は社会の所有物の有様であつた。個人は団体の中に入れられて、圧制を受け、奴隷の様に使はれたものである。太古の野蛮国は同様である。個人主義は、社会の未開の時代には決して認められなかつた。

人間の知る限りに於ては、団体が主権を握つて居つた。それから漸次進んで、個人と云ふものが見出だされる様になつた。東洋と西洋と比較すると、東洋は団体に主権があつて社会の権力が強いので、これと反対に西洋は個人の権力が重んぜられる様に発達したのである。之れが西洋と東洋との違ふ所であつた。而して東洋は団体に権力があることが長かつた。[西洋の文明の起源について]

西洋の文明をつくつたことを云ふと、団体から個人にうつり、個人から団体にうつり、又、団体から個人にうつり、一起一伏して居た。即ちヘーゲルの言つた様に、静起ると動來るの如く、反動として度々變化したのである。

ギリシヤと云ふ国は団体主義が盛んであつた。それを代表したものは Sparta で、皆さんも承知の通り団体主義が盛んであつた。Sparta は歴史を讀むと國の様に見えるが、実は都市である。昔は、市即ち國で、所謂市國であつた。そして、此の時代には小國が沢山あつた。其の國々は皆、極端な団体主義を唱へた。

其の後、Sophist は全く個人主義を主張した。Sparta で、個人の権利を軽んずるので、道徳上からも、政治上からも説く様になつた。Sophist は倫理学の方面にも主張した。その説は、正邪真偽は個人にあり共通の所はないのであるから、

個人が標準となり、個人以外に標準はないと云ふのであった。その上、其の頃には、あらゆる人が守るべき道徳がなかった。他の人はこれを善と思つても、自分が悪と思へば悪と思ふと云ふ有様で、全く正邪善悪は個人個人が定めると云ふ状態で、道徳も、学問も、全く極端の個人主義を叫んだものである。個人が眞の学問の標準であつて、道徳もなかった。それを反対したのは、Socrates、Plato、Aristotle 等である。盛んに調和主義を唱へたのである。

其の頃、ローマに於ては非常な団体主義を唱へたので、国の権力が強かつた。ギリシヤの Sophist 時代には個人主義を重んじたので、偉大な人物は出た。ローマは反対に団体主義を重んじた為に、国家をよくすることは出来た。そして国家を維持する為に二大帝国にわけて中々の勢であつたが、偉大なる国に比して人物はないと言はれた。しかし、政治家には偉大な人物があつた。即ち、国家と云ふ団体に心を置いたからであるが、其団体をはなれては、あまりなかつたのである。ギリシヤには、団体をはなれて立派な個人は出来なかつた。ローマは団体の権利に伴つて、個人の立派な人物が出た。これも全く団体生活のおかげである。ギリシヤは Aristotle の個人主義を攻撃したが、後には其の個人主義の為に滅亡した。

ローマは前述のやうにして進歩していった。其の反動として中世紀の始めに文芸復興が起つた。之れは個人主義の表はれて、国家制度で個人が没却されて居るからして、其の制度、主義から個人を救ふ為に起つたのである。而してギリキの盛んなことを再興しようとしたのである。

次に盛んになつたのはローマ宗教である。ローマは法王が権利があつて、全く旧教主義で、これにそむくものは罰せられると云ふ有様であつた。即ち火刑とか水刑とか、悉く罰せられたものである。宗教的の団体主義を実行した。これが跋扈したので、ルーテルの宗教改革が起つたのである。教会が眞理を開く鍵を有するものでない。個人個人の理性が眞理を開く鍵をもつて居るのに、ローマ教が権利を振り、法王が压制するは間違いであると云ふので、ローマ旧教に反対した所の個人主義より起つたのである。

又、欧州には国家が発達した。即ち、王が諸国に表はれて国家が成立した。そしてローマ法王が主権を振ふのに反対して、新教が表はれた。法王の権利を諸王が脱しようとした。其の当時は諸王も法王に手をついて居た位で中々の盛んな勢であつたが、漸次、政治、宗教ともに脱して諸王が権利を振り、諸国が独立して、King が政治的に団体主義を興すよ一になつた。諸国に専制政治が起つたので、十八世紀の啓蒙時代が起つた。即ち理性主義である。王が人民を压制する理非曲直を蔑にするは压制であると思ふ思想を立て、国家は人民の為にあるので君主は人民を道具とすると云ふ不平より、佛国の革命が起つたのである。斯う云ふ風にして、団体主義から個人主義にうつり、相互に盛衰があつた。

近頃は社会主義が起つて居るが、之れは彼の個人主義の政府万能主義、無政府主義とは異なつて、政府に力を与へて、個人に幸福を与へると云ふのである。ロシアなどにある極端な個人主義とは非常の違いである。

実業上にも資本を出し合ひ、合資会社を組織して居る。これは実業上の団体主義である。其の中に入ると、奴隷の様に使はれる。資本と労働とが相反して、資本が団体で、労働が個人主義となる。これを調和せねばならぬと云ふ様になつた。

国家の政治に於ても同様である。米国の如き盛んに個人主義を唱へる国でも、現今では、此の調和すべきことを言つて居る。今日では、まだ少しも調和がとれて居らぬのである。人間は調和を得ねばならぬと云つて、社会も、哲学も、政治も、二十世紀には是非とも調和すべきであると言ふに至つた。しかし、中々そこまでには到着せぬ。これは一個人の説でなく、長い歴史が示す経験の歴史で確実である。

【人間は何を求めて居るか】

人間は何を求めて居るか。調和したいと云ふ人類の意志が表はれて居る。意志の要求が表はれて居ることは間違ひないことである。之れを我々は知つて居らねばならぬ。知らぬ人でも、それを追求して居るのである。であるから、歸する所はそれに向ひ、活動して居るのである。知らざる神を拝んで居るのと同様で、知らず識らず努力して居るのである。教育家や学者達が、調和につとめて居るのである。而して学者が研究した結果、理論上にも道徳上にも必ず調和すべきであると言ふが、現在はまだ不調和で、只理論上で一致して居るのである。皆さんが客観的になると云ふのもこゝからくるのであるから、歴史上からは如何になり居るかを話したのである。理想はそこにあるのであるが、理論上では調和すべき筈であると言ふが、實際はそうでない。学校で問題になるのは、学校と個人との調和である。即ち、よく一致、調和すべきことであるけれども、それが出来ぬから努力があるのである。

社会全体から見ると、調和が出来て居らぬ様であるが、個人では悟りもし、物もわかり、即ち調和して居るかもしれぬ。又、物のわからぬ人も多いであらう。まだ社会と個人との調和が出来ぬと云ふのも全体ではないにしても、聖人、君子の様な人は出来た人である。凡人にしても外見は出来て居らぬ様でも、眞に調和されて居るかもしれぬ。よく物の眞を見なければわからぬ。耶蘇が猶太国民に殺されたのも、耶蘇の意志を発揮したので、内を見、前後を大観すると、全く個人と社会と調和したのである。社会には、個人的に言へば調和して居るものがある。学校でも調和した理想教をのぞむのであるが、中々出来ぬのである。十人十色と云ふことのある様に、段階がある。千人あれば千人、万人あれば万人だけ個人個人により違ふわけで、調和せぬ人も、調和した人もあるのが實際である。理想は個人と団体とが調和したいと云ふことである。

【個人修養する時の標準について】

所が個人が修養する場合には、団体の衝にあたる時と団体の分子となる時とは、自ら違はねばならぬ。個人が団体の中にあつて当局者にあたる時には、個人の要求をみたすことに気をつけねばならぬ。それには団体の機関の局にあたるものが最も注意しなければならぬのである。日本の政府なども、なるべく万民の希望をいれる様に注意してあるのである。なるだけ個人の要求をみたさねばならぬが、千人あれば千人、

万人あれば万人、すべてに正当な要求をのこりくまなく充たすことは普通の人力では出来ぬが、当局者の心得は、なるべく各自の要求を充たさねばならぬと云ふの心がなければならぬ。そして又、多数の人を扱ふには個人化せねばならぬ。

保護されて居るものの各自は社会化、即ち客観化して行かねばならぬ。立ち場が違ふから自然、修養の方面も違ふのであるが、大体に於て客観化せねばならぬ。そして団体全体につくさねばならぬ。

即ち、個人の修養は団体化、個人化せねばならぬ。いつも、此所に標準を置いて修養せねばならぬ。

[社会全体の為をはかるは結局は個人の為である]

社会全体の為をはかることは、理論上よりいへば、全く個人の為である。社会全体をよくするは境遇をよくすることで、利益がある。或る意味からいへば社会の恩恵として、かゝる人間が出来たのである。日本は世界に比較して、社会ある為に得て居ることが大である。若し我々が台湾の蕃人であつたならば、どこまでも蕃人で過さねばならぬであらう。全く社会がよかつたから、私共がよいのである。即ち社会がよければ、我々が恩恵を蒙ることが多いのである。従つて、幸福である。

佛国では三十有余年の間、小学校から佛国国民の徳育と云ふものを、即ち宗教を入れなかつた。寧ろ排斥したのである。哲学からいへば、Kant、Comte の説よりつた徳育も中々その通りにゆかず、だんだん徳育が衰へて人心が浮薄になつたのである。

吾人は社会あつて出来たのである。佛国は偉大な国家にしなければならぬと云ふ主義でやつていたが、よくなかつたと云ふは、万国倫理学雑誌に佛国の徳育は力がないといつてある。今、唱へられているのは、社会そのものをよくせねばならぬ。社会あつて人民あり、國家があるのである。社会の為に恩恵を蒙ることはたしかである。個人は、社会共存主義をもつて社会の恩恵に報ゆる為に社会をよくすると云ふのであつて、之れも一方の真理である。我々は社会により保護されて居るからには、社会の為に尽さねばならぬ。

しかし人間は、これさへあればよいとは言はれぬ。これだけに限るとはいかぬ。佛国は此の共存主義であるけれども、根本は矢張り宗教的に入るべきであると云ふが、私もこれは確かに真理であると思ふ。社会をよくすることは個人をよくすることで、自分が社会をよくすれば個人がよくなるとは言はれぬ。私共がよくして置けば、子孫がよくなるのである。私共が社会化して居れば、子孫が社会の利益を受けるのである。即ち、子孫は現代の生れ変つた我れで、我れの再生である。再生した所の個人が利益を受けるのである。

社会の為につくすのはよいことで、境遇をよくすることである。人間が此の世に生れ、生存する時の考へは、人類の発見して居る個人を知り、社会と我れとの調和で、我れを没するのである。没すると云ふ意は多いが、全く自分を没すると云ふのと調和とは違ふ。

[乃木大将について]

乃木大将は義務と我れと調和致したので、没したのである。

調和なく没したのでは自滅したのである。自己の要求が入られぬと云ふ様になつては、奴隷になるのである。全く大将の自殺は道と我れとを調和したのである。乃木大将が道の為に殉じた時は、道が没したのではなく自分がしたので、道と調和したのである。乃木大将をよく發揮したので、即ち調和して居る。

[私共が是非つまなければならぬものは経験である]

個人と社会は調和しなければならぬ。理想はここまで来なければならぬ。保護せられる人として社会をよくして初めて、調和したのである。之れは技術の様なものであるから、自己が見出さねばならぬ。万人なら万人、夫々悟りがあるであらう。

自転車の乗り方と云へども、一人一人に教へられるものではない。自ら経験して乗れる様になるのであるから、之れを経験して理解して行かねばならぬのと同じことである。

個人と社会と調和すると云ふことは己を捨てることである。人によりやりかたが違ふし、又、抽象的にはわからぬが、社会と調和するには万人なら万人——例へば此の学校の生徒が千人あると云ふならば、その人皆が、誰れでも幾何学の解説の様には出来ぬ。誰れも幾何学の問題の如くにはわからぬ。経験せねばならぬのである。やつて見て、やりそこなつても失望せず、失敗したならば又試みて行くのを、丁度自転車に乗り試みる人が忍耐、苦心して、遂に乗れる様になるのと同様にせねばならぬ。これは自転車と自己と調和したのである。之れをいつどうしたか、解剖して説明は出来ぬ。社会と調和するのも、先生より話を聞き、本を読み、伝記を読んだのではわからぬ。勿論それも必要ではあるが、つまりは経験である。私共が是非ともつまねばならぬものは、経験である。

社会調和は意志の方面を考へねばならぬと云ふが、私もわからぬ。皆さんもわからぬであらう。自分も社会と調和しようと思つて居る。皆さんの中には、私より遙かに調和の出来て居る人があるかもしれません。お互に道連れである。それで、之れをお互に研究したいと思ふ。

[意志の必要]

第一つとむべきは、意志である。私共は境遇に関係するか社会に恩沢があるとか云ふと、社会によつて出来た様であるが、それも一方の真理であるが、社会がいくらよくても我々の遺伝が悪ければ、よきはならぬ。例へば罪惡の遺伝は、善の社会に居たつて生れつきがよくなければだめである。人間がよくなるには、善種であつて良社会でなければならぬ。善種が要素である。自分の發揮の要素であるが、境遇がよくなければ十分の生長はせぬのである。

草木が日光も空気の通はぬ所では、花も実も出来ぬのと同様で、どうしても境遇がいる。適当な地面に置かねばならぬ。例へば梨にしても、適当な良地、又良境遇がいる。これが大切である。そこで、此の種をよくする義務がある。良種及び良境遇を益々よくする必要がある。種がよく又境遇がよくとも、人間は個人に意志がある故、よい境遇、よい遺伝とのみは言はれぬ。わるい境遇や、わるい遺伝の時には、意志が必要である。遺伝と云ふものをよくすることは、困難ではない。

普通的手段で自分の力により、自由になり束縛を脱することは出来る。

それは宗教上に表はれる再生である。日本ではあまりに研究しないが、京都大学の松本博士の宗教上の研究を公にせられた、三百頁にもわたる書物がある。しかし西洋にはあるが、東洋では、統計をとる程に科学的には研究がしてない。西洋の学者は、今日は宗教心理学雑誌に研究して出している。其の研究した結果の再生をしらべると、遺伝と云ふものも意志で弱めることがある。宗教上の意志の力は偉大なるものである。かの人殺しをする大罪人でも、宗教の感化で立派な人になることがある。そ一云ふことは普通教育には作り出されぬ。自分がこれを止めたいと考へて居る時に宗教が入り、意志が入ると、驚く程の変化をするものである。今迄とは天地の差が生ずるのである。自分の我儘から他人のことを思はなかつた人も、人が気の毒になつたりして、本当に世の中が麗しい、又、風も太陽も美しく思はれる様になるのである。意志の力は、一番よく変ることに於て宗教上に表はれるのである。

そう云ふわけで、私共が我れと云ふものを作りなほす意志の力で、前半生と後半生とを全く別人の様にすることがある。利己主義の人が、客観的にかはることがある。之れは意志が新しい人を作つたので、意志の一種の創造力によるのである。生物進化論が盛んになり、動物が境遇により色を変へて行く様なものである。真暗がりに居る魚には眼がないのも、境遇が作るのである。人間が出来たのも、境遇の恩恵である。進化論以外、境遇万能論をもつて、すべてを解釈しよとした。

しかし近頃は、其の反動で意志の力を唱へて、境遇でない、意志で加勢するものであると云ふ。人間の中に意志がある。其の意志は盲目である。意志は色々の方を見出だし、理想を作り、又、自分の目標を作るのである。脳も境遇が作つたと云ふ。周囲の境遇に應ずるには脳が出来た。即ち生命を維持する為に境遇が作つたのである。脳は意志が作つた生きんとしたもので、完全に生きたい、最も円満に要求を充たすと云ふ其の要求を満たしたいと願ふ、その意志の要求を充たす為に色々発達した。意志が創造したと云ふ意志はあらん限り満足するは、満足をする為に出来たのであるからである。昔は自然によって影響せられたが、十九世紀の科学の発明があつてから、自然界を私共が支配するに至つた。空中飛行機の様なものも出来たが、まだまだ用途があるであらう。海も水も、まだ中々用ふる方法があるであらう。土の用ひ方も、まだあるであらう。進化論を発見したが、こんどは意志が、説明する大なる力があるものとなつた。

修養するにも、こ一なりたいと思ひ、意志活動したなら意志の力、信仰の結果によって出来るのである。若し遺伝が強ければ努力がいる。事実わるい所があるが、遺伝によい所があると弱きを圧するので、意志がよくるのである。遺伝がよくて、事実の悪いことがある。甲と乙とは同一説教を聞いても、遺伝が違ふと感じ方が違ふのである。

[意志の修養（偉大なる力を有することを確信すべきこと）]

社会と己れを調和統一せしめるには、意志の修養を第一にすべきであるが、先づ、意志は偉大な力のあるものであるこ

とを確信すると云ふことは、むつかしい所からおこるものではない。卑近の所から求めて、実行するのがよいのである。

天理教信者の山中ミキ子は、婦人ではえらい人である。学問はないが、精神の力を信じて、教理を説くのに平易なことを言つて居る。病気は人に欲があるから起るのであるから、その欲を神の前に洗ひ去ればよくなるのであると説いて居る。

西洋の哲学も平易にすれば、この通りになるのである。簡単なものから起つて、経験と符合した時に確信を得るのであるから、高遠の理想でなく、卑近の所から納得すればよい。東西の学説を作つて、Plato等の哲学者らしく言はれるのを誇りとする人もある。お互はそうならうとして居るが、知つて居る人が必ずしも確信をもつて居る人とは言はれぬ。しかし、確信をもつにはむつかしいことは無用とは言はぬが、自分が経験上如何にもと思ひ、経験が生み出してきた確信でなければならぬ。即ち、経験して他人の話を開くか、他人の話を聞いて経験するかが大切で、確信状態はこ一云ふ所から違つてくるのである。

意志の教育は、第一、意志はかはるものであるから、意志を活用して行かねばならぬ。この活用すると云ふことが経験である。確信は人から聞いたのではだめである。人には意志力で勝ち難い癖があるが、矢張り意志によつて直るのである。其の勝ち難い癖は習慣によつて出来たのである。其の習慣になるには、次の様な経路をとるのである。

神経原と神経原とはつながつて居らぬので、三十億と云ふ大数の神経原はみな、はなればなれになつて居る。其の間を無線電信の様に、道が幾つも出来る処の可能性を有するのである。

例へば茲に、金を有して居る人がある。其の金を貯金しよ一か、慈善事業に寄附しよ一かと思ふ時、貯金しよ一ときめると、そこに一つ道が開ける。一つのことを他のことに連絡して、金さへあれば貯金すると云ふ様になつて了う。それと反対に、初め慈善事業に寄附しよ一ときめ、漸次寄附する習慣をつけたなら、いつもその方にむくのである。神経衝動は化学的作用であるが、それがたびたび行はれて、遂に甲と乙との道が開けると習慣になるのである。これを神経原の可作性と言つて、一度二度とくりかへす中に道が開けるのである。守銭奴であつた人も一度慈善事業に心をむけ金を出した、又、次にも此の方面に金を使つたとすると、慈善事業に尽すと云ふ習慣が出来て、以前習慣であつた守銭奴をかへて了うことが出来るのである。

[良習慣をつける必要について]

意志が今言ふ様に働いて、自分がよい習慣、品性を作る様に心掛けねばならぬ。習慣の古い道を通らず、新しい道に行く場合に感激して、よい道をとつた時には、通路が深くなるのである。生理上には、前述の様な作用をもつて居るのである。そして、私共は通路をかへる力を有して居るのである。生れつきの習慣は遺伝である。生れぬ先からあるのも同様である。神経原の連絡が出来て居る。それを用ひずして他の道を開いて、だんだんよくなることは出来るが、一度出来た習慣を直すことはむつかしいから、初めからよい習慣を作るこ

とに気をつけねばならぬ。意志教育上、よりよき習慣を作ることは最も大切である。理想を与へ、直に実行することは困難である。理想の生きてゆくは、よいことをすると云ふ習慣をつけてゆくことが必要である。最も大切な徳育教育は、幼少の時から良習慣を作ることに注意するのにある。

Aristotle は、三十才までは習慣をつけることが出来ると言った。或人は二十五才位までに成熟するから、その先きはむつかしいと言ふ。Aristotle も研究が十分でないから、三十才が必ずしも正当とは言はれぬ。兎に角、二十五才以上の人は正当な発達が出来ぬのであらう。佛国、獨国も、ほゞ同一である。西洋の方は、一体にアクセントが違ふ。子供の時から日本語を習った人はアクセントが日本人と違はぬと同様に、日本人にしても習慣をかへ新しい語学研究は出来ぬと語学者がいつて居る。例へば、大学を卒業して技師になり、再び工科に入つても、あまり困難はないと心理学者もいつて居るが、それを全く科の違ふ法科に入学するのは、余程困難である。之れと同じく、道徳上でもかへることは困難であるから、始めから良習慣を作るべきである。近頃の子供はお伽噺も、よい格言も知つて居るが、良習慣がない。皆さんは習慣をつけるのに已におそい。何人も早すぎると云ふことはない。年をとれば、も一つ困難であるから、今からでも作る様に注意すべきである。

[精神修養の第一は良習慣を作るにある]

精神修養の第一は、良習慣を作ることである。皆さんは、十分よい習慣を作らねばならぬ。教育は其の良習慣を作る基礎を築くことが大切である。皆さんは、自分で作つていつてほしいと思ふ。自分の意志を以て作らねばならぬ。

[意志の力をためす為に経験してほしい]

意志の強弱を知るに、自分の習慣でしることが出来る。冷水摩擦をして居る人の話を聞いても、自分がして見て非常によいと思ふと信仰するものである。自分は風を引いた時でも構はず冷水摩擦をするが、精神が爽かになり頭痛もなほり、寝られぬ時でも之れをすると楽に寝られると云ふ風で、自分は信仰者である。

しかし、して居らぬ人にはわからぬ。皆さんも経験せんといふかげんに聞いて了うが、経験するとわかる。私の希望する所は、意志の力は如何に強いものであるかをためす為に経験してほしい。書物では確信は得られぬ。実行して初めて、わかるのである。

金と云ふと、すぐ貯金をする人は、他に新しい道を見出だす様にせねばならぬ。即ち、慈善事業や社会事業に用ふる様に、積極的に道を作つて行かねばならぬ。心理学の法則に従つて修養して行き、積極に、よき方に向はねばならぬ。習慣が誠に大切である。お互があつたしたい、かうしたいと云ふに実行が出来ぬのは、よいことはすると云ふ習慣が出来て居らぬ為に、行ひに出来ぬのである。

故に、此の学期はわるい習慣を廃し、良習慣を養ふ様にせねばならぬ。思想の上の習慣は、心の中にある連想を起さしめる。これが人間をわるくするのである。墮落の中に引き入れるのである。潜在意識に之れがあるならば、いつか表は

れるのであらう。観念連合に出来て行ひには出ぬにしても、心に起つて居ると、いつかは潜在意識となり益々外に出る様になる。自分が出ないと思ふが、境遇によつて出るのである。

人間の自制力が病的になつた時に、悪連想が表はれると反対観念があるが、自制力がなくなると其の観念が表はれる。その所から起る連想は神経の疲労、精神の自制力の弱い為にまけるのである。此の弱点をつゝしまねばならぬ。之れを只憤むのみならず、良習慣を作り、観念連合にも楽しい清潔なことを頭に浮べて、機にふれ折につれて、よいことを実行せねばならぬ。頭をかへることも意志の力で出来る。此の道筋は、かへたいと努力すれば必ず出来るのである。

私の先生であつた金森氏は、今、貯金のことで日本中をまはつて、中々精神的に働いて居る。私はこれを見て、若い時に作つた習慣は考ふべきことであると思ふ。即ち金森氏は、良習慣をつけて置いたのである。私は此の先生の話聞き、幾度、精神をつんざかれたかわからぬ。何を聞いたかわからぬが、何か印象が刻まれて、こんな人間ではいかぬと感じた。多少私を作つてくれた人は、あの人である。私はこんなことでは満足は出来ぬ、精神的でなければならぬと云ふことを感じた。昔にわるいことをして置いても、良習慣があると、だんだんよくなるものである。又、良習慣がある人は、わるいことがあると気がすまぬ。そして、良習慣に返るのが容易である。精神的に返るのを喜ぶと共に、良習慣の必要を感じ、鞭うつことが出来るのである。

[精神修養の目的]

私共の目的としては、社会化したい。人間の目的、意志を社会化し、意志は強いものであるとの確信を以て書物や耳を閉ぢ、実行し経験しなければならぬ。一つ行つて見ようと云ふ様になつて、漸次に確信を得るのである。

次に良習慣を得なければならぬ。私は良習慣を作ることに深く感じて居たから、之れを話したのである。けれども思ふ程には言はれなかつたから、意味がわからなかつたかもしれないが、十分精神を取り、意味を十分考へて見て、実行により良習慣を作り、進歩すると云ふ確信を得てほしいと思ふのである。

[中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十月十二日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十月十二日

麻生学監

芭蕉の句に「やがて死ぬ 気色も見えぬ 蟬の声」と云ふのがあるが、秋になつて蟬の鳴き声に勢はないが、今でも鳴いて居る。其の蟬は、夏の暑い時にやがて死ぬのであると云ふことも考へないで鳴いて居る、と詠んだのであらうが、即ち、蟬は死ぬとは自覚せぬので鳴いて居るのであらう。此の句は



読む人、解し方により如何様にも解せられる。果敢ないとも感ぜられる私共が、前途が見えぬのに離脱の裡に狂つて居ると云ふことを思へば、蟬と何の選ぶ所はないのである。此の前の時間に、皆さんに何の為に勉強して居るのであるかと云ふことをいった。而して其の参考に色々話したが、皆さんも考へたであらう。今日も其の問題を繰り返して見たいと思ふ。

[何の目的で勉強して居るか]

只今、何の目的で勉強して居るか。東京に来て、親の厄介になつて入学して居りながら、蟬の様に其の日暮しに送つて居るか。何等の目的もなくして、何の為に世の中に生きて行くか。只、芸術、学問を学んだとて何になるか。それで深く繰り返して考へて欲しいと思ふ。

[人は何の為に生き、何の為に生活するのであるか]

皆さんに到着点を解釈して欲しい。即ち何の為に生きるか、考へて生活して欲しいと思ふのである。如何なることの為に生活するかと云ふことは、書物を飾り、説話を聞き、学者の説を直接聞いたとてわかるものではない。書物には満足することは書いてない。しかし反対にいへば、書物の毎頁に書いてあるのであると言はれるのであるが、兎に角、如何なる人に聞いても、如何なる本によつても見出だすことは出来ぬ。即ち、皆さんが何の為に生存し、努力するか発見することは出来るが、その言語中には生命があるかど一か。或はないかもしれない。全く受ける人の精神によつて、あるとも又ないとも言はれるのである。

京都の智恩院に大きな梵鐘がある。指の尖でおしても杖でおしてもなるが、つく其のものによつて音が違ふ。つく人の力によつても違ふ。これと同様に、如何なる名言があらうとも、良書があらうとも、聞く人、読むものによつて入りかたが違ふのである。如何なる書籍をよみ道理を聞いても、発見は出来ぬ。又、到る所に道、及び命はある。今言ふ言葉も実験をとげた人、味はふ人によつて違ふ。言つた人と私と又他の人とは、夫々違ふ。千差万別に値打ちが違ふ。矢張り皆さんが此の世を如何なる精神で送るかと云ふ道筋はあるであらう。共通点はある。別に珍らしいこともない。即ち「人事を尽くして天命を待つ」と云ふ、此の簡単な言葉である。皆さんは度々耳にしたであらう。深淵でも斬新でもない。

[人事を尽くして天命を待つ]

今日は、人事を尽くして天命を待つと云ふことについて話して見やう。その前に、人間の今日までの生活に表はれた、一言でいへば経験である。之れを調べて見ると、即ち人類の歴史によつて見ると、英雄あり、豪傑あり、小人あり、偉人あり、色々様々の人がある。然らば歴史は何を教ふるか。皆さんは日本歴史、東洋史、西洋史をも学んだであらう。此の歴史を学んで得るのは何であるか。人間の行くべき道筋をさし示す光りであると言ふにあらざれば、歴史を学ぶ効力がない。日本歴史を学んでも、何と云ふ人が何年頃居つて、何時頃死んだとか云ふ様なことが歴史だと思つて居ると、間違ひである。眼光紙背に徹すと云ふ有様で前後を達観して、何故に一起一伏するのであらうか。ここを明らかにすべきである。何時誰と戦つて死んだと云ふ様なことは、まるで水の泡の如き

ものである。何故、泡が表はれたか、そこに意味があるのである。夫れを知らずに歴史の表面を調べたなら、歴史は背景の薄いものであらう。

歴史の教へる所は必ずある。然らば、何を教ふるか。正勝ち、邪敗けると云ふことは当然のことである。即ち、正善と云ふことが勢力を得、邪悪の方が衰弱して行くのが文明である。極悪非道が去り、人道が力を得るのが文明の御代の人心である。一言でいへば、歴史は人文の発達を示す。即ち正邪の争ひである。而して正が勝ち、善が勢を得て居ることを、真に深く悟らねばならぬ。歴史は断片的である。人間を縦に見たのである。伝記は個人を横に見たので、即ち人間は何を追求するか、如何なる努力を為すかを見るのである。太古から今日までには、人間は三十万年を過ぎて居ると云ふが、地球が出来てから何億年であらう。人間が出来てから三十万年と云ふが、人はその幾分を知つて居るのであらう。三十万年かゝつてお互は出て来たのである。其の我々は何を望むかと云ふに、歴史が明らかに示して居る。如何なる人が、時代時代の尊ぶものなるかを見ればわかる。此の文明史を見れば大体はわかるのである。文明史をよみ、正善邪悪の争ひを調べたなら、確信を得るのである。これを得ぬのは歴史よみの歴史知らずと言つてもよい。動植物を研究しても、宇宙は不思議のものであることを知るであらう。動植物の研究はまだ浅いが、研究しつくした時は宇宙を知つた時である。而して研究の方法が比較的容易であるが、人間それ自身は中々困難である。生きたものの頭を解剖も出来ない。又、動物を研究するにしても無慈悲に実験も出来ぬが、割合にすることが容易である。動物を研究して宇宙に大なる意味のあるのを発見せぬのは、動物を研究して動物を知らぬのである。

[歴史によつて人類の発達を知らる]

歴史も同様である。即ち、人間は確信をもたねばならぬ。それを得る為に皆さんは、も一度よく歴史を繰り返して見るがよい。人間の発生は個人の発生である。人間の歴史を研究するは、一個人を研究するのと同様である。動物学を研究する時には、最初下等のものより漸次人間に及び、斯くて人間の歴史に進み、系統ある全体がわかるのである。人類が如何に発達せしかを調べるには、歴史によつて得るものであることを確信し、歴史により命を得たい、光りを得たいと決心せんければならぬ。覚悟、即ち精神一つで歴史も大なる力を与ふるものである。一個人の伝記を調べても、人の行く道を教へて居る。孔子、釋迦、耶蘇等でも、人間は何所へ行かねばならぬか、何の為に生きたか、孔子は何の為に生存したかと云ふことが伝記の上には表はれて居る。私は、高遠のことを研究するにも個人の伝記について見たならば、私の言ふ所の道は相当にわかる、推察が出来ると思ふ。先づ皆さんが釋迦の伝記を読んでも直にわかる。何の為に生活が当を得たのであるか。釋迦が財宝を捨て、妻子を後にして孤独の身となり、己れを顧みずに人を救ふと云ふ大望を抱いた。願望に対しては何人も批難することはない。歴史は賞讃して居るのである。

[孔子の道とする所]

孔子の道とする所は、一以て之れを貫くと云つた、即ち怨

であつて、之れを仁とも言ふ。七十年間、苦心慘愴の中に、何の為に生活するかと云ふことを発見して、遂に其の通りに行はれる様になつたのである。

[耶蘇の教へについて]

耶蘇の教へも西洋では、勿論日本でも、國体に反対して居ると言ふ人もあるが、偉大なる聖人の一人であると云ふ尊敬もし、又、えらいと云ふことは何人も口にすることである。勿論、耶蘇は國体に合せよとの精神はなかつた。孔子も耶蘇も同様で、人の身を救うて自分を救はざる愚者であると云ふ批評をするものはある。耶蘇も、只人の為のみを思つて、自分は遂に殺されたのだと云ふ批評は確かにせられて居るが、誠に偉大な人格であると言はねばならぬ。

[聖者やセントの性質について]

耶蘇、釋迦、孔子の様な人は別として、聖者やセントは、えらい人格を備へて居る。然らば、如何なる性質を備へて居るか云ふに、次の様である。

[第一]

第一、人生の区々たる利害の境を脱し、広い、高い生活に入つた感じをもち、しかも一種の理想的精神の存在を確信して居る状態であるのが特徴である。耶蘇教では人格的精神と言ふが、必ずしもこれでなくても抽象的の道德でもよい。仁愛でもよい。これ信じなければならぬ。

[第二]

第二に、此の偉大なる精神と自分の生活と云ふものは、朋友の如き関係をもつて居らねばならぬ。親しい感じをもち、又、其の偉大な理想的力に喜んで自分を託し、其の支配のもとに服従して居るのが、セントの特徴である。

[第三]

第三、向上、自由の感じを有するので、少しも不自由はない。不満もない。不自由は感ぜぬから、精神に妨げるものがない。

[第四]

第四、情緒の中心が転じて、調和的愛情に侵入する感情である。情緒は利害得失の感情で、自分に親切である、利益を与へてくれるから、あの人はよい人であるとか、又、自分に反対したり陰口を言ふから憎い人だと云ふのは、自己主義である。あの人は親切であるから、よい人であると愛するならば、一方には他の人を憎むと云ふ心があるのである。此の情緒が転じて何人をも愛し、如何なる時でも否とは言はぬ。確乎として、又大なる態度で、変らぬ愛情で何物にも接するのである。トルストイが無抵抗の愛と言つて居るのも、即ちこれである。

聖者やセントは、耶蘇や釋迦について尊敬せられる人である。何れの國でもえらい人と言はれる人は、此の様な境遇に進む人は尊敬せられる人である。聖者と云ふのは誠に普通の人の及ばぬ立派な人格を有して居るのであるから、自分もなりたと思ふ凡人の願望が、聖者と云ふ名の中に入つて居る。そして聖者の前へ立つと自ら頭が下つてくる。この様に慕つて居るが、人々は時々邪悪なことをすることがあるが、しかし、人間全体が聖者を慕つて居ることがわかる。私共もお互

にたりたいと思つて居るであらう。此の聖者の伝を調べたら、我れ等の行く道はわかるであらう。

[我れ等のとるべき道 第一、克己]

第一、克己が出来なければならぬ。克己の為に克己は出来ぬ。心の中に人知れず邪念、邪想を抱いて居つて、それに克つことが出来なければだめである。仏教で戒律を守るのも、この克己である。食物に制限があるとか、朝は水浴するとか云ふのも戒律であるが、克己がなくては真面目にはなれぬのである。克己と云ふことは、凡人にとつては総ての事にはむつかしいが、聖者になるとそれが愉快で面白くなるので、だんだん興味をもつ様になつて楽なのである。

[第二、靈力の旺盛]

第二、靈力の旺盛。精神に元氣が出来、調和的愛情になれるのはむつかしいが、聖者は天地万物を見て、総て愉快であつて、風が吹いても火が降つても構はぬ。少しも動かぬと云ふ力をもつて居る。即ち天地万物に如何なることが生じても構はぬと云ふ確信があるから恐れぬのである。全く大なる力の支配を受けて居ると云ふ確信を有して居るのである。

[第三、純潔]

第三、純潔。即ち、心の欲に克つことを言ふのである。弱いものに慈愛を垂れると云ふのも、調和的愛情の表はれである。委しく言へば中々長いが、簡単に聖者の特色を紹介すれば今いつた様なことであるが、これを吾人が尊敬するのは、なりたと思ふからである。

悪人の伝をよんで悪に陥り易いが、よき人になりたいとは願つて居るのである。これは我々の思ひつきではない。人類そのものの要求である。歴史が示して居る。只、益々後世に至る程、委しくはなつたが、昔も同様に尊敬して居たことがわかる。即ち、一時の考へを表はしたのではない。繰り返し繰り返し経験して表はしたものである。それであるから歴史や伝記を調べても、おぼろげながら此の点は確かに見出だすことが出来るのである。しかし、聖者までには達することが出来ぬ。普通の人がどうなることを喜ぶかと云ふに、善人に立ち帰ることを喜び、賞賛するするのである。

[悪人が善人に帰りし時の有様 第一、喜悅の情に充つ]

今迄悪人であつた人が善人になると如何なる現象を起すかと云ふに、第一、非常に喜ぶ。喜悅の情に充ちて、過去を顧みては本当に今迄にわかつたことを悔み、此の後は決してそんなことをせぬ様に注意して、一層よくなる様にとめたいと云ふ有様で、喜び且つ前途に希望をもつのである。

[第二]

第二、平和、安心となるのである。即ち、後來に何事が起らうと心配はせぬ。常に平和で安心して居ることが出来るのである。これも全く、正は邪に勝つと云ふ信仰があるからである。全く善にくみすると云ふ精神をもつ時には、喜悅、平和、安心して生活することが出来て、聖者の様に人の為に働かう、人の為にならうと思ふ様になるのである。普通の人が道を見出だすと、前に述べた聖者の性格を有する様になるので、遂には他の人にも与へたいと云ふ愛情が起つてくる。皆がよい人になつたと云ふのは、必ず他人の為に働く人を言ふので、

先づ一人づつ、聖者、普通の人、悪人から善人になった人を見ても、つまりは人を愛すと云ふことになるのである。

[自分と他人とを同一にする人を立派な人格の人と言ふ]

日本でも西洋でも、人を愛する人、自分と他人とを同一にする人を立派な人とか、高尚なる人格とかいつて居る。説明は事実におくれると云ふ如く、宇宙は太古からある。而して人間は三十万年前より生活をして居ると云ふが、人間の説明は出来ぬ。宇宙の説明も同様である。而して、説明は後に進歩して変ることがある。現在変りつゝあるが、事実かはることはない。信仰は事実でないものを、ここだと指摘して行くのである。人間の理想は他人を愛する、他人の愛を尊敬すると云ふのにある。歴史あつて三、四千年、人々は何が最も値打あるものとするかと云へば、仁愛と云ふことであらう。事実はわかつて居るが、説明は今日まで十分にしたものがない。之れが信仰である。之れを調べて皆さんは、どこに行くべきかを悟らねばならぬ。悟りを研究するには二つの道がある。偉人の例を言へば、孔子の如きは倫理的修養により理想を発見し実現したのである。其の他の耶蘇、釋迦、セントは修養的修養で、東洋流にいへば、即ち悟りである。

[悟りの方面について]

今日は簡単に、悟りの方面について話して見やう。兎に角、私共は自分自身に善を為したい。又、致さうとして、時々悪しきことをもする。人の為にするならば、苦しみもしなければならぬ。安心、平和でなく、人と争つて心が乱れるなど、一向に精神が落ち付かぬ。それを落ち付ける様にするには、何年もかゝる。そして遂に到着するのと、意志では到底達し得られぬからと意志をすてゝ了う修養とある。

[宗教的修養について]

宗教的修養は、人事を尽くして天命を待つと云ふのである。トルストイの如きは、此の説より云ふと無政府主義の様であるが、宗教的修養にかはつたのは、悟りを開いたのである。森林中で、数年かゝつて遂に悟つたのである。

[倫理的修養について]

倫理的修養と云ふのは、意志をもつて鍛へ上げるのである。勿論、宗教的修養にも意志が大なる力である。苦しんで善に進まうとしても勝てない。努力しても勝てぬ。即ち、努力することが、人事をつくすのである。斯く人事をつくしても勝ち得ぬので、遂に理想的精力にまかせるのである。

宗教家は無我の状態になつた時に、悟りがひらかれるのである。其の方法には色々あるが、自然になる場合と人事不省になつて、醒めて見ると天地の万物、鳥も人も可愛くなつて、不思議な程変ることがある。これは平素苦しんだ結果、遂に悟りが開かれたのである。そして心は平和となり、たとへ火の中でも、水の中でも入ることが出来る。貧乏になつても構はぬと云ふ様な心になつて、即ち人を愛する心が起る様になるのである。又、どうしても出来ぬから偉大の力そのものが入つてほしい。自分の力だけでは長い時間がかかる。それで意志が薄弱であつて其の修練の出来ぬ時は、確信状態が出来ぬ。しかし十分正善をしたいと思つて居て努力しても、尚時々邪念が出る。そこで一層苦しむ中、遂に人事不省となり、悟

りを開くのである。

[無我の境に入らねば靈力を感じぬ]

無我の状態の時には、宇宙の状態に通ずることが出来ぬ。宗教家の悟りは無我の境に入らぬものはない。無我の境に入らねば靈力を感じぬのである。松本博士の宗教研究に、此の調査が出来たので、表はしてくるであらう。精神貫通と云ふことがあつて、甲の精神が乙にうつる。死人の精神が生きて居る人に貫通することがある。此の場合、貫通をうける人が、無我の境に入る人でなければならぬ。或る人が無我の境に入り、自然に筆が働いて、心學を一冊書いたことがある。之れは心學を研究した人の靈が其の人に働き、筆に表はれたのであると云ふ。即ち、無我の境にある場合には、此の種のことはある。無我の境は、今日では宗教の上のみでなく、盤の上からも信ずるのである。即ち無我の境に入れば、宇宙の靈にも通ずることが出来るのである。禪宗でする座禪も、無念無想の境に入れば無我の境に入ることが出来るのである。本当に無念無想になり誠を慕うて居るか、悟りたいと思つて居るかわからん時には、邪念を浮べて居るかもわからぬ。故に、無我の境になるのがむづかしいのである。

日本にも悟りを開いたと云ふ人があるが、この人々の中には偽善者であるものもある。又、偽りでなく全く当人はこれで悟つた人と思つて居るかもしれぬが、無我の境に入るのは容易ではない。而して一度悟つたならば、一生涯通らねばならぬ。又、自然通るわけである。無我の境に入る最も大切なことは、人事をつくして多年骨を折ることであると思ふ。人間の性は宇宙と、もともと同一である。例へば瓦斯が通じて居る様なもので、火をつけると燃える。栓をはづさなければ、いつまでも燃えないのである。潜在意識になり無我の境になると、栓をはづしたと同様である。潜在意識は、宇宙の力と一緒にすることが出来る。限りある力ではあるが、大なる力になるのである。無我になると、人を愛すと云ふ様に、総てが他動的になる。即ち、精神修養の結果である。即ち大なる平和を得て、心からの満足を得られるのである。ゼームスの病的靈魂、及、福來博士の心理學をよむと参考になることがある。皆さんが何の為に勉強して居るかと云ふことを考へる為の、一つの参考にもなるであらう。

[皆さんはかう云ふ風に進んで欲しい]

聖蘇教や仏教を既に宗教だといつて信仰せぬものがあるが、宗教は知ではない。人格であるから、聖蘇や釋迦の人格を信仰しなければならぬ。共に、宇宙の靈力に触れて居るのである。孔子は意志で鍛へ上げた人である。人格を通した人格であるから、社会に結果が表はれたのである。書物をあさるのみならず、努力奮闘して、どうしてもいかぬ時に、偉大なる力のもとに自分を任せて努力奮闘すれば、達せられるものである。皆さんも、かう云ふ様に進んだならばよからうと思ふ。

[中表紙]  
大学部二、三年の御話  
大正元年十月十六日

大正元年十月十六日  
大学部二、三年に於て (講話者不明)

私の考へますには、銘々が自分の精神修養をするには個人個人が適当なるよ一に、即ち銘々の要求に応じて精神修養をつとめることが大切と思ふ。皆さんを同一の方向に率いるが、之れを悟って行く方法は自ら異つて行くのである。

即ちこの学校に於ける大体の方針は、諸子の知られる如く一致して居る。皆さんには、斯くせんければならぬとは示さぬ。只助けになる考へを提供するのである。私の言ふことを参考とし、自分が考へ且つ経験する、つまりあなたのものでせられるのである。

[自らの信念を作るべし]

諸子は、もはや一年、或は数月にして校門を辞するのであるから、生涯進むの信念を作るに早いことはない。人から強いられたものでなく、自分で経験し生み出したものでなくてはならぬ。注射液をもらつて生くるのではいかぬ。人の力に刺激されて動くのではならぬ。説教などを聞いて、感情的に流れて行くと云ふのではいけません。感化力ある人は自らの内から湧き出たものがある。皆さんは之れを実験せらるべきである。道理を明かにし、実際に行ふて進んで行くのである。書を読み、話をきくのは参考にするので、知識ばかり注入するのではだめである。

[近代思想]

今日の教会の如きは宗教的、知的哲学を授けるが、経験には関係しない。今日の学校も観念は養ふが、自分が如何にして居るかを省みない者が多い。先づ自分の信念を作らんとし参考とすべき、近代の思想は如何。

西洋諸國に於ける思想を見て、今日、日本に如何なる思想が行はれて居るかがわかる。

[十九世紀の二大潮流]

其の思想は、十九世紀に於ては二潮流ありました。即ち、一つは科学的哲学、一つは宗教的哲学の二大潮流で、前者はヒウム(英)が開拓致したもので、之れを実証哲学、実験哲学など言ひました。彼は、従来の思想が数と分量に何等の関係なしとする、即ち自然を尊ばず実験に訴へぬ事を大に攻撃したのであります。然るに、数と分量に、及び自然から知識を得るならば、自然を征服することが出来る。斯くして幸福増進し、人間の救済が出来る。之の思想が今日の文明を生んだもとである。

この後、盛んにこの説を主張したものはコント(佛)で、後、スペンサーが主張しました。この勢で実証哲学が盛んになり、科学万能の世となり、私共も知らず識らず、この思想に支配せられたのである。以上は科学的哲学である。

次に宗教哲学に於ては、カントが説いて居るローマン主義。之れは情意を重んずる主義である。宗教の要求に応じて生れ

たものである。今日この主義が漸次発達して、理想主義となつた。唯心論とも言ふ。

[諸説起る]

この様に一方は科学に根を下し、一方は宗教に根を下して居ります。この両派から又新しい説が起つて来たのである。自然主義、理想主義、実用主義、实在主義、之れである。現代に有名なるオイケンは、理想主義に属す。ベルグソンは実用主義(プラグマテズム)に入るのである。

皆さんはこれ等の説に対し、滅茶滅茶に話すよ一では差しい次第である。故に、之等の諸説を研究して、精神修養の助けとする様にしなければなりません。この四主義を説く前に、理論と信仰と云ふことにつき明かにしておく必要があると思ふから、こゝに述べます。

[理論と信念]

哲学でも実は、一面理論で、一面は信念である。学者の哲学は理論で、俗人の哲学はむしろ信念に属するものである。何事に於ても、この両面を備へて居るのである。

[理論]

理論とは如何。これは真理で有るか否か、定めて行くのである。理論家の最も大切なるは、常に公平なる態度を持つことである。故に一方から言へば、常に真理か否かの疑惑がある。

[信念]

信念の方になると左様、なくてはならぬ。つまり、ちつとも疑はないのである。ゼームスは「疑惑研究の不安の念なきものが信念なり」と言つて居る。

[信念は実行の母也]

故に、理論が実行を生み出すのではなく、信念は実行の母であります。理論は寧ろ実行を妨げるものであります。

[歴史上の相異]

二者歴史上の相異は、耶蘇教徒が、地球は宇宙の中心にあり、其の周圍に諸天体がある。其の地球の中には人間が主人公で、他のあらゆる万物は悉く人間のために作られて有る。つまり人間が一番に偉いもの、而して神はこの人間を作り給ふたのであると云ふ信仰が、中世紀時代の人心を支配して居つたのである。

然るに、カンポルニカス、ガリレオが地球は太陽の圍りを回転するのであると、全く反対の地動説を称へたのである。この様な説を称へた故を以て、ガリレオ氏は遂に火刑に処せられんとしたのです。併し彼は、人心の動かすべからざるを察し、調和説をとつた。即ち彼は、俗人哲学を説きました。之れに依つて、後人に彼を弱しと致す者がありますが、決してそ一ではありません。即ち、わかる時代が来ればわかるのです。後から見て卑屈のよ一ですが、よく人情をうがったやり方であります。

[理論は直に行ふ能はず]

理論は直ちに行ふことの出来ぬものです。之れを行はんことを主張しても、なかなかかなひませぬ。実行しよ一として却て乱れるものである。デカルトの如きも、ガリレオ氏と同じく地動説を称へ、信仰の偉大なるを認めて調和説をとつた

のである。併し、彼等は何れも相当の時代を得て充分に認められたのである。

#### [信仰の力]

これを以て見ると、信仰と云ふものは如何はしい様に思はれるが、之れは又大切なものである。もし中世紀に於て、あの信念がなかつたならば、彼の中世の文明を維持することは出来なかつたでありましょー。

然らば、信仰は如何なる力を以て居るか。社会の秩序を保ち、結合せしめる力を有するのである。中世紀時代は余りに信仰にかたまつたが、この為近代をよく生み出したのである。中世紀程、同一に社会が動き、結合した社会はなかつた。其の時代時代の信念で社会を結合し、進歩があるのである。変化があつて、進歩のないのはいけない。

#### [我が国家の信念]

日本の社会が維新後、非常に変化して居るが、其の中に、一つの変らぬものがある。国体の如きは、其の最も大なるものである。数千年を貫いて変らぬ精神がある。これが日本の団体を結合するのである。これがなかつたならば分裂して、外国のために斃されるのである。

#### [近代の弊]

夫れで信仰は直接に日常生活を支配する。故に一定の信念があれば一個人を持つことが出来る。国家も同じ、信念なく転々変化するならば進歩なし。近代の弊は余りに新を喜び、西洋の文物、制度を其の儘輸入せんとする傾向がある。之れでは自主的の国民となることは出来ぬ。併し幸ひ、未だ信念があるがために結つて居る。併し外人の中に、日本は余りに急激な変化をしようと居る者もある。矢張り徐々に進むと云ふ風でなくてはならぬ。

#### [各自の信念]

今日、思想界に四つの主義があるが、之等を只断片的に追求するのではいけない。信念を有することが必要である。即ち我日本に於ては、日本の社会、日本の歴史を考へて、其の東西異なる点から自分共の立場を定めなくてはならぬ。斯くて、自分の思想、経験に照らして始めて動かぬ信念となるのである。私は、其の信念をあなた方がお作りになる材料を提供せんとするのである。

理論は常に定らず、疑惑の中にあるものである。故に、信念がなくてはならぬ。己れの性状、経験に照して最も確かであると云ふことが、信仰にならねばならぬ。其の信仰も理論の位置に下るならば、自分を支配することは出来なくなる。確信は行為を生み出すのである。言つたり、聞いたりしても、実行にならぬのは理論である。

カントは、人間社会に神の存在を信じて疑はなかつた。この信念が彼を支配したのである。確信は知を以て究むるにあらず、日常の行為、経験から生れたのである。故に、考へて許り居ても信仰は出来ませぬ。知をみがきさへすれば、信仰を得られるのでもありません。知も必要だが、こればかりでは出来ぬ。情意が大に関係して居るのである。故に、考へ且つ経験することによつて、確信は益々深くなるのである。

カントも知らず確信を得たのではない。我々はカントより

も廻かに小なる人間であるから、尚ほ更考へ、且つ経験することが大切である。

皆さんは他の刺激によらず、自ら確信を持つ様にありたい。三年生は、もはや一学期しかない。一生の端緒を開くべきときである。諸子はこゝに精神の火を燃して、心の中から考へ、精神修養をして、立派な人格を作り出される様に望むのである。

#### [中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十月十九日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十月十九日

麻生学監

此の前に話したのは、歴史と個人との研究について、人生の趣く所は何処にあるか多少わかると云ふことを話し、又、お互が自分の力を尽くし、天命を待たねばならぬと云ふことを話した。

皆さんは十分考へたであらう。だんだん皆が自分の安心立命は如何なる点に置くべきかを考へて、それを自分で得て行かねばならぬ。此のことは興味をもつて、自ら考ふべきことである。私は質問をあまりかけぬが、質問をかけて果してよく了解されるかどうかわからぬ。質問に応じて答へるだけで、心には納得が出来ぬかも知れぬ。その時に尋ねると、却つて迷はす様なもので害をするかも知れぬ。兎に角、自分で自分を尋ねて見て、反省せんければならぬ。

私が質問をかけて、その答へが出来ぬ時に、むりな問ひであると思ふ時には反動を起す人と、又、大に覚醒して自分ながら自分の力を疑ひ悲しむ人とあらう。一方は問うたものを責め、一方は自分を責めるのである。反動して好意をもたぬのはいかぬ。出来ぬ時には聞いて、了解して行くのが必要である。冷評してはいかぬ。まだ人間が小さいのである。人を容れる度量がないのである。問ひに対しては、斯く二様の反動があらう。

発問の必要も知つて居るが、あまり質問をせぬ。も一一つ私の要求して居ることは、なるだけ皆さんに会つて、一人一人に話して見たいと思ふが、現在それは中々、私には実行がむづかしい。要求も違ひ、考へも違ひ人に、一つの話をするのであるから、効がないかも知れぬ。或る人には適切で、或る人には適切でないかも知れぬ。

[皆さんは十分質問をするのがよい]

皆さんは質問は十分するがよい。家においでて下さつてもよい。併し、私は時間のない時、都合のわるい時には遠慮なく断る。これがまた本務であると思つて居る。又、出来る時には喜んでそれに応ずるから、何処でも構はぬ。よく考へて研究して、実行して、わからぬ時は十分尋ねてわかる様にしてほしいと思ふ。共に切磋琢磨せぬ時は、進歩せぬ。これが

婦人の欠点である。此の席では勿論、訪問して質問もせず、研究もせず、只遠慮や無頓着で居てはいかぬ。何を為にするに入学したかを考へたなら、わかるであらう。最も大切なことを忘れて了つてはいかぬ。之れを皆さんに要求するのである。質問したり、訪問して話を聞いたり、友と語り合ふことは大切であらう。

[人を愛することは必ずしなければならぬ]

今日は此の前の続きを話すつもりである。前回に話した様に、個人個人に改心した道がわかった時には、先づ人を愛する心が起る。自分が變つたと自覚をして努力したならば、何事も愉快になり、不平不満はなくなつて、人の為に尽すのが苦勞でなく、寧ろ楽しくなるのである。何人でも真に悟り、改心した時には、己と他人とを同一に視るに至るのである。決して自分の利益のみを見ることなく、自分には何の不満もなくなるのである。人々が之れがよいと言ふからには、真に人の道である。故に、人を愛することは必ずしなければならぬ。歴史上から言へば、人の為になつた人、人を愛することの出来た人を賞讃して居るのである。

皆さんは不満のない人とならねばならぬ。不足を言ふのは、人からどうして貰ひたいと云ふ要求をするからである。自分の心は春風駘蕩たる有様で、他人の為に捧げる人となり、自分の偽らぬ要求を満足せしめる様にしなければならぬ。所謂精神の底から満足して、宇宙間に求める状態に居るのが理想である。この説明は中々わからぬが、事實はそうである。真に修養する人は、この境界に入りたいと考へるであらう。どうしたならば入られるかと云ふ問題になると、むづかしい。これといつて示すことは出来ぬが、発見することは出来る。自分等は其の発見をしなければならぬのである。

[道に志す動機について]

悟り、改心し立派な人間になりたい、進歩したいと云ふならば、先づ第一に、自分の不完全を知らなければならぬ。誰れでもそうであるとは言はれぬが、皆さんは完全な人間になりたいと云ふ考へはあるに違ひない。青年期に入れば人間は如何なる心が働くかと云ふに、恐怖心より起るのである。恐怖心は社会に対して、つまらぬ人、弱い人と言はれるのに刺激せられるのである。男子なら、薄志弱行であるとか、胆力がない為に人中で何事も言はれぬ弱い人間であると云ふ批評をせられたのを気にかけて、考へるのである。即ち、社会の毀誉褒貶に心をつかふのである。

[第一、恐怖心や名譽心のため]

第一、宗教上から言ふと、神の罰、地獄の苦しみから遁れる為に立派な人にならねばならぬと云ふ様に、宗教心から立派な人になる人もある。人から攻められるから立派な人になりたいと思ふ。斯う云ふ様に、恐怖心から立派な人になることもあるが、之れと反対に褒められたい、人間であるからには名を知られたいと云ふ名譽心から立派な人にならうと思ふ人がある。

[第二、社会の有用の人になりたいと願ふため]

第二、或る人は世の中に立つて有用の人になりたいと云ふ願望をもつて居る故、國家、社会に利益を増して行きたいと

思ふ為に、立派になりたいと考へる人もある。

[第三、人を感化するだけの人格を得たいため]

第三、人を感化するだけの人格を得たい、社会の為、或は人の為になりたい、感化を及ぼす人になりたいと考ふれば、他を愛する心が出る。それにより立派な人になりたいと思ふことがある。

[第四、道徳上の理想を追求するため]

第四、道徳上の理想を追求する心から、全く人間のなすべきことを完備し、円満の人になりたい。人の為に自分の欲情を捨て、自分の心を捧げて察しのある人になりたいと思ふ処から、遂に立派な人になるものである。

[第五、慚愧したため]

第五、恐怖心でなく、自分がわるいことをした。即ち宗教よりいへば大罪人である。道徳上よりいへば悪いものであると反省すると、情欲を制して、よき人になりたいと思ふので、つまり慚愧に堪へぬあまり大反省をして、道徳上に志す人もある。

[第六、人の教訓によつて]

第六、別に道徳も理想も慕はぬし、罪惡もせぬが、人の教訓によつて善人になる人がある。即ち父母の教訓、先生や牧師、僧侶の説話によつて道を求めねばならぬと云ふ様に志を起す人もある。

[第七、模倣心、又は崇拜心のため]

第七、或る人は、あの人は自分の友であるが実に普通の人の出来ぬことをする感心な人である。自分もなつて見たいと云ふ模倣心から、言語を強めて言ふならば崇拜心から、其の人に模倣しやうとする人がある。

[第八、精神上に圧迫を受けたため]

第八、時には人から忠告を受けることがある。家庭でも学校でも、四方八方から精神上に圧迫をうけるので、遂に心づいて道に志す人もある。

まだまだ数へ立てたなら沢山あるであらう。前に述べた様なことは、西洋で道徳に志した人を調査した結果であつて、皆事實である。頭で編んだのではない。人間は境遇と遺伝とによつて道に志す方法が違ふのである。例を話しても一筋道であるから、皆さんの要求にあたらぬかもしれぬ。

今ここに悪い人があるとするならば、此の人は訓戒して改心する人か、又、学校で先生や友達から色々の話をきいて改心する人かもしれぬ。又、野心のある人ならば、名譽心より善人になるかも知れぬ。兎に角、皆さんに適する様に言ふことは出来ぬ。

[比較的にいへば男子は自愛で、女子は他愛である]

斯くの如くに、道に入るには色々の方法でせねばならぬ。心理学から言ふならば、男子は女子より名譽心の為に道に志す人が比較的が多い。男子は今日までの調査では、自分を中心として道に志した人が多い。女子は社会の為に、或は貧民を救済し、或は家庭に対し、総て他人のことを思つて立派な人になりたいと思つたものが多かつた。勿論、比較の上の話であるが、一般に男子は自愛で、女子は他愛である。

米国の婦人は我儘で個人主義であると云ふにも拘はらず、

人の為、社会の為になりたいから徳を備へたいと云ふ不思議な現象である。女子は利己主義であると云ふに、此の様な結果を得たのである。若し答へたものが偽はつて居たのなら、此の調査は信ずることは出来ぬが、そんなに偽はるものでもなからう。大体に於て女子の性質は前にいつたやうなものであると言はれる。女子は利己主義であるから、世の為、人の為につくさぬと言ふが、そうではない。これは自信力をもつて居らねばならぬ。

先づ大体から言へば、太古から婦人は子どもの為に自分の身をつかつたものである。子どもをもたぬ婦人にでも子どもを預けると、自分の子どもの様に愛情をかけるのである。子どもの為に夜も寝ずに世話することなども、全く母親に於て見ることである。病人を看護することも、中々熱心で親切である。看護婦は不親切であると言ふが、同じ年位の仲間の間には不和もあらうが、看護は不親切であると断定するのは考ふべきことであらう。子どもは弱いもの、哀れなもの、助けのないものである。夫れを助ける代表者として、婦人が世話をするのである。中流以上の人は社会事業に従事して居る。貧民救済、児童保護の事業など、男女とも尽力して居るが、大多数は女子である。

例へば佛国では妊婦の無料飲食場がある。子をもつて居る母親に無料で飲食をさせるので、誰れが行つてもよいのである。名も年も問ふのでもなく、子どもさへあればよい。これなども総て婦人の手でして居るのである。英国の所々方々に母の学校がある。色々のことをするが、中には子どもが六ヶ月になるまで世話をし、其の間、道徳の話、子どもの育て方などきかせたりするのである。面倒な仕事に従事することは婦人に多い。此の考へより道徳に志す婦人が多い。

[心理学上より見て] 道に志す動機について

道に志す動機を調べて見ると、第一、或る人に模倣すると云ふことから起る。即ち人を崇拜するのであつて、之れは最も若い時代にとる方法である。例へば日本人で耶蘇教信者となつた人などは、初めは或る信者の人格を崇拜して、遂に道に志したのである。

第二、社会の圧迫である。先生、親兄弟からやかましく言はれた時である。

第三、罪惡を犯して居る感じ。

第四、恐怖心。

第五、人の教訓によつて道に志す人。

第六、道徳上の理想を慕ひ、人の為になりたいと云ふ心から道に志す人がある。これは最も成年に達したものがとる方法である。

年齢の順でいへば以上の様である。皆さんが追求して居るのは六番目の道徳上の理想であらう。丁度追求することの多い時代で、又、出来る時代である。且又、考へて居る時代である。之れは単に心理上の話であるが、實際は各個人、又は其年齢により違ふのである。自分の不完全であると云ふ感じは年が進むに従つて、心に理想が起る。それと比較して自分が価値のないことを考へるのである。中には自惚れる人もあるかもしれぬが、大数はかうである。私共も理想と云ふもの

がはつきりせぬが、漸次わかるにつれて不完全を感じてくるのである。そして非常に心を責められるのである。

[青年期に起る沈黙と疑惑について]

青年期になると、おさへつつけられた様になることがある。即ち沈思冥考に耽る時代がくる。多くの人の仲間をはづれて考へる時期であるから、若し此の時に罪や不完全と一緒になると煩悶が起るのである。此の様に仲間をはづれて考へることはよいこともあり、又わるいこともある。不完全や罪を深く思ひ益々小さくなり、考へ込み過ぎて開けず、却つて憂鬱になる人がある。又、悪くなるると沈思黙考から道に迷ふ人が出来る。此の一人で考へると云ふ時代に、間違つたことや悪いことをするのである。或る人の説では、此の沈思する時期は百人中九十人まで来ると云ふことであるが、青年は余程考へ込むものである。

青年期にも一つ起るのは懷疑である。最初はえらいと思つたが、後に欠点が見出だされる。それで人間はえらいものと思つて居たのを信じなくなる。又、小学校の先生と女学校の先生との話が違ふであらう。今、聞いて居るのは違はぬか。最初の経験と考へると違ふ時、疑惑が起るのである。そして世の中は誠の道はあるのであらうか。世の中はよい加減にすればよいものであると云ふ様に感ずるのである。又、境遇と衝突して一致せぬので、不快を感じることがある。寮舎でも自分の意見が違ふため、学校でも自分の意見をもつとふり回はさうとする為、之れを家庭に及ぼして理想を語り、雑誌を読んだりするので家族と一致せず衝突するために、不快を感じることがある。精神内の衝突のために苦しむのである。青年の心の中に動揺を來たすのである。自分の不完全を感じ、又悪いことをした、現に今して居ると思ふと、そこに沈黙が起り、疑惑が生じ、境遇にも内心にも動揺が起り、精神が定まらぬのである。之れを皆さんに定めてほしいと思ふ。男女を疑惑と動揺とにわけると、女子の青年期は動揺時代で、男子は寧ろ疑惑時代である。殊に宗教上から見て精神修養から言ふと、共に青年期は動揺時代である。此の時代に於てどう云ふことが起るか云ふに、一番大切なことは、男女を通じて理想と實際との衝突である。之れは真面目に修養する青年のしみじみ感ずることである。

[神経について]

どうしてそうなるのであらうか。今、神経のことを心理学で話して居るが、その神経の方から考へると、脳の中枢には運動中枢と感覚中枢とある。脳を三分すると連合中枢が三分の二を占めて居る。色々考へるので連合中枢が運動を起す。理想を作るのは、此の連合中枢が関係するのである。初めに発達するのは感覚神経原に感覚中枢である。次に運動神経原と運動中枢である。連合中枢は十五、六才頃から発達し、連合神経原は三十三才位まで発達する。此の中枢だけ発達しても運動神経原と結合せねばならぬ。だから、ほつて置いてはだめである。発達させなければならぬ。理想と運動との連結をつけるのは実行である。之れは度々すると、理想と運動との連結が出来て習慣となるのである。

青年は理想を先に作り、理想中枢が発達して筋肉を働かす

のである。女子は十才頃から、男子は十三才頃から理想が出来るのであるが、筋肉がまだそれに伴って発達しない為に実行が出来ぬので、不満を感じ不完全を感じるのである。それで煩悶するのである。

[理想と実際とは伴ひ難いから努力がいる]

生理的に説明すると前述のやうであるが、理想と実行とは伴ひ難いから努力がいるのである。然るに、此の時代に努力せぬために自暴自棄したり、自殺したりするものがあるのである。知行が合一せぬので、心が沈み、考へ込むのである。この時、忍耐して無事にきりひらく人は立派な人になることが出来るのであるが、わるく行くと墮落したり、自殺したりするのである。

[皆さんの時代は最も大切である]

道に志すことは十才位から出来る。平常の言葉は母の言ふ通り、先生や友のやうな人になりたいと思ふと道に志すのである。女子は十八、九が盛んである。皆さんは最も盛んな時代であつて、又最も骨を折つて居る時代である。一生の幸、不幸を得るは此の時代である。皆の心の中に考へなければならぬ。此の考へ込む時に、わるくいつてはいかぬ。心の中にわるい傾向があれば取り除かねばならぬ。いくらよい話を聞いても実際に考へず、遠くに人がものを言ふ如く思ふ、立派な人を慕つて居る人は、大に考へねばならぬ。人々によつて違ふ。従来<sup>レ</sup>の遺伝、境遇などによつて、さ程考へない無頓着な人もある。ここで自分はどうかと云ふのに、意志の力が必要である。

西洋の心理学者は、意志であるが心の中の意志でない。実行である。よい方に進み、よいことをし、人の為にすると満足が出来る、と言ふが、人の為にすると云ふことはどんなものであるか、実行しなければわからぬ。実行して見ると、しみじみわかる、と言ふのである。

或る人は、自分の煩悶病を全快させたものは自分の力である。出来得る限りの実行が救ふたのである、と言つた。斯う云ふことは多くの人が答へて居る。これは実行すると観念が明瞭になるからである。こんなことは度々聞いて居るが、縁が遠い様に、無関係の様に思ふのである。自分と密接な関係を作るのは実行によつてである。或る人は、実行は人間をして益々実在を感じしめるものであると言ふ。血となり肉となることが疑はれない。実行して見るとわかると言ふのである。

[人事をつくさねば天命を待つことは出来ぬ]

行ふことは意志一つである。実行があらゆるものを実在ならしめることは、決心一つで自分の力である。それでも中々出来ぬかもしれぬ。此の時には天命をまつべきである。一度ではわからぬが、幾度もするとわかる。此の時に疑惑を起してはいかぬ。宗教的になるのである。そこで理想とすることを実行する様になるのである。宗教家は宗教的に説明が出来るが、偉大なる力にまかすには、人事をつくさねばならぬ。然らざれば天命をまつことは出来ぬ。天命は潜在意識に入ってくるのである。活動は実行によつて実在を感じるのである。実行の時、宗教から言ふと、神の力、仏の力を得て行くのである。それに潜在意識に通ずるので力を得て行くのである。

実行によつて、味はふことを得るのである。林檎と云ふものを知るにも、食べて見て筋肉を動かして初めてわかるのである。委しく言へば、種子を植えて育て、実をとつて食べると、そこで始めてわかるのである。総ての観念に筋肉運動を入れるのは、なほよくわかるのである。煩悶をもつて居る時には信仰して、善なる方面に実行することが助けるのである。今日は此の前の話を敷衍したのである。此の事は後にも話す時があるが、皆さんは相変らず研究して欲しいと思ふのである。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
大正元年十月二十三日

大正元年十月二十三日  
大学部二、三年に於て

(講話者不明)

[自然主義]

今日は自然主義に就て話します。これは多様の意味ある言葉で、諸学者がよく迷ふのであります。

この主義は、(1) 倫理学上に

(2) 美学上に

(3) 教育学上に

(4) 哲学上に、用いるのであります。

(1) 倫理学上の自然主義は、

a 唯物論的自然主義

b 本性的自然主義

(ストア学派の主張せる、人間の本性を理性とす)

c 生物学的自然主義

(進化論的自然主義にて、スペンサーなどの説きたる)

(2) 美学上の自然主義 —— 頗る複雑であるから一言で言ひ兼ねる。芸術を理想化するにあらず、理想を旨とするものである。之を分けて、

a 客観的自然主義

1 近世科学の影響をうけたるもの —— 科学的宇宙観、或は人生観から芸術をあらはして居る。

2 現代の社会生活を材料として、其の有様を文芸の材料としてあらはしたるもの。

3 親切主義と言ひ、事実其のものを其儘に写し出す。

4 刺激強きものをあらはす。

5 現世を醜化する様なもの。

以上は芸術そのものを尊び、自分をあらはして居らぬ。

b 主観的自然主義

現実を尊ぶが、個性、感情、空想が其の中に加つて居る。

(3) 教育学上の自然主義

a 教育の理想の方面から云つて、之れが生れたのである。

人間固有の本性を完全に発達せしめると云ふので、支那の明德、スペンサーの良心と云つたものである。



- b 方法の方面から云つたもので、自然物に生長の順序ある如く、人間にも順序がある。

ベスタロッチ、フレールなどはこの考へを持った人である。之れは極めて漠然たる幼稚な考へである。

(4) 哲学上の自然主義

- a 唯物論  
b 実証論  
c 超自然的実証論

実証論と云ふのは種々に解せられて居る。有力なる者は、コントの実証論、或は積極主義である。この主義は積極科学(正格科学)として、数学、星学、物理学、社会学、これ等科学の方法、性質、結果を基礎として哲学問題を解釈して行くのである。

超自然的実証論は人間は神の示す天啓、或は直覺によつて解釈するので、コントの自然主義に似たる主義で、ミル、スペンサー、ヒウムなどが説いて居るのである。

唯物論は主なるものである。

哲学上の自然主義と云ふは、哲学の問題に科学の学説を応用したものである。科学的知識は究極的である。科学を無上の力あるものとして、之れを哲学問題に応用したものである。

[物と力]

哲学上の自然主義の中に重なるものは唯物論と実証主義で、之を実験主義とも言ふ。唯物論は朴素的主義、実証論は批評的主義と言ふ。前者は普遍実在、或は実体と云ふ、あらゆる所に物が実在して、千変万化のものを作る。之れを物と云ひ、第一原因に力ありとする。かく宇宙間に物質が遍在して、それが大本は力であるとするのである。

唯心論は宇宙には霊あり、之れ力である。人間のするあらゆることは霊の力であるとする。唯物論と唯心論は名はちがうが、よく似て居るのである。

唯物論は種々の変遷があるが、古代の元子論、十七、八世紀の機械説、近代に至りエネルギー説が起つた。

[如何にして科学説を哲学に応用するか]

ど一して科学説を哲学に応用するよ一になるか。換言すれば、ど一して自然主義が起つたかと云ふに、科学者は人間である。人間であれば、ど一しても哲学問題に逢着せざるを得ないのである。これ、自然の傾向である。かくて自然主義が生れたのである。科学以外の事柄に科学を応用するから起つて来るのである。

[自然主義の勢力を占むる所以 科学の発達]

更に自然主義が社会、人心の上に一方ならぬ勢力を占めた訳は如何。

先づ、実人生に於ける科学的知識の応用せる結果、科学が尊信せられました。コロンブスのアメリカ発見前は、日本の如きは黄金宝玉に包まれて居る。之れを見たい、得たいと望んだのである。その様な快樂、幸福を募つて来た時代から科学が芽を出し発達し、安逸の欲望を満した。即ち交通、製造、衛生、医術が発達したのである。

次に発明、発見が出来た。暗黒を光明にしたいと、非常に

強い欲望を持つよ一になつた。近頃でもそ一である。飛行機、X光線、ラジウムの如きは其の主なるものである。斯く科学が種々に応用される様になつた。

[自然の征服]

更に自然の征服——パナマ運河の開通の如き非常なる力であるが、之れ、科学を応用して天然を征服するのである。海、山、空中を制する様になりました。この様な方面からも科学が非常に尊信されたのです。

[科学者の偉大]

次に、科学者には偉大なる人物がある。ダウイン、ガリレオ、ニウトンの如き、其の人間を仰ぐと近づき難い力を有して居る。其の人を尊信する所から、科学を尊信するよ一になつた。かくて十九世紀以後は科学万能の世となつたために、この自然主義が勢力を得るは当然のことである。この結果は行政上、慈善事業、宗教の方へも影響を及ぼした。斯く科学は一方に於て人間の要求を満し、一面に於て宗教上の迷信を打破しました。これを以て科学は勢力を得て来た。

[科学と常識の一致]

更に、科学は常識と大に一致する。哲学と常識はなかなか密接ではない。科学は物体を取り扱ふが故に、直ちに目のあたり見ることが出来る。然るに哲学は空間、時間のことを云ふ。これ指して見せることが出来ぬ。なかなか六ヶ敷い。更に真善美をとく。これも然りである。即ち空漠として、俗人にはわかり兼ねる。科学は直ちに俗人に理解されます。

以上の次第を以て、科学は勢力を得て来ましたわけです。これを哲学に応用して来た自然主義も、同じわけで勢力を得て来たのである。これ等が自然主義を盛んならしむるの間の原因である。

[中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十月二十六日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十月二十六日

麻生学監

[志を立てなければならぬ]

此の前から話して居る続きを話すつもりであるが、皆さんは如何なる人間にならねばならぬかと云ふ輪郭だけは話して置いた。此の学校へ入学したからには、何か獲物を得たいと思つて居るのであらう。立派な人、一かどの人になりたいと感じた時に、普通の人、大方は自分の力の足らぬことを感ずるのであらう。自分はこんなではいかぬ、どうしてこんなに弱い人間であらうと消極的方面に注意した時に、人を生かすめるのである。即ち、これではいかぬと云ふので志を立てるのである。其の志は初めは確かでないかもしれぬが、兎に角志を立てることは大切である。志の立つて居らぬ人は学校で教育するにも困難である。志のある人は必ず或る物にならう

と考へて居る。英語で Something と言ふが、此の力のない時には人間に力がない。なにかになりたいと云ふ人は骨のある人間、奮ひ立ち得る人間、一人で立つて行かれる人である。

孔子は十有五而志于学と言つたが、全く志を立てたのである。昔から志を立てることはたびたび聞いたし、又、立志と云ふ本もある。

[新島先生について]

いろいろ志を立てた人もあるが、其の中で、自分の先生の新島先生は若くて外国に行き、日本を立派にしたいと云ふ考へをもつて、堅い決心で勉められた。此の先生の歌で、常に自分が心に歌つて居るのは、

武士の思ひ立田の山紅葉  
錦きずしてなどかへるべき

と云ふのであるが、先生が米国で日本のことを思つて詠ぜられたので、志を立てた先生の精神がよく表はれて居る。先生が函館に居られた時、外国に行くことを決心し、商人の装ひをして船に乗り込み、水夫になり、苦心して米国のポストンに着いた。其の時、米人のハリスに見込まれて、その助力によつて教育をうけることが出来たのである。

其の外、先生の精神が表はれて居る歌を参考に申して見るならば、

石金も透れかして一筋に  
射る矢にこむる大丈夫の意地

と云ふのがある。先生の強い精神がわかる。

我生一得精神至  
何事人間又不成  
願立歐州文物本  
試初日本旧都城

又、こんなものもある。

蛇蝎世評不介意  
忍蟠大澤幾千年  
請看他日風雲会  
飛上不二拳上天

明治十年頃は西洋の文物を輸入することは困難であつた。京都の同志社には官許と云ふ門札がかけてあつた位で、さもなくば入学をせぬと云ふ程困難の時に、西洋文物を輸入することは骨折れも中々であつたに違ひない。

徒假公事逞私慾  
慷慨誰先天下憂  
廟識未定國歩退  
英雄不起奈神州

先生は詩歌は上手であつたが、風流のものは少い。天下を憂ひたのが多い。断片的ではあるが、確かに先生の志を表はして居るのである。此の様に精神をこめてしても、其の精神を貫くことは中々困難であるから、確実な精神をもたずに成就する筈はない。故に、皆さんは堅い志をもたねばならぬ。即ち、各自が果して志を有して居るかどうか。志の立つて居る人は自然、平素の行為や言語でわかる。物事に多忙な人はぼんやりして居らぬ。道を歩いて、職業のないものはぼんやりして居る。人生の行路を行く人についても、しみじみ感

じて居る。志のない時には浮いて居る力がない。志を立てた人の精神には力がある。先づ皆さんは立志せなければならぬ。何か感じて Something になりたいと思ふ人には、一方に不満を感じるのである。仏教の言葉でいふと廉恥心である。普通の言葉では恥と言つて居る。人には恥かしいと云ふ心がないと進歩しない。

[恥の分類 について]

或る物を得たいと云ふ志が違へば、恥も違ふわけである。恥を分類すると、

### 1. 財産上の恥

財産上の恥と云ふのは、例へば自分は斯う云ふ衣服を着ては人前には行かれぬ。この弁当では恥かしくて食べられぬ。此の履物では、此の傘では恥かしいと、何につけても恥を思ふ。之れは、日常刺激せられて居ることである。毎日感じて居ることである。

一かどの男子が辻車に乗るのは体裁がわるいとか、自分の家と云ふものを持たないのが恥しいとか、車でなく自動車で往来を歩いて見たいとか、普通の人の刺激せられて居ることである。皆さんも、いろいろ感じて居るであらうが、このような人は財産を得たいと云ふ理想を有して居るのである。故に財産がないのを恥と思ふのである。

そして中々頭を悩ますのである。家庭に装飾なきは家庭の恥であると思つたり、母親は子どもを奇麗にしたいと云ふので主人に衣服料をねだつたり、遂にその為に悪事をすると云ふこともある。之れは多くの人の毎日苦しむことで、決して遠い話ではない。皆さんは、今日は何度此の恥を感じたか、反省して見るがよい。

### 2. 地位上の恥である。

印度に、ケレーと云ふ宣教師があつた。中々人望のあつた人で、英國から来て居る総督の方が却つて人望がなかつた為に、或る会合の時、「お前のおぢいさんは靴屋であつたらう」といつた。すると宣教師は真面目に、しかも怒る色もなく、「いえ、私の祖父は靴直しでありました」と答へたとの話があるが、これは位地の低いのを卑しめやうとしたのであるが、ケレーは却つて真面目に正直にいつたのは感心であるが、こんな時に地位上の恥を一層感ずるのである。

学校でも車挽きの子どもであるとか、腰弁の子どもであるとか言はれると、いやがって学校にも来ぬやうなことがある。小どもも地位上の恥を感ずるのであるが、父親本人も進みたい、立派な地位になりたいと思つて居るのである。

高等遊民と云ふのは、高い職につかうと願つて、今にその職を得られるであらうと辛抱して居る中に、就職の道失つて了つたのである。漸く職業を得ても地位の低いのが気にかゝり、ろくろく働きもせず、只地位のみ望んで過す人もある。自分が実着にせぬ故、地位も上らぬのである。総て此の様な人は地位上の恥を思ふのである。人情より推して、誠に気の毒である。併し、孔子は卑い俗吏であつた。所謂、今日の腰弁であつたのである。故に、決して恥と思はなくてもよい。

### 3. 名譽上の恥

家柄を尊ぶのも名譽心の一つである。これを得たいと思ひ、

得られぬと恥だと思ふのである。此れ等地位、財産、名誉の得られぬのは何故であるか。も一歩深く考へると、自分に実力がないからである。得たいと思ふよりも反対に実力がないのかしらんと考へて見て、十分実力を練らなければならぬ。

#### 4. 実力上の恥

実力上の恥を感じて、丁稚になつて苦心して実力を養ふ人がある。実力の恥を感じるのは、前の三つの恥よりは高尚である。学生なら、自分は此の本を読んででもわからぬ。人の話を聞いても了解が出来ぬ。あれも出来ぬ、これも出来ぬと感ずるのは実力のないのを恥と思ふからである。之れは大切な心であるが、尚其の上に、

5. 精神上の恥がなくはならぬ。此の恥は、心に反省して疚ましからずと云ふ様になりたいと思ふ。自分を顧みると恥かしいと云ふのは、精神上の恥である。之れが大切である。精神上の恥のみ感じて居る時は、前の四つの恥は値打がないのである。昔から道德上の恥は、精神上のこの恥をいつたのである。

「人志らぬ 心にはぢよ はぢてこそ  
終に恥なき 身ともなりなん」

と云ふ室鳩巢の此の歌も、人には廉恥心がなくてはならぬと云ふ歌である。まだ此の外、精神上の恥を省みる歌がある。

「偽りも 人にはいひて やみなまし  
心の間はゞ いかにかへむ」

私の言葉にかへて、次の様な歌を言ひませう。

「よしあしの うつる姿の かげ法師  
よくよく見れば 我が姿なり」

「われよきに 人のあしきが あらばこそ  
人のあしきは 我があしきなり」

よく人情を歌つてあると思ふ。

仏教では恥と云ふこと、殊に慚愧すると云ふことを大切にす。仏典は、慚愧を知るはすべての衣服であると云ふ。精神上に慚愧あるものは、最早精神上に理想があるのである。慚愧の情がある時には、一方に理想があると云はれる。装飾のないと云ふことを恥とするならば、財産上に理想があるのである。恥を知るは、人たるの道である。仏教は斯う教へてある。毎日心に慚愧を抱くことにより、如何なる理想を有して居るかを知ることを得るが、又、理想がある故、一方に慚愧が起るのであるとも云はれる。

皆さんは、理想が低いかどうか考へて見なければならぬ。自分はこれではいかぬと云ふ感じが起つたならば、慚愧しなければならぬ。

【仏教の方面から見た恥について】

仏教の方面から云ふと、仏典には諸人に除くものあり。曰く食欲なり。また除くものあり、即ち憤怒なり。また除くものあり、即ち愚痴なり。また除くものあり、即ち我執なり。また除くものあり、即ち怠惰なり。また除くものあり、即ち眠りなり。これは印度は熱帯地方であるから、よく眠る故、戒められたのであらう。これは病的もあるが、一般に精神が弱いと眠るものである。眠るものは確固たる精神の人が少ない。志士は天下のことを論ずる時には、大酒を飲んで決して酔はぬと云ふが、精神の確実なるものはこんなものである。

また除くものあり、即ち染愛なり。ひいきと云ふも、姑息の愛と云ふも染愛である。時にはひがんで居る時もあるが、誤解することはあるが、少なくともそう云ふことを思はせぬまでに注意すべきである。

また除くものあり、即ち疑惑なり。之れは人と人との間に置く所の壁である。他人と自分との間に谷を作るのである。これも取り除くべきことである。

また除くものあり、即ち無明煩惱なり。

【人を思ひやることは大切である】

兎に角、お互に恥づべき事のみで、沢山恥づべきことがあるが、どの教へでも大切にすることは人を思ひやると云ふことであると思ふ。我儘をせぬ様にせねばならぬ。仏教では人の嫌ふことはせぬものであると教へられてある。耶蘇教では自分の通りを人にも施さねばならぬと言はれてある。

日本の詩歌には、多く此の精神が表はれて居る。

我子なら 供にはつれじ 夜の宵

我が子どもなら供には連れなかつたであらうにと恥ぢた句で、よく情が表はれて居る。

「思ひやれ つかふも人の おもひ子よ  
わが思ひ子に おもひくらべて」

これも意味がよくわかるであらう。

怠惰の歌にはいろいろある。

世の中に 花も紅葉も 金銀も  
与へてあるぞ 精出してとれ

西洋では「勤勞は近代の救済なり」と言つて居る。生存競争とは食べられるか食べられぬかと云ふ問題であるから、それにはいろいろ教へてもまだ足らぬから、勉強すればよいと云ふのである。日本にも「稼ぐに追ひつく貧乏なし」と云ふ言葉がある。西洋では「勤勞は近代の福音なり」と云ふことを痛切に感じて居る。日本では、あまりに之れを感じて居なかつた。維新前までは、武士は武術の稽古が仕事であつた。工場などで働く様な仕事とは違つて居たが、今日では勉強が必要である。皆さんは勉強をして居るが、まだ仕方が足らぬと思ふであらう。

【身体を鍛へながら勉強しなければならぬ】

勉強するには身体を鍛へて勉強すると、中々耐えられるものである。私は此の夏季休暇に経験した。朝から夜の十二時頃まで続けて勉強をして見たが、身体を初めに注意して置いたために、疲れもしなかつた。全く其の時々には補つて行つたならば、疲労もせぬのである。疲れたならば栄養を取り、衛生を守つたならば、即ち眠るか、清い空気を呼吸するか、体操をするか注意したならば、回復することが出来る。本を読んで居てわからん様になつた時には、疲れた証拠であるから、すぐ休息しなければならぬ。睡眠は不足してはいかぬ。眠るにも熟睡しなければならぬ。養生しながら勉強をせぬと、遂には身体を損じて了うから、十分の衛生を守りながら勉強せぬといかぬ。

私共は邪念邪情に集中すると行為に表はれるから、行為を支配するには心を支配し、恥を知らねばならぬ。自分は怒るまい、我欲をすまいと思つても、境遇によつて怒る様にも、

剛欲をする様にもなるのであるが、これが人の弱い所である。

引かるれば あしき道にも 入りぬべし  
心の駒に たづなゆるすな

此の歌の通りに注意せんければならぬ。実力の恥を感じるのであるが、自分の卑怯の為に恥ぢることがある。人の前に行くのも恥かしい、気後れがすると云ふ様ではいかぬ。卑怯な心は我れ我れを弱くするものである。卑怯な心が起るのは、不幸な境遇となるのを恐れるから起ることが多い。先づ人には調子を合せて行くのがよい。自分の意見を挟むと人に嫌はれて、遂には不幸の境遇に逢ふから、何でもよいで通さうと云ふ人である。これでは世の中は善に進まぬのである。即ち善事をするのに卑怯である。之れは私共の大欠点である。

[困苦に耐へる人となつてほしい]

怒ると云ふことも忍耐のない為めである。昔から忍耐せよと教へられて、今猶、此の言葉の続けられると云ふのは、お互に中々出来難いことであると云ふことを示して居ると思ふ。皆さんも矢張り出来ぬことであらうと思ふが、困苦に耐へる人、人を容れる人となつてほしいと願ふのである。

之れは私が愛吟して居る句であるが、

一忍七情皆中和  
再忍五福皆駢臻  
忍到自忍満腔春  
静々宇宙都真境

これは忍耐の徳を唱へたものである。忍耐が足らぬ為めに不幸不和が起ることがある。お互に深く考へると、心に恥づべきことが沢山ある。

書を読んで 聖賢を見ざれば 鉛槧の備となる

鉛槧の備とは、今日の活版業のごとである。これは読書の心得を言つたものである。

官に居つて 子民を愛せざれば 衣冠の盜となる

これは上に立つべき人の心得を言つたものである。皆さんも組に対し、係に対して責任をもつて居るかど一か、反省せんければならぬ。

學を講じて 躬行を尚ばざれば 口頭の禪となる

之れは実践躬行の大切なることをいつたのである。

業を立て 種徳を思はざれば 眼前の花となる

種徳を思はざればと云ふのは、精神を練らなかつたならばと云ふ意味である。眼前の花となると云ふのは、永遠の値打ちがないと云ふ意味が含まれて居る。

私共は自分で不完全であるを感じて行かねばならぬ。それには皆さんが自分はどこがどれだけ欠けて居るか、よくよく考へねばならぬ。

毎日の修養法として、フランクリンの様に白星、黒星をつけて反省して行く人もあるが、方法は何でも構はぬ。人の顔の違ふだけ異なるであらう。

兎に角、第一には自分の欠点を見て、十分に感じなければならぬ。そうでないと進むことが出来ぬ。消極的であるがこれも一つの方法で、必ずすべきことである。黙思の時でも、就床した時でも何時でもよい。必ず外に出なければならぬ事

もない。却つて外に出ると精神の散漫すると云ふ様な人があるかもしれぬ。総て其の人々に適切な方法をとつて、而して足りないことと云ふことを思ひ、何か役に立つ人になりたい、日本の國家の為に尽したいとだんだん考へて見たならば、何か感ずるであらう。

[志が立つて居るか反省せよ]

現在自分には志が立つて居るであらうかと云ふことが、最も反省すべきことである。第一に恥とすべき志が立つて居ないかもしれぬ。強い志があるかないか、これをもつて早く作らねばならぬ。

男子には志を立てることが割合に易い。私が自分の頭を刺激したのは、子どもの時に家が貧乏に傾きかけて居たと云ふことであつた。其の後、父親が死んだので、尚更傾きかけて居る家が傾いてきた。そこで此の家を興さねばならぬと云ふことを感じたのである。これが刺激であつた。其の時、母も學問をさせたいと云ふ願望であつたから、頻りに勤めて呉れた。自分も其の心があつたから、十九位から學問を勉強する様になつたが、中々種々なる刺激物にあつたのである。

皆さんにもあつたに違ひない。現在も不幸、複雑な境遇にあるかもしれぬ。又、中には何の心配もなく、暇があるから入学したと云ふ様な人もあるかもしれぬ。此の様な人の中に志の立たぬ人があるのではないかと思ふ。自分は一生独身で通さねばならぬとか、親兄弟を養はねばならぬとか云ふ如き人は不幸ではあるが、志を立てることは易い。

[終生忘れぬ点を得て欲しい]

他の人は一生夢を見る如き中に送るかもしれぬ。無意味に過し、生活の情味を感じずに一生を過すかも知れぬ。此の様な人はよく考へて、捕へる所を定めて、終生忘れぬ点を得て欲しいと思ふ。心の中に得なければならぬ。それが為には、Something を得なければならぬと思つて居るか、今現在の心を十分考へ直して、確めて置かねばならぬ。又、自分の今の此の精神を打ち明けたなら、人に恥かしいと云ふ位に恥を思ふなら、一方には必ず理想が起つてくる。それが、第一の進歩の階段である。共に反省して目的を定め、理想を定めて積極に進んで行きたいと思ふのである。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
大正元年十月三十日

大正元年十月三十日

大学部二、三年に於て

松浦教授

[自己を作りしものは何か]

今日の自己を作つたものは何かを考へて見ると、第一に遺傳、第二に天賦があるが、これはさておき、生れてから今日に至る迄、我なるものを作つたものは何かを考へて見ると、第一は天然である。

## [天然]

我々が呱呱の声をあげてから朝夕見て居る高い山、広い海が、我々に感化を与へて居る。私は京都に十五、六年の久しき間住んで居りました。実に山の美なることは彼の「布圍着て寝たる姿や嵐山」と云つた様であり、其の他、大和の高い山にのぼつて見ると荘嚴な感じが致します。加茂川、桂川など云ふきれいな川が流れて居ります。なるほど京都の山水は有名なる平安文学を生み、荘嚴なる奈良文学を生み出したのである。

米国のホーソンの書いたものに「大なる石の顔」と云ふ文章がありますが、天然の大きな石が人の顔に似て居る。これを常に見て居つた人が、それと同じ顔になつたと云ふことがあるが、矢張り天然が人に大なる感化を与へることは事実であります。

## [社会]

第二は社会で、これは大なる様であるが、諸子が生れた村町がそれである。淋しい小さな村に育つ人と、賑かな町で育つ人とは自ら違ふ。日本には生蕃も居る。こんな間に育つものと銀座あたりで育つものと比べて、どの位違うでしょう。極田舎に住むものと飛行機などを見る都の者とは、どんなに違ふかしのれない。

## [家庭]

第三には家庭で、言ふ迄もなく父母兄弟、乳母、召使も其の中の大事な一人で、これ等の人々から感化をうける。乳母の如きは家族と考へぬものがありますが、これは間違つたことで、彼の十九世紀の慈善家にして政治家たる第一に数へられたシャフスベリーの如きは、其の自叙伝を見ると、乳母の教育、殊に其の宗教的教育によつて遂に偉大になることが出来たとある位であります。

## [学校]

第四には学校である。こゝに於て教師、友人、書物から感化を受ける。言ふ迄もないことである。

我々を作るために大なる関係を持つて居るものはこれ等であると思ふ。こんな中に居て、今日の我々が出来た。種々の觀念、感想が集つて出来て居る。諸子はどれ位見、且つ聞いたかしのれないが、多くは忘れ、あるものは残つて居る。而して其の中にはよいもの、わるいものがある。そして今日のあなたの心が出来て居る。

## [如何なる自己を作らんとするか]

さて、諸子は東京に居ると云ふことは大なることである。然るにこの学校に入つたと云ふこと、これ又容易ならぬ事である。そのこゝに居て勉強して居るあなた方の将来に於てどんなになつて行くか。この将来のあなたを作るものは何であるか。これは今日、私の言はんとする所である。

それには最も自分に適切なものを取り、役に立たぬものは捨て、行かねばならぬ。諸子は今日もなほ、つまらぬものを徒らにあさつて居るかもしれぬ。

## [筆記はつまらぬことなり]

第一に、筆記をして居られるが、これは或る意味から云へば、つまらぬことである。その人の言ふことをその儘にとる

ことは速記者のすることである。速記者は強い所、弱い所の別なく只機械的にかくのである。心理、哲学などの六ヶ敷いものになれば、尚更書いて居てはわからぬのである。筆記するならば要点をとりさへすればよい。あとは思ひ出せる位にしておけばよい。

定義の如きものは一字もぬかすことは出来ない。その実例、応用に至つては、頭に入れておくだけで、かくには及ばぬ。卒業生に、あなた方が在学中に筆記したものが頭の中にあるかと聞いて見ると、悉くない様である。これでは何もならぬことである。講義の中には頭を働かし、自分のものにしなければならぬのに、手を働かして居れば頭をつかはぬことになる。たとへ使つても、十分に働かせることは出来ぬのである。これでは何もならぬ。筆記をするならば、本を買つておけばよいわけである。

## [暗誦の弊害]

第二に、暗誦は如何と考へますと、之れは今日の教育の大弊害である。暗記学問、これ実に馬鹿なことである。記憶力も程よくつかへば強くなるが、程度以上につかへば、却て弱くなる。今日は之れを實行して居る。これであるから応用が出来ないのである。有益なる知識とは、一を聞いて十を知るの応用があるでなければならぬ。本校に於ては、大に之れを改めんとするのである。

## [思考]

第三に、思考力を使つて理屈を考へることは如何。成程、物の道理を考へるのだから機械的に暗誦するよりは遙かに勝つて居るが、之れだけならば、せねばならぬと感じてやるのであるから、冷たい感じがする。したくてたまらぬと云ふではないから、物足らぬのである。

## [興味]

第四に、興味が出る様でなくてはならぬ。諸子にど一云ふことが強く頭に残つて居るか。最も嬉しかったこと、最も悲しかったことである。

過日、妃殿下がおおいになつたことや、又先帝陛下がおなくなりになつたことなどは、一生忘れぬことは出来ないでしょう。或は日清、日露戦争の時の如き強く感情を刺激したことは忘れぬものである。文学なども、あれは情に訴へるものであるから、深く印象するものである。兎に角、其の感情の動く興味にまでぶちこまなければならぬ。教場で学ぶことは、たゞ冷たく学ぶではなく、こゝまで達しなければほんといに消化しないのである。

## [実行]

第五には実行である。我々が日常見聞したことは実行すべきである。おもしろく読んだ書があれば、この話を人にも話す。これも実行の一つである。話をすれば、永く覚えて居る。「真理は人に分けると殖える」と云ふがよい説で、之れも実行の一つであると思ふ。

又、実験をする。凡てのことはやつて見ぬといかん。常に実験しよ一、しよ一とつとめんければならぬ。修身の如きは聞いただけではいかぬから実行に行つて見るのである。十の知識よりも、むしろ一つの実行が尊いかもしれぬ。即ち知る

は易く、行ふは難しであるから 一。

#### [二十世紀は実行時代]

二十世紀は実行の時代である。我が国が明治二十三年、国会を開いた。この時は何から考へても時代のvariety目であった。即ち、それ以前は理論時代で、以後は実行の時代であった。近来はことに実行時代で、空理空論を言つても承知しない。統計、実験がある論でなくては認められなくなつたのである。このよ一に実行迄したものではなくては強いものではありません。

#### [人間の二つの義務]

人間には二つの義務がある。即ち一つは自己を完全にする。二には人を完全にするので、世の中は互に助け合つて行くのである。これ、大なる義務である。自分の力あり丈けをのばすことと同時に、人を完全にのばすことが大事である。

先づ如何なる知識でも自分のものとなつて居なければならぬ。これがあつて始めて他に強く断言することが出来、即ち自信あり且つ權威あることが言へるのである。もし、この様なものが内に備つて居れば、教壇に立つて無言であつても感化が出来る。底光りのする人間とならねばならぬ。

要するに筆記暗誦し、考へても興味が出る程にかみくだき、次に実行して全然自分のものとなるよ一にする。これが将来のあなた方を支配するもので、これではなくては皆剥げてしまうのである。即ち結婚して子を持つよ一になつて、すつかりぬけてしまうのである。鉄を鍛へるのには火に入れてたゞくので、感は火で、たゞくのは実行である。即ち、斯くの如く鍛練しなくてはならぬ。

#### [健全なる生涯を持つ]

わかつた丈けでも、おもしろかつた丈けでもだめである。も一つ実験し、実行する迄やつて始めて、健全なものになるので、これがなくては卒業の時にも三年間何をしたか、空々漠々。こゝに失望がある。まるで夢のよ一である。かゝる悔いを来さぬよ一に、健全なる知識がはいつて居つたならば、役に立つのである。五年十年の後、困難に逢ふ時に力が出て来て、これが女子大学三年の効果であつたことがわかる。これ、耳から耳にぬけるでなく、Note が血となり肉となつてあることによつて、健全となるのである。諸子は生涯この健全なる生活をなし、なほ人に対しても充分な職分を尽すことが出来るよ一に、切に望むのである。

#### [中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十一月二日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十一月二日

麻生学監

今日は、此の前の話から云ふと脇道に入るかもしれないが、私共が志を立て、如何なる目的に進み、如何なる生活をした

なら満足し得るか。此の世の中に於て何をして居たかわからぬ様な生活でなく、不十分ながら尚満足し得る一生涯は如何にしたならばよいか。精神的態度として考へる時には男女の差がない。しかし実際仕事をする上には、男女の道が違ふのである。今日は人生に対する精神的態度は略して、順序は違ふが、人生に対する実際の態度につき具体的に話して見たいと思ふ。そして抽象的の態度については頭のよい時に話すことにしやう。

女子として如何なる生活をして行つてよいか。先づ第一に考ふべきことは、独身で送るか、家政を掌るかである。若し独身ならば職業をもつか、又只家庭に居るかである。職業は工場で働くか、又は教師か、但しは文学者か。大小上下を問はず、私共の眼前に浮ぶものは此の問題である。

而してこれは個人個人の問題として考へると、日本婦人全体の地位、精神を考へて如何にすべきかと考慮すべき二つの大問題であるが、自分のことは焦眉の急である。日本婦人が将来如何に発展すべきか、又如何に進歩せざる可からざるかについても、此の後、考へつゝ行くべきであるが、各個人は直ちにきめて行かねばならぬ。日本婦人全体の理想が定まつて後には出来ぬ、急な問題である。而して多くの婦人は大抵定まつて居るであらうか。其の為に教育を受けるのであらう。教育を受けると云ふことは、既に家庭をもつことに反対したものであるか。其の反対の結果を表はすものであるか。これは国家的女子教育の問題である。

#### [エリオット博士の意見書について]

エリオット博士の意見書には、女子教育に対する意見が見えて居るが、其の中には、日本の女子に高等教育を受ける時には一方に家族制度が破壊せられるのであらうと言つてある。之れについては、東京日々新聞、其の他に中々賛否の意見が出て居る。意見書の他の問題も重大である。又、賛成者も多いが、女子教育に対するエリオット博士の意見には迷ふものがある。現在、新聞紙上には二種の説がある。

女子に高等教育を施すと家族制度が破壊せられると言ふが、エリオット博士は高等教育を小学校程度の教育の後をさしたらしいが、漠然たる意見で、博士が消極的に表はして居る。只、汝の位地は危いと言ふのみで、他の意見にはどうしたならばよいと云ふ様に述べられてあるが、女子教育のこの意見には極めて消極的に述べられてある。失礼であるが、博士は滞在の日も浅かつたから、日本の家族制度については調べて居られぬであらう。日本で家族制度を考へて居てさへ、実にはわからぬのである。

法律上では家長権を民法で維持して居るが、其の法律上に定められたことさへ行はれぬことがある。例へば家長が汝は田舎に居て農事に従へと言つても、中々そう言ふ通りには行かぬ。親と衝突して迄も、自分の望む満洲なり又南米なりに行つて、家長の命令に従はずして家を飛び出して了うものがある。而して、これに対して法律も如何ともすることが出来ぬと云ふ有様である。所謂エリオット博士が家族制度と言ふのは、何処まで保存すると云ふのであらうか。家族制度には長所もあれば、短所もある。日本も現在それについて心配を

して居るのである。保存したいと云ふ意見の人でも、博士の説には内容を欠けるに相違ないと言つて居る。

日本は祖先崇拜である。祖先崇拜を主張する人でも、自分の先祖がわからぬ人はどうするのであうか。わかつて居るにしても大宗祖を崇拜すべきである、皇祖を祀るがよい。伊勢の大神宮は皆の祖先が崇拜したものである。共同の祖先の伊勢の大神宮を祭ることは根本であるから、破壊することは出来ぬ。之れは日本の盛衰存亡の分れる所であると思ふ。

博士には、家族制度は如何なる点まで各自の家庭に保存すべきであるかと云ふ積極的の意見がないのである。美点は保存したいとは願つて居るのである。如何にすべきかは、一、二ヶ月で決定することは出来ぬ。女子教育問題も家族制度と同様に複雑であるから、此の二つを並べて直ちに談ずることは困難である。女子教育は家族制度を破壊するかせぬかと云ふことは研究して居るのである。破壊するかせぬかは、やり方一つである。この仕方を研究せねばならぬ。

道理の上の研究もいるが、之れも一朝一夕に定めることは出来ぬ。エリオット博士の女子教育の意見には反対が多い。東京日々新聞、時事新報も反対して居る。女子教育をする時には家族制度を破壊するものであらうと云ふならば、破壊すると云ふ信仰をもつて居るのである。高等教育より独立の思想が起り、人格の自覚が起り、自然の勢で結婚を厭ふ様になると云ふので家族制度が破壊せられると云ふのであらう。エリオット博士の意見書と、此の学校で話されたことと、来遊会で演説せられた意見とを比べると、齟齬して居る。解し難いことがある。意見書の通りにすると、高等教育を憂ふる人であると思はれる。

[女子教育は家族制度に反対するか如何]

女子教育は、どう云ふ教育でも家族制度に反対するものであるかについては考ふべきことである。私の話したいのは、そこである。

女子が教育を受けると、職業を取り家庭に入らぬ様になるから、自然、家族制度の勢を弱め、破壊するに至ると云ふに、之れは考ふべき問題である。一方では保存すべきであると言ひ、一方では女子教育は之れを破壊するものであると言へば、歴史的の國家を保存するには、博士の意見によると女子の教育を尋常小学で止めねばならぬ訳である。斯う言うたなら、エリオット博士はわからぬ説をかく人であると言はねばならぬが、其の意味ではないのであらう。家族制度も女子教育も必要で、女子教育を授けるのがわるいのではないのであらう。人々の取り方によつて違ふのである。女子教育に反対せられたのであると解する人があるが、それは間違ひである。女子教育がわるいと云ふのではない。勿論廃せよと云ふのでもない。憂慮すべき所があると言はれてあるからには、考ふべき余地があると思ふ。日本人に同情して日本人と一緒に心配すると云ふのであつたならば、大に感謝すべきである。尊敬すべきである。誤解しては困るのである。Harvard 大学の附属である女子大学がある。その方をも支配して、女子教育にも尽力された方である。日本でも女子の教育の盛んになるのを祝して居られる。この二つの調和をもつて考へねばならぬ。

日が浅いため積極の説は出されぬが、注意を与へられたのである。斯う考へて見ると、寧ろエリオット博士には相当な話である。無謀でも、間違ひでもない。読む人が間違つたのである。若し博士が女子高等教育は家族制度を破壊するものであるといはれたのならば、博士の女子教育説と齟齬して二枚舌をつかつた人と言はねばならぬ。しかし、かゝる人ではない。米国のみならず、世界に於ける大教育家である。そして堅い主義のある人であるから、意見書と平素の意見と調和せぬことはないであらう。

繰り返して言ふが、博士は、今日の日本の女子教育は家族制度を破壊する様に出来て居ると書いてあるわけではない。注意せぬと破壊するかも知れぬと書かれてあるのである。日本人でも、家族制度は破壊しても保存してもよい。即ち、従来の家族制度は弊があると言ふ人と、美点があるから絶対に保存すべきであると言ふ人とある。而して現在、日本は家族制度である。考へは足らぬにしても日本の国情を基礎として考へて今日に至つたのであるから、家族制度と調和して教育を施したいと云ふのが輿論である。所謂、良妻賢母には反対せぬのである。現在この精神をもつて教育をせられて居るのである。

[現今の思潮は個人的成員に帰着するのである]

女子の智力を開展すると、智力の上、又総ての上に独立の思想が起る。個人は独立せなければならぬ。純粹の個人でなく、社会の個人的成員とならねばならぬ。個人と云ふものを十八世紀頃より発見し、個人の思想が発達したが、今日では其の反動で団体主義である。成員と云ふのは多くの人の中の一人と云ふことである。今日の思潮は、この個人的成員に帰着するのである。利己的の主義の個人が起つた。個人の天賦を發揮し、それを共同的に発達せしめて社会を作るにあると云ふのである。即ち、社会と云ふことを眼中に置いたのである。

米國、其の他諸外國に於ても、近頃は団体主義を唱ふるに至つた。社会全体の爲に協同し、又協力してゆき、その間に個人も満足を得て行きたいと考へたのである。米國の教育法は自分を立派にして、社会を立派にせねばならぬと云ふのである。昔は只自分の發展をはかり、利益を得て行きたいと云ふのであつた。

[女子の二大天職について]

私が今から八年前に米國の或る学校で、此の学校の主意書を示した所が、その校長は冷笑した。賢母とかいてあるのを見て、心算かに笑つた人もあつた。スタンレー ホール大学では、スミス氏をして批評をかゝせて教育雜誌に載せられた位であつた。一番冷笑したと思はれたのは、女のみ入学せしめる最高のプリンマー女子大学であつたが、此処の校長はトーマスと云ふ人であつて、スタンレー ホールとは反対説を有して居つた人であつた。しかし漸次、スタンレー ホールに傾いたのである。トーマス氏の生徒で、女子及び社会の進歩と云ふ本を著して居るが、その中には女子の母となることの大切なることを主張してある。即ち婦人の二大天職の一は、母たることである。一は職業をとることであると書いてある。数年の間に、この様になつてきたのである。此の学校の説と近づ

いて居る。私は度々繰り返して居るが、私一個人の意見としては賢母であることが大切であると思ふ。母たると同時に女子は職業をとらねばならぬ。米国のこの教育法は穩当であると思ふ。

[西洋に於ける物質的科学的の進歩は婦人に如何なる影響を与へしか]

女子には二つの重大な天職がある。即ち母たることと職業を求めることであると思ふが、就職すると母たる所の職を完うすることが出来ぬと言ふ人があるが、出来ぬことはないと思ふ。職業をとらねばならぬ必要は日本にはまだあまりないが、西洋では、その必要を唱へて居る。之れは物質的科学的の進歩からである。発見発明の結果であるが、先づ最も婦人に影響を及ぼしたものは、即ち家族制度に及ぼしたものは紡績機械の発明である。人の衣類に関係するのである。今迄自家で作つて居つたのが省かれる。それには漸次、裁縫機械も出来進んで、工場も増すと云ふ有様で、自然、社会は家庭から人を吸収するのである。それに吸収せられたものは多く女子である。それで家庭を去り、職業に従事する。

[下流社会について]

下等社会のものは小学校教育を受けねばならぬ学齡中に、学校を退学して職業につくものがあると云ふ有様である。家庭をもつても下等社会では、一家を支持する為に加勢をしなければならぬ。必要のある所へ衣食住に於ても中々便利になつて居ると云ふわけで、下等社会の婦人は家に居ても、僅かに子どもの遊び相手になる位のことで過ぎうと思へば過ぎるのである。それに子どもの預り所などもあるから、家庭より幼稚園に入れた方が却つてよい位であるから、自然、婦人が労働社会に入る様になるのである。

[中流社会について]

中流社会にも同様に暇が出来る。三才位の子どもなら母親の暇をとるけれども、それ以上になれば幼稚園に入園させることが出来、生活に必要な品は外部から直接に買入れることが出来るので、全く主婦に閑暇が出来るのである。それで此の閑暇生活を如何にすべきであるかと云ふ問題が起るのである。中流社会では生活もかなり困難であるから、自ら職業に従事する様になるので、女子の就職するものが沢山になるわけである。

[上流社会について]

上流社会も閑暇があるのである。家庭に入用のものは外からとる様にし、娯楽も家の外でし、客の招待も外ですると云ふ有様で、社会が總て其の要求を充たす様に進歩して居るので、貴婦人社会にも閑暇が出来るのである。これと云ふのも全く科学的の発見発明によつて日常生活が立派になつたからである。

資本や労力を共同して各自が分担するから、早くて価も安くものが出来るのである。例へば、一足の靴に二百何人かの手がかけられて出来上るのである。これから考へて見ても、如何に分業が行はれて居るかがわかるであらう。

人間が閑暇時間をぼんやり過す程、其の人を腐らすものはない。上流社会では此の閑暇時間を社会の慈善事業に従事す

るのである。即ち上流社会が資本金を出したり、又無報酬で尽力し、中流社会の人々は有給の仕事をして、最もよく慈善事業などにつくすのである。暇を暇で費すと人間として、また個人としても、家族や社会に対しても、自分も何等かに力を表はさぬと満足せられぬから出て働く様になつて居るのである。一方から言へば、社会が閑暇であるから婦人が職業を奨励して居るので、上下貴賤の別がないのである。要するに婦人は家政をとると共に、職業をもたねばならぬ。自然、この境遇に入る様になつたのである。多くの婦人は四十才以上になれば手がいらぬから、其の時に社会事業に従事し、又不幸に陥つた時の支持の為に職業奨励して居る。

女子教育の最も必要なることは、母たるものの教育であることは前にもいつた。遺伝の上で重大な影響を及ぼすものは婦人である。子どもが七、八才迄は婦人の影響をうけることが多大であつて、それから後は人間の善悪の定まる時で、わるきを矯めてよきを延ばすのであるが、之れを得るのにも母たるものの力がいるのである。

英國のガルトンの著書には女子のことは書いてない。只男子の方面のみ書いて、女子は眼中に入れてはないが、暗に女子が入つて居る。即ち、えらい人にはえらい母があるので、婦人は人種継続に重大なる勢力がある。アミーバは母体がわかれて子孫が出来るのである。その他、下等動物は女性が丈夫で大である。支那の哲学にも、女性は天地の母と云つてある。物の始め、物の成長するのは母である。動物の元は女性なりと云ふ説がある。米国のワードは女性中心説を唱へて居る。女子を中心として発達するのであると云ふ。種族を継続することは、女性が主として掌るのである。しかし女性のみでは進歩発展をし、高尚にすることが出来ぬのである。之れを助ける為に男子が出来たのであると云ふ。母たることは、女性の大切なる天職である。米國人すら母たることの必要を言ふ様になつた。之れも生物学的研究の進歩発達した結果である。今迄は斯く言つた人も少なかったが、今日では中々勢力ある説である。

此の学校なども、元より考へをそこに置いてやつて居る。よくわかつたならば、日本にも穩健なる教育をして居ると云ふことを認められたであらう。エリオット博士は米國と教育の方針が同じであると言ふのみであるが、日本は特に茲に注意して居ると云ふことを見てほしかつた。しかし現今では、日本の教育の穩当なることを賞讃して、日本の教育主義を欧米にも入れて学ばねばならぬと言つて居る。米國や英國でも学校に家政学を入れる様になつた。博士は此の学校を米國の女子の大学の様に感ぜられたのであらう。我が國では日本の國状に伴つてやりたい。また現在そこにつとめて居るのである。エリオット博士はそれを見なかつたのであらう。

女子は如何に教育すべきであるかと云ふに、母たると同時に、真に母たるものは立派な妻とならねばならぬ。夫婦が不和で善良な母にはならぬ。良妻は母たる中に含まれて居るから、母たるものを特に重く見たのである。

[当校の主義について]

皆さんの修める課業も必要のものを選択し、万一の時の助



けにもする様に、また閑暇の時には社会に尽くす為に停滞せぬ様にして居るので、此の学校の主義はそこにある。この様に考へるのが穩当である。人間社会は複雑であるから、独身で行く人があるかもしれぬ。それもよいが、先づ母とならねばならぬ。家の事を嫌ふと云ふのでなく、積極的に考へて行かねばならぬ。男子は、外で同一の仕事を繰り返して居る。一般女子は、この考へで自分を修養せんければならぬ。

学問をするのが、家族制度を破壊するものでもない。破れるのなら世界の潮流によつて、教育をしてもせんでも破れるのである。社会の大勢が学校にうつるので、学校のみでは出来ぬ。それであるから、世界の潮流に注意せんければならぬ。此の後どうしても女子に高等教育を授けぬと云ふことは出来ぬのである。人間が人格を仕立てるには、学問がいる。教育をうけても社会の個人的成員であるから、国家の個人的成員によつて個人個人を修養せんければならぬ。社会の秩序を乱してはいかぬ。急激にかはつてはならぬ。何となれば、国家の進歩に損亡を來すからである。

今日は、社会に於て個人個人に起つてくる問題について、確信を得なければならぬと云ふ教育上の方針にもなるだらうと思つて、私の考へを話したのである。よいかわるいか、皆さんで考へて見るがよい。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
大正元年十一月六日

大正元年十一月六日

大学部二、三年のために

(講話者不明)

[エリオット博士教育意見偽造]

今日はこの間の問題でなく、近頃世間の問題となつて居るエリオット博士の教育問題につき話します。

あなた方も迷つたであらうが、あれは全く偽造である。実は一昨日、岸本君を通して目賀田男爵に聞いたが、全くないことであると言はれた。エリオット博士の性来を考へても、そんな曲学阿世のことをせられる筈はないから不思議でたまらない。昨日は又、久保田男を尋ねた所が、矢張りおかしいと思つたと話されました。次に大隈伯を訪ね、其の趣意書をもたらひたいと言つたが、これはかなはなかつた。

二日目には各新聞に出た。大阪朝日が最も公平な考へを持つて居た。これは全くエリオット博士の日常の談話などを総合して書いたもので、偽であつた。あれには、日本の教育は多額をかけてつまらぬことをやつて居るとあつたが、久保田さんは日本の教育は最も経済的にあげて居る。第二に女子教育のことも誤りであり、第三に文部大臣の悪口も紳士として、あのよ一なことを言はれる筈がないと言はれました。成瀬校長にも早速聞いてやりましたが、実におもしろくないことである。エリオット博士を利用して、却て藪から蛇を出す様なも

のあつたと思ふ。

この偽造の意見に対し、棚橋さんも三輪田元道君も賛成だと言つて居る。いつも女子教育は不運な位置にあるが、実に損なことである。私共は何も意地悪く考へるのではない。公平に解したいと思ふのである。併し、これが偽造であると云ふことがわかれば、ことが定つたわけであるけれども、この騒いで、日本の女子高等教育に尚反対の説をいただくものがあることがわかる。こゝに我々は軽々しく、ことを断じてはならぬと思ふ。

澤柳さんは且つて高等教育につき、「不幸な女子には高等教育を授くべし」と言つた。西園寺侯、大隈伯も不賛をせられた。鎌田君も反対した。それに賛成をしたと、今度の話には言つて居るのである。彼はこのよ一な保守家ではないが、我慢を通す人であるから、意地を通したのかもしれない。高等教育に反対するのではないが、話に往々矛盾したことがある。そんなことが連関して、この学校では大に迷惑するのである。文部省でも長官と次官の意見があはなくて迷惑をして居る。

これは全く根本が間違つて出て來て居るからである。この学校に対しては世間が注意して居る。新聞や社会では偽造と云ふことを知らず、種々同意の説が出る所を見れば、未だ反対の潮流が流れて居ると云ふことは明かである。併し雨降つて地かたまると、却て今度は明かになり、同情を表する者も出るだらう。私はこのよ一な問題につき述べて見よと思ふ。[エリオット博士演説筆記を参照すべし]

先づ、エリオット博士は日本に來て何を主張したか。これにつきては「エリオット博士の演説筆記」を参照なさい。その中に吾人のとるべきことがある。

最初の演説に、日本人が口を開けば米人は個人主義と言ふ。併し近頃は団体主義になつた。これ、米國に於て頗る力を尽して居る所である。そして、個人の土地の使用法、家庭の衛生、子供の教育にすら自由を制限して來た。社会、國家のために制限をつける。これ事實に於て、利なることを味つた、と言つて居る。又、吾人の幸福と云ふ言葉は、単に個人の幸福のみを意味せずして、家族、社会、公衆の幸福と云ふことに解しなくてはならぬことがわかつた。幸にも、米國に於て公私の行動によつて民衆の幸福増進し、乃至安固となる場合、個人の幸福も亦増進するものなることを知つたとあります。又、渋沢男午餐会のときには、天下万人の幸福は万人皆、身体を健康を保ち、富裕を樂み、正義を行ひ、互に好意を以て応酬するにあり、と言つて居られる。

最後の日に、腹藏なく何でも話して下さいと頼みましたときに、日本の教育制度は完備して居る。修学兒童の成績がよい。短所は日本の教育は画一主義で、運用の妙を得て居ない。併し日本には公共的精神を以て人民を助け合ふて、早稲田大学、慶應大学、女子大学などの私立の学校が出来よ一になつたことは喜ぶべきである、と言はれた。エリオット博士は温和な学説を持つて居られる。私共の言ふ説に似て居る。私共に同情を持つて居られる。

従來我が校の主義に賛成し、同情して下すつたのは、エリオット博士とスタンデールである。

### [エリオット博士の女子高等教育説]

エリオット博士は、女子は結婚して男子の好伴侶となると云ふことを述べて居る。而して之れには男女同等（同種とは言はず）の知識、及教育を有し、且つ熱烈なる愛情あるを要すと。次に、此等の女子は職業に就くに当り、知恵、熱心、忠実の美を現はして居ることを言つて居る。又、多数の女子は結婚し家庭の母となり、高等教育を受け且つ実務の訓練ある為、其の然らざる場合に比し賢母良妻にして、広くは社会に出づるも好適なる一員と云つて、女子の職業については賛成、否、寧ろ謳歌して居るのである。

エリオット博士は、従来如く男子の教育をその儘女子に移すのは悪い。女子には女子に適当なものを課すべしと。之れを見ても家庭に重きをおいて居ることがわかる。エリオット博士の今回の意見書なるものが偽なることが、之れによつてもわかる。

### [教育家は世界の潮流に注意を要す]

澤柳君は、女子の高等教育は精神修養の方面ならばよい。職業専門はいけなない。併し不幸な女子のためには大学を開放すればよい、と言ふのである。併し諸大学を開放する前に、どこでこれに学ぶの準備をするか。ど一しても女子大学の如き、実験などに相応の設備ある学校が必要である。故に、澤柳君の説は矛盾して居る。第一に、世界の潮流を見なければならぬ。一般女子教育に温和な説を持つて居る人の傾向はどんなものかを見る必要がある。

獨逸の如きは大学の開放はした。けれども女子大学を設立して居る其他、英、露、米の如き、然りである。これ、今日の欧米女子教育界の傾向である。

エリオット博士などは女子を基本とした大学を設立しよ一として、経済上の困難あるがため、男女混合大学が多いと言はれて居る。今日は女子を生物学上、心理学上、又實際の経験から割り出して、このよ一な大学を設ける必要があると云ふ説が多数を占めて来たのである。

### [近頃の女子教育 女子二方面の教育]

近頃の女子教育に於て、西洋の温和説では女子は不幸のよ一ではあるが、二つの教育がある。一つは家庭に入り母となるための教育、一つは中等社会に於ける如き家計を助けるために要する職業、即ち専門教育を要するのであると。今日、ユーゼニックスに於て二十五歳から三十歳頃迄の子供が健康で立派である故に、学力ある立派な婦人には結婚を進めるのである。但し専門教育を捨てよと云ふではない。子供が育つて後に専門の方をやつたがよいと云ふのである。これは学者が主張して居る。これ、国家の要求であると言つて居る。

従来は、女子は身体さへ丈夫ならばよい。腹は借りものと言つたが、今日はそ一でない。従来は女子を教育しなかつたから、男子に比して劣つて居たのである。故に今後は、只子供を生むのではない。夫を選んで結婚する。これ人類、国家のためである。将来の国家をよくするも、女子の負ふ所が多いのである。真に子を育てるには、相当の教育ある婦人でなくてはならぬ。

次に女子を教育すべきである。これ、女子の高等専門教育

が必要。婦人は母と云ふことを中心として考へても、夫を選ぶ知識、子を教ふる人格もなくしてはならぬ。これ、所謂エリオット博士が、好伴侶で精神的にも知的にも同等の教育を受けなければならぬと言つて居る。この女子大学に於てもこの点に大に重きをおいて居る。併し、高等教育の受け方がわるいと危険である。この学校に於ても学科の編成に大改革を要するものがある。併し、かく理想的に考へても、経済が許さないから出来ないのである。

### [エリオット博士 家族制度に対する偽説]

更らに、家族制度を破壊せよ、など言はれたことは一度もないのである。家族制度は祖先崇拜からおこつたものである。日本は農業国だから、これが出来た。この崇拜が漸々なくなつて来た。種々の学問、即、進化論から言へば、祖先は猿みたよ一なものだと云ふ。哲学は凡て神に帰してふ。併し、日本の国を建てたものは立派な種属である。これが日本を發展せしめた。そのよい種を悪くしないよ一に結婚を謹み、よき子孫を作るべきである。この意味からして、祖先だからして崇拜するのではなく、立派な方だから崇拜するのである。

### [家族主義と個人主義]

そこで兎角学問をすると種々利害損失を考へるよ一になる。近頃新聞、雑誌に於て、文学或は実業の方面に於て、個人主義が行はれて来た。この個人主義が家族主義と衝突をして来た。健全な個人主義はあらゆることを自分が選択する。その結果責任を負ふ。其の理想は団体或は大我に尽すが目的である。これが悪くなると目的を排するのである。この健全な個人主義が入つた為に民法に於て、其他の思想上に変化を及ぼして来た。併し家族主義にも長所はある。米國に於ても個人の家庭に於ては相対自由を許し、絶対自由を許さぬ。これで家族主義が維持されて居る。これがあつて家庭の情味がある。親子別居はおもしろくない。今日最も六か敷いのは、親子が思想上の相違である。しかし出来ぬことはない。どこ迄家族制度が保存せられるかは問題であるが、個人主義と全然容れぬことはないと思ふ。改良された家庭が出来ることを望む。

女子教育をするために、家族主義が破壊される様なことはない筈である。校長が常に団体主義、個人主義と言はれるが、かゝる場合考へる必要がある。故に、今度のよ一に世間に種々の説が出て来て迷ふてはならぬ。ちゃんと正しい考へを持つて居ることが大切であると思ふ。

### [中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十一月九日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十一月九日

庶生学監

[一生涯忘れられぬ力を得て欲しい]

此の前の続きで話すが、私の考へでは、自分等が勉強する

ならば学校に居る間に、卒業しても老年になつても忘れられぬもの、又力になるものを得て欲しいと思ふ。人生の行路に困難があると自分の力の弱いことを思ふ。其の時に思ひ出すと力になるものを得ることが大切である。

女子大学を卒業したことは数ふるに足らぬ。眞の精神を貰かれた、或る物を得なければならぬ。困難の起つた際には心に頼ることがある様でなければ、淋しい世の中となる。實際生活には不満が多い。家に帰つても寮舎に居ても、自分に同情を表はしてくれる人がない。自分の考へも人とは合はぬ。そこで、人は無情なものであると悲観もし、實際生活が冷淡無味で単純であるとも感じてくるのである。若い時代は心が踊つて居らぬと味気ないことを感ずるのである。そして此の時代には過ちをすることがあるのである。兎に角、何物かを求めて居るが、何を求めて居るかは知らぬのである。心に何物か触れて欲しいと思ふが、寮舎でも学校でも得られない。先生のお話でも、とることが出来ぬので苦しむ。確かに何物かを求めて居るのである。これが人間の尊い所で、これにより宗教生活が起つてくるのである。

[皆の求めて居るものは何であらうか]

皆の求めて居る何かを解剖して見るならば、色々と言ふことが出来るが、無限と云ふことを望んで居るのであろう。何事でもなし得られる無限の力を得たいと思ふのであろう。机に向ふと直に一大論文を書き得たり、又、一冊の本を読んで直に理解が出来たり、人と話すなら人を感化する様な人になりたいと云ふ様に、総てなすことが完全無欠にありたい。即ち力が無限でありたいと願ふのである。円満に力が表はれ、自由を願ふのである。自分が思ふまゝに世の中が通れる様に願ふのであるが、しかし、實際は決して思ふ様にならぬ。天に昇られず地に入られず、誠に不自由である。自由に話したいと思つても話すことが出来ぬと云ふ有様である。人々は総て無限、完全、自由自在を知らず識らず望んで居るのであるが、しかし、此の望みは中々満足することが出来ぬ。そこで、この世の中では実際に行はれないものであると思ふ様になる。そこで宗教となつて行くのである。

[宗教と日常生活とは別物ではない]

それであるから、宗教と日常生活とは別物ではないのである。宗教は自分より大なる力で、心を動かさうと思ふのであつて、即ち心の奥底からかへたいと思ふからで、自分をかへると人をも動かさうと思ふのであるが、實際動かさうとしても人は動かぬ。それで、大我と交通しやうとするのである。ここにあきたらぬと思ふのは、即ち無限、完全、自由、偉大を望んで居るからである。この精神的価値、精神的美を求めて居るのである。

これを求めて得られぬ時には、美術を見て心を慰めると云ふ様になるので、宗教とよく似て居て、即ち無我となるのである。宗教の結果も無我になるのである。道に達したものは人の為にすることを喜ぶと云ふ。音楽や美術は、無我の境に入ると私心を抱かぬのである。人間はそれに最も喜びをもつて居るので、一番楽しんで居る時である。精神的美の善を見出だされぬ時には、美術上の美で慰める時がある。真理や専

門の學術を研究して、自分を没して楽しんで居る時がある。兎に角、何か自分を忘れるものを望んで居るのである。其の為に種々苦しむのである。

[人になくてならぬものは善の満足である]

人間と云ふものには善と云ふ方面に満足を得たいと云ふ願望が盛んである。而して人間になくてならぬものは、善の満足である。あらゆる人に必要であつて、之れが心の眞の要求を充たすものである。如何なる境遇に陥つても泰然として、安んずることが出来るのを望んで居るので、それを得るのがお互が勉強する目的である。中々むつかしいことで、話したからといって直ぐにわかるものでない。体操や裁縫の様に教へることは出来ぬ。物の観念は与へることは出来るが、精神的生命は教へることは出来ぬ。只臆しながら暗示を与へるのみであるから、皆さんは経験を積まなければならぬ。しかし話を聞き、本により求めることは出来ぬが、無益のことではない。之れもせんければならぬ。如何にして得られるのであろうか。

[德育主義について]

宗教上、道徳上の信念が衝突して居るから、宗教主義と德育主義とに分れるであらう。

德育主義の人は確信と云ふことは言はなかつたが、現今では確信を得なければならぬ。確固たる信念を養はねばならぬと云ふ様である。只、徳目だけを挙げただけではいかぬ。疑ひなき信念を与ふべきである。そして、德育主義はそれと云ふことが出来ると言ふ人と、それはどうしても宗教主義に譲らねばならぬと言ふ人とある。兎に角、信念を得なければならぬと主張する様になつた。

[信念について]

皆さんも確固たる信念の上に一生を送りたいと言ふが、其の信念と云ふものはどんなものであるか。信念と信仰と同一意義に使はれるが、実は違つて居るのである。英語で信念とは Belief と言ふので、信仰は Faith と言ふのである。

東洋では普通に信念、信仰、信心、帰依とか言つて居る。信念とは、事物並びに広い意味の真理に対する所のもので、事物の存在、真理たることを受け入れることである。

[朴素的信念と批判的信念とについて]

これには批判的と朴素的とある。朴素的信念は普通の信念で、単純な信仰である。心理学で知覚と云ふのは一種の信念である。

哲学者は、我れは考へる故に我れはある、といつて居るのも一つの信念である。人間の野蛮時代や小児の時代は、信仰的動物である。小どもは成人が不思議と思ふことを話しても皆實際あることだと考へ、嘘だと教へるとそうかと信ずると云ふ有様である。雷を想像した絵草紙についても、本当のことと信仰するのである。この様に人の精神は信仰する様に出来て居るのであるが、経験を積むと一緒にそこに疑ひが起るのである。子どもは事件についても信仰する。実在すると思ふのである。雷が実在して、事柄をして居ると信じて居るのである。即ち子どもには、見たものと実在するものとの差が少ないのである。雷の絵と雲の上の有様と同様に思つて居るの

である。誠に初歩な信仰である。それが経験と人の話により疑ひが生じてくると、今迄雷は絵草紙の通りだと思って居たが、電気に陽電気と陰電気とあって、その作用によって音が生じ光りが起るのである。しかし光りの速力が早いから、音の方を我々は後に聞くのであると云ふ様な理由のあることを聞いて、それを信ずると云ふのは批判的信仰である。初めの間は反省せぬ無垢の信仰であるが、漸次、理由によって信ずる批判的信仰に進むのである。批判的信仰が起ると、事物ばかりでなく真理と唱へるものに対しても信仰をもつようになる。学説の出るのもそうである。小どもの時は太陽が動いて居るのだと信じて居たが、それは全く地球が動いて居るのであると、天文の地動説と云ふ学説を信ずるようになるのである。小どもの成長するに従ひ、世の文明に進むにつれて、無形の真理を信仰するようになるのである。

#### [情緒的信仰について]

学術上の信仰は以上述べたやうであるが、情緒的信仰と云ふのがある。これは理由を明らかにせぬので情緒がまじり、かうなくてはならぬと信ずるのである。例へばマホメット教でホーマーと云ふ人がアレキサンドリアの図書館を焼いて了つた話がある。何故焼いたのであらうかと云ふに、此の人はマホメット教の教理を含んで居るものは有益であるが、其の他のものは有害であると思つて焼いて了つたのではあるが、其の時は何故焼くのであるかと云ふ理由は考へたのではない。只コーランが最もよいのである。マホメット教に関せぬものは焼いてもよいと情緒でしたのである。此の様に信念に感情の交ることがある。以上述べたことは働きのみであつて、これで確信を得る助けにはならぬ。

#### [信仰について]

信仰と云ふと、未だ見ぬものを信仰するから未来の様であるが、学術上より考へると過去、現在、未来に関係して居るのである。神功皇后が三韓征伐をせられたことは歴史により信ずるのである。即ち、歴史家の証明によつて事件を信ずるのである。来る十二日の観艦式に行幸あらせらるゝと云ふことは、未来に於て信ずるのである。現在校長は紐育に居られることは信ぜられる。三つとも信仰が出来るのである。宗教上でも此の過去、現在、未来の信仰があるのである。信念には實在の観念がある。これは大切なことである。即ち神功皇后の三韓征伐は事實の實在を含んで居る。十二日に横濱沖での観艦式に行幸あらせらるゝことは實在となつて表はれることを信ずる。校長は紐育に實在して居ることを信ずることが出来るのである。経験と符合する、或は調和することが大切である。即ち、経験と矛盾せぬことである。経験と符合するものか、又は経験上より考へて調和の出来るものでなければ信ずることは出来ぬ。

調和的の神があると云ふことは信ぜられぬことはない。無形ではあるが、精神が無形のものであるから信ぜられる。真理を受け入れるのが信念である。事物並びに真善美は信仰することは出来る。神の實在することは宗教上では出来るが、これだけでは信仰とは言はれぬのである。どうしても信念だけではいかぬ。信仰がなくてはならぬ。

#### [自力教と他力教とについて]

信仰とは、他と我れとの関係である。即ち、自我が他我に対する関係である。自分と其の人とを一致することである。自我を他我に没し、服従せしめるのである。これが二つにわかれて居る、離脱すると云ふには、他我に委ねることであると云ふ浄土宗の様な他力教がある。自分の力ではいかぬと云ふので、神仏の力で救はれるのである。宗教では帰依すると云ふ普通の信心である。禅宗では大悟徹底して涅槃に入ると云ふが、之れは自力教である。耶蘇教では神の心を心とすると云つて居る。神の大なる力に任すと云ふのは他力である。私の考へでは、自然の不完全な人間と大我と合して、そこより力を得ることは確かであると思ふ。完全と不完全とよると完全の力がきて、不完全が完全になるのであるが、此の場合大我が減じて小我に入るのではない。靈の力をもつて居るものの根本は限りがない。即ち無限である。完全と不完全と交通して居ることが宗教である。即ち、完全より力を得つゝあると信じて居る所が宗教である。自分に力を与へてくれる、取らねばならぬと思つて居るのが信仰である。神あるのみでは知である。神の存在の学説を信仰して居るのでは、宗教哲学がわかつたので、宗教がわかつたのではない。そのものによつて居るのが信仰である。信仰をもつて居るものは宗教的生活をして居るものである。

[我々は生涯を通じて神と交はることが大切である]

宗教生活に入つても、すぐ偉大にはなれぬ。成長せんければならぬ。皆さんは信念を得るのも大切であるが、信仰を得なければならぬ。宗教哲学がわかつて宗教の門前に来たので堂奥に入つたのではない。しかし堂奥に入るには必ず門前に来らねばならぬ。堂奥に入るには経験によらなければならぬ。之れは言ふべくして、むつかしいことである。仏教も耶蘇教も説明が違ふが、生命は同じである。即ち門は違ふが、堂奥は同じである。セントとか日本でも高僧と言はれる人々が感化を与へ、私心を没し、公平に、積極に人を愛すると云ふことは同様である。我々は何処かの門から入らなければならぬ。先づ物の道理を明らかにし、宗教哲学、其の他の宗教上の本をよみ、結局は生涯を通じて神と交はることである。宗教と云ふのは不完全の我れと完全の我れとの交通である。大我に触れて居ると知つたならば、宗教生活をして居るのである。

宗教哲学をよむなどは遠いことであるが、近道は良心の命に従ふことである。良心の声は神の声と聞いてもよい。感情の静まつた時に反省すると、心の中は公平な判断をする。口には心に反対したことを言つても、正直な心は貫けて居る。哲学をよむより手近い。そして、不思議な力のあるものは、我々が悪いことをしやうとしても、反対する力がある。此の力が神の声として聞くことが出来るので、之れによつて我々は進むのがよい。正直に働くことの出来るのは、此の良心のまゝに動くからである。

[神に交はる第一段は良心に従ふことである]

人間自身の精神を裸体にし無垢な所を見出だすと、神を見ることが出来ると思ふ。之れは虚心平気で考へて居る時の良

心である。神に近づく初歩は、良心に従ふことである。神に交はる第一段である。どの宗教でもそうなるであらう。良心を眼中に置かずして道に達することはないであらう。昔から道は遠きにあらずして近きにありと言つたのは、これであると思ふ。

[宗教に触れて欲しい]

簡略に話したが、皆さんの中にはこの様なことを考へて居らぬ人があるかも知れぬ。すぐにわかると云ふわけにも行かぬが、兎に角、宗教に触れることは望んで置く。

[参考書について]

姉崎博士の宗教と哲学が参考にならう。しかし道理の方面のみであるから、宗教の生命は得られぬかもしれぬ。釋迦や耶蘇の伝記及び教訓に直接ふれるのが入門の一であるが、即ち人格に触れることが大切なのである。耶蘇の説を人格より離すことは出来ぬ。人格の表はれである其の伝記が大切なのである。何等かの信仰の理由が必要である。従つて哲学も必要であるから、参考によむのがよい。根本宗教、日本仏教、活仏教などある。

[信念のある生活が最も満足し得るものである。此の経験をして欲しい]

苦心惨憺して居るものには一寸話を聞いても開けることがあるから、苦心しなければならぬ。熱血を注いで苦しんだ経験のある人には早くわかるのである。何事も感じなく過ぎた人は、志を立てゝ居るか、眠つて居るか考へなければならぬ。

日頃苦心して居るものには、意識的にも無意識的にも開けることがある。何か信念のある生活が最も満足が出来やうと思ふ。皆さんの苦心により実際に経験するより外ないのである。それが縁が違ひと思ふ人は再考してほしいのである。

私の知人の令嬢が臨終の際に、父母達は此の世を去るなら安心させたいと言ふので、耶蘇教信者を頼み種々の話を聞かせやうとしたが、耶蘇教は嫌ひだといつて、頑固にも遂にその親切を斥けて了つた。此の話をきいて私は、死ぬ時まで曲つて居てはいかぬ。安心して居ますと一言言へばよいのであるのに、只世の中のことに迷ひ、道を聞くことを嫌ふのは、誠にこの令嬢の為に気の毒だと思つた。

今日の教育を受けたものは、広い心をもつて親切を受けるだけの修養がなくてはならぬ。求めて宗教的生活に入らねばならぬ。私は何も耶蘇教や仏教を信ぜよと言ふのでもなく、又信ぜぬでもよいとも言ふのではないが、兎に角、宗教生活には、耶蘇教と仏教とは二大宗教として尊ばれて居る。

[宇宙の生命に触れることが大切である]

宗教は人心の違ふ様に万人が万人違ふと云ふが、宇宙の大我に接して居ることは同一であるから、是非とも此の生命に触れることが大切である。つまり志を立てゝ宗教生活に入ること大切であらうと思ふ。

[中表紙]

大学部二、三年の御話

大正元年十一月十三日

大正元年十一月十三日

大学部二、三年生のために

(講話者不明)

此の前、一、二回と続いて、今日の所謂思想とはどんなものかを四つ挙げて、修養上に應用するよ一に話し、事実に訴へあなた方の心に訴へるつもりであつた。この前の自然主義、理想主義、實用主義、實在主義につき委しく述べよ一としても、今年中も一時がありませんから、これはわかつたものとして、先づ事実に訴へ、自分共の心に訴へたいと思ふ。

[物質文明の発達]

自然科学が発達して以来、物質文明が盛んになつて、その影響として種々の思想を生んだ。今日それが新聞にあらはれる。今日の新聞を読むと墮落を思はせる。新聞開りを見ても文明が顔面や叫声にあらはれて居る。ヒステリー的である。彼等は肉の生命を繋ぐがために、そんな容貌をして居るが、其の買ふ人の心を写して居るのである。みだしや広告も普通では人の注意を引かない。大きく又特別なことをしなければ、人の心を刺激することは出来なくなつた。之れ、物質的文明の反射である。

[精神的文明]

ロンドンに於て毎週一回出る新聞に、社会の暗黒面ばかりを書いて居るのがある。之れを見ると西洋は殆んど墮落して居るよ一に思はれる。其の反対には、快樂主義が行はれて居る。併し深く精神界を探つて見ると、非常に善良の方面がある。その事実を紹介したいと思ふ。このよ一な精神的文明があるので維持されて居るのである。

英國のホックストンマーケルトに、キリスト教伝道会、及び貧民学校と云ふ会がある。食物を得られない子供に、毎週、一万人を二年間養つて来た。一年に数千人に靴、衣服を供給して居る。此所には亦、無職者に職を与へることもする。この会長は無給である。その人は財産はあるのではない。併しこの忙しい中から他の仕事に従事し、自分及家族を養つて居るのである。欧米で公園生活を見るが、日本人は悪い方面ばかりを見る。英國に於ては社会党が来て演説をする。其の他、政治家、宗教家が演説をなし、精神界を救はんとして居る。或人は嘲弄的に聞く者もあるが、之れがため精神を入れかへるものが沢山あると云ふことである。

[青年会の起り]

西洋ことに米國に於て、社会道徳を維持し、男女の墮落を救ふて居るキリスト教青年会がある。今日は米國に頗る発達し、盛んに活動して居るのである。

この会の起りには珍らしい話がある。最近この会につき調査した所を見ると、この会は世界四十八ヶ國に八千ある。会員は百万人許り居る。この中、千三百は自分の会館で、他は借家である。其の所有の家価は總計一千六百万円である。もと、これは英國で起した事業であるが、かく世界に広く行

き渡るよーになったのである。

その最初の起りの珍らしい話と云ふのは、英國の田舎に誠に体の弱い子供があつた。其の子が枯草を車に積んで帰つて来たときに転げた。これを見た母親は、とても弱くて百姓に堪へぬとて、町に送り出した。この母親は実に柔和な、快活で愛嬌に富んで居つた。この子は母親に似て居つた。彼はブリッチオーターと云ふ町の商家の小僧となつた。この店の番頭は精神がよかつた。教会にも行きました。この子は始めてこんな教会に出て、牧師の話を聞いたのである。其の牧師は今日、名は残つて居ないが、其の子供に非常な感化を与へたのである。人間のなすことには善と悪とあつて、一つは上り、一つは下る道であると教へた。子供は一心に考へ込んだのである。

#### [ジョチ ウイリアム]

この人が、後に有名なジョチ ウイリアムスとなつた人であるが、彼はこの店から転じてロンドンのラッドゲートヒュートと云ふ町のヒチコクと云ふ呉服店に行き、雇つてくれる様にしたのだ。一度は、体が小さくて困ると云つて断つた。しかし、人はよいからと云ふので、使つてもらふことになつた。(当時彼は十七歳)この店には、前の店と違つて番頭も多い。この青年はど一かしてこの店をよくしたいものだと思つて、祈つた。彼は、人間に最も大切なことは品格と云ふことで、第二に神から力を得ること、第三に之れを得るには祈りであると云ふことを感じた。これが彼の信仰ヶ条であつた。彼は其仲間の中に、共に祈る人を求めた。遂に十二人を得たのである。これは思はしいと思ふ人を祈る。かくして、一人宛多くなつたのである。三年の間には遂に、クリスチャンでないと云ふことが恥のよーになつた。主人をも改めんければならぬと云つて、皆んなで祈つた。主人は教会の世話役であり、クリスチャンであつた。併し十二人のものは尚足らぬ所があると云つて祈つた。而して一生懸命に店のために働き、三度の食事に三十分しかつかはぬ位にして働いた。然るに主人は、これを生意氣だとして非常に立腹をした。ウィリアムス氏をよんで其理由を聞きまして、所が、あなたは心を改めんければならぬ。それから、この店の中に今までどんな悪いことがあつたか、あなたは只うはつらばかりを見て居るからいけない。只人を奴隷の如くに使ふ。ロンドンの店の悪いことを挙げて、忠告をした。所が主人も大に感じ、番頭を悉くよんで、方針をかへるから働いてくれと頼むよーになつた。これは極めて単純な信仰であつたが、三年間に主人迄もかへた。之れは余程、精神を練らねば出来ぬことである。彼は又、ロンドンの呉服店丈けでもよくしたいと思つて、バレンテンと云ふ同僚番頭とはかつた。そしてロンドンの橋上を渡つた時に天を見ると、曇つた間から月がかすかに照して居る。下を見下せば煙突から煙が出て居る。かゝる光景を見て大に感ずることがあつて、互に助け合つて、ロンドンに於ける呉服商の青年丈けでも救ふと云ふことに決めて、夫々手紙を出したりした。皆んなが集つて来て、いろいろの話をした。1844年に多くの番頭、主人が集つた。ウィリアムス氏は会長の席についた。彼は愉快な態度で話をして、話を纏めた後、部屋を借り協議をする所を

設けた。これが漸々成長したのである。この会が即ちキリスト教青年会の起りである。

ロンドンでは今でも、田舎から出た青年で宿を持たず、さもない生活をして居るものが六十万人も年々ある。今日ロンドンあたりの商館では店に一つの倶楽部を設けて、種々健全なる遊戯が行はれるよーになつて居る。それで、特別に設ける青年会が微弱となるのである。併しこれは必要である。今日はむしろ米國に於て盛んである。

彼が四十一才のときにヒチコクの商人の主人が死にました。それで、番頭などがよつて相談の結果、其の娘をウィリアムにめあはし、其の家を継がせた。これから大に其の店が發展をしました。其の嫁も家庭の教育につとめ、儉約と云ふより吝嗇的に子供を育てた。何のためにかくするか。これは人のためにするのであると教へた。

彼は死ぬる迄、三十九の慈善会の会長をして居つた。今日半どんと云ふことがあるが、この人が始めたことである。始めはこれに反対した人もあつたが、彼は先づ自分の店に実行した。これが自然と押し広まつて、遂には其の恩沢に感ずる様になつた。又、労働時間を減じた。

彼は1905年に86歳を以つて死んだ。其の日丈けに来た弔辞丈けでも、一万通あつた。其の後聞き伝えてよこすのが続々来て、三ヶ月に渡つたと云ふことである。ピクトル ウイリアムからナイト(日本の男爵)を贈られ、其の屍はセントポーロ寺院に於ける、ネルソンの墓のわきに葬られたのである。

今日欧米で男女の青年会がある。これは実に有益なことである。日本では余りしてない。これは日本の社会が欧米の社会とは違ふから、なかなか六ヶ敷いのである。日本などでは形式的に館はあるが、其の実はないのである。その点に於ては、救世軍に感心して居る。又、ヒウプライスヒウスによつて立つて居るクリスチャン ミッションは頗る盛大である。これは青年会のよーな仕事をして居る。これには雑多無量の人に、出入する。非常にロンドンに於て精神的の事業をして居る。このよーな仕事をして居る其の中に、どんな精神が流れて居るかを知らないのである。我々はこの精神に触れて行かんければならぬと思ふ。

#### [生命は生命を生む]

ロンドンなどの盛んな所に行くとき非常に腐敗して居るが、一方には非常に立派な精神が流れて居る。これを見なければならぬ。生命は生命を生むので、抽象的の理屈では出来ぬ。形式は何でもよい。この生命に触れ、生命を生まんければならぬ。お互は未だ生命に触れることが出来ない。近世の西洋に於て、其の生命に触れて居る所を紹介したのであるが、これに依つて得る所あることを願ふのである。

私は最初に道理を述べて、こゝに入るつもりであつたが、始めに言つたよーな訳で事例に移つたのである。私の説は、信仰、確信と云ふことは左程深い知はなくても出来ると思ふ。併し學問をなすものには相當に道理が必要であるが、今日は事例を話したのである。私の話に限らず、こゝに云ふ精神上の話に触れて貰ひたいと思ふ。

[中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十一月十六日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十一月十六日

松浦先生

[人間は如何なる地位を占めて居るか]

一人間は何なる位地を占めて居るであらうか。上には所謂、神がある。下には下等動物がある。人間は其の中間に居るものであらう。神と云ふものは靈よりなつて居るが、下等動物は靈と見るべきものがない。人間は半分神で、半分は毛物である。即ち、神と毛物との中間に立つて居るのであると思ふ。

人の心の中を調べて見ると、よくなれ、高くなれと叫んで居る力があるかと思ふと、低くならんか、悪くならんかと下にひつばる力がある。即ち一方に善があり、又一方に悪があつて戦つて居るので、我れ我れは其の何れかである。一日の中にでも少し上つたか又下つたかで、留まつて居ることは瞬間もない。故に、警戒せんければならぬのである。せめて留まつても居るならばよいが、留まることは出来ぬのである。急な坂道の様のものである。上に登るか下に落ちるか、何れかである。

[人間と毛物との違ひについて]

今日は神、人、下等動物の三つについて話ませう。大体毛物と人間とは、何所が違ふかを話して見やうと思ふ。理学者の言ふのと、哲学者の言ふのとでも解釈が違ふであらうが、それを話すつむつかしくなるから、先づざつと考へると、毛物には進歩と云ふものがないけれども、人間には進歩がある。しかし毛物の知には、人間も劣つて居る所がある。かの蜘蛛の巣を作るが如き微妙なる点に於ては、進歩した科学力も及ばぬのである。鳥類の巢、虫類の如き、到底人間には真似をすることが出来ぬが、百年前の蜂の巢も今日の蜂の巢も何の變化もないのである。犬も猫も進歩が見えぬ。人間は其の間に驚くべき進歩をして居るのである。

動物の知は本能である。本能は器械的である。幼児の乳をさぐりて飲むなどは教へることは出来ぬ。又、之れは教へなくても自然本能でするのである。人間には此の本能以上の働きがあるが、動物には本能のみしかない。進むと云ふのは今あるのに満足せずして、よりよいものを慕ふことで、即ち理想を作るのである。そして現在より、よりよいものになりたいと願はねば進歩せぬのである。此の考への中には将来のことが含まれて居るのである。毛物には現在のみで、将来のことは考へることなしに生活して居るのである。即ち現在の欲望さへ充せば満足するのである。例へば一匹の犬に二、三匹分の食物を与へても、残して置いて後に食べやうとせず、一度に食べて了うと云ふことなども、矢張り現在より外の考へがないからである。人間の中にも、やはり動物根性がある。新聞などに貧民の有様などが出て居るのを見ると、彼等は儲けただけ一度に飲食に費してつひ、明日のことなど考へない

と云ふ如きは全く貧民根性で、即ち毛物根性である。所謂毛物に近い人間である。しかし普通の人間ならば、現在のみならず将来のことを考へるであらう。過去を顧み、将来を慮つて計画を立てると云ふことは、何人もかはりはないであらう。

皆さんは小さい物の道理のわかる様に、頭脳を磨き立派な人間にならうとして、立派な道徳を養はなければならぬ。その考へがあると、自然、自己の研究心が起る。之れが人間の進んだところである。考へる方法は、兎に角自分が研究することは大切である。自分は如何なるものなるかと考へて見ると、弱い、そして浅はかなものである。小さく考へて見ると、欠点も多いが、夫れを知らうとせぬ為と、一つには眼が眩んで居るのでわからずに過して居る人もある。

[人の性癖について]

人の欠点、即ち癖にはいろいろあらうが、よく表はれるのは嫉妬心であらう。之れは自分と同等の人間に起るのである。自分よりも優れたもの、又はずつと劣つたもの間には起ることが少い。此の心が起つた時に、深く反省しなければならぬ。次に怠惰心が起る。高慢心が起る。虚榮心も起る。数へあげるなら際限がないが、人間には實際色々な性癖は必ずあるものである。そして、この癖がしみこむと中々直らぬもので、遂には無意識に出るものである。しかし、頭の幼稚な時代に入つた癖なら、幼稚な時代にすぐ直す様につとめたならば、直らぬこともない。皆さんはまだ頭が固まつて居らぬが、日一日と良習慣も悪習慣も固まりつゝあるから、恐ろしいので注意せんければならぬことである。

皆さんは自分の悪癖を直さうとするのも一つの方法であるが、又一方には、よい徳を養はうとするのが大切である。人に親切をしたいと思ふのは、人に対しての徳である。自分の友や知人にのみ親切では足らぬ。勿論、此れ等の人等にも親切でなくてはならぬ。果して自分は何人にも親切が出来るかどうか考へて、自分には出来るだけはいかぬ。もう一段進んで、敵に対しても親切が出来るか、又、自分の嫌ひな人に対しても親切が出来るか。それが出来たならば親切の極度に達したのである。

[フランクリンの修養法]

そこまでに到るには、余程の修養が必要である。私共が親切心を養ふにも、先へ先へ考へたなら十分考へるだけの余地がある。悪癖を矯め、良習慣を養ふには、彼のフランクリンの行つた様に、徳目を作つて置いて、それによつて修養するのも一つの方法である。参考までに申して見るならば、フランクリンは、十三ヶ条の徳目にわけて手帳に記して置いて、修養に勉めたのである。第一 節制、第二 沈黙、第三 規律、第四 決断、第五 儉約、第六 力作、第七 真実、第八 正義、第九 中庸、第十 清潔、第十一 寧静、第十二 貞操、第十三 謙遜、と云ふのであるが、此の通りにせんでもよいが、此の様に自分の修養したいと思ふ徳目を選んで修めて行くのも、一つの方法である。

[人間は神と云ふ状態に入らねばならぬ]

又、他の方法としては、自分の最も弱点を選び修養に勉め、それが出来ると又他の欠点を見つけて専心に矯め、それが出

来ると又次ぎと、一つ一つ片付けて、遂に完全に近づかうとするのである。此れ等の考へはよいが、人間はせねばならぬと思つてするのは、まだいかぬ。せずには置かれぬと云ふ迄に進まなければならぬ。即ち、神と云ふ状態に入つて居らねばならぬ。

[神と人間との違ひについて]

人間には過去、現在、未来があつて、物事に汲々して居るが、神にはそれがないと云ふのが至当であらう。又、換言すれば現在のみであつて、何億年経過しても変らぬのである。神の前には東西の區別、遠近の差異がない。神は時間と空間とに超越して居る。之れが神と人と異なつて居る所である。人間は自分と云ふ紙に包まれるから達せられぬのであるが、吾人の一部分を神の一部分に化して行きたいものである。進化をはかるには、前の方法によらねばならぬかも知れぬが、もう一段深いものであつてほしい。一つの品性を養はうと決心して修養するには、心に理屈を考へて居ただけではだめである。自分の血となり肉とならねばならぬ。現在ばかりを考へて行為をするのでは、動物的生活を送つて居るのであると言つてもよい。過去や未来を考へて修養して行きたいと奮発するのは、人間的な生活である。それを進めて神の様な生活をしたと思ふのである。我れ我れが真面目にならうとつとめるのは、まだ真面目になつては居らぬのである。真の真面目になつたならば、時間と空間とを超越するものである。この徳を備へて居る人を神の様な性格を有して居る人だと言ふのである。

[皆さんが勉強するのは何の為であるか]

人の備ふべき徳の総てを神と同化したならば、恐らくは神となることを得て、完全になることを得るのであらう。人間は総て神に似たいと考へて居るのである。適切な例としては、皆さんが毎日の課業を勉強するのは何の為であるか。一日さへ立てばよいと云ふ仕方なら、動物的生活である。それを卒業する為であるとして考へて勉強するならば、稍未来のことを含んで居るから、少しは進歩した生活である。それをも一層進めて、一生涯の為であるからと考へて勉強する人もあらう。此の後の二つならば、先づ人間的な生活であらうと思ふ。

しかし、これではまだ足らぬ。も一つ深く遠い所に考へを置かねばならぬ。つまり靈魂は肉体と共に滅亡するものではないと云ふことを信じなければならぬと思ふ。私は、肉体中には靈があるものであると云ふ信仰をもつて居る。修養し立派な人にならうと云ふには、靈は永遠に残るものであるから、猶立派にして置かねばならぬと云ふ考へをもたねばならぬと思ふ。人格を磨くと云ふのは、いつまでもあるべき靈を立派にして置かなければならぬのであらうと思ふ。故に靈を信ずるものは、一生涯の為でなく永遠の為であると思ふから、従つて考へが広がるのであると思はれる。自然、勉強の心持ちも違ふのであると思ふ。人間の靈を飽くまで磨かなければならぬと思ひ、自分の心も永遠に自分のものであるから修養せんければならぬと云ふので、深くなるのであると思ふ。

[皆さんが修養するのは何の為であるか]

皆さんは修養すると言ふが、何の為にするのであるか。人の為にする様な考へではだめである。しかし自分の為にする

と思ふのもつまらぬ。今日此の修養をして置けば卒業した時によからう、一家をもつた時に助けになるであらうと考へる位では、まだまだ浅いものである。真の修養をして居るとは言はれない。

次に、人としてなすべきであるからなすのであると考へなければならぬ。しかし、人道であるから勉めなければならぬと考へたのでは、まだ深くはない。一体、之れはなすべきものであるからなすのではいかぬ。なさざるを得ざるが為になすのであると云ふ様にならなければならぬ。したくてたまらぬからすると云ふ様になるならば、神の生活に入る時であらう。

要するに、我れ我れが悪い癖を矯め、善い徳を積むに、如何なる所まで行けばよいかと云ふことを考へて見ると、前に述べた様なことである。真面目と云ふことがすらすらとして居ると云ふに至つて、本物である。そうならぬものは修養が足らぬのである。兎に角、或る事に於て一部分でも神の性質に入つたと云ふ所まで行きたいものだと思ふ。我が物として徳と自分と何れかと云ふ様になつてこそ、初めて実践倫理の目的が達せられたのである。究極の目的は、そこまで行かればだめである。

[目的は遠きに置き、実行は近きより始めよ]

私共十二人のものが、京都の同志社を卒業して出る時の告辞の眼目は、目的は高く遠きに置き、実行は近く低きより始めよと云ふのであつたが、私は忘れることが出来ない言葉であると思ふ。理想が実現されなければ空想であつたのである。日一日と近づかねばならぬ。一步たりとも進んで行かねばならぬ。理屈がわかつたのみでは何にもならぬ。実行をせんければならぬ。第一、近い寮舎又は家庭で行はなければだめである。小実行を積んで、漸次或る物を自分のものにせんければならぬと思ふ。

[中表紙]

大学部二、三年の御話

大正元年十一月二十一日 \*

\* 注：本文の日付と一致していない。

大正元年十一月二十日

大学部二、三年のために

(講話者不明)

この学校では始めから宗教的精神に重きを置いたが、宗派的と云ふことはさけて来たのである。其の各宗教の真髄を取ると云ふことは誰れしもして貰いたい、何れの宗派に属すると云ふことは奨励しないのである。今日話すことはこの精神で話すのであるから、その積りで聞いて貰いたい。

昔から人間が教はれたと云ふことを言ふが、これは宗派的教義に教はれたのではない。只或る生命に触れて教はれたのである。

私はこの前にキリスト教青年会の起りを話したが、之れに



依つて西洋では、どれ丈け誠の生命に触れたと云ふ人があるかもしれない。メーテルリンクが「人生に於て一番興味あることは不可思議の中に存す」と言つて居るが、実に其の妙味は理屈で説明が出来ぬのである。

私共が考へるには、世の中には凡そ三通りの人間がある。それは善人、悪人、なまぬるい人であつて、この悪人は善人に打ちかへることもある。併し、なまぬるい人は最も困る。これは、悪いこともしないから心に咎むる所がない。従つて、はつきりしたことが出来ない。

曾て佛国の僧侶ベルナードが自分の部屋に居つたときに、「汝はそこに何をして居るか」と問はれた。彼は道を考へて居つたときであつたから、この一語で以て大に感じ、悟りを開いたと云ふことがある。我々お互も實際何をして居るのかわからぬことがある。実業家でも、先生でも、学生でも、勤め人でも、なまぬるい者が多い。これ、一番価値のないものである。

併し宗教に依つて改心した人々のことを研べて見ると、このなまぬるい人が立派に熱心な人になつて居ることがわかる。其の事例として、なまぬるい新聞記者が覚醒の生活に入つたことを話します。

或る十九歳の青年が北英国の方からロンドンに来て、極真面目な考へを以て市外新聞の記者となつた。彼は空想に走らず冷静に考へ、批評的に見る眼識を持つて居た。彼は幼少のとき叔母の厳格なる教育によつて、人となつたのである。彼は宗教生活など云ふことはしたことはない。これは日用品同様位に考へて居た。彼はこの記者の職にあつて、毎週三十段の原稿を書かなければならぬ程多忙であつた。其の上、印刷の監督、校正、売りさばきもしなければならなかつた。故に彼は一度教会にいつたが、この後一度も行かないでもハンカチを落した程の不自由も感じなかつたと云ふことであつた。

彼はその中、一寸した行き違ひからこの社を止められたので、他に口を求めました。一体記者には論説記者、種取り記者、寄稿家、遊聞記者の四種あるが、彼は初め遊聞記者をしたのであるが、漸々用いられて、国会議員にもいつて記事をとつて来るよ一になつた。而して満足をして居た。程なくエドワード陛下が崩御あつてからは、全く記事はこれに関することばかりになつて、彼の仕事はなくなつた。彼は全く困つて自分の従弟の所をたのんで出掛けたが、見ず知らずの所だから、ちつとも見当らない。新聞社について雇つてくれるよ一に頼んだが聞き入れられず、其の息子が情ある人で、其家に一夜泊めてもらった。金を借る訳にも行かず、徒歩にて倫敦に帰つた。彼は困り果てたが、生命にはかへられないから、もとの社の友から二十四銭の金を借り何かを食べて、其の夜は牛乳屋の小僧の部屋に寝かしてもらつた。

これからは全く零落をして、数週間は毎日町を歩いた。宿はテムズ河の土境である。出逢ふ人の中には知人もあるが、言葉もかけてくれない。クリスチャンで富裕な人でも、情けの言葉もかけてくれない。このときに於ては彼は、この世の中には神はあり得ることは出来ないと思つた。キリスト教は全く偽善の教へであると思つた。或るときに、家も金もない哀

れな女が二人、互に身の上の不幸を語り合つて居るのに逢つた。彼はこれを見るに忍びずとして逃げた。併し之れを助け人もない。一方には大度高樓に住んで居るものがある。故に益々神はあり得ないと思ふよ一になつた。キリスト教が益々厭になつた。

併し彼はこの様なことをしても居られぬと思つて、友達から金を借りかみを買つて、新たに記者になろ一としてたのみ込んだ。併し、お前のよ一なものは日に幾人となく頼みに来ると言つて断つた。彼は非常に失望した。彼はストラックと云ふ最も繁華な町で新聞社も多い。モーニングポストと云ふ新聞社があつた。その看板の上にキリスト教青年会とあつた。彼はこれを見て心中一種の気を催し、試みるつもりで、いかにも横柄な態度で這入りこみました。而して何か仕事を世話して貰ひたいと頼んだ。然るに其の中の青年が非常に同情して部屋に連れ込み、委しい来歴を聞き、其の希望を聞いた。実に其の人の様子がよい。いつとはなしに自分の様子が変わつて来た。こゝにほんとにキリスト教が存在して居ることを発見した。話をして居る中に働きの道を開き、金をくれたのである。こゝに於て彼は元気づいた。而して自分が教へられていつた所は児童の家と云ふ所で、不良少年を導いて居る。其所の人は実に十年の知己の如く親切に話し、給料は前金にしてくれた。其のときから、いつしらずキリスト教の中に生命があると云ふことを見出した。

数日の後、手紙が来た。これは数ヶ月前に田舎の新聞社に雇口を頼んでおいた其の返事で、よい位置があるから来いと云ふことであつた。この人は従来悪いことはしなかつたが、特別によいことをしたと云ふのでもないが、青年会と小供の家にいつたとき自然に善になつたのである。其の人は後に成功してから、こゝに来ることが最も楽しみであつたと言つて居る。即ち彼は、後に人の為につくす立派な人になつたのである。多くの人はこの人の様な境遇になると墮落するのであるが、彼は性質や叔母の影響もあつたであろうが、其の最も原因となるものは、宗教の生命に触れて居る人に接したからである。青年会がなかつたならば、或は死んで居たかもしれない。お互言ふ所の説は何んの役にも立たぬ。幾度その人に接しても愉快に感ぜられる人が最も貴いのである。人生の生命は教義ではない。其の宗教的精神を持つて居る人である。

【教育家と宗教家】

教育界では、到底この人はだめであると思へば捨てゝ了ふが、宗教家はどんな大罪人でも救はうとするのである。こゝ云ふ精神だから、悪人も変つて行くのである。人間はこの深い宗教の根本迄行かねばならぬ。只話をして居ても、うはすべりをして居る。何宗でもかまわぬが、其真髓に触れなくてはならぬ。

金森通倫氏は新神学を始め教義にとらはれて居たが、乃木大将の死があつて以来、彼はその宗教の生命に接して来た。彼は今、人生の生命に接触して居るのである。

今日の哲学を話して後、このよ一なわかり易い話をはなす積りであつたが、この事実が亦貴いのである。今言ふよ一に、不可思議の事実の中に、人生最上の Interest が横つて居る。

故に私は、事実の前に謙遜にならねばならぬ。高尚な道理ばかり研究しても、決して真の生命に触れることは出来ないと思ふ。

〔中表紙〕

大学部二、三年の御話  
大正元年十一月二十七日

大正元年十一月二十七日  
大学部二、三年のために

(講話者不明)

この前も言ったよ一に、如何に深遠なる学理も事実には現はれぬ以上は、人間社会に何を貢献したと言ふことは出来ぬ。知識も非常な力である。欧米の物質文明も之の力である。併し、この知も曖昧であつたならば、それ程有害なものはない。〔今日の教育の弊〕

近頃米国の雑誌の教育心理学を編いて見ると、「米国の教育も進歩したが、こゝに一大欠点がある。之れ、教育された無教育者が多い」と云ふことを言つて居るが、之れは矢張り、未だつめこみ主義の融通のきかぬ学問の弊を言つて居るのである。大に教育の実を挙げよ一として居る米国すら、このよ一である。

今日、日本に於て、大、中、小学校凡てこの通りで、知識が徹底して居ない。それで効力が現はれぬ。女子教育に於ては特に之れに着目すべきである。それで私は、今日漠然たる知識を入れることは悪い、實際上の知識を得た方がよい、事々につき裁決出来ないよ一ではいけない。故に私は、一方に事実をつかまへてせんければならぬと言ふのである。

この前申したことは、事実そのものとして見るときは誠に簡短だが、事実そのものに対して反省して見るときは力あるものである。

宗教上で最も力を得て来る方法は第一番に、己れを全く神に没して了ふ。かくすれば、こゝに生命が生れる。之れは、宗教的实际の真理である。カントの如き大学者でも実践理性と純正理性とを別けた。これ、宇宙間には認識力の及ばぬことが沢山ある。之れ、必要上信ぜざるを得ないから、実践理性を設けたのである。理論を以てしては解らぬ所があるとしたのである。

〔事實は生命なり〕

今日の哲学上の有力なる学者も、カントを抜きにして哲学を考へることは出来ぬと言つて居る。このよ一に、事実が尊いのである。併し必らずしも、知、即ち理論を卑しめるのではない。

私共が世の中を立てゝ居る大方針は、歴史が教へて居る。之れを知るには自然界を知ることも大切だが、人間の経過した事実から将来を考へるの他はないと思ふ。即ち人類の歴史に於て、人間がどれだけの歳月を経たかと云ふに、東洋は4000年、西洋は2000年である。

〔宗教は人間が経験せる事実なり〕

私は、今日の進歩した宗教と人間が蹈んで来た経験とは一致するよ一に思ふ。其の人間の中で最も秀でたるものは聖人である。この聖人に人間は則らんとする。これは事實である。事実、この人のよ一になることが偉いとせられて居る。宗教の教義は種々変つて居るが、其の事實は変らないのである。未来を考へるに教義のよ一であるが、これも人間の経験を除いて考へることは出来ぬ。「生を知らずんば死を知らず」と言ふ如く、人間の経験なくては未来あることはありません。

〔道徳、宗教の一致〕

道徳、宗教には特に事実が大切で、全心全盤を捧げる所に偉い所がある。自分をなくする所に自分がある。この点は宗教に於ても道徳に於ても同じく、人間の生命も自分をなくするよ一にならんければ生きて居られぬ。私共が世の中に元氣よく生きて居ると云ふことは、それだけ筋肉や頭脳を殺して居るのである。呼吸のとき酸素をとるには、自分の中にあるものを捨てなければならぬ。即ち、肺を空にしなければ新しい空気は入つて来ない。故に、一方に活動があれば、一方に死につゝあるのである。故に、大に死ななければ大に生きることが出来ぬ。精神に於ても然りである。

〔如何なる活動が人間に力を与へるか〕

活動のために休息が存して居る。休息それ自身に価値があるのではない。之れは、活動を大にせんための条件である。休息も一定の度を越えるならば険悪の状となる。疲労は険悪の状ではない。併し無活動の状態である程、人間に不愉快なことはない。活動は最も人間に大切である。脳を使ひ、筋肉を使ふことは活動である。

然らば、如何なる活動が人間に力を与へるか。之れ、さきに言つた、人間の歴史によつて見るべきである。人間がどんな活動をしたならば最も満足を得るか。この満足、幸福を誤解すると快樂と同じくなるが、これではない。併し、快樂を全然廃止すべしと言ふのではない。

世界の聖人たる釈迦、孔子、キリストなどのせられた事實はカントの所謂、善意である。之れは人類が異口同音に誉めることである。何故に、人種の別なく之れを貴ぶかと云ふに、善意を実現して居る事実があるからである。善意とは意志の活動、生命を捨てることである。人のために死んで行く、即ち、自分の必要なもの、望ましいものを捨てゝ行くことである。精神は善意に従つて活動して始めて活発である。斯く、学理から説明するより経験に訴へて解くと、たやすくわかるのである。

如何なることが善であるかは、人により、時代によりちがふが、善意を行ふことは、誰れも反対するものはない。其の善意とは他人の幸福を目途として居るのである。人間は人に幸福を与へると云へば、他に之れを受ける人がある。その貰ふ人は、之れでよいかと云ふ矛盾が起きて来る。併し社会はそ一平面的なものではない。非常なる段階がある。方面が違ふからして、自分以下のものに対して幸福を増進して行く必要がある。他人の幸福を進めるとは、単に恵むと云ふことではない。自ら幸福を増進するよ一にしてやると云ふことであ

る。人間は互に思想を通じ、感情を通じ、活動し合ふことを満足とする。之れは、ど一してもなくてはならぬものである。

自分の愛、親切を人に出さなければ、又、自分には入って来ない。併し、これを得んがために人に親切をすると云ふのではない。

以上は誠に手近かなことではあるが、之れが我々日常の行為、精神に、たもつて行くべき大切なことなのであります。

[中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十一月三十日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十一月三十日

麻生学監

女子の高等教育に対する誤解について話して見やう。このことは物の理のわかった人には弊はないが、地方の人で中央のこのわからぬ人は新聞が間違ひのないものと考えて、子女にも其の考へを及ぼすと云ふ所から、深くも考へずに子どもの上にも処置をせぬとも限らぬ。それで今日は、皆さんに誤れる思想について話したいと思ふのである。

近頃、或る一派の人の間に唱へられる保守思想が勢力を得て居る。之れは危険思想の起つたのにも原因するであらうから、或る意味から言へば尤もな話であるが、物は何でも偏すると極端に陥つてうから、注意しなければならぬ。

[女子教育に対する三説]

現今、女子の高等教育に対し三種の説がある。絶対反対論と部分反対論と早尚反対論とある。

[絶対反対論について]

絶対反対論は、如何なる種類の高等教育も又如何なる種類の婦人にも、絶対に授けてはならぬと云ふ説である。西洋にも此の論者のあることは同じである。

[女子高等教育に反対する理由]

何故、女子に高等教育を授けるといふかぬかと云ふに、西洋の個人主義を輸入するからであると云ふのである。第一、女子に独立自営の精神を起さしむること。第二、女子が独立自営の生活には職業に従事するから、自然、男女の間に競争が起ること。第三、そうなると必ず結婚を忌嫌するに至ると云ふのである。第四、結婚はしても子どもの世話や家事の繁雑な仕事を嫌ひ、社会的生活を好むに至ると云ふこと。第五、日本の基礎である家族制度を打破すると云ふこと。第六、つまり終には日本の国家を危くすると云ふことである。此の六つの結果によつて反対論を唱へて居るのである。

[部分反対論について]

部分反対論と云ふのは、一部分だけ反対する説である。

第一、日本は家族制度の国であるから、中流社会の婦人は相当の配偶者を求め、主婦となるのが日本の社会の原則であるから、高等教育は授ける必要がない。高等教育は職業教

育であるから、家庭に居るものには職業教育である所の高等教育は授ける必要がない筈である。従つて一般婦人に専門教育を授ける必要がないと云ふのである。

第二、社会が進歩するにつれて、男女同等の学力がないと互に意志、感情を疎通することが出来ぬと言ふ人もあるが、今日の日本には、それを認めぬ。女子は高等女学校程度で、男子は大学教育でよい。男女の間に思想の高低、差異による不都合はないから、高等教育を授ける必要がないと主張するのである。

第三、種々の事情の為、主婦にならぬものがある。此の特別の婦人の為に独立自営の道を授けるには、専門教育が必要であるが、その為に女子の大学と云ふ様なものを建てる必要はない。男子の大学にでも一緒に入学せしめたならばよいと云ふのである。つまり一般の女子は高等教育を受ける必要がないと云ふのである。

[早尚反対論について]

早尚反対論と云ふのは、教育は国の文化の程度に匹敵すべきものである。経済に余裕のないものが高等教育を受けると、危険思想が起ると云ふのである。第一、今日の日本は貧乏国であるから、却つて危険思想を起す導火線の様なものになるから、高等女学校程度の教育でよいと主張するのである。第二、未だ大学教育を受けるだけの基礎及び準備がないと云ふことである。まだ種々なる説もあらうが、現今、社会に表はれて居る説は、以上述べた様なものである。

エリオット博士の意見に伴つて起つたのであらう女子教育に反対する論者は西洋にもあるから、敢へて怪しむには足らぬが、絶対反対論のあるのは不思議な現象と言はねばならぬ。  
[西洋の潮流について]

西洋の潮流を見るに、漸次盛んになつて行く有様である。勿論国状も生活も異なるけれども、が一、獨逸はプロシアの文部大臣が、今迄女子は聴講生としてあつたのを本科生として入学せしめたり、又プロシアの十大学に本科生を入学せしめる様になつてから、女子教育も盛んになり学生も増加してきて、今日では五千人の学生があると云ふことである。伯林大学にも五百人程あると云ふことである。大学の動植物学の助手に女子がなつて居るなど、中々盛んなものである。

露西亞は学生を佛蘭西に送つて居たが、今日では、首都とモスコウに女子の大学がある。首都には五千人の、モスコウには三千人の学生を收容して居る。実に長足の発達である。日露戦争後、殊に教育の必要を感じて、普通教育などは迅速の進歩、発達を來たしたのである。露西亞さへ此の現状である。英國などは女子教育を論ずるものもない。今日では、既に婦人参政権を唱へて居る婦人の専門の雑誌の English Woman には此の種のこのことのみ書かれてある。

日本には今日でさへ猶、女子教育に絶対反対論者がある。英國などの三、四十年前の思想をもつて居るのである。しかし他の方面に進んで居る所もあるが、大体に於て甚だ後れて居ると言はねばならぬ。

[日本の国是と個人主義]

西洋の個人主義が入つた為に日本の社会主義を破壊しやう

とするのであると云ふが、然らば個人主義とは如何なるものなるかを知らねばならぬ。何故、個人主義が発達したのであろうか、如何なる必要があつたか知らなければならぬ。日本の国是と個人主義と調和の出来ぬものであろうか。之れがわからねば女子の高等教育は解決が出来ないのである。国是と反対するならば排斥せんければならぬ。女子に高等教育を授けるには個人主義が入ると云ふならば、大に考へなければならぬのである。

先づ第一に、日本の国是問題を研究せんければならぬ。彼の五ヶ条の御誓文により、我が国是とせられたのであるが、此の中には女子の高等教育は入れられぬものであろうか。個人主義は女子高等教育の中に入らぬものであろうか。五ヶ条の御誓文中にも、万機公論に決すべしとある。公論とは公の論であつて、日本国民全体がよつて考へた意見によつて決すると云ふのである。此の公論は国会により実行をせられる様になつた。帝国議会は政治に参与することが出来る権利を与へられたのである。一定の資格のあるものが直接に関係して居るので、各個人は代表者を出して居るわけである。普通選挙では、相当の資格のあるものは個人の参政権が認められて居るのである。之れが即ち個人主義に入つて居るのである。

西洋では参政権を得る為に血を流したのである。帝王の専制政治の反動から此の活劇を見るに至つたのである。日本の議會も此の西洋の組織を輸入したのであるから、個人主義が基礎をなして居るのである。

五ヶ条の御誓文中に既に個人主義が入つて居る。現在の政治にも入つて居る。猶御誓文中には人世をして倦まざらしめんことを要するとある。先帝の大御心は察し奉ることは出来ぬかも知れぬが、普通に解するならば、臣民が夫れ夫れ満足して行く様にと云ふのである。個人の特色が暗々裏に入つて居るであらうと思ふ。又、従来の陋習を破ると云ふことも、世界の諸國に劣らぬ様に行かうとするならば、陋習を破る必要もある。即ち祖先が此の地に住居したのであるから、不利益でも不便利でも、他に移住すると云ふこともせぬと云ふ様な陋習は破るべきであらう。即ち、個人個人は自由にすることが出来ると云ふのであるから、矢張り個人主義である外国の文明をも輸入せんければならぬとの意味であらう。西洋は個人主義により文明の基礎の大部分を占めて居ることは争はれぬ。日本の国是中に個人主義を入れることは定まつて居る。政治上にも入つて居ると思ふ。如何なる程度まで入れるべきかは研究すべき問題である。大切な点はそこである。個人主義を輸入した為に、今日の文明が得られたのである。日本は東洋の代表者である。日本は前後を通じて首尾一貫した団体主義の國で、今日に至つたのである。大きく言へば、東洋の文明と西洋の文明とは一致し得るものか得ぬものかに歸するのである。女子教育も、東西両文明は調和一致出来るか否かと云ふ大問題になるのである。

〔個人主義の起源について〕

西洋の個人主義の起源について話して見やう。昔は東洋のみならず野蛮時代には団体主義で、ある部落で嚴重な束縛をうけて脱することが出来ないと云ふ有様で、個人と云ふもの

は頭のない位であつた。人知や道徳が進むと、自分と云ふものを認める様になるのである。団体主義に反対して個人主義が表はれたので、西洋の個人主義はギリシヤに起つた。それがローマに移つたのである。ローマはギリシヤと共に古代の文明國である。ローマはギリシヤを滅ぼしたが、終にギリシヤの文明によつて滅ぼされたのである。中世紀に至り、新にローマ法王により団体主義が起つた。ローマ法王は現在説を主張した。人間は遺伝によつて罪を犯して居るから、如何なるものも罪惡の子であるから、神の力によつて救はれるものである。その権利は法王が有して居ると云ふ新しい説を唱へた。此の法王の説を助ける為にスコラ哲学が起つたのである。之れは教会の権利を保護する為の御用哲学である。そして、盛んに団体主義を唱へて、勢力があつた。此の教会では破門と云ふことを行つたので、追放された人は哀れな生活をしたものである。斯くの如く法王の権力が強くて、一般の人を全く人間の取り扱ひをしなかつたので、個人は束縛されて全然教会に支配される様になつて了つた。此の圧伏を救ふ為に、ルーテルの宗教改革が起つた。これより個人主義が進み、十八世紀頃には、佛國のボルテア、モンテスキューア、獨逸のカント、スピノー、シルレーの如き指折りの人々は、皆人格を主張し始めた。カントは人格を道具にはいかぬと主張したが、大に影響したのである。

英國では、ロツプ、ヒューン等がある。十九世紀にはミル、スペンサーなどが起つて、四方から主張したので、今迄眼中になかつた人格が十八世紀頃から発見せられるに至つた。圧制政治、即ち団体主義に反動して起つたのである。十九世紀頃から実業によつて、個人主義が発達を助けられるに至つた。即ち、平等主義に由つて吾人は平等に幸福を受くべきであると云ふのである。

歐州の文明は個人が特色を発揮した為に表はれたので、全く個人の自由からである。西洋の文明は自由、平等である。之れが基になつて、その上に博愛と云ふことが加はつてくるのである。自由、平等、博愛が西洋文明の特色で、個人主義の表はれである。個人主義は人格と云ふ所にある。個人は人格を備へて居る。人格は意識的で選択し、決定し得るものがある。他人の指揮のもとに動くのではなく、自分が方法を見出して動くことと云ふことが大切である。人格は自己の決定性を有して居る。之れが個人主義に大切である。しかし自分が正しいと思ふ方面に進み、如何なる人の制限をも受けるものであると云ふ様に主張すると、絶対的個人主義と言ふのである。何物にも制限を受けぬと云ふのを無政府主義と言ふのも、此の精神である。個人主義が絶対にまで及んでは危険である。自己決定も大切であるが、極端になると家族制度をも破らねばならぬ様になるのである。個人主義は人格中でも、自己決定及び人々の特性と云ふことに重きを置くのである。特性には危険はない。しかし、特性を発揮するには自己の決定通りせんければならぬと云ふならば、危険である。極端な個人主義は、極端な団体主義と同様に誤つたものである。

佛國のコントは、両思想に走つてはいかぬと言ひ出した。ヘーゲルも個人主義を主張した。此れ等が誤解されて、社会

主義も表はれる様になった。コント等の主張したのは普遍主義であつた。個人を認めると同時に団体をも認むべきであると云ふので、離るることの出来ぬもので、両者とも一体であると云ふのである。而して此の主義は社会に重きを置いて居る。個人は一人で居ては進歩せぬものである。

而して人間は一方に社会性を備へ、他方には個人性を備へて居る。而して人間は社会性を主にして行くべきであると云ふ。国をなして居る時には社会性が強い。例へば戦争のある時でも、自分を守つて国を守らぬと云ふことはない。自分を捨てゝも国家の為に働くのを見てもわかる。

自己実現主義も論の立て方は違ふが、大体同一である。西洋では現今、調和説が現はれて居るが、實際は個人主義が勢力を占めて居る。極端でなく大体は普遍主義でいつて居る。

二十世紀の大問題は、労働問題及び婦人の政治問題である。殊に婦人の政治運動問題は大きな問題である。今日の社会にも色々の弊がある。例へば子どもを健全に育てやうとするにも牛乳の制度を厳格にしなければならぬ。それで婦人が参政権を得て、政治に関係して法律をかへて行きたいと云ふのであるから、いはば婦人の本務からして主張するのである。西洋では、かく権利を得て本務を完うしたいと云ふのである。

要するに西洋の文明は個人主義から起つて、団体と調和して行きつゝあるのである。個人主義に走り過ぎたと思はれることもあるけれども、宗教家、学者、教育者はつとめて調和をはかつて居るのである。大体は個人主義が強いのである。個人が自覚を生じ、本務をつくす為に個人を発揮するのは危険ではない。

私は、此の個人主義を人格的個人主義と言ふ。西洋はこの人格的個人主義である。日本はまだ、ぼんやりして居るが、現今では漸次唱へられる様になつてきたのである。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
大正元年十二月四日

大正元年十二月四日

大学部二、三年のために

(講話者不明)

[女性の欠点]

今日は少し話がわき道に入るよ一だが、この際反省する必要があると思ふから話すが、一体自分の欠点を研べることは教育上おもしろくない。寧ろ長所を知つて進むとよいのであるが、併し皆さんのよ一に大きくなつた人は自分共の欠点を見ることが時に大切である。それで今日は、女性の欠点につき研究して見たい。これは私一個の意見と云ふのではなく、古今の学者の説を引用するのである。

ワイニンゲルやシヨベンハウエルの如き、女性に対して不幸の体験を持つて居る人は、女性の短所を多く挙げ、ミルの如きは女性の味方で、今日的女子運動の基を開いたのである。

「女子の服従」と云ふ書を著し、其れには欠点も挙げてあるが、この欠点は境遇がさせたのであつて女子の本性を悪いとは言はぬ。私共が女子に対しても、其の欠点を見るのである。  
[知的方面]

知の方面から見ると、ワイニンゲルの「両性と性格」と云ふ本に、女子は感覚と感情の区別がつかぬ、考へることと感ずることが区別がつかぬ。これ、女子が感情的であると云ふことを意味して居る。これ、あらゆる女子の欠点の根本であるとして居る。普通、女子は記憶力の点に於て勝れて居ると云ふが、彼は然らずとし、過去の経験が現在に如何様に応用せらるゝかがわからぬ故に、現在の生活許り送つて居る。断片的の生活をして居る。勿論女子には記憶力はあるが、単に機械的であつて、論理的の記憶を明白に持つことは出来ぬ。理由なしに、結論に飛んで了ふ。故に、婦人は計画を立てゝことをすることは出来ぬと。これは悉く真理とは言へないであろうが、多少真理が含んで居ると思ふ。

[女子は情緒に支配せらる]

即、女子は第一、ものを冷静に考へるでなく、感情的に論理を支配して了ふ。教育を受けた婦人は矯正せらるゝが、一般婦人は、そ一は行かぬ。其の感情は常に自己を中心として居る。情緒に支配せらるゝので、情操ではない。情緒とは利害得失に関係した情である。その感情が自分の知性を支配して行く故に、真理に到着することは出来ぬ。ワイニンゲルは女子は同情に充ちて居るものではない。人の悲しみ、苦しみを見て堪へられぬと云ふ情はない。看護婦を見て、それがわかる。なぜなら病人の非常な苦痛を見て平気で居る。が、之れは余り当らぬと思ふ。

[女子は非道徳なり]

ワイニンゲル氏は又、女子は自分の正邪善悪の判断が出来ぬ。故に、罪惡を悟ることは出来ぬ。それで女子は不道徳と云ふより非道徳であると言つて居る。

[女子の虚栄心]

又或人は、女子は虚栄心に富んで居る。故に、ものの真髄に達することは出来ぬ。皮相的なことしかわからぬ。或る人は、女子は独立自頼の心に乏しい。自尊心がない。故に、虚栄心が生れるのだ。即ち女子は外側に重きを置き、内心に之れを求める男子にも之れはあるが、内心からあらはれて来る故に、男子の虚栄心は大きく、女子の虚栄心はこせこせして居ると言つて居る。

[女子と共同事業]

又女子は、共同一致の事業が出来ぬ。一人がことをし始めても、之れを育てるより、寧ろ之れを悪んで立たすまいとするのである。私が七年前、セントリーの博覧会に参りましたが、女子に其の委員が出来て居るが、常に争ひがあつて会議が出来ぬと云ふことを聞いた。米国の如き文明国ですら、こ一である。女子は、こんなつまらぬことのために大切なる価値をおとす。故に女子は卑下さるゝのである。之れも女子の欠点である。

[自他所有の別、明かならず]

次に女子は、所有の区別が明白でない。小盗人は婦人に多

いとワイニゲル氏は言つて居る。又、他人の権利を尊重しないとも言つて居る。私が男女両方の教育をしたが、女子の方が小盗人が多かつたよである。七年間男子教育の間に、僅か一人あつたきりである。或人は、女子は責任の念が薄いと云つて居る。他から約せられたものでも仕遂げることが出来ぬ。学校に於ても、随意科を一度選んだらば之れを続けてせねばならぬ。随意に止めと云ふ意ではないのである。本校に於ても、しばしば見ることである。故に女子に、これがないとは言はれぬと思ふ。

[依頼心強し]

又、婦人は依頼が強いと云ふ。之、婦人が一方に従順、宗教心に化成するものであるから、必らずしも悪いことではないが、単に依頼心だけでは自ら立つことが出来ぬ。自覚心は依頼心に反対のものである。之れは今日、矯正せられつゝあると思ふ。他から何か偉い、力ある話を聞くこと許り要求してもだめである。自ら生きる力が、内から生れて来なければならぬ。女子に、其の中に立派な人格があつて、磨けば光る、たゞけば成るの確信が乏しい。即ち、女子は自分の内にある価値を見なければならぬ。自分の心を掘らなければならぬ。人に依つて居ては、何時迄待つても其期は来ない。

[仕事が正確でない]

又、女子は仕事をなす上に正確でない。纏りがつかぬ。ちやんと役に立つと云ふことが出来ぬ。観察力が鈍い。組織的の頭がないから、考へてすることが出来ぬ。之れは今後、婦人が世の中に立つて仕事をする上に、又家政をとるにも、このものの關係を知つて、有意的にせんければならぬ。

[女子は解し難し]

又ミルは、女子はど一しても自分の本来の性質を、他人に発表することを厭つて居る。何でも秘密にする。それで、ど一も女子には解し兼ねる所がある。

[女子は情実に駆られ易し]

又、女子は情実に制せられやすい。之れ、婦人は感情的であり、利害の觀念に制せられ易い。もしこれがあるとなれば、大に注意せんければならぬ。併し之等の欠点は、女子が高等なる教育を受けるに従つて改められると思ふ。

女子が何故に情実に支配せられ易いかと云ふと、おしつけられて、自分のしたいことは出来ないから、むしゃくしゃして来る。そして嫉妬心や猜忌心をおこした。併し、今後教育をうけられる婦人から、なほされる訳である。即ち意、情及び知の満足を得て始めて、自己的も嫉妬もなくなる訳である。若し、今言つたことが皆さんの中にあつたらば、なほして行かねばならぬ。そして断片的でなく、有機的に考へる。

要するに、婦人にはこれ等の欠点を多少有して居るものとするれば、ど一云ふ所から出て居るか。ど一して、なほして行くか。かく實際に修養して、なほして行かれない。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
大正元年十二月十一日

大正元年十二月十一日

大学部二、三年のために

(講話者不明)

我々は現代の特徴、傾向を知る必要がある。これには種々の分け方があつて、即ち外部にあらはれたると、内部的のものがある。例へば経済、政治、社会の変動は外部で、哲学、宗教の如き思想上のものは、之れは内部の特徴である。この両者は実は離すことは出来ぬ。

[日本の現代の特徴を知らんせば先づ西洋のそれを知るべし]

日本の現代の特徴は何か。先づ西洋に於けるそれに加ふるに、日本の古代の特徴とが相触れて居る。故に、西洋の現代の特徴より複雑である。併し旧日本の特徴と西洋の古の特徴とは、大体に於て極めて似て居る。故に西洋の現代の特徴を知ると、日本のそれを知ることが出来る。故に、主として西洋文明を研べることにする。

西洋文明の特徴として日本に入つたものは何か。複雑であるが、根本的のものを見るのが大切である。日本の前代は先づおいて、維新前後に入つたのは経済の特徴である。其の艦はどんな考へを持つて来たか。通商貿易である。即ち、この軍艦は経済問題のためにつかはれた。通商が出来、日本の内地に外人が入つて、宣教師が内地に入るよ一になつた。この二者は西洋文明の特徴をなして居る。これがそのまゝ日本に入つて居る。

[自然力の利用は引て経済の発展となる]

先づ西洋に於て経済的の発展は、第一に自然力の利用に關係して居る。人間は始め、水や風を使った。筋肉の力には限りがある故、天然の力をかりた。併し、漸次この力が不満になつて火力を使ひ、この火の形がちがつて電気となつた。これ等は自然力の利用である。今日の経済力の発展とは、この自然力の利用の発展である。自然力をつかうよ一になつて、機械をつかつた。この結果、非常に経済が発展した。ワットが蒸気力をつかつたが、これはその前からあつたので、このときに充分つかふよ一になつたのである。而して非常な進歩を遂げた。今日は一國に止らず、世界共通になつて来た。今日日本の経済はロンドンに及び、ロンドンの経済は日本に及ぶよ一になり、世界がながれて居る。経済上の世界的共通がなくば富がふえぬよ一になつた。

[富源保護の政策]

今日、成功とは富を言ふよ一になつた。一國でも富源あらば之れを利用しよ一とする。このよ一になるから国家全体の富を保護するよ一になつて来た。これ、近代的特点である。即、国家の富源を私せぬよ一に政策が起つた。富が激増すると自制力がなくなる。故に近代の文明は私してはならぬと云ふ考へが出来て来た。銘々人間は克己して行かねばならぬ。

[都会の繁栄]

又、近代には都会の繁栄と云ふ特徴がある。之れについて

今日は言はぬが、都会生活を今日の人は望むよ一になった。田園生活は今日の人を満足せしめぬから、反対にこれを尊ばねばならぬよ一になった。

#### [分業の発達]

更に分業の発達。これには労働問題が起り、道徳生活に大関係をもつよ一になった。即ち、労働者の閑暇時間が出来たがため、よいこともあるが、国家人道問題に関する悪い影響もある。之れを如何にすべきか考ふべきである。

#### [経済的共通]

又、世界が経済上共通したと云ふことは、即ち世界的交際が益々発展したと云ふことである。国際的交通を開いたものは通商貿易であるが、其の他に経済上の問題が之れを助けて居る。即ち郵便制度、印刷、運輸、交通、これ等は経済上に関係し、世界的交通を促した。

#### [人種の接触]

今日は、人種と人種が接して来た。しかし人種間の親和は出来て居らぬ。例へば彼の米人と黒奴の如き、今日は之れが未だ甚だしいのである。又、米人が日本人に対する態度の如きも、そ一である。人種学者は、この人種問題を先見して曰く、白人と黄人は矢張り眞の疎通は出来ぬと。或人は、人種互に共通な所があるが、其の心事の表し方がちがうと。併し多数は理解されぬと云ふ。人種問題は直接、経済問題ではないが、之れから生み出されて居る。今日の経済問題は自然力の応用から来て、是等の特徴を生んだ。

#### [科学の応用]

又、科学の応用でもつて、人生を幸福にすることは現代の特徴である。経済、衛生、交通等凡ての方面に應用せられて居る。科学は人生幸福の奴隸となつて居る。

#### [教育の発達 女子の進歩]

今日の社会的特徴の中に主なるものは教育である。これも経済との関係を以て居る。なほ現代の特徴は、女子の進歩と云ふことである。

#### [日本の勃興]

ことに著しいのは日本の勃興と云ふことである。何故かと云ふと、これは現代の世界に大に影響を与へた。即ち、露国をして立憲国とした。又、支那を共和国とした。又、土耳其に革命のおこつたこと。其の他、あらゆる属国が独立の精神を発揮して来た。フリツピン、印度、エジプト、アイランド、これ等の国は、日本の勃興から独立心をおこして来た。其の結果、自由なる自治制を与へることに、英国もするよ一になった。かくて世界は一般に民主主義を喜ぶよ一になり、人民は成可く圧制を脱し、自由権利を要求するよ一になった。

#### [警察力の利用]

又、警察力の利用と云ふことが行はれて来た。之れは、軍隊を以て人民を保護するよ一にする反抗心を起すから、官吏を多くつかつて属国を保護するよ一にした。大隈伯は支那に対し、この官吏を用いて治安を保証することを主張して居られる。この説が漸次行はれるよ一になった。

#### [国際的批評]

次に国際的批評。世界の輿論によつて世界が左右せられる

よ一になった。又、世界中裁々判、これは未だ行はれないが、こ一ならねばならぬ。これにともなつて平和問題が起るべきで、今日は未だ特徴とはならぬが、そ一なるよ一とする傾向はある。

#### [極東問題]

次に極東問題。これ、ことに日本に關係して居る。日本が露国及び支那に対して如何様にするかを見て居る。日本と露、又日英は如何と云ふよ一に、支那を中心として動いて居る。気の早い人は、支那は分割だろ一と言つて居る。

今日、このよ一な現象がある。更に内面は如何。斯くて、日本人は如何すべきか。この中に、特に女子は如何覚悟すべきであるかを追々研究したいと思ふ。

#### [中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十二月十四日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十二月十四日

麻生学監

#### [西洋の文明に命あらしめたものは何であるか]

今日は、前回の続きの個人主義について大体を話して見やう。西洋の文明を命あらしめたものは個人主義である。いろいろな原因もあらうが、根本となるものは人格的個人主義である。

此の主義を起したものは耶蘇教であると思ふ。耶蘇教が欧州に入つてから、人格と云ふことを教へられたのである。耶蘇教の根本は、人には人格がある。その人格は神と同じ性をもつて居るものであるから尊いのであると云ふのである。即ち、奴隸も人間である。無教育者も、野蠻人も、女子も人間であるから人格がある筈である。而して其の人格は、神の形に似せて作られたものであるから尊重すべきであると云ふので、人格は誰れでも平等であると云ふのである。而して茲に平等主義が起つたのである。一言でいへば、欧州の文明の根本は人格的思想である。

人格は各自に尊重すべきものであるから、自分の考へた様にして行く自由がある。それを国家や教会が無道理に圧制は出来ぬものであると云ふので、政治上にも、宗教上にも改革が起つたのである。人には自分の真理と思つたことをして行く自由があると云ふので、學術の研究も起つてきたのである。政治上には憲法を立て、人民に自ら治めると云ふ自由を与へられたので、文学上にも、學術上にも、実業上にも表はれて、今日の文明に進んだのである。

#### [人格的個人主義について]

今日の日本は、人格的個人主義を根本として居る。欧州文明の根本は人格的個人主義の影響であるから、日本は欧州文明を輸入したのであるから、人格的個人主義も共に輸入したのである。耶蘇教からいへば、自分があ一したい、かうした

いと云ふのは個人個人の自由であるが、それも自分が善と信じた所を自由に行つて行くのであつて、それが人の為、社会の為にするのであつて自己主義でなく、博く人を愛して行かなければならぬのである。

人格を備へて居るものに、自分の人格を行ふのである。自分のしたことは自分が責任を負ふべきである。間違はぬ個人主義と云ふのは、斯うならなければならぬのである。東洋流にいへば、身を殺して仁をなすとか、又儒教では、己の欲せざる所は人に施すなど云ふので、斯うなくてはならぬと云ふのである。

西洋の文明の根底は、人格的個人主義であることは前にも述べたが、之れも一利一害であるから誤解してはいかぬ。目的が個人的になつては、普通に言ふ利己的個人主義となるのであるから、排斥せられるのである。欧州でもここが誤解せられる所であるから、困つて居るのである。個人主義が人格的でなく、絶対に自己を主張して、他の権威の為に干渉せられぬと云つて、親の意見も、世論も、政府の支配も干渉も受けぬと云ふに至つては、絶対的個人主義である。無政府主義とか、虚無主義とか云ふのはこれである。神をも信ぜず、只自分の権威や自由のみを主張するのであつて、斯うなつては自滅主義である。斯う云ふ人は、社会の影響に反抗して居ると云ふのは、即ち、社会の或る一種の風潮に支配されて居るのである。絶対的自由を主張しながら、既に自由ではない。善悪共に社会の支配を受けるのである。どうしても脱することは出来ない。之れが嫌ひならば、山にでも隠れるがよい。しかし、ここでも猶支配を受けなければならぬから、結局自殺するより外にないが、自殺そのものも既に社会の影響を受けたのである。

此の絶対的個人主義は、西洋でも一時的の現象として取り扱はれて排斥せられて居るが、一時的であるから、或る方面から言へば社会の業であるが、到底永くは行はれるものではない。一個人でさへ自滅するのであるから、社会全体がそうであるならば、総て自滅するわけである。普通に言ふ利己的個人主義は自分の為ばかりを思ふので、人に親切をしても、自分の為の方便と思つてするが如き有様であるから排斥せられて居る。

#### [現時日本の思想]

日本には絶対的個人主義はないが、人格的個人主義もないと云ふのが輿論である。日本には、人格と云ふ思想も言葉もなかつた。東洋は団体主義で、個人の人格を尊ぶと云ふことがなかつた。之れが欠点であり、又長所である。日本には、団体を尊ぶと云ふ思想はあつた。そこへ西洋の文明と共に個人主義が輸入せられた。それが都合わるくも、利己的個人主義の方が早く浸み込んだのである。一体日本人は団体的精神はあるが、それも危急存亡の時にのみで、平時は至つて利己主義であると言はれて居る。日本人は戦時などには、国家の為、又は君主の為に命をも惜まず尽すが、平常には兄弟が財産の争ひをしたりする様なことはよくあることである。之れは人格的個人主義と云ふものがないからである。他人のも、又自分のも共に人格を尊重する考へがなく、只欲情に敗けて

了うのである。自分の人格を顧みぬ人は、他人の人格をも尊ばぬ人であるに違ひない。日本人の道德上の修養の足らぬのはここである。輸入当時の耶蘇教徒は団体道德を軽んじて、個人のみを重く見たので、一般の人からは別物のやうに見られて居たが、現今では個人の人格を尊ぶと共に、日本道德の団体思想をも加味する様になつたので、世の中に信用を得るに至つたのである。有志家が耶蘇教の真髓である人格的個人主義をとり入れやうとしたが、誤まれて解せられた。

彼のミル、ベンザンの利己主義が、明治十年前後に入つて、実業思想を表はし、即ち西洋でも困つて居る所の弊害のある個人主義を輸入して、眞の生命を入れなかつたのである。今から五、六年前までは、日本人は人格と云ふことを口にはするが、其の味を知らぬといつて居つたが、現今では人格の思想が解せられるに至つたのである。

#### [女子の高等教育と個人主義について]

女子に高等教育を授ける時は、個人主義が入ると云ふのはそうあるべき筈である。それは人格を認めぬからである。しかし、その人格を眞に味はふことの出来ぬ人は、利己的個人主義になることは争はれぬ事實である。女子の高等教育は、西洋の文明を輸入したのであるから、個人主義は当然入る筈である。教育のみではない。

最も団体的であるべき軍事にさへ個人主義が入つて居る。彼の軍人の胸を飾る勲章は、其の人の功績を社会の各個人に認めしめる為である。即ち、一種の個人主義である。総て、政治上にも、宗教上にも、文学、哲学、実業上にも、あらゆる方面に、西洋文明の入つて居る所には個人主義が入つて居る。

女子の高等教育にのみ、個人主義が入るのではない。女子教育に対して保守思想の人は、個人主義が入るからやめよと言ふのであるが、そうするなら、毎日の新聞、又は雑誌にも、個人主義が入つて居るわけであるから、之れらもやめなければならぬ。

#### [文明と個人主義について]

文明と個人主義とは一枚の紙の如きもので、恰も表裏の關係をもつて居ると思ふ。故に文明だけは欲しいが個人主義はいらぬと云ふのは、丁度紙の表は欲しいが裏はいらぬと云ふのと同様で、むりな願ひである。どうしても個人主義を入れて、日本の欠けて居る所を補つて進歩せねばならぬ。

#### [要するに人格的個人主義の活用が必要である]

現在日本には、個人主義の真髓である人格的個人主義も、誤られた利己的個人主義も、西洋でも絶対に排斥して撲滅に力を尽くして居る絶対的個人主義も入つて居るが、兎に角、個人主義の入ることを防ぐことは出来ぬから、人格的個人主義を活用して、他の二つの思想を起さぬ様にせんければならぬ。



[中表紙]

豊明寮記念会の御話  
大正元年十二月十五日

大正元年十二月十五日

豊明寮記念会に於て

(講話者不明)

教育は、ど一しても精神主義のあつたものが集つて出来るもので、只金だけで出来るのではない。この校も多くの助け手があつて出来て居る。而して其の主義を募つて、集つて来たのはあなた方である。故に私共は常に記念をするときには、其の主義、精神を実行上に現はして居るかど一かを思ふ。天下にこのよ一なお方がなければ、諸子は教育を受けられない。勿論一方には父兄からの恩もあるが、一方にはこのよ一な有力家の恩をうけて居るのである。これは一朝一夕に出来たのではない。ある人は女子大学の出来たのは奇跡の如しと言つた。併しど一かはしらぬが、兎に角、苦心惨憺の結果出来た。あなた方在校生の他に、卒業後三年、或は五年、或は其の以上をこゝに過した人もある。この人生の最も大切な時を費し、かゝる一種の特色ある学校に居て立派な人間になれないならば、之れ、誰れの罪でありませよ。もし出来なければ、何の辞を以て答へることが出来ませよ。思ふに、こゝに至れば其の責任の大なることを感ぜずには居られぬ。

何故に、かゝる学校が出来たか。これ、国家、団体は先づ其の家庭から教はなければならぬ。其の趣意に反しては、私共の責任を完うすることが出来ぬ。諸子には之の責任がある。世の中に責任を以て立つ程、幸福なることはない。彼の親や兄弟を見てやらねばならぬ人は、必らずしつかりして居る。産あり、ゆたかな生活をして居る人はなまぬるく感ぜられる。しかし、このよ一な人も日本の現状を思ふて責任を自覚せねばならぬ。

[日本の家庭を清むべし]

且つて本校に來られたロンドン大学の教授 シドニー ウェツプ氏が講演せられた。其の中に「日本は清潔だ。日本では田舎にいつても不快に感じたことはない。併し日本人の家庭生活は清潔でない」と。又、エリオット博士が大阪に於て、廣岡夫人と約一時間話された。其の中に、ど一しても日本の女子教育をもつと高めて、家庭を清めなければならぬ。而して女子に関する演説では、常に好伴侶と云ふことを言はれた。

又、ウェツプ氏は、日本人は小規模である。婦人は常に男子を教育すると云ふことを考へなければならぬのである。日本人は大事業をすることは出来ぬだろ一、と。之れ、急所をうつたものであろ一と思ふ。

ことに男子を教育する上に、規模の大ならしむ様な教育をせなければならぬ。又、キング氏が帰国後、日本のことを論じて居る。その中に、日本人に欠けて居ることは、東洋に欠けて居ることである。それは独立自敬の精神が乏しい。真個に個人個人の価をしらぬのであるから、西洋文明の外形ははいつたが、真は入つて居ない。ことに女子には自敬が必要である、と。

[自己を尊重せよ]

これ等を読んで見ても、日本人が大に奮発しなければならぬ。婦人が之れを尊ぶならば、立派に立つことが出来る。之れは婦人の命である。これが出来ねば、人をも尊ぶことが出来ぬ。これがなかつたら皮相であつて、生命がない。キング氏は、この思想を輸入せなければ西洋文明と対抗は出来ぬ。もしこれを入れなければ、西洋文明に圧倒せられて了ふ。

[西洋文明の真髓を入れよ]

西洋文明は全くこれから来て居る。お互はこの校に来て、同情者に対して尽すに当り、いろいろのことをするが、これが進んで行く本をつかまへなければならぬ。又、之れがあるか否か。成瀬校長が米國に行き、英國に行き、諸子のことを思ひ、今日の日本の状態ではならぬ、婦人がもつと進まなければならぬと思つて居られるに相違ない。私共がこの責任を尽さなかつたなら、二ヶ月後歸つて來られても進歩しなかつたならば、是に尽して下さつた有力者に対して申訳がない。今日、実に本氣にならんければならぬ。明治が終つて、大正になつた。併し、日本の文明は未だ外形で、真髓に触れない。

佛蘭西のルボンの如きは、東洋文明は真似するに過ぎずと言つて居るが、併し吾人は西洋文明の何たるかは少しくわかつて来た。この自敬心を東洋の美点に加へて、皆さんが二ヶ月半に於てつとめられたならば、又この学校を助けて下さつた方に対し感謝の意を表するならば、ほんとであるが、若しこれが口丈けであるならばだめである。諸子は、この機会をとりながしてはいかぬ。常にこの機会を忘れず、この記念日にこの責任があるのである。こゝに聊か私共の精神を述べて、感謝の精神を申しあげ得ることを祈つて、一言申述べました。

[中表紙]

大学部二、三年の御話  
大正元年十二月十八日

大正元年十二月十八日

大学部二、三年に於て

(講話者不明)

[現代文明は吾人に何を示すか]

前に述べたことによつて、ど一云ふことを社会が示して居るか。ど一云ふことを警戒して居るか。又、どんなに反応しなければならぬか。又、将来どんなに進むか。我等は之れに対し、如何にして行くか。而して、お互の行路をきめて行き度い。

[吾人の考ふべきこと (一) 自然力の使用]

先づ、ど一云ふことを我々が示すか。即ち、現代の我々は之れを前代に比して、天然力を自由に使ふことが出来るよ一になつた。

[ (二) 富力の増進]

それと共に、私共は富力を得た。これは現代の特徴である。之れに就き考ふべきことは、富力が増したがために、之

れが社会に公平に分配せられない。第二には、この天然力と富力を使ふ結果、現代人は物質的幸福を増進して来た。之れ、現代人は衣食住を始め凡てが幸福になつて来た。之がため、一方には非常に功を全うした者があり、一方には全く之れに反するものがある。

### 〔三〕労働者の閑暇時間

第三に、現代文明人は、ことに労働者は閑暇時間を比較的余計に持つよ一になつた。先づ分業が起り、同時に機械が行はれ労働時間が減少し、其の労働者の時日も減少した。この閑暇時間が善用されたなら、余程社会を益するであろうが、現代はそ一でない。これを如何すべきか。

### 〔通商貿易等の発達〕

次に通商貿易の発達、運輸機関の便、出版事業の発達から来て、国际上、親密になつて来た。かゝる特徴がよつて、現代を極めて複雑にして居る。

### 〔一國の出来事は世界中に波動を及ぼす〕

現代の各個人は昔の如き単独な生活をして居らない。一國に於ても、他人と密接な關係を以て交際して居るのみならず、世界の個人として交際して居る。現在、我が國に於て、内閣組織の如き誰れが立つかによつて直ちに各國に影響を及ぼす。即ち我が國に寺内が立てば、二個師団を増す。しかすれば米國も戦艦を備へる。かくして人民に租税をとりたてる。各個人は困ると云ふことになる。其他、露西亞にも英國にも凡ての國に響くのである。古ならば一身に係る事件でなければ關係はしなかつたが、今日はそ一でない。これを以て各個人は大に神経を勞するよ一になつた。

### 〔人種の接近〕

次に積極的に個人的生活は世界的になつた。現代の個人、並に國民に相互に依頼し、共力しなければならぬよ一になつた。ことに國と國とが利害の關係を密接にして居れば居る程、協力しなければならぬよ一になつた。學術上、宗教上のことも互に關係して居る。お互に依頼しなければ発達出来ぬ。こゝに於て、國民と國民が障壁をとり、人種は互に協力しなければならぬよ一になつた。近頃は、進んで精神上の交換をしなければならぬよ一になつた。人種は互に理解し、戦を止めねばならぬ。これには互に近く接し、其の文明の根底が那邊にあるかを知らねばならぬ。婦一協會の如きは全くこの趣旨から出て居る。之れ、極めて大切なことである。

### 〔政治上に於ける特色〕

政治上に於ては民主主義、社会主義がある。民主主義は共和主義、或は平等主義とはちがふ。これ、人間は生れによつて政治上及び社会上の権利を異にしない。之れが非常に世界に行はれて来た。共和主義は人民互に共和を主とし、平等主義は民主主義と大にちがひ、貧富をなくするのである。富を等しくする主義である。階級を皆無とするのである。

### 〔自覚の現れ〕

少くとも民主主義が社会に勢力を占めて居る。之れ、個人の自覚のあらはれである。十九世紀は個人を發展した時代である。之れから民主主義、個人主義があらはれた。教育の普及も個人主義の結果である。即ち今日は、四階級均等になつ

た。現代の特徴は以上のことを示して居る。

### 〔現代は何を警告するか〕

次に現代の特徴は何を警告して居るか。上述の六条は現代に対する祝福であるが、の中には危険が含まつて居る。即ち富の増加は著しいが、分配が公平でない。昔とちがつて、富者は益々富者となる。今日の經濟学者は「生産は勞力の結果である。たとへヒマラヤ山の如く富が積まれても、勞力がなければなにもならぬ。勞力の衡にあたる労働者は何を得るか。それは極僅かなもので、もし病を得るならば葉の代にもたらぬ。」これは誤つた説であるが、有名な經濟学者の説である。

### 〔資本主と労働者〕

つまりは今日の富の分配には種々あるが、資本主と労働者の間のことである。若し富が平等なれば、慈善事業はいらぬと云ふ。しかし非常に勞力をつかつて少しく得るものばかりでなく、不道德から来た貧もあるから、そ一様に言ふことは出来ぬ。

歐米諸國に於ては經濟界の変動のために、時々労働者に休みが出来る。こゝに慈善事業が必要である。これは一つは善事なれど、一方には社会の不完全、不道德を意味する。故に、慈善事業は消極的で、富の分配は積極的である。

然らば如何なる条件のもとに富を分配するか。今日義侠心を以て富を弱者に分けるがよいと言ふ者があるが、併しこれは労働者を尊んで居ない。今日、個人が自覚をして居るのに、之れを言ふは愚である。又、労働者も多数を頼んで、ストライキを起すなどもよくない。お互尊敬の念を以て、労働者には給料を多くやるよ一にすると云ふ。これは現代の進んだ説だと云ふが、果して如何なるものかわからず。共産党主政府主義、これ等は皆、富の分配が宜しくないからである。

### 〔幸福の不平均〕

次に、仕事と幸福が分離して居る芸術家が其の仕事に従事するなら幸福であるし、資本主がどんどん金をついで、三割の利を得るなら愉快である。労働者が一日つら目目にあつて貧な生活をして居る。これでは幸福がともなはない。こゝに於て貧人は反感を起す。これ、社会上の危険である。富のみでなく幸福の不平均である。これが社会主義を生み出す。

### 〔理想を卑近ならしむ〕

第三に、現代の文明は人の理想を卑近ならしむ。劣等ならしめる。即ち、現代文明は理想をたかめる余裕がない。常に職業の中に没頭してふ故に、卑近なる満足を得れば足りるとする。朝夕生活に揉まれるから、理想が卑近になる。少しのひまがあつても、神経の疲労を休めるに過ぎぬ。而して後、高尚なことを考へることが出来ぬ。之れが大なる欠点である。

次に、卑近な理想のみならず理想の衝突、並びに従つて、權威を有する理想がない。現代人の都会生活は數多の風俗、習慣が入つて居る。之れも大なる欠点である。

### 〔人種は接近せり〕

次に國際上から云ふと、今日の如く國民、人種の接近して居るときはない。故によく行けば平和になるが、悪く行けば

惨憺たる結果を来す。これも近代傾向の警戒すべき点である。  
[世界は互に同化しつゝあり]

これを如何にきり抜けるかは、政治家の手腕を要するものである。一方には世界各国が互に同化しよ一として、単調に流れる。この頃米国の観光団が沢山来るが、その訳は封建時代の日本が消えると風評せられるからである。即ち、日本が漸次欧米化するのである。又、西洋の意匠の中に日本の意匠のまぢつたものが来る。陶器の如きも其の意匠をとり合つて、お互に同化しあつて居る。

世界が思想、感情、風俗の上にも似て来て、国民の特色がなくなりつゝある。故に、同化する方面はあつてもよいから、あらはるべき方面に大にあらはるべきである。故に各国民の特色を以て新しく進むべきである。一方に個の特色を進めつゝあるが、又、次第にうすらぎ行く。これ、大に警戒すべきことである。然すると、現代文明は吾人に何を要求するか。決して珍らしいことではないが、大切なことである。

今日の宗教家、教育家が熱心にといて居る。第一、経済上の富が増加した。これを相当に活用するには、克己、自製の徳である。これを養ふには高尚なる理想を与へんければならぬ。この必要から近頃は科学万能主義がすたれ、精神主義となつた。之れ一方、克己、自製の徳を作るに根本のものが入ると云ふよ一になつた。この徳が行はれたなら、富の分配が自然に公平になる。

#### [閑易生活の必要]

この徳を養ふには閑易生活が必要である。衣食住凡てを閑易にする。日本で言へば質素生活である。西洋では、生活を閑易にして思想を高尚にするよ一につとめて居るが、其の他の積極的な社会道徳、他人の幸福増進をつとめんければならぬ。今日では、自分の幸福を進めることにのみつとめるばかりではならぬ。商業上に於ても、他人の繁昌は眼中におかぬのではいけない。又、人生的、国民的同情を養ふことにつとめんければならぬ。ことに今日必要なことは、社会の先導者に無私無欲の人がぞくぞくあらはるべきである。之れ、東西同じことである。

更に現代文明の光明の方面がある。それから内部思想、精神界の現代の特徴、お互が如何に警戒すべきかを述べ、現代日本に及び、更に婦人のなすべき所に及ぶつもりである。

#### [中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十二月二十一日

大学部一年及び予科に於て  
大正元年十二月二十一日

麻生学監

日本が古来、政治、道徳にも団体主義をとつていたことは度々話したが、之れから表はれてきた欠点がある。長所もあるが、これは論ずる必要がない。今日は個人主義を入れても

よいかどうかについて話さうと思ふ。

#### [団体主義について]

団体主義と云ふ名称は、個人主義に対してつけられたものである。個人の信仰、行為、思想と云ふものを団体の要求に服従せなければならぬ。即ち、団体の目的に依せなければならぬので、若し之れに依ぜぬ時には団体が迫つて、その思想、信仰、行為を支配して行くのである。団体主義と云ふものは、団体の政治を破壊するものがあつたりすると、夫れを圧して行くのである。故に、団体そのものはそれが為に堅固にされて行くのであるが、個人は思想、行為、信仰を自由にすることが出来ぬ。又、個人を団体の目的に叶ふ様に保護し、教育して行くのである。即ち、団体が個人の自由を許さぬのである。之れが団体主義である。

#### [人格について]

此の主義の欠点は、どうしても個人の自由を許さぬから、いろいろのことが起るので、第一、個人の人格を認めないと云ふことで、個人の人格については種々の説があるが、或る人は人格の要求は自己存在のためであるとも、自己を実現せんとする性を備ふるものであるとも言ふ。又、或る人は自己意識とも、自覚して自己決定をするのを言ふとも言つて居る。この様にいろいろ説き方があるが、人により説は違ふが、兎に角、自分と云ふものを保存し、立派にして行きたいと云ふのであつて、それを自分自身がして行きたいと云ふことは、どの説にも入つて居ることである。

団体主義は総て団体の目的より左右して行くと云ふので、個人が自由に行かうとする方法を講ずることが出来ぬ。それは、人格の大切なることを認めぬからである。従つて個人を憐れむと云ふことはあるけれども、尊敬すると云ふことがない。之れは団体主義の弊である。即ち、個人を尊重せぬのであるから、名誉、生命、財産を維持すると云ふ様な大切な権利さへも認められぬのである。例へば、生命を尊ばずに居たと云ふことは、近くは日本のためしぎりの如きものである。自然、階級が出来て、上のは下のもの的人格と云ふものを眼中に置かぬと云ふ有様である。名誉にしても、人身売買の如きが行はれて居る。財産の如きも、家長が所持する権利をもつて居つたのである。現今では稍自由になりかけて居るのである。

西洋でも家族主義は共産主義であると云ふが、厳密なる家族主義は共産主義であるから、日本は或る方面から云ふと共産主義である。これまでは家長から憐まれて居たものであるが、今日では財産をもつことが出来る。権利を尊ばないから、従つて自己の権利をも主張しないのである。自分の生命は親でもとることは出来ぬ。財産も名誉も同様である。総て家長の命令によると云ふことになる、喜んで服従するのでなく、屈従すると云ふことになる。都合よく行けば従順であるが、通弊としては屈服となるのであるのみならず、表裏が出来て偽善が行はれる様になる。家長及び有力者にへつらひ、自分の利益を全うしやうとするのである。卑屈及び屈従などの弊があるのみならず、家長は家族に対して哀憐の情もある、保護もすると云ふので、一方に依頼心を起さしめることとなる。

長男が家長になると、弟などは長男の恩恵に頼ることとなる如きである。国家なら政府が支配してくれるから、依頼すると云ふ心が起ってくるのである。

家族制度が厳格に行はれると、職業の選択の自由がなく世襲になる。自分自分が適性に依じて考へて行く事が出来ない。つまり個性の発揮が出来ぬから、人物的不経済となるわけで、これは卒業生についても時々経験することである。

団体主義、家族主義が厳格に行はれると、危険な仕事、即ち生命も投げ出して、例へば他国へ行ってする様な仕事も排斥せられると云ふことは、今日でも親子でさへ此の争ひがあるのを見るのも、家族主義の残りである。大きな仕事をするのも危険である。財産がなくなると先祖にすまぬから、よせと言はれる。又、冒険的な仕事をしようとしても生命をなくしたならどうするかと云ふ様に恐れて、とめるなど色々あらうが、先づ之れ等が重大なことであらう。個人を認めず、権利、自由を尊ばずに依頼心を起さしめ、危険なる事業、偉大なる事業を生み出すことが出来ぬのである。之れは個人の人格を認めないから起ることで、この様な弊は有害であるから撲滅せんければならぬ。

[団体主義の短所を撲滅すべきことについて]

日本の文明は団体主義によつて起つたのであるが、短所があるから一日も早くなくならしめなければ、欧米と同程度の文明に進めることは出来ない。之れに伴つて男尊女卑が起るのである。団体主義には治むるものと、治めらるゝものとある。即ち、そこに階級が出来る。従つて服従させるものと、服従するものとある。一家と云ふものには代表者がなくてはならぬ。それは男子で、即ち家長である。そこで女子は服従して行くこととなる。明治初年に大きな階級は打破したが、猶華族、士族、平民などがあるが、普通、法令上には華族も平民もかはりはないのであるが、華族だけは特別に取扱はれて居る。そして団体主義、家族主義の行はれる国には、女子の卑しめられることが起る。私は女尊男卑がよいとも、同等であれとも云ふのではない。只、その間の懸隔が甚だしくて、女子の人格を認められぬ弊があると言ふのである。之れは、日本計りではない。

[今日の日本は如何なる地位に居るか]

今日の日本は如何なる位地に居るか。此の学校の精神は、過去、現在、未来と云ふ本にも書いてあるが、日本の女子は、世界文明に於ける日本の位地を考へて、そこから自己の位地を考へなければならぬ。家庭に居てもよいが、国家及び世界の生命につながつて居らねばならぬ。日本は団体主義の弊を打破しなければならぬと云ふことは、保守主義の人でさへ異論はないのである。以上、私が述べたのも、家族主義を保存すべきであると云ふ人が言つたことであるから、何人もこれを排斥するのに異存はないのである。之れを排斥するには人格を尊ぶと云ふことである。

団体主義の欠点が個人主義によつて補ふことが出来るのである。しかし、個人主義にも短所がある。

個人主義の短所は団体主義で補ふことの出来る関係をもつて居る。そこで、この二つの主義は調和が出来るものであら

うか。家族主義は今日の文明社会には国家を維持することが出来ぬから、絶対に個人主義でなくてはならぬと主唱するものもある。又、一方では団体主義のみでよい。個人主義を入れてはいかぬと言ふものもあるが、之れは頑固な人の言ふことである。

此の学校は人格的個人主義。之れは社会的個人主義と云ふのと意味が同じで、団体的個人主義とも言ふのである。人格と云ふものは半面には団体性を備へ、他の半面には個人性を備へて居るのである。人間があれば必ず団体性及び個人性を備へて居るものである。極端な個人主義は虚無主義と言ふのであることは、前回にも話した。

[人間の満足の出来るのはどうした時であらうか]

人間は社会的生活をして、しかも個人の満足をせねばならぬ。人の大満足は国家、家族どこにでもよい、団体の為につくしたと云ふ時に一番満足をするものであるから、どうしても社会とは離れることは出来ぬものである。真の個人の満满是社会の為に自分を捨てた時であることは、道理上間違ひはないのである。人格それ自身が社会を見渡して、社会、人類の為に働くことが出来るに至つたのは、即ち満足し得る時である。

団体主義とは此の各自の自由意識でもつて社会につくすのではなかつたのである。即ち個人性に重きを置かなかつたのであつた。自主、自由と云ふことは我儘をすることではない。目的は社会的で、其の方法は個人が自由に決定して行くのであるから、責任は個人に負はねばならぬのである。団体主義は全く、人間は社会の為に働いて始めて満足すると云ふことを感じなかつたのである。

団体主義の人も人性を誤まつて居るから、偏頗な主義になつてくるのである。故に人格の人格たる所以を明かにして、社会的個人主義を唱へて居るのである。此の学校などは始めから此の主義である。今日では漸次、人々に主唱せられる様になつてきた。

人格の性質としては団体的、又は個人的であるから、自分自分の信じてよいと思ふ所を自由に行うて行くので、目的は人類全体にあるのであると、この様に解したなら誤りはないのである。

[自敬と奉仕について]

それで此の学校では一方に個性をいひ、一方に人の為にすると云ふことを説いて居るのである。此の応用として、即ち婦人の徳に自敬と云ふことを説く。之れに由つて自分の人格の尊いことを知つて、他人の人格をも尊ぶ所以を知ることが出来るのである。故に、自分を敬することを先にせんければならぬ。自敬は自覚から起るので、自分は一個の人格なりと云ふことを知つて、他人の人格を尊重して初めて他人に奉仕することが出来るのである。

ソクラテースの言つた「汝自身を知れ」と云ふのも、この意味である。男女に拘はらず、社会及び人類に奉仕せんければならぬ。自敬に個人主義が表はれ、奉仕に団体主義が表はれるのである。かくして日本人が精神的生命を養つて始めて西洋と提携して行くことが出来るのである。

外国では個人主義に偏したから、現今では団体主義の美点を入れやうとして居る。米國の如き個人主義の國でも、ハーバード大学のロイスの如きは、愛國とか家愛するとか云ふことを盛んに唱へて居る。所謂奉仕と云ふことを唱へるので、英語で Serve と云ふ、人につかへる、即ち敬愛すると云ふことで、國家、社會の爲につくすことである。米國では盛んに個人主義と団体主義とを調和させやうとして居るのである。日本では向ひ方は反対であるが、到着点は等しいのである。日本には個人主義を入れる必要がある。団体主義のみでは文明を入れるに、いろいろな妨げがあるのである。

人間の本当の要求、即ち各自が満足し得ると云ふ要求は、何人ももつて居るので、各自が満足を得る所がなくてはならぬ。人間の性情は空間であるから、大きいものが一方にあれば他方に流れるのは当然である。西洋の方は高気圧であるから、東洋の低気圧の方に流れてくるのである。米國では神聖清教徒主義と云ふのがある。之れは日本の武士道から出て居る。米國が國を作つたものは、この主義である。この主義は厳格な克己主義を唱へるのである。此の教徒の精神をもつて、個人的快樂主義に流れて居る米國を救はうとして居るのである。これは東洋の武士道から流れて行つた様に、空氣が平均せんければ満足せぬのであるから、いつかは東洋へ個人主義が流れてくるのである。個人主義も自然の勢で流れ込むので、知らず知らず長短相補つて行くのである。人格の性情からも調和して行くのである。私の考へでは、個人主義と団体主義とは融合して行くものである。

[絶対の自由は許されぬ]

人格を尊び、個人が自分を尊び社會を目的とするのであるから、絶対的の個人は許さぬのである。そこで何人と雖も、自制がなくては自分の幸福を完うすることは出来ぬ。世界中で最も自由を尊ぶところは米國であるけれども、米國に於ても絶対の自由は許されぬ。流行病をした時、我が家に臥したり医者と呼ぶことは自由であるが、此の病氣は人の爲に避病院に行くべきであると云ふ法律があるので、人々は喜んで行かうと定めたのであるが、實際はそうは行かぬ。今日の法律は愛の表はれであるから、之れを压制と思つては間違ひである。故に余儀なく従ふのでなく、自律的にして行かねばならぬ。自律的道德である。

[眞の自由と云ふことについて]

自由と云ふのは、無制限とは違ふのである。自分の勝手を制するのは却つて自由である。合理的な自由である。人格的個人主義の自由とは一言で言へば、人格に対する敬愛心によつて制限されて行くのである。人格は横に沢山あるが、他の多くの人的人格の方が尊いので、甲と乙の人があつて、乙の方が値打がないのに甲は生命をも失つて乙の爲につくしたとすると、人の爲につくすと云ふ点に於て尊いのである。同じ人格の人の爲にもつくすと云ふ考へがあつて始めて、人の爲にもつくされるものであるから、これが猶々他人の人格を尊重することを奨励することになるのである。斯う云ふことは計算的に言ふと損の様であるが、実はそうでないことを付け加へて置く。

合理的の制限と我儘とは、全く違ふことを思はねばならぬ。人格的個人主義と云ふのは、多くの人格の爲に奉仕するのである。

[現今の日本には高等教育が殊に必要である]

日本では現に、個人主義と団体主義と融合しつゝあるので、正当に融合して其の弊をさけて行かねばならぬ。女子の高等教育を授けるに、個人主義が入るからと云ふが、どの方面にも個人主義が入つて居る。眞の個人主義を入れる時には従つて弊も伴つてくるのであるから、保守主義の人が恐れるのも耳にして、反省はして行かねばならぬ。女子の高等教育を高等女學校程度に見たのであるかもしれぬが、個人主義は軍事上にも、政治上にも表はれて居る。夫れは民法、刑法を始めとして実業界にも、文學にも入つて居る。近頃の文學は個人性が發揮せられて居る。皆さんが小説をよむ力があるなら、個人主義が入つてくることは勿論である。高等教育を授けて、よくものわかつた社會の先導者が必要であると思ふ。積極に此の指導者が必要であるから、従つて高等教育が必要である。今日の、殊に現今の日本には大切である。家政を掌るに於て、子女を教育し社會の先導者として行くのに必要である。皆さんは任じて行かねばならぬ責任があるのである。

[理想を実現してほしい]

此の學校では、かう云ふことを断片的に解釈して迷ふが、総合的に考へたなら眞の処がわかるであらう。或人は、此の學校の主義を保守主義だと言ひ、又は個人主義であると言ふが、誠に困るのである。兎に角、皆さんは此の考へをもち、自認していつてほしい。此の主義を日常の行為の上に表はして行かねばならぬ。生徒の中一人でも間違ふと全部を推されるのであるから、非常な損である。そして社會の教育上にも及ぼすから、皆さんは誠に重い責任があると云ふのである。

夫れで、ど一か一挙一動に注意して、實現してほしい。人格の大切なる所以は話さなかつたが、兎に角、値打のあることは信じて居らねばならぬ。独を慎むと云ふことは、人格の大切なることを知ると同時に自然、此の誠が表はれてくるのである。要するに、知つただけではいかぬ。實現せんければならぬ。

[中表紙]

第二学期終業式の御話  
大正元年十二月二十四日

大正元年十二月二十四日  
第二学期終業式

(講話者不明)

今、松浦先生から大層有益なお話がありまして、時間もたちましたから、私は只簡短にお話を、この式を終りませう。

今年は我が學校にとりまして、前半は殊に多忙に暮しましたが、第二学期になりましてからは殊に諒闇中でもあり、平

常とは違ひまして静かに暮すと云ふ有様でありましたが、校長の留守にも拘らず何等心配することも起らず今日迄参りましたことは、学生諸君の勉強並びに教員諸君の熱誠の致す所と、私は誠に感謝に堪へないのであります。

[平安無事は満足すべきにあらず]

今申しましたよ一に、此の学期は無事に平安に過して参りましたが、併し只、無事平安と云ふことが必ずしも賀す可きことではない。私共は夫れだけで満足することが出来るであらうか。夫れは出来ないのである。

何か私共の内に進歩と云ふことがあるであらうか。高等女学校五年生あたりから大学部の人達には、其の意味がよくわかるであらうと思ふ。私は皆さんに聞きたいのである。ど一云ふことで私共は進歩したであらうか。ど一云ふ点に於て、得る所があつたであらうか。若し進歩がなかつたら、夫れは停滞である。停滞、不動は進歩ではない。故に皆さんにそれを反省して欲しいと思ふ。

[自ら熱を出せ]

此の学期始めに私が大学生に申したことは、何をすることも自分でしなければならぬと云ふことで、今、大層有益な話がありました、皆さんは自分から熱を発しなければならぬ。自分の内部から発する熱でなければ、ど一して人を温められようか。ど一しても自ら熱を出さねばならぬ。

然らば、ど一したなら自分の力で自分の道を切り開き、そ一して自分の発展を計ることが出来るであらうか。日本の高等教育を受けて居る所の婦人は、自ら進む力は見出されないものであらうか。ど一しても此の力を見出さねば、学校に居る間は人から与へられた力で熱心でも、あとはだめである。故に、あなた方がど一しても自ら熱する、自ら奮ふと云ふ力がなければ、人を進める、社会を清めると云ふことは出来ぬと思ふ。西洋の婦人のよ一に、社会に立つて男子と協力して進むことは出来ないのである。世の中に人に由つて動くものばかりであつたら、逆も日本の国と云ふものは何時迄経つても清まることはないのである。

日本の婦人が政治上に携ると云ふことは今日の問題ではないけれども、アメリカの如きは十州の婦人が選挙権を持つて居る。故に夫婦、親子などが一緒に自動車で出かけて其の州の議員を選挙すると云ふ有様であるが、婦人が政治に加はる様になつてから、段々社会の改良が行はれて来たのである。

[自動協力せよ]

我国と米国とは国情が違ふけれども、我が国に於ては女子自ら動き、自ら道を開いて人を温め、社会に感化を与へると云ふ教育が出来て居ないのである。私は、ど一しても之れが必要であると思ふ。故に是非共、皆さんが自ら動き、奮つて、此の学校を進めて行くと云ふことに協力して欲しいのである。人から与へられた熱、人から動かさるゝ力ではだめである。最も自ら助くるものは、最も天から助けらるゝものである。最も人に依るものは、最も自ら助けざるものであります。

[常に第一本義に立つ可し]

併し、自ら動くことと云ふことは人の助けを排斥せよと云ふことではない。自ら動く程、猶人の言ふこと、人の話すことを

用ひて行かねばならぬ。又、最もよく人の説を用ひることが出来ると思ふ。皆さんの中でも各々性質が違ふと話が合はない。話が合はぬと感情が一致しないので、全体が歩調を一つにすることから六かしい。けれども、何時も第一本義をつかまへて人と一致して行かねばならぬ。故に各違ふと云ふことを心得て居なければならぬ。そ一して社会の先導者となるべき高等教育を受くる者は、大体に於て一致しなければならぬ。一方には大に違ふ所に於て互に利する所があり、一方に於ては大体について提携して行かねばならぬ。

私共の若い時の経験を考へても、初めは気の合った二、三人者が親しくなる。そ一して多少の意見の合ふ者も大同団結しなければならぬ。私は、ど一かそ一云ふ気分が皆さんの間に出来ることを望むのである。級に於ても、寮に於ても、そ一云ふ風になつて何事も打ち明けて話すことと云ふ親しみが湧いて、そ一云ふ人々が会に出ると自然に話が進むのである。夫れなくして、会であるからと云つて集つても話の出るものではない。私共が聖人であつたなら、少しも感情を挟まないで人の話を聞くことが出来るから一番よい。けれども、そ一は出来ない凡夫であるから、段々に心の合ふものが互に切磋琢磨して、大なる会なども出来ることと云ふ風が出来たいと思ふ。氣質の違つた人とは打ち明けにくいものであるから、飲食遊戯の友からでも打ちとけて、其所にも此所にも、松浦先生の言はれたよ一な熱のある火の団体が出来度いと思ふ。ど一か心の広い、すなほな氣風を養ひたい。夫れの出来ぬ人を宗教などでは、心の貧しき者と言ふのである。

此の学年の前半におきましては、皇太子妃殿下の行啓がござりまして、私共は何時も光榮と感じて居るのであります。此の堂を出ると御手植の松が榮えて、日に月の松の操を顕して居ると思ひます。地方の学校でも時々皇太子殿下の行啓と云ふ様な光榮がありますが、地方の学校においてになると云ふことは、其の学校へ態々おいでになると云ふばかりではなく、其の地方へおいでになつたと云ふプログラムの一つとして御立ち寄りになるのである。けれども東京の学校へ行啓あらせられるのは、態々おいで遊ばすのであるから、此の榮は皆さんがよく覚えて居らねばならぬ。

[理想を高く持つ可し]

又、世間でよく言ふことは、女子の高等教育を受けた者は理想が高く困ると言ふけれども、私は未だ理想が卑いと思ふ。松浦先生の言はるゝ様に、活気がない、熱が出ないと云ふのは、小康に安んじて理想を持たぬからである。一日を安閑として暮す、そ一云ふ人でも年の暮には感じがないではないが、自分を責むることが少ないから、人を責むることが多いのである。故に今日の人は、人を責むることは多いけれども、責任を尽すことが誠に少ないと思ふ。

只今申しました皇太子殿下の行啓と云ふことについても、皆さんが夫れを思へば、もつと精神がひき立たねばならぬ。そ一云ふことを深く感ずることは昔の人に多いのである。私共は理想が足りないから、甘んじて安んずるのである。

[義務に対する利那主義の必要]

現在目の前に横たはつて居る所の義務を尽さないで、

あとで大した禍が来なかつたなら、まあこれでもよかつたと云ふ習慣がつくのである。或る人は判那主義と言ふ。私は義務に対する判那主義が必要であると思ふ。例へば草履と云ふやうなものでも、今持つて行くのは面倒だから一寸其所へおいて行かうと云ふことになる。其の草履を買つた金は、学生で云へば保護者から貰つたものである。其の草履を粗末にするのは、保護者に対して義務を怠る人であるが、私は判那主義で義務を守つて行き度いと思ふ。此の心があれば今大した理想は出来て居なくても、判那の本務を尽して行くならば、将来は立派な人になれると思ふ。夫れをしないと、いつしらず其の人は滅びに入るので、其の人を悪くするのは誰れが悪くするのもなく自ら怠つて、判那判那、自分の為す可き責任を全うしないと云ふ所から起る結果である。

[意志は遺伝をも破る力あり]

幸に私共の中には意志と云ふものを与へられて居る。斯うしよ一、あしよ一と云ふ決心の出来るものを貰つて居る。之れは段々強くすることの出来るもので、或る意味から云へば、遺伝をも破る所の力である。人間の意志が遺伝をも破ることが出来ると云ふことは、宗教上に屢々顛れることがある。耶蘇教の詞をかりて云へば、心の貧しきもの、清きものは幸なりと云ふ。此の清くなると云ふことは、自分の意志で出来ることである。故に、高等女学校の一年生などは今迄は、おと一さん、おか一さんの命令の通りにして居つたのであるが、其のおとうさんやおかあさんの命令でも違ふと云ふことが起る。そこで自分の意志で斯うしなければならぬと云ふ考へが起つて来る年である。故に、人間は満十二歳頃から道德生活に入ることが出来るのである。

あなた方が五年間学校においでになると、先生方や友達などの心中に、あなたはど一云ふ人であると云ふ写真がうつる。夫れと同じよ一に先生方の写真も、あなたの心の中に写るのである。先生に叱られて腹の立つこともあるであらうが、夫れは誰れが悪いかと云ふと、自分の写真がそ一うつたのであると知らねばならぬ。

[汝自身の心を掘れ]

理想が高いとはどんなことかと云へば、高尚な、潔白な、きちやうめんなどと云ふことであらねばならぬ。私共はこの学期を無事に過しましたが、停滞ではいけない。人に、ど一かして貰ひ度いではない。自分から、ど一かして動いて行かぬものであらうかと云ふことを考へて貰ひ度い。私は、独立自主な人となる為に自ら力を奮ふ様になつて始めて人となる事が出来るので、之れは、或る人が汝自身の地の下を掘れと言つた詞があるが、私は汝自身の心を掘れと言ひ度いと思ふ。

[中表紙]

第三学期始業式の御話

大正二年一月八日

大正二年一月八日

第三学期始業式

(講話者不明)

大正二年の正月を、お互が大喪の間に静かに迎へることが出来まして、此処に皆さんと会しまして第三学期の始業式を挙げますことは誠に幸なことであります。

私一人としては、今年のやうに静かなお正月を迎へたことがないので、私は、ど一か年々正月と云ふものを静かにむかへまして、家族団樂して迎へたい。いつものやうに元日から人の家を訪問して、雑踏した正月を迎へるのがよいであらうかど一かと云ふことを考へました。今年は誠に静かな正月であつたから、一年のことを始むるによい正月であると思ふ。今年はど一すればよいかと云ふことをいろいろ考へても、やはり平生斯うするのがよいと思つて居ることが出て来るのである。お互が自分の勝手、自分の名譽と云ふものにかたられずして、人の為にと云ふことを本として行かねばならぬと云ふことである。

往々私共が考へますのには、時は過ぎ去るもの、過去はなくなるものであると云ふ考へと、一方には新しくならねばならぬと云ふ考へとある。誠に新年を迎へると、人間は段々新しくならねばならぬと云ふ。けれども私が考へるのに、過去は消えない。私共の神経系統の中に刻み込まれて居つて、私共が如何様に学校生活を過しても過去は去らないので、其の過去は私共の神経系統の中に、脳髓の中に生きて居つて、現在の中にあるのである。私共は新にならねばならぬ。また、ならねばならぬと言ひますが、夫れは過去の上に築き立てねばならぬ。決して過去と離れた新しいものを作るのではない。若し過去を離れて新しいものを築くならば、夫は砂の上に家を建つると同じことで、土台のないものである。夫で私共は此の学校で始めから主張して参りました様に、人の為に尽す、他人の為に仕へると云ふことを本としなければならぬ。夫れをよそにして新しいことを計画するならば、其の新しいことも発達しないからである。年々計画を立つると云つても、去年養つて来たことを捨つるのではない。其の上に新しいものを加へて行かねばなりません。

去年の初め、私が高等女学校の人々に申したことである。農芸係と云ふものが前からあるけれども、高等女学校の園の草の刈られたことはありませんでしたが、今年の夏は初めて草がとられてあつた様である。今年の冬は寒気が遠慮なく来て、園が荒らされた様である。夏したことは、冬も続けねばならぬ。続けてすれば、夏したことが残つて行くけれども、続けねば残らないのであります。

新年を迎へると、誰れでも今年は何か新しいことをしなければならぬと思ひますが、やはり過去したことと継続して行かねばならぬ。そこで私は年頭にをきましてよく考へて見ると、やはり同じことである。如何なる場合に於ても忘るゝこ

となく、お互が年々一貫した精神を以て、過去の上に新しいものを築き立てゝ行かねばならぬ。

[お互の最も妨げとなるものは名誉心である]

今、松浦先生から、時間を浪費してはならぬ、形式ではいけないと云ふお話がありました。人間はど一しても Being であると共に、Doing でなければならぬ。お互の最も妨げとなるものは名誉心である。あの人は斯う云ふ人である、之れは自分のしたことでありと思はれたいことで、名誉心から居ると、人を道具にする。器械視するのである。故に、尊敬して居る様に見えるけれども、実は尊敬して居ないのである。何かして居る Doing はあるけれども、Being がないのである。私共は政治上のことはわかりません上に、二、三の新聞の書くことなどは信ずるに足らないのである。けれども昨年の暮に於て、今迄見ない所のことを何人も見たのであります。政治上の大きな舞台に於ても名誉心に駆られてものをして居ると、国民が迷惑をするのである。小さな学校生活でも、組の中でも名誉心を持ち、ことをするものがある。あれは破壊せらるゝこととなる。近頃の社会上の出来事を見ても随分悲痛惨憺たることが多い。只政治上のことばかりでなく、今迄は誠に純朴であった田舎の風俗も段々に変つて来て、親兄弟から金を送つて貰つて勉強するものも其の金銭を浪費して、少しも親兄弟の苦心を察しない。夫れは皆自分の勝手、名誉心から来ることであり。文学にしても、そ一云ふ勝手な考へを吹き込むものが沢山ある。

よく此の校の卒業生の中でも何回生の使命と云ふことを言ひますが、私は、何回生でも同じ共通の精神を持たねばならぬと言ふ。学校に居るうちは何かして居るやうでも、外へ出ると直ぐ転じて了う様な人は Being になつて居ないからである。お互婦人たる者、教育の任に当るものは、ど一しても Doing だけではいかぬ。Being でなければならぬ。彼処の学校の人なら必ず立派な人間であらうと言ふことが出来るならば、夫は立派な保護色であります。

此の学校の卒業生の使命は名誉などで動かない、自分勝手をしないと云ふことでなければならぬ。此の学校では制服はつけない。けれども人の為にする、奉仕すると云ふ Gown をつけること、夫が出来れば結構で、之れは年々歳々続けて行かねばならぬと思ひます。

大学の各級から、去年の暮に答案を出して貰ひまして、休み中に調べましたから、夫について申したいこともありますが、今日は時がありません。故に、何時か別の時を選びましょう。

お互は習慣の束であると思ふ。いろいろの習慣の集まつたものが人格であり生活であるから、私共は一つの原理を処々方々に応用して活用して行きたいと思ふ。例へば園芸にしても、夏より手入れをせねばならぬと云へば冬もすべきであると考へて貰ひたい。整理をすると云へば、押入の中迄しなければならぬ。

[本校の制服]

此の学校では前から制服を作らぬ。けれども、此の学校の卒業生は人の為に仕へる、只之れ、真を遂ふと云ふ精神の制

服をつけて出なければならぬと思ふ。世間で用ふる物質の制服は直ぐ破れて汚なくなるけれども、此の精神の制服は益々美しくなつても、いたむことはありません。故に私は、此の事を大正二年の始めに於て特に申すのであります。

[中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正二年一月十一日

大学部一年及び予科に於て  
大正二年一月十一日

麻生学監

此の前、女子教育に人格的個人主義を入れるならば、日本の家族制度の欠点を補ふことが出来ると云ふことを話して置いたが、人格的個人主義と云ふのは、自分の行動は自由に選択するが、其の目的は社会生活にあるので、この中には個人も入つて居るのである。即ち、社会と個人とは表裏の関係があるのであるから、一寸考へては趣きを異にする様であるが、其の実は同じである。

[女子の高等教育について]

女子教育の主意は婦人の天職問題である。之れは種々に論ずることが出来るが、婦人自身の身体、精神を考へねばならぬ。もし身体及び精神が高等教育を授けるに適しない時は、無益であり、又、却つて有害となるのであるから、第一に之れを研究せんければならぬ。体力が堪へられると云ふ論と否との論も盛んである。

次に女子の知力が学問に適しないと言ふ人がある。殊に、思考力に適しない。先人が未だ知り得なかつたことを発見するが如き創始的知力が無いと云ふのである。故に、かゝる高尚なる学問は授けても無効である。而して女子は、記憶及び模倣にはたけて居ると云ふのである。

兎に角、女子は今日まで教育されたことがないから、効があるか無いか、又効があるものか無いものかわからぬが、此の後、学問を授け、高尚なる教育を授け、知力を与へたならば、学理をも発見するに至るかも知れぬ。婦人には高尚なる教育は授けなかつたが、既に天文学その他に有名なる人もあるから、若し授けたならば出来ると云ふ様に説かれて居る。この様に一般の説でなく、もつと深く入つて話して見やう。

[男女の知力について]

近頃、婦人の知力の長所と男子の知力の長所とは違ふと云ふ論が起つた。婦人の知力は知識を受けついで伝播するに長じて居るが、男子の知力は知識を啓発するに適當して居ると云ふので、之れは有力な論である。それで女子に高等教育を授けるにも、真理を発見すると云ふやうなことは教へず、教師に仕立てると云ふのがよいと言つて居る。

身体の解剖論、生理論から云ふならば、例へば脳にしても女子は男子のより小さいと云ふ。従つて働きが少ないと言つて居るが、しかし男女の脳をとつて調べたなら、女子の方が



小さい。けれども女子の身体から云へば、寧ろ男子の身体に対する大ききより大なる脳を持つて居るのである。故に比較的にいへば、女子の方が大きいと云はれる。絶対的にいへば、男子の方が大きいのである。例へば、象の脳は人より大きいからえらいかと云ふと、実はそうでない如く、全く脳の大小にのみはよらぬもので、其の脳の発達にもよるのである。彼の時計にも大小があるが、大なる柱時計より小さい時計の方が却つて正確でよいものがあると同様であらう。

女子の高等教育も斯う云ふ有様で決定が出来ぬが、論より証拠である。實際授けて見るのがよいと思ふ。米国では實際に訴へて居る。教育の上に女子はどこまで進むか、實地に経験して居る。四十年程経験したから、其の結果も稍わかつたであらう。かなり婦人にも有名な学者が出たが、まだ第一流の学者と云ふ程の人はない。

彼の故人となつた哲学者のゼームスは世界的の学者である。米国が独立して以来かかる人は出さなかつた。男子にも世界的の学者には唯一人あるのみである。ミス ホールキンと云ふのは哲学者並びに心理学者であつて、心理学会の会頭に選ばれたほどの人である。しかし、まだ第一等の人ではないが、有名なる女の学者である。

女子高等教育を授けたものが、漸次学者ともなり得るのである。英国、佛国、和蘭国も之れにならひ、漸次有名なる学者を出して居る。フレーベル以来、新しい教育法を発見した、イタリの心理学者で、又教育学者であるモンテス女史の如きがある。知力問題と教育問題とは衝突したが、次にまた一つ変動が起つたのは、社会は目的をもつて居るから、之れを最もよく発達せしめなければならぬ。男女と云ふものがあるので、従つて男女には各その職分を異にして居て、各自にそれを円満に発達せしめるものではなからうかと云ふ考へが起つて、遂に女子の天職主義が起つたのである。

[女子の天職問題について]

天職主義は権利主義から起つたものである。女子高等教育を受ける権利があると云ふ所から、主張し始めたのである。しかし、同等に進むには知力及び体力が及ばぬと云ふことになつて、之れを實地に経験した所が堪へられると云ふになつたが、権利ではいかぬ。必ず社会に目的があるのであるから、それに一致しなければならぬと云ふのである。

米国で女子の天職問題を主張するはスタンレー ホールと云ふ人である。之れが勢力を占めつゝある有力なる説である。即ち、女子は母となり、そして次代の国民を立派に教育すると云ふのである。其の他にもあるが、最も主張されて居るのは賢母主義である。

第一、良妻賢母が大切な天職であるが、第二に、實際妻母とならぬでも国民の妻母となることが出来る。殊に国民の母になることが出来る。即ち精神的母と云つて居るが、世の中に立つにも母たるの職務をとるのが最も適したものであると云ふのである。之れも程度問題で、他の方には着手しなくてもよい、又全く禁じなければならぬと云ふことはない。只選ぶ時に此の注意をもつた方がよいと云ふのである。英米には盛んに唱へられて居るから影響を蒙つて居る。

米国の女子大学には衛生に関する学問で、個人衛生に社会衛生と云ふ学科を入れなければならぬと云つて、或る学校には必修科目となつて居る。次に、バクテリアの学も同様に重きを置かれて居る。衛生を学ぶには、曾てなかつた児童の衛生も加へられる様になつた。まだ此の外に四つほどあるが、茲には略して置かう。家庭及び個人の衛生、並びに児童の衛生は大切な学問である。女子に衛生思想がなくてはならぬことは言ふまでもない。之れ等もスタンレー ホール等の主張の影響で、之れはよい潮流である。あまりに女子の教育が無性教育になるのを防ぐことにもなるであらう。従来外国の教育は男女の同一点のみを見て授けたものであつたが、之れは悪弊である。男女は天職を異にして居るのであるから、性を区別せなければならぬ。現今では、教育するに真に男女の差別は何処にあるかと云ふことを研究して、各の天職を明かにしやうとして居る。社会の組織の上から考へて、男女の性質の差別を見出さうとして居る。男女の差別があるからこそ人生には意味があるに違ひないと云ふことになつた。それで研究の態度も違ふてきたのである。今は其の研究に着手したのみで、まだ十分ではないが、少しづつ発見しつゝあるので、今後はかはるかもしれないが、性急の人は既に仮説を真理と早合点して論じて居る。此の仮説を立てたなら、社会に危険、又不利でない時には実行して、経験する中に真理を見出だすことがある。勿論軽々しく行つてはいかぬことは申すまでもないことである。

学者から云へば研究にもなる、斯くて進歩するのであるから、行つて見ることも大切である。之れから日本の女子高等教育が如何にかはつてきたか話さうと思ふ。

[我が国の女子高等教育の変遷について]

明治十年前後には、男女同権論が盛んに唱へられたものである。彼のミル、ベンザムの説によつたのであるが、此の説は一時のものであつた。しかし多少影響はして居るが、日本の女子教育を起したのは全く外交上からである。外国の婦人に負けてはならぬと云ふ心から、女子に高等教育を授ける様になつたのである。而して、漸次女子は日本の社会及び家庭に適合したものでなくてはならぬと云ふことになつた。此の学校は此の精神から立てられたものである。高等師範などは、教師を作らねばならぬ必要から起つたのである。

女子は人である。即ち、人道主義の人の唱ふることである。又、女子も男子と同じく日本国民である。女子は婦人である。此の精神から、此の学校も主張して居る所がある。大隈伯の開国五十年史の中には、校長が此れ等のことについて説かれてある。即ち天職問題に重きを置いて居るのである。之れは本校の主意書にも重きを置いて書いてある。女子を婦人として教育するのであるが、又、国家の一人であるから国民としても教育するのである。

日本の高等教育は天職問題に重きを置いて、殊に母として教育して居る所などはスタンレー ホールの説と類似して居る点がある。日本のは権利思想も入つて居る。権利主義のみでも天職主義のみでも弊があるので、日本の従来教育は天職主義のみを主張して弊に陥つたのである。即ち、女子は家

庭のみを支配するのであると云ふ、狭き意味の良妻賢母を唱へて居たのである。之れは広く合理的に考へねばならぬのである。

五、六十年以前には西洋も天職問題を主張して居たが、今日のは合理的の天職主義である。日本で唱へるのも、西洋で唱へて居るのも大方は類似して居る。此の学校では権利主義及び天職主義を主張して居るので、猶日本国民として教育して居るのである。此の方面に日本の精神を養つて居ると思ふ。

此の学校では人としての教育と云ふことを人格的個人主義と言つて居る。これと国家的教育と調和して、婦人としての教育を完うしたいと云ふのである。婦人の天職問題と云ふことはどう云ふことであらうか。文学者になるのは国民的母たることかと云ふに、婦人が社会の文明に貢献すると云ふならば、有効な方法は文学に従事してもどうでもよい。妻たり、母たるの方面を発揮するのが適當であると思ふ。例へば、子どもの医者になる如き婦人に適して居る。そして一体婦人は、男子が思ひ及ばぬ点までも気付くことがある。であるから、政治上でも男女により尽すべき方面が違ふと思ふ。

米國では、女子で政治に携はつて居る人がある。その人々は女子の労働者の時間及び給料などを改良して居る。男子の欠点を女子が補つて行く様になつて居るから、男女が適した方面に入つて、社会に貢献する様になるのがよいことであると思ふ。この様になつても女子には、やはり天職問題があると思ふ。

男女の出来たのは次代の国民を作るのみでなく、社会の文明を作り、複雑ならしむる為に出来て居ると云ふのである。故に、男女の天職はあるに違ひない。男女の出来しことから考へても、天職があると思はれる。後來、女子の天職は発見せられるのである。現在、発見せられつゝあるのである。各国民が同一でないのも、文明を複雑ならしむるのと同様である。異なつたものが一致するので、世界の文明を複雑ならしむるのである。

#### [女子の天職問題と職業問題]

次に女子の天職問題と職業問題について話さう。教育には人格教育、専門教育、職業教育などがある。その中、職業教育と云ふのは手足を動かして、生活の技量を学ぶのである。専門教育は脳の教育をして行くことである。生活の為でもあるが、只食物の為のみではない。一つの学問を深く研究して、人生の幸福を増進し進歩せしめる為にするものである。人格教育は性格を作つて行くので、高等教育にはいらぬと言ふ人があるが、それではいかぬと思ふ。十年前に帝国大学は知識、學術を授けたならよいと云ふのであつたが、私はこれが間違つて居ると思ふ。獨逸などは主に之れであるが、やはり人格を重んじて居る。専門教育でも職業教育でも人格教育は必要であらうと思ふ。英國はこの調和が出来つゝあるが、日本ではまだ高等教育は学問の蘊奥を研究することのみ思ふ人がある。

#### [本校の特色]

此の学校は人格教育に加味して専門教育を施して行きたいと云ふので、所謂専門教育のみではないのである。そして、

外國と異なる点は、婦人をして母としての職分を完うする様にとつとめて居るのは、本校の特色である。

世が進むに従ひ、女子に適した専門教育は必要であると思ふ。之れは生活にいつ必要になるかもしれぬから、身を立てるに必要であるが、又一方には、あまりに専門になると社会に採用せられぬ様になると思ふ。故に、時世に応じた専門教育を施したいと学校も思つて居るのである。

#### [中表紙]

第二、三学年にて  
大正二年一月十五日

大正二年一月十五日  
第二、三学年にて

(講話者不明)

今迄話したことは表に顯はれたことであつたが、之れからは内部に入つて、現代の思想の特徴、言ひかへれば現代の内部生活と云ふことを申したい。之れは極簡短に述べて、現代の思潮と云ふものに対してお互はど一云ふ心得を持つのが適當であらうかと云ふことに入りたいと思ふ。

#### [現代思想の特徴]

現代思想の特徴を考へると、

第一に心に浮ぶものは、自然科学の跋扈、或は優劣とでも言はうか、之れが現代生活の上に非常に勢力を奮つて居ること、第二は歴史的精神、

第三は新らしき精神的科学の勃興、

第四は宗教哲學上に於ける特徴、

と云ふことである。も一一つ加へたいことは、文芸思想上の特徴であるが、之れは逆も今日は話されまいと思ふ。

#### [第一、自然科学的精神]

第一の自然科学的精神とは、ど一云ふものから起るかと思ふと、(1) 事實の尊重、(2) 理法の発見、(3) 其の発見したる理法の応用である。

科学は非常に事實を尊ぶのである。今迄の学問は事實に訴へずして只頭で考へたのであるが、近頃の学問は事實に訴へて、発見したことを頭で考へて理法に徹して行かうと云ふのである。自然科学では事實尊重であるから、事實を枉げる事は出来ぬ。事實には、ど一しても服従して行かねばならぬ。

さて、事實尊重とはど一云ふ事かと云ふと、事實を経験、観察、実験して行くのである。故に言ひかへれば、経験を尊ぶ、観察を尊ぶ、実験を尊ぶと云ふ事で、自分の理想、願望等によつて事實を枉げると云ふことはしないのである。例へば、病理学と云ふものを応用して治療学と云ふものが成り立つて来る。斯う云ふ訳であるから、科学に尊ぶ事は虚心坦懐、公平無私と云ふことで、一点の私心を挟まないものである。公平無私の心を以て事實を経験し、観察し、実験することに由つて、あらゆることを解釈することが出来るのであると、斯う信仰するのを科学万能主義と言ふのである。

けれども、科学的精神と云ふのは科学万能とは違ふのである。お互は人生を送る上に科学的精神から、ど一云ふ影響を受くるものであるかと。お互の生活に最も大切なるものは道徳であるが、公平無私と云ふ事は道徳生活になくなくてはならぬものである。私共の偏見、我が儘などから公平無私と云ふことを欠いだならば、虚偽の生活、或は誤謬の生活となつて了ふのである。故に、私共がほんとの道徳的生活に入るならば、良心の命令に柔順でなければならぬ。言ひかへれば、事実に忠実でなければならぬ。事実に柔順であつて始めて真理に忠実なる事が出来る。誠に謙遜な心を持つて始めて真理がわかる。善と云ふことも、ほんとの忠実な心を持つて始めて受け得らるゝのである。

又、宗教上に影響を受けたことも夥しいのである。十七世紀頃は、西洋ではローマ旧教の跋扈して居つた時であるから、中々事実を尊重することは出来ぬ。仮令、事実に忠実にして発見した真理にしても、ローマ法王に承認せられねば社会に公にする事が出来なかつた。真理の発見には自由討究の権利が必要である。十八世紀に至つて、ど一か此の自由討究の権利を得なければならぬ。ど一したら夫れが得らるゝであらうかと、あらゆる学者が苦心して居つたのであるが、遂に一つの道が開けて、良心の命令は神の声であるから誰れも従はねばならぬと云ふことから、良心の命令と神と云ふことを結びつけて、段々に自由討究の権利を学者が得て来たのである。丁度其の頃に Protestant が起つたのである。つまり宗教上では、例へばローマ法王のきめて居る教権の命令に従ふのは誤りで、銘々良心の命に従ふことが真理であると云ふことになつた。そこで独断的な教権を排斥することとなつた。神は一種の權威であるから、総ての教権を排斥するのではないけれども、ローマ法王のきめたものの如き人為的のものを排して、自分の心で考へ、自分の心に信じて真理とするものに従はねばならぬと云ふことになつて、段々自由宗教が盛んになつたのである。

科学はお互にど一云ふ利益を与へて居るかと思ふと、科学的精神の結果で私共は第一に、一変した処の世界に住む様になつた。客観的にはそんなに変わらないが、主観的世界は科学によつて非常に拡大せられ、又統一せられ、且つ進化しつゝある世界に住む様になつた。も一一つは理法的、又語をかへて言へば、秩序ある世界に住むこととなつた。科学の発達しない前は狭い世界であつたが、天文学や地質学や物理学などが発達してから、宇宙は時間の上に於ても、空間に於ても、無限であると云ふことを考へる様になつた。望遠鏡によつて今迄知らなかつた遠い世界を知り、顕微鏡によつて今迄見ることの出来なかつた小さい世界を知る様になつたのである。

統一せられたとは、先づお互人間を考へると、人間と云ふものは一人一人孤立した処の断片的のものである。一方から言へば人種も違ひ、風俗、習慣も違つて、千差万別であると同時に、誰れも人間であるから同じいと云ふことになる。そ一して動物、植物と人間とは違ふと言ふけれども、亦一つであると言はるゝ上に、行と神と人間とは一つである。天人同一であると言はるゝ。物理学から言ふと吸引力、哲学者は之れ

を相愛する力と言ひますが、そ一云ふ点から言つても同じことである。鉱物の如き物から植物が出来、植物の上に動物が出来、其の上に人間が出来、人間の上に神と云ふものがあり、段々と進化しつゝ、一定の目的に向つて進んで居る。総ての物が一定の目的を持つて、一定の目的に向つて進んで行く。夫れには一定の道筋があるから、此の世の中にはちゃんと理法を以て束ねられて居ると云ふ。之れ等は皆科学の賜で、斯う云ふ考へも精神上に少なからぬ影響を蒙るのである。

## 〔第二、歴史的研究の精神〕

第二、歴史的研究の精神とは、何事も今ある如くなるには総て進化して現状を持つて居る。即ち何事も歴史があるから、歴史的に物を研究しなければわからぬと云ふことになる。人間はど一云ふものから出来たかと云ふと動物から来たもので、動物は植物から来たかと云ふ様に、総ての制度、風俗、習慣等を歴史的に調べて行く。宗教の如きも歴史的に研究して、高等批評と云ふことをする。そ一云ふ精神が段々に盛んになつて、歴史を尊ぶ様になつたのである。女と云ふことも、歴史的に調べなければわかるものではない。今日では男女両性と云ふものが非常に違つて来たのである。之れは根本的の區別であらうかど一かと云ふ様に考へられる。例へば、昔は女が政治上に手腕を振うたことがあるとすれば、今日でも女が政治上に手腕を振うことが出来るであらうと云ふことが言はるゝ。けれども夫れが面白くないことであるとすれば、歴史には従はねばならぬ。歴史には実験は出来ぬから、観察しなければならぬ。歴史上の事実を観察するには、今の頭で考へると非常な曲解をする様になるから、昔の社会に身をおいて考へねばならぬ。斯う云ふことを同情的理解と言ふのである。

此の歴史的研究の精神が、お互の生活の上にと一云ふ風に貢献するかと思ふと、此の同情的理解と云ふものが大切である。自分の心だけを以て人の事を考へると大なる間違ひが起るから、歴史家が古代の人心を研究する時の様に、同情的理解を以て始めて人の心を知る事が出来る。之れは男女間の關係にしても、国民間の關係にしても、人種間の關係にして同じことである。此の頃、世界の平和と云ふことを主張する人々が其処此処に起つて居るが、之れも同情的理解がなくては出来ぬことである。

## 〔第三、新しき精神的科学の勃興〕

第三、新しき精神的科学の勃興と云ふことを云へば、新心理學、社会学、比較宗教学等である。精神的科学が事実を学び理法を発見し、其の理法を応用すると云ふことは、自然科学と同じことである。夫れから経験、観察、実験を重んずる事も同じであるが、自然科学と共通の事は省いて違つた方の特徴を云ふならば、精神的科学は人間の理想を具体化して行く、即ち成るだけ具体化した理想を与へて行くと思ふことである。

昔は子どもでも成人でも同じ様な理想を持たせて行かると思つて居つた。けれども、成人は成人、子どもは子どもと夫れ夫れの理想がある。故に、如實的の理想を持たせる。平たく言へば、着々実行の出来るやうな理想を持たせて行くことが大切である。

今日の教育学は、人間の目的を立て、其の目的には夫れ夫れ忠実でなくてはならぬと云ふ。之れは心理学から来た考へである。人間はど一云ふ理想を持たねばならぬかと云ふことは倫理学の範囲であるが、最も適切な理想はど一云ふものであるかと云ふことは心理学から仰ぐので、教育学も段々と進んで行く。又、意志と云ふことも重んずるのであるが、意志の力をもつて性格を作りかへて行くことが出来ると云ふ。其の性格、品格と云ふものは、どこから出来るかと云ふ様に、人間を全体として考へるのみならず、人間を粉微塵にして考へ、又人間を作り上げて行く方から、全体として考へやうとする。之れが新心理学の職分である。

次に、社会学も事実を尊んで、社会の進化する所の理法を発見して、お互の生活する社会の進歩、発展を計らうとする。社会学で尊ぶ処の社会意識とは個人意識に対して言ふ詞で、之れは個人個人の作ったものではなく、社会の共同生活を送る所から出来たもので、

- 第一は、同類意識。我々お互は皆同類であると云ふ意識。
- 第二は、相互感化の（或は相互影響の）意識で、人と人と居れば否でも応でも関係するのである。
- 第三には、人格尊重の意識で、各々人は人格を持つて居る。其の人格は無上の価値あるもので、神聖侵す可からずとする意識。
- 第四は、本務の意識。人の為に愛を以て尽すこと。

斯う云ふものから出来て来るのであるが、社会学者が社会を研究して到着した処は何かと云ふと、人格尊重の意識で、之れなき社会は進歩して居ないと云ふこと。人格はさやうに尊むべきものであり、誰れも持つて居るのであるから人格を尊重して、本務も尽さねばならぬ。お互に犠牲となつて、愛を以て尽さねばならぬと云ふことになる。

次には比較宗教学で、昔は宗教家と云ふものは狭い心を以て、自分の宗教が一番尊い、他は皆邪宗であると思つて居た。けれども自然科学が発達し、歴史的研究が盛んに行はるゝ様になつて、何か共通の点があるであらうと云ふ所から同情的理解を以て比較する様になり、此に始めて差別的寛容と云ふことが行はるゝ様になつたのである。

第二には、共通の真理を持つて居ると云ふこと。夫れは、孰れの宗教でも必ず一つの真理はあると云ふ様になつた。之れが此の頃、宗教の統一と云ふ事など言ふ人の考へる事である。そ一して宗教の永続と云ふ事が考へらるゝ様になつた。宗教は度々死の宣告は受けるけれども、形をかへて進化するものであると云ふ処から、宗教の永続と云ふことを比較宗教学が教ふる様になつたのである。或る人は、オイツケンなどは宗教は説がないのであらうなど言ふけれども、大なる間違ひで、近頃は哲学者が宗教を非常に尊重して、宗教は人生の基礎であるからど一しても人生から取りはなすことは出来ぬもの。何となれば宗教は永続するものであるからと云ふ風に、大層熱心に研究する様になつたのである。

先年、倫敦で倫理学の大会が行はれたことがある。其の翻訳が出来たから見るとよい。其の頃の考へにも、ど一しても道徳だけではいけない。宗教は人心からはなす可からざるも

のであるからと云つて、哲学者が大に宗教を認識する様になつたのである。

哲学的特徴と云ふのは、今迄述べた処の各方面に於ける思想発展の特徴として現はれて来たのである。今から二、三十年前、私共が学生生活をして居つた頃には、哲学は無益なものと思はれて、哲学の命は旦夕に迫つて居つたのである。然るに近頃は段々世が進んで、人生の意義、世界の意義と云ふものは誰れが考へねばならぬか。之れは哲学者の考へねばならぬことで、之れが即ち、哲学の任務であると云ふ所から、ゼームス、ヴント、ベルグソン、オイツケンと云ふ様な人々が輩出する様になつたのである。

夫れも唯物論では到底満足は出来ないと云ふので、唯理論、理想論の方に傾いて来たのである。之れが近頃の哲学の非常に変つて来た方面である。今日の哲学は科学の影響を蒙つて居るから、昔の様に只思索にのみ訴へるのではない。事実を重きをおく様になつた。夫れと共に、文学も只慰みに、娯楽に供するものではなく、考へて読まねばならぬ、行はねばならぬ。文学も一つの科学であると云ふ様に考へられて来たのである。故に哲学も無論影響を受けたのであるから、皆さんの知つて居る Pragmatism の如きは、人格尊重の哲学である。夫れと同時に、宗教と提携して来たのである。

此の思想は、ど一云ふことをお互に啓示するものであるかと云ふと、総てのものは道徳生活、宗教生活と云ふものが、人間に最も大切なものであると云ふことを教へて来たのである。斯う云ふことは昔から教へぬのではなかつたけれども、近頃になつて愈々切実に教ふる様になつたのである。直接道徳に関係しない様な科学の範囲に於てすらも、公平無私であらねばならぬと云ふ道徳に関係して居る。況んや社会学などに至つては猶更のことであると云ふ風に、ど一しても此の世の中は道徳、宗教を基とせねばならぬと云ふことを確実に教ふると共に、宗教、道徳の如きは一朝一夕に出来るものではないから、ありたけの時間をかけて努力、奮闘しなければ、向上生活は出来ないと云ふことになつたのである。

Darwin は進化の理法を発見せんとして、二十五才から五十才迄かゝつて世に発表したのであるが、ワレスは僅に一週間かゝつて発見したと云ふ。けれどもワレスが其の事を考へたのは一週間であつたらうが、進化の理法を発見すると云ふことは、ワレスの一生の事業であつたに違ひない。

夫れで人格尊重と云ふことは最も大切なことで、総ての理法を発見するには、辛抱強い大胆に研究しなければならぬと云ふことを教ふる。之れが近世思想の特徴である。

今日伊太利に顕れた処のモンテツソリーの教育法は、幼稚園教育の上に着々効を奏して居ると云ふのは、理法を発見したからであつて、何事も理法に従はずして出来ることはない。何事にも理法がある。其理法とは宇宙の精神の現れであるから、之れは宇宙の大靈と共に天地の化育を助くると云ふことになるのである。

斯う云ふ風に、私共は一般に教へを受くるのであるが、殊に社会学上から教へらるゝことが多いのである。即ち、同類意識とか人格尊重とか云ふ様なこと、其の他いろいろある。

併しながら、お互が同類意識を持つだけでは役に立たぬ。相互影響して助け合はねばならぬと云ふことから、第一は已むを得ざる階段、第二は望ましき階段、第三は斯くあらねばならぬと云ふことで、お互は第三段に住つて、喜んで相互扶助して行かねばならぬ。之れが即ち本務ともなり、愛ともなるのである。今日では相互感化と云ふことは自然にして居るのみならず、学理上からお互に本務を尽しあひ、お互に愛を尽しあわねばならぬと云ふことを教へられ、之れを最もよくするにはど一すればよいかと云ふことが研究せらるゝ様になつたのである。

例へば愛と云ふことの如きは、慈善事業に於て最もよく顯はれて、且つ組織的に行はれて居る。斯う云ふことは応用社会学になつて来るのであるが、之れを我々の個人個人の精神に應用して使つて見ると、使ひきれない程沢山の教訓が籠つて居るのである。若し今、此の堂に居る皆さんの中に良心の命令に背いて居る者、本務に忠実でないものがあるとすれば、構はないであらうか。自分の心の中にあつたら、ど一であらうか。そ一云ふ人は何時となく、人の人格を破す者である。

今、私は改めて申すのである。此の中にうそを言ふものはないか。うそをする者はないか。先生の目をたぶらかすものはないか。そ一云ふ者があつたなら、実に学校の恥である。お互の制裁が強かつたなら、そ一云ふものはない筈である。ひき締つた人生を送るには何時も自ら省みて、自分の心と行ひとをひき較べて修養して行かねばならぬ。

#### [中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正二年一月十八日

大学部一年及び予科に於て  
大正二年一月十八日

麻生学監

此の冬休みの宿題であつた皆さんの精神的要求について全体見たが、大体一致して居る。併し、各人の顔の違ふ如く全く同じであるとは言はれぬが、先づ共通の点と云ふのは、自分に信仰が欲しいと云ふのである。次に意志が薄弱であると云ふこと。此の二つが大多数であつた。何人も信仰を要求し、何人も意志が弱いと感ずるのである。併し、信仰の必要及び要求にも程度がある。如何なる人でも求めて居る人は、意志の薄弱なること、及び信仰のないことを感ずるのである。

#### [信仰について]

信仰とは如何なることであらうか。信仰を得たいと云ふのは、つまり人生を送る所の根本を得たいと云ふのである。小さくても人生の根本力を得て、之れを一生涯のよりどころとしたいと云ふので、如何なる変化があつても動かぬ力が得たいと願ふのであると解してよからう。此の考へは何処からくるかと云ふに、自分と云ふものをどこまでも力のある偉大な

るものにして見たい、完全なるものにして見たい、或は真に充実した生活がしたいと云ふ望みからである。信仰が欲しいと云ふのは、即ち自分の要求を充たして行きたいと云ふのである。自分の要素は、先づ自分を全体から見なければならぬ。身体のみを以て自分と思つたならば、肉体の欲を充実したならば満足されるわけであるが、人生には精神があるので霊肉一体の我れであるから、現在の生活に於て霊のみを考へたならば誤りであるが、肉体のみと考へるのも間違つて居る。或る人は霊を誤つて、智の方面にのみ解し、智のないものは信仰が得られぬと言つて居る。又或る人は、情が清くなれば人は清くなると云ふ様に、我れは感情よりなれりと考へるものもある。即ち、之れは感情が信仰を要求すると云ふのであるが、これでは感情が信仰を得る要素の様である。又或る人は、信仰は意志であると言ふ人もある。此の様に自分の要求と云ふものを考へる時には往々偏してくるものであるが、之れは必ず全人格の要求であつて始めて完全であるべきで、一方面のみではいかぬ。或る人は宗教は意志の生活であると言つた。又、神及び仏に類するのは感情の生活で、悟りを開くのは知の方面であると云ふ。

#### [人格について]

現今は宗教も進歩してきたので、人格には特質もあるが、宗教に關係するものは人格の中に理想を追求する性質がある。即ち向上の追求又は向上心と言はれるものであつて、之れが人格の進歩を助けるので、動的要素である。人格が自分のことを考へることが出来るのは、静的要素であると思ふ。人間は自決心を有して居る。即ち自分が自由意志をもつて決する力を言ふ。例へば皆さんが何かした後に、あれはわるいことをしたと思ふのは、境遇上止むを得ぬから彼の斯くの如きことをしたと云ふものの、まだよく考へたならよかつたと後悔をするのは、お互が自決力を有して居るからである。あれはわるかつたと思ふのは、自決力を如何に利用すればよいかを示すので、理想追求性を有して居る所以である。之れがまた人をして失望、落胆せしめるのである。

人間に理想追求性のないものならば、孤立的生活でよい訳であるが、人は今の瞬間とを意義ある生活にしたいと云ふのであつて、即ち今の瞬間をよくすれば次の瞬間もよくなるのである。理想を追求する為に瞬間を追求するのである。下等動物は理想を追求するものではない。又、現在を如何に送つたなら将来に幸福があるかも考へるのではない。全く向上心がないから、所謂目的によつて統一されて居らぬ。併し、人は向上性を具へて居るから、理想実現を追求して居るのである。人格は、全体として斯かる性を有して居るのである。生きんとする意志、之れは又、生活意志とも言ふが、生きんとする意志が人間には理想追求性となつて表はれて居る。下等動物は只生きんとする意志があるのみで、理想を追求する心は野蛮人にもある。理想追求の生活を充たすものが、宗教生活である。

#### [宗教生活とは如何なることか]

今日我々が信仰を得たいと云ふのは理想追求性のある為である。我れと云ふものは非常に偉大なものであると考へる。

今日まで進歩して居ることから考へると、我れと云ふものは宇宙に沢山ある。その我れと云ふものは偉大であり、完全であり、又充実されたものになり得るものであると云ふのである。他の我れもそうである。偉大になるには宇宙精神と云ふものと一緒になると云ふことであつて、現に進んで行きつゝあるのが宗教生活である。

今日でも天神様を拝むと病気が治るとか、又稲荷様を信じたなら病気が治るとか思つて居る人がある。天神様や稲荷様が助けて下さると云ふのも研究せんければわからぬ。

耶蘇の弟子のパウロは、耶蘇が自分の心の中にあるから力があるかと考へたのである。又、神が自分の心にあるから力があると云ふのも同様である。之れは耶蘇教でよく言ふことである。耶蘇教には奇蹟がある。酒が血にかはるなどと今日でも言はれて居る。神が自分の中にある故、生きると云ふのは、高尚な考へ方である。稲荷様を信ずる考へと耶蘇教の高尚なる考へと、どこが違ふのであらうか。稲荷様を信ずるとか、天神様を念ずるとか、耶蘇である、神であると云ふ様に夫々違つて居るが、稲荷様ののりうつると云ふ様な人は、欠点はあるにしても一方に美しい心をもつて居る、正直な義理固い人でなくてはならぬ。確かに一種のえらい人であると思ふ。稲荷様の中に偉大な力を見出だして、正直にすれば何事でも叶へて下さると云ふのであるから、ここに美しい心が表はれる。故に、或る意味から云へば迷信でもよいと思ふ。又、信仰の対象は違つても、或る一致した処があると思ふ。

耶蘇教で言ふ神様と云ふことは、余程進歩せんければわからぬことである。狐は賢いものであると云ふことは昔から言つて居るが、之れを信ずる人は、えらいものであると云つて不思議な中に偉大な力を見出だすのである。即ち此の考へは、耶蘇教で神と思つて居るのと同様であるかもしれぬ。故に、狐の中に偉大な力を認めると云ふのは神と云ふものを認めたのと同様で、人にわからぬ力があると思ふ。その力は狐に、又は天神様に、クリストに現れて居るので、同じものが働いて居ると思ふ。私共は知らうとしてもまだ知り得ないので、知りたいと云ふ希望はもつて居るのである。未だ説明は出来ぬが、狐から力を得ると云ふには確かに其の人に美点がなくはならぬ。前にも述べたやうに、正直で義理強い人でなくてはならぬが、智と意の助けがなくはならぬ。

#### [第一、精神的態度が大切である]

第一、其の力の入るべき道筋がなくはならぬと思ふ。耶蘇教から言ふと、宇宙の力は心の貧しいものは神を見ることが出来るとか、心の清いものは神を見ることが出来るとか言つて居る。態度が出来なければ其の力は表はれぬ。人は、我れと云ふものを偉大なものになりたい、病人を全快させたい、一家を再興したいと云ふ様な人は、何処かに異なつた態度がなくはならぬ。自分が理想を追求して居る時に不完全ながら真面目に追求して居ると、其の人の精神的態度に応じて得られるものであると思ふ。

宗教はパウロの謂ふ、知らざる力を信じて居るのであると思ふ。スペンサーの言つた、不知の力を信ずるのであると云ふのと同様である。此の力と交通することが出来て始めて宗教

的生活が出来る。私は宗教で言ふ宇宙の力は、電気の様であると思ふ。精神的態度は受信機の如きもので、都合よく正当にある場合には無線電が入る様なものである。不十分な響へではあるが、斯う云ふ有様だらうと思ふ。

#### [靈界との交通を信じて居る]

私は靈界の交通を信じて居る。一種の精神状態があつたならば交通が出来ると云ふことを思つて居るが、若し宇宙の靈に接することが出来るならば、個人個人の靈にも接することが出来ると思ふ。斯う云ふことは漠然して居てわからぬと云ふ人は、狐を信じて行くと云ふ様になるのである。私共が何を対象にするかと云ふに、只宇宙の大精神を信ずると云ふのでは漠然して居るから、稲荷様とか天神様とか、又クリストとかを信じて行くのであるが、兎に角、態度が必要であると思ふ。

#### [相互の精神の疎通するとき]

次に、お互の精神が疎通するのは如何なる時であるかと云ふに、お互に親切をし合ひ、偽りを言はず、助け合ふ時であつて、其の反対に相対しては居るが、何となく隔てゝ居るのは精神の交通が出来て居らぬからであるから、一心同体と云ふ有様になるには至誠がなくはならぬ。親切が必要であると思ふ。

#### [宇宙の精神は近く自分の内にある]

宇宙の精神の交通も、之れに異なることはないと思ふ。宇宙の靈のあることを知らぬものでも、人と人との交通の出来て居る人は宇宙の靈と交通して居るのであると思ふ。宇宙の精神は遠き所にあるのではない。近く、自分の内にある。只概念のみの神を信じ望んで居たのではいかぬ。人と精神的に一致しなければだめである。夫れも、根本から一致して居るのでなくてはならぬ。自分を捨てて、他の人の為親切にして行くならば、宇宙の精神と接する態度が出来て居るから、自ら宇宙の靈と交通して居るのである。自分の態度が揃つてくると愉快である。

私は、宗教の力は只一つであると思ふ。無学な人は迷信でもよい。進歩した人は神でもよい。信仰の対象は知力の進歩と共に異なるが、精神的態度に於ては違ひはないのである。即ち、精神的態度の作り方によつて大宗教家も出るのである。非常なる力を得るのは精神的態度である。耶蘇が神を解することは、現今の学者より進んでは居なかつたにしても、其の態度の自ら異なつて居たことは確かである。故に無学の人でも、唯此の態度により信仰を得られるのである。

宇宙の力は完全に見なければならぬが、考へのみが進んで態度が出来ぬ時はいかぬ。宇宙の思想もあり精神的態度もあれば此の上はないので、之れを望むのである。現今は大宗教家を望んで居るのである。此の宗教的思想を養ふことも必要であるが、精神的態度もなくはならぬと思ふ。

#### [人と人との関係の上に進歩せんければならぬ]

今日は通俗的に私の信仰を話したのであるが、此の中にも多少の真理があると思ふ。人と人との関係の上に、進歩を見なければならぬと思ふ。人と人との間に表はれぬものは、偏頗な宗教的生活である。如何なる高尚な信仰でも、私共がそ

の態度をもつことについて充分つとめて居るならば得られぬことはないのである。之れだけは信仰も十分わからぬであらう。勿論得ることは出来ぬが、直接に聞くなり質問して欲しい。私はお互に其の態度が欲しいと思ふ。

[中表紙]

第二、三学年にて  
大正二年一月二十二日

大正二年一月二十二日

第二、三学年にて

(講話者不明)

[現代の精神生活に伴ふ危険]

現代の精神生活に伴ふ危険

第一に、自然科学の発展の結果として現実主義が勢力を得て、高尚なる理想を追求するに非ずして、現代の快楽、利益を計ると云ふ様な唯物主義、実利主義の盛んになりしこと。夫れは、科学の発展と云ふことは日常生活、交通運搬の上に限りに幸福を与へらるゝ故に、何人も道を歩むより自動車に乗りたい、汽車に乗るにも三等よりは一等に乗りたいと云ふ考へになり、そ一云ふ便利を得て居る人が幸福であると思はるゝ様になつたのである。之れは皆、実利主義から起る考へである。

例へば此に一人の学生がある。其の学生は貧しい中から勉強をして居る。夫れは理想主義から云へば立派な生活をして居るので、誰れの前に出ても恥づる事はないのに、自分自身は自炊生活をして居る故に誠に恥かしいことであると思ふのは、実利主義から心を動かさるゝ者である。

そ一云ふ風に一方に科学が進むと、一方にそ一云ふ積極的の危険が起る。夫れと共に、一方には又消極的に夫れを圧迫しよ一として、保守家の反動と云ふものが起る。之れはお互の国に現在ある自然科学の発達した結果、実利主義、唯物主義の盛んになるために、保守家が進歩を阻害することがある。

も一一つは、理想の衝突と云ふものがある。今言ふ通り、一方に科学が盛んになり、一方に保守家が反動をすると、其の中間に見識の狭い、どちらつかずの人があつて、そ一云ふ人は自分の一方をど一云ふ主義によつて支配しよ一かと迷つて了う。其処に、一つの目標となる様な精神的の力が無い。又、後から押して来るやうな力が無い。斯うなつて来ると、停滞不動になり、無進歩、無活動となつて来る。今日の日本でも科学の影響として実利主義、唯物論となり、女子教育の如きも一般の人は迷うて居るのである。独り女子教育のみならず、男子教育にしても去年頃から行きつまつて、何となう氣力を欠いて居る。その他、何事にしても日本では、恐れず意見を發表すると云ふ様な人がないのである。

我れ等のとつて進むべき光明の方面は何であるかと云ふと、理想主義と云ふものが掲げられて居るのである。十九世紀以来は実利主義に傾いて居つたのであるが、近頃は、ど一して

も理想主義でなければならぬと云ふことになつた。之れは新しい文明の光りであらう。殊に宗教、道德の如きは、新しい力を持つて迎へられて居る。人生に意義あらしむるものは宗教、思想であると云ふ様に考へらるゝので、其の他の事は是等のものの上に立てば間違ひはない。ど一しても宗教、道德は第一義であるとする。そ一して之れは人生の本義である。十九世紀以来、科学の進歩と共に実利を尊ぶ様になつたけれども、夫れだけではど一しても満足は出来ぬ。人生にはいろいろな災害や罪悪があるけれども、人生は夫れを切り抜けて行かねばならぬと云ふ希望ある方面が現れて来たのである。其の近代思想の中で、ど一云ふものが大切であるかと云ふと二つある。

即ち此の二十世紀に於て、人間がど一云ふ力によつて進歩するかと云ふと、一方は科学的の精神、一方は社会精神である。

科学的の精神とは個人の創意の自由である。科学は自由討究をして、夫れを自由に發表することが出来ねば発展することは出来ぬ。又社会精神と云ふのは、お互は同類である、お互は有機的關係を持つて居るもので、又此の關係を喜んで進めて行かうとするものである。そこで愛とか犠牲とか云ふ精神が起つて来る。一人の人格を多数の人格の為に捧ぐるのは実に尊いものであると云ふ考へ、之れは社会的意識、社会的良心である。

此の科学的の精神と社会的の精神とは詞をかへて言へば、個人主義と団体主義とである。昔は家族制度にしても団体生活ばかり重んぜられて、個人的の方面が重んぜられなかつた。けれども近年、此の両方が認められて来たのは新しい光明と言ふべきである。

西洋文明の跡に照らして、之れが後来の文明の原動力となつて行くことと云ふことを述べやう。西洋の古代文明と近代文明との大なる差異は何処にあるかと云ふと、古代文明は狹隘なる排他的の國家主義であつた。近代文明は人格尊重主義の文明で、其処が違ふのである。

[排他的文明]

排他的の文明とは如何なるものかと云ふと、希臘、羅馬の昔に溯つて言へば、國民の或る一部分が正当なる國民で、他の多くの者は奴隸の如く見做されたのである。故に一言で言へば、國家と云ふもののある一方には、國民と奴隸と云ふものがあつた。そ一して政治上の自由などは無論ない。之れが古代文明の特徴である。國家主義とは何かと云ふと、個々の國民は國家至上權と云ふものによつて一挙一動悉く束縛されて居る。之れが古代文明の大特徴である。そ一して現代主義に傾いて居つたのである。そ一云ふ風に希臘、羅馬に於ては、一階級の人が國民たる權利を持つて居る。其の一階級の人とは祖先を同じうするものが一団体として國家を征服した時には、其の団体が優勝國民となり、血を異にする者は奴隸とする。西洋の有名なる哲學者 Plato, Aristotle などが理想の國家を描き出だすにも、國家を作るには奴隸がなければならぬと考へて居つた。故に、人間を人格として見る思想は未だなかつたのである。國家主義を盛んに主張した点から見ても、古代の人は人格を尊重して居なかつたのである。

## [近代の文明]

然らば近代の文明はど一かと云ふと、人格尊重と云ふことにある。之れは何処から出たかと云ふと前からあつたのであるが、其の勢力を得て来たのは耶蘇教が盛んになつてからである。故に西洋文明を研究するには、ど一しても耶蘇教を知らねばならぬ。今、此に耶蘇教のことを詳しく言ふ暇はないが、耶蘇教では、人間は等しく神の子である。良心の自由がある。真理と信ずる処に従つて行く自由があるとする。そこで自由討究と云ふことが発達したのである。

従つて、真理と云ふものに対する処の考へが變つて来た。古代の人は真理と云ふものは一定、不変のものであつたけれども、今の人は一定、不変のものではないと考へる様になつた。昔の人は、真理は教会が握つて居るもので、固定的のものとして考へたけれども、今の人は、真理は固定、不動のものにあらずして、進歩、発達するものであると考へる様になつた。そこで自分は斯う信ずるけれども、あの人の説も亦取るべき所があらうと云ふ風に、他を容して行く処の寛容の態度が出来て、異端、邪説と云つて排斥することはやめる様になつた。けれども、何処迄も戦はないと云ふのが寛容ではない。真理と信ずる処は何処迄も戦つて、討究して行くがよい。何でも彼でも放つて置くとは云ふことではないけれども、異端を迫害するのは宜しくないのである。

昔は真理に対して無機物的な考へを持つて居つたが、今日は有機的な考へを持つ様になつた。或は之れを静的、動的と言つてもよい。併し個人が発展しなければ、全体の発展することは出来ぬ。昔は協同一致と云ふことは盛んに行はれたけれども、個人の自由が束縛されると進歩は出来ぬ。故に希臘は個人の自由が束縛された為に滅亡に歸したと云ふのである。

古代の文明は血族を重んずる。即ち、祖先崇拜の思想から起つて居る。之れは宗教的であるけれども、団体そのものを尊ぶ為めに排他的である。祖先崇拜の団体主義には、いろいろの美德がある。第一、国民の結合を強固にすること。第二、国家を非常に尊重すること。シセロの詞をひけば、敢て國の為に死する人にして始めて善人と稱することを得、と言つて居る。之れは日本でも希臘でも変ることではない。国家は個人から成り立つて居るけれども、其關係は有機的であると今日の社会学者は言ふが、其の考へは昔にもあつたのである。

今日の社会学者は全体の為に捧げねばならぬと言ふが、そ一云ふ要素は昔にもあつたのである。今日、社会国家を成すに必要であると云ふ社会意識が盛んであつたに拘らず、ギリ、ローマは何故に滅亡したか。之れが問題である。個人としても同じこと。私共は之れを國民に由つて学ぶことが出来るのである。人と共に事をする、柔順に協同して行くと云ふことが大切である。けれども、それだけでは発展は出来ぬ。今日の世界を指導して居るものは、チュートン種族であると言つてよい。何故にチュートン種族は榮え、ラテン種族は一步衰へたかと云ふと、一体個人でも國民でも、立派なる遺傳がなければ優秀なる個人又は國民とはなれないのである。併し其遺傳には變化がなくてはならぬ。動物や植物には変種と云ふ。人種も同じことである。勿論、植物などには變る力もあ

るが、又境遇がなければならぬ。チュートン種族は遺傳も宜しいかつた。けれども亦、よい境遇を与へなければあゝ云ふ発展は出来なかつたのである。彼れ等は獨逸の森林に自由な生活をして居つたから自由な思想を持ち、自由な活動をすることが出来たのである。そ一云ふ種族の上に耶蘇教が入つたから人格尊重主義が理解せられて、自由競争が行はるゝ様になつた。個人個人に工夫をして世の中に何か貢献すると云ふことを考へ、寛容主義が行はれたのである。そ一して耶蘇教の片方には同胞主義があり、又人格尊重主義が入つた為に、今日から一言で言へば、個人主義とでも言はうか、個人の自由、個人の創意と云ふものが起り、団体主義と個人主義と二つを打つて一団として、未だ完全とは言はれまいけれども、段々と発達して来たのである。

そして今は、近代文明の兩要素が段々發展しつゝある時代である。英國が勝つて、西班牙が負けたのは何故であらうか。西班牙は大艦隊を送つて来たので、英國は今にも蹂躪せらるゝかと思はれたにも拘らず英國の勝つたのは、個人個人の工夫と云ふものが発達して居る上に、将官と士卒との間に非常なる団結心があつた。英國は、此の個人の自由と団結心と云ふ近世文明の兩要素が発揮せられて居つたから勝つたので、之れは近世文明と同じことである。軍をするには、士卒と云ふものは大将の命令を守らねばならぬと同時に、士卒銘々が工面工夫をする力がなければならぬ。日本が露西亜に勝つたのも同じことである。故に私は、之れを自由共同と言ひたい。個人が、目的を個人の上において社会生活から離れて行動する様ならば、其の個人は進むことは出来ぬ。学生生活にしても、寮舎とか学校とか云ふ共同生活の上に目的をおいて、個人の自由を発揮して始めて其の自由には少しも危険がないのである。

古代國民の大欠点は狹隘、排他的の國家主義で、人格尊重と云ふ主義が欠けて居つたが、近代の文明では人格を尊んで、耶蘇教的に言へば、人間は誰れも神の子である、尊いものであると云ふ考へから、耶蘇教主義のものは博愛主義を以て立つて居る。古代に於ては他を圧迫したのであるが、近代に至つて個人を尊敬する様になり、其の不完全なる古代文明を捕ふ様になつたのは、耶蘇教とチュートン種族との結合と云ふことから起つたことであらうと考へらるゝ。

私はこれで、古代文明の特色、及び近代文明の特色を述べて、今日の文明には如何なる暗黒の方面があるか、光明の方面があるかと云ふことをざつと申したつもりであるが、一口に言へば、今日の文明は科學的精神と社會的精神と云ふものの調和、統一にあらうと思ふ。今後、世界の潮流は又如何なる要素を加へるかも知れぬけれども、日本では西洋の古代文明の長所であつたものを未だ持つて居る。故に、近代文明と調和して行かねばならぬ。さればとて、今日の日本と西洋の古代文明と同じことであるとは言はぬ。けれども今日の世界の問題は、即ち我が日本國の問題であると云ふことを忘れてはならぬ。



[中表紙]  
大学部一年及び予科に於て  
大正二年一月二十五日

大学部第一学年及び予科に於て  
大正二年一月二十五日

麻生学監

[修養の態度について]

此の前には、私自身が考へて居る処の修養の態度と云ふことを少し話しかけたのであるが、私は今のところ、そ一云ふ点について皆さんと考へることが大切であると考へますから猶今日も、そ一云ふことについて話さうと思ふ。此に皆さんは遠い地方から、中々むづかしい境遇から態々篋を負うて集まれたのである。何の為に此の学校に入るかと云ふことは、志を立て、郷里を出る時には解決がついて居つたのであらう。或は立派な文学者になりたいとか、立派な婦人になりたいとか、婦人の学者として立ちたいとか、いろいろの考へがあつたであらう。夫れが、此の学校へ入つてから段々とかはつて来たことと云ふことであるが、入学當時の目的の中で一番多いことは、名譽の爲であつた。只、あの人はえらいと言はれたい様な、つまらない名譽心の爲に来たのである。ところが此の学校へ入つてど一なるかと云ふと、第一に校長の實踐倫理で叩きこはされるのである。校長もいろいろのことに心配して居られますが、其の中で、此の皆さんを土台から教育しなければならぬと云ふことが昼夜も分たぬ苦心である。

[互に師となり得るものである]

孟子も、輕々しく人の師となる勿れ、と言つて居る。人の師となることは容易なことではない。道を説くは易し、とも言ふけれども、道を説くのは容易ではない。人の上に立つて師となつて道を説くことは中々容易に出来ることではないが、又一方から言ふと、何人も師となることが出来るのである。越後の人で、藤田寛太郎と云ふ人のお子さんが病氣になつて病院に入れてあつたが、一種の迷信があつて、夫れによつて病氣を治さうとせられたのである。けれども子どもは只衰弱するばかりで、と一と一なくなつたのである。此のお方の書かれたものに、自分は度々子供に教へられたことがあると言つて居る。子どもでも大人の師となることがある。熱心に人の爲に働いて居るならば、無言の間に人に感化を及ぼすのである。故に互に師となることが出来る。詞をかへて言へば、世の中には互に感化を及ぼすものであると云ふことになる。そこで今日は皆さんに、互に師であると云ふこと、互によい刺激をしあはねばならぬと云ふことを申したい。

私の居つた同志社の小使の中に、五平と云ふ者があつた。私共も、この小使には始終叱られて居つた。ストーヴの焼き方がわるいとか何とか言はれて居つたが、夫れは五平の心には学校と云ふことよりほかない。誠に忠実である故に、数代の学生を感化したものである。そこで死んでも金を集めたりなどして、多くの学生達に非常に可愛がられたのである。下女などの中でも、私共に感化を与へるものは少なくない。

皆さんは入学後、も一彼れは是れ一年になるが、自分は冷淡

ではなかつたらうか、親切であつたかど一かと云ふことを考へて見なければならぬ。湯の中に一滴のものが加はつても、感化がないとは言はれない。自分のやうなつまらぬ者と思ふかも知れないが、一人でも冷淡なものがあると組全体へ影響するのである。皆さんの中、一人でも熱心であつたならば、必ず組全体に影響を及ぼすものである。猫一匹の爲でも家庭はかはつて来る。其の猫が大きくなると、又かはつて来る。子どもが一人出来たと云ふことによつても、家庭はずつかりかはつて来るのである。況んや其の外の者によつて又かはるのは言ふ迄もない。

故に皆さんは今、直接に人を教へて居るのではない。人を説き勧めることは出来ないと思ふかも知れぬけれども、斯う云ふ風に、互に影響しあつて居るのである。故に私は、何時でも社会の先覚者と云ふものもちつとしつかりして貰ひたいと思ふ。けれども私共の理想のやうにはならないのである。例へば政治界の事にしても、私は小さな變動は悲しまないのである。けれども今迄は斯ういふ人が議會の中にあるから、議員の中にあるから心強いと思つて居つたけれども、今日は其の様な立派な政治家は実に稀である。

何故に政治家の中にも節操を売るものがあるかと云ふと、誠に日本などでは氣の毒なことがある。夫れは政治上の事にたづさはつたとて、俸給の得らるゝものではない。自分の財産を抛つて國家の事に使ひ果さねばならぬ。そ一して妻は貧に泣き、児は飢に泣くと云ふことになる。そこで之れは困つたものであると思つて、友人の所へ相談に行くと、宜しい、少しは出さうと言はるゝ。之れは嬉しいことであると思つて、其の助けを受ける。ところが夫れは、早くから官僚の金を回されてあつたので、友人の金ではないことがわかる。そ一して政党を作らうとすると、今度の党派に入つてくれないかと云ふことになる。此に至つて、従はざることを得ない。之れをさして、売られると言ふのである。私共は、天下の志士と言はる程の人が斯うなるのは実に惜しいことであると思ふにつけて、斯う云ふ人々の爲に私共も、も少し同情をして尊敬すればよかつたのに、そ一はせずして天下の事に奔走する処の志士をして斯くの如く墮落せしめたのは、私共にも責めがあると思ふ。故に、天下の人総てがほんとの事がわかつて、斯う云ふ廉潔の人々を尊敬して、其の廉潔を全うせしめねばならぬ。人は何事でも友達のところへ行くのであるから、友達と云ふものが誠に人をかへるのである。そ一して誤解の批評と云ふものが又青年の心を感はすので、政治界の先聲が青年の心を支配するのである。

斯う云ふ風に政界であらうと、学校であらうと、斯う云ふ風に感化を与へるものである。

学校の中の空氣は誰れが作るかと云ふと、勿論、直接教育に従事して居るものの感化もあるが、友達同志の影響と云ふものが又、非常なものである。故にど一か皆さん、お互に善い影響を与へて貰ひたいと思ふ。之れを段々拵げて考へて見ると、實は人間の一生の仕事である。あなた方が若し悪い影響を与へて居たならば、満足して死ぬることは出来ぬ。人生を真劍に渡つて居るならば何時も満足して暮さるゝのである。

[如何なる人が最も尊敬せられるか]

此の長い歴史に於て如何なる人が最も尊ばれて居るかと云ふと、人の為に善い感化を及ぼした人が最も尊敬せられて居るのである。即ち東洋では孔子、西洋ではキリスト、ソクラテスである。ソクラテスにしても、人を離れてソクラテス自身にどんなよい処があるかと云ふと、そーではない。釋尊も浄飯大王の要求に背いて立派なる宮殿を出て、賢明なる妻を捨て、愛すべき子どもを捨て、出家、沙門の身となられた。多くの人が悲しむのは姑息の悲しみで、釋尊は衆生の悲しみを去ることが目的であつたのである。

[道は近きにある]

昔から東洋でも言ふ通り、道は近きにあり、道は自分の隣に席を占めて居る友達の中にある。即ち他の人に満足を持たしめて行く人がある。之れは小さなキリストである、小さな釋迦であると思ふ。若し高尚な哲学を研究しなければ道が行はれないと云ふならば、間違ひである。大哲学の思想に触れて居るからと云つて、道を行はぬ人は沢山ある。故に高遠な思想を研究するかわるいとは言はぬけれども、道は必ずしも高遠な思想を調べて後、行はるゝものではない。

私の愛吟に斯う云ふ詩がある。

盡日尋春不見春 芒鞋踏遍隴頭雲  
歸來笑撚梅花嗅 春在枝頭已十分

之れは、道は近きにある、心の中にあると云ふことを示したものである。支那では、孔子を以て天下第一等の人物とし、其の次に孟子を称へるのであるが、孔子も孟子も春を心の中に求めた人である。従来、孔孟の教へを学ぶ人が、孔子、孟子の教へには高遠な道を説いてないと云ふ様に考へて居つたが、決してそーではない。孔夫子の如きも、確かに時間、空間を超越した処の道を信じて居つたので、決して第二義ばかりのものではない。御覧なさい。よい書物が沢山出来るけれども、其の寿命は長くは続かない。けれども孔孟の教へは、何時までも尊まれるのである。クライスト、ソクラテス、釋尊のも、そーである。

[孟子の詞について]

孟子の詞に、盡其心者 知其性也 知其性 則知天矣 存其心 養其性 所以事天也、と云ふことがあります。之れは只二行の詞であるけれども、之れを敷衍すれば、千頁にも二千頁にもなるのである。之れはどー云ふ事かと云ふと、真心のあらん限りを尽して一生懸命になると、人間の性と云ふものがわかる。其の人性を知れば天がわかると云ふことで、只天は蒼々たるもの、天は理なりなど言つてもわからないのである。故に自分を知らなければ、天を知ることは出来ぬ。夫れで孟子はちゃんと夫れを知つて居るから、万物皆備於我矣、と言つた。之れは、我れは小宇宙であるから万物が皆備はつて居ると云ふこと。心を尽すと云ふは何に尽すかと云ふと、金石に尽しても草木に尽してもよいけれども、一番我れに近い処の人間に尽さねばならぬ。そーして、反身而誠樂莫大焉、と言はれたのである。

[釋迦について]

釋尊がお生れになつた時、相者に見せると、出世の相がある

と云ふので、父王は出家せられては大変だとおぼしめして、立派な宮殿を作り、立派な王妃を迎へ、出来るだけの歡樂を尽さしめられた。けれども釋尊の心は楽しまないで、衆生済度と云ふことに心を尽すのを第一の楽しみとせられたのである。

[孟子の詞の浩然之氣について]

孟子は、君子有三樂 而王天下 不與存焉 父母俱存 兄弟無故 一樂也 仰不愧於天 俯不忤於人 二樂也 得天下英才而教育之 三樂也、と言はれました。

之れは今日の倫理学から云ふと、自我実現と云ふことである。私の考へでは、孟子は一種の修養法を持つて居つて、天の氣と通ずると云ふ考へであつたと思ふ。孟子は、我四十不動心、と言はれた。

或る時、弟子と問答せらるゝ中、先生は何に一番長じておいでになりますかと尋ねた時の詞に、我善養吾浩然之氣、と答へられたので、敢問 何謂浩然之氣、と何つたところが、曰 難言也 其為氣也 至大至剛 以直養而無害 則塞于天地之間、と言はれたのである。

真心を以て養へば天地の間に塞がると云ふのであるから、人の性と云ふものは、一生懸命に養ふと神に通ずる事が出来るのである。此の浩然之氣は、どーして養ふかと云ふと、直きを以て養はねばならぬ。此の態度である。直きと云ふ字が書いてあるが、之れは真心と云ふことで、真面目なる心を以て養はねばならぬ。自分が真理と信ずることは、何処までも追求して行かねばならぬと云ふのである。誠と云ふものの中には熱心があり、求めると云ふことがある。

仏教にも、どのやうな苦しい思ひをしても、法の道を求めねばならぬと云ふことがある。キリスト教にも、求むれば与へらるゝと云ふことがある。又、飢え渴く如く求めたならば、救はると云ふことがある。つまり、孰れの道にしても自分から求めねばならぬ。生命の水は湧いて居るのであるけれども、皆さんが口を開いて飲まなければ得られないのである。求めて働かねば、着ることも住まふことも出来ぬ。精神上の事にしても、肉体の生命にしても同じことで、ここが実に面白いのである。

肉体の欠乏を充たすこともそーであるが、精神の欠乏を見出だして、之れを満足せしむる処の要求を感じて、之れを満たすことに努むる者が始めて大いなる発達を遂げるのである。肉体の欠乏は有機感覚でわかるのであるが、精神の欠乏を満たすには精神の目を持つて居なければならぬ。所謂、心の目が開けなければ精神の欠乏を感じない。そーすると、もー之れで精神も充分であると思ふ様になる。故に、人間に求むべきものは肉体上の事ではなく、精神の事である。之れは私共が謙遜なる心を以て、昔から盡の教へを垂れた人の教へに耳を傾けることである。仏教にも、昔の聖者、即ち諸仏の教へに耳を傾けねばならぬと云つてある。耳を傾けると云つても、自分の心と昔の聖者の教へとを比べて見ると、非常なる違ひがある。詞ではわかつて居るけれども、ほんとの事はわからない程の懸隔がある。わからぬと云ふのは程度が低いと云ふことである。あなた方が生涯の仕事を定むるにも、自分だけ

の事を考へてはわかるものでない。必ず他人と比べて始めて自分の適、不適を知り、聖者の教へに照らして自分の程度の低いことを悟らねばならぬ。

〔聖賢の書により得て夫れを實行して見よ〕

故に、生命を見出だすには自分の心の中をあさらねばならぬ。そ—して其の生命を養ふには、第一等の人の書物にかへらねば間違ひである。夫れを先づ第一に謙遜に、斯う云ふ尊い書物によつて聖人の教へを聞き、且つ夫れを實行しなければならぬ。行つて見ると愈々聖人の高きを知り、自分の低きを知ることが出来る。最前にも申した様に皆さんはお互に師であるから、自分の同級生にも、部屋の人にも、どれだけかの感化を与へらるゝ様に實行して見るがよい。行つて見れば、実に自分の力の足りないことがわかつて、涙が出て来るのである。夫れから漸う入り口がわかるのである。孔子は四十にして漸う感はぬ様になり、孟子は四十になつて志を動かさない様になることが出来たので、お互が一足飛びにえらくなる筈はない。

〔真理を研究する態度〕

今お互の足りないことは、求める力ではないかと思ふ。道を説いて居る人は皆、其処から出発するのである。故に、本から始めねばならぬ。今日の精神修養は、ど—しても釋迦とか孔子とか云ふ処に溯らねばならぬ。真理を研究するには、真心、謙遜、清いと云ふことが大切で、此の態度が最も大切なものである。

仏教にも、

淨心の水器には影顯れざることなし 常に前に現るる但破器濁心の衆生は如来法身の影像を見ず (華嚴經)  
橋慢と熨と懈怠とは以て此法を信じ難し 宿世に諸佛を見しものは是の如きの教を楽聴かん (無量壽經)

若し信解して橋慢を離れたるものは心を発して即ち如来を見奉ることを得 若し詭曲不淨の心あらば億劫尋求むるも値遇ひ奉ること難し (華嚴經)

と言つてある。之れは、クリスト教でも儒教でも同じことで、之れがなければ幾ら人が声をからして話しても、耳に入るものではない。

〔精神修養の道に進む様 一層の努力を望む〕

私が京都へ行くとき何時も感ずるのは、知恩院の鐘である。一寸うてば、ごとと鳴る。力を入れてうてば大きな音が出る。皆さんの熱心の程度によつて、力が出るのである。科学の書、殊に医学の事など書いたものを読んで見ると、一つの薬を発明する為に、幾人毒を飲んで居るかも知れぬ。もはや一年が終つて、皆さんが二年生となり、新しい人が入つて来るについても、一日も早く精神修養の道に進むことの出来る様に、も—ヶ月位残つて居りますが、此の間に皆さんが一層熱心に切磋琢磨して進んで貰ひたい。も—直に校長も歸られますので、校長も亦考へを以て導かるゝでせうから、夫れ迄に出来るだけ力を合せて進んで欲しいと思ひます。

〔中表紙〕

第二、三学年にて

大正二年一月二十九日

大正二年一月二十九日

第二、三学年にて

(講話者不明)

今まで数回、私が話しましたことは、是れから實際にお互の身の上に就いて考へて見たい。私が西洋の思想の大体と、又世界全般における今日に至る世界思想界の大勢とをかいつまんで申しましたが、之れは他の訳ではない。個人は人類の縮図であると言へば、私共の行くべき道も此の人類の経験によつてわかるのである。そこで今日は、斯う云ふ世に処する婦人の覚悟と云ふことについて申したい。

〔婦人の生活の種類 第一、自営自活の婦人〕

一番初めに私は、主として西洋文明の話をした時に經濟上の事を話した。故に、其の方面から入りたい。

先づお互に注目すべきは科学の進歩、即ち發明、発見によつて富みが激増したと云ふことから申したいのである。そこで婦人は、ど—云ふ生活をして居るかと言ふことから考へて見ると、第一、自営、自活の婦人と云ふものがある。夫れを又小別けをすると、

(1) 実業的婦人、之れは女工などである。

(2) 奉公的婦人と云ふのは下女とか小間使の如きもので、家庭の仕事をして居るものを云ふ。

(3) 専門的婦人、之れは専門的教育を受けたもので、医者、看護婦、教師、音楽家、官公吏の婦人は皆、此の種である。

〔第二、共稼ぎの婦人〕

第二、共稼ぎの婦人。之れは一家を持つて居つて、共稼ぎで家族を支へて行く婦人の事。

〔第三、閑暇的婦人〕

第三、閑暇的婦人。之れは全くひまな婦人で、生活には關係はない。一家の主婦でも家の中で裁縫もし、料理もし、子供の教育もする様な人であるならば、私は之れを共稼ぎの婦人と言ふのであるが、第三のはひまであるから、社会の公共事業にたづさはることも出来るし、教育、慈善などにも尽す方がよいと思ふ。

第四、寄生的婦人。之れは社会事業に奔走するのでもなく、生活は全く寄生して居るので、西洋で云へば社交会の婦人などは之れに入るのである。

婦人の覚悟と云つても随分広いので、先づ人を指導すべき位地の者と指導されるべきものと二つに分けて、そ—して指導すべき位地に居る婦人と云ふことを申したい。

先づ經濟の方面から、富みの増加と云ふことについて思ひ出だすことは、産業の革命と云ふことから富みが激増した事である。婦人は元來、富みの産出者であつた。消費とは其の産出したものを消費するので、今の消費とは意味が違ふのである。昔の婦人は、家庭の内にあつても物品を拵へて居つたので、西洋の御飯は日本のパンであると云ふことがある。日本では一朝毎に御飯を炊いで居るが、何時かは御飯をよそ

から運んで来る様になるかも知れぬ。私共の子供の頃には、味噌でも醤油でも大概のものは家々に拵へて居つたのであるが、今日は全くかはつて、婦人は消費者となつたのである。此の消費者と云ふ責任が大変重いのである。そこで婦人は国家の富みと云ふものに対して、如何なる責任をもつて居るものであるかと云ふことを考へねばならぬ。西洋の文明を日本に輸入したのは全く経済上の関係で、精神上の問題は其のあとについて来たのである。そ一云ふことは昔からあつて、衣食足つて礼節を知ると云ふことがある。何故に外国から通商貿易を迫つて来たかと云ふと経済問題で、耶蘇教は其のあとから金の為に溺るなど言つて来たのである。

西園寺内閣は何故、瓦解したかと云ふと、財政整理問題から、金があればあの様にはならなかつたのである。何故、議員が節操を売るかと云ふと、是れ又金の問題である。此の頃、桜楓会で生産の方面を調べておいでになる。之れは誠によいことである。婦人の副業と云ふことから、如何に生産して行かると云ふことを調ぶのはよいことである。

私は西洋に居た頃、消費者同盟会 (Consumer league) と云ふものを見ましたが、西洋では斯う云ふ風に研究して居るのである。経済と云ふと皆さんが直ぐ考へるのは儉約と云ふことであるが、夫れも大切である。此の頃小学校でも、質素儉約と云ふ事を奨励して居るから、段々子供達の衣服でも質素になりつゝあることがわかるであらうと思ふ。之れは高等女学校でも、大学部でも必要なことである。

質素儉約と云へば、有効と云ふことが直ぐ考へらるゝ。そこで食物は衛生、滋養と云ふ方から考へて、金を使ふのである。消費者としての婦人は、食物の衛生、滋養と云ふことから考へて、食物の生産を支配するのである。自分は日本国家の為、日本国民の為に生産を支配する処の大切な一員である。故に、大切な仕事をして居ると云ふことを知らねばならぬ。衣服も其の通りで、有効に金を使はねばならぬ。之れは食物のやうに家庭の内にばかりあるのではなく、社会の表にあらはるゝもの故、風儀上、道徳上に大なる関係を持つて居るのである。

西洋で最もやかましい問題は、牛乳である。消費の方から言ふと、牛乳は子どもに病原を伝染するもので、其の他、酒とか煙草とか云ふものは皆、婦人に関係がある。殊に、そ一云ふことが著しく顕れて来たのは、今度アメリカで婦人に州の代議士となるべき選挙権を与へたことで、夫れに由つて着々影響が表れて来るのである。洗濯の如きも、婦人が洗濯屋の視察委員となつて回つて行つて、斯う云ふことは衛生に叶はぬ、かう改めねばならぬと云ふ風にして行くから、非常に變つて行くのである。西洋では家政学を教へるにしても、物の買ひ方から教へて行く。夫れは、婦人と云ふものは消費者であるからである。

日本にも国民全体の為に改めねばならぬことが見のがされて居ることが多い。夫れ等も、もちつと有効に消費せらるゝ様にならねばならぬ。

日本では教育も未だ進んで居らず、社会の富みの程度も遅れて居るから、アメリカの婦人などに比べることは出来ない

けれども、お互は未だ消費者としての義務、本務と云ふものを幾らも尽して居ないと云ふことがわかるであらう。そこで先づ第一に、日本は日本の社会を本にして、日本婦人が日本の製造をどれ位支配して改良して行かると云ふこと、之れはど一しても調べて行かねばならぬことと思ふ。皆さんは直接研究する人ではないけれども、将来卒業後、桜楓会にそ一云ふ研究部があるならば、一緒に研究し、又材料を与へて行くとよいと思ふ。桜楓会でも近頃は、段々實際について研究せらるゝは誠に喜ばしいことで、只書物にばかりよるのではなく、實際社会の事業について調べねばならぬと思ふ。皆さんは学校に於ける消費者として、日本は貧乏国であると云ふことは、も一調べるには及ばない。日本は現在、非常なる貧乏国であることはわかつて居るから、如何にして生産すべきかと云ふことを研究するがよい。之れは学校生活にも必要であるが、只それだけではいけない。實際社会に出で、ど一云ふ人物になるかと云ふことを考へねばならぬ。百姓が桶や鋤を買ふのは生産の為の消費であるが、其の百姓のおかみさんが米や味噌を買ふのは消費の為の消費である。故に、そ一云ふことではなく、婦人が消費者であると云ふことは、只自分のうちの金を成るべく使はないと云ふだけでなく、社会全体の為を考へて段々有効なことをして行くならば、遂には、法律をもかへることが出来るのである。

そ一して経済の上から言つても大切なことは自制力である。自分の快樂の為に人の迷惑を顧みないと云ふ風ではいけない。今日のやうになつたのは科学万能の弊で、科学と云ふものは感覚主義で、實際自分の五官に触るゝものを真理として、其の他の事はおいて問はないのである。其の結果として、総て私共の感官的幸福と云ふものが増進したので、其の感官の快樂を得るものが最も幸福な人と考へられ、ひいて富みと云ふものが大層尊ばるゝ様になり、虚栄と云ふものを食べる様になつたのである。之れは科学の主義とは正反対である。日本の富の門戸はコンモンドル・ペリリが開いたのである。ペリリは、感官主義で我が国の幸福を増進したのであるけれども、其のあとで宣教師と云ふものが入つて来た。之れは理想主義の如きもので、此の二つが相俟つて自制の徳となるのである。徳育と云ふことから言つても、西洋でも修身科を特別に設けて、三十年来教育して居る。けれども此の自制の徳を養はしむることは出来ず、多々益々、虚栄に陥つて居る。そこで、ど一しても宗教を入れねばならぬと云ふことになつて、哲学で言ふ理想主義の如き宗教と提携しなければ、ど一しても徳育を全うすることは出来ぬと云ふことになつたのである。日本でも、教育勅語と云ふものを二十年前に下されたけれども、其の實際は中々進まない。故に三教会同と云ふ様なものが起つたのは、東西共に同じ訳である。

そこで西洋でも、科学の生み出した富みを減すのではなく、此の富みを如何にすれば有効に使ふことが出来るかと云ふことを着々研究して居るのである。之れはどこで教へると云ふと、ど一しても宗教から入らねばならぬと云ふことになる。此に於て人生に於ける確信を与へねばならぬと云ふことになる。即ち、富みと云ふことから出発して、此の富みを

如何に使ふかと云ふこと、そ一して社会の為によく使ふと云ふことを研究して行くと、ど一しても宗教問題になる。之れは一日や二日考へたことではなく、三十年来考へたことである。そこで、ほんとの意味の消費者としての婦人にしても、普通に言ふ儉約にしても、只一時儉約をしなければならぬと思つただけではいけない。故に、婦人が消費者として尽す方面から云つても、精神界に立たねばならぬ。

皆さんが今日、学校の中では幾ら儉約をしても、卒業して社会に出れば直ぐ贅沢をする様なことではいけない。故に、ど一しても教育を受けたものは、人に精神をうつす様にならねばならぬ。人格からうつさねばならぬ。実行に由つて、生活に由つて感化を与へねばならぬ。

此の経済の消費と云ふことは今日、世界の何処に於ても、婦人の一大責務として教育をして居るのである。故に、皆さんが之れを軽く見てはならぬ。ど一してもお互は其処にまで進んで行かねばならぬと思ふ。

現代の外部生活は主として経済に支配せられて居つて、之れには又、いろいろな問題がある。

[中表紙]

大学部一年及び予科に於て

大正二年二月一日

大正二年二月一日

第一学年及び予科に於て

麻生学監

[肉体的要求と精神的要求とについて]

前の問題に、精神的の要求を書いて貰いましたが、何故私がそ一云ふ問題を出したかと云ふことは又別の話であるが、私共の肉体上の要求は毎日なくてはならぬ処の飲食、睡眠、休息等で、ど一しても欠く可からざることである。故に、此の為に必要を感じて、此の要求を相当に満たさない者はない。皆さんは父母兄弟から学資を仕送つて貰つて、其の要求を満たして居る。其の金はどれだけの苦心の結果で出来たかと云ふことは、或は知らない人があるかも知れぬ。けれども皆さんは知つても知らなくても、其の金を使つて要求を満たすことが出来て誠に幸である。然るに万一、此の要求を満たさねば忽ち死んで了うから、是非とも之れを満たさうとする。ところが精神的生命と云ふものは非常に粘着力を持つて居るから、忽ちに死ぬるものでない。夫れと同時に、非常に瘦せ細つて衰弱することもあれば、又元気を回復することもある。そ一して余程深く考へなければ其の必要を感じなくなるのである。肉体は精神の舍る処の宮殿であるから、其の宮殿の保存をも勉めなければ精神は発達するものではないが、実は人間の主力と云ふものは、精神の方面に尽さしむる様に出て居るのである。若しも人間の精神の要求が直ぐわかつて、夫れをよく作り立てゝ行きさへすれば、立派に発達せらるゝ様に出来て居るならば、誠に楽なことである。けれども、そ一云ふ風

には作られてない。故に余程気をつけねばならぬ。

然るに精神の要求と云ふものは不注意に葬られ易いもので、酔生夢死の生涯を送る人などは、境遇のまにまに動かされて行くのみならず、社会的境遇によつて動かさるゝのである。社会的境遇とは輿論で、自分の住まふ周囲の人の考へに由つて支配せられて一身を処置して行くことが多い。之れが普通の人の生活である。斯う云ふ人の行ひは、他力を与へられた要求によつて変つて行くから、其の要求精神等は不変でない。始終他人の批評を考へるから、自分の考へでない。故に何時も他の批評によつて動く。反省的態度からも一つ一つふりかへつて自分の内を省みることは出来ないのである。野蛮生活は輿論、伝説の生活であるから、自ら省みることはない。即ち世の中に漂うて居る生活である。夫れで、皆さんがど一云ふことを考へて居るか云ふことを、人にも表さる様に書いて見る必要がある。故に私に書いて貰つたのも誠に有益なことであるが、ほんとは斯う云ふことが真剣に要求せらるゝ様な人にならねばならぬ。

[切実な要求を感じなければならぬ]

も一つ必要なことは、人間は要求がなければど一しても進歩することは出来ぬ。人間に物質界の要求があればこそ、衣食住の改良と云ふことがおこり、発明、発見と云ふことがおこるのである。経済の事にしても、要求なしに経済界の進歩、発展と云ふことの出来るものではない。肉体の要求を満たさんが為に経済界の進歩、発展がある様に、精神界にも斯うありたいと云ふ様に切実なる要求を感じなければならぬ。

要求なくして進まうとするのは、石炭なくして汽車を進めやうとすると同じことである。故に私は精神の要求、欠乏を感じるやうにありたいと思ふ。其の要求にも正しいものと間違つたものとあり、大なるものと小なるものとあるが、最も大切なことは要求を感じることである。精神的要求にもいろいろあつて、人から褒められたい、よく見られたいと云ふ要求もあるけれども、私共の目から見れば、夫れ等はほんとのものではなく、何か誤らない処のものが得たいに違ひない。

[最も尊い要求を得るにはど一したら善いであらうか]

此の世の中に精神的存在物として最も尊い要求は何であらうか。又夫れを得るにはど一したら善からうかと云ふことについて皆さんお考へでありませうが、私は之れは大切なことと思ふ。此の要求を起すことも、中々容易ではない。精神界の要求を切実に見だして、之れを満たすことが掌をかへす様に出来ると思ふならば、夫れは一時の感じてあつて、直ぐ出来る様には作られてないのである。

けれども、何人も深く考へて見るならば、心の奥底に於て幽かなる影がある。しかも夫れは蒼白いやうなものである。太陽は之れを照らすか、地平線上、幽かに見える夫れをひき上げるのは、自分の努力である。其の蒼白様な幽かなものに自分で色をつけねばならぬ。Newtonは林檎の落つるさまを見て、引力を発見したと云ふ。けれども、何も考へないでぼんやりして居つたNewtonの頭に、ふわりと大思想が浮ぶ筈はなく、之れは苦心惨憺たる努力の結果であると言はねばならぬ。

[皆さんの心の中に幽かに浮んで居るものを養ひ立てゝ行くことが精神事業である]

今皆さんの心の中に幽かなものが浮んで居る。夫れを養ひ立てること、之れが精神的事業である。故に見出だしたからと云つて、夫れが直ぐ出来上つたのではない。近頃よく言ふ様に、人間は銘々創造して行かねばならぬ。ほんとに切実な要求を見出だして、個人個人の人格を立派に作り立てゝ行くことが、宇宙の目的を実現する訳であると云ふが、之れは余程研究せねばならぬ高尚な問題である。併しお互人間は、此の精神的要求を見出だして養ひ立てゝ行くことを毎日の務めとしなければならぬ。

[精神的要求を養ひ立てるには努力を以てす]

そ一して之れが、ほんとの精神的要求の一番尊いものであるとわかつたならば、之れを養ふに努力を以てしなければならぬ。宇宙の進化も非常な努力である。故に進化論者は、之れを生存競争、適者生存とも言ふのである。努力生活はお互が決心をしたからと云つて、一足飛びのやうな成功を望むべきものではない。Goethe と云ふ逸逸の大詩人の書いた「ファウスト」は、彼れが一生涯の大傑作と称せられて居るが、之れは Goethe が「ファウスト」を書かうと思つてから、二十年の歳月を積んだ処の努力の結果であることを忘れてはならぬ。

Darwin の種の起源と云ふ書物は、二十五年の星霜を経て初めて公にしたものである。其の初めは丁度、あなた方の要求がぼんやり見出だされた様なものであるが、夫れを段々育て上げて行けば夫れでよい。お互の修養上、覚えておかねばならぬことは、Darwin の子息のチャールズ・ダウインと云ふ人の書いたものに、自分の父は一つの要求が起ると、夫れを仕上げる迄努力を続けるとある。Darwin 自身も夫れに似たことを書いて居るのである。

[努力は努力を産んで成長す]

一つの事に注意をし初めたなら、仕上げる迄やめない。之れが大切である。総て精神上の事と云ふものは、努力するより外はない。そ一して、精神的の力と云ふものは努力する程殖えるのである。故に、努力は努力を産んで成長して行くのである。愛と云つても書物を読み、小説を読んで、人はかはいさうである、愛すべきものであると云ふ感情を養ふのは、Sentimentalism と云ふのである。感情ばかりではいけない。愛を成長せしむるには、愛のありつたけを出して人に捧げるのである。そ一すると、愛は後から後から殖えて来る。知力と云ふものは考へれば考へる程殖えて来るものであるから、努力は努力する程、進んで来る。之れより外に道はない。

[物に負けない人は如何なる決心をするであらう]

皆さんの書いたものには、私は意志が弱いから、ど一かして意志の力を養ひたいとある。之れは、意志が活動するより外に強くなる道はない。故に毎日毎日努力して、実行して行かねばならぬ。精神の発展は努力の賜である。

渴しても盗泉の水は飲まないと云ふのは努力の強い人で、物に負けない人である。負けないと云ふのは、善いことを見出だして夫れを作り上げることに熱中することで、只欠点を直すと云ふ消極のことではない。そこで積極に、目的がいつ

きりして来なければならぬ。一生懸命に精神の力を養ふと、臆病、卑怯と云ふ様なことはやまつて来る。千万人といへども我れ行かん、と云ふことがある。世人が何と言はうと、先生が何と言はうと構はない。自分の真理と思ふことは断行して行かなければならぬと、斯う決心すれば生命も惜しむに足らないのである。夫れには礼儀と云ふこともある。人の批評と云ふものも省みなければならぬ。併し之れがほんどであると信ずるならば、人が何と言はうと夫れに應ずると云ふことはない。私共の生涯と云ふものは、一つの目的に統一せられねばならぬ。此の前申した、浩然之氣を養ふとは、勇気を養ふと云ふことである。之れを養ふには直きを以てせねばならぬ。夫れは私の考へから言へば、宇宙には一つの力があると思ふ。努力して真心を以て進むならば、此の大なる力に通ずることが出来る。故に益々力が殖えて来るのである。そ一すると心が大きくなって、何も恐るゝことはなくなつて来る。故に人間には産みの苦しみと与へてある。お互は産みの苦しみに由つて創造して行かねばならぬ。

誰れでもふりかへつて見れば、真心が足りない。も一一つは努力が足りないと思ふことを感ぜずには居られないであらう。至誠になつて、是非なくてはならぬ所の要求を成長せしむることに勉めて居るならば、段々大きくなって進歩、発展することが出来るのである。故に精神的生活をして居るならば努力しなくてはならぬ。皆さんのよく言ふ詞に、自由の人と云ふことがある。之れは、自分の欲にひかされない様になり、精神の要求を自由に満たすことが出来る様になつたならば始めて、自由の人間になることが出来る。感化力のある人とは、どんなものであらうか。此にえらい人があつて、誰れでも其の精神をとつて行かるゝものならば、いと易いことであるけれども、そ一はいかぬ。銘々自分の力をとつて行かねば効果は上らない。故に精神的の事業は六かしいのである。銘々の力で努力しなければならぬものを、只一場の演説で自分の思ふ通りに感化すると云ふことは、釋迦でも Christ でも出来ないのである。故に、ど一しても皆さん銘々の力とつて進まねばならぬ。

[宇宙には偉大なる力がある]

私は、宇宙に一つの偉大なる力があると思ふ。そ一して夫れは、銘々受けて行かるゝものであると云ふことを信じて居る。故に第一に、精神的要求を見出ださねばならぬ。第二は、其の力は誠にたよりない様に思はるゝけれども、夫れは自ら養ひ立てゝ行かねばならぬ。併し私が自分にせよと言つても、人の話は聞かなくてもよい、本は読まなくてもよいと云ふことではない。大に書物も読むがよい。人の話しも聞くがよい。けれども夫れだけでは、龍を描いて眼を点じないと同じことである。如何なる自力教でも他力があり、如何なる他力教でも自力がある。私はど一しても、宇宙には大なる力があると思ふ。故に真心を持つて進めば段々に其の力に触れて、増大して行くものである。西洋では地獄に行く路は善良なる決心と云ふ石でもつて石畳みが出来て居ると言ひ、日本では耳が極楽に行くと言ふ。皆同じことで、明日から実行しますではいけない。不断の努力を続けることが大切である。

[真の勇気を養はねばならぬ]

夫れで皆さんに、勇気を養へと言ふ。其の勇氣と云ふものは只出て来るものではない。心のすわり処をつけて、一心不乱に努力するのである。血氣の勇と云ふものは修養のないものにもあることで、其の意味ではない。ほんたうの勇氣と云ふものは、意志を使ふより外に得らるゝものではない。総て物事は一番の初めは、さ程むつかしくない。少し続けて行くと中々困難であるが、ここで迷うてはならぬ。失望してはならぬ。そーして自ら卑下してはならぬ。自分達の生涯は一生涯、努力することである。

[黙想は必要である]

さて、此の意志を養ふと云ふことは、心理学上などから言ふといろいろあつて、皆さんのして居ることもあらう。書物などには黙想と云ふことがある。毎日自分が努力して居るかど一か、真面目に勉強して居るかど一かと云ふこと。及び、今日は何一云ふ事をしやうかと云ふことを朝早く考へる。そーして夜は又、今日一日を如何に暮したかと云ふこと、及び今日は何一云ふ事をしたかと云ふ様なことを考へる。之れは中々有益なものである。又、書く人もある。書くことと云ふことは余程筆まめな人でなければ続かない。そーしてほんとの事を書く、形式に流れないと云ふことはむつかしい。故に余程注意をしないと偽善を残すことになる。決心などは書いてもよい。つまり何事にも偽善をゆるさぬと云ふことが必要であるが、考へると云ふことは少しの時間で出来るから、お互に之れは勉めたいものと思ふ。

[中表紙]

第二、三学年にて  
大正二年二月五日

大正二年二月五日  
第二、三学年にて

(講話者不明)

[婦人の消費者としての本務の中、最も大切なるは克己の徳である]

此の前は婦人の消費者なる本務について、いろいろな方面から考へて見たかつたのであるが、其の暇がなかつたのである。婦人の消費者としての本務の中、最も大切なことは克己の徳であるが、之れが中々むつかしい。克己の徳は野蛮時代にはなく、余程進んでからのことであり、子どもの時には少ないから、大きくなってからのこと。そーして病氣にかゝつても失ふことがあり、年を取つても失はれ易いものである。故に克己の徳は中々維持し難いものである。婦人は一方から言ふと感情にたけて居ること、又一方から言ふと意志を鍛練する機会に昔から接しなかつたと云ふやうな訳から、中々むつかしい。故に今日は婦人の感情性と云ふことを申したい。

さて、其のことを申す前に、私は此の学校に十年から勤めておいでになつた塩井君の過去を偲び、夫れに関連して感情、

並びに克己の徳について申したい。

塩井君は今より二年半前に奈良の女子高等師範へ転任してなくなつたのであるが、今迄も若し此の学校に続いておいで下さつたならば、猶一層、私共が君を惜しむの情が甚だしかつたであらうと思ふ。併し、暫らく別れて居つたために、去る者は日々に疎しと云ふ様になり易いかと云ふに、そーではなく、今日となつては猶更の事、教員並びに生徒一同、塩井君の学校に尽されたことを忘るゝものはない。私は曾て、同志社に居つた頃、赤い表紙の湖上の美人と云ふ翻訳書が出たので、学生と一緒にとりよせて原書と比べて読んだのであるが、其の頃には、あゝ云ふ長い物を韻文体にしたものはなかつたのである。そこで私は、多少如何はしい処は批評もして、塩井君あることを知つたのである。そーして英文学と云ふものは和漢文学に通じて居なければならぬ。又、和文学を教へる人も漢学、洋学に通じて居なければ、ほんとのことは出来ぬと思つたのである。もとは私共が世話して居つた人で、後には第一高等学校の教授になつた人なども、そ一云ふ考へを持つて居られた。

さて、其の頃から塩井と云ふ人は和文学者で、西洋の事にも通じて居られると云ふことから、雨江と云ふ雅号は私の頭に消えなかつたのである。

夫れから七、八年も過ぎて、明治三十四年に此の大学が開かれて、丁度私の今申した様な文学の教授が必要であると云ふことになつた。其の頃、塩井君が出雲から歸られて、なりにもさまにも構う人ではない。誠に女子教育に適當な人であるが、ど一かと云ふ話になつて、私の頭には予て赤い表紙と雨江と云ふ名が消えなかつたものであるから、夫れはよからうと云ふ話になつて、成瀬校長も面会などせられた末、此の学校に立派な先生が出来たのである。そーして長くおつきあひして居る間に、其の容貌などは何処から来たかと云ふと、全く自分のなりふりには構はないのである。お互はなりふりには構ふことの出来ない身分であるけれども、衣服や食物などには構はれない人でも随分かまいたい人のあるものであるが、塩井君は克己の徳とでも言はうか、又は生れつきであらうか、一寸も飾らない。学校の事でも何でも、言ふべき時には諷々として言ふ。そーして自分の言つたことでも後から間違つたことがわかつて、からからと笑つて居らるゝ。お母さんも奥さんも、誠にさつぱりした人である。家内一同、形は構はないが、心は皆一様に表裏のない、さつぱりした人である。殊に國語の先生などして居る人はおわかりであらうが、作文など直すのはいやなものであるそ一だが、塩井君は己に克つて、責任をもつて、熱情をもつて直されたのである。親切に、熱心にせられたと云ふことは、いろいろな点に顕れて居つた。毎年運動会のおり、人が多くなるとむしろを持つて飛び走つて、人を案内せられた。其の有様は今も目に見える様である。私共は今、塩井君が世を去られて誠に残念であるが、夫れは言つても歸らぬことである。けれども、君の精神は我々の中に、此の学校の中に生きて居らるゝのである。

塩井君は二年半前に此の地を去られましたけれども、其の薫陶を受けた者の中には、其の精神が刻み込まれて居ります

から、其の精神は長へに消えないことと思ふ。塩井君は既に世を去られたけれども、私共は出来るだけ力を尽したいと思ふ。も一一年で七旬に垂んとするお母さんを残し、十一才と六才との子どもを残すと云ふことについては、決心が出来にくかつたらうと思ふ。自分一身が此の世を去るのは、いと易いのであるけれども、未だ独立しない十一才と六才との子どもを残して逝かるゝには、非常なる克己を要したことであらう。塩井君は親に孝行であり、妻子に対しても情の深い人であった。それは文章や和歌にも顕れて居るのである。多分皆さんは御読になったことと思ふのであるが、

身はつひに 草にはてぬる 露なれど  
清かりし世ぞ ほこりなりける

あの人のことであるから、決して自慢はしないけれども、清い生涯を送つたと云ふことは自ら誇りとするに足りたであらう。

癒えぬ病 いただきて ふせる床の辺に  
いろは読み審く 子等のかなしき

死なれじな 老います母の あすの世を  
弱き妻子に うちまかせつゝ

母そばの 髪の白ゆき 見る度に  
やむ骨ふかく さすさむさかな

私共は一度皆、死なねばならぬ。何時、此の様な運命が誰れの身の上に来るかも知れぬ。二年半前に此の地を去る時に斯う云ふことがあらうとは思はなかつたであらう。私共は塩井君が此の学校を去らるゝ時に誠に惜いと思つたのであるが、又同情に堪へなかつたのである。塩井君も、昔は天にもかけらうと云ふ思ひもあつたけれどもと云ふ意味の歌もあつた様であるが、今日斯う云ふ様にならうとは実に思ひがけないことである。併し、斯う云ふ運命が何時誰れの身に来るかも知れぬ。私共の一身の上に何時ふつて来るかも知れぬ。故に、斯う云ふ苦い経験を味はうても、少しも心を乱さないだけの心がけを常に養つておきたいと思ふ。未だ臨終の委しい話などは聞かないけれども、決心をして、よく安らかに逝かれたことと思ふ。

つまり、学ぶべき処は此に在る。塩井君が肉親も、年老いたる者、弱き者を残しつゝ、決心をして清い生涯を送つたのである。夫れで、安らかに眠ることが出来たと思ふ。私共は普段から克己の精神を養はんければならぬ。之れで私は、只婦人が消費者として克己の徳が必要であるのみならず、何人も此の徳を養はねばならぬ。総ての徳は克己の徳から生ずるのである。例へば友達に手紙を送るにしても、ちゃんとすましておくと安心して死なるゝけれども、自分のすべきことが残つて居ると、ど一しても安心して眠られないのである。

私共の怠惰と云ふこと、人に対して当然なすべきことを怠ると云ふこと、之れはお互が毎日して居ることである。塩井君は沢山の作文であるから、時には遅れたこともあらうけれども、非常な克己を以て忠実に直されたのである。答案を調べると云ふことは先生方の教へるよりも面倒に思はるゝものだそ一であるが、作文となると猶骨が折れる。夫れを克己す

ると云ふことは、余程克己の力ある人でなければ出来ぬ。例へば冷水浴一つするにしても誠に怠り易い、まげ易いものである。其の小さなことにぬげ易い者は、夫れだけに止まらずして、どの様なことに負けるかも知れぬ。

買ひ物をする時に、甲の品よりも乙の品が見えがよいとか、持ちがよからうとか云ふ様な理屈をつけて不相応なものを買ふと、消費者としての主婦たる責任は尽されなくなつて来る。やはり、此の粗衣粗食に甘んずると云ふ精神は今日、誠に薄くなつて居る。貧民はやむを得ず絶対に粗衣粗食をして居るけれども、金を貰へばすきな物を買ひたいと云ふのが貧民の状態で、道徳的の考へは少しもないのである。社会全体と貧民とは違ふけれども、あなた方年を経ると共に、人間は如何に金の為めに誤る者であるかと云ふことがわかるであらう。

併し、何事にしても現在は未来に關係して居る処の有機的生活をしなければならぬ。現在、生活を立派にすると思ふことは、何時でも未来の生活と云ふことと関連して、断片的ならぬ生活をすると思ふ決心を続けねばならぬ。学校生活にしても彼れもする、是れもすると云ふ風ではいかぬ。よい事でも捨つべきことがある。故に克己と云ふのは只、悪い事に克つばかりではない。道徳上から言つて、悪い事でなくても克たねばならぬことが沢山ある。私は、何時でも夫れが邪魔な生活ではないけれども、将来決して有効なことでないと認むることが度々ある。故に一度人生を送つて見ると、誠に間違ひであつたと云ふことを、私共は度々見出だすのである。けれども人生は二度繰り返すことは出来ないのである。皆さんが七十まで生きるとしても、日本女子大学の学生であると思ふ三年の月日は、再び帰つて来ないのである。故に現在生活は必ず将来に結びつけておかねばならぬ。

支那の詞に、割愛と云ふことがある。人生には何も彼も出来るものではないから、時にはしたいと思ふことも捨つゝ了はねば、人の為に尽すことも何も出来ないものである。

塩井さんについて、も一つ学ぶべきことは、塩井さんは理屈を好まないで、どちらかと云へば感情的である。理屈を言はないで、さつさと物をして行かれたのである。そ一云ふことを考へて居た故か、私は昨夜の夢に、リプレゼンテーションと云ふことを好んで、アクチュアリゼーションと云ふことを好まないと思ふ。之れは面白いと思つて夢がさめたのである。夫れは、宇宙はどんなものである、人生はどんなものであると云ふ様に、心の内に観じて満足することが多い。けれども人間は皆、アクチュアリゼーションをしなければならぬ。哲学ではいけぬ。実際にしなければならぬ。之れは誰れも言ふことであるけれども、塩井さんのことを考へて居つたから、斯う云ふ英語が夢に現れたと思ふ。塩井さんが情にたけて居られたのは長所である。只、理屈ばかり言つて、ごつごつしてはいけぬ。私も、そ一ありたいと思ふ。

西洋でも、婦人の長所は感情にある。其の感情は何処から来るかと云ふと、母心本能からであるが、此の子どもを愛護すると云ふ本能は下等動物にもあることで、此処から感情が発達して来るのである。故に慈善事業は誰れによつて発達するかと云ふと、婦人からである。そこで或る人は、慈善事業



は一種の母心本能から出たものであると言ふ。之れは今日の社会事業としての慈善と違つて、人を害するものである。人を愛するならば全人格を愛しなければ、あの人が病氣にかゝつて居るから病氣だけを治してやらうと云ふ様ではいけない。故に感情と云ふものは一方から言へば、理性の宣伝を受けねばならぬ。

塩井さんは感情に長じて居らるゝけれども、今言ふ盲目的のものではない。けれども感情的生活の人を学んで行くと、其の弊を受けることがある故に、之れは余程注意をしなければならぬ。故に、婦人の間には美しい情を持つて居るけれども、時とすると一方に偏することがある。慈善にしても、或る事柄の爲めに不幸に陥つた者の爲には非常に同情をするけれども、他の事には顧みないと云ふことがある。之れは慈善と云つても我が儘なものである。婦人の愛は、自分の子どもは非常に愛するけれども、人の子には夫れ程にない。故に、婦人の愛は細やかであるけれども、一方に偏することがある。男子の愛は婦人程細やかではないけれども、偏しないと云ふことがある。総てがそ一云ふ風であるから、男子が人を救う爲に金を出さうと云ふ様な場合に、何処から苦情が出るかと云ふと婦人からで、婦人の愛は自分の家族、親類に対する務めと云ふ事に限られ易いのである。

私は、塩井さんは感情に長じた所がある。そ一して悲しみを帯びた美しい感情は、歌にも文章にもよく現れて居り、雨江と云ふ名にも知られて居るのである。けれども感情生活をする人は、此に注意をして貰はねばならぬ。夫れで実を挙ぐる事に勉むると云ふこと、之れは誠に怠り易いことで、私共も、も一ちつと目をさまして貰ひたいと思ふことがいろいろある。お互は誠に眠り易いものである。

説明はあとから起るもので、事實は先きである。故に事實は、説明を俟たずして着々行はねばならぬ。総て道徳と云ふものは他人に関係しないものはないけれども、便宜上いろいろにわけて自己に対する道徳と云ふことがある。自分の健康を養ふと云ふことなどは、通常自己に対する道徳の中に入れておられるけれども、健康を保つと云ふことは自分一人のことではない。多くの人に関係するのである。自殺をしてはならぬと云ふこともその通りで、自分の命と云ふものは自分のものであつて、しかも社会のものであることを忘れてはならぬ。人間相互の関係と云ふものは、ど一しても完うして行かねばならぬ。

人間は人の爲に生活すると云ふことに由つて始めて尊くなつて来る。世の中でど一云ふ人が一番安心であるかと云ふと、人の爲に生きて居る人程、安心である。塩井さんが清い生活をしたと云ふのは、只一身を潔くしたのではなく、上に諂ふこともなければ下に傲ると云ふこともせず、人を妨げるとか、傷つけるとか、嫉む、恨むと云ふこともなく、人と人との関係を美しくして來られたからのことである。

何故に人は、そ一云ふ生活を昔からして來たのであるか。何故に歴史は、そ一云ふ風に一貫して來たのであるかと云ふと、説明になるが、事實は先きであらねばならぬ。学校生活にしても、何故斯うであらねばならぬかと云ふ哲学的な考へ

よりも、宗教的でありたい。宗教と云つても宗派ではない。ほんとの人生は、ほんとの宗教生活をおいて他にはないのである。何とならば、人間はそ一云ふことを学び、そ一云ふことを慕うて來たのである。夫れで私は、塩井さんの只理屈ばかりではいけない、實際をして行かねばならぬと考へて居られた様である。私共の行くべき道は歴史の上にあるのである。之れは決して塩井さんの上にこぢつけて言ふのではないが、斯う云ふ点が、私共の塩井さんに学ぶべき所であると思ふ。

私の今居ります家は半分以上、もと塩井さんの居られた家である。塩井さんは余り趣味はない人であるが、只お酒が好きであつた。之れは私共も心配して、度々言つたこともある。自分にも知つて居られた様であるが、此のお酒も多少障つたであらう。塩井さんは学校を教へる暇には庭をいじつたり、鶏をかつたりして居られた。やはり文人であるから、世間に出て交はると云ふ様なことはせず、誰れと知りあひであると云ふ様なことは言はない。寧ろそ一云ふことは嫌ひであつた。そ一して小使や隣のお婆さんなどに親切なと云ふ性であつた。下女はおかないで、松浦と云ふ書生をおいて早稲田中学を卒業する迄世話をしてやられたと云ふ様な人である。植木の世話をし、鶏をかふと云ふ様なことも、誠に無造作に殺風景にして居られた。そ一云ふことにも塩井さんと云ふ人柄はよく現れて居る。最初紹介せられた通り、誠に作り飾りのない、女子教育に適当なお方であつた。奈良に行かれて後も其の通りで、多くの人々に尊敬せられたことであらう。斯う云ふ訳で塩井さんの精神は永く私共の上に残つて生きて行くことと思ふ。私が交際して知つて居るだけでもいろいろ思ひ出がありますが、直接教へを受け、いろいろお世話になつた人々は猶深い思ひ出があり、いろいろ委しいことを知つて居るであらうと思ふ。実は、今度は助からぬであらうと云ふことは昨年から覚悟はして居りました。けれども愈々となると、やはり不覺の涙にくれるのであります。今日は此の時を用ひて、此の学校に十年も勤めて居られた塩井さんの過去を偲んで、皆さんの前にお話して、私の塩井さんに対する弔辞とし、猶今後、芳賀先生方とも御相談をして、私共も出来るだけの事を致したいと思ひます。

[中表紙]

大学部一年及び予科に於て  
大正二年二月八日

大正二年二月八日  
第一学年及び予科に於て

麻生学監

[品性について]

皆さんの此の前の答案に、いろいろな要求が出て居りますが、夫れに答へると共に、皆答へることが出来ませんから、品性とは如何なるものか、又如何にして養ふべきかと云ふことを申したい。

品性と云ふ詞は、お互が常に聞きなれて居る詞であるが、ほんとの意味は中々わかりにくい。さうして品性と云ふこと、人格と云ふことを本として学問を立てた人がない。

英國の Mill と云ふ経済学者が、性格学と云ふことを称へ、其の後、教育家、心理学者などが段々研究して居るのである。日本では、帝国大学を卒業した渡辺と云ふ人の卒業論文を書物にしたもので人格論と云ふのがある。西洋では近頃のものに、人格発展論と云ふものがある。お互は品性と云ふ詞は度々聞くから、も一聞くには及ばぬと云ふこともない。又品格、性格と云ふものが充分出来上つて居るならば、も一聞く必要はないのである。之れを毎日お互が聞くと云ふのは、即ち未だ出来て居ないからである。

極普通聞くことは、あの人は誠に立派な品性の人である、見上げた品性の人であると云ふことで、只品性の人であると云ふこともあれば、立派な品性とも云へば、下劣の品性と云ふものもあると云ふ様に考へらるゝ。併し、あの人は品性の人であると云ふ時には、立派な品性と云ふことを意味するのである。

[品性の高下は何に関係するものであるか 第一、知識]

品性の高下と云ふことは何が関係するものであろうかと云ふと、先づ知識と云ふことが関係することがわかる。彼れは物のわからない人であると言へば、知識がないと云ふことで、其の知識とは又ど一云ふ物であるかと云ふことになるが、天文学、機械工学と云ふやうな学問を知つて居る、高尚なる学問を知つて居ると云ふ意味の知識は、直接、品性に影響を及ぼすものではない。然らば、ど一云ふ知識であるかと云ふと処世上の知識で、自分の幸福と人の幸福、自分の権利と人の権利と云ふものを知つて居ると云ふこと。詞をかへて言へば、人格と人格との関係。も少し平たく言へば、世に処して行く上の知識である。之れは誠に大切なものであるから、之れを持つて居ると否やとによって、私共の品性に非常に関係するものである。

[第二 地位、財産]

次には社会上の地位で、富とか財産とか云ふことである。昔から、貧すれば食すると言つて、金の為に判断が迷ふと云ふことがある。故に、金があれば食せずともすむと云ふことがあり得るのである。併し、金があつても節を売らないとは限らない。昨日言つた説を今日は翻すと云ふ様なことをして、社会上の制裁を受くる人も昨今、続々顕はれて居る。又、立派な家柄や名望ある人の子に生れると、地位に対して自ら謹まねば相すまぬと云ふこともあるけれども、之れもやはり人によることで、位のある人でも、地位のある人でも、我々が手本にすることの出来ない人が沢山ある。故に金がなくても、位地がなくても、立派な品性を持つことは出来るのである。故に普通の考へでは金があり、地位があれば品性が作らるゝと思はれ易いけれども、之れはあり得ることであると共に、必然のものとは限らない。

そこで狭義の品性と云ふことを言へば、英國詩人の Pope と云ふ人は、大抵の婦人は品性を持たぬと言つたのであるが、夫れならば、よい品性と云ふのはど一云ふ品性であるかと云

ふことを解剖して見なければならぬ。

[善い品性について]

先づ、善い品性と云ふものには、

第一、正当なる目的と云ふものがなくてはならぬ。

第二は、目的を強固に保つて居ると云ふことがなければならぬ。(誘惑を排斥すること)

第三は、目的の継続性がなければならぬ。(夫れを時間の上に延長して貫徹すること)

故に一言で言へば、善い目的を立て、固執して行くことである。目的があつても、誤つたわるい目的であつたならば、善い品性と云ふことは出来ぬ。又、たとひ善良なる目的があつても、忽ちに設け、忽ちに失ふ様では善良なる品性とはならぬ。故に何処までも固執性がなくてはならぬ。

佛蘭西のリホーと云ふ学者は、品性を構成するものは只二つで、夫れがあるなら、も一他のものはいらぬ。夫れは統一性と継続性とであると言つて居る。そ一云ふ訳で、品性と云ふものは先づ目的の善良なるものを立て、夫れを継続して行くことと云ふことは、誰れでも持つて居るであらうか、ど一であらうか。之れは必ずしも、お互が持つて居るものではない。まして子どもなどは持ち得るものではない。故に或る人は、只、少数の人のみ持つて居ると言ふ。

最前申した Pope の詞の、大抵の婦人は品性を持つて居ないと云ふのは、こゝである。夫れならば品性と云ふものは到底多数の人の持ち得べからざるもので、少数の人ばかり持ち得るものであろうかど一かと云ふことを考へねばならぬ。

私共が、あの人は智の人である、才の人であると言ふのは、他の人は智を持たぬと云ふ訳ではない。あの人は一般の人よりも大層智のたけた人である、才に長じた人であると云ふことで、他の人は程度が卑いと云ふことである。故にあの人は品性の人であると云ふことは品性の優れた人であると云ふことで、他の人には少しも品性がないと云ふことではないのである。

[外敵と内敵とについて]

品性の強いと云ふことは、ど一云ふことを意味するかと云へば、二つの意味を持つて居る。目的を何処までも守つて行くことと云ふ時には二つの敵を持つて居る。即ち一つは外敵で、一つは内敵である。

外敵とは自分の周囲の境遇であるから、其の境遇を征服して行かねばならぬ。征服するとは境遇を利用して行くことで、無視すると云ふことではない。一度目的を立てた以上は少しも境遇を認めないで一直線に進んで行くことと云ふのは、品性の強固性ではなく、強情な人である。

境遇を利用して行く人とは如何なるものであろうか。例へば航海をする時に當つて、真正面から風が吹いて来るにも拘らず、帆をかけて進まうとするのは、境遇を無視する人である。さうかと云つて帆を畳んで了うと云ふことは、薄志弱行の人である。帆かけ船と云ふものは、帆のかけ方によつて風が正面から吹かうと、横から吹かうと、志を全うして進まれる方法がある。夫れをさして境遇を利用する人と云ふのである。

皆さんの書いたものの中に、どーかして自分は自由な人になりたいと云ふことがあるが、境遇を全く自由にして行くと云ふことは自然界に於ても、人間界に於ても中々むつかしいのである。併し境遇に一度は圧倒せられても、やり直して行くと云ふ所に人格の価値がある。中々困難があつても、其の為に失望、落胆しないのである。The method of trials and errors. 此の学校を立てる時の如きも其の通りで、実に困難なものであつた。我々は自分を合せて五人の家族を養ふと云ふことでも、僅かに十八円でした。其の位でも、苦しいとも何とも思はぬ。只天下の為、婦人の為であるからと云ふ一念ほかないのである。経済が成り立たない為に一時は中止しやうかと云ふ説もあつたが、成瀬校長は中々意志の強い人で、何事をしても困難なものであるから、覽るゝ迄しやうと云ふことで、其の決心をして見ると案外やさしく出来るものである。そー云ふ時には、実に間髪をいれずである。故に、此の学校も目的を一貫したのである。

次には、内にある処の敵と云ふものに勝つて行かねばならぬ。私共の内心には怠惰と云ふ敵も居る。之れは何時も言ふことであるが、注意しないと直ぐ覆はれるものであるが、私は森村さんの言はれた詞によつて何時も鞭たれる。森村さんがどーして商売をせられたかと云ふと、今日中に持つて来いと頼まれた物は、どんなに遅くなつても自分がかついで持つて行かれたと云ふことである。初め、土州侯の御用達をして居られたが、どんなに遅くなつても自分がかついで門をたゝいて必ず届けらるゝものであるから、門番が、又森村であらうと思つて、しぶしぶ門を明けてくれたと云ふことである。万事を斯う云ふ調子にせらるゝ故に、非常な信用を受けて、奥向きのことから総てを委ねられたと云ふことである。物事をきちやうめんにすると、よい加減にする違ひは、皆怠惰のさすることである。

或る人が子どもに向つて、教育勅語を一週間のうちに毎日三行なら三行づつ書いて持つて来いと命じて、さて仕上げ方をためして見ると、平常の品行点とまるで符節を合したやうであると云ふ。之れは一例であるが、お互が本気になる夜目の目も眠らるゝものではない。昔から事をした人は、そんなに長寝をするものではない。Napoleonの如きは僅かに四時間であつたと云ふ。故に一生懸命にならぬ人は到底、品性の出来るものではない。然るに此の怠惰と云ふものは一朝一夕にわからぬ為に、誠に等閑に付せらるゝものであるから、お互に省みなければならぬ。

[批評的態度がなくてはならぬ]

其の他、お互は名譽心の為に動かさるゝことがあり、欲心の為に誤ることがある。其の欲もいろいろある中に、最も我が身を食ふものは名譽心である。斯う云ふ内部の敵に打ち勝つと云ふことは中々むつかしいことである。

世間には此の名譽心の為に随分強くなる人もあるが、又其の反対に、弱い人のことを言つて見やう。弱い人とは目的を定めやうとしても社会の毀譽褒貶に由つてかへて行く、又自分の意見でも世間の風評などに由つてかへて行く。之れが中々多いのである。三年の人の修養の経過を見ても、自分は

他人の前に出る時には斯う云ふ人と思はれたいと云ふことがあつたが、何年頃から漸うあらためることが出来たと云ふ。斯う云ふ人は丁度風車のやうなもので、日和を見て動いて行く。こんな人も沢山あるのである。斯う云ふ人は境遇によつて動いて行くのであるが、境遇の奴隷である。斯う云ふ人は人の説に抵抗して行く力がないのみならず、自分で物を創めて行く力がない。斯う云ふ人は到底、自由の人とはなれないのである。故にそー云ふ人は、皆が斯う言ふが、どーであらうかと踏み止まつて考へることの出来る人にならねばならぬ。自分で立ち止まつて、も一つ考へ直すと云ふことは批評的な態度で、之れは反抗的態度とは違ふ。故に此の意味の批評的態度とは極めて謙遜な真面目な態度で、自分が愈々まじめに、愈々謙遜に、愈々真理に到達しやうと云ふ場合には、是非此の態度にならざるを得ないのである。之れがなければ世間の輿論に動かされて了うから、何時までたつても品性は出来ないのである。故に、外部の奴隷になつてもいけない様に、内部の奴隷になつてはならぬ。

[内部の敵に負けた人は元氣はある]

内部の奴隷になつて居る人は、往々外部の奴隷になることがある。之れは我が儘な人であるから、自分の気分一つで物をする。即ち我が儘とは、自分の心の中に起つて来る処の欲望のまゝに動かさるゝ人である。

外部の敵に敗ける人は弱い人で、元氣の足らない者であるが、内部の敵にまける人は元氣のある人で、中々強い所もあるが、其の元氣を支配することが出来ないのである。Napoleonの如きは元氣のある人で、我が儘に物をする人である。世の中で外部の敵に敗ける人で名高い人はないが、内部の敵にまける人、即ち元氣のある人は大したことは出来なくても、一寸したことはするのである。私共はくゞは嫌ひである。夫れは自分のしゃんしゃんと物をようしなくて困るからである。ニイチエと云ふ人は何故に個人主義を稱へたかと云ふと、自分が大層弱い人で我が儘でないから、どーしても我を通すやうなえらい人にならねばならぬと思つて、あゝ云ふ説を稱へたのである。

[完全なる品性について]

夫れならば完全なる品性とはどー云ふものであるかと云ふと、最前から申したやうに、高尚な目的を確かにきめて、之れを広い見識と強固なる意志とを以て実行して行く人である。広い見識とは世に処して行く上に必要なもので、之れがなかつたなら身を誤ることを免れない。強固なる意志とは善い目的を持續して実行して行く力で、此の三つが揃つて始めて完全な品性となるのであるが、只斯う言つたばかりでは抽象的である。

[品性は発達するものである]

人の品性と云ふものは、段々と発達して行くものである。故に立派な目的を持つて居ても、失敗することがある。夫れは経験が足りない為に見識が足りないから、外部から見たところでは失敗たるを免れないのである。

[品性は意志の創造による]

又、折角立派な目的を立てゝも、意志の弱い為に行行を続

けることの出来ない人がある。見識を広めて困難に堪えて打ち勝つて行くと云ふことも、根本は意志の力である。其の意志も人の意志の力では出来ない。総て美術と云ふものは創造の結果である様に、品性と云ふものも創造を要するのである。美術製作の時は美術家即ち作る人と、美術品即ち作らるゝ物とあるが、品性を作る時は意志が創造して、自分自身を作るのである。故に、親が子どもに代つて子どもの品性を作ることは出来ぬ。夫れと同じ様に、教師が学生の品性を作ることは出来ぬ。ど一しても学生自分の創造によらねばならぬ。世の中に打ち勝つて行かう、自分の我が儘に勝つて行かうと云ふことは、ど一しても意志が活動して行くより外に道はないのである。

[品性は個性的なものである]

先にも述べた様に、品性と云ふものは何人も同一の品性を養ひ得るものではない。抽象的に言へば、善良なる目的を立て、広い見識と強固なる意志とを以て実行して行けばよいとは云ふものの、人に由つて各々其の趣きを異にして居るものである。故に之れは個性によるものであるから、品性と云ふものは何時も個性の匂ひを帯びて居るものである。そこで品性は個性的なものでいろいろあるが、例へば實際の人、感情の人、知識の人と云ふやうな詞である。

感情の人とは、一般なくなられました、故塩井教授の如き人である。感情と云つても感情に支配せらるゝではなく、さりとして熱烈など云ふでもなく、穏かなやさしい清らかな感情を持つて居られた。

實際の人と云へば、実務などのさつさと出来る人で、此の学校に居られた人で例をひけば、故籾田さんの如き人である。さて、品性と云ふものは人々の長所に随つて出来るものであるが、長所と短所とを同時にひきのばさうとするのは間違ひである。故に何時でも自分の長所は何処であらうかと云ふことを考へ、教師も親も夫れを助けてやつて、円満な品性を作らねばならぬ。ところが此の円満と云ふことは抽象的な詞で、事実決してさう容易く出来るものではない。故に、之れはお互に注意せねばならぬ点であると思ふ。

[中表紙]

第二、三学年にて  
大正二年二月十二日

大正二年二月十二日  
第二、三学年にて

(講話者不明)

[お互が此の頃遭遇して居る政治上の関係から精神修養の上にど一云ふ教訓を得るか]

此の前は、経済問題から女子の消費上の職務と云ふことを述べ、夫れから克己と云ふことを話しました。

今日はやはり、夫れに關係して話して見たいことがある。夫れは、お互が此の頃遭遇して居る政治上の関係から、精神

修養の上にど一云ふ教訓を得るかと云ふことで、何も此堂で政治上の事を話すのではないが、学ぶべき点は多いのである。(空白)と云ふことは別問題であつて、夫れを正すべきものは、お互に何も持つて居ないのである。只新聞を通して間接に其の頼れた所だけについて考へて見る必要がある。

克己と云つても克己の為に克己する、只自分の欲を殺すと云ふだけの消極の事は今日用ひられないので、ど一しても積極の理想を持つて、其の為の克己でなければならぬと云ふことを、西洋でも続々称ふる様になつたのである。

今日の新聞を見るも謙遜でもあらうが、桂総理の詞として、今度のは自分達の政策がわるいではなく、全く自分の不徳の致す処であるから、其の不徳の責めを負ふて辞職する、と言はれたそ一な。之れは誠に男らしいことと思ふ。其の不徳とはど一云ふことであるか。桂総理を攻撃する人は、誠意を欠いて居る、政権を私する、と言ふのである。之れは反対党の攻撃であるかど一かは知らないが、輿論は其処に帰着するので、今度の政変と云ふものは此処から胚胎したものと云はるゝであらう。

[名譽心には人心の服従するものではない]

其の私するとは藩閥と云ふことで、長州一派が日本の政権を私すると云ふ考へは維新以来積り積つて、其の上に今度のこと起つたのであると思ふ。之れは此の前から申した処の名譽心である。勢力とか権力とか榮華とか云ふものを一個人、一郷の者が私すると云ふことはやはり名譽心で、之れには人心の服従するものではないと云ふことがわかつたのである。

片方には桂公爵の如き御方が輿論に圧倒せらるゝと云ふことがあり、一方には西園寺侯の如き御方も自分の党派の輿論を如何ともすることは出来ない。此の輿論と云ふものは私と私との衝突かも知れないが、兎に角、人の踏むべき道に合致して居るので、其の鋒先が内閣に向つたのである。果して誠意を欠いて居るとするならば、夫れは今日迄、桂公爵がいろいろしておいでになつたことに対して批評した詞である。夫れに対して、自ら不徳の罪と言はるゝのは当然のことである。藩閥と云ふことも、一々夫れが私すると云ふ訳でもあるまいが、お互に知りあひになると、知つて居る人を使ふより外はない。そ一云ふ訳で同じ力を持つて居つても、藩閥の方が用ひらるゝと云ふ様なことになる。そこで行政整理、冗員淘汰と云ふやうなことも起る。之れも藩閥であると云ふ様に攻撃する人もあるけれども、之れは藩閥に限つたことではない。

何故に西郷南洲などが尊ばるゝかと云ふと、私しないのである。子孫の為に美田を買はないと云ふ精神である。故に、朝廷に手むかひをしたとは云ふものの、其の實、朝廷に手むかひをしたのではなく、意見が合はなかつたから、あゝ云ふことになつたのである。故に上野公園の様な処にあゝ云ふ銅像を建てられても、何とも言ふ人はない。言ひ得る人がないのである。

西園寺侯の如きは其の政策に弱い所がある。も少し強い所があつて欲しいなどと評する人もある。けれども侯爵の立派な所は、私がない、何時でも地位を惜まないと云ふ所にあ

る。今度の政変輿論と云ふものは、道徳上の制裁である。若し人が憲政を恣にして居るならば、其の人は必ず滅びるのであると云ふことを我は学んだのである。今迄内閣も度々変りました。太政大臣が廃せられ、伊藤公が総理大臣に任ぜられて以来、憲法が発布せられて既に二十五年になるけれども、其の間、斯う云ふ政変を目撃したことは一度もなかったのである。故に、世の中に立つて事を仕遂げるには、誠意でなければならぬ。そ—して、己に克つと云ふことがなくてはならぬと云ふことを私共に教へらるゝのである。

夫れから又、新聞などの書くことは一々信ぜられないけれども、西園寺内閣は何か事があると倒れると云ふ風に評するものがある。けれども、夫れは人の功を嫉むと云ふ処からである。之れは私共のよく謹まねばならぬことで、自分の友達でも段々名が顕れて来ると、ど—かして其の人の名をわるくしやうとするものがある。之れは学校などにもよくあることで、其処から誰れその党派と云ふものが出来るのである。嫉まるゝ人は善いのであるが、嫉む人はいけないのである。嫉む人は唯、自分の位地を高めたい、名をあげたいと云ふことばかりで、何等誠意を持って党の為に謀ることもない。そこで、小さい奴であると言はるゝ様になる。此の心は凡人である以上は誰れも起らぬものはない。併し、其の弱点に打ち克つと云ふ力が必要である。人を嫉む様な者は余りに自己意識が強くて主観的になり易く、客観的になれないのである。こゝが誠に大切な所である。

[世の中には功を急いで職をかへる人がある]

も—一つ、私共の学ぶべきことは、世の中には往々、功を急いで職をかへる人がある。職をかへると云ふことは滅多にすべきものでない。大隈伯や伊藤公の如きは初めから政治家として顕れた人であるが、軍人であつた人で、実業界に入ると云ふやうなことは宜しくない。武断的教育を受けた人は、何時知らず武断的の弊に陥ることがある。又、今度の様に、党派をかはつて行くと云ふやうな人がある。それは皆、功を急ぐからである。今度党派をかへた所の政治家にも同情すべきことはいろいろあるが、そ—云ふ人々は多くは六十前後で、今迄苦心惨憺して来た人々である。夫れにも拘らず、そ—云ふ様な事になるのは、つまり功を急ぐからである。故に、学校教育にしても功を急いでならぬ。

[不平を言ふ様なものは何も出来ない]

又、不平を言ふ様なものは何も出来ないと云ふことはわかつて居るが、俗に陣笠と言はるゝものがある。其の陣笠が何処へ行つたからとて、そ—頭になれるものではない。書記などをして居つたものが、何処の会社に入つても、一足飛びに重役にせらるゝと云ふ様なことのあるものではない。斯う云ふ訳で、世の中に不平を持って居るものは何処に行つても満足することはないと云ふことが、今度の政変に由つてもわかるのである。そ—云ふ人は怠惰な不真面目な人で、一つの目的を立てゝ、一生懸命に働く人ではないのである。

今度の政変と云ふものは、桂内閣が倒れた其の一方には、国民党と云ふものが分裂したのである。斯う云ふ場合に他の党派に行つたものは顯みる者がなく、苦節を守つて居つた者

は神の如くに尊ばるゝと云ふことも現在、目撃することが出来たのである。

此の日本の政変は世界各国に知られたことであるが、其の結果、ど—云ふ影響を受くるのであらうか。私共は、教育上よい感化を及ぼす様な社会になりたいと思ふ。ど—か、無私無欲な考へを以て人を導く処の先輩が出て来なければならぬ。そ—云ふ人が現れて来たならば、修身や倫理の先生がいろいろ話をするよりも遥かに教訓となるのである。故に私は今度の政変によつて、ど—か、そ—云ふ先導者の出ることを希望するのである。

小学生の時代から政治上の事は話さないが、政治上の影響は如何に大切なものであるかと云ふことをよく心得させておかねばならぬ。故に婦人は、間接にそ—云ふ事柄も知つて居ると云ふことは、高等の教育を受けるものとして大切なことである。

[世界の二大問題]

今、世界における二大問題がある。其の一つは支那が未だ国家を成さぬと云ふことと、も—一つは、土耳其とバルカン半島との問題であるが、支那のことはさしおいて、土耳其とバルカン半島とは五百年來のことである。此の戦争に於て、最もお互の学ぶべきことは、此の戦争の起りは土耳其自らの招いた禍で、私ばかりをして、誠を欠いで居ること。之れはずつと前から続いたことである。此の、私をする、他の幸福、名誉、生命、財産と云ふものを構はずして只自分の国家、自分の党派と云ふことばかり考へて居ると、人の目にはよくわかる故に、そ—云ふことに対して義憤と云ふものを持って居ると、終に其の精神が一致して、其の勢力は非常なものとなつて来るのである。

日本がロシアに勝つたと云ふ原因はいろいろあるけれども、日本は何もわるいことはして居ない、正義であると云ふ信仰がある。お互は之れを愛国心などと言つて居るが、此の正義であると云ふ信仰は非常なる力を与へるものである。故に、私共の学校生活、寮舎生活、家庭生活にしても、何が一番自分を苦しむるかと云ふと、人に対してわるいことをしたり、考へたり、言つたりした時である。人から不都合なことをせられた時、言はれた時などは、何も苦しいことはないけれども、自分を苦しむるものは何時でも身から出た錆である。自分の我が儘をおし通した人は、何とかして道理をつけて行かねばならぬ。之れが苦しいのである。大きなわるい事をする人は少ないけれども、毎日の小さいことに対して、自分の為すべき義務を怠つて居る人は沢山あるのである。之れはお互の毎日にあることで、私はど—しても此の学校は、も—ちつと誠意に満ちねばならぬと思ふ。ごま化した学校生活はいけないと考へる。私共が此堂に来て話す必要はない。徒らに此堂に来て聞くだけならば誠意はないのである。何の為に來るのであるか。誠意を守らない積りならば、斯う云ふことはやめて了うがよい。態々斯う云ふ学校を立てゝ、不忠実な空気を作る必要はない。私は何も遠いことを言ふのではない。ど—しても銘々本氣になつて勉めねばだめである。

私は皆さんに、倫理の答案が立派になることを望むのでは

ない。実際の日常生活と云ふものが出来て居るかど一か、誠意を欠いて居りはせぬかど一か、学生は何をするのが道であるか、之れは私が言ふには及ばない。皆わかつて居る筈である。

今日私は、社会上の事について申したのであるが、我が国の政変、土耳其の事柄と云ふやうな事、之れは決して遠いことではない。お互の日常生活に学ばねばならぬことが多い。今後の日本は、婦人のしなければならぬことが沢山ある。学生は父兄から送らるゝ処の金を私して居る。其の金は國家の富みであると云ふことを忘れてはならぬ。も一時々刻々と、学年末は近よつて来る。今日は校長がモスクウを出発せらるゝ日であつて、直行すれば二十四日には着かるゝ筈である。果して校長のお立ちの時に決心した事が出来て居るかど一か、銘々が本氣になつて自ら省みて、只考へるのみではなく改善して行くのである。私は、も一多くを言はない。

世の中に、いろいろ物の道理を知つて居る人があるけれども、知つて居るだけが立派な人とは言はれない。多くのことを知らないでも、立派な人は沢山ある。人格は実行するより外に展びる方法はないのである。故に直に物を見て行かねばならぬ。物の道理を沢山知つて実行の出来ない程、人として恥かしいことはない。私共、自分等に欠点があると云ふことは何時も知つて居るが、之れは人生であつて、人生は決して完全に作られてない。此の欠点を改善して、人生を完全にして行く。即ち内部の敵に打ち勝つて行くより外に道はないのである。人生は活動である。考へると云ふことは實際行つて、生活を送つて行かねばならぬ。之れが即ち、物を沢山知らなくても立派な人格のある所以である。故に、東京の大きな学校に居つて勉強して居ると云ふことが誇りではない。文章を一つ書くにしても、只考へて居るだけでは出来るものではない。直ぐ様筆をとつて着手すれば、案外早く出来るものである。人生は只考へる為めにあるではない。瞑想の為めにあるではない。是非、着々実行して行かねばならぬ。私共は兎角、怠惰に陥り易いものである。故に今から、断然すると云ふことに勉められんことを希望するのである。

[中表紙]

第一学年及び予科にて

大正二年二月十五日

大正二年二月十五日

一年及び予科にて

(講話者不明)

此の前は品性の話をしました。品性と云ふものは個人の上にも、いろいろな違ひが現れて来る。即ち、各個人は自分の性質に応じた品性を作らねばならぬと言つたのであるが、又時代、国等によつても、夫れ夫れのものが出て来る。故に今日はそ一云ふ方面を先きに考へて、夫れから個人個人にうつりたい。国々、時代時代について考へて行くと、我々の心得にな

ることが多いのである。

一國民の性格と云ふものは、他の國民と何処か違つたものが出来ねばならぬ。日本の國民的品性ととは、どの様なものであろうか。日本では國民的性情と云ふものが殆んど國民性の様に見られて居る。我々が自分の性格を作らうとすれば、必ず日本國民としての性情から影響をうけるであらう。之れを一言で言へば、忠勇と云ふ二字に約めることが出来ると思ふ。そ一して日本の國民的性情は武士と名づけられて居る。武士即ちさむらひと云ふものは、忠と勇とを備へて居るものと云ふことで、社会上の階級は武士であらうとなからうと苟くも忠と勇とを備へて居るならば、武士として最もよく尊敬せらるゝのである。そ一して此の徳を養ひ立てる様に教へることを武士道と言ひ、其の徳目がいろいろある。

或る學者などは、武士道の徳目は忠、孝、節義及び廉恥の四つであるとし、又或る人は忠孝、廉潔、剛勇、節義など云ふこともあるけれども、忠孝と云ふことは如何なる人が武士道を説く時にも入れてある。忠孝と云ふことは儒教の影響を蒙つて居らねば、仏教のおかげも蒙つて居らず、日本固有の徳目であるから、日本の國民的性格の骨子であらうと思ふ。大伴家持の(空白)に示したる、海ゆかばの歌の如きは、最もよく此の忠孝を表して居ると思ふ。死と云ふことを少しも恐れないと云ふのは勇敢を意味し、君の側を離れないと云ふことは即ち忠である。

剛勇と云ふことは王朝から盛んになつたと言ふ人もあるが、之れは王朝以前からあつたので、慈悲も王朝から盛んになつたのである。

節義、礼讓などは室町時代からであるが、太古からずっと日本人の性格を作つて居るのは忠と勇であると思ふ。

[忠に就いて]

忠と云ふことは、支那では必ずしも君に対するばかりではなく、一身の利害を顧みずして人の為に真心を尽くすと云ふことで、支那の方が意味が広いのである。日本では殊に、君主に仕へると云ふことに用ひられたのである。源平藤橘などの顕るゝ前には、忠と云へば直ちに天皇陛下の御為と云ふことであつたが、後には天皇陛下に直隸してのみではなく、封建の君主の為に云ふのであつたが、王政維新以来再び天皇陛下に直隸して申す様になつたのである。

忠とは今言つた様に、君の為に真心を尽くすことであるが、其の忠を尽くすには勇がなくては出来ないと云ふ処から、忠は目的で、其の方便として勇が養はれたと思ふ。先づ之れが日本の國民性格の骨子をなして居ると思ふ。

此の勇とはどんなものかと云ふと、武勇である。其の内でも真先ぎに来るものは戦場の勇気で、野でも山でも生命を惜しまないと云ふことである。他にも勇の内容はいろいろあるけれども、君の為に生命を惜しまないと云ふ戦場の勇気で、其の目的を達する為に武術を要する。故に昔から、勇と云ふものには武術が伴つて居る。そこで、昔から武術と云ふものが日本に於て講ぜられたのである。そ一して節義を重んずるとか、慈悲を旨とすると云ふ様なことが入つた。之れは儒教、仏教の影響であらう。

此の武士的性格に一種趣きを添へたものは慈悲心で、こゝから人情が発揮せられたのである。木村鷹太郎氏の説によれば、日本人の祖先は欧州人で希臘人と同じものであると云ふ。兎に角、日本人は情に長けたもので、武勇と云ふと秋霜烈日の様に感ぜらるゝが、誠に人情のあるもので、武士の情と云ふものがある。之れが西洋の武士と違ふ所である。西洋では騎士道、シバリと云ふものがあるので、夫れは弱いもの、婦人と云ふものに対して表れて居るが、日本の武士道は只夫ればかりではない。日本のは、自分の生命は無論の事、妻であらうが子であらうが、忠義の為なら生命を捧げしむると云ふ風であるが、彼の熊谷直實が平の教盛を捕へて助けたいと思つたものの心に任せなかつたから、自分は剃髪して一生教盛の後世を弔つたと云ふこと。又、源の義経が梶原などの讒言によつて頼朝公と仲のわるくなされた時、義経の北の方は平氏から来て居るから、其の北の方を殺して二心なきことを示せと云ふ使を出した。そこで辨慶は北の方に仕へて居る娘を身代りに立てやうと思ふけれども、娘の母が聞かぬ。故に、辨慶は後から行つて其の娘を殺したと云ふのは、実は自分の子であつたと云ふこと。斯う云ふことは、実に涙のこぼれる所である。日本の武士道は、そ一云ふ所に暖かい情を持つて居る。

支那などでは節義を重んずると云ふことが学ばれ、書物なども沢山ある。夫れが日本に伝はつて、節義と云ふこと、廉潔と云ふことが大層尊ばるゝのである。西洋では騎士道とは違ふが、ピューリタン、清教徒と云ふものがある。之れは清潔なる徒と云ふことで、純粹なるクリストの教へを奉ずると云ふ意味であつたが、実に清潔なる、厳格なる性格を作つて、アメリカのニューイングランドからアメリカ魂を作り出したのである。

日本人は太古から天然、自然に情に長けたものである。其の日本人が君主の為には骨肉の者をも捧げると云ふのであるから、非常なる克己を要する。こゝが日本人の確に趣きのある所と思ふ。之れが私共の國家の為、社会の為に尽す上に、よく保存して行きたいと思ふ。日本人は情に深い克己の徳を以て、よく其の情に堪へて行くのである。維新以後は、世が進んで博愛と云ふ精神が入つたから、君主に対するばかりでなく何人にも真心を尽すと云ふ風にならねばならぬ。総て人間は誠心でなければならぬ。天皇陛下に仕へ奉るのは、自分以上のものに仕へると云ふことである。つまり理想である。其の理想である処の君主に仕へるには非常なる克己をせねばならぬと云ふ処からであるが、今日は忠と云ふことの内容が複雑にならねばならぬ。忠は、只直接に君主の為ばかりではない。

例へば朝鮮人を愛すると云ふことは、天皇陛下に忠を尽すと云ふことに一致して来るのである。朝鮮人を日本に入れたのは、只入れる為めに入れたばかりではなく、我が國家の生命も危いから入れたのである。故に、朝鮮人を入れたと云ふことも朝鮮人に対しての忠である。又、今後我々が朝鮮人を導いて行くにも真心を尽さねばならぬ。バルカン半島の如きも土耳其が誠意を尽さないから反旗をあげるのである。ポー

ランドの如きも三国に分割されて居る。そ一してポーランド人は意気地のない者であるにも拘らず、帰服しない。そ一云ふ訳で忠と云ふことも、今日では対象が広くならねばならぬ。

そこで日本人は、天皇陛下に対して忠を尽し奉るばかりでなく、国民に対しても、世界に対しても忠であつて始めて日本人の尊い処が保たれるのである。故に忠孝、節義、廉潔、慈悲と云ふ様なことが主なる徳であるが、私は、未だ此の慈悲と云ふことは十分に顯れて居ないと思ふ。西洋の騎士道は婦人に対して最もよく顯れて居るが、日本では、も一つ弱いものに情をそゝぐと云ふことが顯れねばならぬ。弱い者に情をそゝぐと云ふと、説がわかる。日本に入つて居るニイチエの主義の如きは、弱い者は強い人の道具になるのが天職である。故に踏み台にすればよいと云ふ。も一つは人種改良論、ユーゼニックは、身体の弱い者、精神の弱い者は段々なくせねばならぬと云ふ説である。そ一すると、不具者とか劣等者などを医者が治して育て行くのは、弱い人間を作り立て行くことになるから、人種改良論に反対の事となる。けれども此の前、此の校に来られたシドニー ウェブ氏夫妻の如きは、弱い者を助けて行かねばならぬと云ふ説である。ニイチエの説は無論間違つて居るし、人種改良論も尤もな処はあるが、其の為に弱いものは助けるに及ばぬと云ふことではない。弱い者を構はないことにしたら、世の中はど一なるであらう。実に恐るべきことである。弱い者は皆、強いものの道具にしてよいと云ふことになれば、人格の尊重と云ふことはなくなるのである。人間は誰れでも皆、人格を持つて居ると云ふことと衝突して来る。そこで弱い者は不平が起るに違ひない。そ一して弱い者に同情すると云ふことがなくなつて、非常に冷淡なる社会となつて了うであらう。人種改良論は弱い人の人格を無視することはない。只段々によい人種にして行かねばならぬと云ふのである。劣等なる人が親になると不具なる子どもが出来る。そ一すると其の人は子に対して情なきものとなるから、情を持つて克己して行かねばならぬ。そこで、そ一云ふ人々に普通の人以外に慰謝を得る処の特権を与へねばならぬ。そこで弱い人に同情を与えることは、之れから先き段々むつかしくなると共に、猶必要であると思ふ。其の他貧民などは必ず弱い者であるから、ど一してもお互が情を施す様にならねばならぬ。然るに日本では、そ一云ふことが割合に発達して居ない。武士道などが情のあるものであるにも拘らず、そ一云ふ弱いものに情をうつすことが怠られて居る。夫れには婦人が率先して行かねばならぬ。男子も勉むべきことである。昔から男子と男子との間には武士の情と云ふものが顯れて居つたが、是れから先きは、も一戦争と云ふことは余りないから、昔の様な情を顯すべき時はない。そ一して男子は生存競争に忙しいものであるから、弱い者に対する情と云ふものを主として婦人の間に顯し、そ一云ふ品格を養つて行きたいと思ふ。それをするには、やはりそ一云ふ事業が発達して来なければならぬ。

従来は忠と云ふことに非常な確信を持つて居つたのであるが、此の信仰は今日も、やはり存して居ると思ふ。然るに、今日は其の他にも養つて行かねばならぬ徳がある。そこで人

心に動揺を来すこととなる。昔は中々戦争が盛んであつたから、何時でも **大君の辺にこそ死なぬ**と云ふ覚悟を持って居つたのであるが、今日は那一戦争はないから、同胞の為に忠を尽す、世界の為に忠を尽すと云ふ様にならねばならぬ。

勇とは意志の鍛練である。戦争の勇の如きは野蛮人でも、臆病な人でも随分出来ることであるが、今日は主義を守ると云ふ意味の勇がなければならぬ。近頃は新聞を見ても、銀行の金を使ふと云ふ様な事が続々出て居る。銀行が出来てこのかた、私共は此の頃のやうに斯んなことを聞いたことはないのである。故に勇と云ふことも戦争の勇をうつして、精神の勇にうつさねばならぬ。内体の生命は捧げても、君の為には耐死をした様に生命を捨て、貧困に陥つても、自分の主義をかへない様にしなければならぬ。支那でも、義を見てせざるは勇なきなりと言ひ、又、義を見て剣を見ざるなりとも言ふ。之れは道徳上の勇である。

日本人は今迄にも、いろいろよいことを道徳上にうつして来たのであるから、今後も必ず道徳上に発達することと思ふ。ピューリタンの武士道に似て居ることは克己である。武士道のやうに情と云ふことは余りない様であるが、耶蘇教的に人を救ふと云ふ処はある。ピューリタンの生命は何処にあるかと云ふと、三つある。

第一、神を信すること。第二、自分は神から此の世の中に遣はされたと云ふ信仰。第三、夫れ故に自分は大責任があると云ふこと。此の三つがある為に、英國程家庭が清潔で、立派な風格があつて、そ一して英國程信用のある所はない。或る英國紳士の名を以て金をひき出さるゝ処の銀行手形に、金額は少しもかいてない。そ一して紙切には、あなたの入程ひき出して下さいと書いてあると云ふ。之れは全く信用である。

ピューリタンは、神を信する故に銘々神の子で、銘々何か尽すべき責任があると云ふ信仰、つまり之れが靈魂の世界で、誰れもこゝ迄行かねばならぬ。

日本では、神とは或る意味から言へば 天皇陛下である。陛下の為に忠を尽す。故に、君に対して克己をするのである。そこへ神とか天とか云ふ様な信仰が西洋から入つて来ると、今迄のやうに忠と云ふことが出来なくなりしはせぬかと云ふ疑ひが起る。加藤弘之さんなどは其の一例である。日本の 天皇陛下の中にも、仏を信ぜられた御方があらせらるゝ。又、儒教を奉ずる人は、天と云ふことを信するのである。ピューリタンの如きは或る意味から言ふと、クローンウエルの如きは君を弑したものと云はるゝのであるが、いろいろ考へると矛盾が起るから、此に教育が必要となつて来る。昔から新しい思想の入つた時には、調和が出来るか出来ないかと云ふ問題ではなく、出来ると云ふことは確に証拠がある。夫れを如何にして調和すべきかと云ふことが教育上非常に注意を要することである。

神とか天とか、そ一云ふ思想をど一云ふ風に調和し、排列すべきかと云ふことをお互に考へねばならぬ。疑ひと云ふものは人間の精神を無勢力、不活動にするものであるから、深く広く考へねばならぬ。 天皇陛下に忠を尽すと云ふことは

最も大切なことである。肉親に対する忠と云ふやうなことは大切とは言はないが、近いものである。夫れから、属国に対する忠、同胞に対する忠と云ふ様なことも考へねばならぬ。斯う云ふ風に広く考へて、古来の性格の骨子を知つて、夫れに新しい思想を加へて、頭の中にちゃんと整理して一つの信仰とせねばならぬ。信仰なく疑ひを存して居るうちは、ど一しても品性は出来ないのである。

つまるところ、天皇陛下に尽し奉るにも、自分の兄弟姉妹に尽すにも、必ず勇がなくてはならぬ。其の勇には忍耐も入るであらう。時には自分の生命も、財産も、名誉も奉げねばならぬ。繰り返して言へば、忠とは真心を以て人の為に尽すと云ふことで、宗教家から言へば真心を以て神に捧げると云ふことで、之れが人間として最も尊い所である。

[中表紙]

第一学年及び予科に於て  
大正二年二月二十二日

大正二年二月二十二日  
第一学年及び予科にて

麻生学監

此の前に清教徒の話をして、清教徒は一つの目的を有して居つたと云ふことを述べましたが、夫れはよいことかわるゝことかと云ふと、之れは哲学論に入らねばならぬ。

[物質論について]

我々は往々、自分の事を忘れて宇宙の現象などを見て、不思議であると思ふこともある。けれども自分のことを考へて見ると、実に不思議である。僅に五尺の身体を以て、幾千万年昔のことも将来のことも考へたり、顕微鏡で極微細な物を見たり、望遠鏡を以て遙かなる境の事を見たりする。誠に不可思議な働きをするものである。其の上に理想と云ふ様なものを立てゝ、もちつとかはつた人になりたいと考へたりする。斯う云ふ様なことも其の本に遡ると、物質の大本である処の原子と云ふものが働きあつて、或るものは動物となり、或るものは植物となり、又或るものは人間となるものである。物質論者は斯う云ふ様に考へるから、人間と云ふものは偶然に物質と物質とが機械的に結びついて出来たものである。従つて人間と云ふものに目的があるのではない。故に何をしたらと云つて、善し悪しはないと云ふ様に説明する。そこで、道徳と云ふもの、正邪善悪と云ふことはなくなる。斯う云ふ考へは誠に危険なるものである。

[唯心論について]

又一方には、此の宇宙と云ふものは人間の生活に似て居る。先づ時計と云ふものを見ると、ど一して出来たものであるかと云ふと、いろいろの物が集まつて出来て居る。ところが之れは時を計ると云ふ目的の為に、齒輪や柱やいろいろなものがある。そ一して総ての物が其の目的を貫く為に協同して居るのである。夫れと同じ様に、人間の身体も種々の物から出



来て居るが、夫れは一つの目的の為に各部分が協同して居るのである。地球は土壌から成り立って居ると同じ様に、人間の身体も有機的關係を持つて居る。お互に精神があつて、其の精神が理想を追求して居ると同じ様に、此の宇宙も何かの目的があつて、始終活動して居るものであると云ふやうに考へる。之れを唯心論と云ふのである。

今日の此の人間は、決して唯物論者の言ふ様なものではなく、何かの目的を持つて生れて居るものであると、斯う考へるのである。然るに Puritan の如きは、そう云ふ哲学論から起つたものではない。全く宗教上の考へから起つたことであるが、各個人、目的を持つて居ると云ふことは、つまり唯心論などの影響を受けて居るのである。

[天職を見出だして努力せよ]

宇宙、夫れ自身よりも、人類の今日まで踏み行つて来たことによつて調べねばならぬ。夫れ故に私は人類の歴史を重んずるのである。兎に角、お互は此の世の中に生れたからには何処かに目的を見出だして、夫れを全うして行かうと云ふ様に志して行く人の生涯は、決してつまらぬものではない。自分の天職を見出だして努力して進む人は、事業から言へば成就するし、成功論から言つても尊いものである。けれども、何時迄も天職を見出だすことが出来ず、只心配ばかり先に立てゝぐずぐずして居る人は、何時も気分がおちつかないから決して満足なる生涯は送られないのである。

此の学校の出来る頃、或る所に自分の天職を見出だす為に三、四年、煩悶して居つた人があつた。夫れが一朝、天職を見出だすと全く別人のやうになつて、是れが此の世の中に尽す道であるから、外に何も求むることはない。今迄いろいろ考へたのは自分の成功などから考へたことで、今日となつては何も思ふことはないと言つて、宗教界の人となつたことを喜んで居るのである。

[Jeanne d'Arc について]

Jeanne d'Arc の如きは全く天職の為に顕はれた人で、天職の外に Jeanne d'Arc はないのである。

Jeanne d'Arc は佛蘭西の Alsace-Lorraine の間の パルガンチ と云つて獨逸國との間の処、其処に生れた人である。其の頃、Orleans は英軍の為に囲まれて、其の危きことは旦夕に迫つて居るけれども、誰れも救ふことは出来なかつた。其の前から Jeanne d'Arc の耳には、汝、Orleans を救へ、と云ふ声が度々聞えるので、「私は小さい少女でござりまして、到底軍人となつて國を救ふことは出来ませんもの」と答へては居つたものの、余り度々聞えるので、遂には親にも告げたのである。

Jeanne d'Arc は真白な鎧をつけて黒馬に跨つて、僅に十七の少女が軍隊を作つて Orleans に行つたので、多くの軍隊は天使の如く之れを迎へた。そこで Jeanne d'Arc の説いたことは、高尚なる目的の為に一致して働くことは最も尊いことであると言つたので、非常なる勢力を以て七月英軍に囲まれて居つた Orleans 市で、七日間の激戦をして敵軍を追い払つたのである。

Jeanne d'Arc が後に國へ歸つた時、人々が、あなたは怖く

はなかつたか、あなたの一番恐しかったことは何であつたかと尋ねた。其の答へに、自分の最も恐れたことは内訌であると言つたと云ふこと。敵國からいろいろと探索を入れ、人心をわれさす様な流言などをも言い触らしたのである。然るに Jeanne d'Arc の最期の時、矢が胸に立つて馬から落ちると、Jeanne d'Arc は自ら其の矢を抜いて馬に跨つて、悠々として又進んだ。其の時に或る大將が、今迄 Jeanne d'Arc を誤解して居つたことを詫びたと云ふことである。

斯くの如き力はど一して出たかと云ふと、全く天職を信じたからである。三百幾人と云ふ人の中で チャールス七世 を見出だしたことの如きは、全く千里眼のやうなもの。僅に十七才の少女でありながら大砲をうつことが誠に上手で、生れながらの砲兵であるとまで言はれた。そ一して何時も進め進めで、滅多に退くことはさせない。軍を進めること、兵を鼓舞することが誠に上手である上に、敵の兵にも、部下の兵にも非常に情をかけたのである。けれども軍を進むる時に當つては、何ものをも許さないのである。故に軍隊は Jeanne d'Arc を天使の如く思つたのである。彼女は白い鎧をつけて出たので、何故男装するかと言はれた時、「軍隊を率いて馬に跨つて行くには、男装をするより外はないではありませんか」と言つた。けれども決して鎧をとかなかつたのは、何処までも女であると云ふことを知つて居るから、一身の潔白を通したのである。Jeanne d'Arc の声は誠にやさしい、女らしい声であるが、号令などする時は、よくすみ通つたと云ふことが記されて居る。

初め チャールス七世 が、Jeanne d'Arc に軍隊を率いさせてやつてよいかど一かと云ふ時に、いろいろな試験をさせられたのであるが、彼女は一々立派な見識ある答へをしたのである。此の無学なる少女が、ど一して斯う云ふ事業が出来たかと云ふと、全く天職を信じたからである。

此の様な話をすると、あなた方は私にも、ど一か神の声が聞えて欲しいと考へるであらう。併し彼女は、不断から忠実に神を信ずる念の深い人で、周囲は戦争ばかりである故に、ど一しても國家を救はねばならぬと考へて居る。そ一して、昔の  그리스 、 ローマ  などには、女でも國を救うた者があつたと云ふことを始終考へて居つたのである。其の神の声を聞いたと云ふのは、果して神の声であつたかど一かはわからないが、つまり之れは、神の声を聞く程に一生懸命であつたからで、神の声を聞いたのは其の結果である。我々は其の原因を心に存しなればならぬ。ほんとに私共が時の必要を見出だして、ど一しても自分が出なければならぬと決心するならば、神の声を聞えるのである。

[客觀的修養が必要である]

私は、自分の天職と云ふことは今言ふ Jeanne d'Arc の如き、自分は軍人として適するものであるかど一かと云ふ様なことを考へてではない。彼れは全く客觀的であつたと思ふ。お互の精神修養は余りに主觀的で、消極になつて引つ込んで考へ込むことが多い。Jeanne d'Arc の如きは全く積極的に社會の必要に応じて飛び出たのである。物は危い方を考へると信仰はなくなつて了う。故に私共が世に立つて行くには、主觀的

の修養も必要であるけれども、最も大切なことは客観的修養である。自分は逆も力が足りないからなど思へば、何も出来ない。けれども人の為にど一しても尽さねばならぬと思つて一生懸命になつて働いて居れば、力は段々養はれて来るのである。Jeanne d'Arc の如きは今の心理学から云ふと、自分の信仰が声となつて顕れたので、此の客観的なる処が最も学ぶべき所である。

アメリカのボルチモアと云ふ処は貴族の移住した所で、Boston は Puritan の移住した所である。故に Boston は礼儀作法などは拙いが、心は実にきれいである。ボルチモアは礼儀正しく、人に応対するにも着がへをして出ると云ふ様な風が今日にも伝はつて居る。けれどもアメリカ魂は何処から出たかと云ふと Boston からで、アメリカに家政学の起つたのは、アメリカのボストンの工業学校のリチャード夫人と云ふ人によつて唱導せられたのである。今日でも家庭の清潔と云ふ様なことも、やはり Puritan からである。故に日本で武士道回復と云ふこととアメリカの Puritan 精神の回復とは同じことである。故に私共も、自分は何をすべきであるかと云ふことを早く見出だして、夫れがわかつたなら直に従事することが必要である。

#### [天職について]

天職を見出だすには随分時のかゝる人もある。併し其の天職を見出だす為に苦心すると云ふことは、決して無益なことではない。人によつては早く天職を見出だすことの出来る人もあるが、苦心して探すと云ふ中に、人間の人間たる処がある。犬や猫には天職を見出だす為の苦心はないのである。人間全体の天職を見出だすと云ふことが、即ち人生である。真面目に天職を探して居るか否かと云ふことに由つて、人格の高下がわかれて来るのである。婦人の如きは家を持った上に自分は此の家にど一云ふ天職を持つべきであるか、家庭を持つ上に社会に対してはどれだけ尽すことが出来るかと云ふ様に考へて行けばよい。斯う云ふ風にして行けば、何処かに天職を見出だすことが出来るであらう。然るに、そ一云ふ風に天職を探ることが価値あることであると気づかないで何時迄も迷うて居ると、心がおちつかないから自分の為すべき事に手がつかない。田舎には、狐にだまされると云ふことがある。処が又、田舎には誠によい教訓があつて、「狐にだまされたなら、すわり込め」と云ふことがあつて、狐にだまされさうな処と思へばおちつけと云ふ教へ。これは誠に大切なことである。

私共は世の中に立つて、よく心をおちつけて自分の天職は何処にあるかと云ふことを見出ださねばならぬ。夫れも早く見出ださうなどとあせつてはいけぬ。始終研究して居れば遂には発見せらるゝものであると云ふことを知つて、静かに見出だすことが大切である。夫れでは、ど一すれば見出ださるゝかと云ふと、家庭に入れば家庭と云ふこと、社会と云ふこと、そ一云ふ境遇をも考へねばならぬ。そ一して夫れが見出されても、軽々しく人に言ひ触らすべきものではない。Jeanne d'Arc のやうな仕事をするには、人に言ひ触らす必要もあるけれども、普通の事は準備の時代には心に持つて居る

がよい。そ一して親友などに相談をして、着々実を挙げて行くこと云ふことが大切であると思ふ。

#### [中表紙]

第二、三学年に於て  
大正二年二月二十六日

大正二年二月二十六日  
第二、三学年に於て

麻生学監

#### [婦人の進むべき積極的方面について]

此の前は、婦人の消極的方面を話したのであるが、今日は婦人と云ふものが斯う云ふ時代に如何にしたならよいであらうかと云ふことを積極的方面について述べて見たい。消極的方面はやさしいが、積極的方面は中々むづかしい。今日は一般の事について述べて見やう。

何かをしたいと云ふ考へ、只死にたくない、何か役に立つことをしたいと云ふ考へがお互にある。之れを事業と云ふ。然らば、婦人にはどう云ふ事が出来るかと云ふことを考へねばならぬ。

雌雄両性のわかれて居ない時代で、男女雌雄と云ふ区別がない故に分裂して繁殖して行くのであるが、も一少し進んで行くと同体両性となつて、ボルボックスと云ふ様な下等動物は細胞の分業に由つて繁殖して行くのである。第三番目には、雌雄と云ふものが個々別々になつて来る。此の第三階段を通して動物学上では、子孫の繁殖して行くものは母体と言ひ、岐れて出来たものを娘細胞と云ふのである。そ一して見ると、雌と云ふものが最初の存在物で、雄と云ふものは後から現れたものである。故に、雌と云ふものは其の動物の特性を後世に伝えるものである。下等動物に於ては、雄と云ふものは身体から云つても誠に微弱なものであるが、高等動物になる程、雄の勢力が増して、形も美になつて来るのである。併しながら、其の種の種たる処を伝えることは雌の職分であつて、種の性質を複雑ならしむることは雄の職分であると云ふことは動物学の教ふる所である。

#### [男女の差異について]

其の種の体格はどうであるか、其の種の智はど一であるか、其の種の情意はどうであるかと云ふことは、雌に由つて伝へらるゝものであるから、婦人の体力、知力、情意の力が進まねばならぬのである。そこで第一、婦人と云ふものは男子よりも種族に近いので、種族を代表するものである。第二に、男子よりも変異が少ない。夫れはどう云ふ訳かと云ふと、婦人は保守的に種族性質を永遠に維持するからである。之に反して、男子は進歩的に変動して行かうとするのである。第三に、男子は進歩的で女子は保守的である。

第一、婦人が種族系に近いと云ふことを生物学上から見ると、生物が段々進んで人類はどう云ふ風に進みつゝあるかと云ふと、人類系に由つてもいろいろあるが、先づ身体に比較

して頭は大きいのがよいと云ふ。顔は小さい方がよい。胴は円いのがよい。手足は小さくて自由に軽く動くのがよい。骨は軽くてやさしいのがよい。肌は毛深くないのがよい。斯う云ふ目標に近くなつて居るものは誰れかと云ふと、子どもと婦人とである。故に人類は段々進んで行けば、子どもの様になるであらうと云ふ。斯う言へば、子どもの様になれば退歩するのではないかと云ふ考へも起るであらうが、希臘人は子どもの様であつたと云ふ。そ一して或る希臘人は、汝、希臘人は常に児童たれ、と言つたこともある。そこで形の上から言つても婦人は人類系に近いと云ふ。

第二の変異の方から言つても、男子の方には変異が多く、其の変らぬ処のものは婦人が代表して居る。第三の新しき方向に進むことは男子に多く、女子は保守的である。

[婦人は社会上偉大な関係を持つて居る]

斯う云ふ訳で、人類其の物、種族其の物を伝えて行くのは婦人であつて、婦人と云ふものが特徴を維持して行くのであるから、之れは意識しやうとすまいと、婦人の責任にかゝつて居るのである。そ一云ふ点から婦人と云ふものは、社会上偉大なる関係を持つて居る。故に、益々立派な特徴を伝えて行かねばならぬ。そこで昔から婦人が立派でなかつた時は、ど一しても立派な社会とすることは出来なかつたのである。故に、婦人と云ふものは出来るだけ立派なものとなつて、責任を果して行かざるに心がけねばならぬ。

次には、精神上の事を知力上と靈性上に分けることが便利である。知力と云ふものは脳の構造夫れ自身ではなく、脳の性質に由つてきまることで、如何なる形の脳を持つて居るにもせよ、其の感覚中枢、運動中枢、殊に三分の二を占めて居る処の連合中枢の教育に由つて、非常に變つて来るのである。

故に、知力上に於て男女各々異なる処はあるけれども、優劣は言はぬと云ふことに今日はなつて居るのである。具体的事には女子が優れて居るけれども、抽象的事は男子に及ばない。創始力を以て發明、発見をすること、並びに新計画を立つると云ふ様なことは、男子の長所で女子の短所である。

靈性上と云へば、先づ同情である。同情は二、二が四と云ふ様な事ではなく、人格が人格を動かして起る処の靈と靈との關係で、人格を尊重する上に最も有力なるものである。同情は親子、夫婦、兄弟と云ふやうなものから、同県、同国から世界人類にまで広め得る処のもので、誠に尊い、且つ暖いものである。そ一して一種の Inspiration として、男子の方面に非常なる感化を及ぼすものである。故に昔は魔術と云ふことを云つたのであるが、野蛮時代には婦人は一種の魔力として使はれた。今日は Inspiration と言ふ。之れは婦人の無意識に表すもので、之れは婦人たる処の人格である。どんな婦人にでもあると言ふことは出来ないが、所謂婦人系を以て婦人たる処を表せば、此の力は大に養ふことが出来るのである。

大体斯う云ふ訳であるから、人類系を維持する方から言つても、婦人は大に社会に寄与することが出来るし、精神上から言つても、大なる感化を与へ得るものである。故に婦人はつまらぬものであると云ふことは言はれない。近来婦人も大

に進歩して、男子に劣らぬ力を發揮した者も少なくはない。  
[婦人の根本的なものは同情と Inspiration とである]

婦人の最も根本的なものは同情で、も一一つは Inspiration である。昔から婦人は正邪の判断が鈍いと言ふけれども、判断と云ふよりも論理の道筋を踏まずして直覚的に物事を見分けることが出来る。殊に道徳上の事などは大に直覚力を要するもので、いろいろ理屈をつけて行くと利己的の考へに陥ることがある。婦人は、電光石火の間に人を見るとか、道徳上の事も直覚的に正邪善悪を見分けると云ふ様なことが多い。昔から宗教家の働いて居る間には、必ず婦人の Inspiration があるのである。

之れは大体の考へであるが、昔と今と大層考へが違つて来たので、婦人も社会に向つて非常に貢献することが出来るのである。今迄は、直ぐ男子と女子との比較をしたのであるが、比較はいらない。女子は女子の長所を以て、社会に尽せばよいのである。之れは理論上確められたことであるが、夫れが事実となつて現れねばならぬ。

[婦人は社会に尽す為に如何なる方面に力があるか]

婦人が社会上に尽すには、深さに於て、即ち知力を以て尽すことは出来ないが、広さに於て、即ち同情を以て尽すことが出来る。男子は一つの事業に深く尽すことが出来るが、女子は男子の手を下す余裕のない様な方面に向つて、社会の文化を伝播し普及して行く上に力あるものである。

皆さんが、西洋の婦人は斯く斯くのものである、日本の婦人としては如何にすべきかと云ふことを考へて、我が国社会の為に彼れもしたい、是れもしたいと考へても、夫れを行ふ処の境遇がなければ出来ないのである。夫れが出来ないと煩悶を生ずるので、之れが婦人の為に氣の毒なことである。西洋では機会均等と云ふことが行はれて居るが、人間と云ふものは妙なもので、戸を閉ぢてあると入つて見たいと云ふ情があるから、英國などでは婦人が政治上にも参与することが出来ると云ふ機会を要求して居る。

[境遇に応じて物事をせんければならぬ]

日本婦人がどう云ふことをしやうと思つても、門戸を開かれぬ処に入ることは出来ぬ。日本などは大体から言ふと、英國の様に過激なことは起らない。けれども、近頃言ふ処の脱線的の婦人と云ふものがある。之れは、やはり境遇がないからである。社会を秩序的に治めて行くのには、境遇に応じて物事をする様にさせねばならぬ。境遇が開けないと不平が起り、不平が起ると脱線する様になる。青年は往々、境遇を考へぬことが多い。今日の日本の境遇と云ふものは、婦人が世に立つには少くとも英米の四十年前の状態である。夫れにも拘らず、英米の今日の思想は間断なく入つて来る。そこで境遇が与へられない為に不満が起り、悲観する様になり易いのであるから、今日の婦人は境遇がどうであるかと云ふことを考へねばならぬ。夫れと同時に、日本でも段々と秩序的に境遇を開くと云ふことが必要である。日本人は社会上、歴史上、革命的の事はしない。之れが性質であるから、ど一しても日本人は秩序的に進むのであらう。佛蘭西人と似て居ると言ふけれども、仏人は破壊的である。日本人はそう云ふこと

はせぬ。これは、国体の然らしむる所であらう。故に、日本婦人は境遇の与へられたる処、開き得たる処に於て、自分の尽すべき事を充分誠実に、まじめに尽すことが大切である。  
[国民性と云ふことについて確信がなくてはならぬ]

人間は自分の国の国民性について確信がなくてはならぬ。日本婦人を教育するからには、日本婦人に対する確信を持たずして婦人はつまらぬものであるなどと考へて居ては、到底教育の出来るものではない。

[女子高等教育の必要を説くには口にあらざり実行にあり]

私は、日本人は忠と云ふものが大切であるからとて、忠ばかり養へば他のことはどうでもよいとは言はぬ。さうかと言って、忠は日本の国民性であるから、も一養はなくてもよいとは言はぬ。何となれば、放つておけば物は衰へて了うから、やはり活動的に之れを養つて、益々働かしむる様に勉めねばならぬと思ふ。あなた方、教育を受けた者が女子高等教育の必要を口にすれば、却つて反感を買ふのであるから、口に必要を説くよりも、実行に由つて必要を示さねばならぬ。一人でも間違つた者が此の学校から出ると、全体の為に折角盛んにならうとする女子高等教育の為に、又進んで高等教育を受けやうとする数多の婦人の為に非常なる妨げとなるのであるから、お互によく謹んで切磋琢磨する様にせんければならぬのであると思ふ。

[中表紙]

大正二年三月五日  
成瀬校長歓迎会席上にて

大正二年三月五日  
成瀬校長歓迎会席上の御話

全体を代表して大学部、高等女学校から真心を以てお迎へ下さりまして、誠に嬉しく感じます。そ一して皆さんの御健康で、よく勉強して進まれて居ると云ふことを感じまして、私の留守中少しも内願の憂ひなき様にして、七ヶ月の間、自由に視察の出来る様になさつて下さつたことを感謝して居ります。之を一々詞に表すことは出来ません。今日は其のお詞に御答をし、又待つて下さつた所の御希望に添ふ様に致すべきである。然るに、皆さんに十分に御満足と与へる丈けに御みやげを差上ることが何処まで出来ますかと云ふことは大変問題である。私は私の予想して居りましたよりも満足に思ひ、感謝に堪へんと云ふこともありますけれども、一方には不十分であると感じることもある。夫れは前にも申しました様に、時日が足らんと云ふこともある。折角希望を満す様に道を開くと、も一其処を去らねばならぬと云ふ様になる。故に、私を待ち受ける人も遺憾に思はれたことが沢山あつたと云ふ有様であります。

[英國について]

例へば、英國に一ヶ月と云ふことは、誠に短いのである。

ミス・ヒューズは度々手紙をよこして、一日も早く来る様にとのことでありました。そこで私は一週間ばかりの計画を立て、三、四十通の手紙を書いて金曜日に出しておいて、日曜日にウエールズのミス・ヒューズの居るカーチフカレッジ Cardiff に行つて面会しましたが、ミス・ヒューズは、英國の教育を見るに一ヶ月位しか居ないと云ふことは悪であると言はれたが、之れは親切な心からである。

[暹米利加について]

アメリカの方は先年、大分見て来まして、其の後も沢山人にも逢ひ、出来るだけ調べて居りましたし、学監も行かれ、此の学校の卒業生も段々行つて居るのであるから、見なくてもよいことは悉く省いて参りましたので、短日月の割合には大体わかつたと思ふ。けれども欧羅巴の方は始めてで、見当がつかないと云ふことと、も一つは英國の外に詞が十分使へないと云ふ不便もあり、殊に日時も少ないと云ふ訳から、ど一したらばよいかと云ふことは米國を立つ時に余程考へたことあります。それで思ふ程に見られなかつたと云ふことでもあります。大体は見つて歸つたつもりであります。

さて歸つて来て、此の学校がど一なつて居るか云ふと、第一、門が替つて居ると云ふこと、生徒は元気で数も減つて居ないと云ふ様なことは直ぐわかる。けれども学監の述べられた様な深いことになると、共に生活しなければ、一寸数字や統計などではわからないのである。

夫れで之は一言ではわかりかねるから、あなた方の要求して居ることも大体は見当がつきますし、又、目に見えないおみやげに就いては追ひ追ひ申す事としませう。

私はあなた方に対して、又外國に居られた桜楓會員に対しまして、又世界各国に居らるゝ此の学校の同情者、及び自分の友人に対して、又其の以上のものに対して感謝せずには居られない。私は実に感謝に堪へないのであります。之は口に言はれない、説き明しの出来ないことではありますが、私は生来、ミスチックな所があるから、之は大変な恵みであると思つて居ります。又、謙遜に考へて居ります。誠に私は感謝の詞が足りないと思つて居る。今迄私は、日本国民は誠に礼儀に正しい謙遜な国民であると思つて居りました。然るに今度各國を回つて見て、未だど一も感謝が足りないと思つたのであります。

今度はサイベリヤをずっとインターナショナルカーで参りました。其の中には各國の人が集つて居つて、食堂は皆一所である。三等、二等はないから一等ばかりで、一等は二列車しかないのである。私は一等で荷物は何もないから夜寝て居ると、税関が見て出て行く。何も心配はない故に人が羨ましがつて、お前は國王の様な旅であるなどと言はれたこともある。ある時は二等に、又三等にも乗つたのである。斯う云ふ風で長い汽車旅行をしたから、いろいろの人に接することが出来て、観察するには誠に便宜であつた。

長い旅行をして居ると、日が経つ程親しくなつて家族も同じことである。インターナショナルカーで或る人に、お前は日本語を知つて居るかときくと、有り難うと、ど一ぞ、御免と云ふ詞を知つて居ると云ふ。欧羅巴を回つても一番先きに覚え

ることは、有りがたう、どうぞ、御免と云ふ意味の詞で、世界各国何処でも同じことである。斯う云ふ詞は日に幾度となく聞くことで、そ一言はなくてもよい時も、向ふから言はるゝから、此方でも挨拶の仕やうがない位である。

#### [独逸の決闘について]

独逸の学生には沢山、刀痕がある。私共が行つて居る間にも沢山、決闘があつた。独逸の國に斯う云ふことがなかつたなら礼儀は保たれないので、ピスマルクの如きは十七回も決闘をしたと云ふことである。私共の子供の時でも、武士は刀を抜くものである。併し容易に刀を抜く者は腰抜け武士であると言つて居た。そ一して、最後には命のやりとりとなるのであるが、容易に争ひをしないのである。斯う云ふことが独逸に於ても、よく守られてあると思ふ。

#### [日本の職工について]

サイベリヤで同行者十四人に逢ふことが出来た。その人の話をきくと、日本の職工は外國の職工と比べてひげをとることはない。船を造つても同じ様なものを拵へられる。然るに日本人の只一つ恥づかしいことは、協同一致の精神の乏しいことで、外國人は職工でも協同して働くことと云ふことである。人に対して好意を以て相助くること、感情を害しない、礼儀を守ると云ふことは誠に大切なことであります。私の行つたとき、米國では丁度大統領の選挙の頃であつたが、議會などで反対党の演説のある時でも、決してNoとも、ひやとも言はない。そ一して最後に自分の議論を述べるだけである。信仰の違ふと云ふことも、政見の違ふと云ふこともあるけれども、人の人格を尊敬する。そのために自らの品格をおとすと云ふことがない。ど一云ふ場合にも有り難う、どうぞ、御免下さいと云ふ國風。之は英國の美風である。ロシア人も有望な國民であると思ふ。日本人には之が足りない。之れが今日の欠点であると思ふ。西洋では、主人が僕婢に対し、親が子供に対し、有り難う、御免下さいと言ふ。故に、人心がよく育つのである。

そこで私は自分の事を思うて今迄、有り難う、御免下さいと言つて居つたつもりであるが、未だ足りなかつたと云ふことを感じました。そして彼方の人へ手紙を出すと、よく返辭を書いておくと云ふことは実に立派な風習である。日本人は手紙をやつても中々返辭をよこさない。故に私は文通の上に於て、日本人は甚だ礼を欠くと云ふことを感じたのです。日本では有り難うとか御免とか云ふことを言ふと、何やら見識が下る様に思ひ易いが、彼方ではそれを言はないと紳士、淑女の資格を失ふのであるから、猶自ら謙遜になつて、よく言ふのである。

私は昨年八月、横濱を出ましてから毎日、感謝の念を以て満たされないことはなかつた。けれども私は、丁度夫れを表はすことが出来なかつた。夫れは私の位地をも考へて貰はねばならぬ。私は一人で沢山の人に対するのであるから、志の届かないことが多いのである。然るに今は外國に出ても到る処、桜楓会員があり、女子大學の關係者が沢山あります。人も言ふことであるが、女子大學の卒業生ほど母校を思うて居る者はないと言ふ。海外に居る人の多くは家を持つて居る人

が多いのであるが、桜楓会員の会をすると云つても夫婦で子供をつれて出かけて来る。そ一して其の夫の人が、私の世話をしてくれるゝことなどは実に至れりつくせりで、丸で親を迎へる様にせられたのである。外國へ行くと云ふことは、皆さん楽なことの様思ふかも知れないが、世界中の刺激を受ける所の異郷に在つて、國へ歸りたいとは思ひませんと云つて、少しの不平もなく働いて居るゝのは容易なことでない。私は外國に居るゝ桜楓会員に対して、誠に同情をよせるのである。オックスフォード大學にも三日居りました。英國の人は一寸つきがわるうて親しくなにくいと聞いて居たが、行つて見ると中々さうでない。日本では名高い學者と云つても、奥さんは見おとりがする。子孫に至ると猶更ひどい。けれども英國では、學者たちの奥さんは少しも見劣りがしない。実に立派な品格をもつて居るゝ。プロフェッサー フォーセットの奥さんは盲目の主人に仕へて、其著書から仕事の凡ては皆、夫人の助けであると云ふ。けれども少しも高ぶるものはないのである。かう云ふことは是非、ならはねばなりませぬ。要するに今度の旅行は、至る所に於て出来る丈の好意を以て私を迎へて下さつたこと、及び健康も充分でないために危険を感じたこともありましたが、たいした障りともならず無事帰朝することが出来ましたから、視察中のおみやげとも言ふべきものを段々として、本校の教育の上に益々改良、進歩を計り度いと思つて居ります。

[中表紙]

大正二年三月八日  
第一学年及び予科にて

大正二年三月八日  
第一学年及び予科にて

近頃の教育と云ふものは、昔の教育とは余程考へが變つて居る。私共、教育と云へば、物を教ふことであり、習ふことであると思つて居た。西洋でも昔はさうであつたが、それは旧い考へで、今日では教育とは開展することであり、適応することである。開展とは、屏風など畳んであるならば拡げて行く、繪巻物などを開いて行くことであつて、適応とは、自然界、人事界の総ての出来事に対して我々が適当に応じて何かをして行くことである。

#### [境遇適応について]

人間と云ふものは精神をもつて居る。精神の中には、樗の木の中にはどんぐりとなり得る力が入つて居り、鷲の卵の中には大なる鷲となり得る力が入つて居り、杉の種には立派なる杉の木となり得る力が入つて居るけれども、此に立派な松の種があつても、適當なる境遇を与へなければ開展することは出来ぬ。故に、其の境遇に適応してはじめて開展することが出来るのである。動植物は自分の境遇に適応して行かうと云ふ考へで、日かげにあるものは日のよくあたる方へ、風の

荒い処にあるものは斜に傾いて風をよけて居る。人間も斯う云ふ様に、よく開展しやうと思へば境遇によく適応して行かねばならぬ。

夫れで人を教育するにも、其の境遇に最もよく適応させねばならぬ。生の要求を満たして、社会の境遇によく適応すること、之れは只順応することとは違ふ。故に、小さい時から自分で境遇に適応することの出来るやうに育てねばならぬ。之れを英語で言へば、To know 知らしむ、To do 為さしむ、To be あらしむ、の三つとなる。

[昔の教育と今日の教育とについて]

従来の教育は、学生をして只知らしむと云ふことに止まつたのである。けれども今日の教育から言へば、自分をも、自分の境遇をも、かへて行くことの出来るやうにしなればならぬ。故に教育を受けると云ふことは、自分を益々高尚なものにかへて行く、高尚な要求をもつやうにかへて行かねばならぬ。之は、少し教育を受けるとわかつて来る。之れでは何やら物足らぬ、淋しい、不満足であると云ふ様に感ずるのは、己を知ることの第一歩である。故に、其の要求を満たす様に何かをせねばならぬ。そして何かになり得ることが大切である。

東洋流に言ふと、精神修養と云ふことをして、自分を立派にすると云ふことを重んじた時代があつた。即ち山間に隠遁した人などであるが、今日から見れば、そ一云ふ人は境遇に負けた人であるから、何事にも勝つて行かねばならぬ。故に隠遁生活は今日では、東洋でも西洋でも許さない。どうしてもほんとの人間は境遇を切りひらいて、社会に何かを与へて行かねばならぬ。

[生の要求について]

近頃は社会がど一云ふ様に動いて行くかと云へば、先づ自然界は別として、人事界の境遇をど一云ふ風にかへて行くかと云ふに、婦人問題、慈善問題と云ふ様なことがいろいろある。そ一云ふことをするのは、一方から言へば人々の生の要求を満たすことである。茲に生の要求を満たすことの出来ない人があれば、之れを見て哀れなことであると思つて活動するのは、又其の人の生の要求を満たして居るのである。故にいろいろな問題について盛んに活動が行はれて居るのである。

学校生活と云へば準備時代であるけれども、西洋などでは学生時代から社会活動に加はつて居るものが少なくない。外国の大学などへ行くと、大学殖民館と云ふものがあつて、夜など銘々専門をもつて貧民や労働者のために何かを与へて、各々生の要求を満たして居るのである。日本には未だそ一云ふことがないけれども、後来は斯う云ふこともして行かねばならぬ。

学校生活、寮舎生活と云ふものは人為的のものであるけれども、亦一方から言へば、之れが自然である。それで仕方がまづいから不充分なことが多いけれども、斯う云ふことが必要であると云ふことを知つて居て貫はねばならぬ。昔は只物を知ると云ふことがよかつたが、今日では為すと云ふこと、即ち社会に対し、人に対して何かをしようと云ふことに由つて覚えて行かねばならぬ。之は私の毎年毎年、新らしく入つた

人に対しての要求である。

一年では、いろいろなことをしても右往左往にさまようて何等の成案も出来ない時代であるが、二年となれば此のDoingに進むべき時代である。私共は学校のため、教育のためよいことなら何時でも取つて入れる。けれども欠点を見ることはやさしいが、斯うすれば善いと云ふことは誠にむづかしい。そこで学校教育はど一するかと云へば、学校に居ても学校生活をかへて行く、未来の境遇を開拓して行くことの出来る人を作らねばならぬ。此の学校は学生も教員も協同して、此の学校を磨き上げて行くのである。此の協同に由つて学生自身も、学校全体も段々、進歩、改善せらるゝのである。

去年まで此の大学の二年に居て、外国へ往いて主人の事業を助けて、大変活動して居る人がある。今迄三度手紙が来たのであるが、夫れ迄は皆主人を助けてして居る事業のことで、私にも力を添へてくれよと云ふことであるから、私などは微力であるけれども、出来る丈のことはするつもりである。斯う云ふ訳で、学校に居る時から物の出来る人は社会へ出て、やはり物が出来る。即ち社会適応である。

[英米の婦人について]

新らしき婦人と称するものも、一種の社会適応を試みて居るのである。New woman と云ふことは最初、英國でつけられた名であつて、婦人でも哲学など研究して見ると中々面白いから、哲学茶話会などを催した。其のために一種の冷笑をかうたのである。けれども米國辺では、も一哲学茶話会などではない。参政権などを得やうとして居る婦人は、新らしき婦人である。英國婦人と米國婦人とは、やり方が違ふ。婦人の中に立派な哲学者も、教育家も続々出来たのである。米國の婦人は一寸逢うても十年も前からの相識の様にして、親切に導いて呉れるが、英國の婦人は初対面の時などは顔を赧らめて、やさしく道を教へてくれる。けれども此の顔を赧くする、やさしい処の英國婦人の心の中は、なかなかえらい。そ一して、それを説き勧めて示威運動などをして随分過激な事をすすけれど、子供の教育のために、結婚の為に、家庭と云ふことを誠に重んじて居るのである。米國婦人は教育問題にしても其の内容を研究して、教育界と云ふ社会に向つて適応して行くことに勉むる。日本などでは、斯う云ふ風に教育を改善せんとする様な人は男子にも少ないのである。

今度、アメリカの中部に於ては子供展覧会と云ふものが開かるゝ。之れは子供の玩具とか何とか云ふことではなく、子供そのものを展覧するので、之に関しては母の会と云ふものが重んぜらるゝ様になつて、母の会では、牛乳とか食物とか云ふものの研究なども盛んに行はるゝのである。

今日受け取つた手紙、之れは万国護国教会とでも訳さうか、此の会の会長からよこされたもので、米國ではモルモン宗と云つて、一夫多妻主義が行はれて居る。一夫多妻主義が行はるゝと子供が沢山になつて、其のために家庭がよく治まらない。故に、之れを排斥しやうと云ふことも此の会ですて居るので、既に沢山の州を動かして賛成をさせて居る。そ一して、も一三州だけ同意をしたなら議会にかけやうと云ふのである。此の会の役員をして居る人だけでも五十人以上であるのである。

斯う云ふことは一寸知つて居ると直様通知してくれる。之に由つても事業に熱心なことがわかるのである。そ—して斯う云ふ様なのは新しい女である。

[日本の新らしき婦人について]

日本で言ふ新らしき女とは何かと云ふと、私の見る所では役者と文学者ばかりの様である。西洋の年鑑などを見ると、女優の生涯は誠に気の毒なもので、見す見す身を破す者であると知りながら、続々之になる人がある。西洋では古いことであるが、日本では漸う今頃斯う云ふものが現れかけたのである。

ジョージ エリオットは女の文学者として有名な人であるけれども、自由恋愛の率先者であつて、そ—云ふ人の生涯は誠に悲惨なもので、誰も羨むものはない。

自由結婚など云ふことは社会主義論者の中に現はるゝのであるが、其の中には屹度、婦人が交つて居る。其の婦人達は皆、社会主義論者の手先に使はれて、後にはよい目にあはされて了うのである。そ—云ふ思想は誰れが主張するかと云ふと、皆文学者である。文学は道徳と独立して居るなどと云つて無責任なことを書いても、一寸人目を惹く様なことを書けば名があがると云ふわけで、勝手なことをする。そ—すると若い者は無経験であるから、直ぐひき込まれるのである。故に文学者の言ふことにかと乗ると、何処に引き込まれるゝかも知れない。私は文学者をわるく言ふのではない。いろいろな方面に於て、非常なる貢献をして居ることもあるけれども、宗教家、政治家、教育家、文学者等の中で、どちらが実行の出来ぬことを言ふかと云ふと、文学者に多い。

若いものは空想に駆られ易いから、空想で出来た小説などを讀むと、どうなるかも知れぬ。私の見る所では、英國でも文学上で人心を鼓舞して社会を清めて居るものは、女流文学者である。女子は人生の暗黒方面を書いて道徳上の戒めになり、問題をとつても穩かに論ずることが多い。劇は、如何に過激なものでも余りひどいものは公衆の前で見ることが出来ぬ。然るに小説は一人で書齋にこもつて見らるゝから、そ—云ふ意味で小説の影響がひどいのである。故に女子が筆をもつて立つ上には段々社会の境遇をかへて、男女共に新しい社会の理想をもち、新しい社会の境遇を開拓して行くことの出来るやうに尽さねばならぬ。故に私は、此の学校から文学者にしてもそ—云ふ人が出る様に、家庭に入つても社会に出て、そ—云ふことのなし得るゝ人を出したいと思つて居る。私共の理想はそ—であるけれども、其の技量が乏しい為に十年を経過しても実に残念である。何も出来ないのである。

教育は金ばかりでは出来ない。故にお互に、もちつと考へねばならぬ。もちつと工夫をしなければならぬ。幸ひ、校長も新しい考へをもつてかへられたから、此の機を時として一層奮発せなければならぬ。實際我々の学校を觀察して、斯う云ふ点が不十分であると思ふならば、段々と改善して、社会の境遇をも開拓して、お互の生の要求を満足せしむる様にすることが必要である。只、口でしゃべるばかりでなく、筆でかくばかりでなく、其の人が居れば其の寮舎、其の家庭、

其の会がよくなると云ふ様な人になること。之れがほんとの意味の新らしき人と言はねばならぬ。も—直き二年になるのであるから、此の二年と云ふ境遇を最もよく開展して、その学校生活が實際社会に出て役に立つ様にするのが大切である。

[中表紙]

大正二年三月九日

成瀬校長歓迎会席上にて

大正二年三月九日

成瀬校長歓迎会席上にて

昨年出発のとき、三宅先生から有益な御注意をうけまして、其の後もよく違へぬ様に心がけて居りました。七ヶ月と云へば大變長い様であります。送別会か歓迎会かわからぬ程に近い様で、諸君の御仕る御様子を拝見し、此の席に出ることは誠に喜ばしく存じます。誠に私の留守中は我が国の多くの困難がありましたについて、私は遠方から心配を致して居りましたが、母校からは余り委しい御通知がありません。私も実はそ—でありましたが、今、長井先生が仰つた様に、留守のことは何も心配するに及ばぬと云ふことでありまして、私もそ—であると信じて疑ひませんから、今度程、安心して旅行したことはありませんけれども、我が国の非常に、困難な中に立つて御奮闘下さることであるから御察し申して居りました。殊にサイベリアにいつてからは新聞も見ないので、まるつきりがわからぬ。はるびんからはいろいろな夢を見ましたが、大概はよい夢でありました。そ—して新橋へつてから始めて、日本へかへつたと云ふ心地が致しました。今、三宅先生から仰つたやうに、今度は私が心配したよりも大層精力がつかまりましたが、少し油断をした為か、戻りに風を引きましたが、夫れも大方よくなつて帰りました。夫れで是れからは皆さんにお土産を出さねばならぬ上に、丁度かう云ふ折に皆さんに御相談致したいことがあります。之れを整理して皆さんに御話する様に、まとめる暇が今迄ありませんでした。

[外国の学者、教育家について]

併し、今度私が世界を回つて学者なり、教育家なり、非常に有力なる人に面会を致しました時に、日本の様に面会を断ると云ふ様なことは一人としてない。病氣中ならば、寝床へ呼んででも逢ってくれる。電話などでも決して事務員にかけさせると云ふことなく、総長自ら出て話してくれる。そ—してどれだけのことを見たいとか聞きたいとか云ふことも、殆んど此方の望む通りにしてくれるゝのは実に感心である。かう云ふことは是非習はねばならぬ。此の学校などでも外国から態々見に来る人があり、又何か用事があつて面会を求むる人があるならば、出来るだけ便宜を与へねばならぬ。ど—も之れまでの様にするのは宜しくない。之れはど—しても改め

ねばならぬと云ふ考へをもつて帰りました。併し学監を始め、内の人にも未だゆつくり話をする間がないのみならず、又留守の七ヶ月間の模様をきく間もない位であるのに、今日、歓迎会をお開き下さると云ふ訳であるから、順序も何もなく、私の頭に浮んで来ることを其のまゝ申すことにするより外、仕方があるまいと思ふ。

今晚は御話すべきことが多方面であります、かう云ふ席で食事の後であるから、成るべくあつさりした御話をするがよいと考へますが、又態々お集り頂くと云ふことは困難であると思ふ。故に少し六かしくなつても申しておかねばならぬこともあるかと考へます。故に皆さん、少しの間御辛抱を願ひたいのであります。

〔教育の根本問題について〕

出立の際にも私が申しておきました様に、アメリカは二十年ぶりで、欧羅巴は始めてであります。教育の設備、方法等の外部のことについても、十分調査、研究すべき必要もあります。

併し今日、我が国の教育、道徳の方面は其の機関や設備の如何にあらずして、其の精神を培養する根本、即ち教育、道徳の動機問題に存する。それで、私は殊に今度は宗教、道徳、風俗、校風と云ふやうな内面的の研究に力を集めたい。又、我々の十年間、我が校の方針を実行致しまして此に残つて居り、且つ、我々が行きつまつて居る問題は何かと云ふと、道徳の動力、即ち生命の問題である。此の問題を研究するには、只、学校を参観し、名士を訪問して其の意見をきくだけでは、到底、其の目的を達しない。夫れで私は、なるべく今日の欧米の教育の原動力たる所の宗教教育、其の他の活動の中に、共に生活致しまして自ら経験し、自ら直観するにあらざれば、其の目的を達することは出来ないであらうとは、出るときからの方針でありました。

其の目的を懐いて、其の他の教育事業を観察すると云ふことが私の主なる目的でありました。此に送別会のときには、諸君に明かに申し上げませんでした、自分の意中には其の教育視察を致しまする序に、も一つの方面のことを、生活すると云ふことに致したいと云ふ考へをもつて居りました。夫れは諸君も御承知のことと思ひます。夫れは、此の高等教育に尽力し、心配して居らるゝ処の東京帝國大學並に京都帝國大學の教授、其の他の人々と共に婦一協会と云ふものを起し、之れは将来、International movement にまで及ぼさうと云ふ目的を持つて居ります。夫れで、私の研究する所の目的と婦一協会の主旨とは自然に一致するのであります。

〔婦一協会について〕

私は此の婦一協会の Delegate 代人として遣はされたと云ふ訳でない。又、ど一云ふことを先方の学者と相談すると云ふことをきめられたわけでない。けれども趣意書を私の立つ前に作りしたのは、幾らか其の必要を認めて、急いのであります。そこで私は七ヶ月の間、各大学を回り、其の他是非私が訪問したいと思つて、出来得る限り各種の人に面会を致しまして、女子教育のことと婦一協会のことを同時に話したのであります。併し、どれだけのことをすると云ふ見当

がついて居りませんでしたから、出る前には発表致しませんでした、彼方で婦一協会を代表した程度及び私の態度と云ふことについて一言、弁解しておく必要があるかと思ふ。夫れは、私の話したことが新聞や雑誌などにも既に掲載されたと云ふことであるから、成る程、ある意味から言へば、将来其の目的の端緒ともならば幸であると思ふ考へをもつて居つたのであるが、ボストンやニューヨークの会に於ても、決して婦一協会の代人として申す者でないと言つておきました。之れはマウントホリヨークの大学の記念祭に、東洋の大学を代表して演壇にたつたのである。之れは東洋の大学が私を選挙して送つたのではないけれども、先方では Delegate として居ります。夫れと同じことで、婦一協会のことも私が代人として行つたのではないが、自然、そ一云ふ風にもとらるゝのである。

〔宗教の生命について〕

之は諸君の知らるゝ通り、私は女子大学を創立する当初に於て、此の婦一協会の主義を以て教育につくすつもりであると云ふことを宣言致したのであります。即ちキリスト教にも、仏教にも、儒教にも、総ての宗教の本にある所の生命を以て、其の主義を貫く様に教育すると云ふ考へで、之れは只議論としてではなく、私の主義と私の生活、私の根本の精神と云ふものは一つであつて、分けることはど一しても出来ないのである。故に之れを分けて見ると、仲間を作り、会を作り、名をつけて一つの表象を拵へた様であるけれども、そ一ではない。我々は其の生活をつゞけて来たのである。我々は宗派的で満足は出来ぬ。そ一かと云つて只、機械的説明を以て満足することは出来ぬ。そこで米國に参りますと、ダートマス総長、タクカーの如き、レピツ、スカッダーの如き、實に私の親の如き関係の人が随分沢山あります。そ一云ふ人に逢つて別るゝに臨んでは、自分の主義、自分の信仰を告ぐると云ふ必要がある。又此の大学は今後、世界の学者、世界の大学と相提携して進むと云ふつもりである。それ故に、婦一協会を代表すると云ふことは、今後、世界の学者と提携すると云ふことを同時に話したのである。女子大学のことを話すときには必ず根本問題に付いてである。故に婦一協会のことを話すにしても、あの主意書にあることだけでは、自分の主義、生活を述べたのである。

故に自分の主意を述べるについても、先方のキリスト教の Term を使はず、仏教、神道、儒教などの Term を用ふることに勉めたのであります。

〔婦一協会と女子大学について〕

エリオット博士は、日本に於て総ての問題の根本、及び総ての問題について大切なることは、此の成瀬がやつて居る女子大学にある。故に日本の文明を助くることは、此の女子大学を助くるに在る。其の女子大学の精神と全く同じ精神で出来たものは婦一協会であると言はれました。そ一して猶、神の Fatherhood と云ふことすら、日本では意味をもたない様である故に、之れが余程の大切なことであると云ふ意味の演説をせられました。其の後、博士は紐育で開いた会の終りに私を招いて、成る程、婦一協会が大事であるが、それよりも大事なものは女子大学であると言はれた。私は之れに答へて、



Motor power がなければならぬから婦一協会が大事であると申しましたら、非常なる熱心をもって皆に話をしてくれました。

[寄附金のことについて]

殊に博士が私が第二回目に話をしたときに、お前は此の女子大学のためにアメリカから少し金を募集して行く考へはないか、と問はれましたが、私はありませんと申しました。其の他処々で、女子大学のために又婦一協会のために金を募集して行つてはど一かと言はれましたけれども、私は募集は致しませんと言ひました。そ一して之れはカーネギーファウンド、ロックフェローファウンドの如きものとせず、多数の金持が必要に応じて出すと云ふやうに、多数の協同に致したいと申しました。其の結果、遂にエリオットが将来此の会の会長として立つと云ふことになり、グリーンが秘書役となり、非常なる意味が出来たのであります。ポストンでは猶太人で非常な金持がある。此の人と謀つた折、其の人の Secretary が言ふには、婦一協会に金を募るならば、それよりも女子大学のために尽したいと云ふ考へがあるやうであると話しました。私は婦一協会のことを話す折には、諸君が宗派とか人種とか云ふ考へを去つて、真に人類の発展と云ふことを思ふならば、其の半面として東洋が大切になる。其の東洋を救ふには、女子大学が大切になる。夫れで国境を越えて真に東洋につくさうと云ふ考へで金を出す所の篤志家があるならば、夫れは辞することはないかも知れぬけれども、今は募らないと云ふことを話しました。今、彼方では五百の大学が悉く手を掲げて、アメリカの金を集めて大学のためにしやうとして居る。それでアメリカの金持は只名前を広めやう、勢力を顕はさうと云ふやうな考へで、出金しつゝあるのであります。

マウントホリヨークに十何万円を出した人は未亡人である。其の夫が死んで見ると非常なる財産があつた。此の人は一夏トルコに遊んで大学を見た。そ一して校長を見、学生を見て、誰れにも言はずに歸つたのであるが、死んだ後に遺言書を見ると、数百磅の金は土耳其の大学のために寄附すると云ふことが書いてあつたと云ふ。故にアメリカの金持も、今日では只表面ばかりを見て巨額の金を投ずることはしないのである。それで私は将来、至る所で人道的の考へを以て寄附する人があるならば受けるかも知れないが、頼んで募りはせぬと云ふことを申しました。

つまり、そ一云ふ資格である人に逢ひ、話を致しますには、何時も女子大学と婦一協会である。夫れは名ではなく、生命である。其の生命教育の動力は内的生活で、広く言へば宇宙の精神である。

[我々の意志原動力について]

若し、我々の意志原動力があるならば、夫れは宇宙の意志であり、精神である。故に英語をするにも、音楽をするにも、此の生命を欠いで了つたならば形骸である。其の生命である所の人格教育と云ふことは世界各国共に下火となつたのであるから、之れを復活せんとするときである。故に私は図書館、博物館を始めとして其の他の設備と云ふ様なことも望むけれども、も一一つ根本である処の生命を得ずして、只学位、資格

と云ふやうなものに目をつける様では仕方がないと思ふ。

オイツケン<sup>①</sup>は精神的の学者であり、ヘツケル<sup>②</sup>は機械学者で、まるで反対の側に立つ人であるけれども、ヘツケルは、私は機械学者であるけれども、オイツケン<sup>③</sup>の考へには賛成であると言つた。兩人は、ど一しても協同しなければならぬと云ふ考へであります。

[英國の教育について]

英國も表面は大した変りはないけれども、内面はすつくりかはつて居る。青年会の如きも、ハーロー<sup>④</sup>ではフオールと云ふ人が Head master であるが、非常なる賛成である。其の他、ポストン大学、カーチーフ、オックスフォールド、ケンブリッジ、エジンバローの如き各大学の総長は、皆会員となつて、今日、一流の独逸の思想家も皆加盟し、佛蘭西もベルグソンが非常なる熱心を以て入り、私のあへる人、教育のことを談じた人は皆賛成で、何かになつて助けやうと云ふことであります。

今後の世界の道徳教育を救はう、此の衰へた機械的傾向を救うて、其の動力を再興せうと云ふことは、世界の多くの人が賛成し、加盟して共につくさうと云ふことである。

大体は此の二つの考へをもつて行つて、私と協同しやうと云ふ人を作り、悉く其の人たちの考へを書いて貰つて、私の参考としやうと思つて取つて歸りましたが、終にアメリカにも英國にも独立の婦一協会を立てやうと云ふことになりました。之れは決して我々が行つて言つたから出来たのではなく、婦一協会は世界の必要であり、傾きであります。

[アメリカに於ける教育の方法について]

今日のアメリカ、イギリス、ドイツ、フランス等の教育には各々特色があつて、之れを各々の参考になる様に追々申したいのであるが、アメリカの大学では今迄は Administration を作ると云ふ風となつて居り、総長なり教授なりが研究室に入つて研究することが主なることとなつて居つたが、今日では教育と研究とは分けねばならぬ。其の研究は社会一般に届けねばならぬと云ふことになり、又学生を教育するのみならず、社会の種々の Extension に加勢して居るのであります。

今後、大学の生命は社会と共に育てねばならぬ。教授と研究とは分けたらど一かと云ふことは、独逸の新傾向である。殊に内面的生活に至つては猶のことであります。

アメリカの教育などは独逸の一部の学者は冷笑して居つたけれども、アメリカの教育設備などの進んで居ることは非常なものである。曾ては我々も、教育の改革をする時機はないから準備をして居れば良いと思つて居りましたが、我々の準備は出来ないうちに、も一時は来たのである。我々の準備は後れたのであります。諸君は辛抱に辛抱をして下さつたのであるが、も一一つ辛抱して、此の我々の重大なる責任を全うして戴きたいと云ふことを希望するのであります。

[中表紙]

大正二年三月十二日  
大学部第二、三年にて

大正二年三月十二日  
大学部第二、三年にて

丁度昨年の今頃に我々は約三十年間の経験と研究から得ました考へ、我が国前途の必要から致しまして、今後の女子教育、及び其の教育、道徳、宗教等の動機につきまして、即ち其の動力の培養につきまして一つの仮説を確定致したのであります。仮説を愈々深く研究し、又着実に之れを実現するについて、此にも一一層の精確なる研究を要することになったのであります。

[Realityについて]

夫れで私は、猶之れを広く世界の大勢に徴し、又各国の現状について研究致して、果して我々の希望する処の要求は真に今日の世界の Reality、即ち其の世界の実際である、又之れが今日最も進んだ文明の光りである、真に其の光りの照らす処の今日の新しき真理であるか。其の我々の信じて居る処の確信を猶確実に、猶深く世界の事実の照らして証明し、もう少し科学的に、哲学的に、猶其の外の光りに照らして見まして間違つて居ないかと、深い研究を企てたのであります。

[内的生活の経験について]

私は深い用意を以て世界の現状を研究致します。あなた方は内を守つて、十分に其の希望を満たす様に助けやうと決心された。あなた方は其の決心をなさつて、我々は東西に別れて私は出発を致しました。併し其の研究は、いろいろ頭に描き、外部に分析的に、科学的に、歴史的に比較研究を致した処で、到底我々の満足すべき結果を得ることは出来ません。どうしても我々が其の主義、理想に生活するに非ざれば、即ち内的生活を致すに非ざれば、十分なる仮説を立てることが出来ないと云ふことを申しました。そこで私があなた方に希望致しましたのは、各自の団体生活並びに個人生活によつて、十分なる実験を得て下さる様に。又、私が世界の識者に幾分か材料を提供し得ることは、実に此の卒業生並びに母校内にあるあなた方の生きてきたる生活の材料でありました。故に、通信のある度に又何かの便りにつけて、私の待つて居りましたことは其の深い経験でありました。仮令、通信はなくとも其の精神は感ずることが出来るのであります。夫れで帰りましたからも、なるべく此に、殊更に注意致しませんけれども、日夜に私の神経に通うて居るものは、あなた方の生活であります。然るに昨日は私の留守中のことについて報告をなさると云ふことであります。然るに、昨日は時間が十分でありませんでした為に、あなた方は謙遜に、全校を動かすだけの精神が乏しい様であるとの事。又、個人の実力については、十分なるお答へが出来なかつた様である。之れは僅かな時間で複雑なる生活を委しくお話しになることは困難であるから、何かの方法によつて追々にわかる様に致したいと思ふ。然らば、私は此の問題について如何なる経験を致しましたか、又

如何なる証明を致しましたかと云ふことを申して、皆さんの御参考にしたい。之れに由つて、あなた方の困難なる点について察する処なきにしもあらず、又夫れに打ち勝つ処の方法なきにしもあらずである。

[Great stream]

私は此の間申した様に、斯う云ふ問題は自ら其の生命を生活するにあらざれば、真に研究することが不可能である。自ら経験するに非ざれば、斯くの如き問題を証明する処の材料を見出だすことが出来ないと云ふ考へを以て、又其の用意を幾らか調べて出たのであります。併し時日も短かつたから、少しばかり携へて参つたものを悉くためして見る余裕がなかつたと云ふこともありますから、最も根本と思ふ事実を充たしたに過ぎないのである。そこで、ほんとに皆さんが其の真意が感ぜられて、今日の世界に満ちて居る其の Great stream である処の大勢を看破なさる様に御紹介致したいと思へますが、併し十分に其の材料を精選し、秩序だてて申す暇はない。

[謙遜なる有様]

あなた方が昨日、私に現状として御報告なさつたものは、半ばは謙遜なる心である。Modest な態度であらうと思ふ。夫れは十分私は察しますけれども、半ばは何かも一つ満足の出来ぬものが、何か深く求めて得られない様なものがあると云ふことを示して居る。即ち之れを謙遜なる有様と申します。貧しい暮しと申します。即ち、足らぬ勝ちなことが多い。お互に学ぶべきものが沢山ある、実行せねばならぬことが非常に殖えて来た。生活が誠に複雑になって来た。其の責任を全うするには第一、時が足らぬ。其の時を足る様にするには、境遇を改良しなければならぬ。其の境遇を改むるには経済が貧しい。其の貧しい境遇にも勝ち、複雑なる生活にも勝つて、此の根本なる生命を得る様に集中する方法がないでもない。けれども夫れに勝ち得る処の勢力が乏しい。つまり実力が不十分であると云ふことになる。そこで、ど一してよいものやいろいろ考へて見て行きつまつて来て、非常なる勇気を鼓舞するまでに至らずしてまよつて居ると云ふ状態にあるではあるまいかと云ふ察しがないでもない。

併し此の苦闘は、重い責任を感じて居る処の少数なるあなた方に限られて居るものに非ずして、之れが今日世界の列強の状態であると言ふことが出来るのである。一言で言ふと、今日の文明は駈々として進む様に外面からは見えませんが、實際の処は行き詰つて居る、万民非常なる苦痛を感じて居ると云ふ状態である。即ち、各国民が争うて得やうと思つて苦闘して居る処の欲望、進まうとして奮闘して居る目的は何れにあるかと云ふと、一言にて言へば、其の要求の満足を得たいと云ふのである。其の満足を得るに必要な実力を得やう、其の実力を外に内に発揮したいと云ふ処に、今日の世界の活動は集まつて居ると言つても決して間違ひはないと思ふ。夫れで私は、平たく言へばあなた方の渴望して居る実力と云ふ詞をつかうて、其の意味を申したいと思ふ。

[実力の意味について]

先づ其の実力の内容を明らかにする為に、私は之れを三つの力に分けて申したい。

其の第一は物質の力、即ち富の力

第二は健康の力、即ち肉体の力

第三は精神力である。

精神力を二つに分けて Conscious 意識即ち知識の力、第二は Subconscious の力、意識以下の力とする。意識に現はれない Mystic に属する処の無限の力である。

個人も、国家も、社会も、世界も、宇宙も此の力を渴望して居るのです。総ての活動、総ての苦しみ、喜びは其の力を實現せやうと云ふに外ならぬ。今日世界の行き詰った原因は、其の力が平均を失ひ、其の欲望が極端に偏すると云ふことに起つて居ると私は観察し、証明することが出来るのである。

[物質力について]

夫れで人間の力は、物質と云ふ器械及び身体を離れまして、又其の外面の力に反抗し又は其の力を絶滅して偉大なる力を表はし、根本の要求をみたと云ふことは不可能であると云ふことを世界は認めて参りました。夫れで私共は、実力と云ふことも大切である。我々が根本の力を失ふには其の器械として物質の力を利用することも免れぬことと思ふ。

[拝金宗]

そこで、今日の文明は物質力、即ち金と云ふことの表象を以て十分に顕すことが出来ると思ふ。故、私は今日、文明の一要素は富の力であると思ふ。そこで物質的文明の弊と云ふことは、即ち金の弊と云ふこと。物質的文明の墮落は利欲の制限のとれたもの、つまり金の世の中、拝金宗である。総て此の物質文明の実力を得んとして世界の列強が争うて居るのは、富の力である。此の競争に堪へざる国家は将来滅びてしまひます。此の競争に堪へざる個人は滅亡せざるを得ないのである。そして今日生命を失うた形式的宗教は、金の前に叩頭して居る拝金宗である。西洋の立派なことを言つて居る宗教も、内実を計つて見れば金に頭を下げて居る。我が国の政治界も金の力を以て任げて居る。此の弊は以前、私が旅行を致した時にも御座いましたが、今日は一層甚だしくなつて居ります。過去半世紀、其の一方に偏すること多かつた為に人心は腐敗し、生活は荒れ果てると云ふ様な惨状を呈して来たものと思ふ。私は此の経済と云ふことを自身で生活致したと云ふことは実に小範囲である。けれども其の小範囲の間に、誠に甚だしいことがある。金についての弊も多いが、又金のよく使はるゝことも沢山あります。図書館の設備が行き届いて、人々の研究が有効になつて、時を省き、力を省き、十分目的を達せらるゝ様になつて居ることは驚くべきものである。其の他軍備にしても、自動車、空中飛行機などが、どんどん出来て行くが、其の飛行機のために死んだものが昨年度までに 175 人。自動車の為めに死んだものが 200 人と云ふことである。斯う云ふわけであるから、苦しむのは何故かと云へば、金がないと云ふことで、実力とは即ち富の力と云ふことなる。そこで各国民が競争場裏に立つて苦悶を敢てするのは、其の爲であります。

[貧富の懸隔の調和について]

故に私は、我が国も、我が国民も富みの力が出来、経済の力がなければ益々困難になつて来るであらうと思ふ。之れは

実に物質文明の弊であります。もはや世界は此の富みの為めに行きつまつて居る。之れを如何にすれば貧富の懸隔を調和して行かるとであらうかと云ふことは大問題である。故に、今日はも一、武士は食はねど高楊枝など言つて、金の勘定も知らずに居る訳には行かぬ。そこで、あなたの方の間にも此の実力が出来て来なければならぬと思ふ。

[Eugenic]

第二の実力と云ふのは健康の力、肉体の欲望を満たさうと云ふ力、夫れを快樂主義と云ふ。快樂は誰れも望む処のものであるが、之れは生活の欲望で、つまり長生きをせやう、病の苦しみから免れやうと云ふ欲望である。故に各国民の望む処は健康を全うし、十分つりあひの整うた、十分心に叶ふ処の活動の出来る立派な身体を作らうと云ふことは、何れの国、何れの宗教に拘らず、誰れもの望む処である。故に医学の進んだことは驚くべきもので、獨逸の如きも体育が非常に盛んになつて、女子といへども男子とさほど違はない程の体格をそなへて居つて、おばあさんになつても中々衰へないのである。そして Eugenic の如き世界各国に行はれて、牛馬なども自由自在に改良せられつゝあるのです。

[Christian Science]

宗教も譬へば各国で盛んに行はれつゝあるのは Christian Science であるが、身体の苦痛を免れしめ、健康の満足を得せしむると云ふことは何れの宗教にもあると云ふことは事実である。そして英獨佛、其の他各国で最も盛んなものは戸外運動で、Skating の如きも人工によつて倶楽部を設けて行はれ、一般の体育が非常に奨励せられて居る。

そこで今日は金が欲しいと云ふことと、立派な健康を得て肉体の快樂の欲望を満足させたいと云ふことは物質的文明の要素であると共に、又其の弊である。然らば立派なる家に住んで甘いものを食べて居れば夫れでよいかと云ふと、夫れだけでは決して満足は出来ぬ。

茲に精神界の望みがあつて、真理を発見し、宇宙の謎を出来るだけ解いて意識の世界を出来るだけ明るく開拓したいと云ふ知識欲がある。之れあるが為に総て発明、発見が盛んになるのである。けれども富みが出来、健康が得られ、物を知ることが出来たならば夫れだけでよいかと云ふと、決して満足は出来ぬ。

[情、美、愛]

人間には意識以下に意識があり、Mystery な処がある。之れを情と云ひ、美と云ひ、又は愛と云ひ、或は情操と云ふやうな名前がついて居る。人間は機械が本体ではない。機械的の満足は得られても、も一つ深い処の生命に生きなければ、其処を満足することが出来なければ生きて居られない。富みの力も肉体の力も亦、意識の力も薄弱であつて、ど一しても大きな人間を発現することが出来ないと云ふことは事実であると思ふ。私は之れを救ふために、いろいろ事実について観察したのでありますが、夫れを救ふには、ど一しても生活を単純にして実行しなければならぬ。実行と云つても、只牛が荷車を引く様に人力車夫が終日車を挽いて走る様にした処で、だめである。

[Homesick]

之れは直覚することが出来る。私の見て居た Vision は、世界の真理であつた。今、我々の盥眼に見る処のものは、之れが即ち宇内の Reality である。之れは船中でも見たことであるが、船よひと云ふことは一種の Homesick である。紐育あたりでも、立派なる博士とも言はるゝ様な人で狂気になる人が幾らもある。そ一云ふ土地で桜楓会員の奮闘して居らるゝのは実に喜ばしいことである。そこで此の大学の主義で意志を練り、信仰を育て、身体を鍛うておかなければ、海外に出て活動することなどは出来ないのである。世界は此に行き詰つて来たのである。も一既成宗教では、之れを救ふことは出来ない。然らば、ほんとの人間の価値は如何にして発現せらるゝかと云ふこと、之れが根本問題で、私の七ヶ月間最も深く研究した処であります。

[中表紙]

大正二年三月十五日

歓迎会席上にて

大正二年三月十五日

歓迎会席上にて

私は二十年前アメリカに行きました時、十月頃に余程大患にかゝりました。此の間マサチューセッツに行つたのが、其の頃でありました。丁度同じ様な経験を致しました。夫れから二十年たつて、年もとりました。会員からは白髪がふえたと云ふ話もあつたが、私の気分は少しも変わらず、今度の旅行も青年の旅をしたのである。下等の汽車に乗つた処もあるし、内地に居てもせぬ程の無理をしたこともあります。形もバンカラで、一向構はない。全く書生風でやつたのである。気分はそ一云ふ風であるけれども、無理をするといけなぬ。之れは一種の自殺であると思つて、今度大い悟つたのであります。夫れであなた方が今後、御旅行をなさるにも御注意しておかねばならぬ。

皆さんに送つて頂いて横濱でお別れした時に、私は疲れて居つて少々熱気があつたけれども、打ち勝つて船に乗りました。そ一して無理に無理をかさねたのであるが、防御して夫れがきいたからよかつたものの、之れからお互が此の世に処して行くには、そ一云ふ無理をして身体を虐待しなければならぬことが段々多くなるのである。故に、今後あなた方が仕事をなさるにも其処をよく考へんと、遂に打たれて再び起たれなくなると云ふことにならう。そこで私は自分を戒むると共に、あなた方にも申しておきたいと思ふ事の一つであります。

[桜楓会員について]

之れは私の今度船に乗りかけの経験であるが、そ一云ふ状態で行つたのであるが、夫れにも拘らず目的の半ばを成就して帰つたのは、実に桜楓会員皆さんがよく留守を守つて、私

をして内顧の憂ひなからしめられた賜であると思ひます。

真に夫れを成就する処の精力を保たしめたもの、其の空気を常に震動せしめた処の最も大切なるものは、あなた方桜楓会員の誠実、熱心、向上心と云ふ様なものであると云ふことを信じて、私はあなた方の忍耐、御尽力を深く喜んで居ります。満足して居ります。桜楓会員の母校を離れてから、見ぬ間に発展して居る今日の世界に適合する処の精神が育つて居ると云ふことは、私の最も心強く思ふことで、之れは一言申しておかねばならぬ。又、皆さんが御自身の価値を信じて、自覚して下さる様にありたいと思ひます。

[布哇についた時]

第一についたのが布哇で、先年も往復とも布哇へよりましたが、今度は一寸四国へもつuitたかの様な心持で、そ一してついで見ると、殆んど日本人で、日本の島か知らと思ふ位でした。一番先きに税関がつく。其の次に新聞記者が来て、一寸とらして呉れと云ふ訳で、写真をとる。そ一して直ぐ聞くことが婦人参政権問題で、夫れについての私の意見をきく。夫れについて日本の高等教育を受けた婦人の状態を尋ねると云ふことが起るのです。

[リチャード氏]

布哇では鈴木君が病氣になつたが、それは問題にはならなかつたが、も一一人伝染病の疑ひある病人があると云ふことで、検査官が来て血液を検査する。夫れに三時間ばかりかゝつて、と一と一、そ一でないと思ふことがわかつて船が横つけになる。そ一すると大岡さんや五十嵐さん、何時か来られたリチャードさんも来られた。そ一してリチャードさんの自動車に迎へられて家族の人々にも面会致しました。此の人は早くから私を待つて居られて、私も一週間位居るつもりでありましたが、ゆつくりする暇がないから用談を簡短にすまして、リチャードさんの自動車で布哇の男子の学校、女学校、慈善事業をして居る処や、日本町や其の他、古跡の数々を三時間ばかりのうちに残らず見ることが出来ました。

[布哇の様子について]

私の非常に喜んだのは、二十年この方、布哇の町も大層開けて、日本人の風俗から生活状態に至る迄、非常に進歩したことである。先に行つた時は(空白)であつたが、今度は夏であつた為か、布哇の島は立派である。美麗であつて、まあ、パラダイスとも言ふべき処であります。さて晩方、再び太平洋に乗り出しましたが、実は其の十日の間は先帝崩御のあとで、船が布哇に着く迄は誠に静粛でありました。そ一して、段々外国の領地に近づくに従つて活動写真なども始まる様になり、私も始めて見たのである。無線電信も聞いては居つたが、實際使ふと云ふことは始めてで、機械なども詳しく見ることが出来、交通機関の開けたことを楽しみと致しました。

十九日に桑港について第一にスカッター氏の処へ行き、ジョルダン博士のスタンフォールド大学へ参りました。彼処は誠に壮大なもので、チャペルなども余程美的である。敷地の広さも二千エーカーである。此処で感じましたのは、人間にどうも非常に深い人智の測り知る可らざる処、奥儀ある深い動機がある。此のスタンフォールド大学を立てた人は、今日の物質

文明の通弊である処の利己的な処がある。悪い手段を以て、社会の利益を害しても自分の為にしたいと云ふことの外に猶悪いことをして、非常な金を拵へたのである。けれども其の金をど一して、あゝ云ふ公共の事業に使ふ様になつたかと云ふと、実は愛する処の子どもを失うたからである。ミス女子大学を立てる様になつたのも、子どもを失うたからである。  
[乃木大将]

乃木大将の自殺と云ふことも外国では大分問題になつて居るが、到底、其の心事を解する人はない。有名なる牧師でさへも自殺と云ふことは臆病であると言つて居る。私にも意見を聞かれたのであるが、乃木大将の自殺にはいろいろ複雑なる原因があると思ふ。

子どもを失ふと云ふことは、如何なる勇者も堪へ得ざる処の情緒が起るのである。児嶋惟謙さんの死なれたのも、子息に先だたれたことが非常な影響であると思ふ。夫れで子を失つたと云ふことは、斯くの如き大学を立つる動機ともなつたのである。

[牛嶋氏]

そ一してカリフォルニアの状態を観察して後、ミルカレッジと云ふ婦人の学校を見、バーバンクスの園芸、中嶋氏の事業なども見て、感じたことがいろいろある。オークランドではポテト王と言はるゝ牛嶋氏の事業をも見ました。そ一して、いろいろの大学の設備、教育の有様などを見ることに勤めました。私の非常に驚いたのは、二十年前には沢山のダークサイドを見て慨嘆に堪へなかつたのであるが、二十年後の今日は風俗も大層よくなつて、誠に日本人の生活が改められたのである。之れはカリフォルニアのみならず、ローサンジェル、ソルトレークから私の歩いた処は皆、非常なる勢で日本人が進みつゝあるのである。

ポイントローマのカレッジは三哩も行けば直ぐメキシコとの境で、氣候もよし、誠に立派な処である。布哇もよい処であるが、誠にポイントローマの雄大明媚なる風光は逆も名状す可らざるもので、自動車で通るのは惜しい位な処。近く見るもよいが、遠景が又格別であつて、之れは日本では見られない美景である。私は、そ一云ふ景色のよいことよりも、学校の設備などよりも、ど一云ふ処に教育の原動力があるかと云ふことを見たい。其処の秘訣をつかまへたいと思つて参りました。

そ一してチングリーは留守で、其の代りをして居る長にあひましたが、先方では非常に待つて居つて、あなたに全部お目にかけたいが、あいにくローサンジェルは子どものためにわるい病気が流行つて居るので、彼の地を経て来たものは一切交通遮断となつて居るから、残念であるが遠方から見て下さいと云ふので、私は其処に泊つて体操なども遠方から見ましたが、体育と云ふことを余程重んじて、武の教育をして居る。彼処は精神界の空気を作る為めに、世間からは離れた処の別世界にあるかの様に感ずる。研究生など景色のよい広い処に天幕を張つて一人づつ居る。そ一して其処には別に研究室もあります。其他実行の方面もいろいろあつて、園芸場などいろいろ見ました。つまり今日の教育は形式的になつて居る

から、先づ第一に其の原動力を養はねばならぬと云ふ考へらしい。

其の晩招かれて行つて見ると教授達は残らず集まつて居つて、婦一協会のことを話すと、夫れは私達の主義であると云ふ様な話が出たのである。翌日はミュージックコンサートがあるからと云ふ招きで行つて見ると、全く私の歓迎の為の会であると云ふことは後でわかつたのである。そ一して、何か話をして来れまいかと云ふことであるから、英語が間違はうがど一であらうが、そ一云ふ事には一切構はず Appreciate しておいたのであるが、帰りには三哩も自動車で送られました。彼処の学生は英語などもはつきり使はるゝし、音楽なども誠に上手である。つまり彼処には一つの特色があつて修養を本として居るが、宗教も此の学校で修養して居ることと似よつた点があると云ふことは、確に看取せられたのである。夫れと同時に、狭いと云ふこと。余り秘密主義を取り過ぎて居るのではあるまいか。又、日本の愛国心と云ふやうなことも、彼処の人々は解し得て居るかの様に感じました。少し狭いと云ふこと、之れは我々が両方面を持つて居つて、参考すべき点もあるが又注意すべきことであると思ふ点もあつたのです。そ一してローサンジェルに歸りましたが、日本人の進んで居ることを見て非常に愉快に感じたこともあります。一方にはポイントローマが余り世間とかけ離れて居る為めに、ローサンジェルに居る人達も詳しくは知らないと云ふ有様である。

[外国での感じについて]

夫れで私は、身の外国にあると云ふことを余り思はない。マサチューセツツなどへ行つて見ると、まるで故郷へ歸つたかのような心持。英國へ行くと、大分日本へ近くなつたなと思ひ、獨逸へ来ると、も一門口迄歸つたのか知らと云ふ様な心持で、世界の人は皆兄弟である、世界は我が家であると云ふ様で、外国と云ふ感じはしない。昔の世界と今日の世界との比較がとつてあるが、昔の世界は大層大きかつたけれども、今の世界は誠に小くなつたのである。誠にアメリカの大きな國、財源の豊かな規模の壮んな國へ行くと、誠に日本が小さい、窮屈であると云ふ感が起る。

[東西文明]

も一一つ、カナダに行つて感じたことは、世界の文明は東に向つて流れて居ると云ふことは、誰れも言ふことであるが、之れは實際である。そ一して文明の最も盛なる潮の流れの真つ先きは、太平洋沿岸に打ちよせて居る。東洋では布哇に流れ集まつて居る。故に太平洋沿岸には世界の文明が集まつて接觸して居る。我々日本人は、真に彼処に於て西洋人と共に提携し得るかど一か。又、其の余地があるのであると云ふことが問題である。若し日本人が西洋人に競争するとすれば、資本がいる。惜しいかな、其の資本は持つて居ない。知力はどうかと云ふと、困難であるが奮闘しつゝあるのである。そこで、ど一しても日本人が彼処へはびこらねばならぬ。そ一して商売なり工業なり、ほんとの事をせやうと云ふには、ど一しても彼処にもつと入り込まねばならぬと思ふ。外交の政略上、そ一云ふ事を言ふのは宜しくないかも知れぬ。又、彼方の人にも大に疑懼の念を懐いたのであるが、日本人の沢山

になると云ふことは、アメリカの爲にもわるくはないと思ふ。故にあなたの方でも少し資力があつて、堪へ得る人があるならば、行くがよいと思ふ。私が態度をかへた事について少しく言つておかねばならぬが、斯う云ふ小いことについても大体がわかるのである。是れ迄は、大西洋の沿岸に留学すると云ふ事は甚だ不安に堪へなかつた。夫れは成功して帰るものが誠に少なく、墮落するか、然らざれば健康を害する者が多かつた。然るに、今日では全く變つて了つたのである。無論、自分にしっかりと居なければならぬと云ふことは何処へ行つても同じ事であるが、サンフランシスコなり、ローサンジェルならば、自給して學問することが出来るのである。世界中で金のない學生が自給して勉強するには、比較的此の土地がし易い。故に、人によつてはよからうと思ふ。そして私の喜ぶことは、サンフランシスコへ行つても、ローサンジェル、ニューヨーク、ロンドン、何処へ行つても桜楓會員が家庭を営んで居るが、皆、幸福であると思ふ。又、そ一云ふ家庭の出来て居ることが、日本人のために誠によいことであると考へます。ピューリタンが移つたと云ふが、家族をつれて行つたのである。日本人が偶々海外へ行つても、一人だけで行くときと長続きがせぬ。故に、ど一しても婦人も一緒に出かけるがよい。女が出て行かんければ、女が助けんければ、男はど一しても、よ一出て行かんのである。

#### [就職難]

就職難と云ふこともあるが、何処も彼処も縮小で人を減らすと就職難が起る。斯う云ふ時には、どんどん海外へ行くがよい。外国へ行くとき度量が大きくなつて、世界が見える様になるのである。世界は狭くなつたが、も一少し進めば宇宙を狭くすることが出来る。日本を世界にするか、世界を日本にするか、どちらにしても日本人は今の様な薄志弱行ではいけない。もつと意志を強くして、男も女も骨は折れるが、日本に居るのは楽であるからと云つて樂ばかりして居つては、日本の将来はど一なるかも知れぬ。故に骨は折れても辛抱して、最後の勝利を得るやうに勉めねばならぬ。

#### [今日のアメリカの Interest]

も一一つ變つたことは、此の前行つた時にはアメリカは日本に興味を持って居るから兄弟の様な感じがしたのであるが、今日ではアメリカの Interest は支那に向つて居る。學生も支那人が多く、日本人は少ない。そ一して支那の事は非常に褒めるが、日本の事はさ程でない。も一一つは、昔は日本の學生に対してはお恵みがあつたけれども、今日は何れの大学でも各人、同じ様に學問が出来ねばならぬ。向ふの人と對等の競争が出来ねば、交際が出来ぬと云ふ有様である。向ふの人は言語が達者であるが、我々は不得手である。商売をするにしても資本がなければ、日本人に幾ら腕があつても財力で負けるから仕方がない。故に總ての点に於て力を養はねば、此の激甚な競争場裏には立てないのである。

#### [モルモン宗、マホメット教]

私の今度の研究の主なる問題は教育、及び道德の原動力の問題であります。即ち此の學校で初めから重きをおいて居る処の教育主義です。之れは十年の間の經驗から一つの仮説を

作つて、之れを世界の光りに照らして見て、も一一つ新しい力を得やうと云ふ事が主なる目的でありました。故に、ポイントローマへも行き、モルモン宗をも研究し、マホメット教の人にもあひました。キャソリックの人にもユニテリアンのものにも、英國のコンコーチヤのものにも、波蘭、ベルギー、伊太利の主なる人にも、各大学の有力なる人にもずっと逢ふ事が出来て、私は東洋の将来、女子教育の将来についても從來の確信をずっと強くすることが出来ました。之れは、あなた方も聞きたい事であり、私も話したい事でもあります。

#### [婦一協会]

之れは、婦一協会の報告が一号だけ出ました。之れは一年に三度だけ出る報告であるが、一円出せば貰ふ事が出来るのであるから、猶夫れについてお読みになるならば、あなた方に世界の大勢がよくおわかりにならうと思ふ。アメリカにも獨立の婦一協会が出来ましたので、エリオット博士は幹事長となり、其の多数の有名なる人々が皆、幹事となられました。

#### [ロツスとスタンレー ホール]

社會學者のロツスと云ふ人なども非常な喜びで、若し此の婦一教会の申し出が三年前であつたならばむつかしいが、今日は、も一其の時機である。自分も出来るだけのことをするから大いに尽力してくれよと云ふことで、私の先生であつたスタンレーホールとか、タツカーと云ふ様な人々も皆、賛成であります。

英國も、主なる大学は皆、回りまして、ミューアヘッド、マツケンチーなども幹事となり、セクレタリーとなり、英國にも獨立の婦一協会が出来て、東西相助けで行かうと云ふことである。佛國の大学総長は、日本で言ふ文部大臣の権能を持つて居つて、小学校の事まで支配する処の教育界の重鎮であります。斯う云ふ人達も皆、熱心なる賛成者となつたのであります。

私は婦一協会については心配である。夫れだけ世界へ踏み出して相談をかけたのに、日本ではど一であるかと思つたのである。若し此の大勢に應ずることが出来ぬなら、我が日本が退歩する。夫れについては、此の女子大学のあなた方が大切である。此の學校の教授であつた奥田文部大臣、又、前の文部大臣であつた此の學校の評議員である久保田文部大臣の如きも、我々の書いた書物を教育界に広めやうとせられた有力な賛成者である。故に、あなた方も責任の重大なることをお感じになつて、確信を強うして、内に銘々の力を養ひ、外に責任を全うして、今日の此の大切な時機に遅れぬ様になさることが必要であると思ひます。

[中表紙]

第一学年及び予科に於て  
大正二年三月十七日

第一学年及び予科に於て  
大正二年三月十七日

私の不在中は我が国にとつて容易ならぬ時で、其の上、非常に経済の困難や外部の圧迫や思想の不調和など、いろいろな困難が重なつて、大に人心は沈滞し道徳は荒んで、海外に居ても其の苦しみが感ぜられる程、極度に達した時代であつた。其の影響は学校の中にも及んで、意気が振はぬ、元気が出ないと云ふ様な気が、あなた方の神経に感ぜられたのであらう。しかし其の時に拘はらず、大学部でも少壮な組であり、上級生を助けて元気を回復せやうとつとめたとのことである。それにも拘はらず元気もなく、勇気も出でず、此の上最早、戦ふ元気もない。如何に道を開いて行かうかと、その道さへわからぬ様になつたので心配して居ると云ふ様なことを聞いた。消極的方面にはよく内を守り、外を防いで無事ならしめ、命をよく續けて行つたと云ふことは私の喜ぶ所である。小言は勿論、不平にも思ひません。只、今日は過ぎ去つたことは忘れ、将来について考へねばならぬと思つて居る。尚進んで行くべき、原動力を養ふべき大切な時であると思へるから、私は、現状と将来について困難を感じて居ると云ふことについて、私の希望及び方針について注意すべき点を、今あなた方が問題として考へて居るところに応じて話して見たいと思ふのである。

[元気の消沈した原因について及び之れを如何にして回復せしめるか]

一つは進路が閉ざされたと云ふこと。次は、元気が消沈したと云ふ、つまり内面からと外面からと感じて居るのではないかと思ふのである。

前者は知識の方面である。知識には二つある。即ち一つは試験を受ける為めの知識、一つは問題を解決する為めの知識である。即ち、後者は深い意味の知識で、最も必要である。勿論、両方面が必要であるが、勇気、元気、意力と云ふやうな知識を活用し、実行するには原動力が必要である。

あなた方が今苦しむと云ふのは、此の力が自由に働かぬと云ふことになるのではないかと思ふ。今日の急務である要求は、内にある、行つて行く力を要求して居るのであらう。あなた方が沈衰し、死人の如くなると云ふことは無理のないことで、時として起る現象で、之れは女子のみならず男子にもあることである。

人間は四圍の境遇を脱しては生活は出来ぬものである。そして四圍が真に悪ければ、どうかしたいと云ふ気が起つて、そこに真の勇気も出て改善が起つて来るが、反対にわるく行つたならば、破壊してうと云ふ様になつて、遂に極端なことをする様になるのである。しかし我が国の婦人は、その苦しみを内に納めて、独り悶えると云ふ風がある。あなた方の年齢の頃は殊に大切な時であると思ふ。私が西洋に居た時、

多くの新聞記者が、日本には婦人の熱狂的態度などはないかと云ふことを頻りに尋ねた。自分はその度に、斯様な態度はないと答へて居た。しかし歸つて見ると新婦人だの、新しい女だのと云ふ声を聞くので、驚いたのである。しかし之れは一つの社会現象である。歴史にも度々表はれて居ることで、珍らしくはない。只、之れを如何にすべきかと云ふことが、大切な問題である。次に驚いたことは、エリオツト博士の説が誤まれたことであつた。

[人格ある婦人でなくてはならぬ]

兎に角、人心が衰へ、青年男女の意気消沈しては、日本の国威を保つことは出来ぬ。之れは誠に恐ろしいことである。従来の教育法が人間の原動力を傷つけて居る。我が国将来の婦人には此の原動力を失はしめたくないと思ふ。命の本源が病気に罹つて、可惜、青年が自暴自棄するなどは実に悲しむべきことで、お互は大に戒め合はなければならぬ。あなた方が最も必要なことは、又全身全力を集注すべき問題は、人格あるところの婦人でなくてはならぬ。即ち、意志ある婦人でなくてはならぬ。困難に堪え得るのみならず、進んで行くところの勇気がなくてはならぬと云ふことである。

[真の勇気を養ふには 第一、至誠がなくてはならぬ]

今日、婦人で社会を破壊する様なものがある。即ち、熱狂した所の婦人が其の一人である。米國などでは真面目な社会に容れられぬ。其の反動から大なる弊害を受けるのである。次には雷同と云ふことで、之れも社会を破壊するものである。英米の如く国民の知識の進んだ国には容れられぬ。全く無知のものの中に於て行はるゝ行為である。雷同は真の意志力とは言ふことが出来ない。然らば真の勇気を養ふには如何にすべきであらうかと云ふことは、大切な問題であると思ふ。之れについては、

第一、至誠がなくてはならぬ。

米國の婦人の近來の働きは、ものになる様になつた。一般社会に婦人の理想が実現される様になつた。如何なる困難にも屈しないところの婦人が出来た。思慮あり、決心あり、総て完備したとも言ふべき、人格ある婦人が出来た。英米の婦人は熱狂的、雷同的であると評するのは真相を知らぬものの言であると思ふ。しかし、其の裏には英米の女子の参政権問題についての考へは真面目である。其の運動は盛んである。其の熱心なものには驚くより外ないのである。之れは真に生きた愛國だと思ふ。日本の婦人は政界のことについて如何に思つて居るであらうか。責任もなければ、興味も起らぬのである。家庭では子女に愛國心を養成して居ると云ふのであるが、其の愛國心なるものは全く抽象的の愛國心であると思ふ。私は此の様な愛國心でよいかどうかと云ふことを思ふのである。私共は至誠がなくてはならぬ。国を思ふにも、学校を思ふにも、此の至誠が深い源になつて居るのでなくては、熱狂し雷同すると云ふことになるのである。

[第二、勇気がなくてはならぬ]

第二、勇気がなくてはならぬ。

真の勇気は一時的のものではない。永久に動き、永遠に減しない。目的を終極に達げるものでなくては、真の勇気とは

言はれぬのである。何人も之れを求めぬものはない。何事を行ふにも、何事を研究するにも、意志力が健全でない時にはだめである。人は意志で実行も実現もなし得るゝのである。人格が築かれるのも、志が達せられるのも、此の意志である。その替りに此の意志が圧迫を受けた時には、遂に生命をも危くするのである。而して意志は危険に遭遇し、圧迫を受け易く、又多くの敵をもつて居る。故に茲に勇氣の必要があるので、その迫害に抵抗して行く力がなくてはならぬ。

[あなた方の今日は意志を延ばす好時期である]

あなた方は今、圧迫を感じて居るのであるから、大に此の力を出すべき時である。此の圧迫に堪へることが出来ず、勇氣も出て来ぬ時は、私共の能力は力を増さない。意志を鍛練すると云ふことは生死の境に於て出来るのである。意志は圧迫がない時には成長せぬのである。あなた方の今日は意志の教育の必要ある時で、意志を延ばす好時期である。

獨逸の学生は意志の教育の爲めに、劍術の練習にも真劍勝負をして、時には其の爲めに一命をも失ふことがある。之れは蛮風の様であるが、一方、意志の訓練に熱心なものには感ずべきことである。斯かる時に眞の勇氣が出るのである。

あなた方は只、内に苦しみを鬱積するのではなく、責任を感じ母校を思ひ、国家を思ひ、困難に戦ひ、愈々勇氣を出さなければならぬ。立派な人格は此の時に出来るのである。決して沈むべき時ではない。大に自奮すべき時である。至誠をもつて、圧迫した空氣を排除し、沈滞した状態から、眞に新しい力を発生すると云ふことが必要である。而して其の意志は、永久的で全体的でなくてはならぬ。至誠は全体的である。孤立的ではいかぬ。即ち結合が必要である。此の共同すると云ふには、同情及び愛の力が必要である。之れが勇氣の原動力である。之れが急務中の急務である。其の原動力は如何にして養ひ得べきかは問題である。ここが、皆さんで考へて見て欲しいと思ふところである。

[中表紙]

大正二年三月二十日  
高等女学校修身講話会にて

大正二年三月二十日  
高等女学校修身講話会にて

あなた方は、欧米の高等女学校の進んで居る有様を御聞きになりたいと云ふことでありますが、私は我が国婦人のおくれていることがあるならば、世界の婦人におくれないまで之より大いに進みたい。又日本、殊に此の我が高等女学校と世界の女子教育とを比較して、もし我が高等女学校に欠点、短所があるならば、此の時に改めて見たいとの希望をもつて、此の度、七ヶ月間世界の各国の女子教育を見て参りました。それをお聞きになりたいと云ふことを聞いて、私は喜んで大切な点を話したいと思ふ。

[日本の女学校と世界の女学校について]

先づ此度、私が世界を漫遊して経験したこと、明治二十三年より二十七年まで彼方に行つて歸つた時の経験とを比較して見ると、如何に世界が進歩したか、又我が国の女子教育が進んで来たかが感ぜらるゝ。

前には、我が国の娘とアメリカの同じ年格好の娘との知力、人格、働き等が、非常に相異つて居ると云ふことを感じたのである。其の懸隔が大きいのには驚きましたが、此の度、小学校、高等女学校にいつた時、担当の先生の望みによつて、青年の教育を日本人の側から見て感ずる所を話して見、生活をも幾分か試みて見ました。又、高等女学校や青年会などに於ても導くことをたのまれて、其の会の精神教育について導くと云ふことをたのまれて見たこともあり、又学科によつては種々の問題を私が出しまして、返答を即座に聞いて見たことありますが、其の答の明確、機敏なこと、意志の強固なること、殊に年齢十七、八、あなた方の年恰好になると、如何に確信の強固であるかと云ふ様なことについて、之を我が国の女子に比較して考へたのであります。

[二十年前の感と二十年後の今日の感について]

夫れから三年程たつて横濱に歸つたとき、先づ目についたのは、婦人が傘をさして下駄をはいて居たこと。次に私の記憶に残つて居るのは、女子高等師範の寄宿舎、及び其の学生の着物のきかたなどでありました。夫れから、いろいろ我が国婦人のことを考へて見ると、何やら物足らぬと云ふこと。之が前に西洋へ行つたときの感じですが、二十年後の今日は余程感じが違ふのである。

今度は、最も活発なアメリカの女子大学へ行つて、婦人の学問の仕方、修養の仕方について見ることを勉めたのであります。今度は私の大体の感じは主に、アメリカの娘と日本の娘と余り懸隔がない。寧ろ大いに似て居ると云ふ感じが強かつたのである。夫れから英國に行き、佛蘭西、獨逸等の歐羅巴の古い国々へ行つて、益々日本の婦人と似て居ると云ふことを見出し、露西亜、朝鮮などへ行つて日本の婦人が進んで居ると云ふことを感じた。夫れから新橋へ着いて卒業生や皆さんに迎へられ、又門の所では皆さんが整列して迎へて下さつて嬉しかつたのである。門はど一かど尋ねた人もありますが、門は一向、私の目には入らなかつた。只、あなた方の元氣な有様ばかりが見えました。

此の間、歓迎会に出て、今日、又皆さんにお目にかゝつて、いろいろ考へて見るに、さう知力に於て外国と余りに違つて居ない。一口に言へば Intelligent で、何事をさせても機敏で活発であつて、大国民になれると云ふ氣象が見える。之れは私の留守中、先生方の指導によつて修養に勉められた結果であると、嬉しく感じます。

[我が国女子の長所、短所について]

之は大體であるが、我が国青年、殊に女子の有様を西洋の女子に比べて、さほど見劣りはしない。未成であつて、足りない所はあるけれど、我々が奮起して進んだならば、敢て遜色はあるまい。或は彼方の短所、欠点を補ふことも出来るかも知れぬ。併し乍ら、此に改むべき短所、欠点は、沢山にもつて



居る。之れに我が国民が心づいて改めなかつたならば、再び挫折せざるを得ないと思ふ。之は、統計などではわからぬ。外部に現はれたものは必ず内部から動いて来て居るし、内部の事は又外部から受けて育つものが多いから、容易に判断することは出来ないのでありますが、此に我々は大いに注意をしなければならぬ。

#### [学校の主義、方針について]

此の高等女学校は今年十二回の卒業生を出します。故に、年は十二才となるのである。創立の年より一年から五年まで募つたのでありますから、翌年から卒業生を出したのであるが、第一回生は本校の教育を受くること僅に一年だけで卒業したのである。加ふるに其の頃は創立の際で、内外多忙でありました為に、十分手がとどかなかつたと云ふこともありませう。

其の後、中等教育に我々の主義、方針とする処を實行せんがために、いろいろ機関、設備に改良を施し、教職員一同協力して、其の新らしい方針を實行することに勉めたのであります。

#### [自動的教育について]

其の時、殊に意を用ひたのは、只之れまでのやうに、学校では外から書物や事柄を教へる、生徒は忘れない様に覚え込むと云ふだけでない。そ一云ふことでは、ほんとの力ある婦人にはなれない。それで、なるべく生徒が銘々から働くやうに。銘々から見たことを考へて見るやうに。銘々で判断したことをいつて見る様に。又お互同志で相助け、相同情をし、相語つて、お互の銘々の組の空気を拵へる。或は凡て自分達の教育のために必要な所の機関を生徒自ら運転し、支配してやつて見る。夫れで、只本で読むだけではいけない。實際自分の目で見たものを手を動してつかうて見る、働かせて見る。種から育て、花も咲かせて見ると云ふこと。即ち自動的教育法を行ふために、いろいろ機関もかへて見たのである。其の主義、方針に至つては、欧米の進んだ國のして居ることと同一である。故に、例へば此の学校にある文芸会は無論のこと、私共が行くと見せると云ふ様なことも同じである。英國、独逸、佛蘭西などへ行くと誠に礼儀が正しい。私が其処へ行くと、生徒が皆起立します。授業を長く見ると腰をかけますけれども、そ一でない時は私の出るまで起立して、敬礼の意を表します。

#### [歴史の教授について]

それから歴史を教へるときには、Dramatic method と云つて、いろいろな道具がすっかりそろつて居る。先生が、今日は此の Lesson をしませうと言ふと、生徒は致しませうと言つて、いろいろな道具を出したり、絵を書いたり、図をかけると云ふ様なことをすつくり生徒でして、おしまひになれば又片づけると云ふ様なことは、皆生徒がするのである。

#### [掃除の行き届けることについて]

之は銘々が責任をもつて、紙片一つも、糸屑一つも落ちて居ない。私が今度行つて殊に感じたのは、掃除の行き届いて居ること、清潔であると云ふことで、之れは、ど一も比較にならないのであります。英國の学生は、多くは着物は黒くて

白のリボンをかけて居るが、誠に清潔できちんとして居るから、かひがひしくて引き立つて見えるのである。

何処の学校へ行つても気のついたことは、必ず洗濯場へ行つて見ましたが、如何に洗濯し消毒して仕上げをするかと云ふこと。之れは、家をもつものに大事な Art の一つである。故に先方では、洗濯術を教ふると云ふことも大切なこととなつて居ります。

西洋では途中で痰唾を吐くなど云ふことはないが、何から何まで消毒が行き届いて居るから、旅行をしても誠に安心である。日本では監獄へ行くと一種の臭気がするけれども、西洋の監獄には、決してそ一云ふ臭ひがない。日本で、ごみの立つのは、一つは道路のわるいと云ふこともある。独逸 伯林あたりで夜々道路を洗うたり、いろいろするために、一年に六百マークの金をつかうて居る。清潔になると云つても、やはり金がかゝるのである。故に家政学を学ぶにしても夫れを實際に應用して、白いものは白く洗濯をしなければ気がすまめと云ふ様に、整理整頓などもよく行はるゝ様にならねばならぬ。

#### [体育のことについて]

其の次に著しく私の感じたのは、体育である。彼方の人は大きくてしつかりして居る。気分は無邪気であるけれども、身体がよく発達して居るのであります。又彼方の人は女でも泳ぎの出来ぬ人はない。其の他いろいろな機械体操のやうなものでも上手に出来る。之れは一つは Training である。之れ等は一例であるが、近年欧羅巴の女子の教育は非常に進んで来たのである。只物を覚えるのみではなく、其の能力の増進を計ると云ふことは、非常に著しくなつたのであります。あなた方、此の学校で自転車に乗つたり、大きな運動会を開いたりすることは、日本ではお転婆の様に思はれたりなどして、非常に進んだことと思ふであらう。けれども更に開けた処のことに比ぶれば、到底及ばざることである。

マウントホーリヨーク大学の七十五年祭の Pageant の時、殆んど人をして酔はしむる程のことが出来ました。運動会とも違へば文芸会でもないが、一種教訓的な高尚なものであるが、之れは全く生徒の考へ出したものであります。今日、欧米の教育で、私が帰りましたから二十年程の経験をつんで、大いに進歩して居る処の顯著なることを申せば、あなた方の未来のために御参考になるであらう。

#### [女子の高等教育について]

今度私は、欧米の教育の大勢を實驗、実感して、我が國の青年男女は深く将来について考へねばならぬことがあると思ふ。我が國に於ては、女子の高等教育については未だ問題がある。あなた方の先輩にも異論があり、あなた方自身にも問題があらう。其の他男子には就職難と云ふことがあると云ふことを見て、我が國では余り高い教育を施し過ぎたと考へる人もあらう。未だ就職難のみならばよかつたが、大学や高等商業などの教育を受けた人の中に、物は知つて居るが、實際役に立たない上に信用がおけない、会社や銀行などで大きな穴をあけると云ふやうな事。之れを深く考へると、世の末ではあるまいかとも思はるゝが、之れは敢て怪むには足りない

[中表紙]

大正二年三月二十五日  
修業証書授与式にて

大正二年三月二十五日  
修業証書授与式

[ウイルソン大統領]

アメリカ合衆国に於きましては、此の頃、新に大統領が選挙されて、其の名はウイルソンと云ふ。此の人はプリンストン大学総長であられたダクター ウイルソンで、今後四ケ年間、アメリカの政をとらるゝ事になりましたので、アメリカの各州、各団体は新大統領に対する要求を提出しました。大統領は各団体、各個人の要求を容れて政をしやうとして居らるゝ。其の事は先日出ました雑誌の中に、アドバース フォール プレジデント ウイルソンと云ふ見出しのもとに掲げられて居ります。

- 第一箇条 万国の軍備を廃止し、或は減少すること。
- 第二箇条 酒屋を廃止すること。
- 第三箇条 モルモン宗を調査すること。
- 第四箇条 資本と労働との調和。
- 第五箇条 人種の偏見を減少すること。
- 第六箇条 裁判を迅速に行ふこと。
- 第七箇条 生活費を下げること。

之れ等は皆よいことである。

[婦人参政権問題について]

近来、問題になつて居るのは婦人参政権問題で、之れは我が国の新聞にも出て居るが、婦人参政権問題と云へば直ぐ乱暴な事のやうに考へられ易いけれども、そ一ではありません。英國には(空白)と二様あるが、其のうち(空白)と云ふ方が乱暴なことをしかねない。(空白)の精神は誠に立派なものである。又、政治家や有識者の中で東洋婦人にも参政権を与へよ一とか、与へるがよいとか考へて居る人が少なくはない。それは、女に我が儘をさせよ一と云ふのではない。女も国民である。一家の主婦である。子女の教育を掌る者である。故に其の婦人の考へをも容れよ一。今日は国民一般の声を聞かねばならぬ。之れが最も適當なる政治であると云ふことになりました。

之は只、国の政のみならず、学校の事にしても、一家の事にしても、此の考へが必要である。我々は此の国の教育を四、五十年試みて見まして、世界各国の現状に鑑みまして、改むべき所があるならば改めねばならぬと考へて居ります。

殊に我が女子大学は長い間経験を積みまして、今日は何事も世界的に考へねばならぬ。其の改善の材料をも一一層広く求むるために私が七ヶ月の間遣はされて、出来るだけの調べを致して参りました。そこで、今日は内外をよく考へて見まして、此に新しい改革案を組み立てゝ、段々と明年から実行せられて、目的を成就することが出来るやうにと考へて居ります。

[広く要求を容るゝこと]

丁度今、アメリカの大統領が四年の政綱を定むるに当りま

ので、即ち教育の制度から来る処の時弊である。之れを委しく申す暇がないが、欧米の教育などから推し及ぼして考へれば直ぐわかると思ふ。今日の欧米の経済界、其の他総ての方面から自活すると云ふことは、男女共に高等の教育に由るの外、道はないと云ふことになつたのである。夫れは、今日の社会は一種の莫大なる、非常に複雑なる機関となつて了つたのである。そこで、人間の働きは其の機関を動かす処の運転手である故に、職業をとるには、ど一しても其の機関を運転する丈の技術を覚えねばならぬ。女も其の大きな国家社会の運転手にならねば忽ち生活が出来ないと云ふ訳で、其の技術を覚えて巧妙な域に達すれば、高給を以て聘せらるゝと云ふ有様となつた。故に男女共に高等の教育を受くるにあらざれば、自活が出来ぬと云ふことになつたのである。

[人格教育の必要について]

今後の人間は自ら高尚なる人格を備へざれば、知力、意力、精神力を養はねば、世に立つことが出来ぬ。そ一して非常なる努力を以て奮闘するにあらざれば、此の戦ひに勝つことは出来ないのである。我が国では人格教育が欠けて居るから、中心人物迄も斯くの如き大怪我を受けることを免れないのである。成敗は天に任するけれども、人格教育を受けなければ、其の人格教育の上に職業教育を受けなければ、我が国は滅亡である。従つて女子と云へども此の高等教育を受けなければ、あなた方の運命は幸福ではないのである。あなたの子孫は、立派なる人物となることは出来ないであります。

[補充教育について]

併し、国民悉く高等教育を受けることは出来ないから、欧米各国で最も骨を折つた結果、長足の進歩をなしたのは補充教育である。十四、五才迄教育を受けて職業について見て、之れではいけないと始めて心づくのが二十一位である。そこで夜学などへ行つて見るけれども中々力をつけることが出来ないから、官民協力して此の補充教育に力を尽さうとして居るのである。英國、独逸、佛蘭西へ行けば、貧乏なるものは男子の大学に行つて学ぶけれども、人格教育に欠点のあることを免れない。金のあるものは、家庭に於て多くの教育家を聘し、多くの金を使うて高等教育を受けて居るのである。

之れに由つても欧米教育界の大勢がわかるであらう。然るに其の世界の大勢がわからずに、いろいろ迷つて見ると云ふ様なことがあるならば、誠に国家の損害であり、自身のためには誠に不幸なことであるから、あなた方はよく其の真意を解すると云ふことが大切で、之れは親達も教育家も共に深く考ふべきことであると思ひます。

して、広く国民の声を聞かうとして居る。広く要求を容れて弊政を改めよと考へて居らるゝ様に、我々は今、学制を改むるに当りまして、各学部、各学生、各寮舎、各評議員、各同情者の、此の学校に対して要求せらるゝ所を容れたいのであります。夫れで此の休みの間にお考へになつて、明年から改良すべきことがあつたなら、お出しになることを希望するのであります。之れは只、制度を改むるばかりでなく、深く自分を反省すること、及び全体と云ふことを考へんければならぬ。故に今、我々が考へて居りますことは、又お互が困難であると思つて居る処は、何処に其の原因が輻輳して居るか、之れを如何にしたらば救ふことが出来るかと云ふことであります。之れは、其の原因は此の頃我々が新に発見したと云ふのではなく、古い間から心づいて居ることであるが、之れを改むることが困難であります。

[徒勞多きことについて]

一言で今日の苦しみを言ひ表はすならば、力の消費と云ふことである。我々のして居ることには未だ徒勞が多いと云ふことである。銘々非常に奮闘して居る労力に酬ゆる丈の価が表はれないと云ふことで、之れを徒勞と言ふ。銘々の出す力、銘々の要求する所の価値が顕はれない。銘々の発達が遂げられないと云ふことは、実に惜しいことである。誠に苦しいことである。之れは何の原因によるかと云ふと、お互間の衝突である。

[科学的哲學的修養について]

そこで此の力の衝突、活動の衝突を防ぎ、人間の目的を上達するために近來の科学と云ふ考へ方、研究法が行はるゝ様になり、猶其の分解して発見致しました処の無数の事実、種類を総合するために、夫れをよく調和、統一するために、即ち此の各部の要求が一致し、各部の働きの協同し得る為の道を見出す方法としては、近代の哲學と云ふ學問が起つたのである。我々が科学を研究し、哲學を考へ、近世の修養を積むと云ふことは、お互の間の衝突を防ぎ、益々此に拡大する処の調和統一を得やうと云ふにある。又、物は変り、世は進んでも、昔から永久に人間の根本要求として探求して居る処の道徳、又其の調和の道を求めて居るのである。近來、倫理學と云ふものが起つて、總ての人間の知識、種類、調和の点を見出して、此に新しい道を求めて居るのも、やはり其の人間の価値を進めやう、浪費を防がうと云ふに外ならぬ。

[目的の協同一致について]

近來、宗教、道徳、學問、實業、總ての方面に万國協同の起つたのも、是れ又人間の活動の浪費を防ぎ、衝突を避けて、真に目的の協同一致を得んがためである。世が進むに従つて浪費、衝突が多くなり、重くなつて殆んど其の苦しみに人間が堪へ得なくなるのであります。之れは精神界に起る事も、自然界に起る事も、其の法則は同じことである。

[西洋物質文明の犠牲者の多きこと]

近來、欧米に於ては交通機關と云ふものが非常に盛んになつて居る。又、非常に迅速になつて居る。昔の文章などに、人馬織るが如くと云ふことがあるが、今日では織るが如く処ではなく、何と言つてよいかわからぬ程である。人間が身体

を動かすにも、なるべく足を動かさないですむ様に、エレベーターの如きものが出来て居る。

人間の要求を容れ、自由を得るには、我が儘を出してもよいと云ふ様に考へる者のあるのは大間違ひである。西洋では交通機關が開けて居る代りに、其の衝突のために命を殞す者も実に夥しいのであります。

ロンドンの町だけで、昨年の暮に自動車にひかれて殺されたものが200人ある。昨年の夏、暑い時に私はシカゴに居りましたが、大きな湖水の中で飛行機をやる様は、まるで鳥の様な有様で誠に面白い。かう云ふ時にもやはり力の平均を得ることが大切であるが、二、三の國で飛行機のために死んだ者は175である。故に昨年中のを集めたならば、二百人以上であらうと思ふ。我が國では飛行機のために死んだ人は未だ一人もない。

[英國の孤兒院について]

英國では、いろいろな孤兒院がある。其の中に、海の中に死んだ人の孤兒院がある。英國で航海中に死んだ者は一年に三千人位であつたかと思ふ。そ一して、一年の間には数百の船が衝突して沈むのである。

[衝突の根本原因について]

夫れで此の衝突と云ふことは、人間世界の活動から起ること、其の活動が甘く行かないと衝突となり、退歩と云ふ。万国の政治上の衝突の結果は戦ひとなる。其の戦ひの結果はど一なるかと云ふと、日本の如き勝つた國でさへも今迄の貯へを失つた上に、二十幾億と云ふ借金をして苦しまねばならぬ。之れが私の留守中、僅に七ヶ月の間に三度も内閣が變ると云ふ様なことのあつた所以で、之れは皆力の浪費である。之れは目に見ることが出来、統計に表はすことの出来る卑近な例であつて、つまり力の逆りに過ぎないけれども、人間のほんとの一の価値、永久失ふ事の出来ない我々の宝をお互につき合つて、遂にお互の宝を失ひ、真価値を失うて居る。之れ程残念なことはない。教育の目的も、宗教の目的も、道徳の目的も此の外にはない。其の結果として出来て来る処の真価値を發揮せやう、新文明を生み出さうと云ふのである。けれども、若し此の間に調和、合同する所の生活を営むことが出来なかつたならば、皆、中途にして斃れて了うのである。

そこで我々は、此の一番根本の問題を研究しなければならぬ。お互に衝突して居る処の原因を私は充分調査しなければならぬ。

[一致共同の真髓について]

今申した処のアメリカ大統領に対して各州、各団体などから要求したことの目的は、一言で言へば、無益なる争闘、無益なる相憎み、無益なる冷淡、總て社会の惡の原因を除き去らねば、アメリカを救ふことは出来ぬと云ふことである。今私は此の学校のこのことについて考へましても同じことで、ど一しても新學年の始めに於て、無益なる衝突の原因を去らねばならぬ。其の一致共同の真髓はお互の精神の交通である。同情である。人を敬ふ、人の価値を尊敬して喜ぶ。それから、お互は不完全である、此の社会は不完全である故に、欠点のないものがない。過を持たぬ者が居ない。故にお互に欠点を

ゆるす。過ちを許す。お互に忍ぶ。そーすると其の人の欠点を顧みる時が来る。夫れを顧みずして人の価値を下げ、人の徳を傷づくることを忍ばねばならぬ。弱る人を励まし、いろいろ衝突の起る時に、其の原因を去ることに勉める。そーして、建設のために尽すと云ふことが必要である。人の為に謀りて忠であつたかどーか。人のために誠意を表はすと云ふことである。其の誠意を表はすには方法があるけれども、夫れは簡短でも宜しい。けれども先づ我々は、心の内に誠意を満たすと云ふことが必要である。

[マホメット教について]

マホメット教は、東洋では余り云はない宗教である。西洋でも之れは異端と云ふけれども、今西洋でマホメット教の予言者と言はれて居る処のおぢいさんは、マホメット教の改革をせやうとして頑迷なる兄弟の為に、三十年と云ふ長い年月を牢屋の中に過されたのである。此の頃、漸う赦されて各国を回つて居らるゝ。私も逢うて見ましたが、誠に謙遜な人である。まことである。其の人物は如何なる人かと云ふことは、手を握つた丈けでも直ぐわかるのであります。

[森村小学校のことについて]

此の間、私は森村小学校へ行つて、四人の娘と四人の息子との卒業する処を見ました。夫れから写真をとつて、校長の森村さんが、あなたはと言つて肩へ手をかけると、皆泣き出した。人の誠意は通ずるものであります。

[實踐女学校の生徒につき]

夫れから此の学校でも、そーなさつた方がよいと思ひましたは、此の間電車に乗る時に多分、實踐女学校の生徒であらうと思ふが、誠に丁寧にお辞儀をして乗り下りして行かれた。之れは誠に美しい風である。何時でも衝突のあるのは、おれのことばかり思ふからである。何時でも人のことを思ひやると云ふことが大切であります。

[寮監の骨折りについて]

斯う云ふ風に生活が苦しいとなると、生徒はも少し私達のために本を備へて下さればよいのに、月謝も高く困ると云ふ考へもあらうけれども、大学部では一人の頭に百三十円づつ学校が助けて居る。理工科大学の如きは一人に対して二百円づつ助けて居ると云ふことである。シカゴ大学などでは、一人の学生に六百弗づつ補助して居ると云ふこと。此の学校などは少し文部省から助けてもよからうと思ふ人があらう。けれども文部省は、之れでは国民の租税が重くなつて仕方がない故に、学校の数も減らさねばならぬと云ふ風である。故に人の事を考へて見ると、不平は言へない訳である。故に寮舎で言へば、寮監はお母さんである。一方から言へば Tutor である。指導者である。故に、寮監も中々骨が折れるのである。又、小さい人の世話をすると云ふことも決して損にはならないのである。故に銘々が不平を言ふとか、人の批評をするとか云ふことは、つまり全体の損になる。そこで私共があなた方に対して、あなた方が先生や寮監に対しても、斯うして下さいと云ふことがあるならば言ふがよい。けれども、お互に忍耐して、助け合つて行かねばならぬ。ほんといは寮監には報酬はあげてない。あなた方がよく助けて行くと云ふこ

とが、寮監にとつては夫れが報酬であるのである。又、此の学校全体のことについても、其の心が大切である。互に暖い同情があつて、立派な心を持つて居る所の子供があり、親があるならば、夫れ程幸福なことではない。仮令明日食べるものがなくても、夫れ程力となることはないのであります。

夫れで新なる心をもつて、新なる同情を以て、来学年からのことに益々お勉めになることを希望致します。

あなた方がよく御気づきになる様に、今日、我が国で女子の教育をほんとにすると云ふことは困難中の困難であります。私共が此の風潮、此の境遇の中に立ちまして、十二年の間、六部、或は半数にも達する生徒を此の校内に収容しまして、各自の訓育、寮風の培養に勉めたのであります。其の中には欠点もあります様でありますけれども、此迄に致しましたこと、いろいろの風潮の中に戦つて今日迄に達するには、種々の困難があつたであります。其の中で最も困難なるものは寮監の働きであります。夫れは察することが出来ない位であります。併し銘々、学校のため、国のために、よく忠実にお戻しになった。縁の下の見えぬ処でお働きになったことは、皆さんに深く感謝致すのであります。

[中表紙]

大正二年三月二十六日

若葉会にて

大正二年三月二十六日

若葉会にて

一々お目にかゝつて何か伺ふと、お親しくなるばかりでなく、私共の問題をきめるにも大層有益でござりますが、其の時間がありませぬから、どーも今、読書をなさらぬと云ふお話があつたが、何か私共の尋ねについて書いて下さると大変よいと思ふ。夫れはあとの問題として、第一回生から立つてご覧。

今日は私が外国で見たことをお話する様にと云ふことあります。過日来、折のある度、少しづつ試みましたが、到底総てを申す時間がない。今日もあなた方の御参考になることを申したいのでありますが、数分間には出来ない。今日最もあなた方が御聞になりたいと思ふ所、つまり私がある方に此処でお目にかゝりまして私が尙の教育について見たこと、自然に之れは比較するのでありまして、私は心に浮んでまいりましたことをお話することに致しませう。其の比較について、終りに短長を申して、あなた方のお考への材料に供したいと思ふのであります。

[若葉会について]

此の若葉会が生まれましてから満十一年。そーして東京と云ふ日本の第一の都会に本部がおかれて、最も便宜のよい所であり、又最も多数の卒業生が当地に残つて居らるゝことと思ふのである。然るに初めの十二年前、十年とか九年とか極短

い様に思ひますが、ずっと以前の卒業生は此の会に一人も見ることが出来なかつた。

[マウントホーリヨーク七十五年祭について]

そ一云ふことを今一寸私が見出だしまして直ぐ様、之れを此の頃回はつて見ました処の向ふの卒業生のことと思ひ合せるのは、昨年十月の七日、八日、九日、三日間私が列席致しましたマウントホーリヨーク大学の七十五年祭を観察したことである。

[メレーライオン女史]

之れはアメリカに於ける女子教育の一番古い処で、アメリカの女子教育の先駆者と言はれて居るメレーライオンの創立した学校である。

[各回生の代表者について]

其の七十五年祭に於て、第一回から今日までの卒業生が数千とは言へますまいが、よく其の数は記憶しないが、其の大多数は悉く卒業生である。其の他にアメリカの男女の各大学、其の他欧米の各国、並びに東洋からも各代表者が出席致しました。之れについて、私の感じたことは沢山ある。其の中で最も感じたことは、第一回から昨年までの卒業生、即ち各組からの代表者が揃うたと云ふことである。マウントホーリヨークは田舎で、ボストンからも紐育からも汽車で行かねばならぬが、其の間の道は悉く此の大学によつて出来たのである。そ一云ふ不便な土地であるにも拘らず、よく卒業生が揃うたのである。其の中に色々面白い見物があるが、第一回以来の卒業生の Procession である。其の中に加はつたものは各回生から二名づつ出て居る。其の代表者は其の時代、時代、及び其の回の精神及び風俗を、出来る丈け其の態度及び風俗によつて表はすと云ふ趣向である。故に、実に美観である。長い列がづいて、高い山の上から低い処にまで席をとつて居る。マウントホーリヨークと云ふ処は誠に天然の景色のよい処であるが、丁度秋ではある美しい背景をとつて、其の中を卒業生が長い列をつくつて、一寸礼をして進んで行く。

其の中で面白いのは風俗で、帽子や傘や衣服の色合など、一年として同じことはないから、一目して其の変遷がわかる。卒業式などに着たやうな其の時々の流行のものを皆用ひて、ずっと行いて長い間行列が続いた。私の目について最も面白かつたのは、ど一云ふ風にアメリカの流行が變つたかと云ふことで、面白く観察をしたのである。

[アメリカの女子教育の結果について]

も一一つは、アメリカの女子教育の結果を見たことである。誠にアメリカの女子大学を卒業して数十年の後に、如何なる発達を女子が遂げ得るものであるかと云ふことを見るのは、誠に面白いことである。今、松浦君から色々な方面から人の人格がわかると云ふお話でありましたが、一番直感にわかることは、其の人に逢うて其の態度を見、話を聞くことである。マウントホーリヨークの第一回の卒業生は、も一年が九十からであるけれども、誠に元気なもので嬰鑽として居る。之れは只形の上ばかりではなく、其の家庭及び協同して居る事業などを見まして、メレーライオンの人格及び意志、其の感化から生れ出ました処の、此の大学の真価を見ることが出来まして、

私は誠に愉快に感じました。

[ハドレー]

其の大学を出ました人々の中には、何大学の校長、或は学監と云ふやうな位地になつて居る人もあります。エール大学総長ハドレー始め、ハーバード大学の学長、其の他、此の校へ来られたキング博士の如き、大抵アメリカの有力なる大学総長の如き(空白)、プリンマー大学のトマス夫人、又はウエレスレー大学の校長、パーサー大学のテーラーと云ふ校長、夫れ等も無論、揃はれた。そ一して、エール大学や其の他の総長と共にそ一云ふ式に列つて、卒業生中の夫人達が演説をせられました。

[マイクル ジョージ]

も一一つ驚いたのは、神田乃武さんなどの出た大学 校長マイクル ジョンと云ふ人。そ一云ふ様な男の学者に、女子大学から学位を授けたことである。

[アメリカ婦人の社会的人格について]

卒業式とか運動会とか云ふやうなことは此の学校でも度々行つて、我々は随分そ一云ふ経験ももつて居る。あなた方の上手におなりなされたことにも感心して居りました。けれども二十年ぶりに彼の地へ行つて、アメリカの卒業生たちの有様を見ると、知識なども余程進んで居る。昔は宗教のことより外には、哲学とか政治、経済とか云ふやうなことは余りわからなかつた。けれども今日では人格が高尚になり、度量が大きくなりましたから、我々がいやに感ずる様な人はない。真によく進んだ婦人に逢うて見ると、我々の心服の出来る処の立派な人格をもつた社会的性情のある男子と共に事をさせても女であると思ふ感じのしない様な、勝れた婦人が出来たのである。

そ一して、七十五年前からの卒業生が母校を思うて居ると云ふことは、実に私の感服する処であつた。之れは生きた大学に於て私共の理想にはもつて居りました処の社会的人格とでも言はうか。今の世は其の人格でなければ、ど一しても役に立たぬ。又、其の人格でなければ永久発達することは出来ぬと云ふ考へは、我々は早くからもつて居りましたが、ほんど一にそ一であると云ふことを見出だしました。

も一一つは、アメリカの卒業生の協同事業を見ることが出来たのである。それは十一月頃にミシガン大学で開かれました処の、アメリカ中の大学の卒業生の年である。夫れは一週間づきまして、各々 Paper をよんで Discussion がある。そ一して其の中の功勞ある者に対して Toast をすると云ふことである。其の前に紐育で私も Paper をよみました。そ一して最後の日に於て日本女子大学のために Toast をすると云ふことでありましたが、私は紐育から歸つて、夫れよりも大切なことが起りました。夫れは婦一協会のことであつた。故に、其の会には臨むことは出来ませんでした。其の団体及び其の団体の結合によりまして、私はアメリカの教育ある婦人の将来、及び其の結合と云ふものを観察することが出来ました。

[マサチューセツトについて]

も一一つ、私の興味をもつて観察することの出来たのは、マサチューセツトのことである。先年、私が彼の地へ参りまし

て、重いチヴスにかゝつて六十日ほど苦しみましたとき、よく世話をしてくだされた プロフェッサー タクカー及び其の奥さんである。其の奥さんが下女の手もかけず、熱病の患者の看病をして、三度三度自ら考へて食物を饋られたこと。之がために私は一度も食事を欠かなかつた。其の時小さかつた娘は、も一大学を卒業する程になつて居るが、私が行くと、丁度息子でも帰つたかの様に一家中で歓迎してくれました。

[レビット]

又、病後に世話をしてくだされたレビットと云ふ人。此の人の娘も高等女学校を卒つた位で、代数の研究をして居つたので、私も幾らか導いたことがあつた。そ一云ふ子供達が、ど一なるかと云ふことは始終、考へて居りました。

其の娘は、今では一角のお医者さんになつて、ポストンに Office をもつて、多くの助手を使うて居るのである。婦人のお医者さんは大抵、産科か小児科かのものであるが、此の人は内科も外科もする。病家から迎へられると自動車に乗つて、自分一人で行くのである。夫れで女のお医者さんと云つても、決して男に見劣りのする所はない。誠に婦人らしい円満な人になつて居るが、しつかりして居る。之れは一例であるけれども、十三位の子供の言ふことは、何に子供の、と思はるゝものであるが、向ふの人はちゃんと貰いて居る。變へて居らない。之はど一も、私は未だ日本の若い者には出来て居らぬかと思ふ。日本の婦人の意志と云ふものは誠にあてにならない。けれども今度、彼方の人のことを見て、深く感じたのである。

[Professor の家庭について]

アメリカの教育ある婦人の家庭は、ど一もお留守になつて手が届いて居らないと云ふ非難もあつたが、決してそ一ではない。Professor などの家庭を訪問して、主人が留守であると奥さんに話しておく。所が、婦一協会のことを話してもよくわかつて、奥さんがずんずん意見を述べられる。そ一して主人の立場を明かにせらるゝ。そ一して帰りましたら話しておきませうと云ふ訳で、今度行つて見ると、ちゃんと二人で逢つて意見を述べる。夫れは決して出しゃばるのではない。日本では主人が奥さんに大事なことは話さないと云ふが、夫れはわからないからである。けれども彼方の奥さんは、相談相手になれるのである。故に立派な人を見ると、何に之れは女であるからと云ふ様な感じは起らない。真に友であると云ふことが思はれる。クリスト教会に行つても、そ一である。尊敬の念が起るのである。之が今日、あなた方にお話したいと思ふことである。

[本気が足らぬこと]

、何が最も私を深く感じさせたのであるか。欧米の婦人と比較して考へて見ると、日本の婦人も決して劣つて居るものではないと思つたけれども、現実としては劣つて居ることがある。それは三つ程ある。

第一、我が國の婦人は未だ本気にならぬ。之れは一般の国民性が違ふのである。

[独逸、佛蘭西の婦人について]

例へて見ると、今、松浦さんから下女のお話がありました

が、私も下女を見ました。独逸、佛蘭西の婦人は、未だど一も人格が備はらぬ。品性に於ても、卑しいと云ふ。夫れは事実かも知れぬが、兎も角、日本の人は本気でない。浮いて居るやうな、子供らしい遊びことをして居るやうな所がある。ほんといに人間の本心を表すと云ふことが足らぬ。ど一しても深くはいらない、出ないと云ふこと。之れが実に惜しいのである。私は独逸でインフルエンザに罹つて、三十九度以上の熱がある故に、夜中に Bell をならして下女を呼びました。そ一云ふ時に向ふの下女は、決して狼狽しない。十二分に世話をするのみならず、心配らしい顔を見せぬ。翌日も亦、起して面倒な世話をかけるけれども、睡いとか、うるさいと云ふ様な顔をしないのである。夫れから、葡萄や蜜柑などを買はせると、自分の金で買つておいて、後ではちゃんと統計につけて見せる。そ一して品物の買ひ方も実に上手である。斯う云ふことは専門の看護婦でも本気にならねば出来ぬことであるが、彼方の婦人は、下女でも本気になるから出来るのである。

そ一して女中でも、ちゃんと貯金をして、どれだけの収入があれば、之れ位で経済を立てて貯蓄をせやうと云ふ考へがあつて、何事でも本気するのである。奥さんなどでも貯蓄をせぬ人はない。

日本人は金に潔白であるけれども、人から恵まれて助けらるゝと云ふことは恥とせない。職業を得るにはひきがなければ出来ぬと云ふ訳で、賄賂を使つて腐敗する。けれども貯蓄はしないと云ふ有様である。彼方の人は、女自ら経済を立てるのである。独立して行かねばならぬと云ふときには、医師になるなり何なりして、ちゃんと立つて行かると云ふ様にする。奥さんは家族のことを思つて貯蓄をするのである。日本では夫れの出来る人が少ないのである。之れが世界の強國におかれて居る点であると思ふ。

[永久的品性に乏しいこと]

第二は、我が國民は永久的の品性に乏しい。長つゞきがせぬと云ふことである。よく學生が申します。アメリカの學生や英國の學生と我が國の學生とは、学校時代には左程違はないが、世に立つときになると到底及ばない。我が國の學生は永續がせぬと云ふことである。婦人參政運動などと云へば、只わろく言ふ人があるけれども、彼のフォーセット夫人の如き四十年の間、人に笑はれても嘲られても、屈せず撓まず進むのである。我が國、今日の女子教育が困難なのは何のためであるか。先驅者と云ふものは、斯くの如くあらねばならぬ。何故に一人のメレーライオンが出ないのであるか。メレーライオンの如きは、女らしい立派な婦人であつた。其の魂をうけついで所のマウントホーリヨークは斯くの如き命があるのである。メレーライオンの肉は朽ち骨は砕けても、其の精神は消えないのである。

あなた方卒業なさつた方が目前に於て、なさらねばならぬことがある。此の永久保存の力がなければ、迎も役には立たぬ。之れが英米の婦人に、ど一しても一目おかねばならぬ処と思ふ。無論、彼方の婦人にも欠点はあるに違ひないけれども、此の美点を我々が學ばねばならぬと思ふ。

### [ウイルソン大統領]

第三は、大学生活をつゞけることである。其の大学生活とは進歩、発展して行く処の仲間の共同生活である。二十年前は欧米も政治、教育、其他一般の社会の中心は宗教であった。教会であった。然るに今日は、政治界も実業界も宗教、教育会も悉く大学の協同が主となりました。プリンストン大学総長のウイルソンが何故に大統領に選ばれたかと云ふと、プリンストン大学卒業生の決議、及び多くの大学の協同が然らしめたので、今日では最も高等なる教育を受けたものが、政治をもよくすると云ふことからである。紐育の町にハーヴァート大学の卒業生が二千人居ると云ふことである。それから大統領の選挙前にいろいろな会がありました、コロンビア大学の研究会が社会に及ぼす影響も大きなものであります。

### [ベルグソン]

欧羅巴へ行つても、巴里の如きも昔はカトリックの大僧正が政治、教育、総ての樞を握つて居つたのであるが、今日では巴里の大学総長は巴里の文部大臣で、小学のことまで指図をして、宗教と教育とを法律でもつて分離したのである。故に、学校で宗教や聖書のことなどを教ふることは出来ぬ。そしてベルグソンの如き大学者の説が行はるゝやうになつたのである。

### [オイツケン]

独逸では、オイツケン其の他の学者の意見が支配して居る。之れ迄、独逸の政治はカトリック教の人が勢力を極めて居りましたが、今日では九十名以下となり、社会党员が二十名である。其の社会党员と云ふのは皆、大学の教育をうけて、最も進んだ思想をもつて居る人々であります。

其の他、宗教にしても大学者の意見が勢力を占めて、総ての方面を支配して居るのである。表面は、やはり宗教の儀式があつて余り変らないけれども、其の内容は全くかはつて来たのである。故に大学教育の社会的人格と云ふものが、社会を支配するやうになつて居る。此の社会的人格が出来て始めて、ほんとの修養をつむことが出来、始めて宗教のほんとの生命を保つことが出来るのである。

### [大学生活について]

あなた方の属して居る母校は、大きな身体となつて居ります。大学卒業生には桜楓会と云ふものがあつて、大なる力となつて居る。之があなた方の大学生活で、斯の如き人格を養ふ処の勢力である。昔は修養と云へば只一人山にでも籠つて行ひすまして居れば出来ると思つて居つたけれども、それは誤りで、人間の本心を出して、ほんとの人格を養うて之を永久的ならしむると云ふことは、此の団体生活、即ち社会的人格の実現と云ふことをはなれては出来ないのである。アメリカなどでは大学の又大学と云ふものが出来て居るが、我が国では此の点が欠けて居る。之れが大なる欠点であります。故に私共は本氣にならねばならぬ。そ一なるべき時機となつて居る。故に私共は、其の価値を永久的ならしむる処の大学生活に連つて進むと云ふことが必要であると考えます。

### [梅花女学校 新鴻女学校]

私は此の若葉会、即ち附屬高等女学校の卒業生の数は將に

二千に届かんとして居る。之れは有力なる団体である。更に溯つて大坂の梅花女学校、新潟の新鴻女学校の卒業生等、総てを一つと見なして、若し其の力が永久的のものであつたならば実に非常なる力で、我が国の前途は有望なるものであると思ふ。然るに私は之れ迄、非常に力を消費して居つた処があると思ふ。此の点に心づかなければ、あなた方の将来、あなた方の家庭、及びあなた方の子孫のために憂ふべきことであると思ふ。故に今申しましたこと、及び私の見て参りましたことが家庭週報などに報告せらるゝときは、よく御覧なさつて、よくお考へになつて永久にお進みになる様に。そ一して我々が五十年祭でも行ふときは、マウントホーリヨークの七十五年祭に於けるが如く同じ精神を以て、相会したいものと考へます。

### [中表紙]

第二、三学年にて  
大正二年三月二十七日

大正二年三月二十七日  
第二、三学年にて

今年より教育学部におきまして、無試験検定の特典を文部省は認める事になつて、試験にも立ちあはれたのであります。初めて此の学校の教育学部と云ふものが、将来、文部省の試験を施さないでも充分に教員たる処の資格を備へたものである。又、我々が世間に要求致した処の教育の主義、方針を実行するに足るものであると云ふ事を期待するものであります。故に殊更、今年の教育学部一部、二部の卒業生は、責任をお負ひになつた事は尤もの事でありませう。独り教育学部のみならず、此の学校の十回生は責任を分担し、且つ此の学校から出た処の教育家を以て任じ、此の問題についてあなた方は証明をなさらねばならぬ。そこで教育学部及び全体が今年に殊に責任をお感じになるのは尤もの事である。けれども、あなた方よりも私は一層責任が重いと感ずるのであります。私は何の爲めに、男子に生れて女子教育の爲めに身を捧げたのであります。何の爲めに世間に訴へて教育の改善を計らうとするのであるか。森村氏は小さい時から爪の先きで火をとぼして貯へた金を、教育学部の爲めに喜捨せられたのであります。

私は、真に国家の爲めにお尽しになる永久の仕事は教育にある。此の女子大学は、積年の教育の弊を改めやうと云ふ望みを持つて居る。教育学部を設けました其の時、私は世間に訴へたのである。高等師範、文部省に対して、我々は此の学校に不利益な事をも主張したのである。我々は此に立派なる教育家を作らんとしたのである。皆さんは其の精神を受けて今回、卒業なさるのである。其の教育家たる資格と感化ある人格とを備へて卒業なさるのである。今日は、文部省も此の学校に対して余り細かい干渉はしない様である。私立学校と云ふ區別を余りやかましく言はない様である。けれども、只

試験に通過したと云ふだけで安心すべきであらうか。真に教育家たる根本を得なければならぬ。我々は斯くの如き根本力のある教育家を作る事が目的であります。我々は、其の教育主義を実現しなければ止まないつもりである。若し其の目的が達せられなければ、我々の事業は斃れたのである。我々は森村さんにも其の考へを発表して、其の力を受けたのである。万一其の目的を達し得なければ、私は辞職をしなければならぬ。辞職をしたとて、誰れも代つて職を継いでくれるものはない。斃るゝ迄、奮闘するの外はありません。故に我々は、あなた方の真の力、実力を査定して見なければならぬ。

世界の人類が要求して居るものは力、即ち根本の実力である。私は順序として其の力の説明をなし、夫れから此の力は如何にして発達するものか、又如何にして培養すべきかを申さねばならぬ。そいでなければ、之れが我々の望んだ処のもの、世間に訴へたところの教育の実でありますと言ふ事が出来ない。今日は誠に大切な時である。然るに最初、卒業が出来た、進級が出来たと思つてお帰りになると云ふ事は、も一つ心配を残すやうなものである。今日は、其の力の性質を説き明す時間はない為めに省きまして、直ぐ実行の方面を考へて、あなた方の行ひに一々照らして見たいのである。教育家たる人格が備はつて、あなた方が永久に進んでおいでになる事が出来る、今後、安心してお出でになる事が出来ると思ふ希望を見せて貰ひたいのであります。

[人類の根本要求は何に由つて満たさるゝか]

我々の要求する根本力を説明する者は、科学並びに哲学、所謂我々の知識である。其の力を実現すると云ふ事は、自我実現と云ふ事を実にする処の道が即ち宗教であり、教育である。故に人類が其の根本要求を満たすには、宗教生活、学生生活を完全に致しまして始めて、其の目的を達し、其の効果を顕はす事が出来るのであります。故に宗教、教育は詞をかへて言へば、教会やお寺、並びに学校は人類の文明を助けたるものである。人間の困難、苦しみを救助したものであると云ふ事が言はれるのであります。併し又一方には其の反対に、宗教教育は即ち一方、教会、学校は人間の進歩を妨げたるものである、天職の発達力を阻害したるものであると云ふ事が言へるのである。

此の理由を説明して置く事が必要であります。之れに由つて、あなた方の過去を顧みて見まして、自分の過去が果して自己を実現するものであつたか、或は妨害するものであつたかと云ふ事が明らかになつて来ると思ふ。

過去二千年ばかりの宗教は、殊に中世紀頃から近世文明の生るゝ迄に、社会、人類に及ぼした処の個人は如何なる影響を蒙つたものであるかと云ふ事を、今度私が欧米を回つた間に最も親しく目撃して了解したやうに思ふ。之れが、あなた方に申したい事でありませぬ。

之れ迄の宗教は Protestant と Catholic と云ふ様に分れて居る。此の宗派に幾分の特色がありますけれども、先づクリスト教と言つてよい。今私が申す処の働きは、どの宗派に於ても大した違ひはないのである。

第一、人間を見まして、先づ墮落しやうと云ふ傾きが人間

其の儘の本性である。故に宗教では Sinner 罪人と言ふ。人間の先祖が罪を犯して神の国から放逐せられたから、人間は皆、性悪なるものとなつて、罪人となつたのである。故に人間は悪性が滅びて了はねば、善い人とはなれない。又、先祖の犯した罪が Christ に由つて贖はれなければ、天国へは行かれないと云ふ。故に欧米、殊に欧羅巴が甚しいが、何処のお寺へ行つても荘厳な暗いやうな建て方で、其処に Christ や Mary や Peter 等の像があつて、其の前に跪いて、私は罪を犯したものであります。ど一か其の罪をゆるして下さいと言つて、祈りをすべき所が拵へてある。そ一して暗い処に坊さんが居つて、其の人の前に懺悔すると罪が贖はると云ふ考へである。故にお寺へ行くのは懺悔に行くのである。私の生れた時から及び犯した処の多くの罪を贖して下さいと言つて、自分を無我にして、ど一かあなたの聖霊を注いで、私の心の中に満たして教して下さいと云ふ事を祈る。

これは Protestant でも Catholic でも同じ事で、日曜学校では此の考へを教へるのである。此の考へは誤りであつたと云ふ事を悟つたのが自覚である。此の恐れを以て人間が益々墮落するのであると云ふ事がわかりました。つまり、之れ迄は迷信であつた聖書について不審を起すとか、人間が自分で考へを起して疑問を生ずる、つまり今日言ふ処の研究をするのは罪であると教へられて居つた。然るに人間は、ど一云ふ性を持つて居るかと思ふと、Curiosity と云ふものがあつて、物を探求しやうと思ふ性がある。其の性を出して、疑ひを持つと云ふ事は抑も罪である。小さい時から Bible 一巻が神様の教へである。故に、少しも疑ひを持たずに信じなければならぬと教へたのであります。

そ一云ふ風に神をこはがらせ、自分で疑ひを起すと云ふ事を抑へつけた。夫れで我々の教育に言ふ自動ではなく、他動である。他力でもつて抑へつけて、自発の力を出させない。神から呪はれた処の自分の力の出で来るのが本能であり、欲望であり、希望であつて、之れが罪の根であると云ふ。之れが我々の言ふ力の本源であるが、其の力の本源、力の発する事が罪であると思つて、昔の宗教は人間の自発力、根本力を出させない様にしたのである。そこで、ど一すればよいかと思ふと、他動的にして、聖書と云ふものを坊さんが教へたやうに、或は昔の人が言つた様に信じさせたのである。之れを機械的柔順と云ふ。受動的、形体的、静止的人間にしたのである。宗教が却つて人間の発達を妨げ、文明を妨げたと云ふのは其処であります。宗教が人間をして、自覚し自動する事の出来ない様に眠らせて了つたのである。故に宗教は、よい感化もあるが、悪感化もある。迷信は実に恐るべきものであります。

次に教育と云ふものは、人間の自我実現を遂げさせ、根本の発達をなさしむるものであると考へて居るけれども、丁度宗教に似て非なるものゝある様に、教育の宿弊に迷はされて、自分が非常なる力の消費をして居る事に気づかぬ事がある。此の教育の宿弊は何処から来て居るかと思ふと、一つは宗教から来て居るのである。つまり教育の一番大切な事は柔順である。君臣の倫、親子の倫、師弟の倫と云ふ事は、皆柔順で



ある。故に東洋の教育で先づ躰する事は、君主の命令、宗教の命令に柔順なれと云ふ事で、一言に言へば、勿れと云ふ事である。之れはつまり今日の教育主義の自動と云ふ事を抑へつけてしてはならぬ、言つてはならぬと云ふ事で、何故そーするかと云ふと、人間の本性、欲望から出る事は悪いと云ふ考へからであつて、又私に従へ、私の書いたものに従へと云ふ命令である。故に模倣的教育である。西洋の教へは何かと云ふと、Imitation of Christ と云ふ事。私は、之れにもよい処はあると信ずるけれども、根本が間違つて居るのである。

今日の教育があなた方に課する処のものは総て受動であつて、自動ではない。自分で考へて見よ、自分で経験せよ、自分で發揮せよと云ふ事ではない。丁度宗教が人間の発達を妨げて居る様に、今日の教育は折角出やうとする芽をむしつて居る様な仕方である。之れが、今日迄の長い間の迷信と機械的教育の弊が人間の発展を妨げたのであります。そこで今日は、全く宗教の根本原理の解釈が昔とは大に面目を改めて来たのである。昔の如き迷信をもつて居るのはおばあさんと子どもで、自覚の出来ぬものが命令的服従をして居るのである。

[人間の本性は何なるか]

我々は罪人ではない。我々は天使から悪魔に墮落したものではないけれども、我々は完全なる者ではなく未成なるものである。此の不完全なるものが完全に昇らうと云ふのが人間の本性である。故に、人間の本性は Self-activity 自動と云ふ事にあるので、之れが人間の活動をなさしむるのである。之れが人間の価値を表して行く処の根本の原因である。之れが神の内在する所以で、善を喜び、美を慕ひ、真にあこがるゝ処の根本動力であります。夫れで人間は罪人ではない。神に呪はれたものではない。不完全なものであるが、絶えず進まうとする処のものであると云ふ考へから、人生の解釈が大変違つて来たのであります。

[今日の教育主義につきて]

そこで今日の宗教、即ち人間を救ふ処の力、教育主義ほど一云ふ事になるかと云ふと、其の研究を積みまして、此に新しい見解を見出した処の学者、即ち今日の近世文明の原動力を考へ出だした人は、私共の前から研究して居りました。Bergson の言ふ Creative evolution である。之れは人間各自の内から動いて居る処の動機及び銘々の経験で、経験の内容は Self-activity 或は Self-realization である。

Eucken は Spiritual living、生活と云ふ其の Reality は同じ事である。James は之れを Pragmatism と云ふ様に説き明かして居つて、其の内容は活動、即ち行ひである。其の真髓は Self-activity であるから、社会に貢献した所が多いのである。

そこで内在的の神 Immanence God は我々の性に顕して居る。我々の根本的の衝動、之れが大切な処である。我々の根本の力は養はれたかど一かと云ふ事は此にあるのである。之れに気づかずして、昔のやうな考へに抑へつけられて居つて、ほんたうの事がわからねば、到底よい結果は挙がらないのであります。

そこで Eucken の言ふ処の精神的の生活を実験しなければ

ならぬ。其の生活、其の経験を有効にすると云ふ事が最も大切である。此の生活を離れて尊い経験を積まう、立派な人格を養はうと云ふ事は、到底無理な話であります。故に私は、あなた方に其の生活が出来たかど一かと云ふ事を試みたいのであります。

[知識と経験との關係につきて]

そこで先づ、あなた方が此の様に大事にお思ひなされた処の知識と、Eucken の言つた経験とは如何なる關係があるかと云ふ事を説き明かさねばならぬ。

第一、此の経験と云ふものは動的であり、進化的である。故に之れを Experience、又は Consciousness と言ふ。意識と言ひ、行ひと言ひ、生命と言ふ。生命と云へば我々の愛と言ひ、幸福と言ひ、満足と言ひ、或は Ecstasy と言ふ。之れ等は皆、人生の経験であります。

意識には主我的方面と客観的方面との二つがあつて、経験を客観的に見て行く方面が知識であり、主観的に見て行くのが内的方面、根本的方面であります。此の両方面が何時も協同して働くのであるから、其の關係宜しきを得なければ私共が進歩する事が出来ない。増進する事が出来ないのであります。我々の只今の活動、或は行為、或は意志の働きと云ふものは、此の Level からも一層上の階段に昇る事で、其の過程が即ち我々の経験、或は自動する事になるのである。故に今の行ひから次の行ひに移る間に、一つの仲媒者がある。其の働きを客観的に見たものが知識であります。其の知識は、今の Evolution から次の Evolution に移る間の仲媒者であると考へて居ればよいのである。

そこで、あなた方が此れを間違へぬ様になさねばならぬ。知識は経験を Create する処のものであるから、経験を離れては無価値になる。故に知識は経験を Create する処の機械である。故に其の知識の目的は実現にある。所謂、根本の力を實現するにある。故に知識は固定したものではなく、やはり動的なもの、生きたもの、動いて居るものである。之れが、非常に大事なものであります。其の生きた、動いて居る処の、我々の実現をなす処の動力とならねば無価値であると云ふ事、之れが只 Bible や論語ではいかぬと云ふ事であります。只死んだ知識ばかりを本質と思つて、夫れを集める事にばかり汲々として居ると、誠に経験と云ふものが貧弱になつて来る。之れが私共の教育、宗教の上に恐るゝ処である。故に、どうしても知識はあなたの経験と共に進まねばならぬ。時々刻々、其の組み立てを直して行かねばならぬ。夫れを勉めずして繰り返して居ると、其の人の頭は化石となつて了うのであります。之れが、私のあなた方に知識と行為との關係を説いて、生きた方法を示した所以であります。

夫れで、私は昨年お別れする時に、あなた方が只知識を収集して居る様では遅れますから、只私が此の堂で説いて居るだけでは間違ふかも知れぬから、も一層詳しく世界の現状を観察しなければならぬと考へましたが、あなた方は真に此に気づいたのであらうか。何故、我々は動機について過ちを生ずるかと云ふと、其の動機と動機とが丁度 Adjust しない処から矛盾を生ずるのである。

我々の自我意識と云ふものは、自分の経験を自ら批評し、判断する処の力がある。自分の行ひなり経験なりを自ら褒め、或は罰する処の働きがある。之れを反省と言ふ。夫れに由つて更に人類の経験に照らして、更に新しい理想の構成が出来なければならぬ。此の働きに由つて、も一層高尚なる経験が出来る故に、此の間にどうしても Reconstruction、思想の構成をしなければならぬ。之れが即ち人間の客観的方面であります。之れこそ人に聞く処の価値あるもの、之れこそ実に音楽に歌ひたいものである。之れが出来ないと能力の不経済、勢力の消費が起つて来るのであります。故に余程よく材料を選んで、具体的案を立てねばならぬ。之れが思想の構成の必要な所以である。そこで人生の意義を完うするには、どこでも思想構成の力を養ひ、其の生活を全うしなければ有効なる働きは出来ないのである。故に幾ら忙はしくとも、仮令毎日四、五分でも宜しい。人類の尊い経験を参照する事が大切で、之れが私の Card をあなた方に示した所以であります。

獨逸で今、精力主義で名高い Ostwald と云ふ人の研究室に行きました。此の人の仕方は、精力を消費しないと云ふやり方である。今日は多くは Card system の行はるゝのは、全く夫れが為めであります。

此の思想を構成すると云ふ為めに力なり、時なりを消費しないと云ふ主義から、之れを拵へたのであります。あなた方は私の留守中、其の生活をなさつたかど一かと云ふ事を聞きたいのであります。此の知識と経験との関係がわからねば、私共は生きた知識を得る事が出来ないのである。

[知識とは如何なるものか]

知識とは如何なるものかと云ふと、

第一、知識は Mediation 仲媒者である。夫れは、どこ云ふ中間に立つて居るか云ふと、経験の一階段から他の階段に進まんとする自動的過程の中間にあるものである。

第二は、Intercommunication 相互の間の交通。どこ云ふ Intercommunication であるかと云ふと、我々の内にある処の多くの欲望、夫れから起る処の多くの活動の間の矛盾、衝突を避けて、よく一致調和する様にするものが知識である。

第三、Economy of intellectual labor 知的労働の経済、即ち我々の社会的境遇、丁度よく適合する処の法則によりまして知的労働を経済的にするものである。故に其の位地は仲媒者であり、其の働きは改造 Reconstruction である。故に其の目的は経験を増進し、自我を発展するにあるのであります。

今度は、James の言ふ Metaphysics、Eucken の言ふ Metaphysics、Bergson の言ふ Metaphysics の真意を説明したいと思ひました。次に、夫れを実現する上に於ての宗教生活と云ふ所まで行きたいと思ひましたが、時計を見ると最早二時間半ほどかゝりました。夫れで是非之れを終りたいと思ひますけれども、斯う云ふ事は只私が話したばかりでは、あなた方が一々自分自分に考へて行かないと、所謂 Construction 又は Assimilate する働きがなければ余り効果が上らぬと思ふ。故に此迄来まして、私が何を言つて居るか云ふ事は凡そおわかりにならうと思ふ。夫れで私の留守中、あなた方がお立てになつた仮説を充分経験に徹して見て、実のある生活をなさつたかど一

か、或は幾らか迷信の思想にも支配せられたかど一かと云ふことを報告して貰ひたいと思ひます。あなた方の責任は誠に重大である。夫れと共に、私の責任は一層重大であります。故に、ほんと一に此の学校の主義、精神に副ふ処の生活が出来たかど一か。ほんと一にあなた方の人格が発揮しなければ、ほんと一の此の学校の精神を育つる処の空気が出来なければ、あなた方を今年の卒業生としてお出しする事が出来ぬ。又、あなた方も出ておいでになる事が出来ぬと思ひます。故に、夫れを書いて報告なさる事を希望致します。

[中表紙]

大正二年四月六日

成瀬校長漫遊談

大正二年四月六日

成瀬校長漫遊談

[モルモン宗]

此の前に、ローサンジェルに行つて、ソルトレーキのある処の州をユータと云ふ。(ユータとはモルモン宗の開祖がソルトレーキのある City に本陣をとつたのである。之れは今でも、大分誤解せられて居るやうであるが、道のために殉死した後、其の子孫がユータに住まつたのである。)

[ポイントローマに於けるセオソフィー]

其処を経て、カリフォルニアの南の方のポイントローマにたつて居る処のセオソフィー、之れは欧羅巴の今日の傾向と大分違つて居る処があります。夫れは、大体を申すと二つ程、注意すべき点があります。其の他の欧米各国の宗教は近世思想即ち Modernism に進化して居る。併し Modernism の文明は、一方から言ふと、非常な物質的特色がある。そーすると昔の精神的な分子は滅びたのかと云ふ様な感が出るかも知れぬが、そーではない。夫れは前に申した通りであります。

近世文明の中心はシカゴにあつて、段々西の方へ移りつゝあると云ふことが言へると思ふ。然るに東西文明の接触点はシカゴよりもずつと西部になつて居る。夫れは私がどこ云ふ処から観察を下したかと云ふと、いろいろあるけれども、其の最も特色あるものは、ポイントローマのセオソフィーとモルモン宗とであらうと思う。

[セオソフィーの精神について]

セオソフィーにはキリスト教も佛教もあつて、キリスト教も、キリスト以前の古い考へと佛教までも結びついて、東西新旧の思想の一緒になつたものと言ふことが出来る。モルモン宗は昔のマホメット教から発したものである。セオソフィーの開祖は女であるが、道のために殉死した人である。其の教授達と話して見ますのに、先帝陛下の御精神、日本国民の精神、及び乃木大将の殉死の如きも、其のほんと一の精神を解して居るのは、セオソフィーの人に若くはなしと思はるゝのである。

[マウントホリヨーク大学]

今日、欧米の思想はModernismの一種の弊である処、余りに機械的であり、感情的であつて、之れは非常な変化である。アメリカで最も古い宗教大学はマウントホリヨークであるが、今度行つて見ると、Smoking roomを拵らへたことである。此の間申したチューインガムの如きは、昔は労働者か何かでなければ飲まなかつたのであるが、今日では誰れでもやつて居る。独逸のミュンヘンへ行くと、国王の経営にかゝる麦酒店があつて、其処へ行けば皆が茶を飲むやうに麦酒を飲んで居る。アメリカで毎年酒のために費す金は40億、煙草のためには二十四億、金銀宝石のためには八億、チューインガムは2600万円と云ふ有様であります。

チューインガムは欧羅巴には入つて居ない。只アメリカのみで流行して居るのである。然るに、セオソフィーの人とユータの人とは酒と煙草と珈琲とを廃して、水より外のものは飲まないのである。

[ソルトレーキの音楽室]

モルモン宗及びセオソフィーの人々は、斯くの如き肉体的の快楽を求めないで、靈的生活を営んで居る。そこで著しく発達したものは音楽である。ソルトレーキのMusic hallは大きなもので、実によく反響がとれるのである。夫れ等も皆、此の宗教の人の発明であります。古い宗教の人は、ほんとうに命ある処の高尚なる音楽を実現して、皆が感化を受ける様にして居る。も一つ世界中で見られないものは、石のTempleがある。それはそんなに大きなものではないが、其のTempleの中には総ての祖先の靈が集まつて居ると云ふ信仰で、一つの大きな靈的の団体に入ると云ふ様に考へられて居る。其処に三人のプレジデントと称するものがあつて、夫れがユータの長老であります。そつして、も一つの特色及び此の宗の起りは、近世の考へと違つた一種の古い精神と、近世の物質文明とが殆んど一つになつた様な有様である。アメリカの一つの大きな富のCenterはユータである。夫れは、教会の事業と商売、政治と云ふやうなことを初めから一緒にした為であります。夫れで非常に富をもつて居るので、此の学校には入つたものは一人として貧しいものは居らぬと云ふ程である。私共は宗教とか教育とか云ふことと、Businessとは一緒に出来ないものと思つて居りましたが、実によく出来て居るのであります。

[精神的生活]

夫れで、東西文明の接触して居る処に於て私共の学ぶべき点は、肉体的の快楽に耽り、一時的の要求にあこがれると云ふ様な傾向をはなれて、精神的生活を営んで居ると云ふこと。も一つは、経済と云ふことが内的生活にも伴うて居ると云ふことであります。

次に私はシカゴ市に参りました。之れは丁度、九月の二日頃に着きましたので、実に暑い時候であつたにも拘らず、シカゴで二流の一等位なHotelに行きましたが、其処には千人位の客をとめることが出来る。規模の大きいと云ふことはアメリカの特色で、一番高い家は四十八階で、一寸した工場などでも一万二千からの人が働いて居ります。

[Time is money]

アメリカへ行くと、総てのことが分業的になつて居つて、時を省き、力を省くことが出来るが、日本へ歸つて来ると、斯んなことをして居ては損であると思ふことが沢山あるのです。アメリカの今の主義はGet rich, Quick或はMust go aheadで、早く富を作らねばならぬ。先きへ行かう、大きくならうと云ふ考へで大きな富を持つて居るから、非常な発達である。そつしてTime is moneyであるから、何をしても金を払はねばならぬ。之れは誠によい風であると思ふ。何とならば、時が省かれるからである。

私は歸つて、も一月にもなるが、忙しくて忙しくてたまらない。之れはど一すればよいかと思つと、必要に迫らるゝから発明が起るのである。故に始終動的に進んで、事務的に経済的に進んで居ることは、アメリカに及ぶものはないのである。故に、斯う云ふ点については、私共もアメリカに学ばなければならぬと思ふ。只だ物質的方面ばかりではなく、本氣になつて、熱心にものをすると云ふことも、アメリカに若くはなしである。

[エリオット博士]

八十二になるエリオット博士も、私が話をするにつぐわかつて、態々ボストンに出て来て演説をせられたのである。今日のアメリカの特色はハーバード大学に現れて居つて、先きのこと先きのことを考へて、非常に物事が迅速に動いて行く。之れがアメリカの特色であると思ひます。

[英國の特色について]

英國は又、アメリカとは非常に違つて居る。アメリカは進取的であるが、英國は永続的である。其の特色は何処に現れたかと云ふと、私は大西洋を渡るときに、モレタニヤと云ふ英國の船に乗つた時である。之れは五昼夜半で大西洋を横断することが出来るのであります。英國も遅くてよいと云ふのではなく、親切で丁寧で、隅から隅まで物を考へて、何から何まで行き届かせると云ふ國風であります。之れは先づ第一に英國の船の中で感じたことで、斯う云ふ船に乗れば少しも不足はないと思ひました。

そつして信用の堅いことは、実に驚くべき程である。蝙蝠傘などは何度忘れたかも知れないが、直ぐ戻つて来る。夫れはど一云ふ方法で戻るかと思ふと、ストックヤードと云ふものがあつて、其処は洋傘専門であるから、行つて見ると数千本の傘が、昨日の、一昨日のと、ちゃんと分けて棚にあげてある。そ一云ふわけで、英國人の信用の堅い事は車夫に至るまで、実に立派なものである。も一つは、英國で買ったものは決して後悔はしないのである。請取などはとらなくても、ちゃんと約束通りに届けて来るのみならず、わるい品は売らないのであります。独逸や佛蘭西で物を買つと、あゝ、しまつた、だまされたと思ふ感が出るけれども、英國で買ったものは高いことはたかいけれども、少しも後悔することはありません。

[英國の教育について]

英國の教育について感じたことは、イートンやグラスゴーで其処らの学校では机や腰かけなども何百年前のもので、実に古色蒼然たる有様であるが、今日でも皆夫れを用ひて居る。

そーして英國の子供は、落書をしても小刀で木の物へ彫りつけると云ふ風で、それが又今日では尊い紀念となつて居るのであります。

そーして英國では何処へ行つても木造の家を見ることは出来ぬ。故に、神田の火事で何百軒焼けたと云ふ様なことはない。独り家の造り方が堅固であるのみならず、人間を堅固に育てると云ふことにつとめて居るのである。英國の人は料理をしても、給仕をしても、十二分に作る。決してよい加減に物をしないと云ふ処に価値があるのであります。

[ミス ヒューズ]

ヒューズさんの如きも、決して日本のことを忘れて居られない。此の校に居つたときよりも一層熱心に、親切につくされる。そーして婦一協会のことを話しても、いろいろ議論を出されるが、誠にものわかりがよくて、あくまでも行き届いて、力をつくさるゝのであります。

[独逸の特色について]

独逸人に学ぶべきことは、総ての生活が哲学的である。余程よく其の関係を考へてからでなければ手を着けぬ。容易に事をはじめ挫折すると云ふやうな事は、独逸人の好まぬ処故に、決てものをいそがない。生涯をかけて事にあたるのである。そこで独逸の大学と外国の大学との違ふところは、アメリカなどでは主要な地位を占める人はだんだん若くなつて居るが、独逸へ行くと（空白）とか（空白）とか云ふ様な人、其の他事務員でも、白髪の老人が多い。それは生涯の仕事として非常に深く研究をして学んで行くのである。故に、年を取つても若い人にまけない。経験から云つても、実力から云つても、到底若い人の追いつかないまでに進んで居るからえらいのである。

[ヘツケル プント]

私の面会した教授達の中の老人は、ヘツケル、プント両氏であるが、ヘツケルは足に怪我をして居り、プントは眼がわるくなつて居るけれども、身体はよはくなつても其の勢力に於て、研究に於て、決して衰へないのである。此の独逸人の急がずに根気よくつづけて行く、金を儲けることにしても一事づつをつんで行くこと云ふ考へが、女中達によつて見らるゝのである。これはどーしても我々が学ばねばならぬ。決て一攫千金の富を得やうと云ふ様な考へはない。それで商売については非常に（空白）なものである。此の点については、どーしても独逸を学ばなければならぬと思ひます。そこで、私共が物質的文明に入つて内的生活を営むについて、酒や煙草の如き刺激物を飲まぬと云ふことは西洋にならひ、一步一步、一厘一毛をつんで行くこと云ふことは独逸に学ばねばならぬ。そーして私共の最も大切なことは、アメリカの様に先きを見て、今日のことをきめねばならぬ。時代の精神を看取して進まねばならぬ。これは欧米の文明の真髄となつて居る処の力であると思ひます。之れについて私は皆さんに申したいと思ひますが、今時計を見ると、も一時間がありませんから、此の事は他日に譲りませう。それで今申しましたことをよく毎日の生活応用して、お進みになることを希望致します。

[中表紙]

大正二年四月六日  
桜楓会大会席上にて

大正二年四月六日  
桜楓会大会席上にて

[桜楓会入会について]

今日ほど喜ばしい、又一方には、今日ほど深い心配を感じるときは滅多になからうと思ひます。如何となれば、今日は第十回卒業生が桜楓会の団体に加盟なさつて、今後其の目的を国のために実現なさる、自分を捧げて理想実現のために協同しやうと云ふ計画であります。之れを人生の一大事とすれば、最も神聖なる、あなた方の結婚式の如きものである。ほんとの意味で言へば、今日は卒業式である。故に我々は深く喜ぶと共に、又心配をするのである。今、松浦教授は、之れからあなた方が社会に出て、自分を見て貰はねばならぬと云ふことについてお話がありました。又、学監からは、あなた方が出て、協同なさる事業の目的については如何なる働きを取らねばならぬかと云ふお話がありました。

私も、今年の新入会員は如何なる実質ある会員であり、又皆さんの内に動いて居る処の精神は如何なるものであるかと云ふことを感じて居るのであります。又、其の空気に、最も自分が接触せんことを希望して居るのであります。皆さんの生涯に於て、今日程人生の美が發揮する日は少なからうと思ふ。第二に、今日程皆さんの生涯の中に愉快なる気分が充ちて居る時機が少なからうと思ふのであります。詞をかへて言へば、今日はあなた方は誠に美はしく、此の桜のやうに今あなたの生涯の花は開いた。今日、其の美が最も麗はしく發揮しなければならぬ。又あなた方に逢へば、最も愉快に喜ばしく感ぜなければならぬ。

[女子大学生について]

昨日、最も長くあなた方に講義をなさつた教授の一人に逢ひました。他に一人の教授も来て居られた。其の話の中に、いろいろあなた方のよい点も言はれたのであるが、女子大学の学生の中には美しい人が少ないと言はれた。其の意味は、高等教育まで受ける婦人には美しい人が少ないと云ふ事かも知れぬ。そー云ふ風に言ふ人もあるのである。

其の反対に、あなた方の何時も耳にする事は、女子大学生は華美であると云ふことであらう。又、内から弁解せらるゝ寮監の詞によれば、あなた方は質素である。木綿着物を着て居つても、リファインして居る。何となれば、修養が出来て居るから、内に充つるものがあるから立派に見えると言つて居らるゝことである。又或る人は、さうではない、お茶の水、華族女学校、虎の門に比すると、女子大学の方は質朴で田舎くさいと言ふ人もある。而し、此の何れが當つて居るか云ふことを考へねばならぬ。

私の希望からは、あなた方は誠に奇麗に天使の様に見える時がある。けれども、時には誠に美はしくなく見えることがある。も一いつ私の感ずることは、此の堂で斯うして見て居

ると奇麗ではないが、奥さんになると誠に美はしくなつて、奥さんらしく見える。故に時によつて違ふのである。之れを俗世界の卑い劣情の趣味であると云つて、排斥してふことは出来ぬ。私は思ふに、人間は自然、万有の中で最も美しきものでなければならぬ。殊に御婦人は美と云ふことがなければならぬ。教育を受けた者、修養の生活あるものは、ど一しても美でなければならぬと思ふ。然るに始終変る、時によるのである。それはど一かと云ふと、着物による。簪をさして、光る指輪をさして、化粧すれば直ぐ奇麗になるではないか。世間の人は斯う言ふのである。けれども之れは飾りであるから、偽善の美であります。

#### [真の美につきて]

天地の美は実体の表はれである様に、我々の美は人格の發揮したものである。平たく言へば、我々の心の中に考へて居ることが顔に表はれたのが、人間の醜美である。我々が心に物を考へて居つて、若しも失望落胆して苦んで、自分が自分を支配することの出来ないやうな時には、其の人に逢うて顔を見れば直ぐわかるのである。いろいろ内にある所の心配や卑い考へや、或は煩悶などを成るべくかくしたいと思ふけれども、之れは直観すると直ぐわかるのである。我々の思ふことは、筋肉にも心臓の鼓動にも呼吸の深淺にも直ぐ顯はるゝものであると云ふことは、生理学でもわかつたことである。故に、ほんといに我々がちゃんとして居やうと思へば、心の中を直さねば外の表れをなほすことは出来ぬ。そこであなた方が立派なことを考へて、何か心に動いて居るものがあるならば、実に美はしく立派に見えるのである。皆さんは十七から二十才までの人で、時候で言へば春である。故に最も美しく、快く見える時であります。然るに、何か心配が心に潜んで居つて昨夜も眠りが足りなかつた、今も心配が襲うて居ると云ふときには、之れを悪魔と言ふ。私共の心の中は、からつぽにしておくことは出来ぬ。善いことを考へなければ、悪い考へが頭の中に入る。そ一すると悪い圧迫を受けるから、顔色もわるくなり、心の状態が顔に表はれて来るのである。他の人は何故、顯はれないかと云ふと、いろいろな飾りがつけてあるから容易に顯れないのであるが、あなた方の如き真美を思ふものは、直ぐ顔に顯るゝのである。之れは一時的の現象であるけれども、重なつて永久的のものとなるのであります。

#### [自我実現について]

私共の身体がよくなる、健康が増進すると云ふことは、一時的の事が重なつて、遂に永久的の力となるのである。故に我々の身体、ほんといの美と云うて居るものも、一番の起りは頭の中の考へから起るのである。之れを此の頃の学問上の詞で言ふと、自我實現 Self-realization、自我の發展つまり修養と言ふのであります。そこで、あなた方が家をお持ちになつても、子供をお育てになつても、心の中から出づる処の美の感化でなければならぬ。之れがいつも私が申す処の、考へる力を養はねばならぬ。考へる力と云ふのは意志の力を意味するので、其の意志の力が我々の健康の力ともなるのである。我々の美と云ふものは、卒業式に立派なる着物を着ることで

はない。ど一しても、立派なる思想が内に動いて居なければならぬ。

#### [犠牲の精神について]

第二には、此の大事なる時に皆さんが愉快なる気分、英語で言ふ処の Charming、或は Cheerful、又は Attractive な力を持つて居なければならぬ。家をもつても、親類の人々が又訪ねて行きたいと思はるゝ様な、人をひきつける処の愉快な力がなくてはならぬ。之れはど一云ふことから来るかと云ふと、始終養つて居る処の Self-sacrifice 犠牲の精神である。他の人のために Devote する、捧ぐると云ふことである。先き程申した美と云ふことは、内から出る処の積極的な活動をする処の力である。けれども、其れだけでは利己的に陥る弊がある。故に、捧ぐると云ふことが必要である。之れは大層矛盾する様であるが、決してそ一ではなく、一つのもの両方面であります。

自我實現と云ふことには、熱心がなくてはならぬ。内から起る処の動力で、他の詞を以て言へば愛である。あなた方から親子の愛をのぞいたならば、友人間の友愛をとつたならば、人の同情を除いたならば、誠に哀れな人間となつて了うのである。

私が世界を回つて見て、沢山見かけたことは Homesick である。家族間の温い関係を離れて来ると云ふことである。今後あなた方が家をもつて経験することは、此の温い関係から離るゝ処の経験である。我々の精神が非常に高調に達すると云ふことは、ど一しても目的物がなければならぬ。目的物とは即ち人間である。人間とは親とか、夫とか、子供とか、そ一云ふ者の為に捧げやうと云ふ処から起つて来るのであります。此の前の係の会の時にも申しましたが、前は夫れもよかつたかも知れないが、ど一も此の頃、形式の様になつたのではないか。何故、あなた方には Initiative power がないかと云ふと、熱心に目的を愛する時に此の Initiative power が出来て来る。之れは物理化学から言つても、動植物の上から言つても同じことであるが、人間で言へば結婚によつて此の力が生れて来るのである。故に私は、此の会を高尚なる意味で結婚式の如きものと思ふ。人間の義務と云ふものも、お互に相愛して、ど一かして儉約をしてでも人の為に捧げやうと云ふ力が出来るのである。私の友人の澤山保羅と云ふ人のたてた教会、之れは日本で Independent の会の始まりであるが、実に立派な教会であつた。

あなた方は今、卒業なさる。生涯に於て最も美しい花の如きものである。此の時に於て、最も美しい心をもつて人に捧ぐると云ふ精神、之れが最も大切である。私は、今日あなた方の生涯に只一度ある処の入会式に於て、あなた方に御注意しておきたいと思ふ二点だけを申します。

---

日本女子大学校長成瀬仁蔵先生述

## 実践倫理講話筆記

明治四十五年及び大正元年度ノ部

2018年9月15日発行

編集・制作

加藤きよみ・宮内量子・山本文子  
(日本女子大学成瀬記念館)

発行

日本女子大学成瀬記念館

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

印刷

開成出版株式会社

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-26-14

---

